茨城県教育財団文化財調査報告第270集

犬田神社前遺跡３

北関東自動車道（協和～友部）建設
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XIV

上　巻

平 成 19 年 3 月

東日本高速道路株式会社
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第270集
犬田神社前遺跡３　上巻
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第270集

犬田神社前遺跡３

北関東自動車道（協和～友部）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書 XIV

上　巻

平 成 19 年 3 月

東日本高速道路株式会社
財団法人　茨城県教育財団

遺跡遠景（北西から）

序

茨城県は，県土の均衡ある発展を念頭におきながら地域の特性を生かした振興を図るために，高規格幹線道路などの根幹的な県土基盤の整備とともに，広域的な交通ネットワークの整備を進めております。北関東自動車道建設事業も，その目的に添って計画されたものであります。

このたび，東日本高速道路株式会社（旧日本道路公団）は，桜川市（旧岩瀬町）犬田地区において，北関東自動車道（協和～友部）建設事業を計画いたしました。この事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である犬田神社前遺跡が所在します。

財団法人茨城県教育財団は，東日本高速道路株式会社から埋蔵文化財の発掘調査について委託を受け，平成17年４月から平成17年９月まで発掘調査を実施しました。平成15・16年度には，既に成果の一部を当財団の文化財調査報告第229・248集として刊行いたしております。

本書は，犬田神社前遺跡の調査成果を収録したもので，本書が，学術的な研究資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である東日本高速道路株式会社から多大な御協力を賜りましたことに対し，厚く御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，桜川市教育委員会をはじめ，関係各位からいただいた御指導，御協力に対し，感謝申し上げます。

平成19年３月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　人　見　實　徳

例　　言

1　本書は，東日本高速道路株式会社（旧日本道路公団）の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成17年４月から平成17年９月まで発掘調査を実施した，茨城県桜川市（旧西茨城郡岩瀬町）犬田691番地の２ほかに所在する犬田神社前（いぬだじんじゃまえ）遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査期間及び整理期間は，以下のとおりである。

調　　査　　平成17年４月１日～平成17年９月30日

整　　理　　平成18年４月１日～平成19年３月31日

3　発掘調査は，調査課長川井正一のもと，以下の者が担当した。

首席調査員兼班長	川　又　清　明	
首 席 調 査 員	白　田　正　子	
主 任 調 査 員	島　田　和　宏	平成17年４月１日～平成17年５月31日
主 任 調 査 員	渡　邉　浩　実	平成17年４月１日～平成17年６月30日
主 任 調 査 員	青　木　　亨	平成17年８月１日～平成17年９月30日
主 任 調 査 員	寺　内　久　永	平成17年４月１日～平成17年６月30日
		平成17年９月１日～平成17年９月30日
主 任 調 査 員	須賀川　正　一	
副 主 任 調 査 員	駒　澤　悦　郎	平成17年８月１日～平成17年８月31日

4　整理及び本書の執筆・編集は，整理第二課長大森雅之のもと，以下の者が担当した。

主 任 調 査 員	寺　内　久　永	第３章第１節～第２節, 第３節１・３・５（2･4), 第４節１・２・４
主 任 調 査 員	須賀川　正　一	第１章, 第２章, 第３章第３節２・４・５(1･3･5～9), 第４節３・５

5　本書を作成するにあたり，文字資料の判読においては，大学共同利用機関法人人間文化研究機構　国立歴史民俗歴史館館長　平川南氏に，木製品の樹種同定においては，独立行政法人森林総合研究所　木材特性研究領域チーム長　能城修一氏に御指導いただいた。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし，Ｘ軸＝＋38,880m，Ｙ軸＝＋24,080mの交点を基準点（Ａ１a1）とした。また，抄録の北緯及び東経の欄には，世界測地系に基づく緯度・経度を（　）を付して併記した。

この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西，南北に各々10等分し，４m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へＡ，Ｂ，Ｃ‥‥，西から東へ１，２，３‥‥とし，「A1 区」，「B2 区」のように呼称した。さらに小調査区も同様に北から南へａ，ｂ，ｃ‥‥ｊ，西から東へ１，２，３‥‥０と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠して「Ａ１a1 区」，「Ｂ２b2 区」のように呼称した。なお，基準点（Ａ１a1）の西側の大調査区は「Ａ－１a1 区」，北側は「Ｚ１a1 区」と呼称した。

2　土層の観察と遺物の観察における色調の判定には，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研地業株式会社）を使用した。

3　本文・全測図・実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は，次のとおりである。

遺構　　SI－住居跡　SB－掘立柱建物跡　SH－方形竪穴遺構　SD－溝跡　SF－道路跡　SE－井戸跡
SK－土坑　PG－ピット群　Ｐ－柱穴　Ｋ－撹乱

遺物　　Ｐ－土器　TP－拓本土器　DP－土製品　Ｑ－石器・石製品　Ｍ－金属製品・古銭・鉄滓
Ｔ－瓦　Ｗ－木製品

土層　　Ｋ－撹乱

4　遺構及び遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

火熱痕・施釉陶器　焼土・赤彩　　火床面　炉床面　　竈部材・粘土　黒色処理　　煤・油煙　柱痕

●　土器　○　土製品　□　石器・石製品　△　金属製品　■　木製品　▲　瓦　-·-·-　硬化面

5　遺構・遺物実測図の記載方法については，次のとおりである。

⑴　遺構全体図は300分の１の縮尺とし，遺構は，原則として60分の１の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合もある。

⑵　遺物は，原則として３分の１の縮尺とし，種類や大きさにより異なる場合は，それぞれの縮尺をスケールで示した。

⑶　土器の線刻については，焼成前の線刻を「ヘラ書き」，焼成後の線刻を「刻書」と分けて記述した。

6　「主軸」は，竪穴住居跡については炉・竈を通る軸線とし，他の遺構については長軸（径）を主軸とみなした。「主軸・長軸（径）方向」は，主軸・長軸（径）が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　「Ｎ－10°－Ｅ」)。なお，推定値は［　］を付して示した。

7　一覧表・遺物観察表の表記は次のとおりである。

⑴　現存値は（　）で，推定値は［　］を付して示した。計測値の単位は，m，㎝，ｇで示した。

⑵　遺物観察表の備考欄は，残存率や写真図版番号等，その他必要と思われる事項を記した。

⑶　遺物番号については，土器，拓本のみ掲載の土器片，土製品，石製品，金属製品，木製品ごとに通し番号とし，挿図，観察表，写真図版に記した番号は同一とした。

8　遺構・遺物番号については，既報告からの継続番号を使用し，整理時に遺構名称・番号を変更した場合には，旧遺構名称・番号を（　）を付して併記した。

抄　　録

ふりがな	いぬだじんじゃまえいせき
書名	犬田神社前遺跡３
副書名	北関東自動車道（協和～友部）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書
巻次	XIV
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第270集
著者名	寺内久永　須賀川正一
編集機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和１丁目356番地の２　　TEL 029－225－6587
発行日	2007（平成19）年３月23日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
犬田神社前遺跡（いぬだじんじゃまえいせき）	茨城県桜川市犬田（いばらきけんさくらがわしいぬだ）691番地（ばんち）の２ほか	08231 － 324086	36度20分57秒 （36度21分09秒）	140度06分10秒 （140度05分58秒）	48 ～ 51m	20050401 ～ 20050930	6,834㎡	北関東自動車道（協和～友部）建設事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
犬田神社前遺跡	集落跡	弥生	竪穴住居跡　５軒	弥生土器片（壺）	弥生時代後期の１辺が７ｍを超える大形住居跡が確認され，住居内に複数の炉跡が存在している。
		古墳	竪穴住居跡　35軒 土坑　２基 溝跡　１条	土師器(坏・椀・坩・器台・高坏・壺・甕・甑) 須恵器（坏・蓋） 土製品（土玉・支脚） 石製品（臼玉・紡錘車）	
		奈良・平安	竪穴住居跡　69軒 掘立柱建物跡　１棟 井戸跡　７基 土坑　２基 溝跡　２条	土師器(坏・椀・高台付椀・皿・甕・甑) 須恵器（坏・蓋・盤・甕） 灰釉陶器（瓶） 金属製品（釘・刀子）	
		中世・近世	方形竪穴遺構　２基 井戸跡　12基 土坑　１基 溝跡　４条 道路跡　１条	土師質土器（皿・内耳鍋） 陶磁器（碗・皿・鉢・甕） 金属製品（小刀・釘） 古銭 木製品（蓋）	
		その他	竪穴住居跡　15軒 掘立柱建物跡　１棟 方形竪穴遺構　１基 井戸跡　17基 土坑　358基 溝跡　10条 ピット群　５か所	土師器（坏・椀・甕） 須恵器（坏・蓋） 瓦	
	墓地跡	時期不明	土壙墓　１基		

要約	弥生時代から中世にかけての複合遺跡で，断続的に集落が営まれていたと考えられる。特に，古墳時代中期から平安時代にかけての竪穴住居跡が最も多い。

目　　次

上　巻

序
例言
凡例
抄録
目次

第１章　調査経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経過 …… 1
　第２節　調査経過 …… 1
第２章　位置と環境 …… 2
　第１節　地理的環境 …… 2
　第２節　歴史的環境 …… 2
第３章　調査の成果 …… 7
　第１節　遺跡の概要 …… 7
　第２節　基本層序 …… 7
　第３節　遺構と遺物 …… 8
　　１　弥生時代の遺構と遺物 …… 8
　　２　古墳時代の遺構と遺物 …… 17
　　⑴　竪穴住居跡 …… 17
　　⑵　土坑 …… 115
　　⑶　溝跡 …… 117
　　３　奈良・平安時代の遺構と遺物 …… 119
　　⑴　竪穴住居跡 …… 119
　　⑵　掘立柱建物跡 …… 266
　　⑶　井戸跡 …… 268
　　⑷　土坑 …… 273
　　⑸　溝跡 …… 274

下　巻

　　４　中世以降の遺構と遺物 …… 287
　　⑴　方形竪穴遺構 …… 287
　　⑵　井戸跡 …… 289
　　⑶　土坑 …… 298
　　⑷　溝跡 …… 299
　　⑸　道路跡 …… 304
　　５　その他の時代の遺構と遺物 …… 305
　　⑴　竪穴住居跡 …… 305
　　⑵　掘立柱建物跡 …… 319
　　⑶　方形竪穴遺構 …… 320
　　⑷　井戸跡 …… 321
　　⑸　土壙墓 …… 333
　　⑹　土坑 …… 333
　　⑺　溝跡 …… 391
　　⑻　ピット群 …… 397
　　⑼　遺構外出土遺物 …… 406
　第４節　まとめ …… 414
写真図版
付図

第１章　調　査　経　緯

第１節　調査に至る経緯

東日本高速道路株式会社は，常陸那珂港と北関東の各主要都市を結ぶ北関東自動車道の早期開通をめざしている。

平成10年11月４日，日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長（現東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所長）は，茨城県教育委員会教育長に対して，北関東自動車道建設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は，平成10年12月15日～18日に現地踏査を，平成12年12月14・15日に試掘調査を実施し，犬田神社前遺跡の所在を確認した。平成13年１月17日，茨城県教育委員会教育長は日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長あてに事業地内に犬田神社前遺跡が所在する旨回答した。

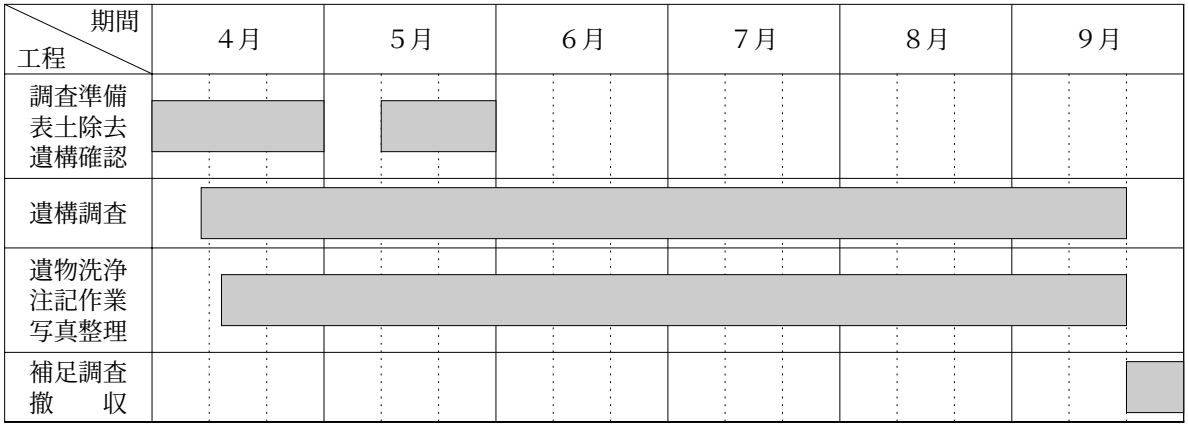
平成13年３月26日，日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して，文化財保護法第57条の３（現　第94条）の規定に基づき，土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は，現状保存が困難であることから，記録保存のための発掘調査が必要であると判断し，平成13年３月27日，日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長あてに，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成13年３月28日，日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長は，茨城県教育委員会教育長に対して，北関東自動車道建設に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成13年３月28日，茨城県教育委員会教育長は日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長あてに，犬田神社前遺跡について，発掘調査の範囲及び面積等について回答し，併せて埋蔵文化財の調査機関として，財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は，日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成14年４月１日から犬田神社前遺跡の発掘調査を開始し，今回は平成17年４月１日から平成17年９月30日まで発掘調査を実施することとなった。

第２節　調　査　経　過

調査は，平成17年４月１日から平成17年９月30日まで実施した。その概要を表で記載する。



第２章　位 置 と 環 境

第１節　地 理 的 環 境

犬田神社前遺跡は，茨城県桜川市犬田691番地の２ほかに所在している。

当遺跡は，旧西茨城郡岩瀬町の犬田地区に位置し，旧岩瀬町地域の地形は，北が富谷山，北東が雨巻山，東が羽黒山，南が加波山・雨引山によって三方を取り囲まれた盆地をなしている。筑波山麓の西側を経由し霞ヶ浦へ注ぐ桜川が，当町の中央部を東西に貫通している。平地は，桜川流域，西部を流れる桜川の支流泉川流域，北部の大川流域，南東部の筑輪川流域の沖積地である。

岩瀬地域の地質は，八溝山塊・鷲の子山塊・鶏足山塊・筑波山塊の四つの山塊群からなる八溝山系からとらえることができる。北から延びる三つの山塊の地質は，中・古生代の地向斜に堆積された地層とこれを貫く花崗岩類からできている。また，台地の大部分は，関東ローム層に厚くおおわれた洪積台地である。この層の上部には，赤城山の噴出物である鹿沼軽石も含まれる。また，水田に利用されている桜川流域一帯などは，河川の浸食・堆積による沖積地である[1)]。

また，岩瀬地域の土壌は酸性度の強いところが多く，県内で最も降水量の少ない地域の一つである。特に，天気の変化や降雪の様子は，栃木県の天候に近い[1)]。

当遺跡の調査前の現況は山林及び畑である。

第２節　歴 史 的 環 境

当遺跡の所在する岩瀬盆地とそれを望む丘陵地や桜川及びその支流域には，縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く分布する[2)]。また，中世から近世にかけての集落遺構も近年の調査で報告されている。

ここでは，当遺跡の今回の報告と関連する弥生時代から中世までの概要と主な遺跡について述べる。

弥生時代の遺跡は，縄文時代の遺跡と同じ台地上に多く分布している。当遺跡の第１次調査でも，縄文中から後期の住居跡６軒，土坑10基が確認されている[3)]。盆地北部の大泉地区からは弥生中期の特徴をもつ遺物が出土している。この時期には弥生文化が波及したと考えられているが，中期の遺跡はほとんど確認されていないため遺跡の全体像や時代の概観を把握することは難しい[1)]。後期の遺跡では，辰街道遺跡〈2〉，当向遺跡〈3〉，裏山遺跡〈4〉，南飯田遺跡，番匠遺跡，そして犬田神社前遺跡においても平成15年度の第２次調査[4)]で，竪穴住居跡９軒と土坑１基が報告され，集落の形成が確認されている。常総地方において当該期の遺跡は，10遺跡ほどであると見られている[5)]。

古墳時代になると，初期末とされている狐塚古墳[6)]〈5〉，それに続いて築かれた岩瀬地域最大の長辺寺山古墳[7)]〈6〉，くびれ部から３条４段の円筒埴輪が出土した篠ノ沢古墳[8)]〈7〉，直刀などが出土した松田古墳群[9)]〈8〉などがある。当遺跡の東方には犬田山神古墳[10)]〈9〉が存在している。集落跡としては，拠点的な集落の様相を呈する辰街道遺跡〈2〉をはじめ，金谷遺跡〈10〉，犬田神社前遺跡など，当教育財団が調査を行い，この時代における集落の様相や性格が明確にされつつある。

奈良・平安時代の集落遺跡は，当遺跡からも平成15・16年度の報告により，93軒の竪穴住居跡が報告されている。なお，近隣の辰街道遺跡では，鉄生産を中心とした荘園と結びついた集落の経済的繁栄を示唆する遺構・

遺物の報告がなされている[11]。当遺跡もその影響下にあることは十分考えられ，その中で岩瀬地域は，中郡氏の支配をみるのである[1]。

中世にはいると，源氏３代と結びつきを深めた中郡氏は，中郡庄の地頭職を安堵される。しかし，北条氏専制の時代となると，中郡庄地頭職は安達義景に与えられた。その後，弘安８(1285)年の霜月騒動以降は，北条得宗家によってなされていく。北条氏滅亡後の中郡地域は，南北朝時代の一時期に北畠顕時の支配など南朝方になったが，その後足利氏直轄領及び禁裏御料所として16世紀前半に至る。戦国の世になると佐竹氏をはじめとして諸氏が当地域に進出をはかってくる。その中で弘治２(1556)年ころから，結城氏が中郡地方を支配するようになる。当遺跡において，15～16世紀の遺物を伴う竪穴遺構が確認されている。これらは貯蔵施設と考えられ，この地域の流通経済や商業活動の展開を見ることができるであろう[3]。

戦国末期，豊臣秀吉の小田原出兵時の岩瀬地域は，宇都宮氏の支配下であったようである。その後，浅野長政の宇都宮城代時代を経て，蒲生秀行の時に慶長５年の関ヶ原の戦いを迎える。関ヶ原の後岩瀬地域は，幕府直轄領時代を経て，まもなく笠間領へ編入されていく。笠間藩の領主は，延享４(1747)年の牧野氏入封まで，頻繁に入れ替わる。当遺跡からは，平成15年度の報告で，中世から近世初頭に比定されている溝跡が18条確認されている[3]。さらに平成16年度の報告では，17世紀後半から18世紀初頭に廃絶したと考えられる10条の溝跡と２棟の掘立柱建物跡などが確認されている[4]。これらの遺構の性格は不明だが，陶器や磁器の出土は，安永年間（1772～81）創始の，笠間焼との関わりを推測させる[4]。笠間藩領は，「山内」「山外」「真壁」の三地区に分けられて支配されていた。山内地区は笠間城下町を中心とし，真壁地区は陣屋町として在郷町による経済体系を確立していく[12]。それに対して，山外地区の岩瀬地域は，主穀物や雑穀物の生産を産業とするものであった[1]。しかし，貨幣経済と商業の波は，町場化された隣接地区からの影響を無視できない。このような状況下の延享５(1747)年の山外地区（岩瀬地域）41か村惣百姓一揆など，牧野氏入封の時期と前後して，百姓一揆や村方騒動などの民衆運動が起こり，新たな時代への社会変化が展開していく。

＊文中の〈　〉内の番号は，表１及び第１図の該当番号と同じである。

註

１）岩瀬町史編さん委員会　『岩瀬町史　通史編』　岩瀬町　1987年３月

２）茨城県教育庁文化課　『茨城県遺跡地図（地名表編）（地図編）』　茨城県教育委員会　2001年３月

３）榊雅彦・石川武志　「犬田神社前遺跡Ⅰ　北関東自動車道（協和～友部）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団文化財報告』第229集　2004年３月

４）鴨志田祐一・早川麗司　「犬田神社前遺跡Ⅱ　北関東自動車道（協和～友部）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ」『茨城県教育財団文化財報告』第248集　2005年３月

５）茨城県地方史研究会編　『茨城県の歴史　県西編』　茨城新聞社　2002年５月

６）西宮一男　『常陸狐塚』　岩瀬町教育委員会　1969年３月

７）大橋康夫他「常陸長辺寺山古墳の円筒埴輪」『古代』77　早稲田大学考古学会　1984年６月

８）岩瀬町教育委員会　『岩瀬町の文化財』　2002年３月

９）横倉要次　「松田古墳　北関東自動車道（協和～友部）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団文化財報告』第224集　2004年３月

10）横倉要次・早川麗司・越田真太郎「高幡遺跡，加茂東遺跡，犬田山神古墳　北関東自動車道（協和～友部）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団調査報告』第222集　2004年３月

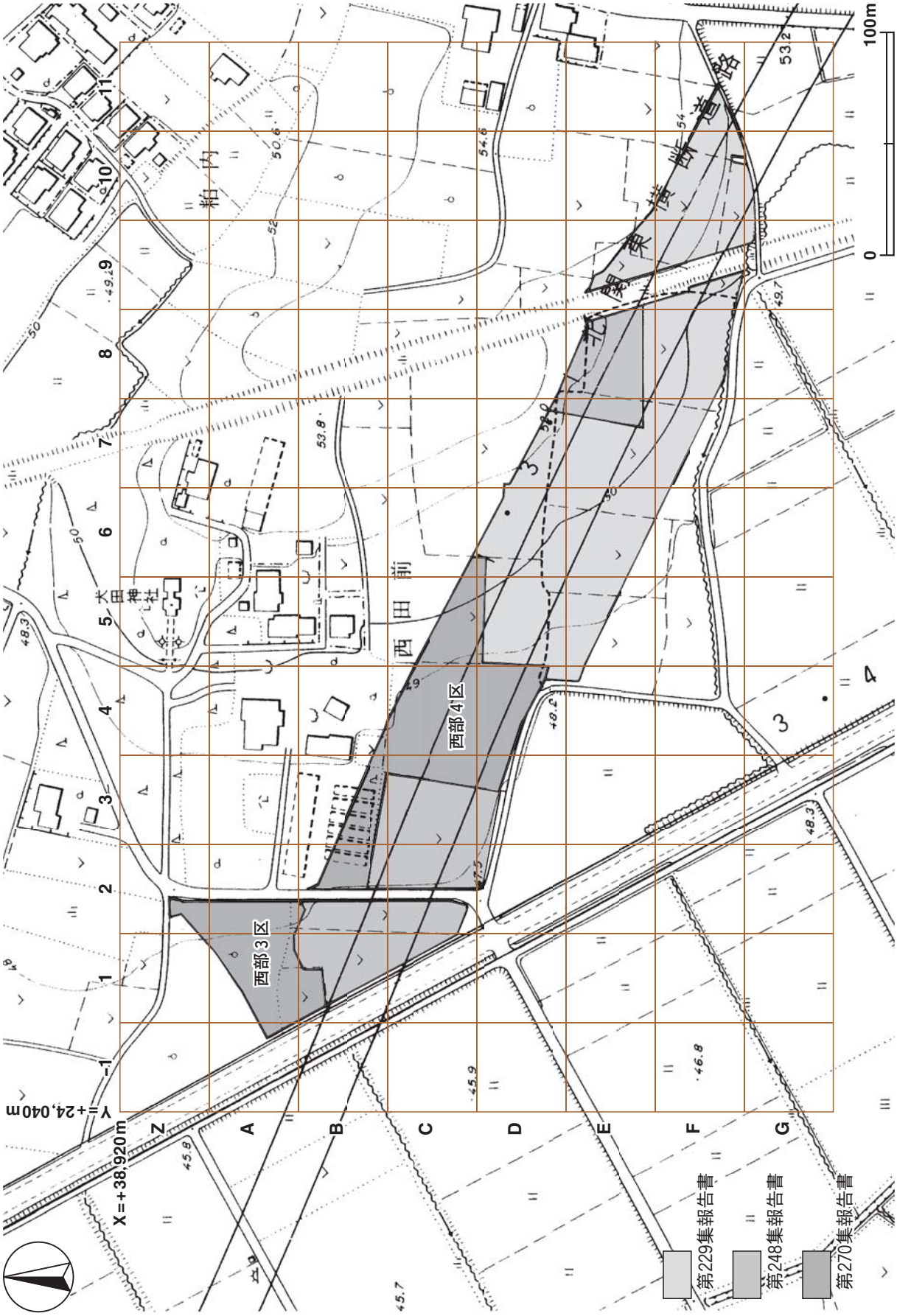
11）榊雅彦・小林健太郎「辰海道３　一般国道50号（岩瀬ＩＣ）改築事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財報告』第235集　2005年３月

12）茨城県史編集委員会『茨城県史　近世編』茨城県　1985年３月

第１図　犬田神社前遺跡周辺遺跡位置図（国土地理院地形図「岩瀬・羽黒」）

表１　犬田神社前遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
①	**犬田神社前遺跡**		○	○	○	○	○	○	21	橋本城跡						○	
2	辰街道遺跡	○	○	○	○	○	○	○	22	坂戸城跡						○	
3	当向遺跡		○	○	○	○	○	○	23	門下城跡						○	
4	裏山遺跡		○	○	○	○			24	松田城跡						○	
5	狐塚古墳				○				25	岩瀬城跡						○	
6	長辺寺山古墳		○	○	○				26	磯部城跡						○	
7	篠沢古墳				○				27	上野原瓦窯跡					○		
8	松田古墳群	○	○	○	○		○	○	28	坂戸古墳群				○			
9	犬田山神古墳		○	○	○	○	○		29	富岡城跡						○	
10	金谷遺跡				○	○	○	○	30	本郷瓦塚遺跡					○		
11	猪窪古墳群		○	○	○				31	防人遺跡		○	○	○	○		
12	大神田古墳群				○				32	高幡遺跡		○	○	○		○	
13	磯部遺跡		○		○				33	山ノ入古墳群				○			
14	二門塚古墳				○				34	加茂Ｂ古墳群				○			
15	花園古墳群				○				35	間中遺跡				○	○		
16	長辺寺遺跡		○	○	○				36	大日下遺跡		○		○	○	○	○
17	猪窪遺跡		○	○	○				37	青木北原遺跡				○	○		
18	加茂遺跡	○	○	○	○	○	○		38	新治廃寺跡					○		
19	堀の内古窯跡群					○			39	新治郡衙跡					○		
20	富谷城跡						○		40	西山・本沼窯跡群					○		



第2図　犬田神社前遺跡調査区設定図

第3章　調 査 の 成 果

第1節　遺 跡 の 概 要

今回報告するのは，平成17年度に調査を行った6,834㎡の調査区についてである。調査区は西部３区と西部４区に分けた(第２図)。調査の結果，当遺跡は弥生時代から中世にかけての複合遺跡であることが判明した。

確認された遺構は，弥生時代の竪穴住居跡５軒，古墳時代の竪穴住居跡35軒，土坑２基，溝跡１条，奈良・平安時代の竪穴住居跡69軒，掘立柱建物跡１棟，井戸跡７基，土坑２基，溝跡２条，中世以降の方形竪穴遺構２基，井戸跡12基，土坑１基，溝跡４条，道路跡１条，時期不明の竪穴住居跡15軒，掘立柱建物跡１棟，方形竪穴遺構１基，井戸跡17基，土壙墓１基，土坑358基，溝跡10条，ピット群５か所である。

遺物は，遺物収納コンテナ（60×40×20㎝）に177箱が出土している。主な出土遺物は，弥生土器（壺），土師器（坏・椀・高台付椀・皿・坩・器台・高坏・甕・甑），須恵器（坏・高台付坏・盤・蓋・甕・甑），灰釉陶器（碗・壺），土師質土器（内耳鍋），陶磁器（碗・皿），土製品（土玉・球状土錘・支脚・紡錘車），石器・石製品（鏃・石斧・凹石・砥石・勾玉・臼玉・模造品・紡錘車），金属製品（刀子・釘・古銭）などである。

第2節　基　本　層　序

調査区中央部（Ｃ４c8）にテストピットを設定し，基本層序の観察を行った（第３図)。

第１層は表土である。層厚は25～35㎝である。

第２層は黒褐色土層である。粘性は普通で，締まりは強い。層厚は11～19㎝である。

第３層は暗褐色のソフトローム層への漸移層である。少量のロームブロックを含み，粘性・締まりともに普通である。層厚は11～18㎝である。

第４層は褐色のソフトローム層である。粘性は普通で，やや締まっている。層厚は９～18㎝である。

第５層は褐色のハードローム層への漸移層である。粘性・締まりとも強い。層厚は14～34㎝である。

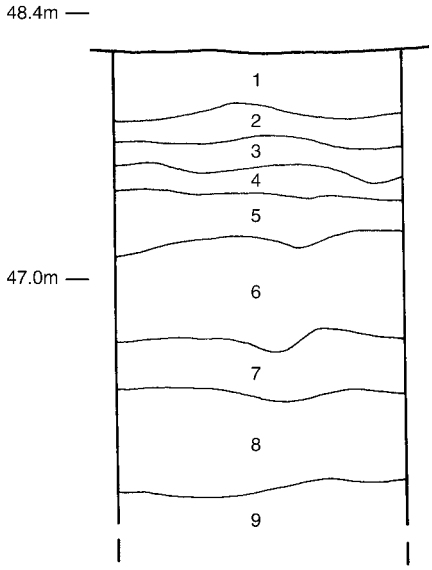
第６層は褐色のハードローム層である。粘性･締まりとも強い。層厚は42～59㎝である。第Ⅱ黒色帯に相当するものと考えられる

第７層は黄褐色のハードローム層である。鹿沼パミス(以下 KP と略す）ブロックを中量含んでおり，KP 層への漸移層と考えられる。粘性は普通で，締まりは強い。層厚は24～34㎝である。

第８層は黄橙色の KP 層である。粘性は弱く，締まりは強い。層厚は44～57㎝である。

第９層は明黄褐色の KP 層である。粘性は弱く，締まりは強い。層厚は30㎝以上であるが，下層が未掘のため本来の厚さは不明である。

遺構は，第４層上面で確認された。



第３図　基本土層図

第３節　遺 構 と 遺 物

１　弥生時代の遺構と遺物

竪穴住居跡５軒が確認されている。以下，確認された遺構と遺物について記述する。

第307号住居跡（第４・５図）

位置　西部３区西部のＡ１e4 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第306号住居に掘り込まれている。

規模と形状　北側は調査区域外に延びており，規模や平面形は明確ではない。確認された範囲は，東西軸2.84m，南北軸2.46mで，平面形は方形もしくは長方形と推定される。主軸方向はN－25°－Wである。壁高は36cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，P1 付近がわずかに硬化している。

炉　確認された床面の北側に位置している。長径63cm，短径40cmの楕円形で，床面を４～９cm掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱を受けて赤変している。

炉土層解説

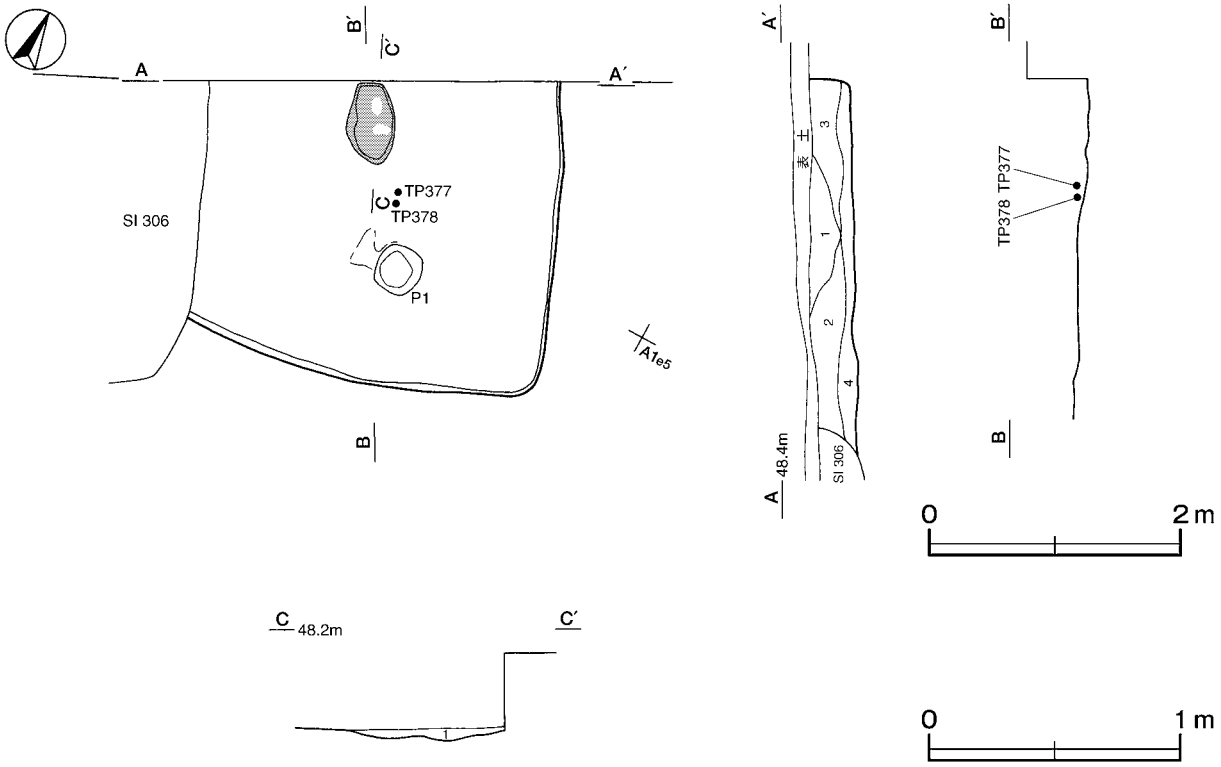
１　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量

ピット　深さは35cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　４層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

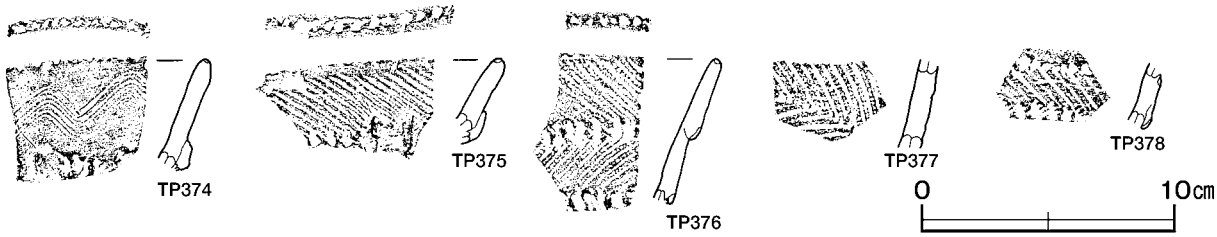
１　極暗褐色　ローム粒子微量
２　極暗褐色　ローム粒子少量
３　暗　褐　色　ロームブロック少量
４　褐　　色　ロームブロック中量



第４図　第307号住居跡実測図

遺物出土状況　弥生土器片81点（口縁部10，胴部69，底部２）が細片で，中央部の覆土下層から出土している。また，流れ込んだ土師器片２点（器台，高台付皿）も出土している。TP377・TP378は，炉の南側付近の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期と考えられる。



第５図　第307号住居跡出土遺物実測図

第307号住居跡出土遺物観察表（第４・５図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様および手法の特徴	出土位置	備考
TP374	弥生土器	壺	石英･白色粒子	にぶい赤褐	普通	口唇部縄文原体押圧　櫛歯状工具（７本櫛歯）によるおおぶりな波状文　瘤貼付	覆土中	PL57
TP375	弥生土器	壺	石英･白色粒子	黒褐	普通	口唇部縄文原体押圧　口縁部付加条一種（付加２条）縄文施文　口縁部瘤貼付	覆土中	PL57
TP376	弥生土器	壺	石英･白色粒子	赤褐	普通	口唇部縄文原体押圧　口縁部付加条一種（付加２条）縄文施文　羽状構成で複合口縁部下端に結節部押圧	覆土中	PL57
TP377	弥生土器	壺	石英･白色粒子	にぶい黄橙	普通	胴部付加条一種（付加２条）縄文施文　羽状構成	覆土下層	
TP378	弥生土器	壺	白色粒子	にぶい橙	普通	口縁部付加条一種（付加２条）縄文施文　羽状構成で結節部押圧	覆土下層	PL57

第315号住居跡（第６図）

位置　西部３区西部のＡ１ｆ4区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第313号住居に掘り込まれている。

規模と形状　削平により壁がほとんど残存していないため，規模や形状は明確ではない。確認できた床面の範囲は東西軸2.96m，南北軸2.96mで，平面形は方形もしくは長方形と考えられる。主軸方向はN－79°－Eと推定される

床　平坦で，炉の西側と東側が踏み固められている。

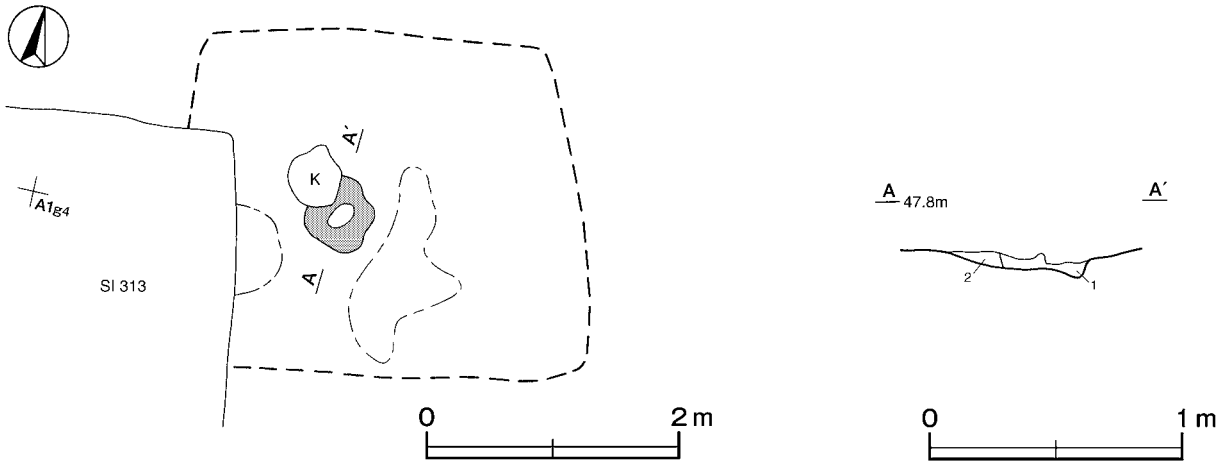
炉　床面のほぼ中央に位置している。長径57cm，短径53cmの円形で，床面を２～14cm掘りくぼめた地床炉である。炉床面の南側から炉石が出土している。炉床面の赤変硬化が顕著であり，長期にわたり使用されていたことが推測される。

炉土層解説

1　明　褐　色　ローム粒子多量　　2　赤　褐　色　焼土ブロック中量

遺物出土状況　弥生土器口縁部片１点が出土している。覆土が削平された状況で確認されているため，出土位置は明確でない。

所見　時期は，出土土器がほとんどなく判断は難しいが，遺構の形態や様相などから後期と推定される。



第６図　第315号住居跡実測図

第316号住居跡（第７・８図）

位置　西部３区西部のＡ１c7 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第332・335・336・344・359号住居，第3614・3615・3692・3977号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北東側と北西側の壁が削平によりほとんど残存していないため，規模や形状は明確ではない。確認された範囲は，南北軸7.40m，東西軸6.13mで，平面形は方形もしくは長方形と推定される。主軸方向はＮ－28°－Ｗである。壁高は18㎝で，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉の周囲が踏み固められている。

炉　３か所。中央部からやや北側にそれぞれ位置している。炉１は，長径137㎝，短径62㎝の長楕円形と推定され，床面を２～８㎝掘りくぼめた地床炉である。炉２は，長径147㎝，短径42㎝の長楕円形で，床面を２～６㎝掘りくぼめた地床炉である。炉３は，長径89㎝，短径64㎝の不正楕円形で，床面を２～４㎝掘りくぼめた地床炉である。いずれの炉床も火熱を受けて赤変している。また，炉の上面を踏み固めた形跡などがないことから，３基の炉はほぼ同時に使われたと考えられる。

炉１・２・３土層解説

1　暗　褐　色　焼土ブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
3　黒　褐　色　焼土粒子中量
4　赤　褐　色　ロームブロック中量

ピット　深さ23㎝で，南壁際に位置しているため，出入り口施設に伴うピットの可能性が高い。なお，主柱穴に相当するピットは確認できなかった。

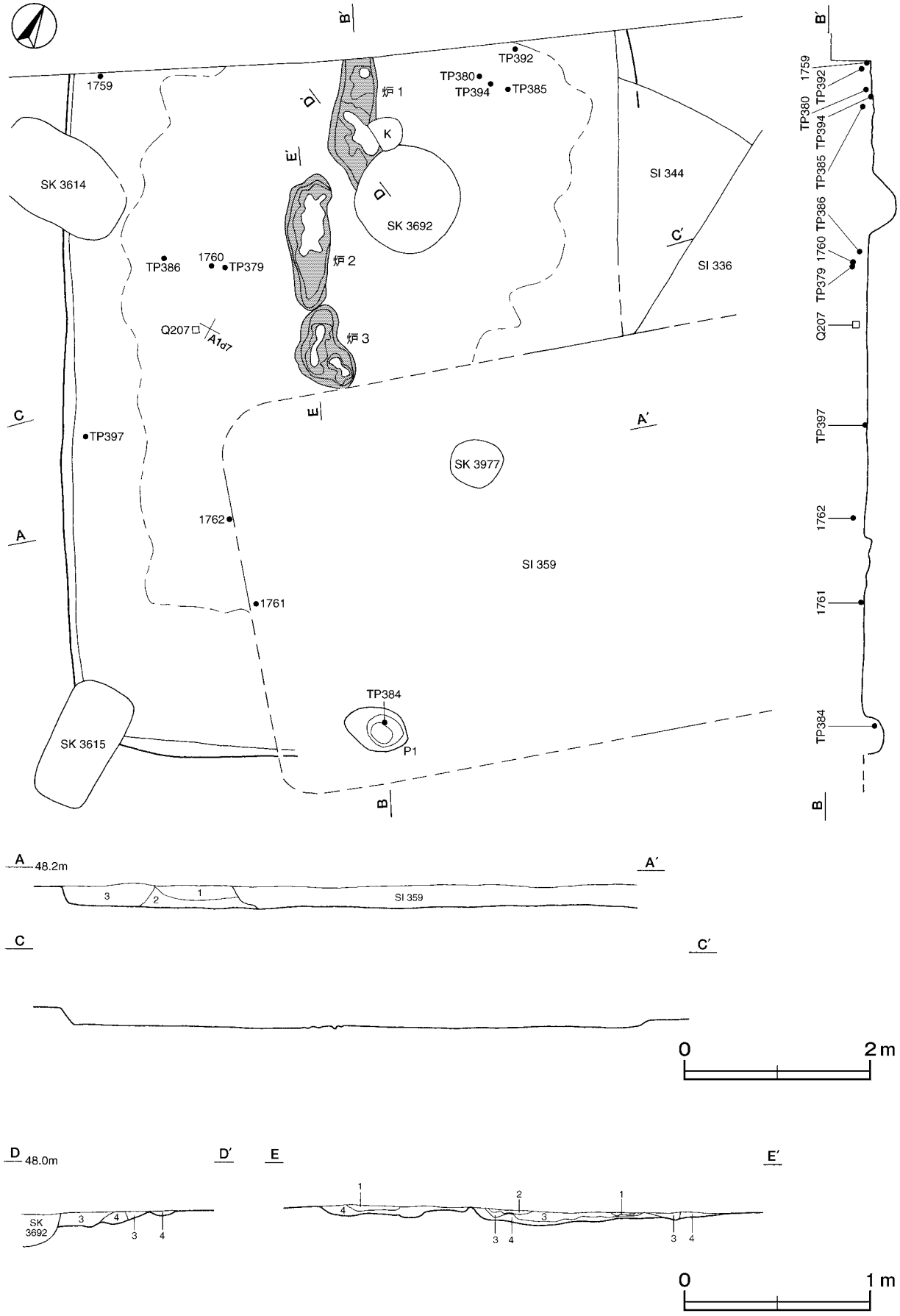
覆土　３層に分層される。ロームブロックが不規則に堆積している状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

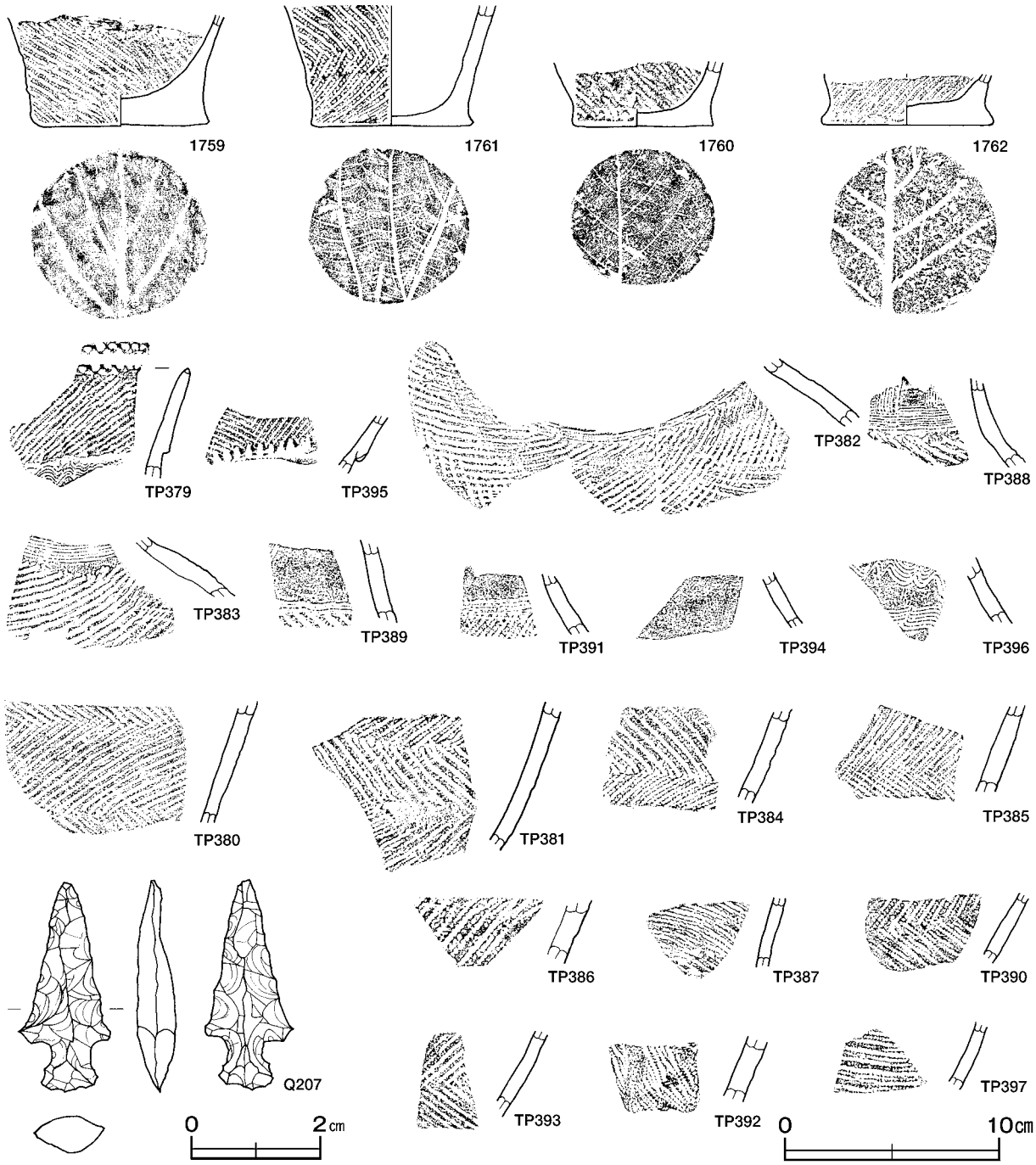
1　暗　褐　色　焼土ブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
3　黒　褐　色　焼土粒子中量

遺物出土状況　弥生土器片416点（口縁部９，胴部391，底部16），石器１点（鏃）が出土している。土器は炉の北東側と南西側に散在し，覆土下層から床面にかけて多く出土している。また，流れ込んだ土師器片90点，須恵器片１点も出土している。1761・TP397は南西部の床面，TP384はＰ1 から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期と考えられる。



第7図　第316号住居跡実測図



第８図　第316号住居跡出土遺物実測図

第316号住居跡出土遺物観察表（第８図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様および手法の特徴	出土位置	備考
1759	弥生土器	壺	－	(5.2)	8.2	長石・雲母	にぶい褐	普通	胴部付加条一種(付加2条)縄文施文 底部木葉痕	床面	5％
1760	弥生土器	壺	－	(3.0)	6.5	石英	にぶい黄褐	普通	胴部付加条一種(付加2条)縄文施文 羽状構成 底部木葉痕	覆土下層	5％
1761	弥生土器	壺	－	(5.7)	7.5	石英・白色粒子	にぶい褐	普通	胴部付加条一種(付加2条)縄文施文 底部木葉痕	床面	5％
1762	弥生土器	壺	－	(2.9)	7.8	石英	にぶい橙	普通	胴部付加条一種(付加2条)縄文施文 底部木葉痕	覆土下層	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様および手法の特徴	出土位置	備考
TP379	弥生土器	壺	石英	にぶい黄橙	普通	口唇部縄文原体押圧　口縁部付加条一種（付加２条）縄文施文　頸部櫛歯状工具（５本櫛歯）による山形文施文	覆土下層	PL57
TP380	弥生土器	壺	石英･長石･白色粒子	橙	普通	胴部付加条一種（付加２条）縄文施文　羽状構成	覆土下層	
TP381	弥生土器	壺	石英･白色粒子	橙	普通	胴部付加条一種（付加２条）縄文施文　羽状構成	覆土中	
TP382	弥生土器	壺	石英・長石・白色粒子	にぶい黄橙	普通	頸・胴部櫛歯状工具（４本櫛歯）による横走文で区画　胴部付加条一種（付加２条）縄文施文　羽状構成	覆土中	PL57
TP383	弥生土器	壺	石英･白色粒子	にぶい橙	普通	頸・胴部櫛歯状工具（６本櫛歯）による横走文で区画　胴部付加条一種（付加２条）縄文施文	覆土中	PL57
TP384	弥生土器	壺	石英･長石･白色粒子	橙	普通	胴部付加条一種（付加２条）縄文施文　羽状構成	Ｐ１覆土下層	PL57
TP385	弥生土器	壺	白色粒子･赤色粒子	橙	普通	胴部付加条一種（付加２条）縄文施文　羽状構成	覆土下層	
TP386	弥生土器	壺	石英･白色粒子	にぶい黄橙	普通	胴部付加条一種（付加２条）縄文施文	覆土下層	
TP387	弥生土器	壺	石英･白色粒子	にぶい褐	普通	胴部付加条一種（付加２条）縄文施文	覆土中	
TP388	弥生土器	壺	石英･白色粒子	明赤褐	普通	頸・胴部櫛歯状工具（９本櫛歯）による横走文で区画及び縦走文施文　胴部付加条一種（付加２条）縄文施文	覆土中	PL57
TP389	弥生土器	壺	石英・長石・白色粒子	明赤褐	普通	頸・胴部櫛歯状工具（５本櫛歯）による横走文で区画及び縦走文施文　胴部付加条一種（付加２条）縄文施文	覆土中	PL57
TP390	弥生土器	壺	石英･長石･白色粒子	赤褐	普通	胴部付加条一種（付加２条）縄文施文　羽状構成	覆土中	PL57
TP391	弥生土器	壺	白色粒子	にぶい黄褐	普通	頸・胴部櫛歯状工具（５本櫛歯）による横走文で区画　胴部付加条一種（付加２条）縄文施文	覆土中	
TP392	弥生土器	壺	石英・長石	にぶい橙	普通	胴部付加条一種（付加２条）縄文施文	覆土下層	
TP393	弥生土器	壺	石英･白色粒子	橙	普通	胴部付加条一種（付加１条）縄文施文　羽状構成	覆土中	
TP394	弥生土器	壺	石英・長石	にぶい黄橙	普通	頸部櫛歯状工具（５本櫛歯）による波状文施文	床面	
TP395	弥生土器	壺	石英･白色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部付加条一種（付加２条）縄文施文　羽状構成　複合口縁部下端に刺突文	覆土中	PL57
TP396	弥生土器	壺	石英･長石･白色粒子	褐	普通	頸部櫛歯状工具（６本櫛歯）による波状文施文	覆土中	PL57
TP397	弥生土器	壺	石英・長石	暗褐	普通	胴部付加条一種（付加２条）縄文施文	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	手　法　の　特　徴	出土位置	備考
Q207	鏃	3.22	1.37	0.54	1.7	チャート	有茎鏃　両面押圧剥離	覆土下層	PL86

第322号住居跡（第９図）

位置　西部３区東部のＡ２g3 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第323号住居，第3633号土坑，第68・69号溝に掘り込まれている。

規模と形状　確認された範囲は，長軸4.30m，短軸3.67mで，長方形を呈しており，主軸方向はN－34°－Wである。壁高は12～25cmで，緩やかに外傾して立ち上がっている。

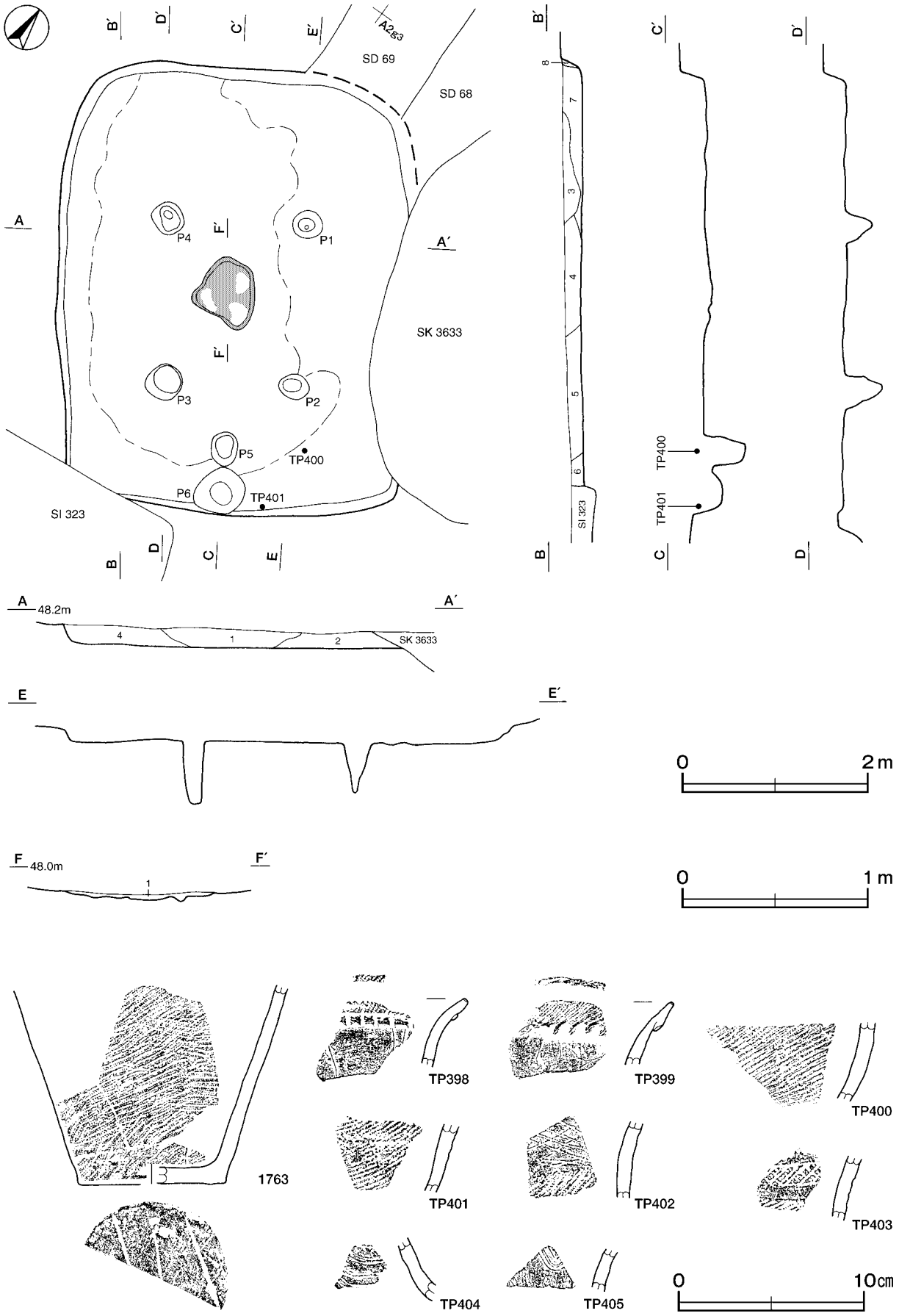
床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められており，特に炉の周辺の硬化が著しい。

炉　中央部に位置している。長径76cm，短径67cmの不正楕円形で，床面を２～６cm掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変している。

炉土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子多量

ピット　６か所。P1 ～P4 は深さ30～68cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5・P6 は深さ22cmと47cmで，南壁際の中央部に狭い間隔で位置していることから，ともに出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第9図　第322号住居跡・出土遺物実測図

覆土　８層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　極暗褐色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量
7　極暗褐色　ロームブロック少量
8　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　弥生土器片61点（口縁部４，胴部56，底部１），細礫５点が出土している。土器は覆土下層から散在して出土している。また，流れ込んだ縄文土器片12点，土師器片18点も出土している。TP400・TP401はＰ5の東側の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期と考えられる。

第322号住居跡出土遺物観察表（第９図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様および手法の特徴	出土位置	備考
1763	弥生土器	壺	－	(10.7)	[8.0]	石英・長石	にぶい褐	普通	胴部付加条一種（付加２条）縄文施文 羽状構成　底部木葉痕	覆土中	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様および手法の特徴	出土位置	備考
TP398	弥生土器	壺	石英･白色粒子	にぶい赤褐	普通	複合口縁下端部に横位の平行沈線とキザミ施文　頸部無文	覆土中	PL57
TP399	弥生土器	壺	石英･白色粒子	褐	普通	口唇部縄文施文　口縁部付加条一種（付加２条）縄文施文 複合口縁部下端縄文原体押圧	覆土中	PL57
TP400	弥生土器	壺	石英・長石	明赤褐	普通	胴部付加条一種（付加２条）縄文施文	覆土下層	
TP401	弥生土器	壺	石英・長石	明赤褐	普通	胴部付加条一種（付加２条）縄文施文	覆土下層	
TP402	弥生土器	壺	石英	にぶい橙	普通	頸部単沈線による斜格子目施文　胴部付加条一種（付加２条）縄文施文	覆土中	PL57
TP403	弥生土器	壺	石英･白色粒子	明赤褐	普通	頸部単沈線による横位の区画内に斜位の平行沈線とキザミ施文 胴部付加条一種（付加２条）縄文施文	覆土中	PL57
TP404	弥生土器	壺	石英･白色粒子	にぶい黄褐	普通	頸部下向きの連弧文	覆土中	PL57
TP405	弥生土器	壺	石英･白色粒子	にぶい橙	普通	頸部櫛歯状工具による波状文	覆土中	

第340号住居跡（第10図）

位置　西部３区東部のＡ１a0 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第339号住居，第3669号土坑，第70号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.08m，短軸3.18mの長方形で，主軸方向はＮ－27°－Ｗである。壁高は11cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められており，特に炉の周囲が著しい。

炉　中央部に位置している。長径54cm，短径30cmの楕円形で，床面を３cm掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変している。

ピット　４か所。深さが28～58cmで，規模や配置はやや不規則であるが，主柱穴と考えられる。

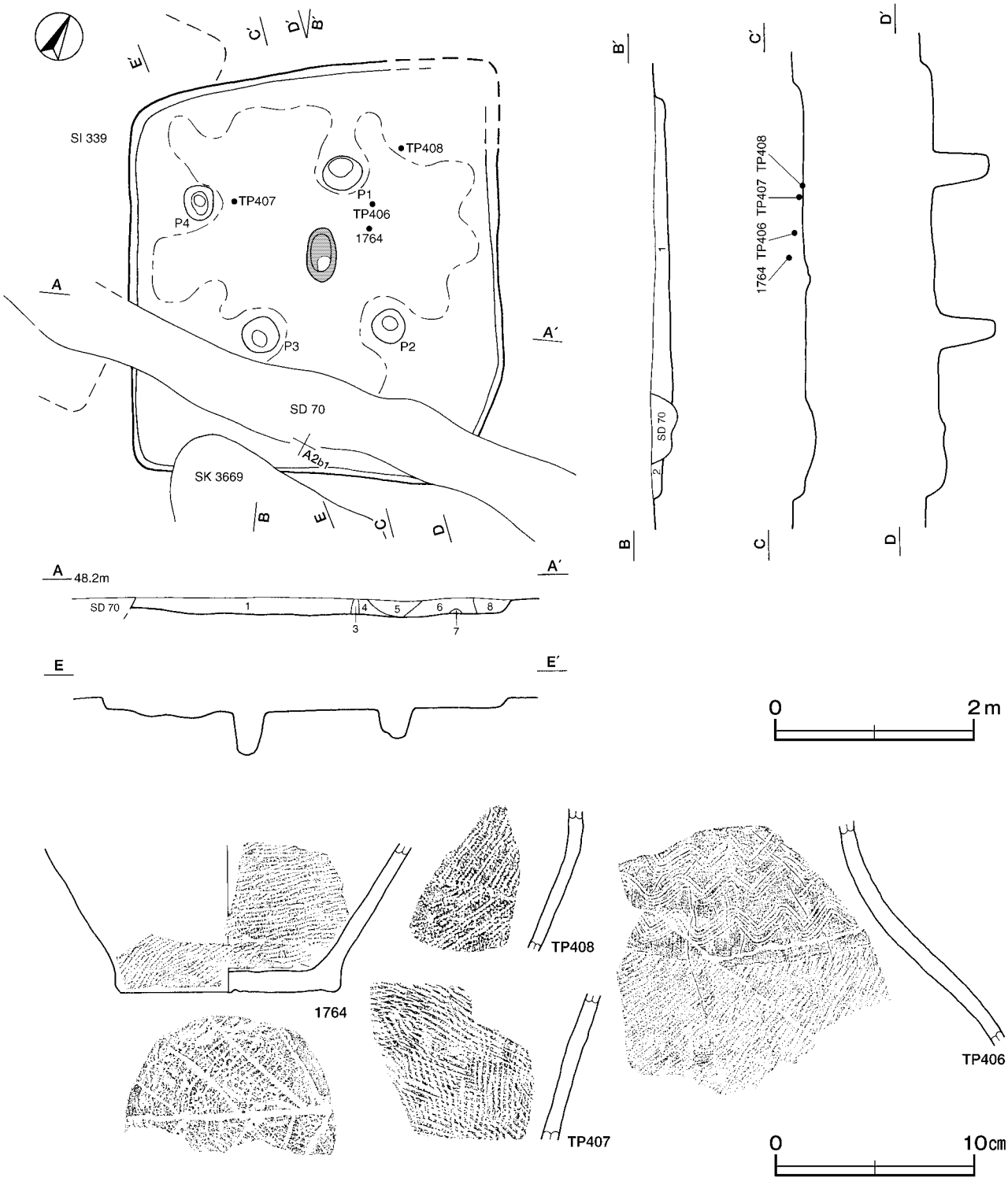
覆土　８層に分層される。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　極暗褐色　ローム粒子少量
5　黒　褐　色　ローム粒子中量
6　黒　褐　色　ロームブロック微量
7　褐　　色　ローム粒子中量
8　黒　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　弥生土器片59点（胴部57，底部２）が覆土下層から床面にかけて出土している。流れ込んだ土師器片１点も出土している。1764・TP406は炉の北側の覆土中層，TP407はＰ4 の東側の床面，TP408はＰ1の北東側の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から後期と考えられる。



第10図　第340号住居跡・出土遺物実測図

第340号住居跡出土遺物観察表（第10図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様および手法の特徴	出土位置	備考
1764	弥生土器	壺	－	(7.4)	10.8	石英・長石	灰褐	普通	胴部付加条一種（付加２条）縄文施文　底部木葉痕	覆土中層	５％

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様および手法の特徴	出土位置	備考
TP406	弥生土器	壺	石英・長石	にぶい黄橙	普通	頸部櫛歯状工具（６本櫛歯）による重層山形文施文　胴部付加条一種（付加２条）縄文施文	覆土中層	PL57
TP407	弥生土器	壺	石英･長石･雲母	にぶい黄橙	普通	胴部付加条一種（付加２条）縄文施文　羽状構成	床面	PL57
TP408	弥生土器	壺	石英・雲母	灰褐	普通	胴部付加条一種（付加２条）縄文施文	床面	

表２　弥生時代住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考(時期)
							壁溝	主柱穴	出入口	ピット	炉	貯蔵穴			
307	Ａ１e4	Ｎ－25°－Ｗ	[方形･長方形]	(2.84)×(2.46)	36	平坦	－	1	－	－	1	－	自然	壺形土器	後期
315	Ａ１f4	Ｎ－79°－Ｅ	[方形･長方形]	(2.96)×(2.96)	－	平坦	－	－	－	－	1	－	－	壺形土器	後期
316	Ａ１c7	Ｎ－28°－Ｗ	[方形･長方形]	(7.40)×6.13	18	平坦	－	－	1	－	3	－	人為	壺形土器　鏃	後期
322	Ａ２g3	Ｎ－34°－Ｗ	[長方形]	4.30×(3.67)	12～25	平坦	－	4	2	－	1	－	自然	壺形土器	後期
340	Ａ１a0	Ｎ－27°－Ｗ	長方形	4.08×3.18	11	平坦	－	4	－	－	1	－	人為	壺形土器	後期

２　古墳時代の遺構と遺物

竪穴住居跡35軒，土坑３基，溝跡１条が確認された。以下，遺構と遺物について記述する。

⑴　竪穴住居跡

第304号住居跡（第11～13図）

位置　西部３区西部のＡ１e5 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第305号住居跡を掘り込み，第3612・3613号土坑，第21号土壙墓に掘り込まれている。

規模と形状　竈と北壁の西側半分が撹乱によって壊されている。確認できた範囲は，長軸5.92m，短軸5.90mの方形で，主軸方向はＮ－16°－Ｗである。壁高は26～38cmで，直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が，北壁際を除いて周回している。

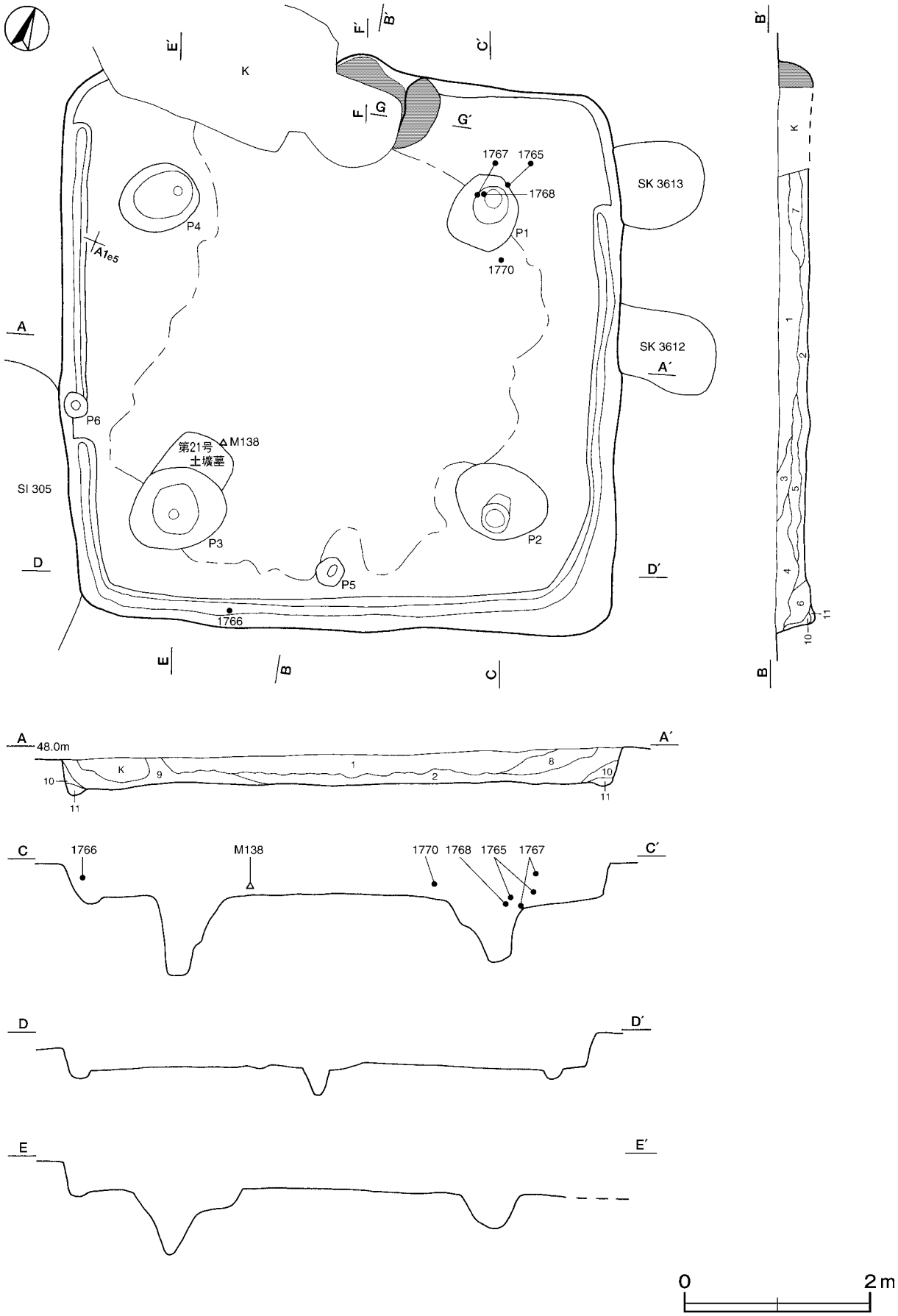
竈　撹乱により，右袖部がわずかに遺存しているだけである。右袖部は，ロームブロックを含んでいる黒褐色土の上に，砂質粘土を貼付けて構築している。煙道部にも少量の粘土が貼付けられている。

竈土層解説

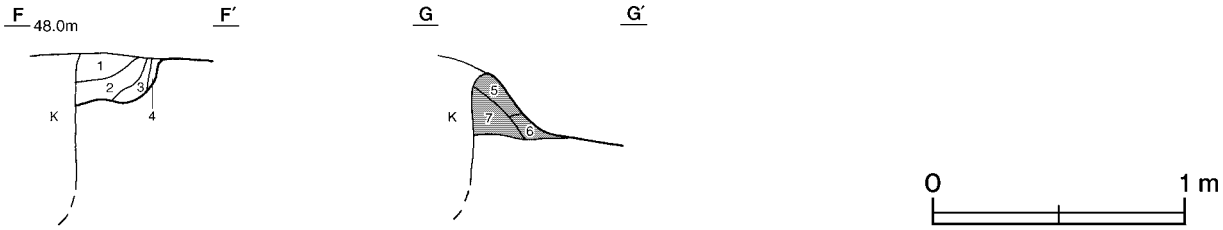
1　にぶい黄褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，粘土ブロック微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック微量

ピット　６か所。P1 ～P4 は深さ27～88cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5 は深さ27cmで南壁際の位置にあることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6 は20cmで，壁柱穴と考えられる。

覆土　11層に分層される。周囲からの土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。



第11図　第304号住居跡実測図(1)



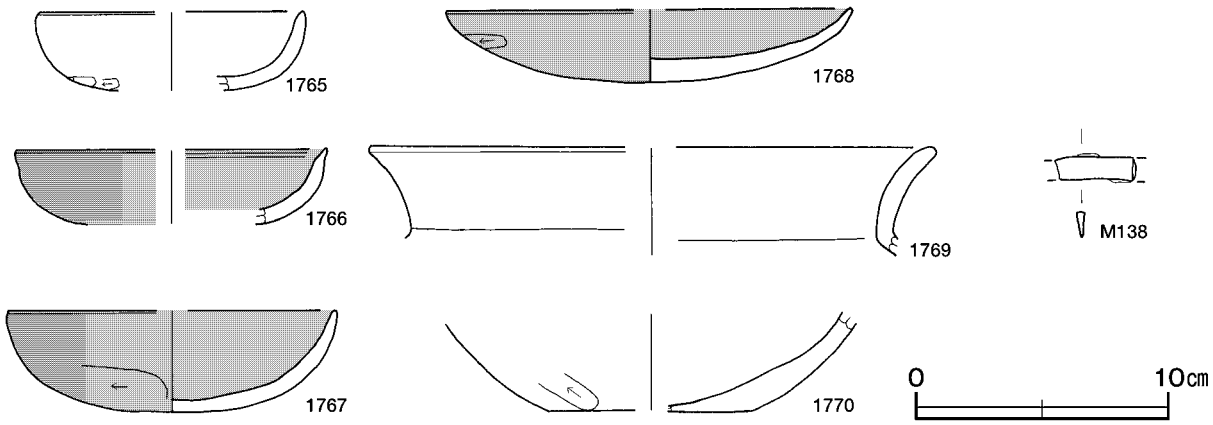
第12図　第304号住居跡実測図(2)

土層解説

1　極暗褐色　粘土ブロック少量，ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘土ブロック微量
3　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量
4　極暗褐色　ロームブロック少量
5　極暗褐色　ロームブロック微量
6　褐　　色　砂質粘土中量，ロームブロック・焼土ブロック少量
7　褐　　色　ロームブロック・砂質粘土中量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
9　暗　褐　色　ロームブロック微量
10　褐　　色　ロームブロック中量
11　褐　　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片612点（坏166，高坏21，甕425），須恵器片８点（坏４，蓋３，甕１）が，南東部を中心に散在しており，ほとんど細片である。また，流れ込みによる縄文土器片１点，弥生土器片123点，土師器片２点（高台付椀），鉄製品１点（刀子ヵ）が出土している。1766は南壁際の覆土中層，1765・1767・1768・1770は北東部の覆土下層からそれぞれ出土している。M138は南コーナー部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉と考えられる。



第13図　第304号住居跡出土遺物実測図

第304号住居跡出土遺物観察表　（第13図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1765	土師器	坏	[10.5]	3.1	－	白色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	20%
1766	土師器	坏	[12.2]	(2.9)	－	雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　口唇部ナデによる沈線　体部外面ナデ	覆土中層	10%
1767	土師器	坏	[13.0]	4.0	－	長石･赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横ナデ　体部ヘラ削り	Ｐ１	20%
1768	土師器	坏	[16.0]	3.4	－	石英･白色粒子･赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	Ｐ１	20%
1769	土師器	甕	[22.0]	(4.3)	－	石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	５%
1770	土師器	甕	－	(3.9)	[8.0]	白色粒子	灰黄褐	普通	底部外面ヘラ削り	覆土下層	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M138	刀子ヵ	(3.2)	0.9	0.25	(2.28)	鉄	刀身　刀部先端・茎欠損	覆土下層	PL90

第305号住居跡（第14・15図）

位置　西部３区西部のＡ１e4 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第304号住居，第3586号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.82m，短軸3.40mの長方形で，主軸方向はＮ－88°－Ｅである。壁高は５㎝で，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，全体的に締まりがない。

ピット　２か所。P1 は深さ30㎝で，南壁際のほぼ中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2 は深さ30㎝で，性格は不明である。

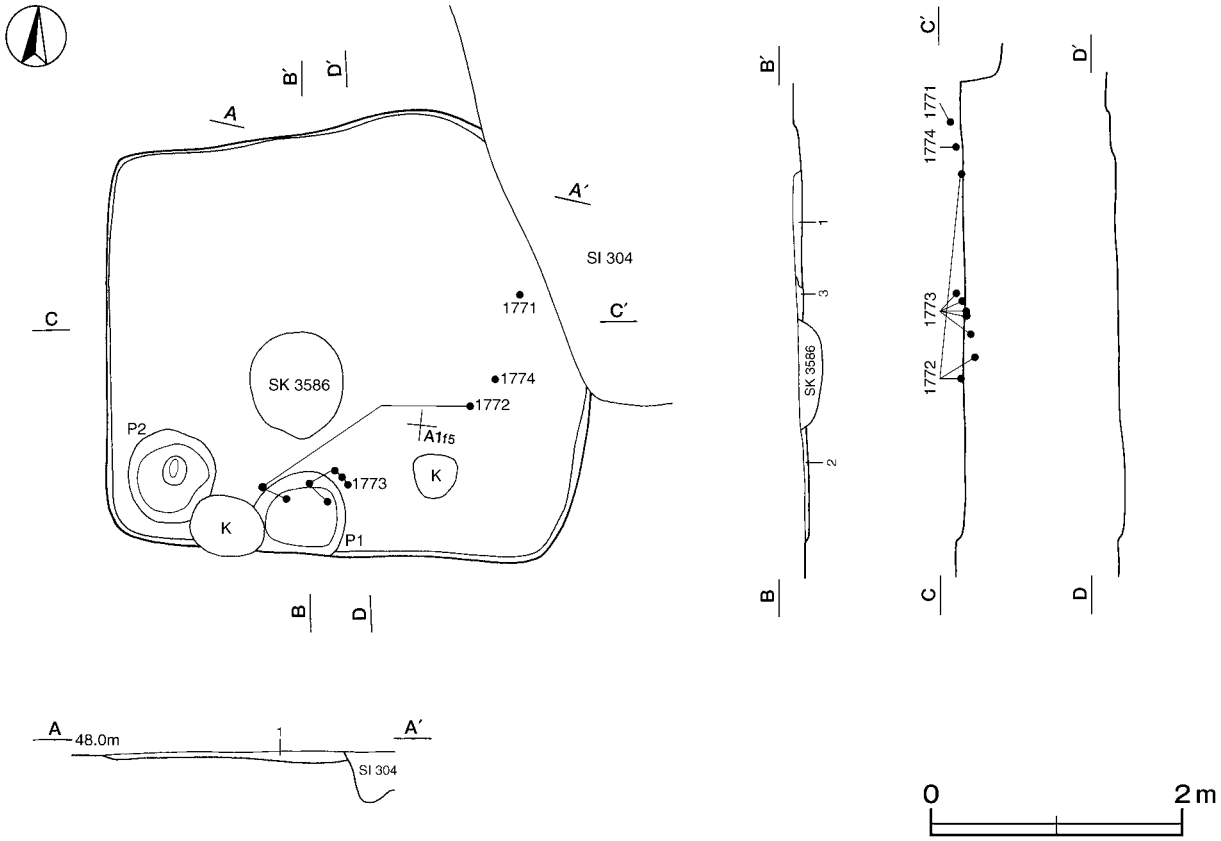
覆土　３層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

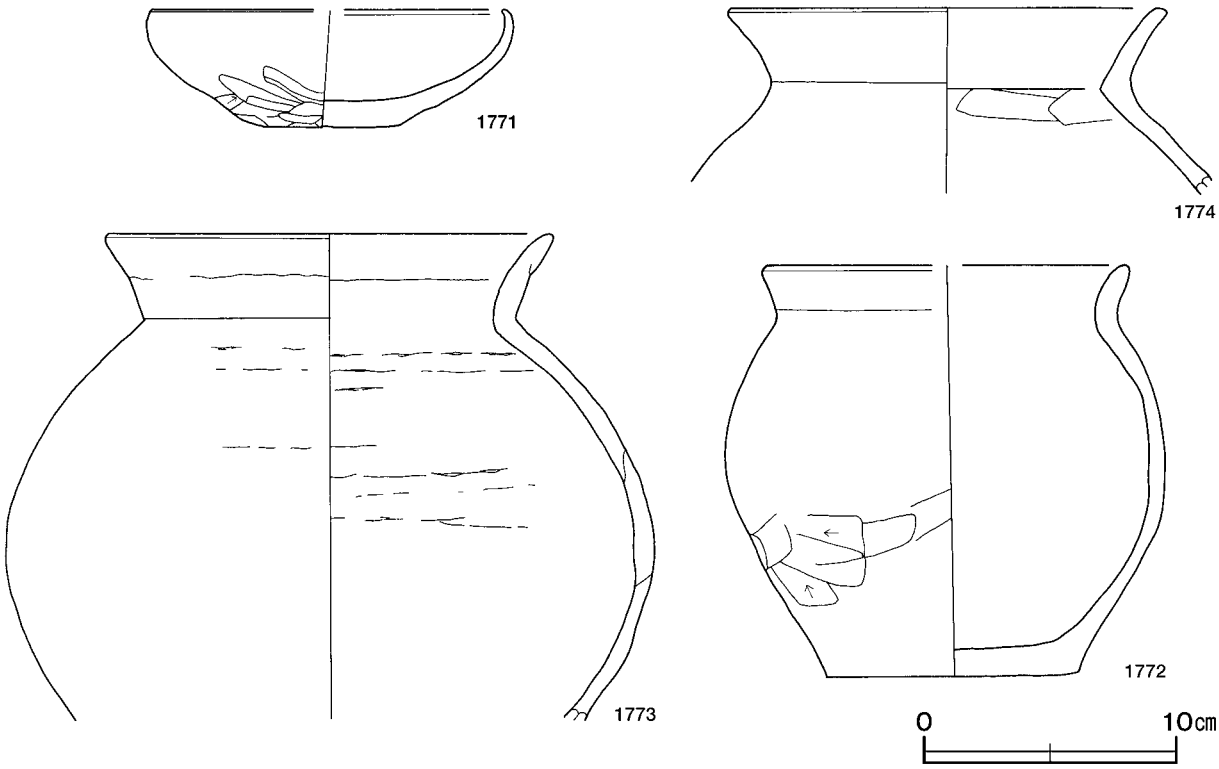
1　褐　　色　ロームブロック少量
2　極　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片162点（坏16，高坏３，鉢１，甕142）が，南壁中央部の出入り口施設付近の覆土下層面から床面にかけて集中している。また，流れ込んだと考えられる弥生土器片15点，須恵器片１点（坏），石製品２点（不明）も出土している。1771は，東壁付近の覆土中層から出土し，1772は南東部と出入り口施設付近の床面から出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。



第14図　第305号住居跡実測図



第15図　第305号住居跡出土遺物実測図

第305号住居跡出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1771	土師器	坏	[13.9]	4.7	5.9	石英・長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　底部ヘラ切り　体部下端ヘラ削り	覆土中層	50%　PL58
1772	土師器	甕	[14.2]	16.4	10.0	石英・長石	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	床面	80%
1773	土師器	甕	17.6	(19.2)	－	石英・長石	浅黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	床面	30%
1774	土師器	甕	17.0	(7.4)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ・体部内面ヘラナデ	覆土下層	20%

第306号住居跡（第16図）

位置　西部３区西部のＡ１e3 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第307号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　北側が調査区域外に延びている。確認できた範囲は，長軸5.48m，短軸2.42mで，平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はN－21°－Wである。壁高は34cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

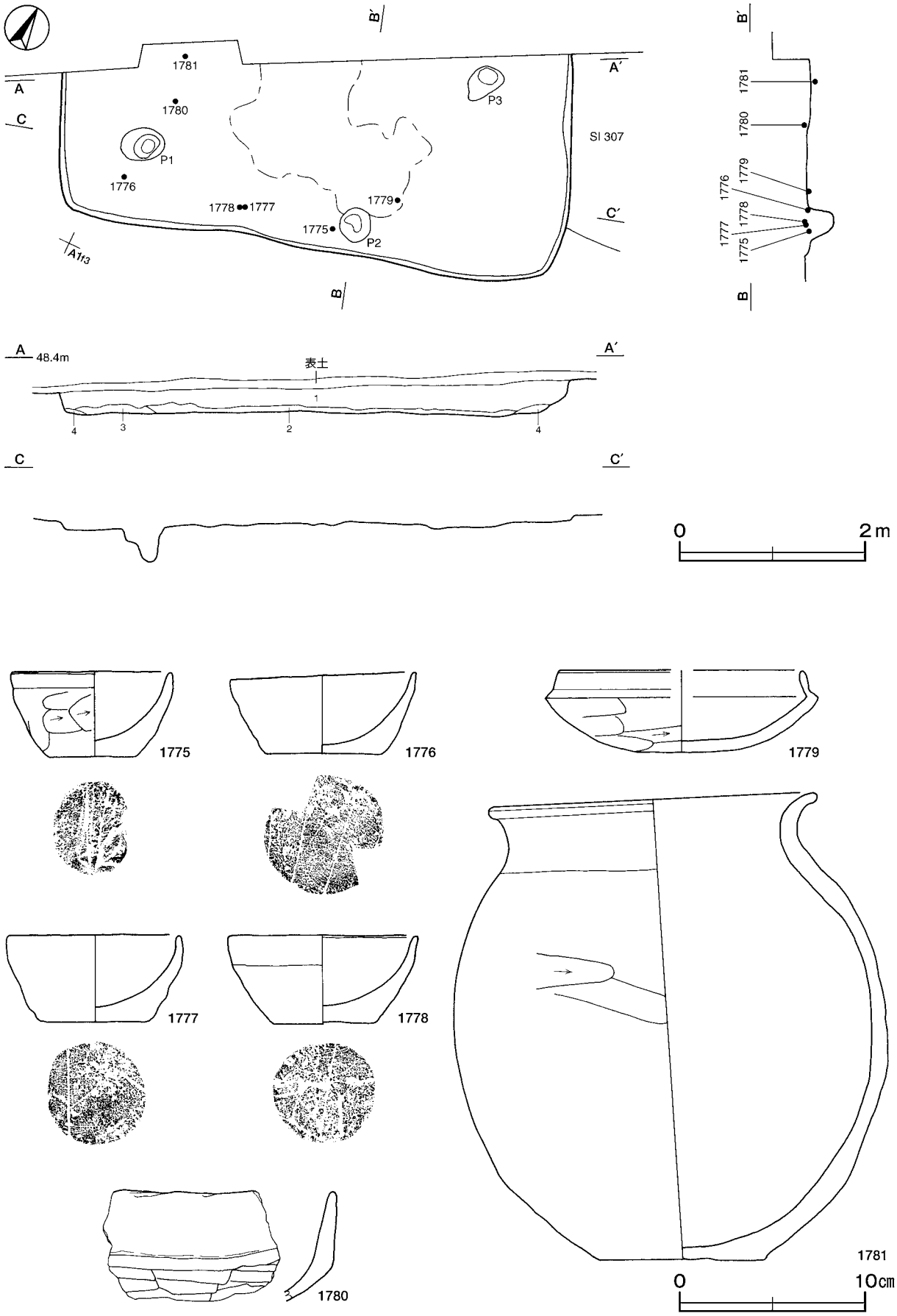
ピット　３か所。P1 は深さ37cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P2 は深さ26cmで，南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P3 は深さ16cmで，性格は不明である。

覆土　４層に分層される。周囲からの土砂の流入した様相を呈しており，自然堆積と考える。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片243点（坏234，甕９）が中央部から西部の覆土下層から床面を中心に集中して出土しており，また，流れ込んだと考えられる弥生土器片22点，須恵器片２点（蓋，甕）も出土している。中央部か



第16図　第306号住居跡・出土遺物実測図

ら西部の床面を中心に出土している。1775・1779はP2付近の床面から出土している。1776はP1の南部，1780・1781はP1の北部の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第306号住居跡出土遺物観察表（第16図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1775	土師器	坏	8.6	4.5	4.6	石英･長石･雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	床面	90%　PL58
1776	土師器	坏	10.0	4.4	6.2	石英･長石･赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　底部木葉痕	床面	90%　PL58
1777	土師器	坏	9.3	4.7	5.4	石英･長石･雲母	灰褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　底部木葉痕	床面	75%　PL58
1778	土師器	坏	10.2	4.8	5.5	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　底部木葉痕	床面	60%　PL58
1779	土師器	坏	[13.0]	4.3	－	石英･長石･雲母	黄灰	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	床面	50%　PL58
1780	土師器	坏	－	(5.9)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　棒状工具による圧痕	床面	10%
1781	土師器	甕	17.7	25.2	8.7	石英･長石･赤色粒子	黒褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	床面	80%　PL69

第308号住居跡（第17・18図）

位置　西部3区西部のA1f1区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　南側が撹乱，北側が調査区域外に延びている。確認できた範囲は長軸3.35m，短軸2.82mで方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はN－88°－Eである。壁高は13cmで，外傾して立ち上がっている。

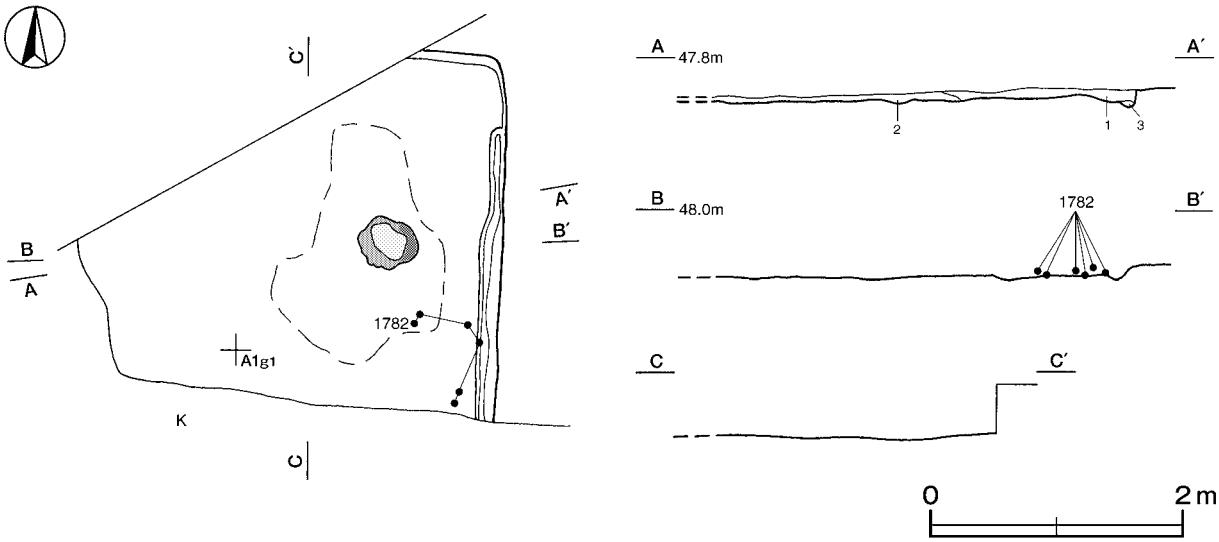
床　ほぼ平坦で，炉の周囲が踏み固められている。壁溝が，東壁下に確認されている。

炉　東壁寄りに位置し，長径45cm，短径42cmの不整楕円形で，床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変している。

覆土　3層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

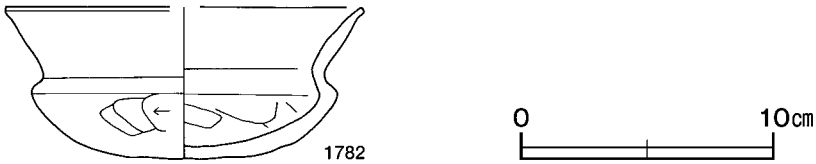
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック多量
3　褐　　色　ロームブロック少量



第17図　第308号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片56点（坏40，甕16）が，東壁際の覆土中層から覆土下層にかけて多く出土している。また，流れ込んだ弥生土器片７点も出土している。1782は炉の南東部の床面から出土した破片が接合したものである。

所見　　時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられる。



第18図　第308号住居跡出土遺物実測図

第308号住居跡出土遺物観察表（第18図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1782	土師器	坏	[14.1]	6.0	－	石英・長石・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ナデ　体部外面ヘラ削り	床面	60%

第309号住居跡（第19・20図）

位置　西部３区西部のＡ１ｆ6 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第311号住居跡を掘り込み，第310号住居，第67号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.71m，短軸4.43mの方形で，主軸方向はＮ－35°－Ｗである。壁高は32～50㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が，南コーナー部を除いてほぼ全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで98㎝で，袖部幅91㎝である。袖部は雲母を多量に含んだ砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま利用しており，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は，壁外に25㎝ほど掘り込まれ，火床面からほぼ直立している。

竈土層解説

1　灰　黄　色　砂質粘土ブロック・雲母多量
2　黒　褐　色　砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック少量
3　暗　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土粒子多量
4　暗　褐　色　雲母多量,焼土ブロック中量,ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
6　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，雲母少量，ロームブロック・砂質粘土粒子微量
7　暗　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土粒子・雲母少量，ロームブロック微量
8　暗　褐　色　ロームブロック・砂質粘土ブロック少量
9　暗 赤 褐 色　砂質粘土粒子中量，雲母少量，炭化粒子微量
10　黒　褐　色　砂質粘土粒子中量，雲母少量，炭化粒子微量
11　黒　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，ロームブロック微量
12　黒　褐　色　焼土ブロック少量，炭化物・雲母微量
13　黒　褐　色　砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量
14　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・雲母・砂質粘土少量
15　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物・雲母・砂質粘土微量
16　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・雲母粒子・砂質粘土微量
17　黒　褐　色　砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子・雲母微量

ピット　５か所。Ｐ1 ～Ｐ4 は深さ49～53㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ5 は深さ34㎝で，南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

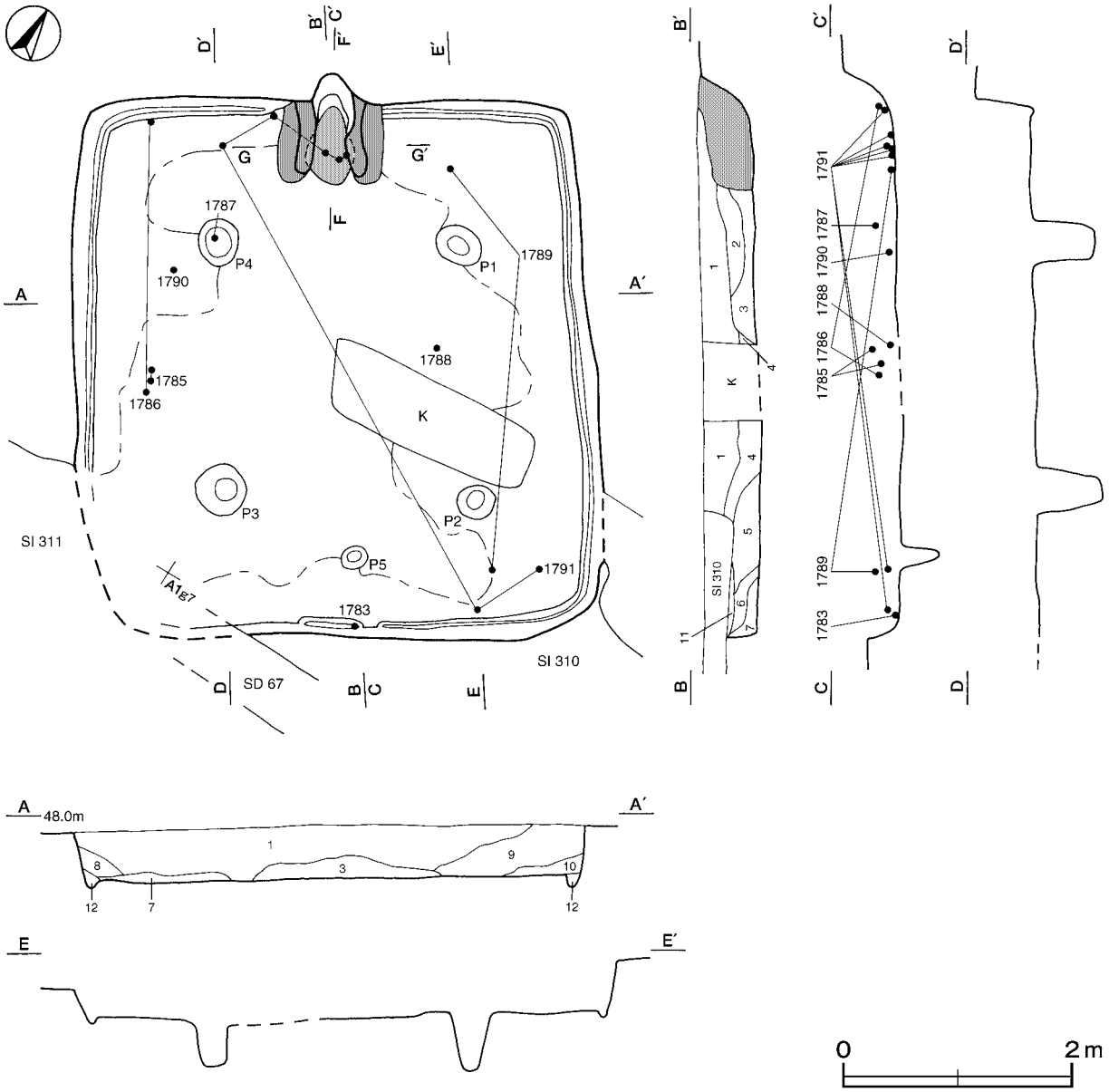
覆土　12層に分層される。ブロック状に不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

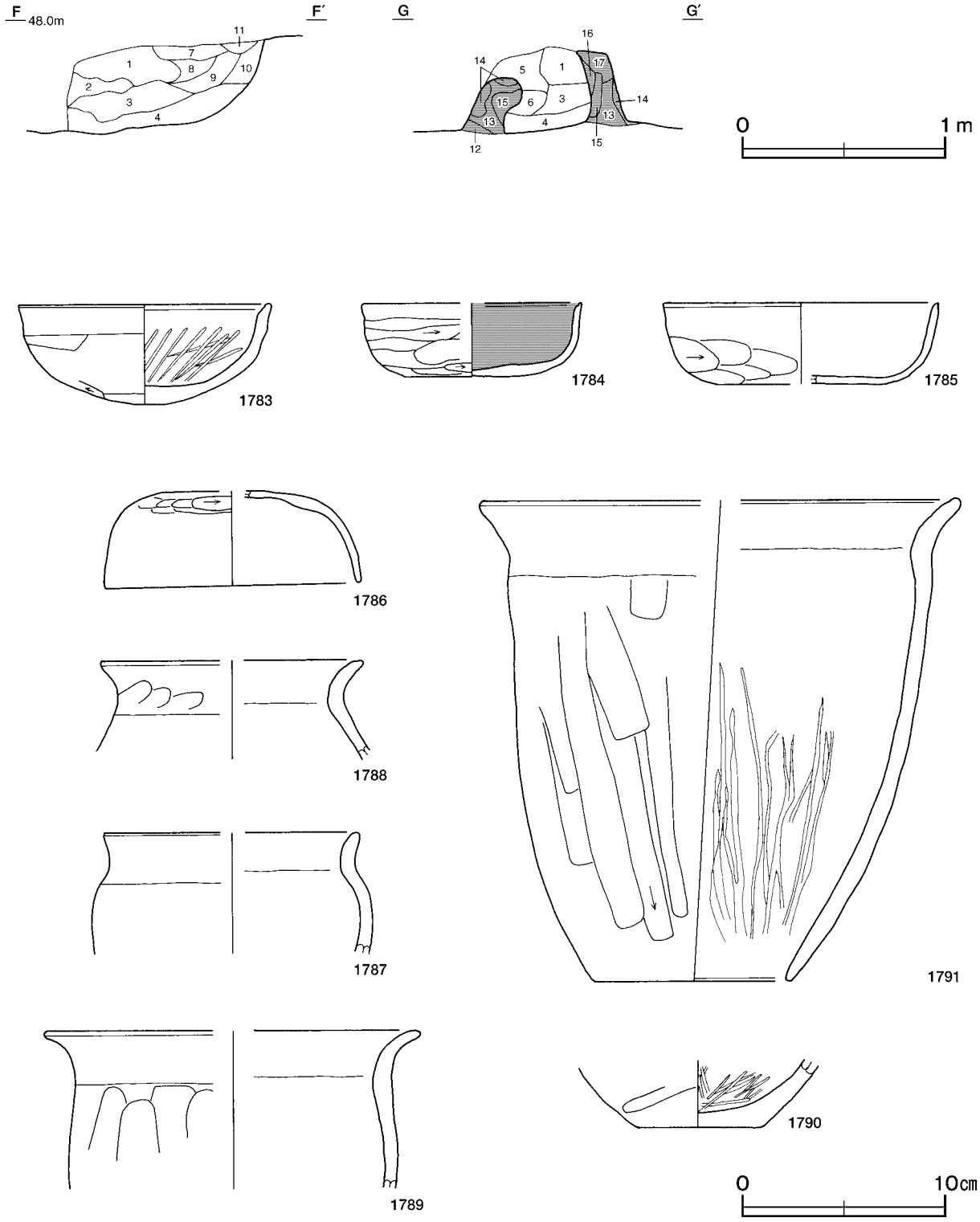
1　黒　褐　色　ローム粒子多量・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック･粘土ブロック中量,焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　灰　褐　色　ロームブロック少量
6　褐　　色　ローム粒子少量
7　褐　　色　ローム粒子中量
8　黒　褐　色　ローム粒子少量
9　暗　褐　色　ローム粒子多量
10　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
11　黒　褐　色　ローム粒子中量
12　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片657点（坏190，高坏11，甕456）が，北西コーナー部の覆土下層から床面に集中して出土している。また，流れ込んだ縄文土器片１点，弥生土器片69点，須恵器片14点(坏８，高台付坏１，蓋５)，瓦質土器片１点，羽口片１点，粘土塊２点，鉄製品１点が出土している。1783は南壁際の床面から出土している。1786は北西コーナー部の覆土中層と床面から出土した破片が接合したものである。1791は竈内，竈西側及び南東コーナー部の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。これらは，破片や破損品であり，覆土中層から下層にかけて出土したことや離れた位置から出土した破片が接合関係にあることから，廃絶後に廃棄されたと考えられる。

所見　時期は，出土土器から７世紀後葉と考えられる。



第19図　第309号住居跡実測図



第20図　第309号住居跡・出土遺物実測図

第309号住居跡出土遺物観察表（第20図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1783	土師器	坏	12.4	4.9	－	長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面ナデ　体部内面ヘラ磨き 外面ヘラ削り	床面	90%　PL58
1784	土師器	坏	[10.7]	3.6	6.5	長石	灰褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　口唇部ナデによる沈線　体部外面ヘラ削り	覆土中	55%　PL58

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1785	土師器	坏	13.6	4.0	－	石英･長石･赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラナデ	覆土中層	50%　PL58
1786	須恵器	蓋	12.3	4.7	－	石英・長石	灰	普通	天井部外面ヘラ削り	覆土中層	60%　PL64
1787	土師器	小形甕	[12.4]	(5.9)	－	石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中層	５%
1788	土師器	小形甕	[12.8]	(4.8)	－	雲母･赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　頸部外面ヘラナデ	覆土下層	５%
1789	土師器	甕	[18.2]	(7.8)	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラナデ	覆土中層	10%
1790	土師器	甕	－	(3.0)	6.0	白色粒子	にぶい黄橙	普通	底部内面棒状工具によるヘラナデ　外面ヘラナデ	覆土下層	10%
1791	土師器	甑	[23.1]	23.8	9.8	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り内面ヘラ磨き	床面	50%　PL69

第311号住居跡（第21～23図）

位置　西部３区西部のＡ１g6 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第309・310・312号住居，第3589・3618・3619・3621・3622号土坑，第67号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.30m，短軸6.05mの長方形で，主軸方向はＮ－16 °－Ｗである。壁高は30～47㎝で，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

炉　２か所。中央からやや北側に２つが南北に接して並んで位置している。炉１は長径64㎝，短径45㎝の楕円形で，床面を５㎝掘りくぼめた地床炉である。炉２は長径78㎝，短径49㎝の楕円形で，床面を６㎝掘りくぼめた地床炉である。炉床が火熱を受けてそれぞれ赤変している。

ピット　５か所。Ｐ1 ～Ｐ4 は深さが40～57㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ5 は深さが10㎝と浅いが，南壁際の中央部からやや東側に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

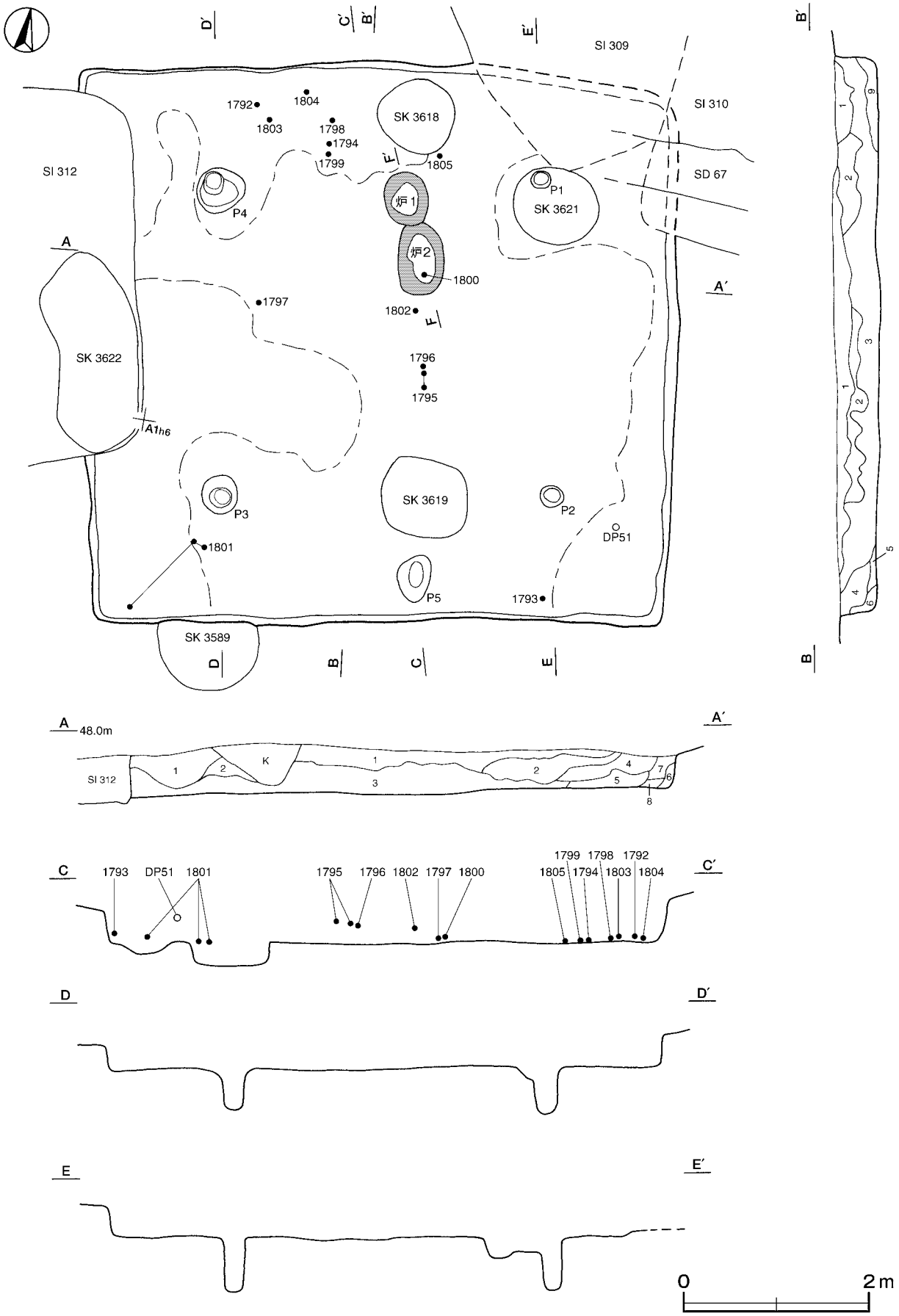
覆土　９層に分層される。ロームブロックを多量に含み，ブロック状の不規則な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

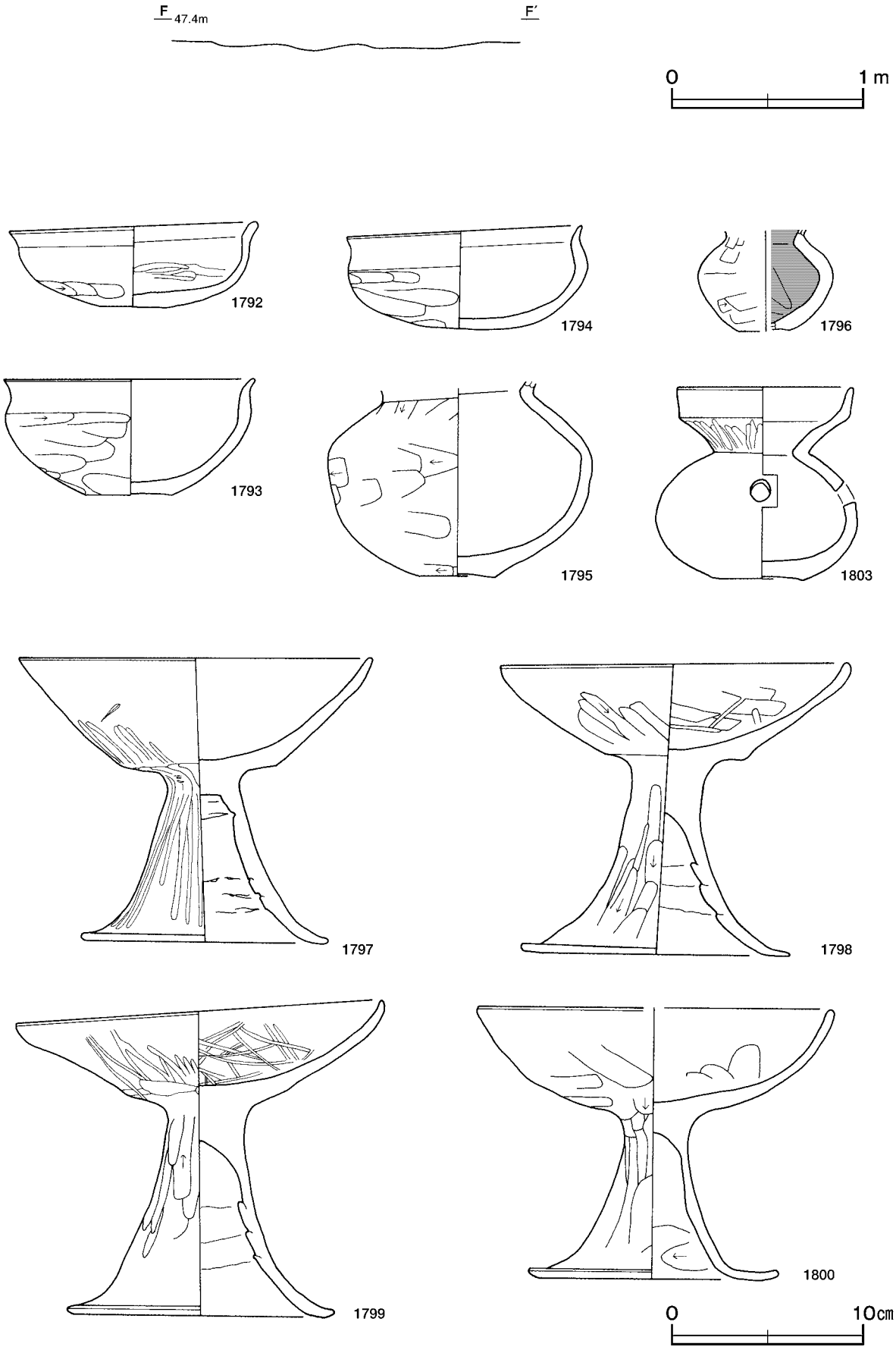
1　極暗褐色　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ローム粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック微量
6　褐　　色　ロームブロック少量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量
9　褐　　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片734点（坏102，坩４，高坏87，瓿１，甕540）が，北壁中央部付近及び南東コーナー部を中心に散在した状態で出土している。また，流れ込みによる縄文土器片１点，弥生土器片91点，須恵器片５点（坏４，蓋１），石器１点（砥石），土製品１点（土玉），粘土塊５点も出土している。1792・1794・1798・1803・1804は北壁中央部の床面から出土しており，このうち1792は斜位，1794・1803は横位，1798は正位で出土している。1792・1794は床面から出土しており，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。1793は南東コーナー部の覆土下層，DP51は南東コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。1795は中央部の覆土中層，1801は南西コーナー部の床面から出土した破片がそれぞれ接合したものである。Q208は南部の覆土中から出土したものである。

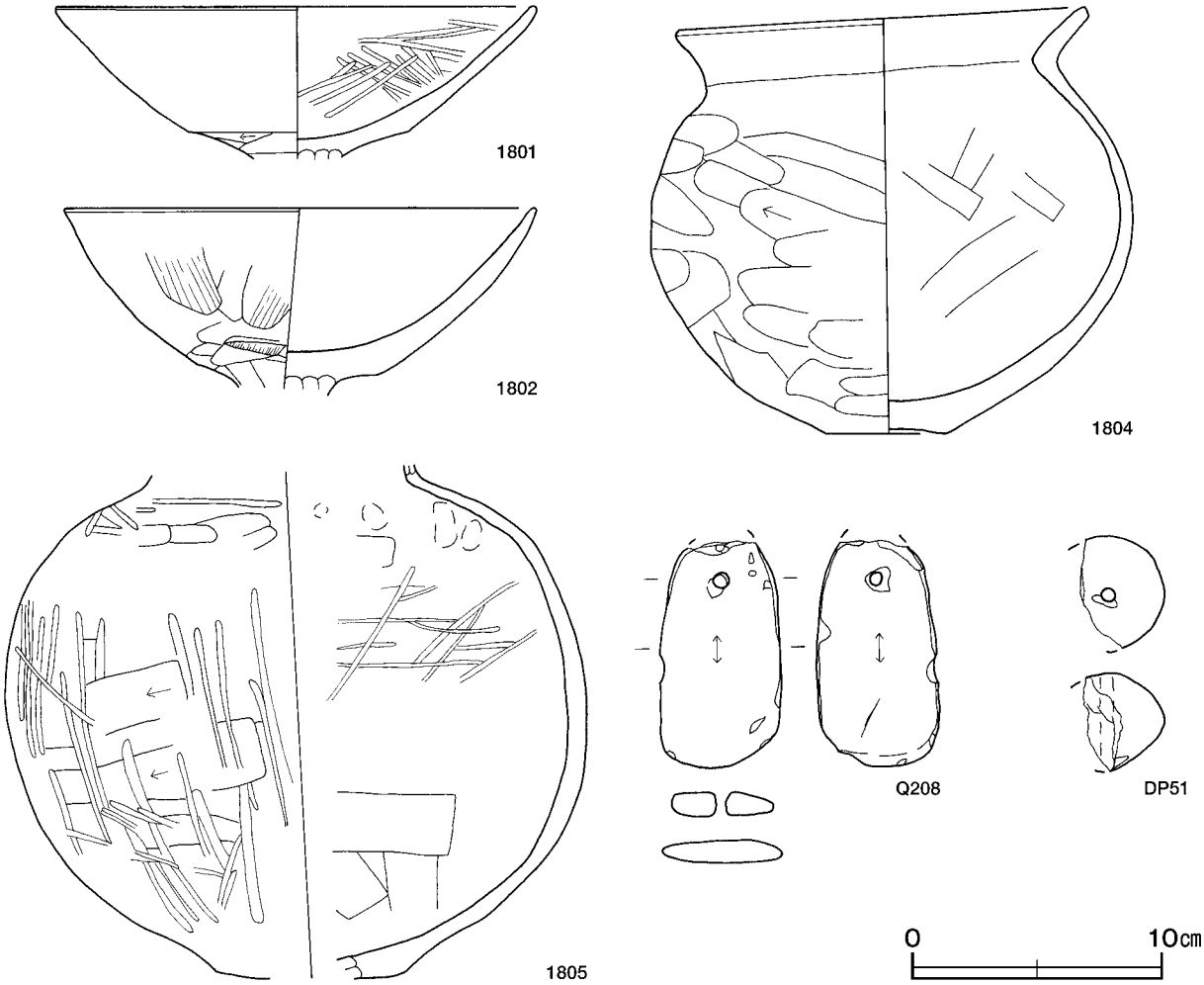
所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。２か所の炉の上面にはどちらも硬化面がなく，用途を使い分け，両方の炉が同時に使用されていた可能性がある。



第21図　第311号住居跡実測図



第22図　第311号住居跡・出土遺物実測図



第23図　第311号住居跡出土遺物実測図

第311号住居跡出土遺物観察表（第22・23図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1792	土師器	坏	12.9	4.5	－	石英・長石・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り　体部内面横方向のヘラ磨き　内面摩滅	覆土下層	100%　PL58
1793	土師器	坏	12.8	6.1	4.5	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	95%　PL58
1794	土師器	坏	12.6	5.6	4.3	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面横ナデ　体部外面ヘラナデ	床面	95%　PL58
1795	土師器	坩	－	(10.2)	3.8	石英・長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ　底部ヘラ削り	覆土下層	85%　PL66
1796	土師器	坩	－	(5.3)	[2.4]	石英・白色粒子	褐灰	普通	体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	30%
1797	土師器	高坏	18.2	15.0	12.9	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	坏部口縁・裾部内・外面横ナデ　坏部・脚部外面ヘラ磨き　脚部内面輪積み痕	床面	80%　PL65
1798	土師器	高坏	18.2	15.4	14.0	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	坏部口縁・裾部内・外面横ナデ　坏部・脚部外面ヘラ削り　内面輪積み痕	床面	80%　PL65
1799	土師器	高坏	19.0	16.6	13.8	石英	明赤褐	普通	坏部口縁内・外面横ナデ　坏部内・外面ヘラ磨き　脚部外面ヘラ削り　内面輪積み痕	床面	75%　PL65
1800	土師器	高坏	[18.6]	14.2	13.0	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	坏部内・外面横ナデ　坏部・脚部外面ヘラナデ　内面ヘラ削り	床面	70%
1801	土師器	高坏	19.3	(6.0)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	坏部内面ヘラ磨き　外面下端ヘラ削り	床面	50%
1802	土師器	高坏	18.9	(7.2)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	坏部内・外面ナデ　坏部外面ハケ目調整後ヘラ磨き	覆土下層	45%
1803	土師器	甕	9.1	10.1	4.2	長石・雲母	灰褐	普通	頸部外面ヘラ磨き	覆土下層	85%　PL66

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1804	土師器	甕	16.4	17.0	4.8	石英・長石・雲母	褐灰	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面削り　内面ヘラナデ　底部ヘラ削り	覆土下層	90%　PL67
1805	土師器	甕	－	(20.4)	[7.6]	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部内面指頭痕残存　外面ヘラ削り後ヘラ磨き　体部内面ヘラ磨き　ヘラナデ	床面	60%　PL67

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q208	砥石	(8.98)	(4.85)	(0.86)	(69.1)	雲母片岩	砥面２面　孔径0.47㎝	覆土中	PL87

番号	器種	径	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP51	土玉	4.48×(3.28)	(3.80)	(33.8)	石英・長石	そろばん形　ナデ成形　片面穿孔　孔径0.53～0.54㎝	覆土中層	

第312号住居跡（第24・25図）

位置　西部３区西部のＡ１g5 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第311号住居跡を掘り込み，第3611・3622号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.40m，短軸4.08mの方形で，主軸方向はＮ－17°－Ｗである。壁高は40㎝で，直立している。

床　平坦で，全体が踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで128㎝，袖部幅は124㎝である。袖部は床面と同じ高さの地山の上に，粘土を含む黒色土で構築されている。火床部は４㎝ほど掘りくぼめられ，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外へ46㎝掘り込まれており，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　灰黄褐色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
2　灰黄褐色　ロームブロック・砂質粘土ブロック少量
3　灰黄褐色　焼土ブロック微量
4　灰黄褐色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量
5　暗褐色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
6　にぶい黄褐色　粘土ブロック中量・焼土ブロック少量
7　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・ローム粒子少量
8　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
9　褐色　粘土ブロック少量
10　褐色　砂質粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土ブロック少量
11　オリーブ褐色　砂質粘土ブロック・砂質粘土多量
12　にぶい黄褐色　焼土粒子・砂質粘土ブロック中量
13　灰黄褐色　砂粒中量，焼土ブロック・粘土粒子少量
14　極暗褐色　焼土粒子・砂質粘土粒子少量
15　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック中量，焼土粒子少量
16　暗褐色　砂質粘土ブロック少量
17　暗褐色　焼土ブロック・白色粒子少量
18　暗褐色　ロームブロック少量，砂質粘土ブロック微量
19　暗褐色　ロームブロック・白色粒子少量
20　極暗褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量

ピット　５か所。P1 ～P4 は深さ40～65㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5 は深さが40㎝で，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

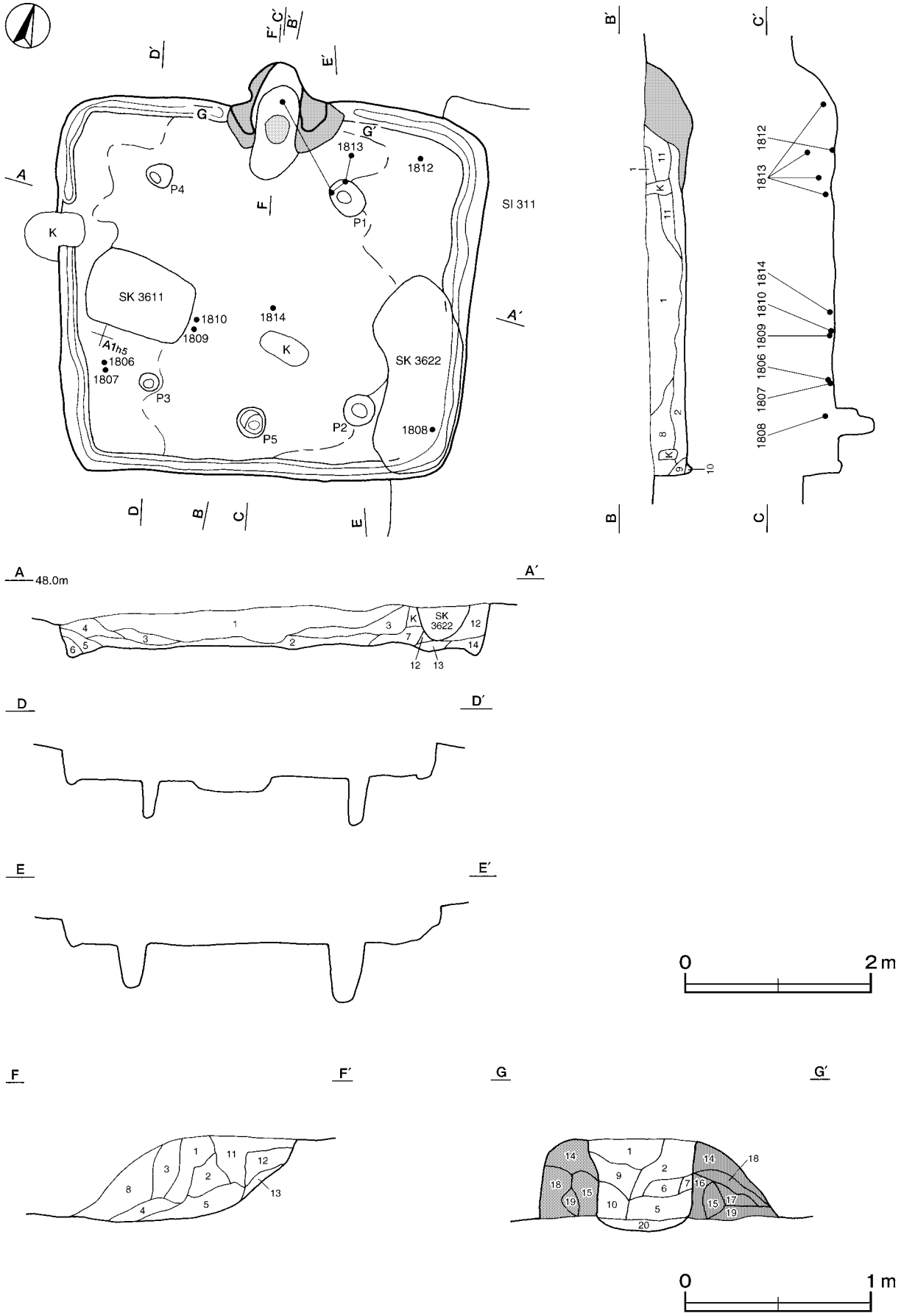
覆土　14層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

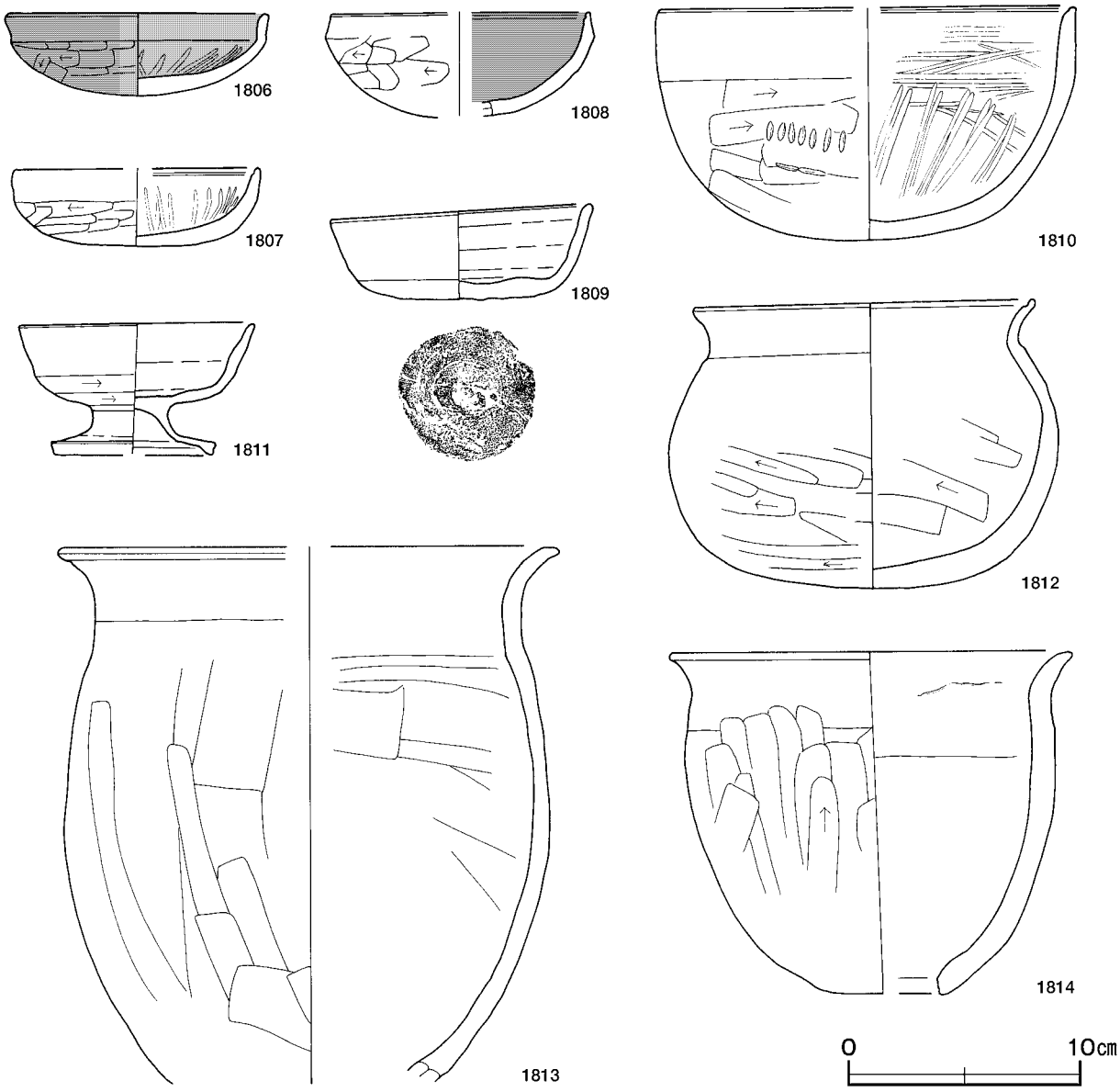
1　暗褐色　ローム粒子多量
2　褐色　ロームブロック中量
3　暗褐色　ローム粒子少量
4　暗褐色　ロームブロック多量
5　褐色　ロームブロック少量
6　暗褐色　ロームブロック少量
7　暗褐色　ロームブロック中量
8　暗褐色　ロームブロック微量
9　極暗褐色　ロームブロック少量
10　暗褐色　ローム粒子中量
11　褐色　砂粒中量，ロームブロック少量
12　極暗褐色　ロームブロック微量
13　褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
14　褐色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片385点（坏124，高台付坏６，甕253，甑２）が，竈及び北部の覆土下層を中心に出土している。また，流れ込んだ弥生土器片３点（坏２，甕１），須恵器片３点（坏２，甕１），石製品２点，鉄滓１点も出土している。1806・1807は南西コーナー部の床面，1809・1810は中央部の床面，1808は南東コーナー部の覆土下層，1814は中央部の床面からそれぞれ出土している。1813は竈内と P1 付近の床面から出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から７世紀末から８世紀初頭と考えられる。



第24図　第312号住居跡実測図



第25図　第312号住居跡出土遺物実測図

第312号住居跡出土遺物観察表（第25図）

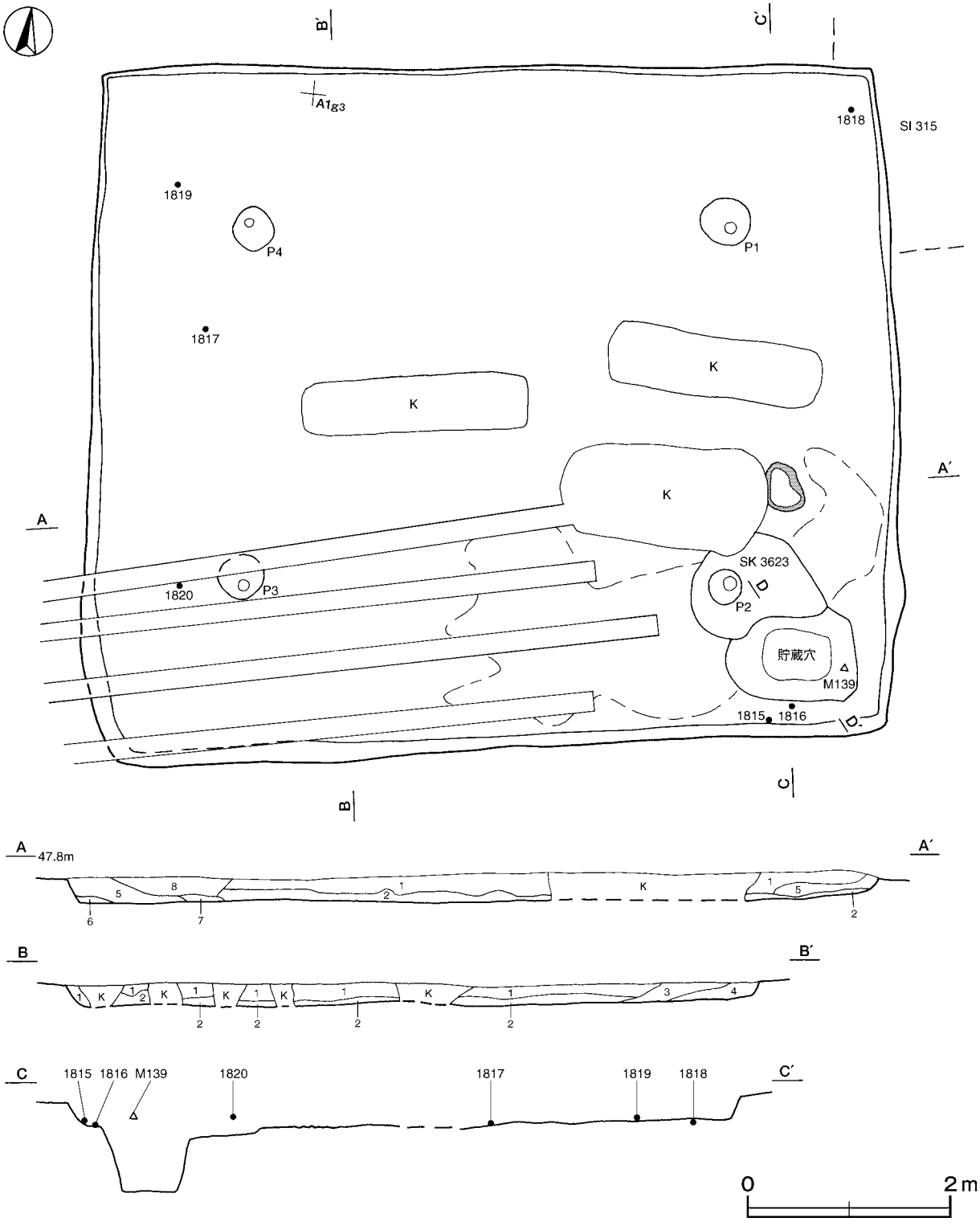
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1806	土師器	坏	11.0	3.6	－	石英･白色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 体部内面ヘラ磨き	床面	95%　PL59
1807	土師器	坏	[10.5]	3.5	－	石英･長石･白色粒子･赤色粒子	にぶい褐	普通	口唇部ナデによる沈線　体部外面ヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き　底部多方向の削り	床面	95%　PL59
1808	土師器	坏	[11.1]	(4.5)	－	石英・長石	にぶい黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	80%　PL59
1809	須恵器	坏	11.1	4.2	6.0	石英	にぶい黒褐	普通	ロクロ成形・ナデ　底部回転ヘラ切り 内面微量の煤付着	床面	95%　PL59
1810	土師器	椀	[18.0]	10.0	－	石英･赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　口唇部ナデの沈線 体部内面ヘラ磨き　外面ヘラ削り	床面	60%　PL64
1811	須恵器	高坏	10.1	5.7	[6.7]	石英･赤色粒子･黒色粒子	にぶい黄褐	普通	ロクロ成形・ナデ　坏部外面回転ヘラ削り	覆土中	80%　PL65
1812	土師器	甕	14.5	12.3	3.0	石英･長石･雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラ削り	覆土下層	95%　PL68
1813	土師器	甕	[21.0]	(23.2)	－	石英・長石	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	竈内	50%
1814	土師器	甑	17.0	14.8	5.2	石英･長石･白色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラ削り	床面	95%　PL70

第313号住居跡（第26～28図）

位置　西部３区西部のＡ１g3 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第315号住居跡を掘り込み，第3623号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸8.00m，短軸6.70mの長方形で，主軸方向はＮ－81°－Ｅである。壁高は18～26㎝で，外傾して立ち上がっている。



第26図　第313号住居跡実測図(1)

第27図　第313号住居跡実測図(2)

床　全体的に平坦で，軟弱である。南東コーナー部が踏み固められている。

炉　東壁近くに位置している。長径50㎝，短径36㎝の楕円形で，床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変している。

ピット　４か所。深さ69～85㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴　南東コーナーに位置し，長径1.34m，短径0.88mの楕円形で，深さが60㎝である。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化物微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化物中量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物少量
4　暗　褐　色　炭化物中量，ロームブロック少量

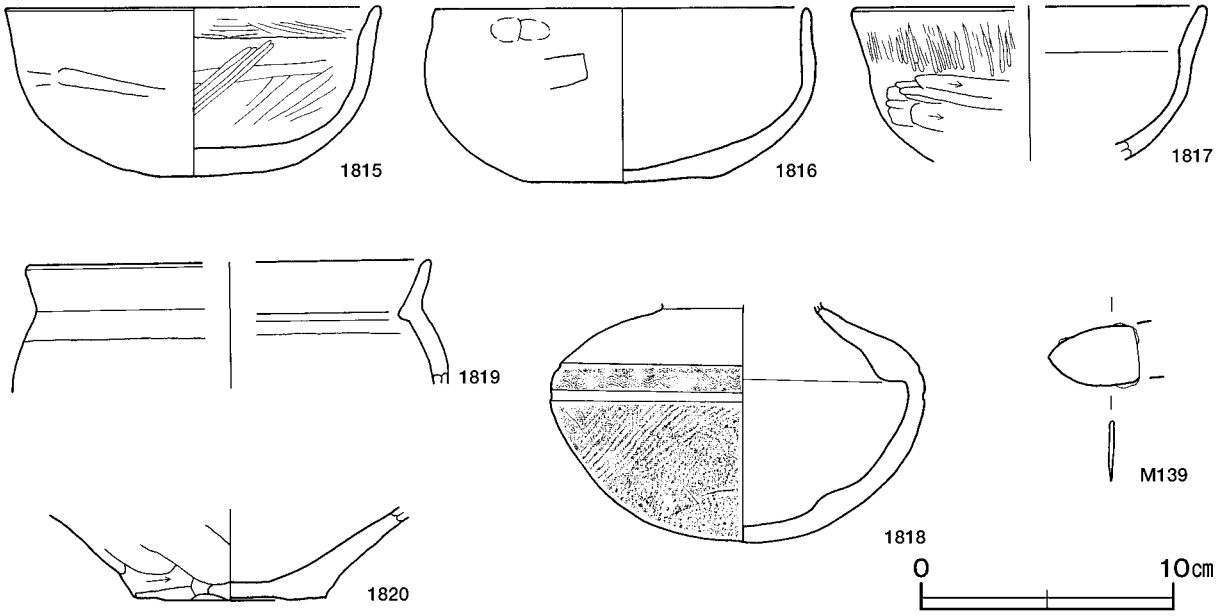
覆土　８層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化物少量
6　褐　　色　ロームブロック中量
7　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片820点（坏205，高坏12，甕603），須恵器片１点（短頸壺）が，東・西壁付近の覆土下層を中心に出土している。また，流れ込んだと考えられる須恵器片７点（坏２，甕５），陶器片３点（不明），鉄製品４点（不明）も出土している。1815は南東コーナー部の覆土下層，1816は床面からそれぞれ出土している。1817は中央部から西壁寄り，1818は北東コーナー部の床面から逆位でそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。



第28図　第313号住居跡出土遺物実測図

第313号住居跡出土遺物観察表（第28図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1815	土師器	坏	14.6	6.6	－	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラナデ　体部内面ヘラ磨き	覆土下層	98%　PL59
1816	土師器	坏	14.5	6.8	7.0	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラナデ　指頭押圧痕残存	床面	50%　PL59
1817	土師器	坏	[13.8]	(6.0)	－	石英	明赤褐	普通	口縁部内面横ナデ　外面磨き　体部外面ヘラ削り	床面	15%
1818	須恵器	短頸壺	－	(9.4)	－	白色粒子	黄灰	良好	体部外面に２条の沈線　沈線間に波状紋 下部に叩き痕　上部に自然釉　内面に自然釉	床面	70%　PL66
1819	土師器	甕	[15.8]	(4.9)	－	石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面摩滅	覆土下層	５%
1820	土師器	甕	－	(3.6)	7.6	石英・長石	黒褐	普通	体部下端ヘラ削り	覆土中層	50%

	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M139	不明	(3.6)	2.4	0.4	(4.52)	鉄	鋭利な先端を有する	覆土中層	PL90

第317号住居跡（第29～31図）

位置　西部３区東部のＺ２h3 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　北西部及び南東コーナー部が調査区外に延びているため，確認された範囲は長軸6.70m，短軸6.30mである。平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はＮ－34°－Ｗである。壁高は37㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　凹凸があり，中央部が踏み固められ，壁際はやや軟質である。壁溝が，北東コーナー部に確認された。

炉　２カ所。北西壁寄りに位置している。炉１は長径82㎝，短径46㎝の楕円形で，床面を５㎝掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変している。炉２は長径50㎝，短径48㎝の楕円形で，床面を８㎝掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変している。

炉１・２土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
2　極 暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量

ピット　３か所。Ｐ1 ～Ｐ3 は深さ63～72㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。

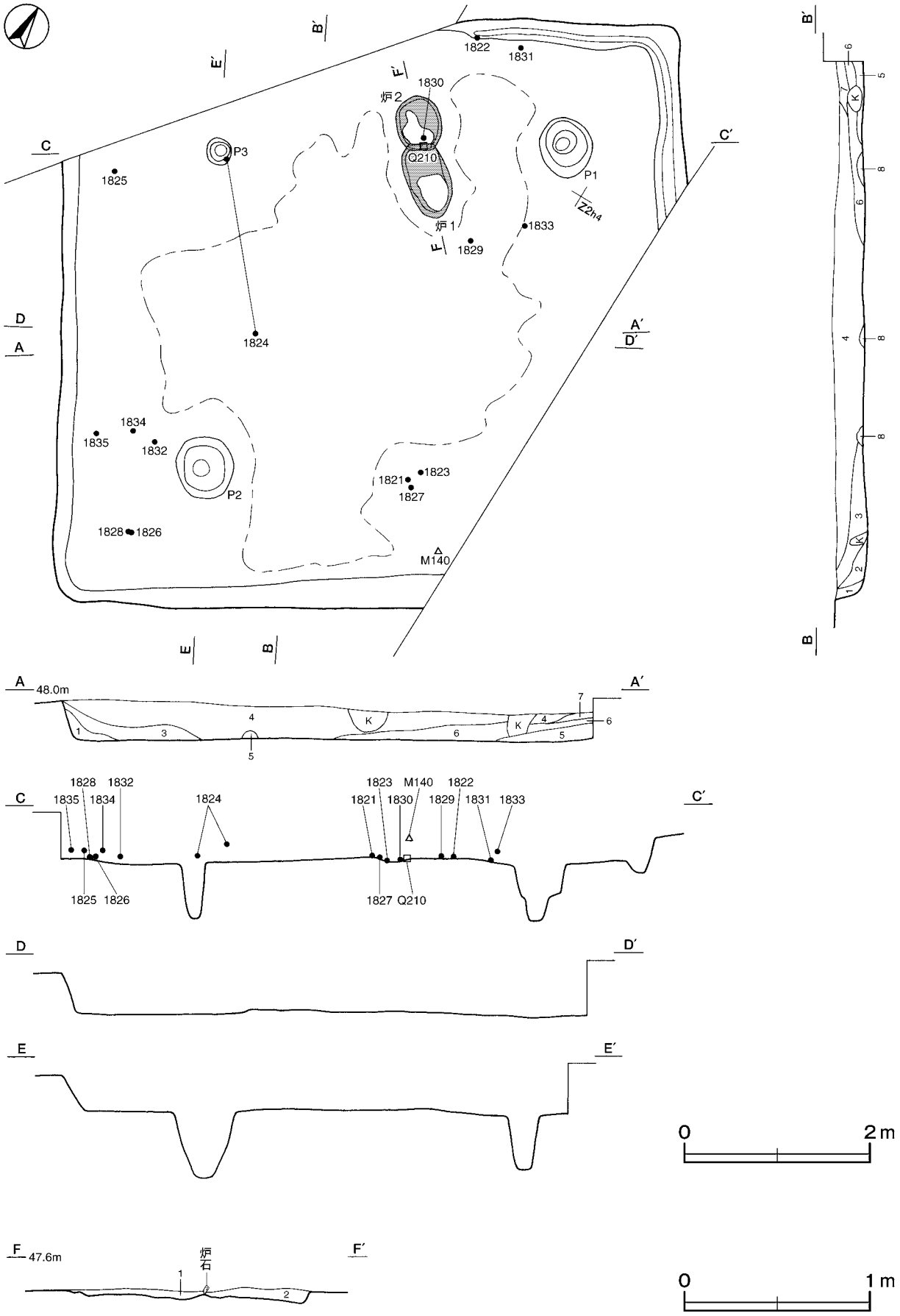
覆土　８層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

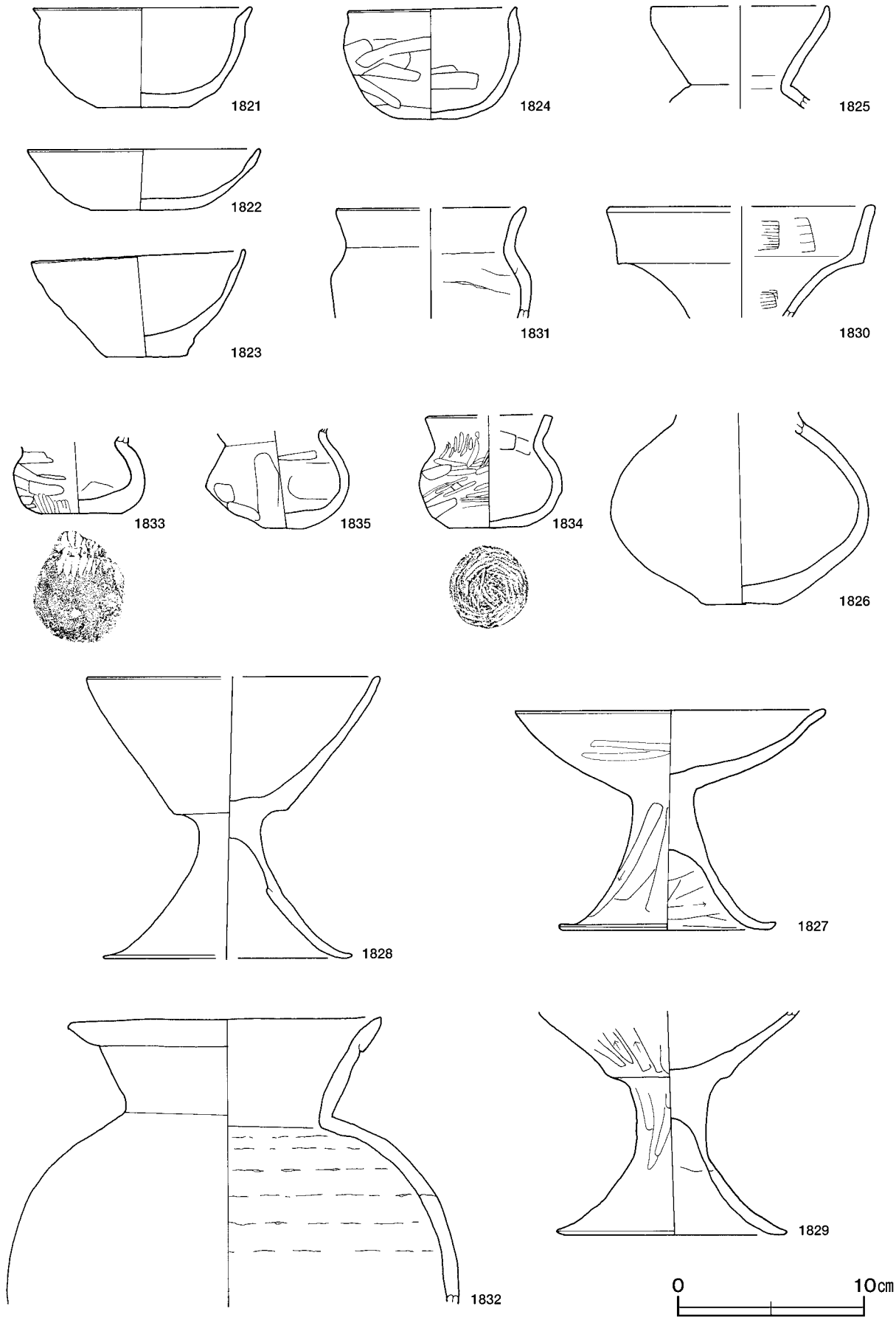
1　黒　　色　ローム粒子少量
2　黒　　色　ロームブロック微量
3　黒　　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
4　黒　　色　ロームブロック・白色粒子微量
5　黒　　色　焼土ブロック・ローム粒子微量
6　黒　　色　ローム粒子微量
7　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子微量
8　黒　　色　粘土ブロック少量，ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片618点（坏149，坩１，高坏117，壺１，甕350），ミニチュア土器３点，石器１点（炉石）が，全域から散在した状況で出土している。また，流れ込んだ土師器片１点（高台付皿），弥生土器片43点，石器１点（砥石），鉄製品１点（鎌）も出土している。1821・1823・1827は南部，1826・1828は南コーナー部の床面からそれぞれ出土している。1824は北西部の床面と中央部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。1822は北部の壁溝から出土している。

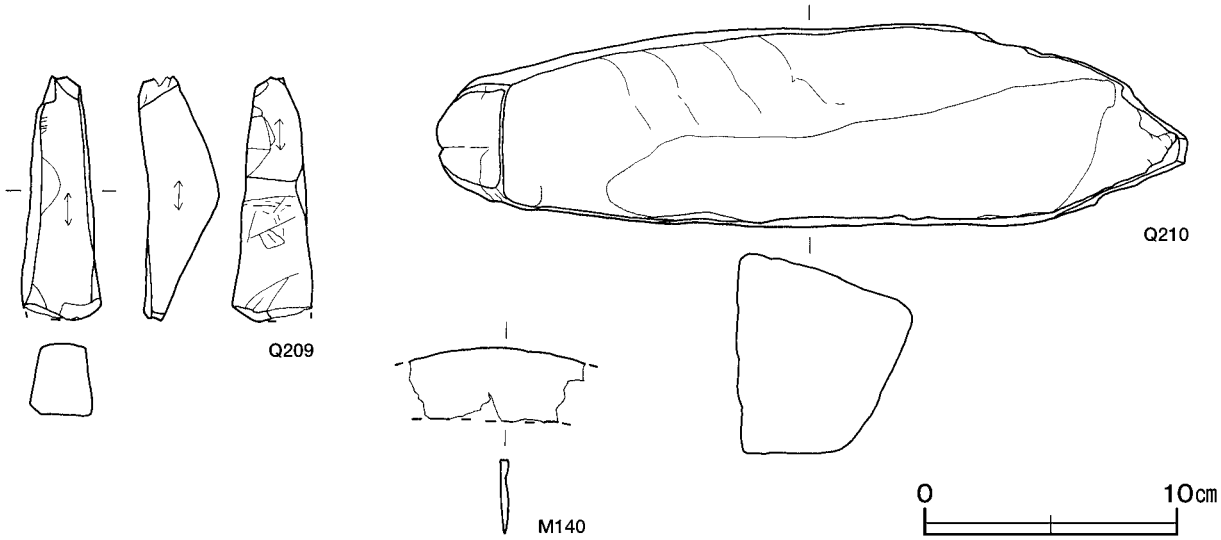
所見　時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられる。炉１・炉２は使われ方や掘りくぼめられ方から使用された時期は異なると考えられる。いずれの炉も踏み固められた様子がないことから，時期によって使い分けをしていた可能性がある。



第29図　第317号住居跡実測図



第30図　第317号住居跡出土遺物実測図(1)



第31図　第317号住居跡出土遺物実測図(2)

第317号住居跡出土遺物観察表（第30・31図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1821	土師器	坏	11.6	5.4	4.8	石英・長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面摩滅	床面	85%　PL59
1822	土師器	坏	12.4	3.2	5.2	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	内・外面摩滅のため調整不明	壁溝	85%　PL59
1823	土師器	坏	11.3	5.7	4.4	石英・長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	内・外面剥離のため調整不明　底部ヘラ削り	床面	75%
1824	土師器	椀	9.0	6.0	2.9	雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラナデ	床面	90%　PL64
1825	土師器	坩	[9.3]	(5.5)	－	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	10%
1826	土師器	坩	－	(10.3)	4.0	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	内・外面剥離のため調整不明	床面	30%
1827	土師器	高坏	18.6	11.8	11.8	石英・長石・雲母・赤色粒子	明褐	普通	坏部口縁内・外面横ナデ　坏部外面磨き　脚部外面ヘラ削り	床面	70%　PL65
1828	土師器	高坏	[15.4]	15.0	[13.3]	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	坏部，脚部内・外面剥離のため調整不明　裾部横ナデ	床面	40%
1829	土師器	高坏	－	(12.0)	13.4	石英・長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	坏部外面ヘラ削り　脚部外面磨き	床面	40%
1830	土師器	壺	[14.2]	(5.9)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部・頸部内面刷毛目調整　外面横ナデ　頸部外面ナデ	覆土下層	10%
1831	土師器	小形甕	[9.8]	(5.9)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面摩滅のため調整不明	床面	5％
1832	土師器	甕	16.4	(15.3)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄褐	普通	内・外面摩滅のため調整不明　体部内面輪積み痕	覆土下層	40%
1833	ミニュチュア土器	－	－	(4.1)	4.6	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き　体部内面ヘラ削り後ナデ	覆土下層	85%　PL64
1834	ミニュチュア土器	－	[6.8]	6.0	4.4	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ・ヘラ磨き　体部内面ヘラナデ	覆土下層	50%　PL66
1835	ミニュチュア土器	－	－	(5.4)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	45%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q209	砥石	(9.6)	3.2	2.7	(94.9)	凝灰岩	砥面３面	覆土中	PL87
Q210	炉石	29.9	8.0	8.7	2,460	ホルンフェルス	棒状の自然石	炉床面	

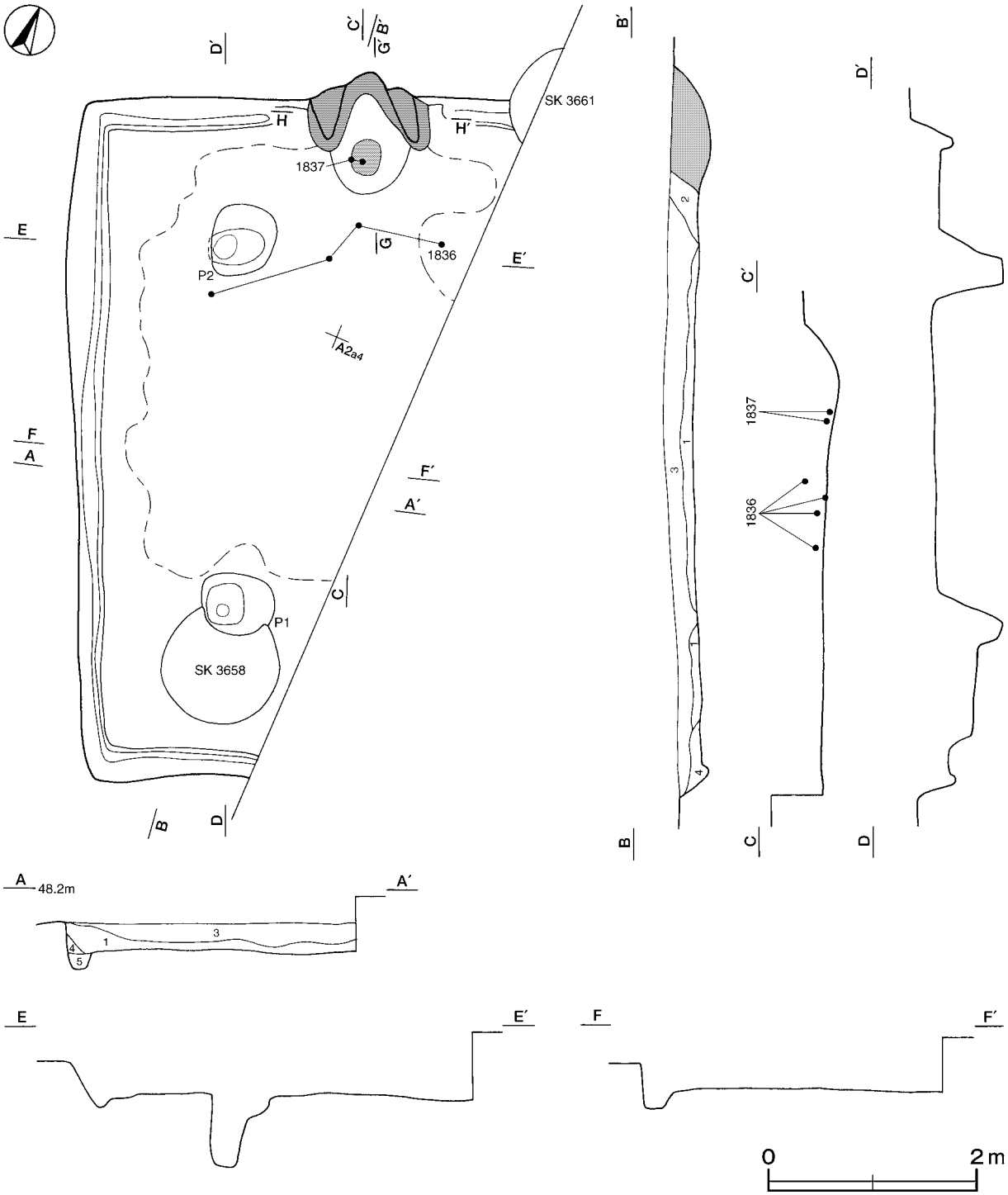
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M140	鎌	(6.9)	(3.0)	0.4	(10.5)	鉄	先端部・基部欠損	覆土上層	PL90

第318号住居跡（第32～34図）

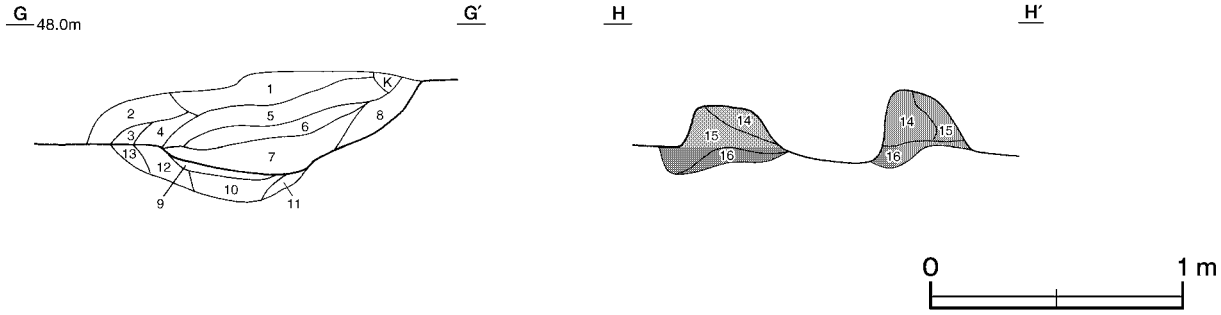
位置　西部３区東部のＡ２a3 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置する。

重複関係　第3658・3661号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南東部が調査区域外に延びているため，確認された範囲は長軸6.50m，短軸4.26mである。平面形は，方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はＮ－23°－Ｗである。壁高は23～34㎝で，外傾して立ち上がっている。



第32図　第318号住居跡実測図(1)



第33図　第318号住居跡実測図(2)

床　平坦で，竈前から主柱穴を取り囲む範囲にかけて踏み固められている。壁溝が，確認された範囲で周回している。

竈　北壁のほぼ中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで116㎝，袖部幅は120㎝である。袖部は，床面を10㎝ほど掘り込み，砂質粘土を積み重ねて構築されている。火床部は深さ23㎝ほど皿状に掘りくぼめられ，ロームブロックを多く含む褐色土を充填して構築されている。火床面は火熱を受け赤変硬化している。煙道部が壁外へ半円状に23㎝掘り込まれ，緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子微量	
2	黒　褐　色	粘土ブロック少量,焼土ブロック･ローム粒子微量	
3	黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒子微量	
4	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・細礫微量	
5	にぶい黄褐色	粘土ブロック中量，焼土ブロック微量	
6	暗 赤 褐 色	焼土ブロック少量，ローム粒子微量	
7	暗 赤 褐 色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量	
8	暗 赤 褐 色	焼土ブロック少量，砂質粘土少量，細礫微量	
9	赤　褐　色	焼土ブロック多量	
10	暗 赤 褐 色	ロームブロック中量，焼土粒子微量	
11	褐　　色	ロームブロック中量，焼土粒子微量	
12	暗　褐　色	ロームブロック中量，炭化物微量	
13	暗　褐　色	ロームブロック中量	
14	にぶい黄褐色	砂質粘土中量，ローム粒子・焼土粒子少量	
15	暗　褐　色	砂質粘土・ロームブロック中量，焼土粒子微量	
16	褐　　色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	

ピット　２か所。P1 ・ P2 は深さ62～64㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。

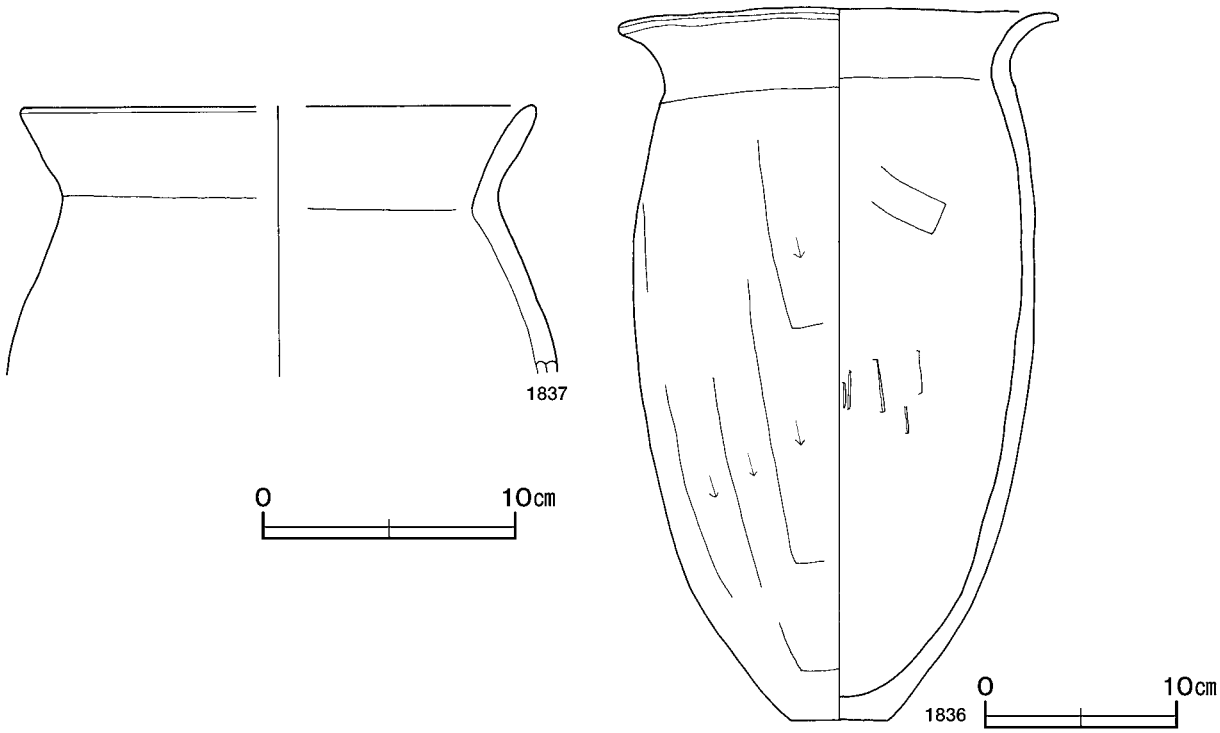
覆土　５層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子少量	
2	黒　　色	ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量	
3	黒　　色	ローム粒子・焼土粒子微量	
4	黒　褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子微量	
5	褐　　色	ローム粒子中量	

遺物出土状況　土師器片290点（坏31，高坏９，甕250）が，竈の火床部及び竈前面から中央部の覆土下層にかけて多く出土している。また，流れ込んだ弥生土器片11点，須恵器片５点(坏２，高台付坏１，蓋１，甕１)，陶器片３点（不明），磁器片１点（碗）も出土している。1836は竈前面の床面から出土した破片が接合したものである。1837は竈の火床部から出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀後葉と考えられる。



第34図　第318号住居跡出土遺物実測図

第318号住居跡出土遺物観察表（第34図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1836	土師器	甕	22.9	37.1	5.0	石英・長石・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り内面ヘラナデ	床面	40%　PL69
1837	土師器	甕	[20.2]	(10.7)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面剥離のため調整不明	竈内	5％

第319号住居跡（第35・36図）

位置　西部３区東部のＡ２c3 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第68号溝に掘り込まれている。

規模と形状　東側，南壁が調査区域外へ延びている。確認された範囲は，長軸5.40m，短軸4.76mである。平面形は，方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はＮ－36°－Ｅである。壁高は20～32㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が，確認された範囲で周回している。

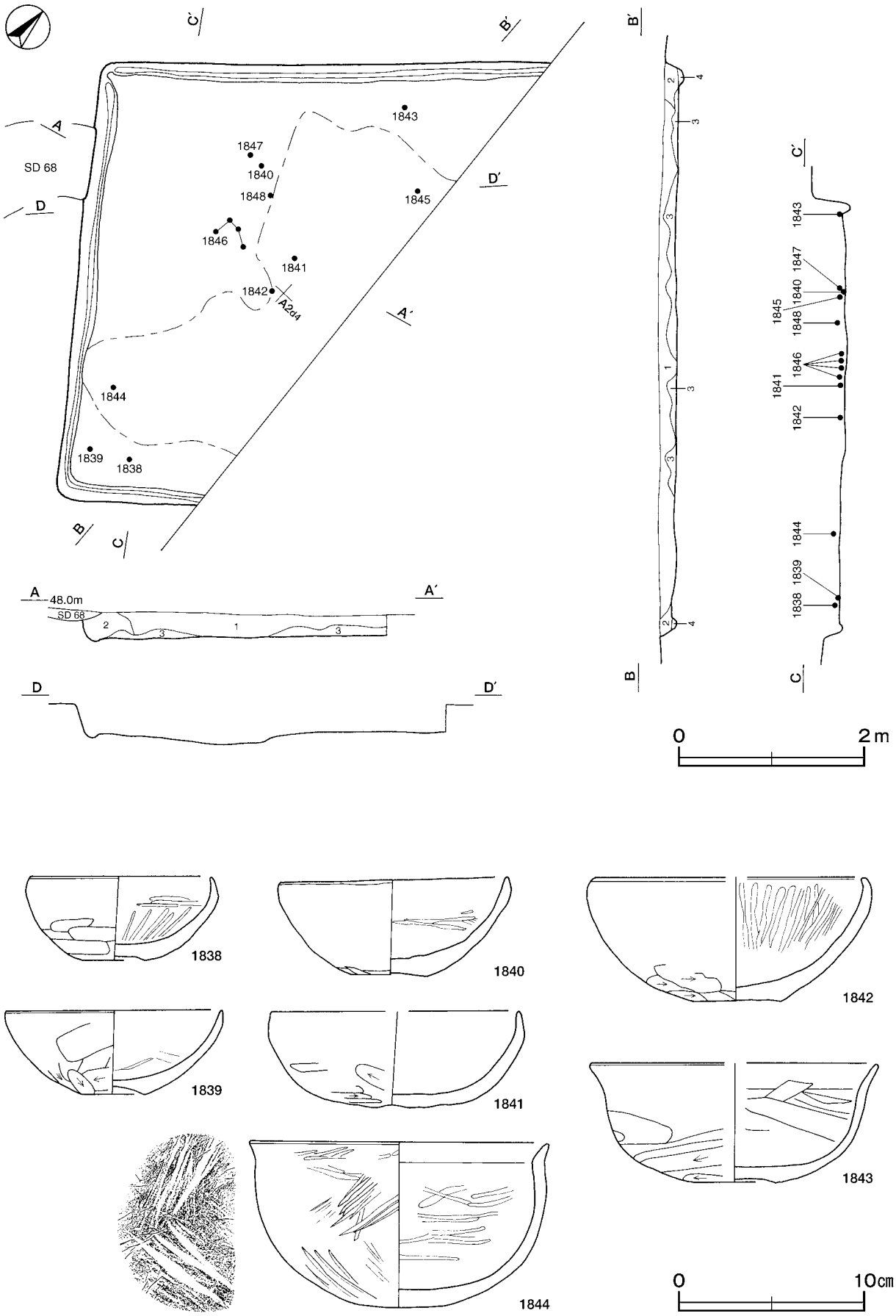
覆土　４層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

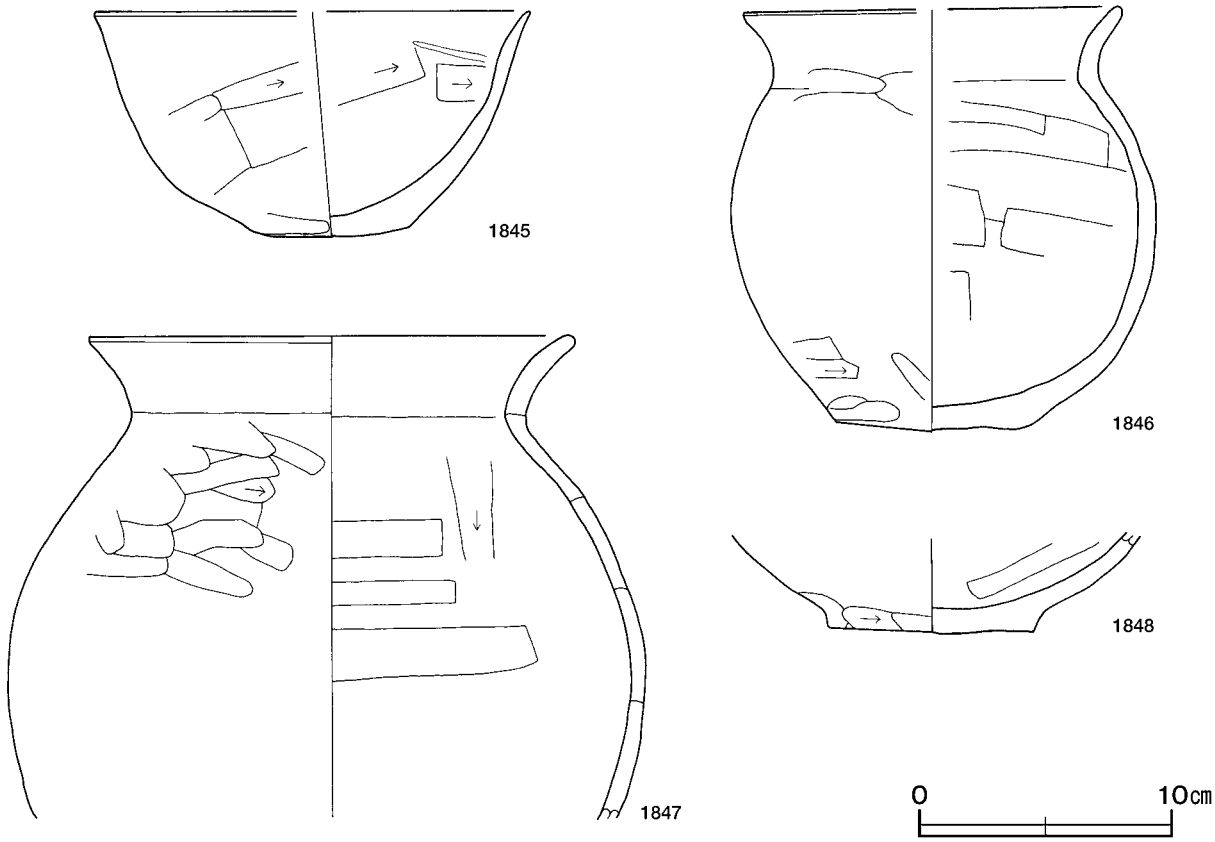
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片279点（坏53，椀２，鉢１，高坏６，甕217）が，北西部を中心として散在した状況で出土している。また，流れ込みによる弥生土器片７点，陶器片２点（碗），磁器片１点（碗）も出土している。1838・1844は南コーナー部の覆土下層，1839は南コーナー部の床面，1841・1842・1845・1848は中央部の床面から覆土下層にかけてそれぞれ出土している。1843は北壁中央部の壁溝近くの床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。



第35図　第319号住居跡・出土遺物実測図



第36図　第319号住居跡出土遺物実測図

第319号住居跡出土遺物観察表（第35・36図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1838	土師器	坏	9.7	4.5	3.5	長石・雲母	橙	普通	口縁部外面ナデ　体部内面ヘラ磨き　体部外面ヘラナデ	覆土下層	95%　PL59
1839	土師器	坏	11.5	4.5	3.4	石英・長石	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　底部ヘラ削り	床面	90%　PL59
1840	土師器	坏	12.1	5.4	3.9	石英･長石･雲母･赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内面横ナデ　体部内面ヘラ磨き　体部外面ヘラ削り	床面	95%　PL59
1841	土師器	坏	[13.3]	6.1	－	石英･長石･雲母	赤	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	45%
1842	土師器	坏	[14.7]	6.7	4.8	長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部外面横ナデ　底部ヘラ削り	覆土下層	70%　PL60
1843	土師器	坏	[15.4]	6.4	4.6	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラ削り　体部内面ヘラナデ	床面	40%　PL59
1844	土師器	椀	15.9	8.9	－	石英・長石・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面横ナデ後ヘラ磨き　体部外面砥石転用刃物痕　体部内面ヘラ磨き	覆土下層	65%　PL64
1845	土師器	椀	[17.2]	8.9	6.3	石英･長石･雲母･赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ヘラ削り	床面	40%　PL64
1846	土師器	甕	[14.9]	16.9	7.6	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ヘラナデ　体部外面ヘラ削り　底部ヘラ削り後ナデ	覆土下層	30%
1847	土師器	甕	19.1	(19.0)	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　体部内面ヘラナデ	覆土下層	30%
1848	土師器	甕	－	(4.0)	8.2	石英･長石･雲母･赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラナデ　底部外面下端ヘラ削り	覆土下層	5％

第323号住居跡（第37～40図）

位置　西部３区東部のＡ２ｉ2 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第322号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸6.44m，短軸6.32mの方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｗである。壁高は25～43cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，全体が踏み固められており，貼床が確認されている。壁溝がほぼ全周しており，貯蔵穴１を囲むように幅80～100cm，高さ20cmほどのＬ字型の高まりが２か所確認された。貼床は，壁に沿って幅10～90cmの溝状に掘りくぼめたところへ暗褐色土を８～18cmほど充填して構築されている。

炉　４か所。ともに中央部に位置し，床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。炉１は長径100cm，短径96cmの不整楕円形である。炉２は長径56cm，短径30cmの楕円形である。炉３は長径80cm，短径56cmの楕円形である。炉４は長径66cm，短径60cmの楕円形である。また，いずれの炉床も火熱を受けて赤変している。炉４の上面には硬化面が確認され，炉４が廃絶された後，炉１～炉３が利用されたと考えられる。

ピット　５か所。Ｐ1 ～Ｐ4 は深さ50～70cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ5 は深さ14cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　２か所。貯蔵穴１は南東コーナー部に位置している。一辺76cmの隅丸方形で，深さが50cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴２は北西コーナー部に位置している。長径90cm，短径74cmの長方形で，深さが56cmである。底面は平坦で，壁はほぼ直立している。

貯蔵穴１土層解説

1	黒褐色	ローム粒子中量，焼土粒子微量	
2	褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	
3	暗褐色	ロームブロック中量	
4	褐色	ロームブロック中量	

貯蔵穴２土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
2	暗褐色	ロームブロック中量	
3	褐色	ロームブロック少量	

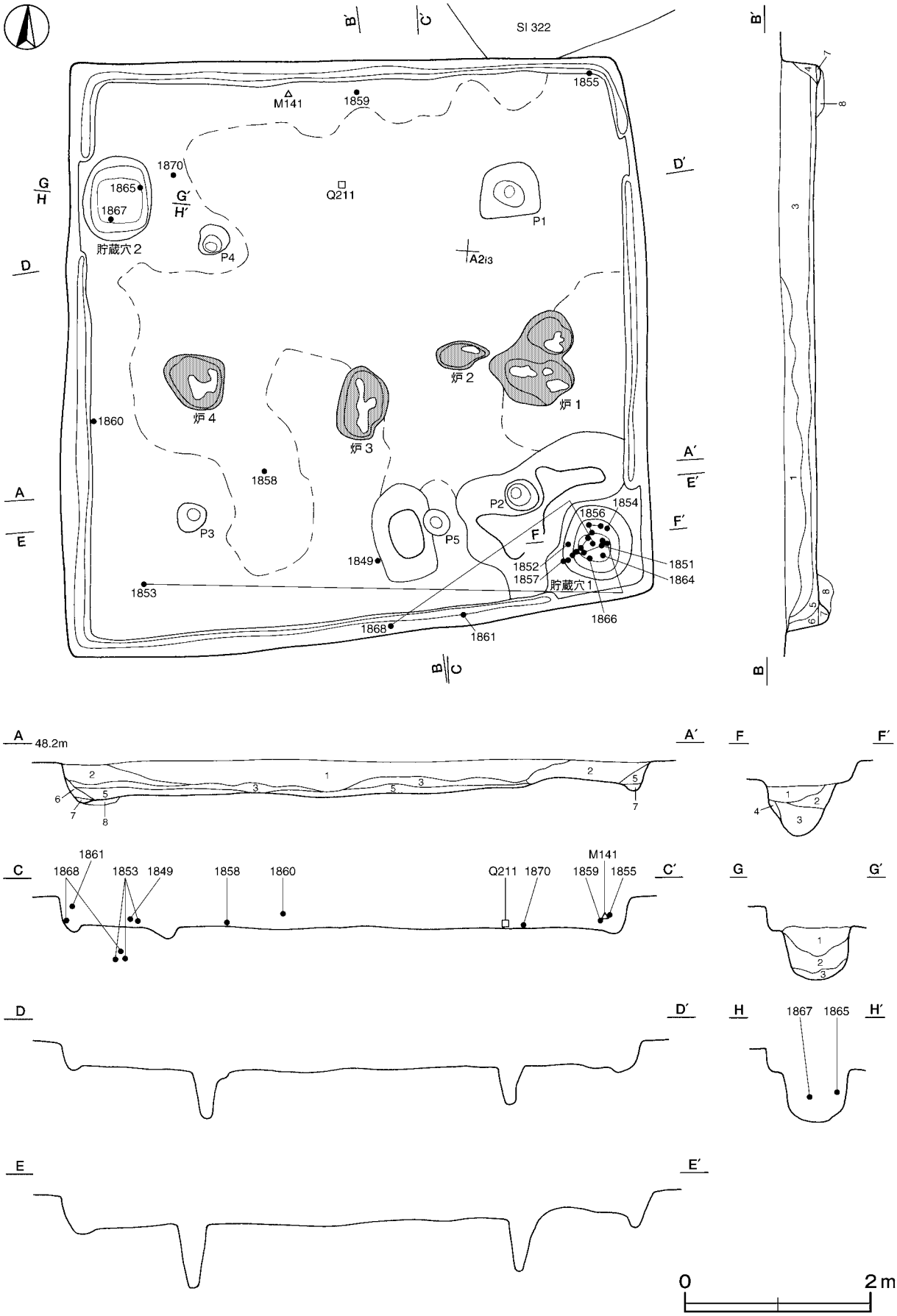
覆土　８層に分層される。周囲からの土砂の流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。土層断面の第８層は，貼床構築土である。

土層解説

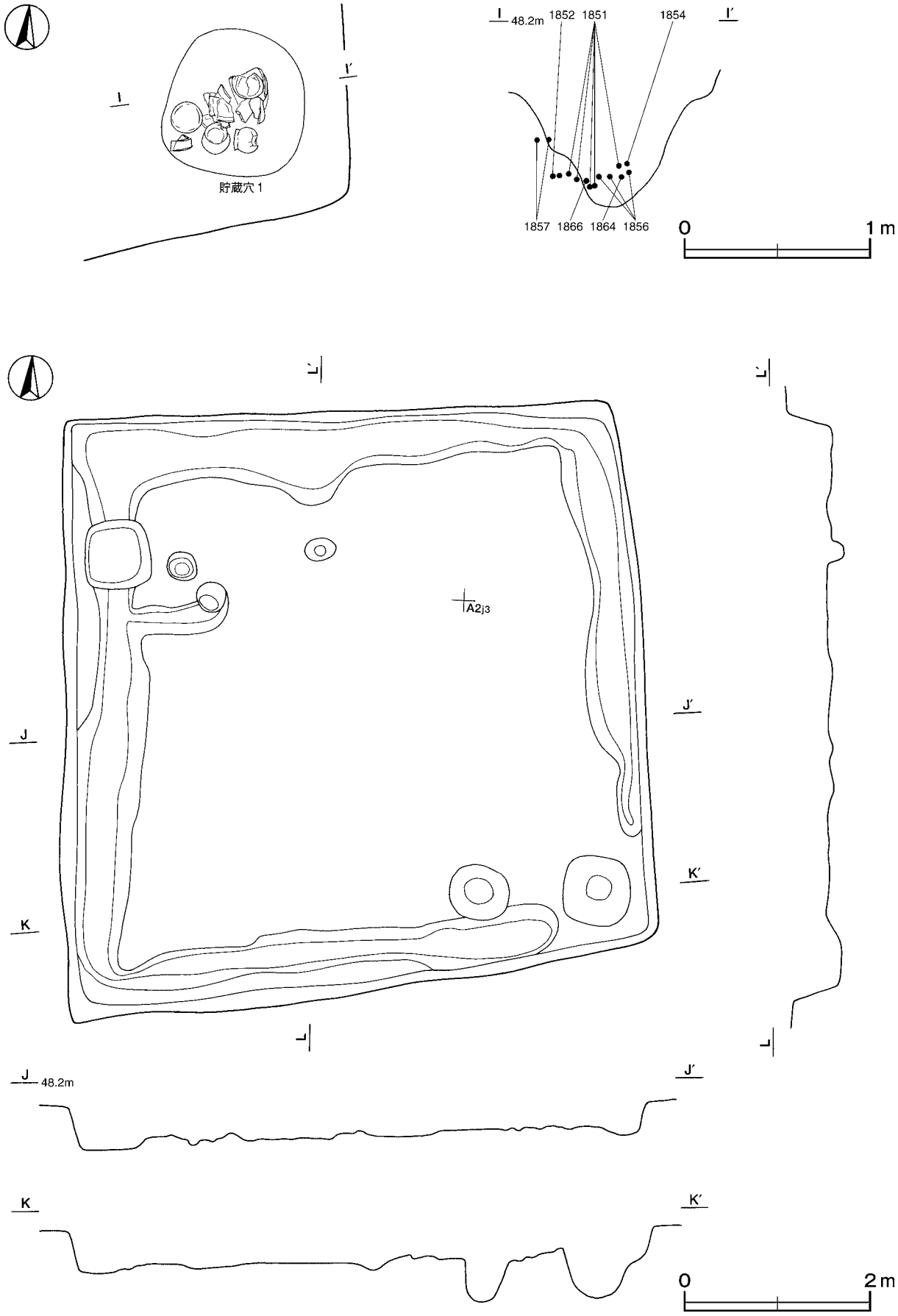
1	黒褐色	ローム粒子少量	
2	黒褐色	ロームブロック微量	
3	極暗褐色	ロームブロック少量	
4	極暗褐色	ローム粒子少量	
5	暗褐色	ローム粒子中量	
6	暗褐色	ロームブロック中量	
7	暗褐色	ロームブロック少量	
8	暗褐色	ロームブロック・黒色粒子中量	

遺物出土状況　土師器片2879点（坏620，坩19，高坏182，甕2058），須恵器片３点（蓋１，広口壺２），石製品１点（剣形模造品）が，貯蔵穴付近を中心として出土している。また，流れ込んだ縄文土器片２点，弥生土器片207点，土師器片１点（椀），土製品１点（紡錘車），鉄製品１点（鉄鏃），瓦１点も出土している。1849は南壁中央部の覆土下層，1851～1854・1864・1866は貯蔵穴１の覆土中からそれぞれ出土している。1851は貯蔵穴内から出土した破片が接合したものである。また，1853は貯蔵穴内の破片と南西コーナー部の床面から出土した破片が接合したものである。1865・1867は貯蔵穴２の覆土中層から下層にかけて出土している。1855は北東コーナー部，1858は中央部，1859は北壁中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

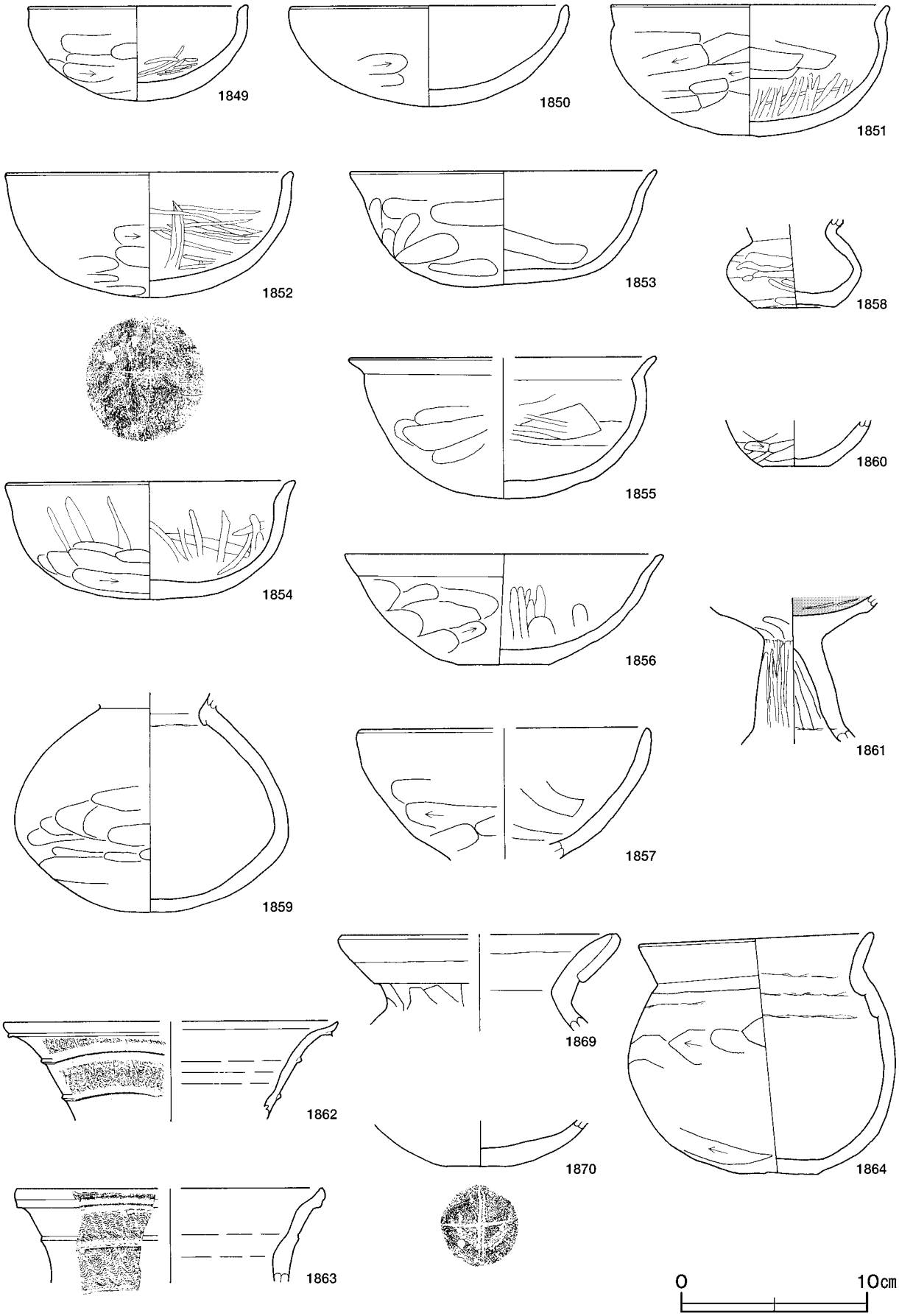
所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。



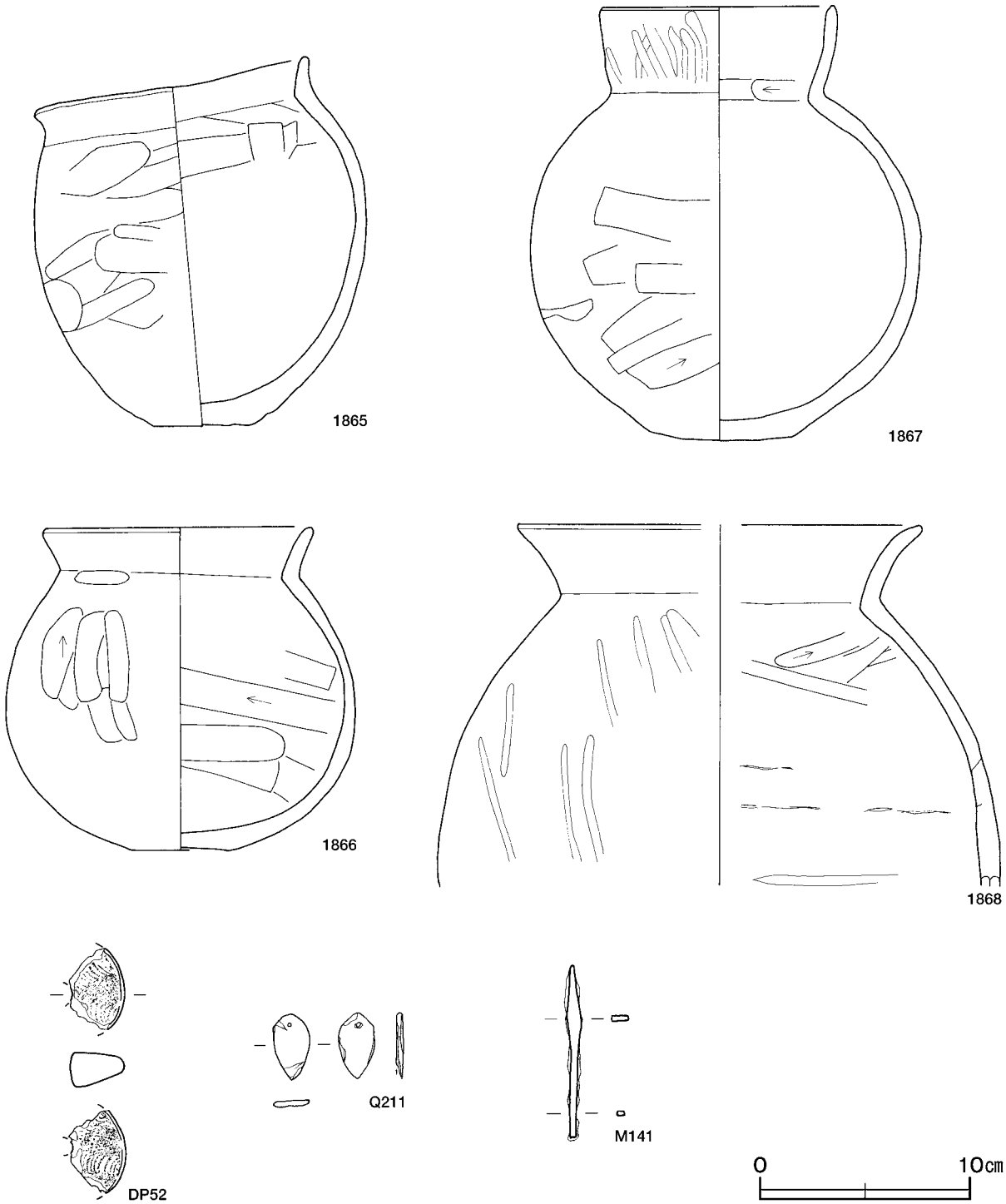
第37図　第323号住居跡実測図(1)



第38図　第323号住居跡実測図(2)



第39図　第323号住居跡出土遺物実測図(1)



第40図　第323号住居跡出土遺物実測図(2)

第323号住居跡出土遺物観察表（第39・40図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1849	土師器	坏	11.7	5.1	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	浅黄	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 体部内面ヘラ磨き	覆土下層	95%　PL60
1850	土師器	坏	14.7	5.4	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中	100%　PL60
1851	土師器	坏	15.0	7.1	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	貯蔵穴	100%　PL60

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1852	土師器	坏	15.3	6.7	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	貯蔵穴	95%　PL60　ヘラ書き
1853	土師器	坏	16.4	6.3	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラナデ　底部ヘラ削り	貯蔵穴	90%　PL60
1854	土師器	坏	15.3	6.4	－	石英・長石・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　体部内面ヘラ磨き	貯蔵穴	90%　PL60
1855	土師器	坏	[16.6]	7.7	－	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラナデ　体部内面横方向ヘラ磨き	覆土下層	60%　PL60
1856	土師器	坏	17.0	6.0	4.9	石英・長石	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	貯蔵穴	60%　PL60
1857	土師器	坏	[15.4]	(7.1)	－	石英・長石	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	貯蔵穴	30%
1858	土師器	坩	－	(4.7)	4.2	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部外面横方向のヘラ磨き	床面	80%　PL64
1859	土師器	坩	－	(11.8)	－	石英･長石･雲母	橙	普通	体部外面ヘラナデ	覆土下層	60%　PL64
1860	土師器	坩	－	(2.5)	3.7	石英･長石･雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ナデ　底部ヘラ切り	覆土下層	85%
1861	土師器	高坏	－	(7.8)	－	石英･長石･雲母	黒	普通	脚部外面ヘラ磨き	覆土下層	20%
1862	須恵器	広口壺	[17.8]	(5.2)	－	石英・長石	灰	普通	口縁部ロクロナデ　櫛歯状工具(14本櫛歯)による波状文	覆土中	5％
1863	須恵器	広口壺	[16.4]	(5.1)	－	長石・雲母	灰	普通	口縁部ロクロナデ　櫛歯状工具(13本櫛歯)による波状文	覆土中	5％
1864	土師器	甕	12.4	13.1	4.2	石英・長石	赤	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　体部内面輪積み痕	貯蔵穴	60%　PL67
1865	土師器	甕	13.0	17.5	4.4	石英・長石	黒褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラナデ	貯蔵穴	100%　PL67
1866	土師器	甕	12.5	15.4	4.0	石英･長石･雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラ削り	貯蔵穴	100%　PL67
1867	土師器	甕	10.9	20.7	6.8	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ後外面ヘラ磨き　体部外面ヘラ削り	貯蔵穴	100%　PL67
1868	土師器	甕	[19.0]	(17.1)	－	石英・長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ヘラ削り　輪積み痕　体部外面ヘラ磨き	貯蔵穴	10%
1869	土師器	甕	[14.8]	(5.2)	－	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	5％
1870	土師器	甕	－	(2.4)	3.8	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい橙	普通	内・外面ナデ	床面	5％　ヘラ書き

番号	器種	径	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP52	紡錘車	[5.60]	1.62	(12.0)	長石	孔周辺に最大厚　円板型孔から放射状に４条の爪形刺突	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q211	剣形模造品	3.07	1.70	0.34	2.62	滑石	断面方形　棒状　一端がわずかに細る　孔径0.15㎝	覆土下層	PL89

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M141	鏃	8.30	0.70	0.20～0.30	4.4	鉄	茎ヵ　断面方形	覆土下層	PL90

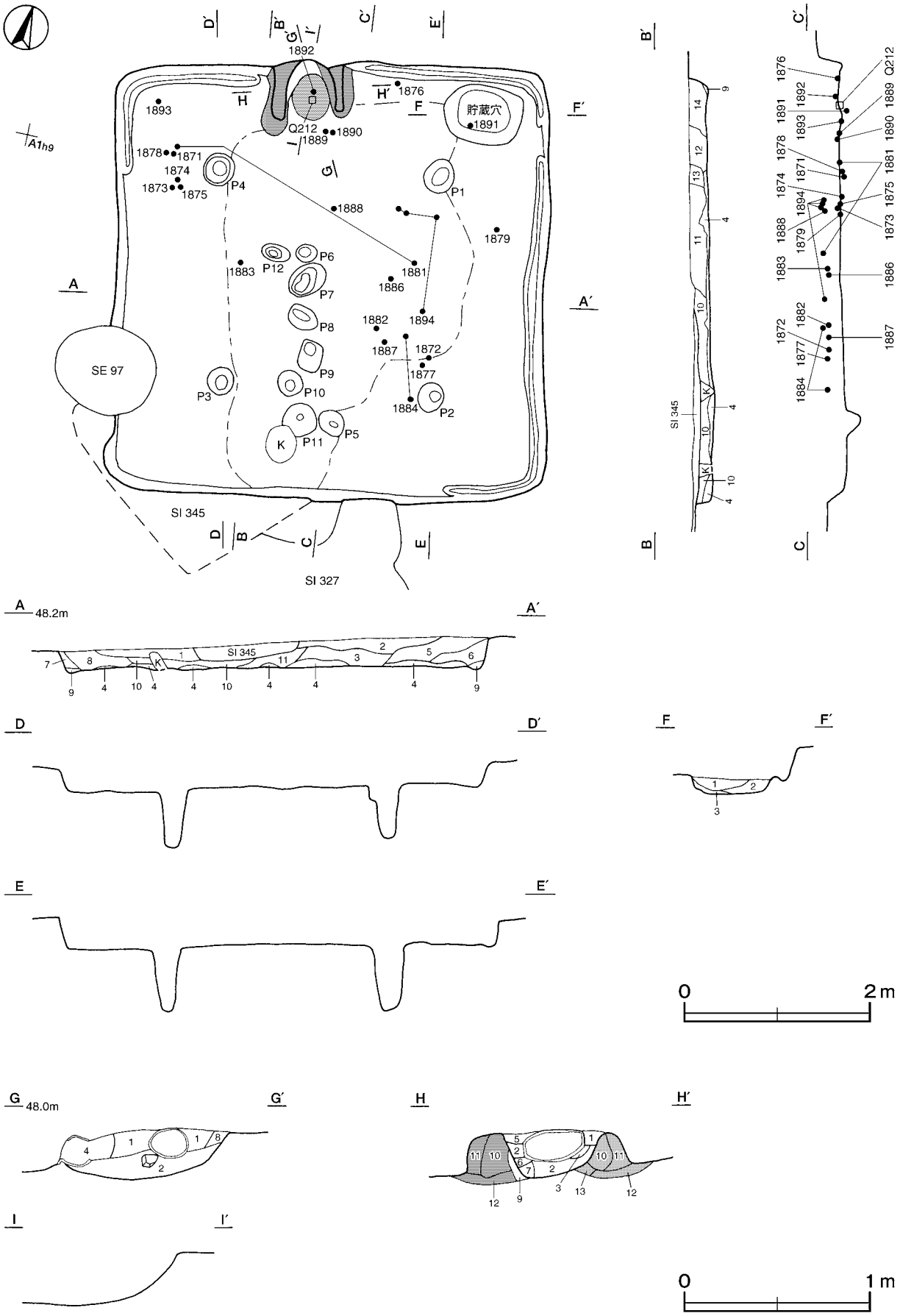
第326号住居跡（第41～45図）

位置　西部３区東部のＡ１h9 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第327・345号住居，第97号井戸に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.68m，短軸4.65mの方形で，主軸方向がＮ－16 °－Ｗである。壁高は28～36㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が南コーナー部を除いて周回している。



第41図　第326号住居跡実測図

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで80㎝，袖部幅90～100㎝である。袖部は床面と同じ高さを基部として，ローム土と黒色土混じりの褐色土で構築されている。両袖部の内側は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部幅は40㎝で，床面を２㎝ほど円形に掘りくぼめており，火床面は火熱を受け赤変している。火床面には棒状の石製支脚が残存していた。煙道部は壁外へ10㎝掘り込まれ，火床部から緩やかに傾斜して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子少量，ロームブロック微量
3　暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
6　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
8　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子微量
9　褐　　色　焼土ブロック中量
10　灰　褐　色　ロームブロック多量
11　暗　褐　色　ロームブロック中量
12　褐　　色　ロームブロック中量
13　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量

ピット　12か所。P1～P4は深さ59～71㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ16㎝で，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P12は深さ13～41㎝で，性格は不明である。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長径85㎝，短径64㎝の楕円形で，深さ45㎝である。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量

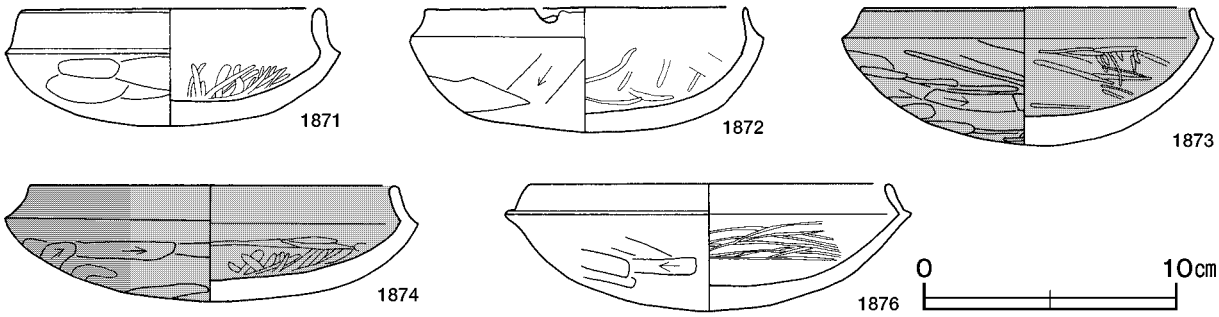
覆土　14層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

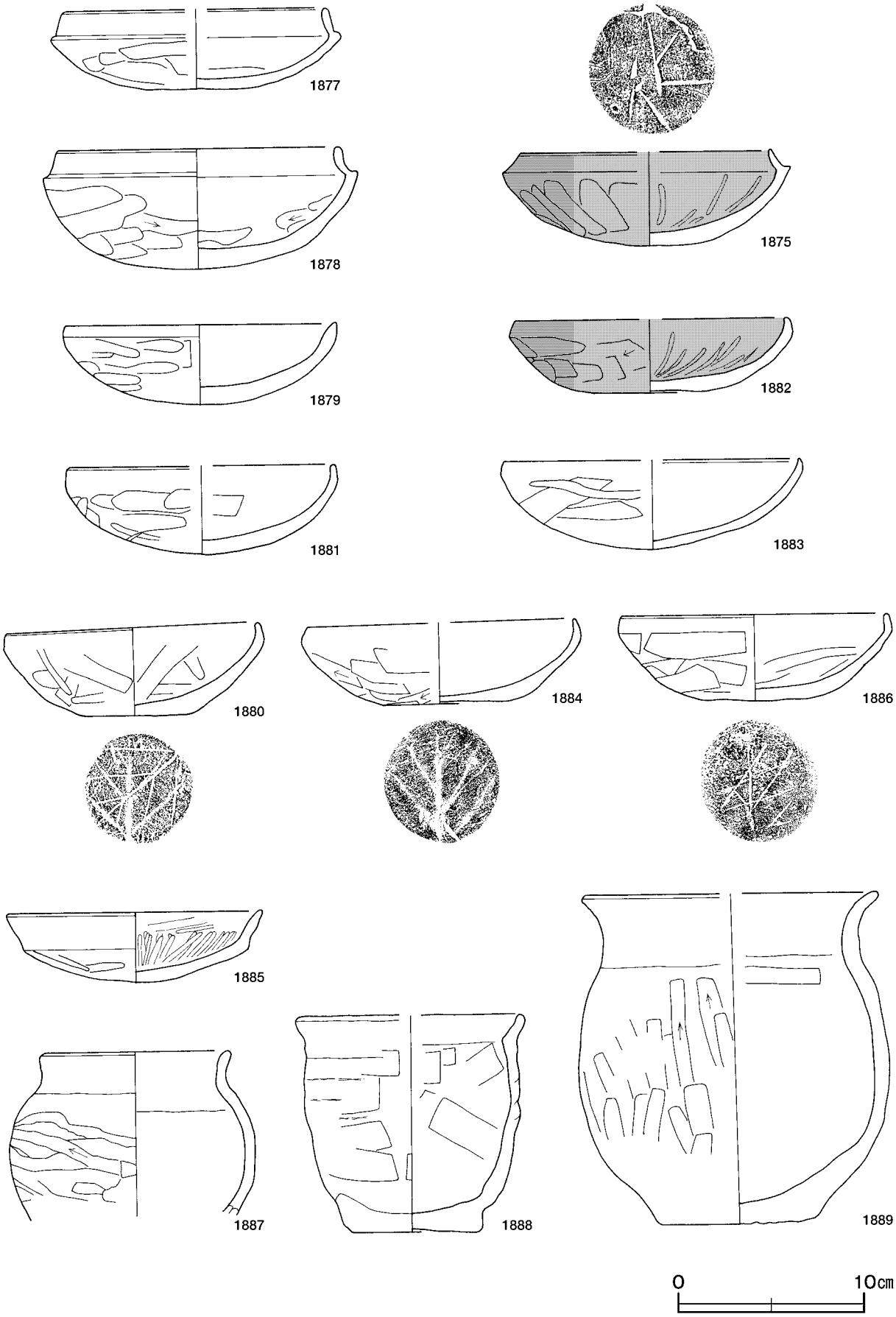
1　褐　　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量
3　極暗褐色　ロームブロック中量
4　褐　　色　ロームブロック中量
5　褐　　色　ローム粒子多量
6　褐　　色　ローム粒子少量
7　褐　　色　ロームブロック微量
8　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化物少量
9　褐　　色　ローム粒子中量
10　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
11　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
12　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
13　褐　　色　ロームブロック中量・焼土粒子少量
13　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子少量
14　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子少量

遺物出土状況　土師器片449点（坏160，高坏18，甕269，甑２），須恵器片１点（甕），土製品１点（不明），石器１点（支脚）が，北部を中心に出土している。また，流れ込んだ弥生土器片31点，土師器片１点（高台付椀）も出土している。1871・1873～1875・1878・1881・1893は北西コーナー部，1876は北壁中央部の床面からそれぞれ出土している。1890は竈内の支脚前面，1892は支脚上にそれぞれ横位で出土している。

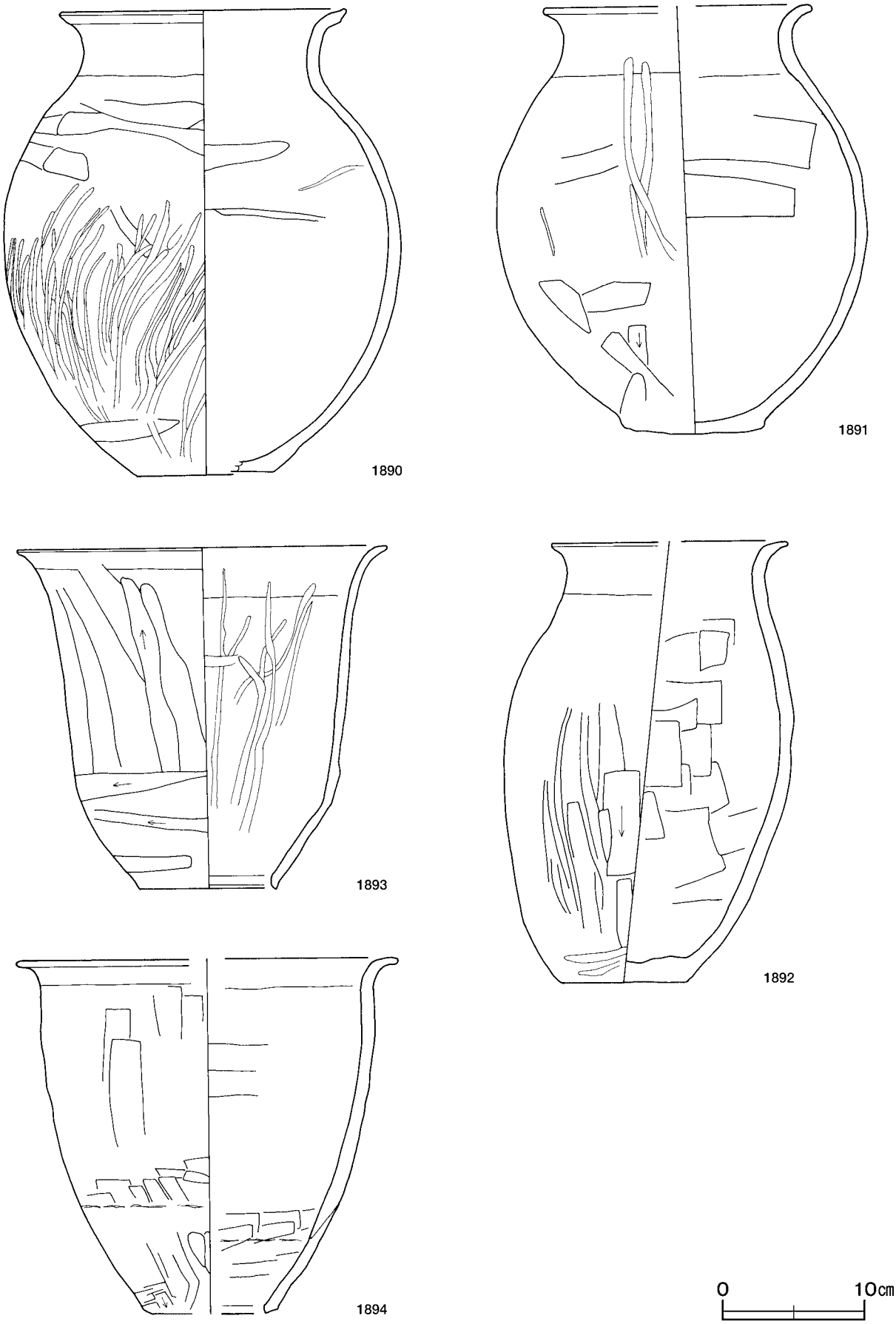
所見　時期は，出土土器から７世紀前葉と考えられる。



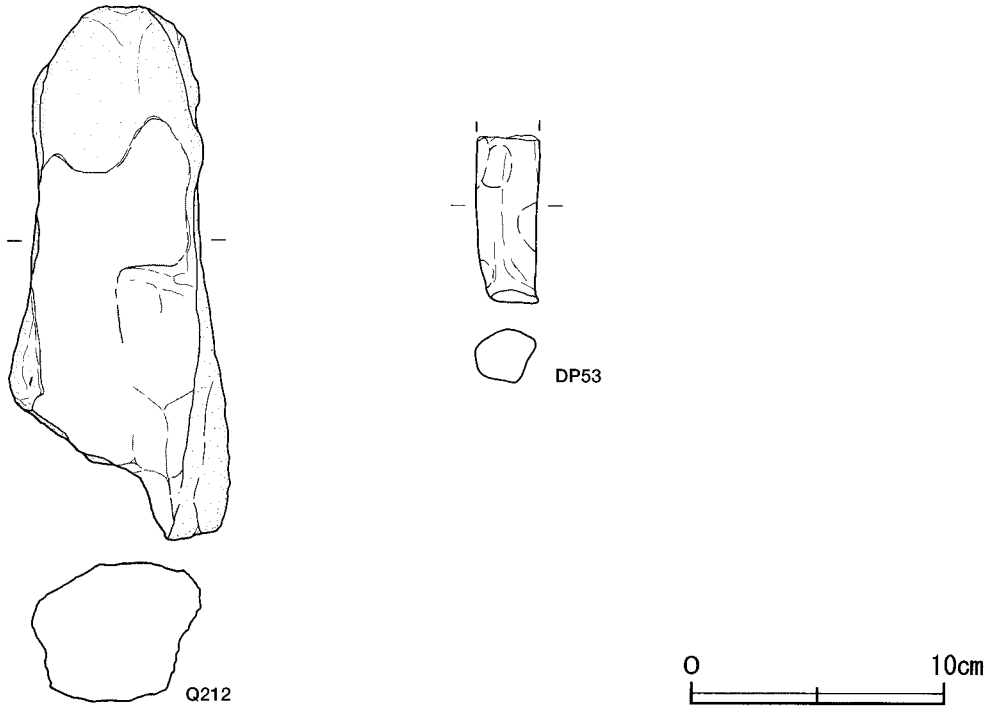
第42図　第326号住居跡出土遺物実測図(1)



第43図　第326号住居跡出土遺物実測図(2)



第44図　第326号住居跡出土遺物実測図(3)



第45図　第326号住居跡出土遺物実測図(4)

第326号住居跡出土遺物観察表（第42～45図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1871	土師器	坏	11.7	4.6	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ナデ 内面ヘラ磨き	床面	100%　PL60
1872	土師器	坏	12.6	4.9	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　口縁部圧痕　体部外面ヘラ削り　体部内面ヘラ磨き	覆土中層	95%　PL61
1873	土師器	坏	13.0	5.4	－	石英・長石・雲母	灰褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 体部内面ヘラ磨き	床面	100%　PL61
1874	土師器	坏	14.3	4.6	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 体部内面ヘラ磨き	床面	95%　PL61
1875	土師器	坏	[13.4]	5.1	－	石英・長石・雲母	黒褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ナデ 内面ヘラ磨き　底部ヘラ削り	床面	90%　PL60
1876	土師器	坏	12.0	5.0	－	石英･赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	80%　PL60
1877	土師器	坏	[14.0]	4.3	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ナデ	覆土上層	60%
1878	土師器	坏	15.0	6.7	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	黒褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラ削り	床面	90%　PL61
1879	土師器	坏	14.4	4.3	－	長石・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ナデ	床面	95%　PL61
1880	土師器	坏	13.5	4.9	5.8	石英･長石･雲母･赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ナデ 底部木葉痕	覆土中	80%
1881	土師器	坏	[14.2]	4.8	－	石英・長石・雲母	暗赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面ナデ	床面	80%
1882	土師器	坏	[14.5]	4.0	6.0	長石･赤色粒子	黒褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 体部内面横ナデ後ヘラ磨き	覆土中層	60%
1883	土師器	坏	[16.0]	4.8	－	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ナデ	覆土中層	60%　PL61
1884	土師器	坏	[14.3]	4.4	6.2	石英・長石	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 底部木葉痕	覆土中層	50%
1885	土師器	坏	13.5	4.8	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	灰褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 体部内面ヘラ磨き	覆土中	95%　PL61

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1886	土師器	坏	14.3	4.6	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 体部内面ナデ　底部木葉痕	覆土中層	95%　PL61 ヘラ書き
1887	土師器	甕	[9.8]	(8.9)	－	石英・長石	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中層	50%　PL68
1888	土師器	甕	[12.0]	11.7	7.0	石英・長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラナデ　底部ヘラ削り後ナデ	覆土中層	50%
1889	土師器	甕	[15.6]	17.9	8.6	石英・白色粒子・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 体部内面ナデ	床面	60%　PL68
1890	土師器	甕	19.8	33.0	9.5	石英・長石	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ磨き	床面	90%　PL71
1891	土師器	甕	[18.7]	30.2	9.8	石英・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 体部内面ヘラナデ	床面	45%　PL71
1892	土師器	甕	[16.8]	31.0	8.8	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 体部内面ヘラナデ	覆土下層	60%　PL69
1893	土師器	甑	25.7	24.0	9.7	石英・長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	70%　PL70
1894	土師器	甑	[26.0]	25.0	[8.0]	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ　輪積み痕	覆土中層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q212	支脚	21.20	8.70	5.50	1240	閃緑岩	棒状の自然石	竈	PL86

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP53	不明土製品	(6.70)	2.50	2.10	(44.3)	石英･長石･雲母･赤色粒子	柱状　指頭圧痕	覆土中	

第332号住居跡（第46～49図）

位置　西部３区東部のＡ１d9 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第316号住居跡を掘り込み，第335・359号住居，第3696号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.94m，短軸6.64mの方形で，主軸方向はＮ－10°－Ｗである。壁高は44cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

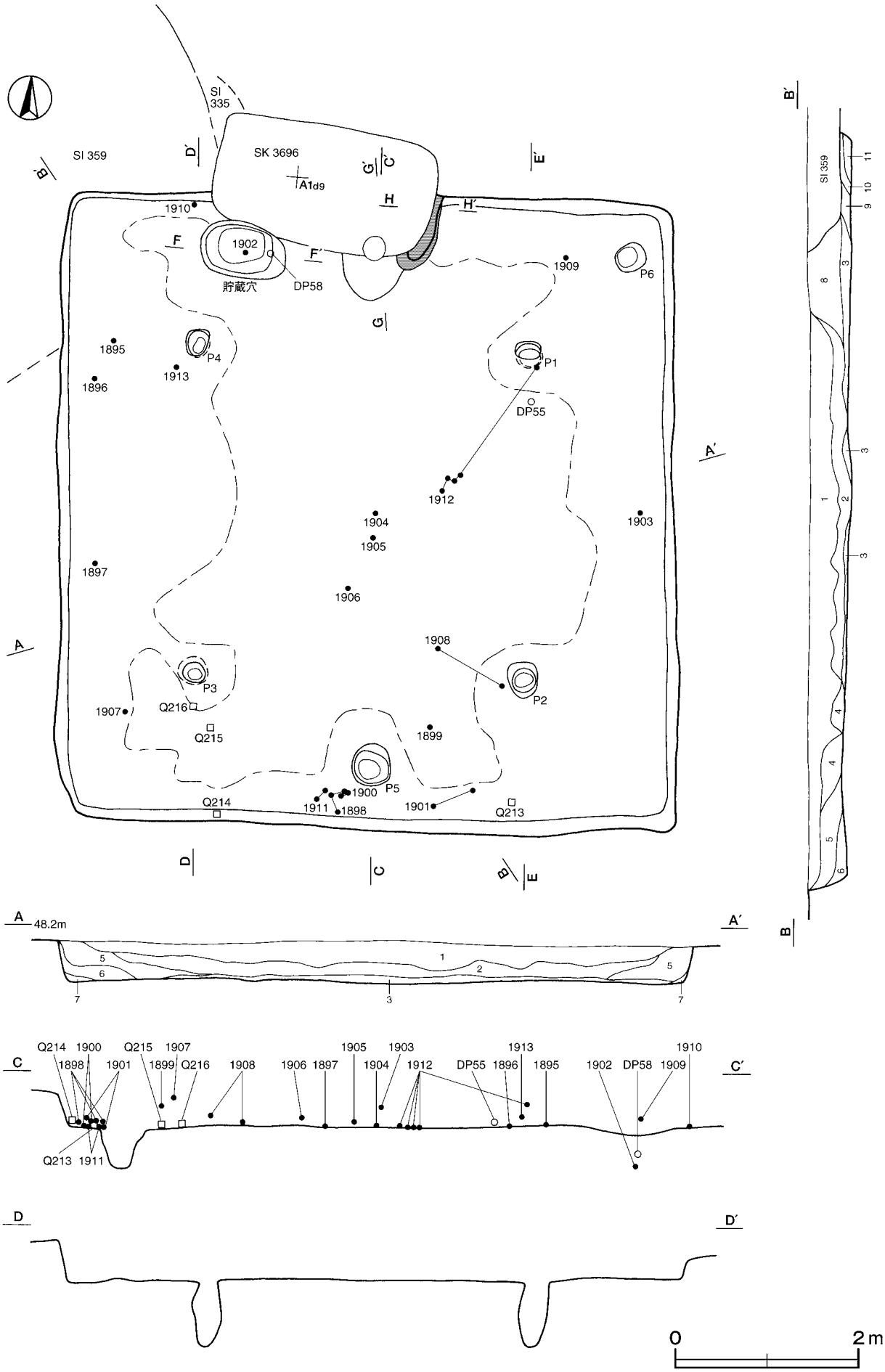
竈　北壁の中央部に付設されている。右袖部のわずかな部分と火床部を除いて第3696号土坑に掘り込まれており，右袖部幅10～24cm，長さ90cm，高さ18cmで，火床部幅24cmが確認された。右袖部は床面の上に暗褐色土を貼り付けて構築されている。

竈土層解説

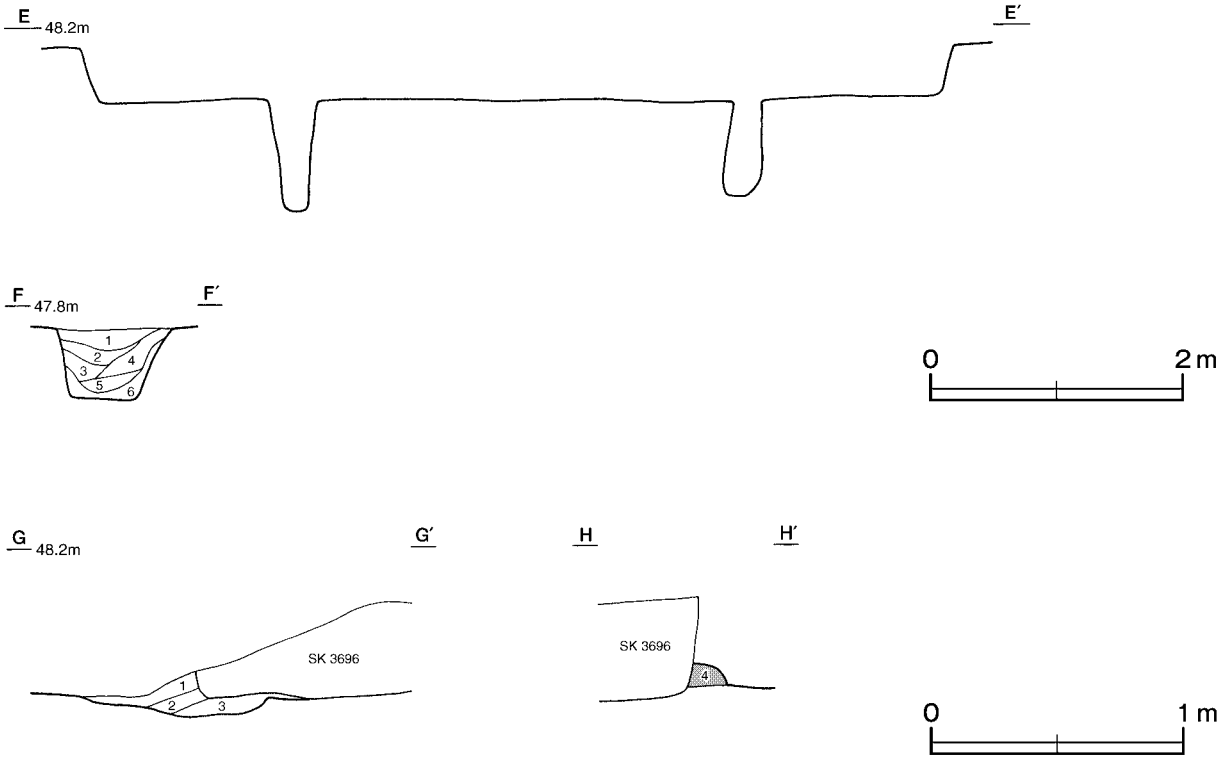
1　暗赤褐色　焼土粒子少量，ロームブロック微量
2　暗赤褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量

ピット　６か所。Ｐ1 ～Ｐ4 は深さ72～87cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ5 は深さ42cmで，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考られる。Ｐ6 の深さは40cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　北壁際中央部よりやや西寄りに位置している。長径97cm，短径57cmの楕円形で，深さ60cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。



第46図　第332号住居跡実測図(1)



第47図　第332号住居跡実測図(2)

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
5　暗　褐　色　鹿沼パミス粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
6　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

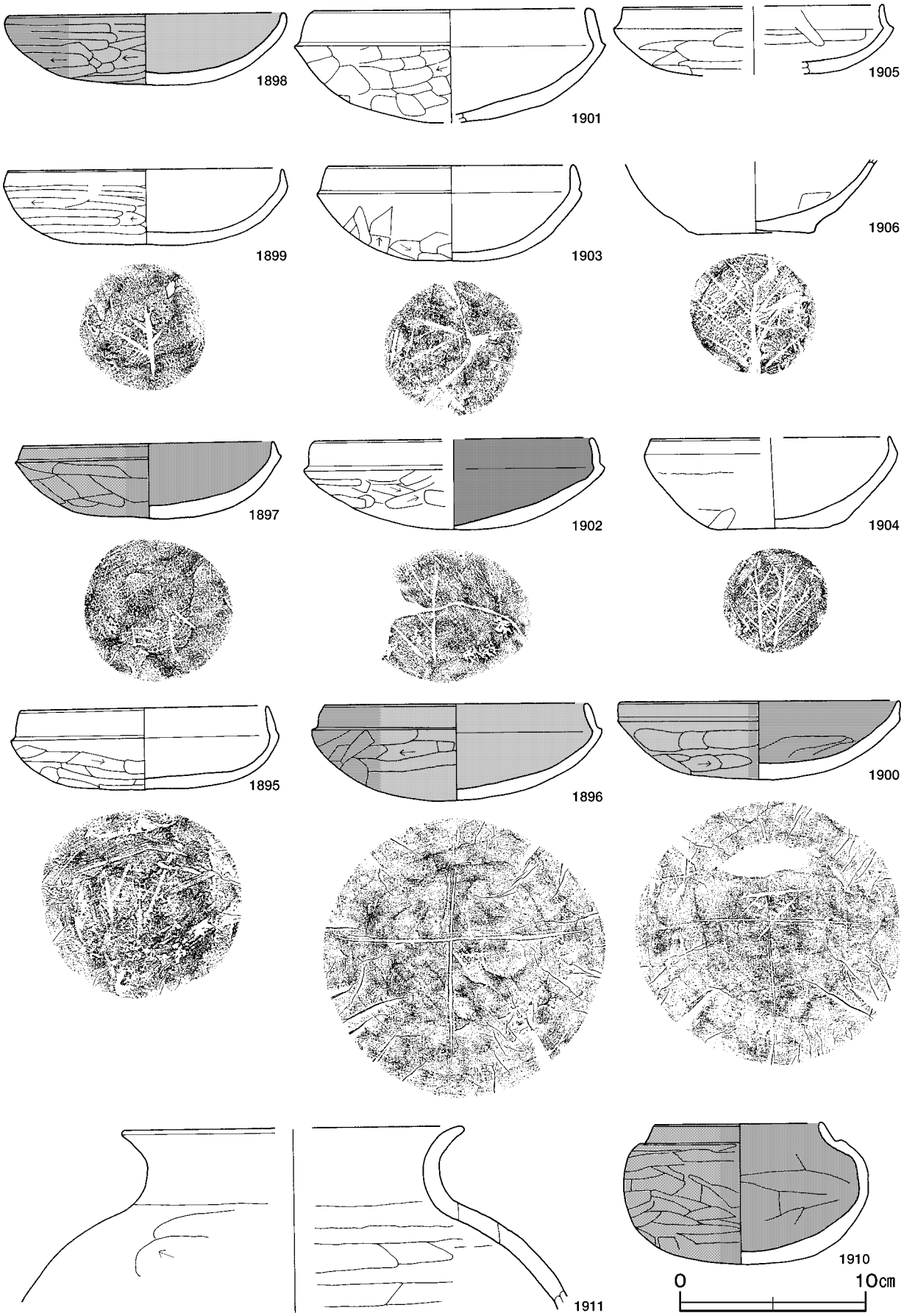
覆土　11層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

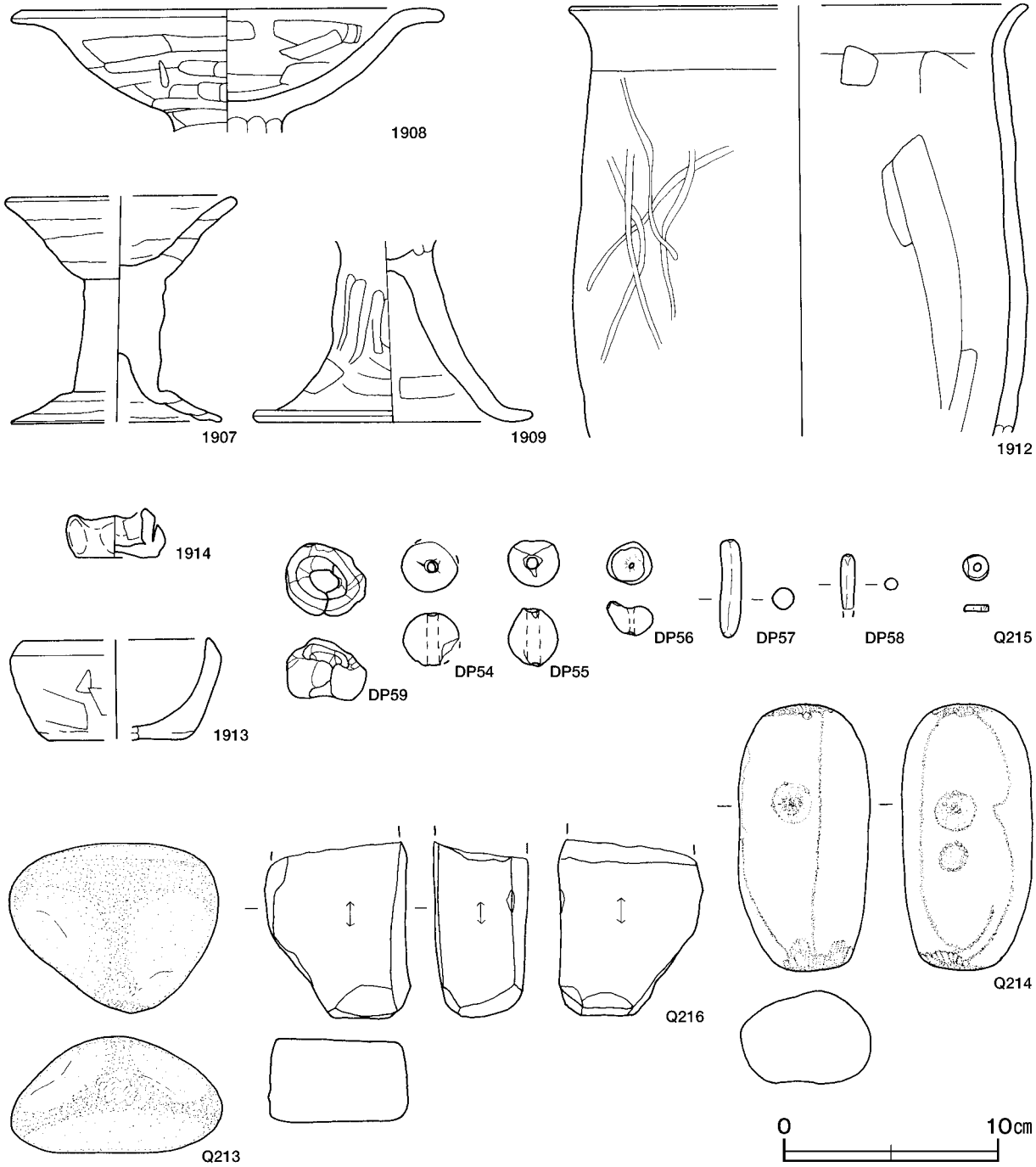
1　暗　褐　色　ローム粒子多量
2　褐　　色　ロームブロック多量
3　褐　　色　ローム粒子中量
4　褐　　色　ローム粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子多量
6　褐　　色　ロームブロック中量
7　褐　　色　ロームブロック微量
8　褐　　色　ローム粒子微量
9　褐　　色　ロームブロック少量
10　暗　褐　色　ローム粒子中量
11　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片1449点（坏616，高坏23，壺１，甕808，甑１），手捏土器２点，土製品３点（土玉），石器１点（砥石），石製品１点（臼玉）が，中央部から南東コーナー部にかけて出土している。また，流れ込んだ弥生土器片173点，土師器片１点（高台付椀），須恵器片３点（坏），磁器片１点（碗），石器２点（磨石，敲石），土製品３点（棒状土製品２，不明１）も出土している。1904～1906，1912は中央部の覆土中層から床面にかけて，1895・1896・1902・1910・1913・DP58は北西コーナー部の覆土下層から床面にかけて出土している。そのうち1902・DP58は貯蔵穴内より出土している。1909は北東コーナー部の覆土下層，DP55は北東コーナー部の床面，1907・Q214～216は南西コーナー部の覆土中層から床面にかけて，1898～1901・Q213は南壁中央部付近の覆土中層から床面にかけて，1903は東壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀前半と考えられる。



第48図　第332号住居跡出土遺物実測図(1)



第49図　第332号住居跡出土遺物実測図(2)

第332号住居跡出土遺物観察表（第48・49図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1895	土師器	坏	13.1	4.5	－	長石・雲母・赤色粒子	褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 底部ヘラ削り後ナデ	覆土下層	100%　PL61
1896	土師器	坏	14.0	5.2	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 底部ヘラ削り後ナデ	覆土下層	100%　PL61 ヘラ書き
1897	土師器	坏	13.4	4.1	－	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部ヘラナデ　木葉痕をヘラ削り	覆土下層	95%　PL61
1898	土師器	坏	14.8	3.8	－	白色粒子･赤色粒子	黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	貯蔵穴	95%　PL61
1899	土師器	坏	14.8	4.1	－	石英･赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 体部内面ナデ	覆土中層	85%　PL62 ヘラ書き

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1900	土師器	坏	15.1	4.1	－	長石	黒	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 内面ナデ　底部外面ヘラ削り後ナデ	覆土下層	85%　PL62 ヘラ書き
1901	土師器	坏	14.9	6.1	－	石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 内面横ナデ	覆土下層	85%　PL62
1902	土師器	坏	[15.0]	4.8	－	石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 内面ナデ　底部木葉痕	貯蔵穴	50%
1903	土師器	坏	13.2	5.3	－	石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 底部木葉痕	覆土中層	70%　PL62
1904	土師器	坏	[12.9]	4.9	5.7	石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 内面ナデ　底部木葉痕	覆土中層	60%
1905	土師器	坏	[14.0]	(3.7)	－	長石・雲母・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラナデ	覆土中層	30%
1906	土師器	椀	－	(3.9)	6.8	石英	にぶい褐色	普通	体部外面ナデ　内面ヘラナデ　底部外周ヘラ削り　底部木葉痕	覆土中層	30%
1907	土師器	高坏	[10.3]	10.6	[9.7]	石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	坏部外面横ナデ　輪積み痕　裾部内・外面横ナデ	覆土中層	60%
1908	土師器	高坏	20.2	(5.8)	－	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　坏部内・外面ヘラナデ	覆土下層	30%
1909	土師器	高坏	－	(8.5)	13.0	石英・長石・雲母	にぶい黄褐	普通	脚部外面ヘラ削り後ナデ　裾部外面横ナデ	覆土下層	50%
1910	土師器	短頸壺	8.8	7.5	－	石英・長石・雲母	黒	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ　底部ヘラ削り	床面	95%　PL66
1911	土師器	甕	[18.2]	(9.9)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 体部内面ヘラナデ	覆土下層	10%
1912	土師器	甑	[21.2]	(20.2)	－	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面不定方向 のヘラ磨き　体部内面ヘラナデ	床面	20%
1913	手捏土器	－	[8.6]	4.7	[6.4]	石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外面横ナデ　体部外面ヘラナデ　輪積み痕	覆土下層	20%
1914	手捏土器	－	3.4	2.3	3.7	石英	黒褐	普通	体部外面指頭痕　半面二重に粘土	覆土中	100%　PL64

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q213	磨石	8.00	9.30	5.40	520	輝石安山岩	磨り痕１か所有	覆土下層	PL88
Q214	敲石	12.40	6.20	4.30	557	安山岩	先端部２か所に敲打痕　中央部にわずかな凹部３か所　磨り跡有	覆土下層	PL88
Q216	砥石	(8.20)	6.80	4.00	(314)	砂岩	砥面３面　欠損有	床面	

番号	器種	径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q215	臼玉	1.11	0.32	0.53	滑石	全面研磨　断面円形　孔径0.29㎝	覆土下層	PL89

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
DP54	土玉	2.61	2.61	2.38	(11.3)	雲母・石英	にぶい黄橙	普通	ナデ・片面穿孔　孔径0.49㎝	覆土中	PL85
DP55	土玉	(2.20)	2.27	2.55	(10.1)	雲母・赤色粒子	橙	普通	割有・外面ナデ　孔径0.57㎝	覆土下層	PL85
DP56	土玉	2.13	1.91	1.54	4.4	石英・白色粒子	にぶい黄褐	普通	片面穿孔　孔径0.23㎝	覆土中	PL85
DP57	棒状土製品	4.50	1.03	1.02	4.3	白色粒子	にぶい赤褐	普通	断面円形	覆土中	PL85
DP58	棒状土製品	(2.55)	0.69	0.62	(1.10)	白色粒子・黒色粒子	橙	普通	断面円形	南壁溝	PL85
DP59	不明	3.59	3.83	2.72	(21.3)	雲母・赤色粒子	オリーブ褐	普通	粘土紐をリング状に接合	覆土中	PL85

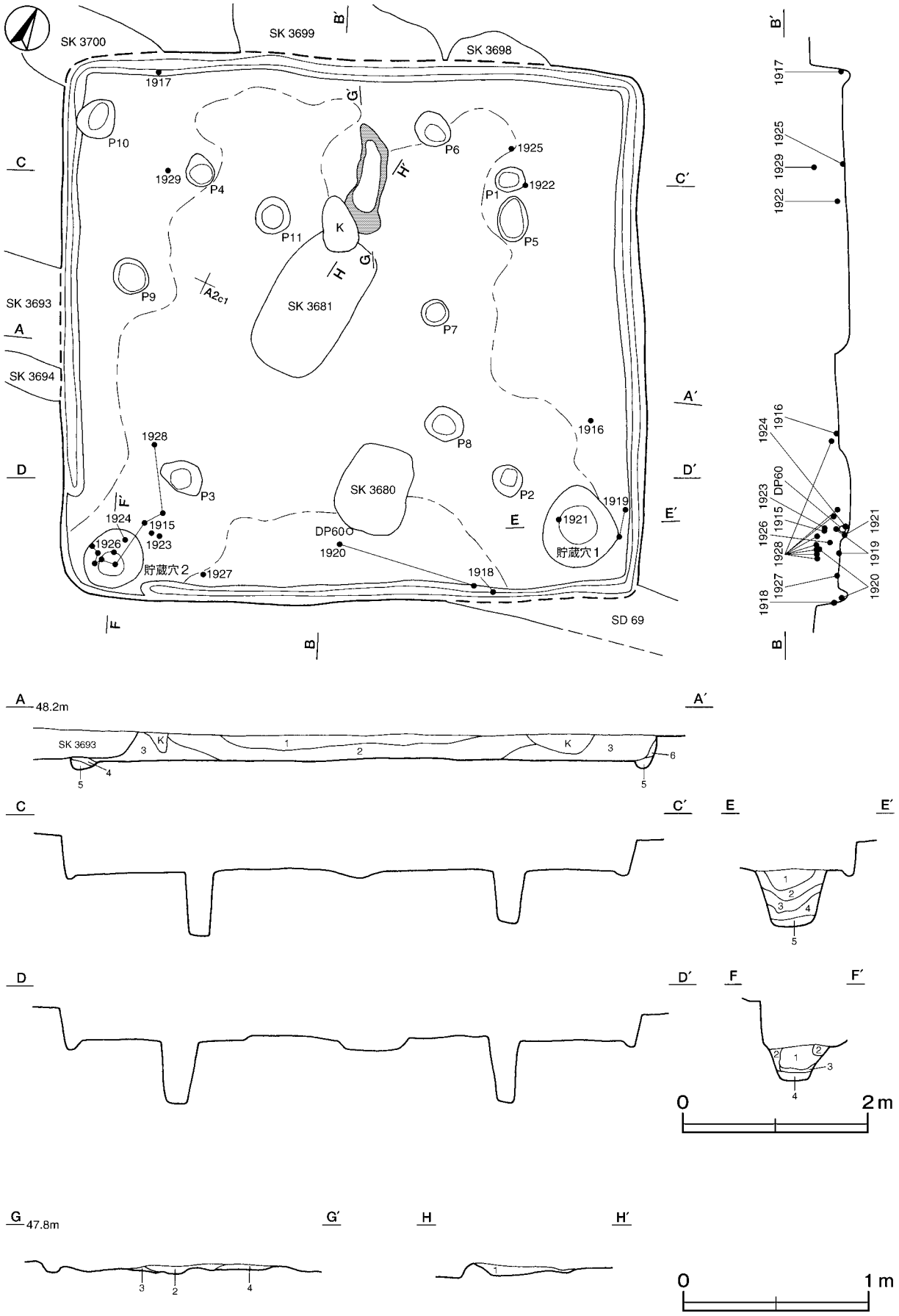
第334号住居跡（第50～52図）

位置　西部３区東部のＡ２b1 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3680・3681・3693・3694・3698～3700号土坑，第69号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.30m，短軸5.84mの方形で，主軸方向はＮ－26°－Ｗである。壁高は27～42㎝で，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が南コーナー部を除いて全周している。



第50図　第334号住居跡実測図

炉　中央部のやや北寄りに確認されている。長径120cm，短径38cmの不整楕円形で，床面を７cm掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変している。

炉土層解説

1	暗　褐　色　炭化物中量，ローム粒子・焼土粒子少量	3	暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量
2	暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量	4	褐　　色　焼土ブロック少量

ピット　11か所。P1～P4は深さ55～68cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5～P11の深さは12～79cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　２か所。貯蔵穴１は南東コーナー部に位置している。長径86cm，短径81cmの円形で，深さ64cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴２は西コーナー部に位置している。長径70cm，短径62cmの楕円形で，深さ36cmである。底面は平坦で，壁は緩やかに立ち上がっている。

貯蔵穴１土層解説

1	褐　　色　ロームブロック中量	4	暗　褐　色　焼土ブロック微量
2	暗　褐　色　焼土ブロック少量	5	褐　　色　ロームブロック少量
3	暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物少量		

貯蔵穴２土層解説

1	暗　褐　色　ロームブロック中量	3	暗　褐　色　ロームブロック少量
2	褐　　色　ロームブロック中量	4	褐　　色　ロームブロック少量

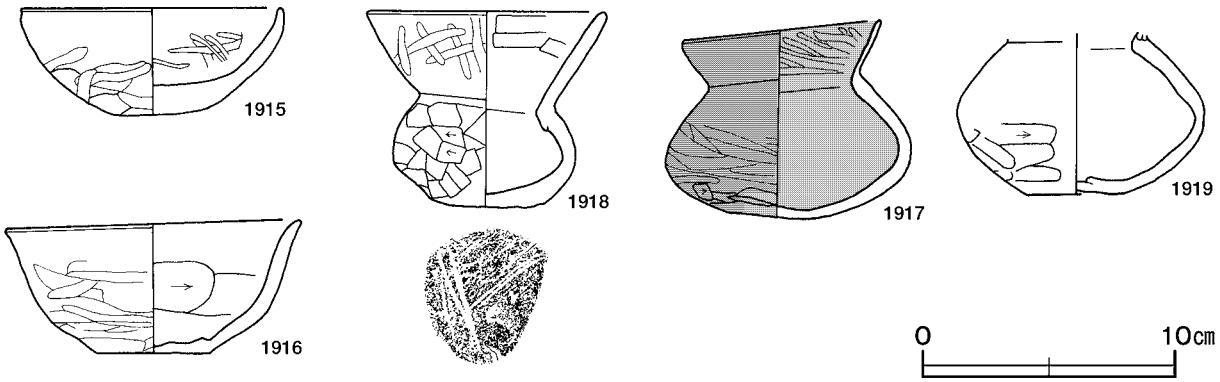
覆土　６層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

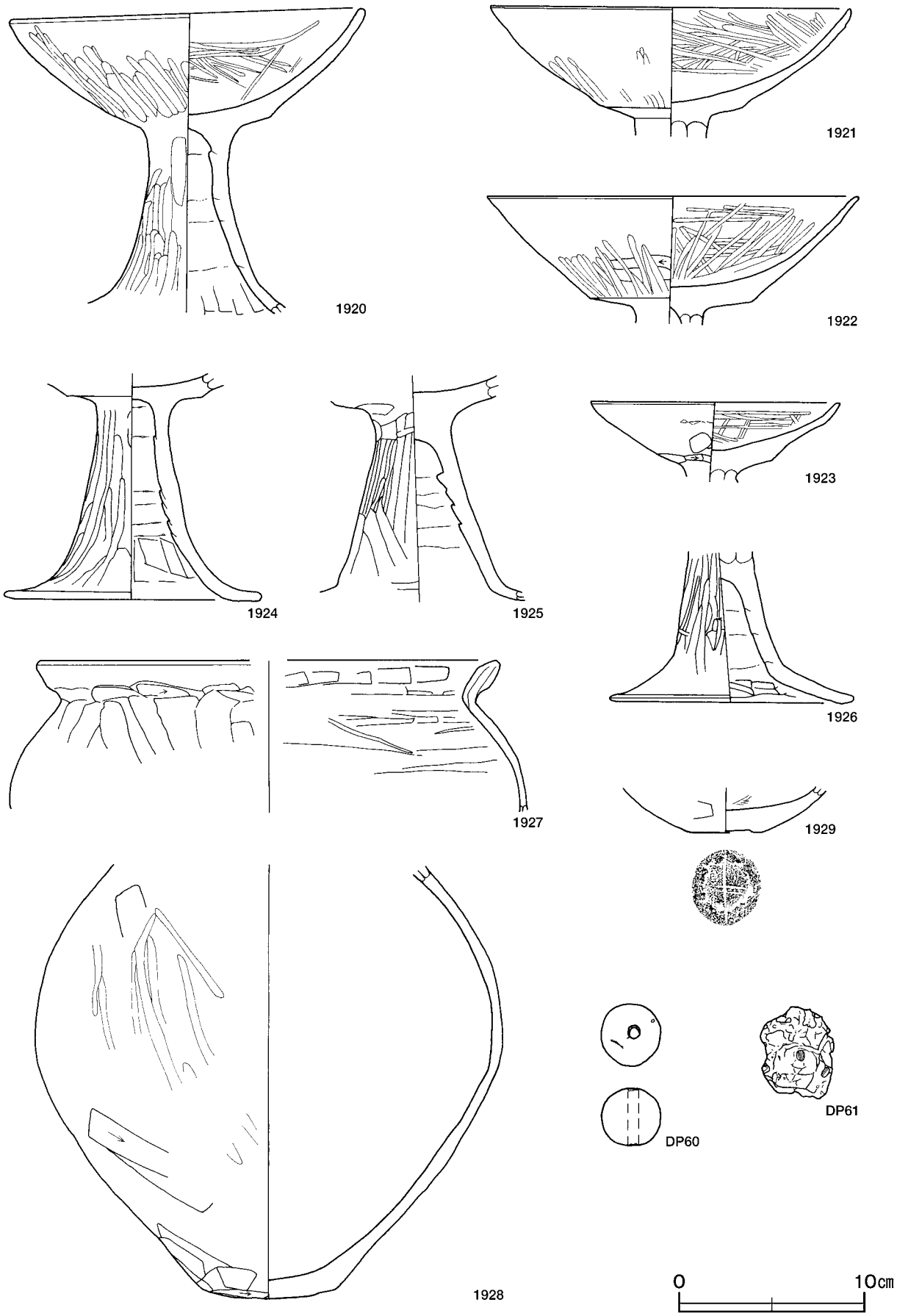
1	極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量	4	暗　褐　色　ロームブロック少量
2	暗　褐　色　ローム粒子中量	5	褐　　色　ロームブロック少量
3	褐　　色　ロームブロック中量	6	褐　　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片570点（坏79，高坏41，坩21，甕427，小形甕１，台付甕１），土製品１点（土玉）が貯蔵穴や炉の周辺に集中して出土している。土器片は細片が多い。また，流れ込んだ弥生土器片134点，縄文土器片３点，土師器片２点（高台付椀），須恵器片４点（坏１，椀１，甕２），瓦１点，粘土塊４点も出土している。1915は南西コーナー部の貯蔵穴２周辺の覆土下層から出土している。1916は東壁中央部の床面からの出土である。1917は北西コーナー部の壁溝，1929は北西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。1918・1920・DP60は南壁際の壁溝，床面からそれぞれ出土している。1919は南東コーナー部の床面から出土している。1921は貯蔵穴１，1922は北東コーナー部の覆土下層，1925は北東コーナー部の床面からそれぞれ出土している。1924は貯蔵穴２内の覆土上層，1923・1926～1928は南西コーナー部の覆土下層から床面にかけてそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。



第51図　第334号住居跡出土遺物実測図(1)



第52図　第334号住居跡出土遺物実測図(2)

第334号住居跡出土遺物観察表（第51・52図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1915	土師器	坏	10.2	4.3	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面不定方向の磨き後ナデ　体部内面不定方向のヘラ磨き	覆土下層	100%　PL62
1916	土師器	坏	11.8	5.2	4.6	石英・長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面横方向のヘラ磨き　体部内面ヘラ削り	床面	95%　PL62
1917	土師器	坩	7.8	7.9	－	石英・長石・雲母	黒	普通	口縁部内面ヘラ磨き　体部外面ヘラ磨き　底部外面ヘラ削り後ナデ	覆土下層	100%　PL66
1918	土師器	坩	9.3	7.8	3.5	石英・長石・雲母	褐灰	普通	口縁部内面ヘラナデ　口縁部内・外面不定方向のヘラ磨き　体部外面ヘラ削り　底部外面ヘラ削り後ナデ	覆土下層	70%　PL66
1919	土師器	坩	－	(6.3)	3.5	石英・長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面指頭によるナデ　体部外面ヘラ削り　体部上部ヘラナデ	床面	60%
1920	土師器	高坏	19.2	(16.6)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ後磨き　坏部内・外面ヘラ磨き　脚部内面輪積み痕　ヘラナデ　脚部外面ヘラ磨き	床面	60%　PL65
1921	土師器	高坏	19.5	(6.9)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　坏部外面ナデ後磨き　坏部内面ヘラ磨き	床面	50%
1922	土師器	高坏	20.0	(6.8)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	坏部口縁内・外面横ナデ後内面ヘラ磨き　坏部内面ヘラ磨き　外面ヘラ削り後磨き	覆土下層	45%
1923	土師器	高坏	13.4	(4.1)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	坏部口縁内・外面横ナデ後内面ヘラ磨き　外面ヘラ削り	竈覆土中層	40%
1924	土師器	高坏	－	(12.2)	13.9	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	脚部外面ヘラ磨き　脚部内面輪積み痕　ヘラナデ　裾部内・外面横ナデ	床面	50%
1925	土師器	高坏	－	(12.2)	－	石英・長石・赤色粒子	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き　脚部内面輪積み痕	床面	40%
1926	土師器	高坏	－	(8.1)	13.2	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き　裾部外面横ナデ　脚部内面ヘラナデ　輪積み痕　脚部裾部内・外面横ナデ	覆土下層	50%
1927	土師器	甕	[24.5]	(8.1)	－	石英	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　内面ヘラナデ　外面ヘラ削り	床面	10%
1928	土師器	甕	－	(23.4)	7.0	石英・長石	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ磨き　ヘラ削り	覆土下層	30%
1929	土師器	甕	－	(2.5)	3.6	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ナデ　体部内面磨き	覆土中層	5％ ヘラ書き

番号	器種	径	厚さ	重量	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
DP60	土玉	3.28～3.30	3.05	32.6	石英・長石・雲母	にぶい褐	片面穿孔　ナデ調整　孔径0.56㎝	床面	PL85

番号	器種	長さ	幅	最大厚	重量	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
DP61	粘土塊	4.9	3.9	0.7	11.5	長石・石英	黒褐	普通	籾の痕跡有（２か所）	貯蔵穴	PL85

第343号住居跡（第53図）

位置　西部３区東部のＡ２h4 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3633・3665号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　東部が調査区域外に延びているため，確認された範囲は，南北軸4.14m，東西軸1.64mである。平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はＮ－17 °－Ｗである。壁高は44㎝で，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が西壁下に確認された。

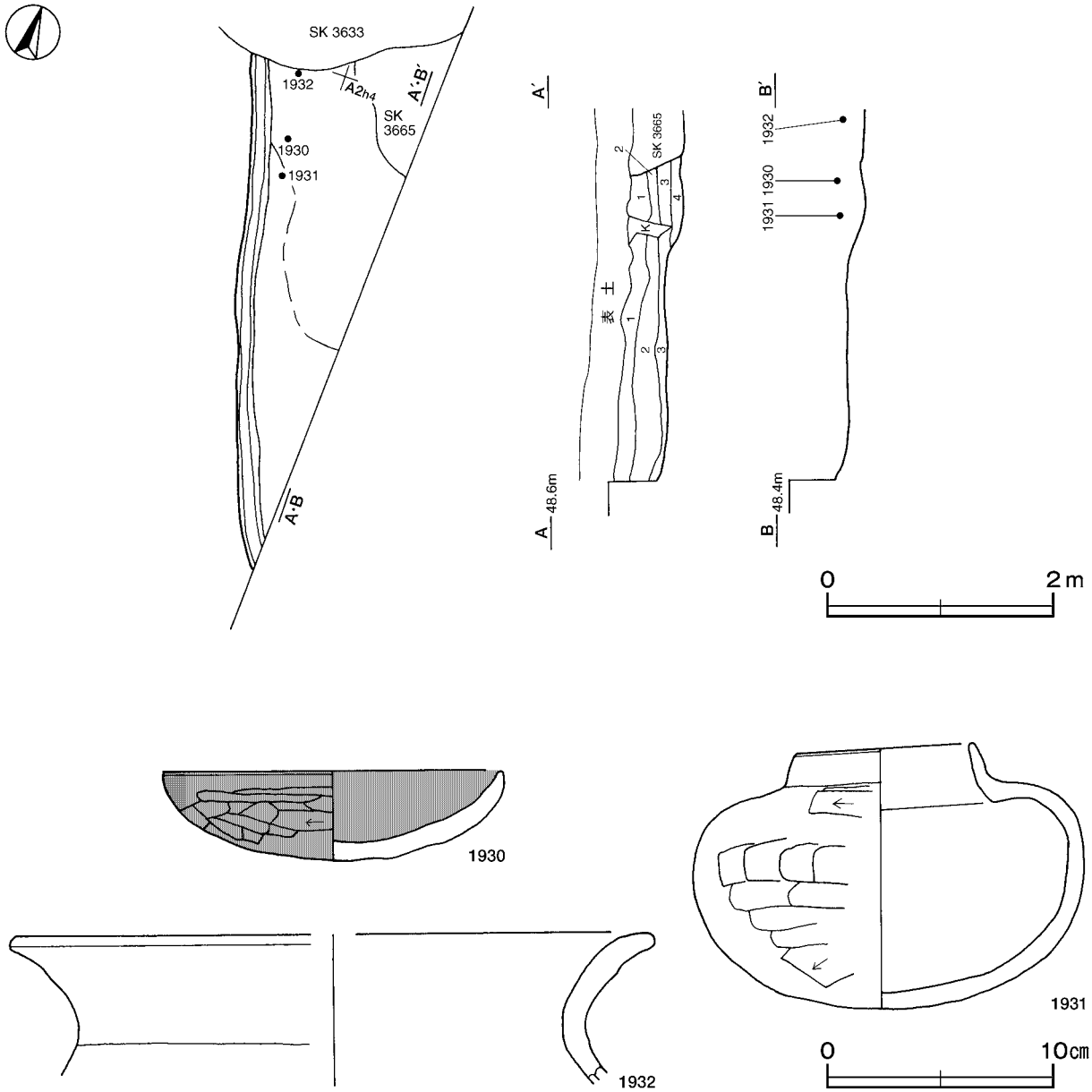
覆土　４層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片５点（坏２，壺１，甕２）が，西壁際の覆土下層から出土している。1930～1932は西壁北部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉と考えられる。



第53図　第343号住居跡・出土遺物実測図

第343号住居跡出土遺物観察表（第53図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1930	土師器	坏	15.0	3.8	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ナデ 外面ヘラ削り後ナデ	覆土下層	95%　PL62
1931	土師器	壺	7.8	11.9	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 底部外面ヘラ削り後ナデ	覆土下層	95%　PL66
1932	土師器	甕	[27.8]	(6.7)	－	石英・長石	にぶい褐	普通	口縁部外面横ナデ	覆土下層	5％

第347号住居跡（第54～56図）

位置　西部３区中央部のＢ２d9 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第346・348・360号住居に掘り込まれている。

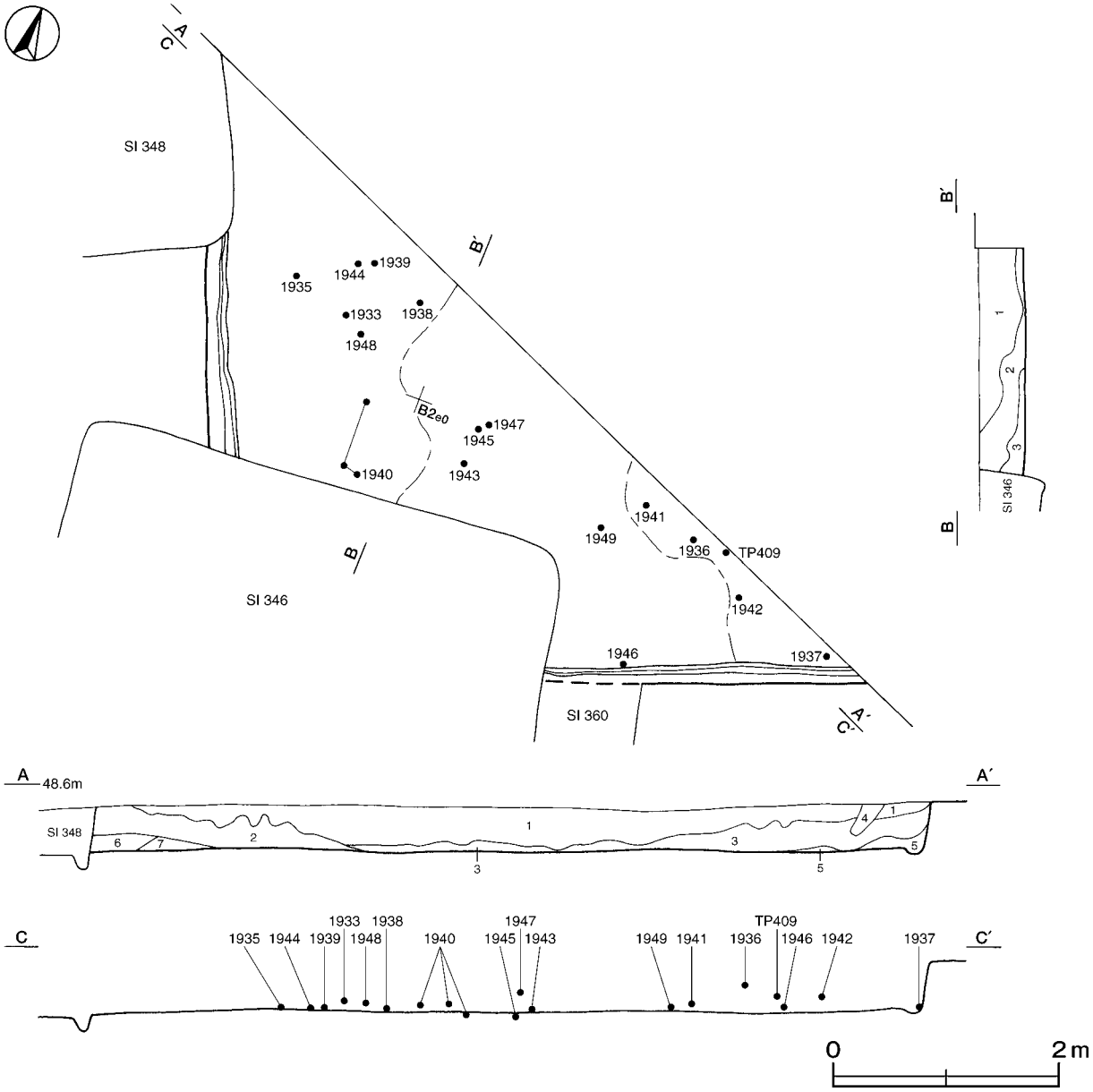
規模と形状　北東部が調査区域外に延びているため，確認された範囲は長軸5.80m，短軸5.70mである。平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向は，N－23°－Wである。壁高は38～49㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が南壁・西壁下に確認されている。

覆土　７層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

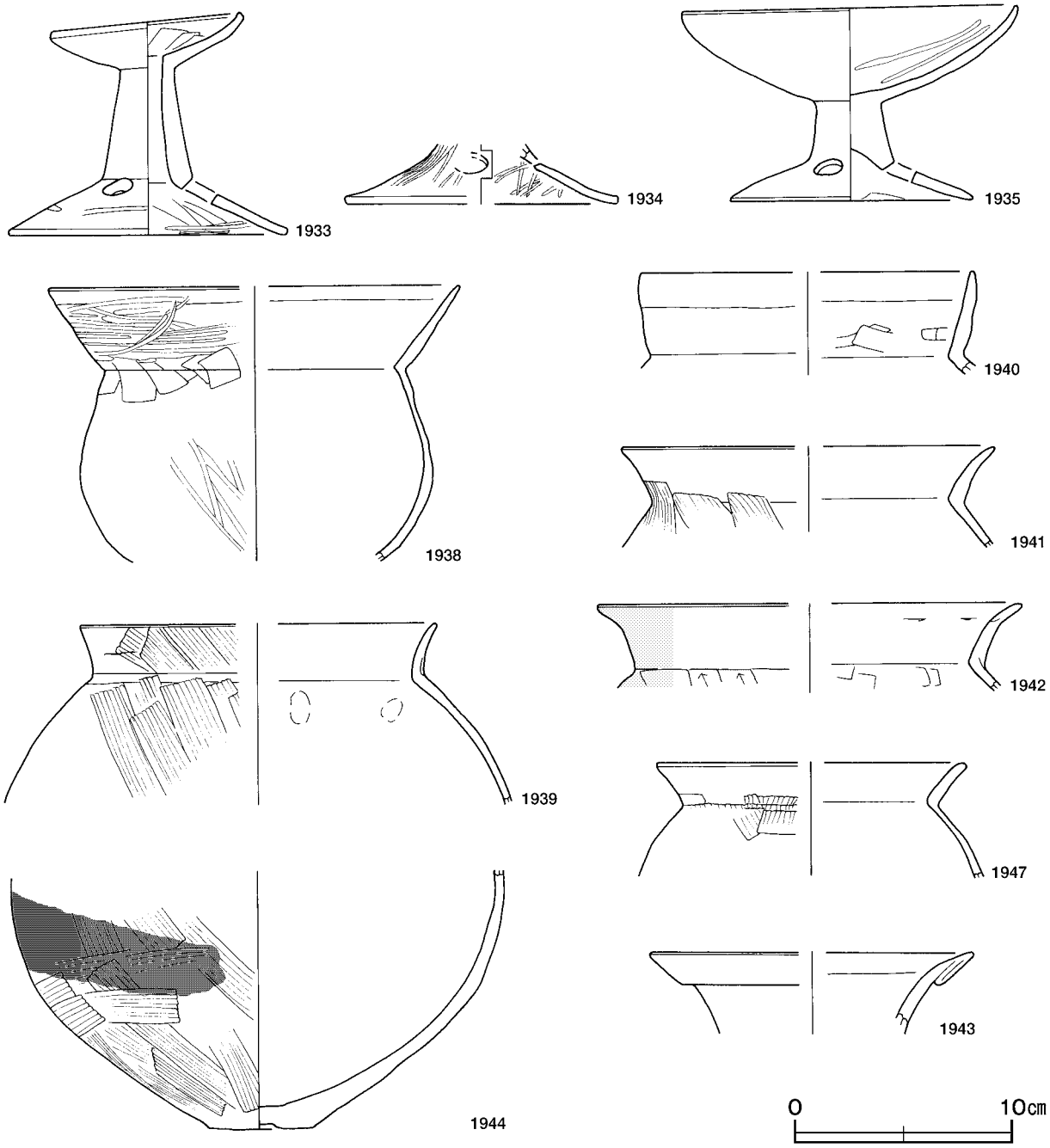
1　黒　褐　色　ロームブロック・砂質粘土微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量，砂質粘土微量
6　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック微量



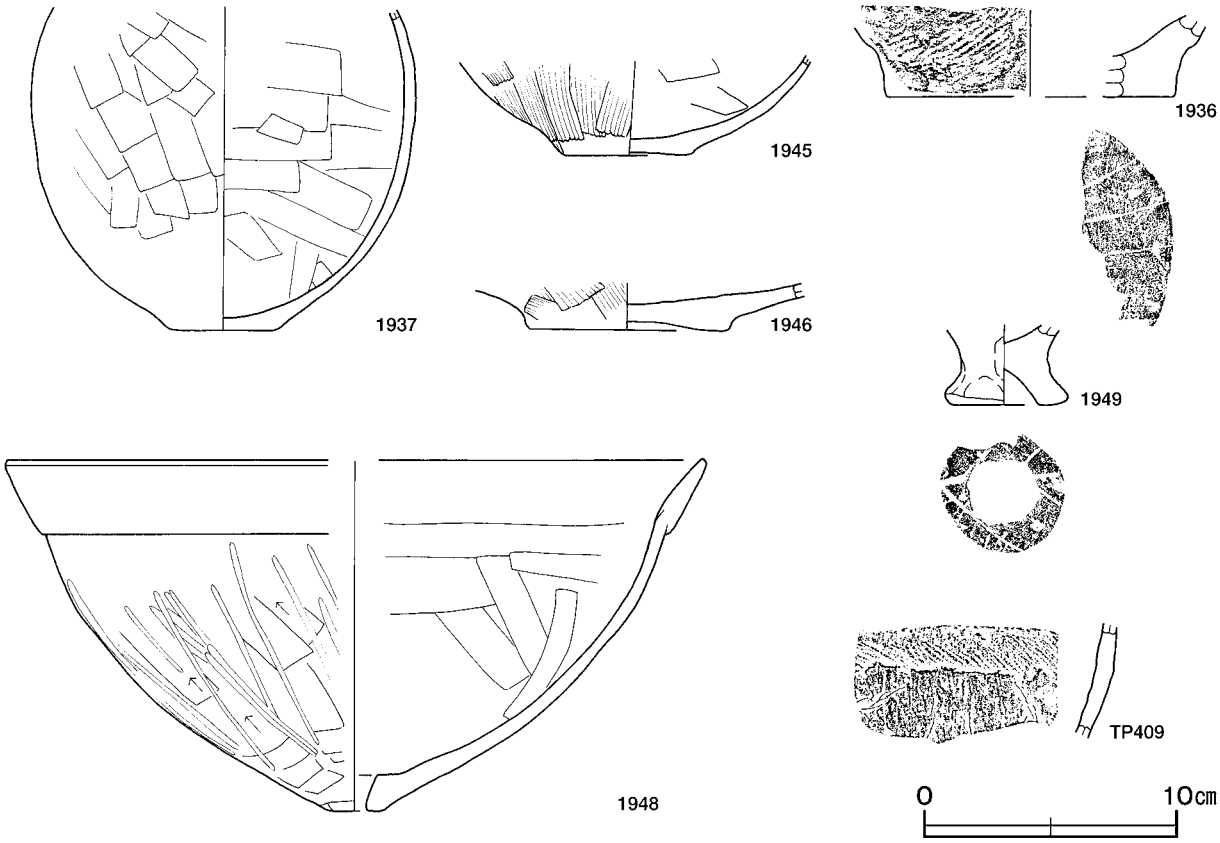
第54図　第347号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片481点（坏５，器台２，高坏３，甕470，甑１），ミニチュア土器１点が，中央部から出土している。また，流れ込んだ弥生土器片39点，須恵器片２点（甕）も出土している。土器片は全域にわたり出土しているが，破片がほとんどである。1935・1939・1944は西壁寄りの床面，1933・1938・1940・1948は西壁寄りの覆土下層から出土している。さらに1940は近隣の破片が接合したものである。1943・1945・1947は中央部の覆土中層から床面にかけて出土している。1936・1941・1942・1946・1949・TP409は東部から出土している。そのうち1949は床面，1936・TP409は覆土中層，他は覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から４世紀末と考えられる。



第55図　第347号住居跡出土遺物実測図(1)



第56図　第347号住居跡出土遺物実測図(2)

第347号住居跡出土遺物観察表　（第55・56図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1933	土師器	器台	8.5	10.2	12.6	石英･長石･雲母･赤色粒子	橙	普通	器受部口唇部内・外面横ナデ　裾部内・外面ヘラ磨き	覆土下層	70%　PL65
1934	土師器	器台	－	(2.7)	[12.5]	石英･長石･雲母･赤色粒子	赤褐	普通	裾部３孔カ　裾部内・外面ヘラ磨き	覆土中	5％
1935	土師器	高坏	15.4	9.0	11.2	石英･長石･雲母	橙	普通	坏部ヘラ磨き　端部横ナデ　裾部３孔	床面	60%　PL65
1936	弥生土器	壺	－	(3.2)	[11.4]	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	底部木葉痕　胴部付加一種（付加２条）縄文施文	覆土中層	5％
1937	土師器	小形甕	－	(12.8)	4.4	石英・長石	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	20%
1938	土師器	甕	[18.8]	(12.7)	－	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　頸部ヘラナデ　体部外面ヘラ磨き　口縁部外面横ナデ後横方向のヘラ磨き	覆土下層	20%
1939	土師器	甕	[16.2]	(8.4)	－	石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外面９条１単位のハケ目後横ナデ　内面指頭痕	床面	15%
1940	土師器	甕	[15.4]	(4.7)	－	石英･長石･雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　頸部内面ヘラナデ	床面	5％
1941	土師器	甕	[17.2]	(4.7)	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　頸部ハケ目調整　体部内面ナデ	覆土下層	5％
1942	土師器	甕	[19.4]	(4.1)	－	石英	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　頸部外面ヘラ削り　頸部内面ヘラナデ	覆土下層	5％
1943	土師器	甕	[14.6]	(3.8)	－	石英・白色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	5％
1944	土師器	甕	－	(11.9)	4.8	石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面８条１単位のハケ目調整　底部内面ハケ目調整	床面	30%
1945	土師器	甕	－	(3.7)	5.3	石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内面ヘラナデ　体部外面８条１単位のハケ目調整　底部内面ヘラナデ	床面	5％
1946	土師器	甕	－	(1.9)	7.8	石英･長石･雲母	赤褐	普通	体部外面ハケ目調整	覆土下層	5％

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1947	土師器	甕	[14.2]	(5.3)	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　頸部外面ハケ目調整　内面ナデ	覆土中層	5％
1948	土師器	甑	[27.5]	13.9	2.1	石英・長石	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ヘラナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	覆土下層	20%
1949	ﾐﾆﾁｭｱ土器	－	－	(3.2)	4.9	石英・長石・雲母	黄褐	普通	体部内・外面ナデ　外面指頭痕	床面	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP409	土師器	甕	石英･長石･雲母	橙	普通	ハケ目調整　粘土貼付け	覆土中層	PL83

第348号住居跡（第57～59図）

位置　西部４区西部のＢ２d8 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第347号住居跡を掘り込み，第71号溝に掘り込まれている。

規模と形状　北東部が調査区域外に延びているため，確認されたのは南北軸8.10m，東西軸7.93mである。平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はＮ－26°－Ｗである。壁高は35～37㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は確認された範囲で全周している。Ｐ5 周辺をＬ字状に囲むように幅72㎝，高さ４㎝ほどの高まりが確認されている。

ピット　６か所。Ｐ1 ～Ｐ3 は深さ87㎝ほどで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ4 ・Ｐ5 は深さ30～31㎝で，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ6 の深さは26㎝で，性格は不明である。

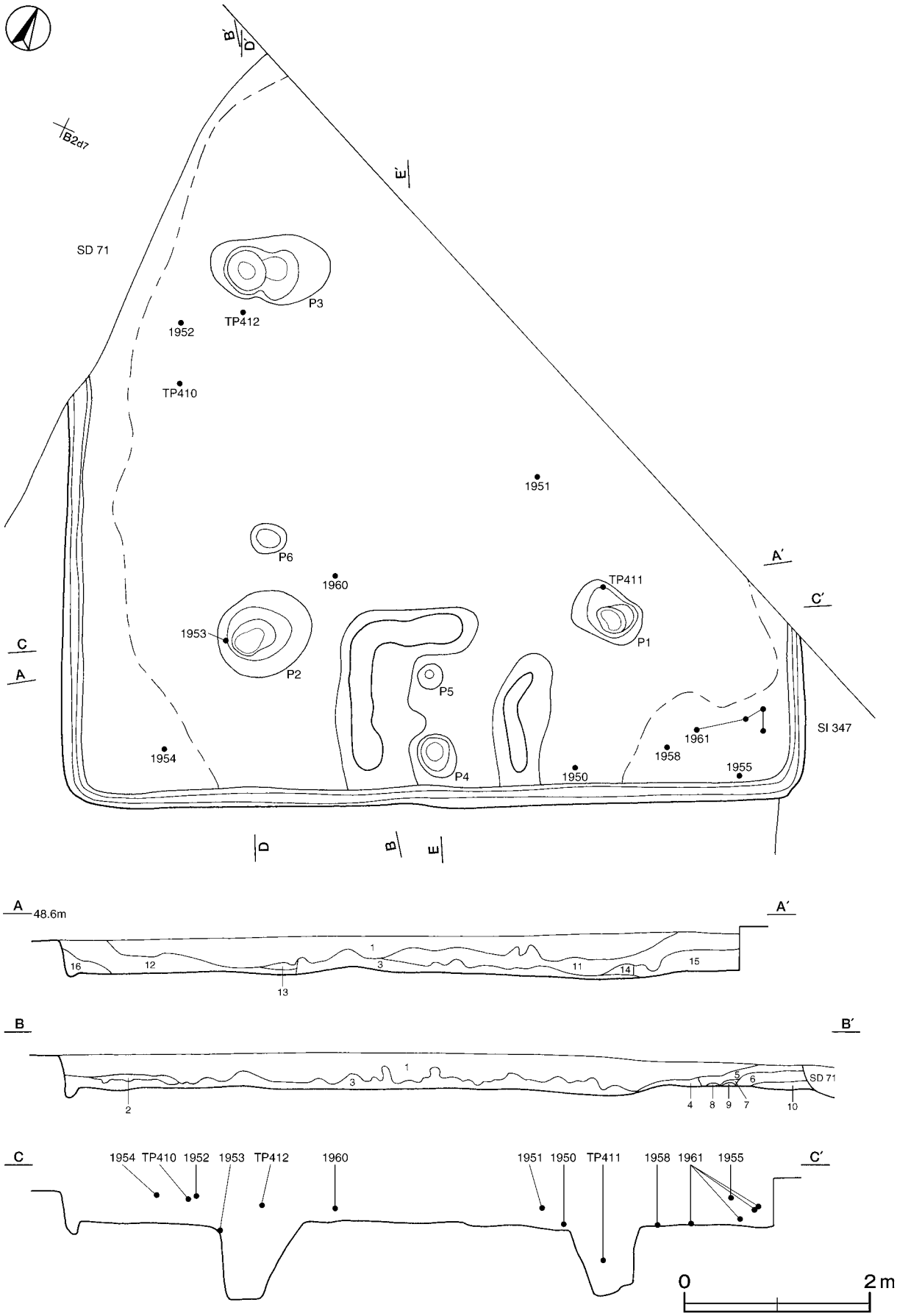
覆土　16層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

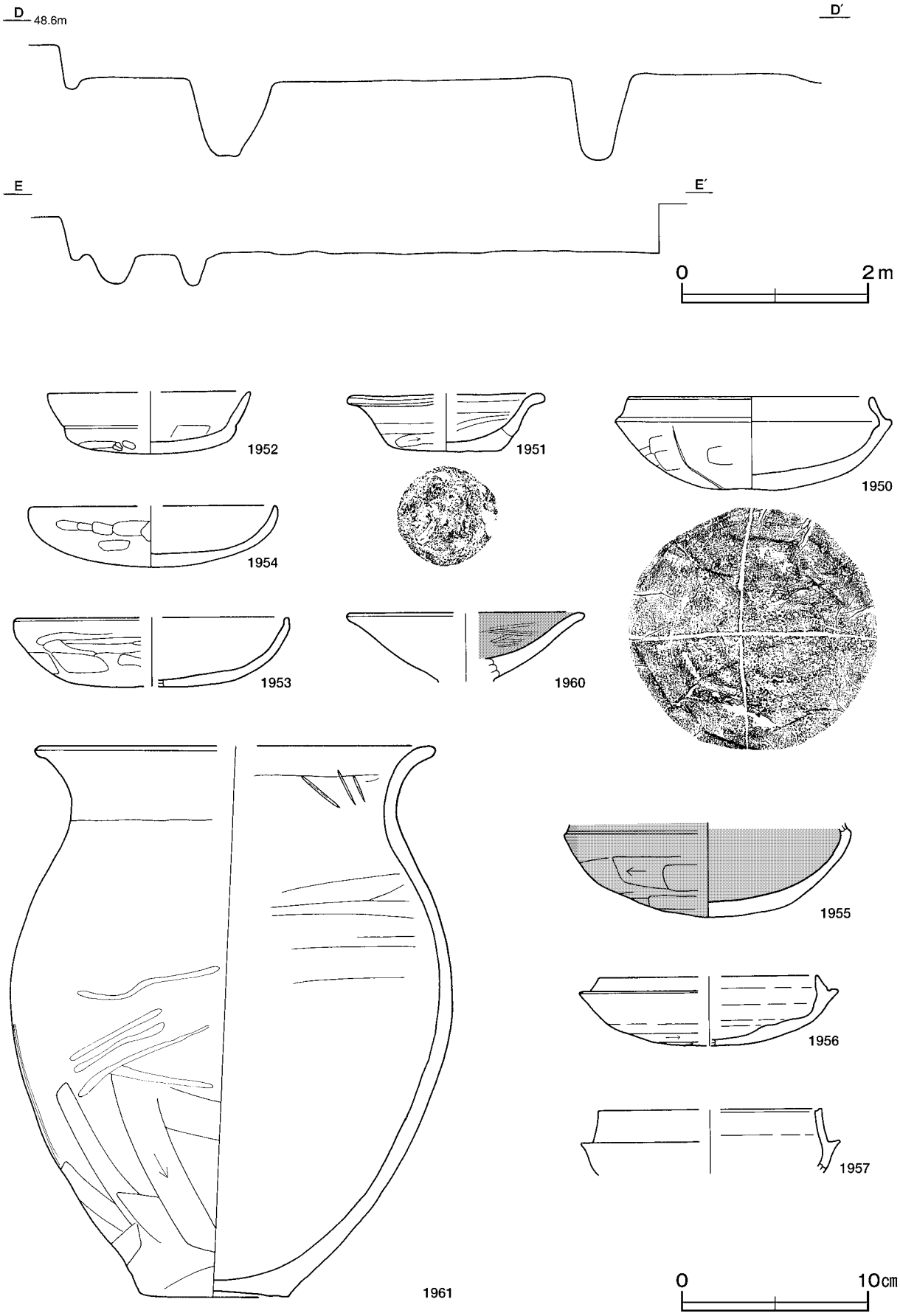
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量，焼土ブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ロームブロック･焼土ブロック･粘土ブロック微量
6　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土ブロック微量
7　極 暗 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子・粘土ブロック微量
8　暗　褐　色　ロームブロック微量
9　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
10　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・粘土ブロック微量
11　黒　褐　色　ローム粒子少量
12　暗　褐　色　ロームブロック少量・焼土粒子微量
13　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
14　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物微量
15　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
16　極 暗 褐 色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片1010点（坏206，高坏８，甕795，甑１），須恵器片31点（坏２，蓋９，甕20）が，南東コーナー部を中心として出土している。また，流れ込んだ弥生土器片113点，縄文土器片１点，土師器片１点（椀），須恵器片２点（高台付坏），石製品１点（小玉），土製品２点（支脚）も出土している。1950・1955・1958・1961は南東コーナー部の覆土中層から床面にかけて出土している。そのうち1961は破片が接合したものである。1951・1960は中央部の覆土下層，1954は南西コーナー部の覆土中層，1953はＰ2 の覆土下層からそれぞれ出土している。1952・TP410・TP412は西壁中央部付近の覆土中層から下層にかけて，TP411はＰ1 の覆土中層からそれぞれ出土している。

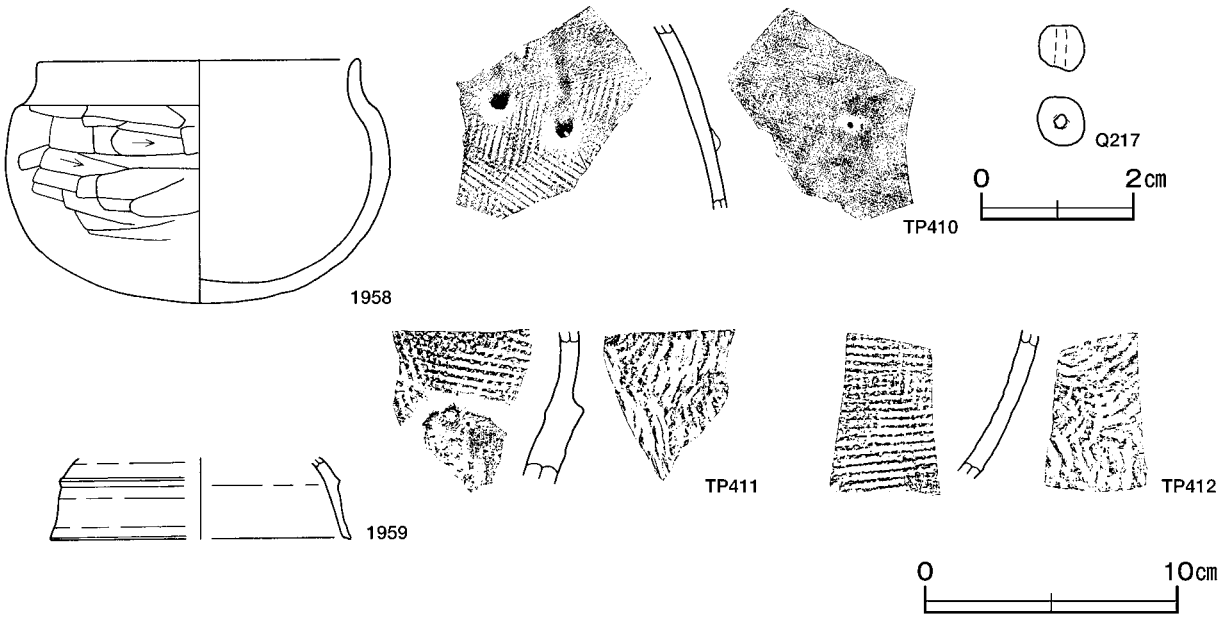
所見　時期は，出土土器から６世紀後葉と考えられる。



第57図　第348号住居跡実測図



第58図　第348号住居跡・出土遺物実測図



第59図　第348号住居跡出土遺物実測図

第348号住居跡出土遺物観察表（第58・59図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1950	土師器	坏	13.0	5.1	－	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ナデ　外面ヘラ削り後ナデ	覆土下層	70%　PL62　ヘラ書き
1951	土師器	坏	[9.8]	3.1	5.8	石英・長石・赤色粒子	黒	普通	口縁部ナデ　体部内面ヘラナデ　外面ヘラ削り	覆土下層	70%　PL62
1952	土師器	坏	[10.3]	3.3	－	石英・長石・雲母	灰黄	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラナデ　底部ヘラ削り後ナデ	覆土中層	60%　PL62
1953	土師器	坏	[14.6]	3.7	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　体部内面ナデ	貯蔵穴	40%
1954	土師器	坏	[13.0]	3.2	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ナデ　外面ヘラ削り	覆土中層	40%
1955	土師器	坏	－	(5.0)	－	石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中層	40%
1956	須恵器	坏	[11.7]	2.7	－	石英・白色粒子	灰	普通	ロクロ成形　体部下端回転ヘラ削り	覆土中	30%
1957	須恵器	坏	[12.0]	(3.4)	－	石英・白色粒子	灰	普通	ロクロ成形　ナデ	覆土中	5％
1958	土師器	椀	12.6	9.6	－	石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ	床面	95%　PL64
1959	須恵器	蓋	[12.0]	(3.2)	－	石英・白色粒子	灰	普通	ロクロ成形　ナデ	覆土中	5％
1960	土師器	高坏	[12.6]	(3.5)	－	石英・長石・雲母	黒褐	普通	口縁部外面横ナデ　体部外面ナデ　体部内面ヘラ磨き	覆土下層	40%
1961	土師器	甕	[20.7]	29.1	8.0	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ磨き　ヘラ削り　体部内面ヘラナデ	床面	60%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP410	須恵器	甕	長石	灰	普通	体部外面格子叩き　自然釉	覆土中層	PL83
TP411	須恵器	甕	長石	灰	普通	体部外面格子叩き　内面同心円状当具痕	覆土下層	PL83
TP412	須恵器	甕	長石	灰	普通	体部外面格子叩き　内面同心円状当具痕	覆土下層	PL83

番号	器種	径	厚さ	重量	材質	手法の特徴	出土位置	備考
Q217	小玉	0.62	0.57	0.25	頁岩	全面研磨　孔径0.12cm	覆土中	PL89

第351号住居跡（第60・61図）

位置　西部４区中央部のＢ２g8 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第349・350号住居，第3705・3706・3708・3715・3717号土坑，第72号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.88m，短軸4.36mの方形で，主軸方向はＮ－40°－Ｗである。壁高は９～15㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉１東側の硬化が著しい。

炉　２か所。炉１は中央部に位置し，長径100㎝，短径26㎝の不整楕円形である。炉２は北部に位置しているが，第349号住居に掘り込まれているため，確認された範囲は長径60㎝，短径20㎝の不整楕円形と推定される。炉１・２はともに床面をにわずかに皿状に掘りくぼめられた地床炉である。炉床は赤変している。

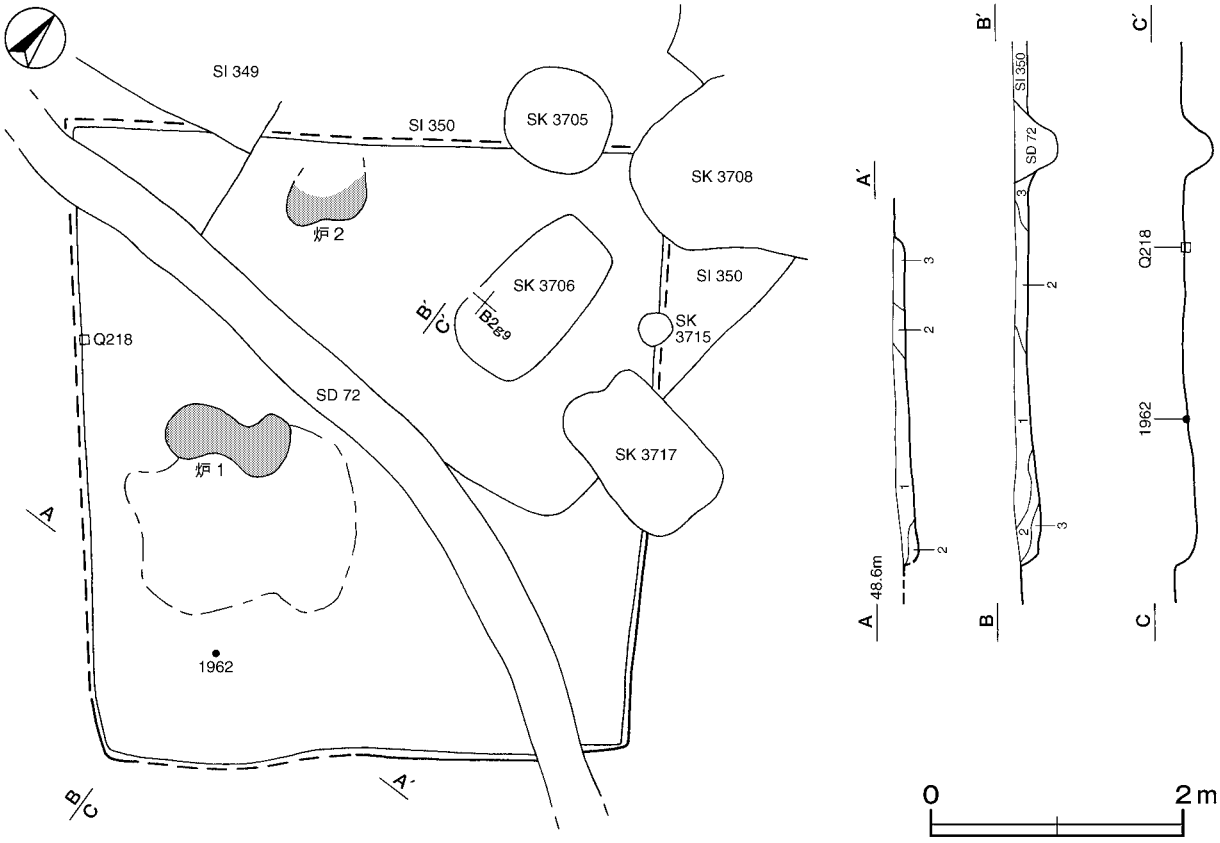
覆土　３層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

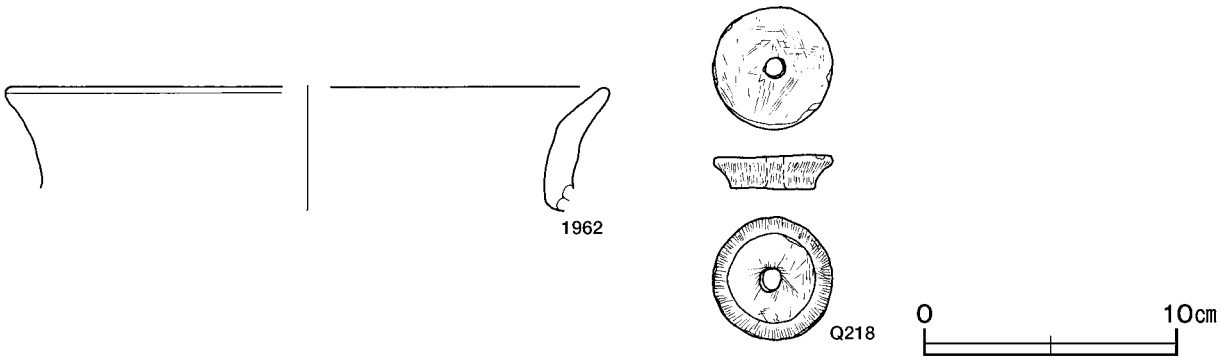
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片69点（坏７，甕62），石製品１点（紡錘車）が，中央部からやや南壁にかけて多く出土している。ほとんどが細片で，図示できたのはわずかである。また，流れ込んだ弥生土器片11点，須恵器片２点（坏），石製品１点（不明）も出土している。1962は南コーナー部の床面から出土している。Q218は西壁際床面から出土している。

所見　時期は，重複関係及び出土土器や住居の形態から，５世紀代と考えられる。



第60図　第351号住居跡実測図



第61図　第351号住居跡出土遺物実測図

第351号住居跡出土遺物観察表（第61図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1692	土師器	甕	[23.5]	(4.9)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	床面	5％

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q218	紡錘車	4.76	0.76	1.26	43.5	滑石	全面研磨	覆土中	PL88

第352号住居跡（第62～64図）

位置　西部４区西部のＢ３ｆ2 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　北壁と東壁が調査区域外に延びているため，確認された範囲は，長軸4.63m，短軸2.95mである。平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はＮ－８°－Ｗである。壁高は50cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が確認された範囲で全周している。

ピット　深さ42cmで，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

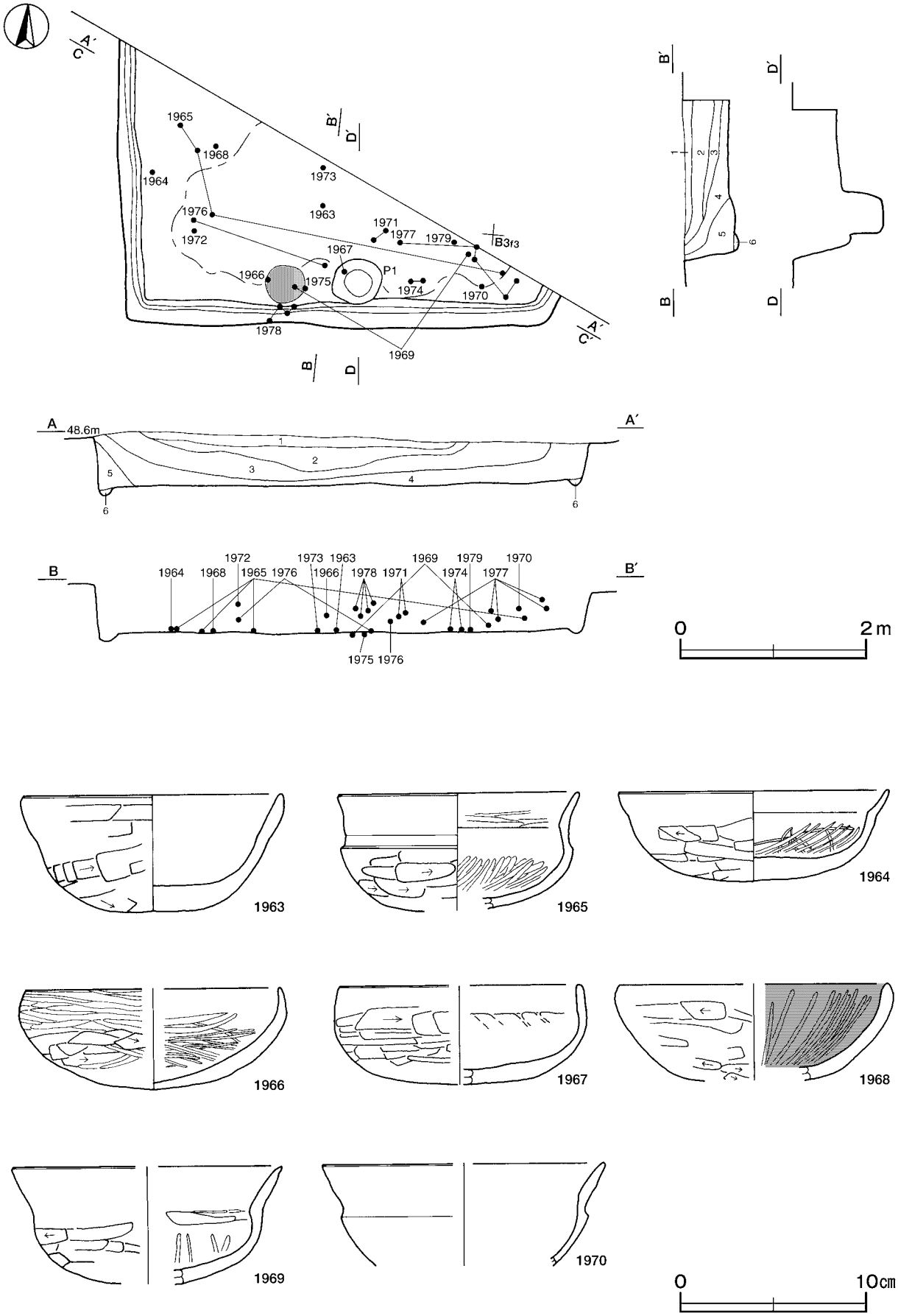
覆土　６層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

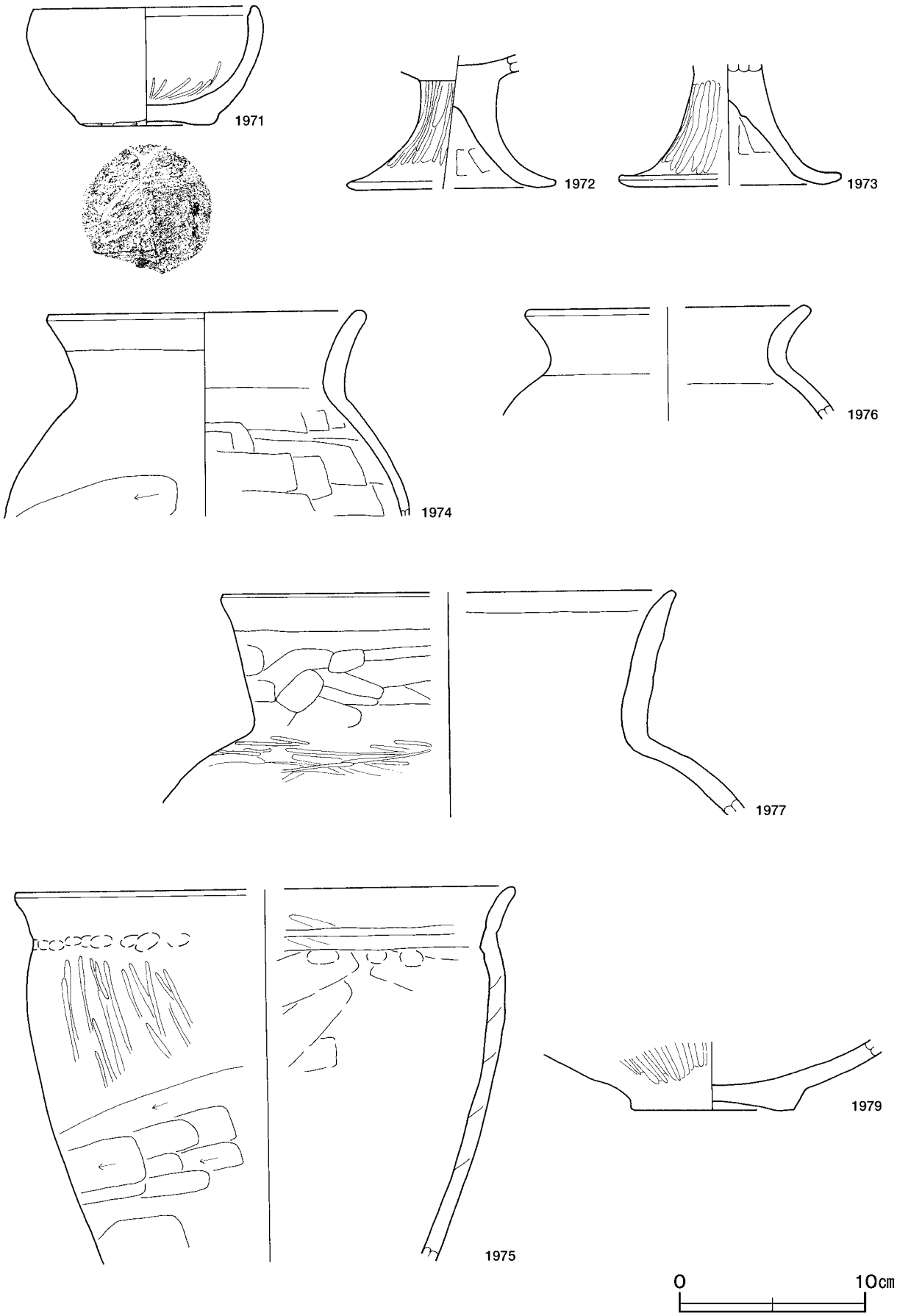
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片783点（坏163，器台２，高坏３，甕614，台付甕１），石製品１点（剣形模造品）が全域から散在して出土している。また，流れ込んだ弥生土器片107点，土師器片１点（椀），須恵器片９点（甕），粘土塊も出土している。1964・1965・1968・1972・1976は西壁中央部付近の覆土中層から床面にかけて966・1967・1969～1971・1974・1975・1977・1978・1979は南壁付近の覆土中層から床面にかけてまとまって，1963・1973は中央部の床面からそれぞれ出土している。このうち1965・1969・1976は離れた位置から出土した破片が，1978は近隣でまとまって出土した破片がそれぞれ接合したものである。土器の出土状況は，住居廃絶に伴い，南西方向から一括して投棄されたものと考えられる。南壁中央部前に直径40cmの粘土塊が出土しているが，性格は不明である。

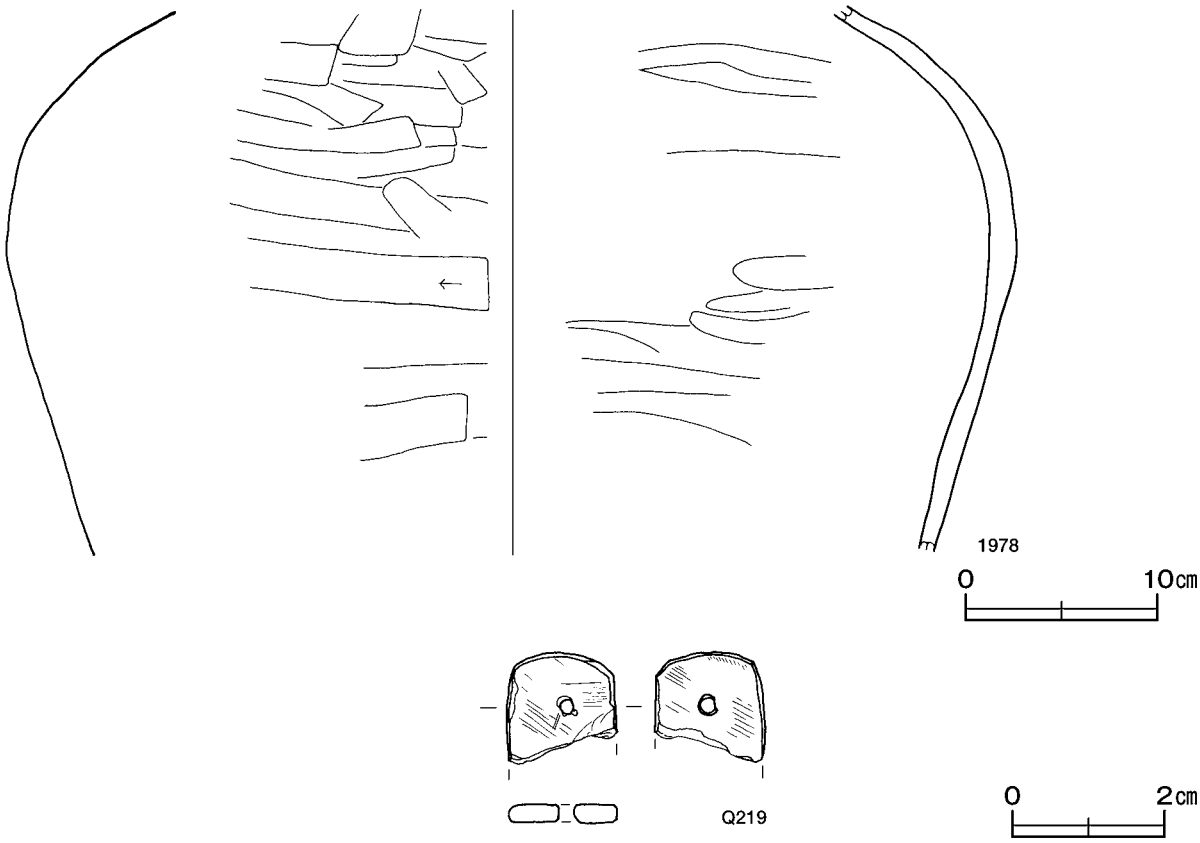
所見　時期は，出土土器から６世紀前半と考えられる。



第62図　第352号住居跡・出土遺物実測図



第63図　第352号住居跡出土遺物実測図(1)



第64図　第352号住居跡出土遺物実測図(2)

第352号住居跡出土遺物観察表（第62～64図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1963	土師器	坏	13.8	6.3	－	石英・長石・雲母	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	床面	95%　PL62
1964	土師器	坏	14.4	4.9	－	赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ヘラ磨き　外面ヘラ削り　底部外面ヘラ削り後ナデ	覆土下層	75%　PL62
1965	土師器	坏	12.8	(6.4)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部内・外面ナデ　体部外面ヘラ削り　体部内面ヘラ磨き	床面	60%　PL63
1966	土師器	坏	[13.6]	5.4	－	石英・長石・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内面横ナデ　外面磨き　体部内面ヘラ磨き　外面ヘラ削り	覆土中層	40%
1967	土師器	坏	[12.8]	5.3	－	石英・白色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　底部ヘラ削り	覆土下層	40%
1968	土師器	坏	[14.4]	(5.2)	－	石英・白色粒子・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	覆土下層	
1969	土師器	坏	[15.6]	(6.3)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	床面	20%
1970	土師器	坏	[15.2]	(5.5)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中層	15%
1971	土師器	椀	11.8	6.4	7.1	石英・長石	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ヘラ磨き	覆土下層	55%
1972	土師器	高坏	－	(7.1)	[11.2]	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き　脚部内面ヘラナデ	覆土中層	40%
1973	土師器	高坏	－	(6.5)	[12.0]	石英・長石・赤色粒子	赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き　脚部内面ヘラナデ	床面	30%
1974	土師器	甕	16.8	(11.1)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	床面	20%
1975	土師器	甕	[26.7]	(20.2)	－	石英・長石・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　頸部内・外面指頭痕　体部外面ヘラ磨き，ヘラ削り　内面ヘラナデ	床面	20%
1976	土師器	甕	[14.7]	(6.1)	－	石英・長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ナデ	覆土下層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1977	土師器	甕	[24.2]	(11.0)	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　頸部外面ナデ　ヘラ磨き　内面ヘラナデ	覆土下層	15%
1978	土師器	甕	－	(28.5)	－	石英・長石・赤色粒子	黒褐	普通	体部外面ヘラ削り　ヘラナデ　体部内面ヘラナデ	覆土中層	5％
1979	土師器	甕	－	(3.7)	8.8	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き　底部内面ヘラナデ　底部外面ヘラ削り	床面	5％

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q219	剣形模造品	(1.47)	1.43	0.26	0.20	(1.00)	滑石	基部のみ残存　基部に１孔　研磨顕著	覆土中	PL89

第354号住居跡（第65・66図）

位置　西部４区西部のＢ３ｉ2 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第355･369号住居跡を掘り込み，第149･356号住居，第3704・3712･3713号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南西コーナー部は，平成15年度の調査区へ延びている。長軸6.59m，短軸6.53mの方形で，主軸方向はＮ－38°－Ｗである。壁高は19～29㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部までが120㎝，袖部幅が120㎝である。袖部は床面と同じ高さの地山の上に，細礫の混じった粘土を用いて構築されている。火床部は床面を14㎝ほど掘りくぼめており，火床面及び内壁は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外へ30㎝掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　砂質粘土少量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
2　極 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，白色粒子微量
3　灰　褐　色　砂粒中量，粘土ブロック・ローム粒子微量
4　にぶい黄褐色　砂粒中量，焼土ブロック少量，粘土ブロック微量
5　にぶい黄褐色　焼土粒子・砂粒少量，白色粒子微量
6　暗 赤 褐 色　砂質粘土ブロック･焼土粒子･砂粒･白色粒子微量
7　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・砂粒・白色粒子微量
8　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，砂粒・白色粒子微量
9　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子・砂粒・白色粒子微量
10　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
11　灰　黄　色　焼土ブロック，粘土多量，ロームブロック少量
12　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量
13　にぶい黄色　砂質粘土ブロック・ローム粒子中量
14　黒　褐　色　ロームブロック・砂質粘土ブロック少量
15　明 黄 褐 色　ローム粒子少量，砂質粘土ブロック微量
16　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量
17　暗　褐　色　灰多量，ロームブロック少量
18　褐　　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
19　暗　褐　色　粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量
20　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・粘土ブロック・焼土粒子微量
21　暗 赤 褐 色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子・白色粒子微量
22　暗　褐　色　炭化物・粘土ブロック微量

ピット　６か所。Ｐ1 ～Ｐ3 は深さ59～73㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ4 は深さ24㎝で，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ5 ・Ｐ6 は深さ13～22㎝で，性格は不明である。

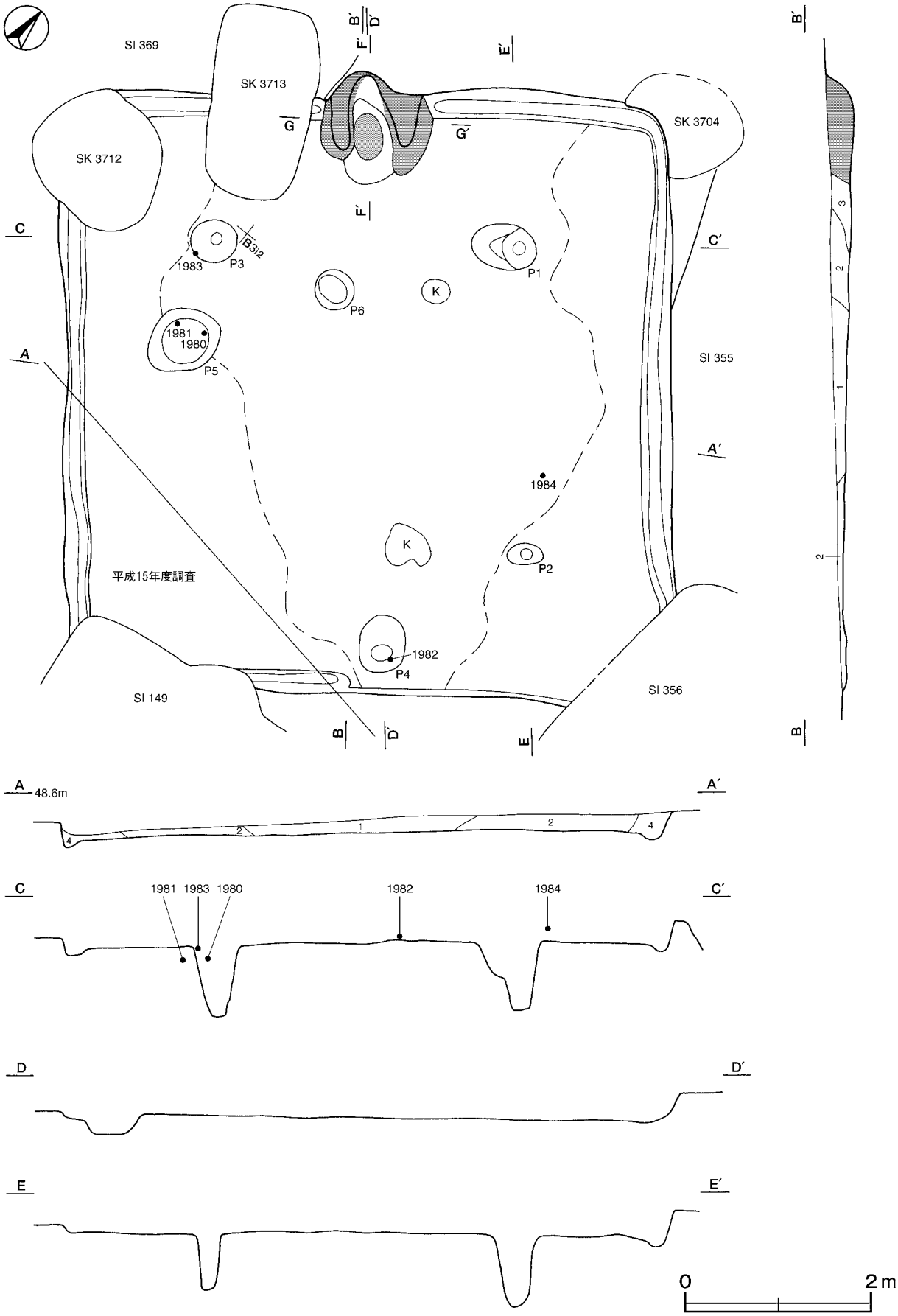
覆土　４層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

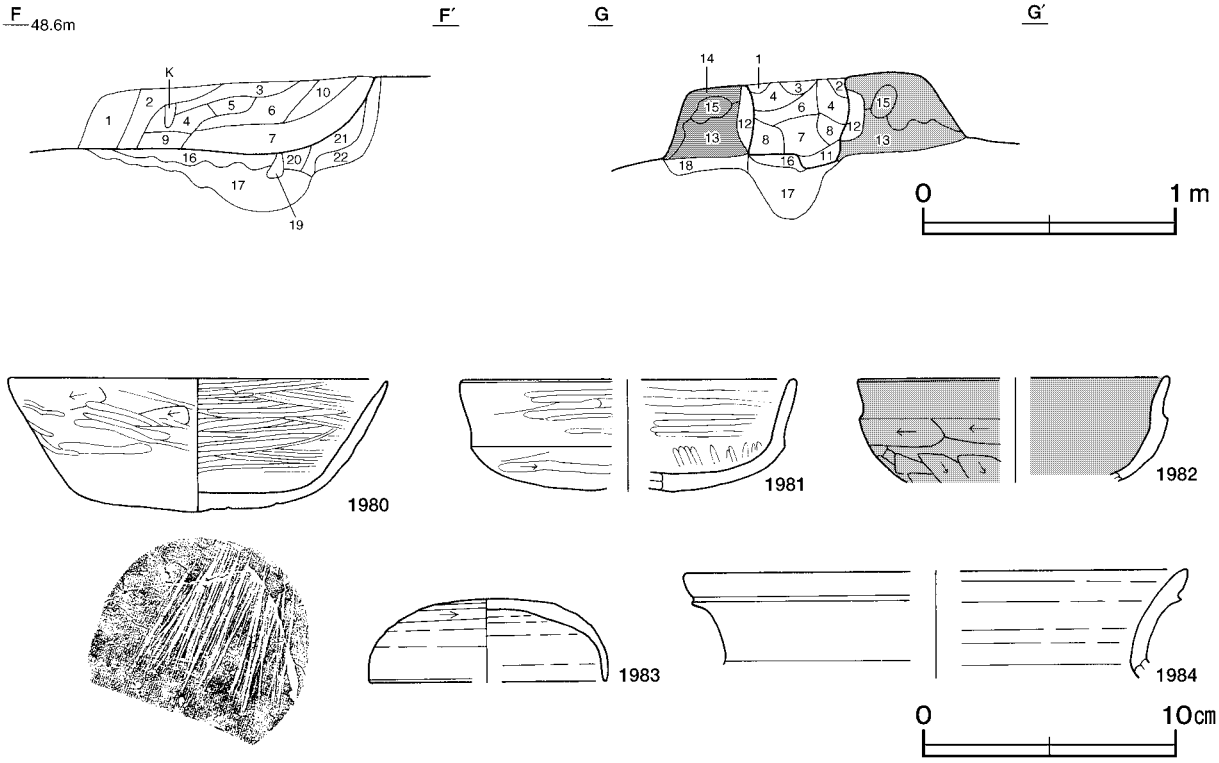
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
3　黒　褐　色　粘土ブロック･ローム粒子少量,焼土ブロック微量
4　極 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量

遺物出土状況　土師器片98点（坏75，甕22，甑１），須恵器片１点（甕）が，竈周辺や北東コーナー部を中心として出土している。また，流れ込んだ弥生土器片73点，須恵器19点（坏７，蓋１，甕11）も出土している。1983はＰ3，1980・1981はＰ5，1982はＰ4 からそれぞれ出土している。1984は東壁中央部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀中葉と考えられる。



第65図　第354号住居跡実測図



第66図　第354号住居跡・出土遺物実測図

第354号住居跡出土遺物観察表（第66図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1980	土師器	坏	14.8	5.2	8.8	雲母･赤色粒子	明赤褐	普通	体部内面ヘラ磨き　体部外面ヘラ削り後磨き　底部砥石転用	貯蔵穴	50%　PL63
1981	土師器	坏	[13.1]	(4.4)	－	石英･赤色粒子	赤	普通	口縁部内・外面横ナデ　横方向のヘラ磨き 体部内面放射状のヘラ磨き	貯蔵穴	30%
1982	土師器	坏	[12.2]	(4.1)	－	石英･雲母･長石･赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	15%
1983	須恵器	蓋	[9.2]	3.3	－	石英･白色粒子	灰	普通	体部内面ロクロ成形後ナデ　回転ヘラ削り	覆土中	40%
1984	須恵器	甕	[19.6]	(4.2)	－	石英・雲母・白色粒子	灰白	普通	ロクロ成形　ナデ	覆土中層	5％

第355号住居跡（第67・68図）

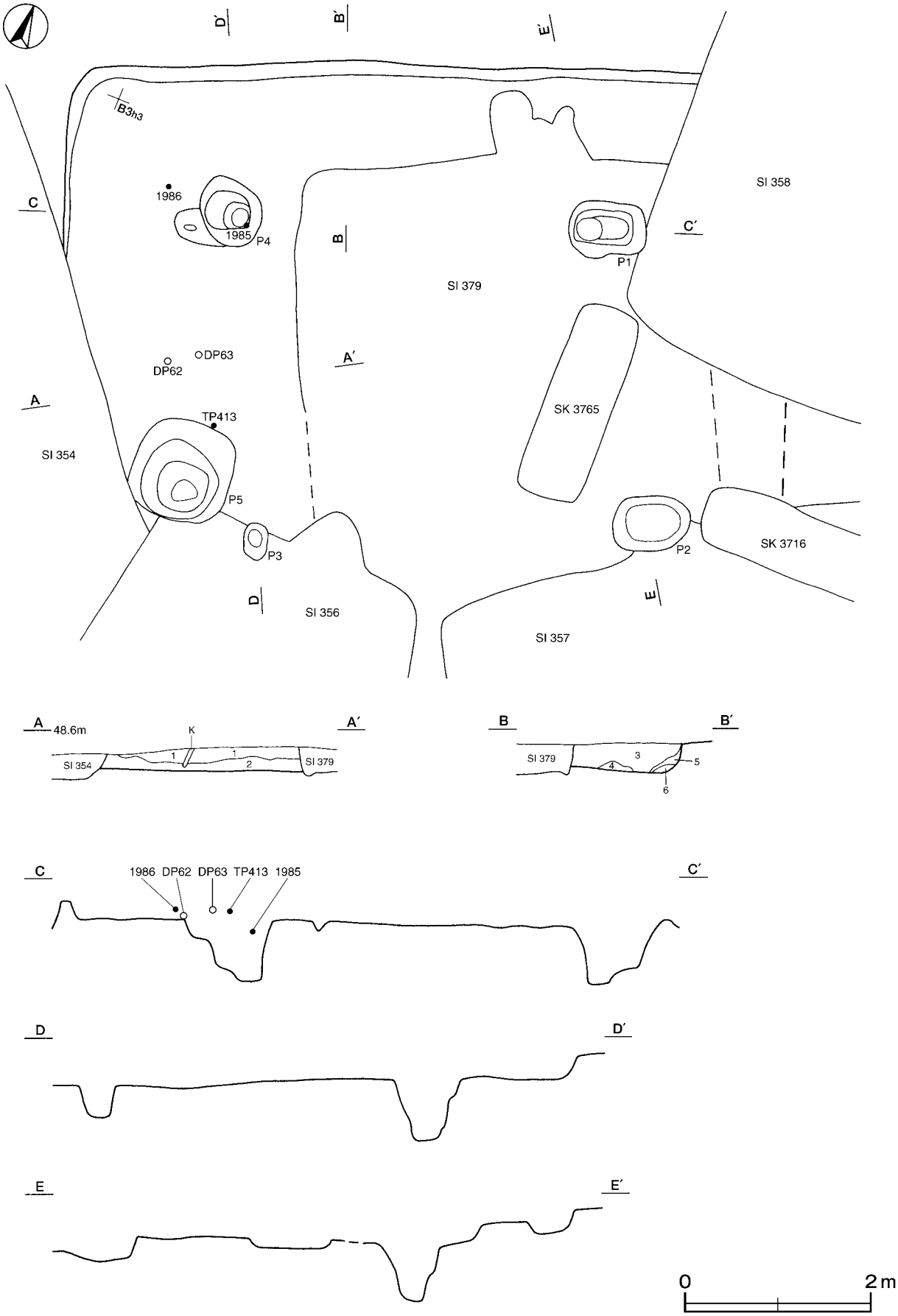
位置　西部４区西部のＢ３h3 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第354・356～358・379号住居，第3716・3765号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　確認できた範囲は長軸6.68m，短軸5.15mである。平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はN－23°－Wである。壁高は26～34cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦である。

ピット　５か所。P1 ～ P4 は深さ32～66cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5 は深さ13cmで，性格は不明である。



第67図　第355号住居跡実測図

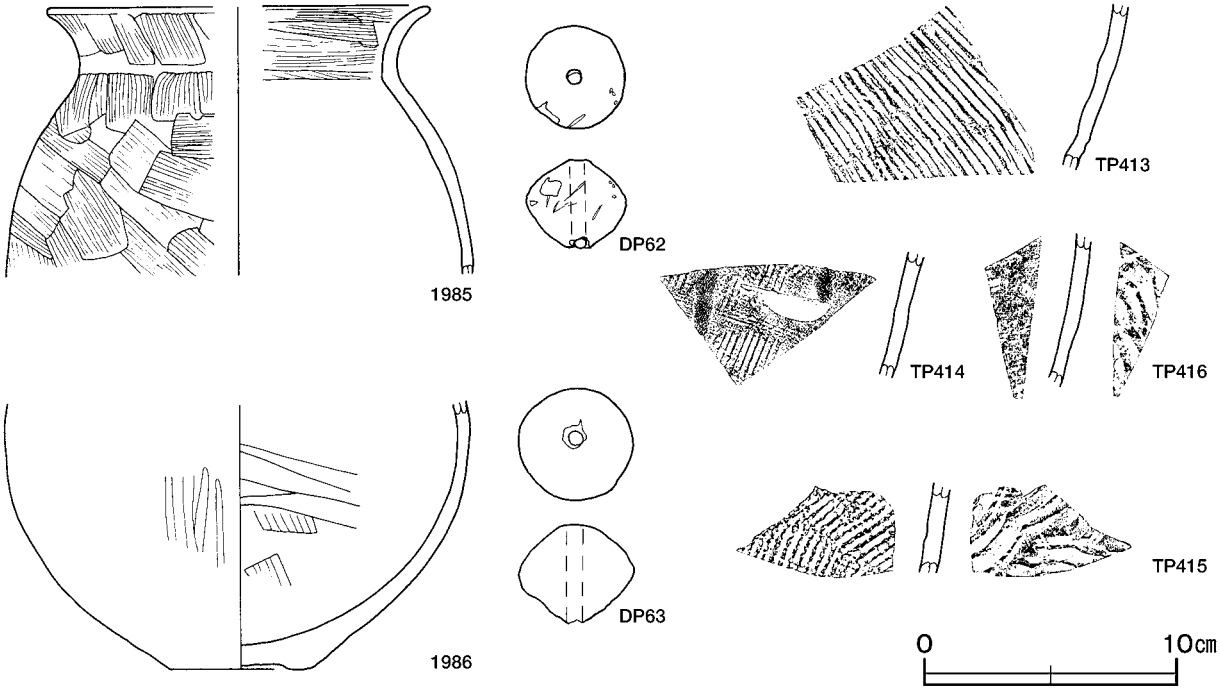
覆土　６層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　褐　　色　ロームブロック中量
5　褐　　色　ロームブロック多量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片699点（坏84，高坏３，甕609，甑２，台付甕１），土製品２点（土玉）が，西部から出土している。また，流れ込んだ弥生土器片150点，土師器片１点（高台付椀），須恵器片21点（坏８，甕13），瓦１点も出土している。1985はＰ４，1986は北西コーナー部の覆土下層から出土している。DP62・DP63，TP413は西壁中央部付近の覆土下層から床面にかけてそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。



第68図　第355号住居跡出土遺物実測図

第355号住居跡出土遺物観察表（第68図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1985	土師器	甕	[15.0]	(10.6)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内面ハケ目調整　外面ハケ目調整後横ナデ	Ｐ４覆土上層	10%
1986	土師器	甕	－	(10.5)	5.6	石英・長石・赤色粒子	赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き　体部内面ハケ目調整	覆土下層	30%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP413	須恵器	甕	長石	灰	普通	体部外面平行叩き	覆土下層	PL83
TP414	須恵器	甕	長石	灰	普通	体部外面平行叩き　自然釉	覆土中	PL83
TP415	須恵器	甕	長石	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き　内面同心円状当て具痕	Ｐ５覆土中	PL83
TP416	須恵器	甕	長石	灰	普通	体部外面格子叩き　自然釉　内面同心円状当て具痕	覆土中	PL83

番号	種別	径	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
DP62	土玉	3.9～4.0	3.6	0.5	石英	にぶい黄橙	普通	側面ナデ　片面穿孔　孔径0.75㎝	覆土下層	PL85
DP63	土玉	4.5～4.6	3.8	0.7	雲母	にぶい褐	普通	側面ナデ　片面穿孔　孔径0.56㎝	覆土下層	PL85

第357号住居跡（第69・70図）

位置　西部４区西部のＢ３ｉ５区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第355・367・379号住居跡を掘り込み，第3711・3716・3738号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.85m，短軸5.58mの方形で，主軸方向はＮ－33°－Ｗである。壁高は27㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が西コーナー部から西壁下及び東壁に確認されている。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで126㎝，袖部幅138㎝である。袖部は，地山を掘り残して基部とし，粘土粒子を含んだ土を貼り付けて構築されている。火床部幅は44㎝で，床面を８㎝掘りくぼめており，火床面は火熱を受けて赤変している。火床部には土師器の甕が伏せられた状態で出土している。煙道部は壁外へ64㎝掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック・砂質粘土・ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・白色粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子少量，ロームブロック微量
4　暗赤褐色　焼土ブロック少量，白色粒子微量
5　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，白色粒子微量
6　にぶい赤褐色　粘土ブロック少量，焼土粒子・白色粒子微量
7　にぶい赤褐色　粘土ブロック中量，焼土粒子少量
8　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒・白色粒子微量
9　暗赤褐色　粘土ブロック少量，焼土粒子微量
10　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子・白色粒子微量
11　暗赤褐色　焼土粒子中量，白色粒子微量
12　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・白色粒子微量
13　暗赤褐色　焼土ブロック少量，白色粒子微量
14　暗　褐　色　ロームブロック・砂質粘土粒子少量
15　褐　　色　ロームブロック多量，砂質粘土粒子少量
16　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量
17　暗　褐　色　ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量
18　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量
19　暗　褐　色　ロームブロック・砂質粘土ブロック中量
20　褐　　色　ロームブロック・砂質粘土ブロック多量
21　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
22　褐　　色　ロームブロック中量

ピット　12か所。Ｐ1～Ｐ4は深さ28～44㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ5は深さ38㎝で，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ6～Ｐ9は深さ44～53㎝で，立て替え前の主柱穴の可能性を想定することができる。Ｐ10～Ｐ12は深さ21～56㎝で，性格は不明である。東壁際に位置する８か所の小ピットは深さ７～14㎝で，壁柱穴と考えられる。

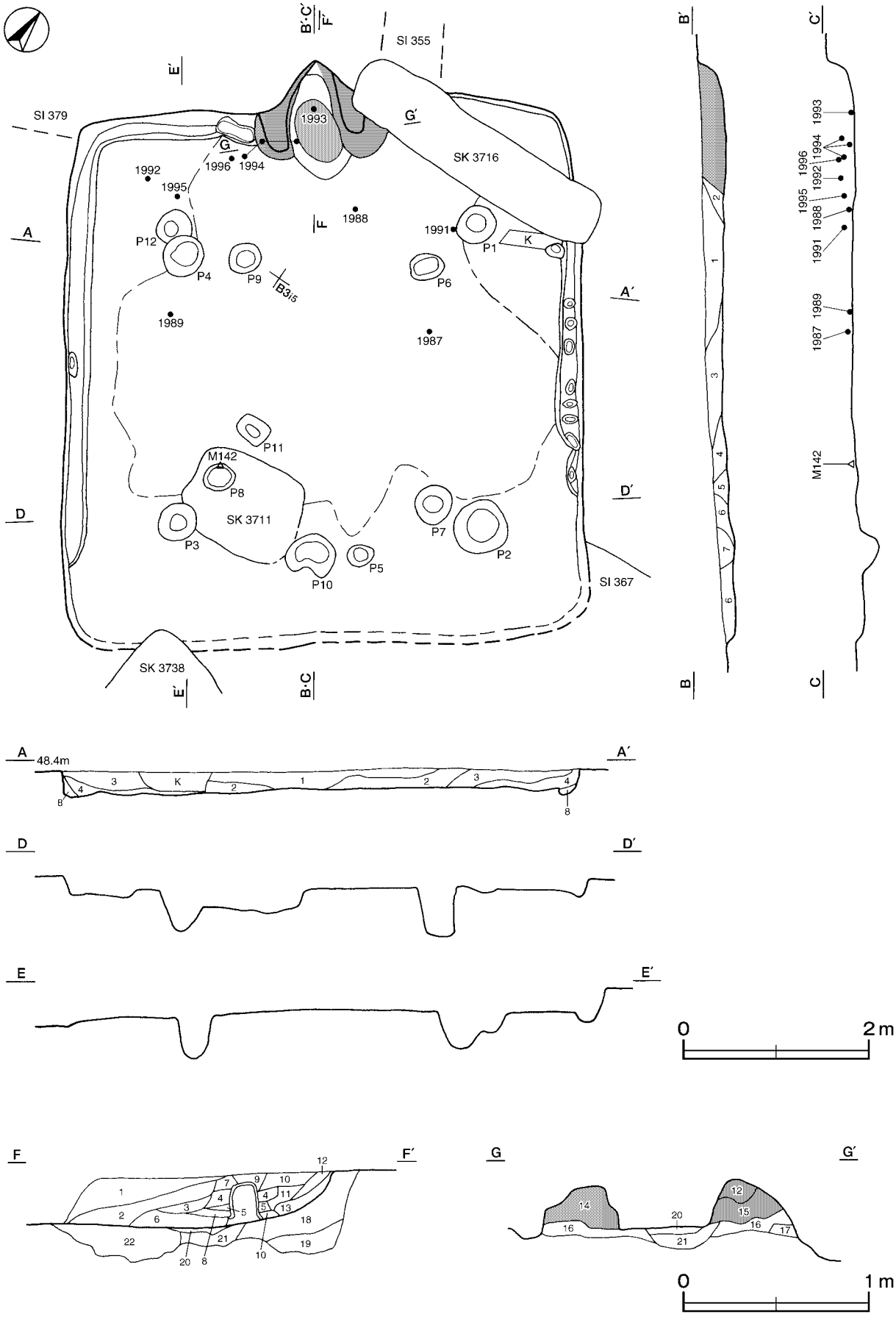
覆土　８層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

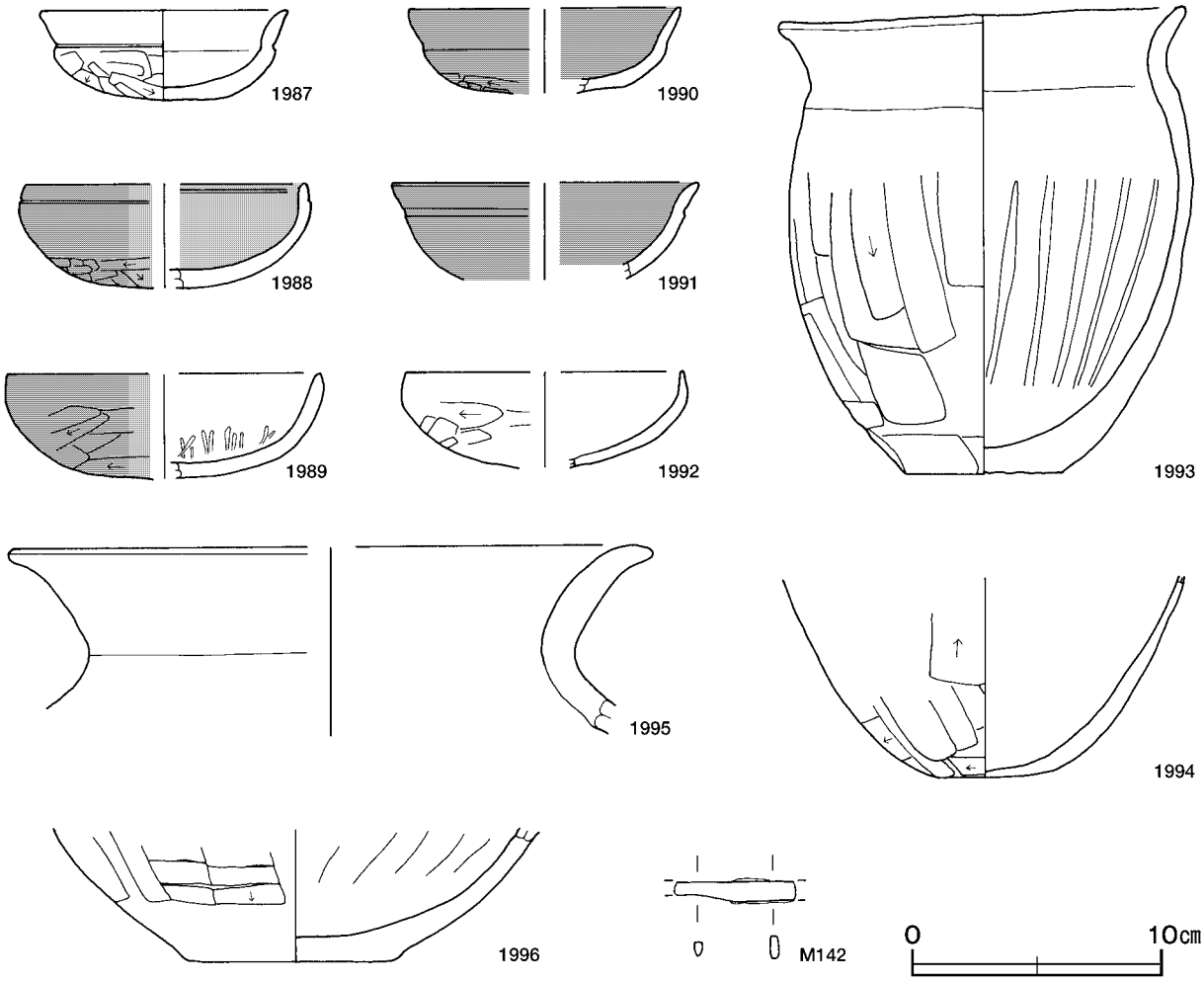
1　黒　褐　色　砂粒・ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・白色粒子少量
2　黒　褐　色　砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・白色粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量
7　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片496点（坏115，甕381）が，北西部を中心に散在して出土している。また，流れ込んだ弥生土器片39点，須恵器片11点（坏８，甕３），粘土塊４点，鉄製品３点（刀子１，不明２）も出土している。1993は竈火床部に伏せた状態で出土している。1987～1989，M142は中央部から，1991はＰ1付近の覆土下層からそれぞれ出土している。1994は竈内や竈手前の覆土中層から床面にかけて出土した破片がそれぞれ接合したものである。1992・1995・1996は北西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀中葉と考えられる。



第69図　第357号住居跡実測図



第70図　第357号住居跡出土遺物実測図

第357号住居跡出土遺物観察表（第70図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1987	土師器	坏	9.7	3.6	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ナデ　底部ヘラ削り	覆土下層	60%　PL63
1988	土師器	坏	[11.1]	4.1	－	石英･長石･白色粒子･赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	40%
1989	土師器	坏	[12.4]	4.1	－	白色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面横ナデ後磨き　外面横ナデ後削り	床面	20%
1990	土師器	坏	[10.8]	(3.4)	－	石英・白色粒子・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中	20%
1991	土師器	坏	[12.2]	(3.9)	－	石英･赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ナデ	覆土下層	10%
1992	土師器	坏	[11.0]	(3.8)	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中層	30%
1993	土師器	甕	16.1	18.9	6.3	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	床面	100%　PL68
1994	土師器	甕	－	(8.1)	4.4	石英･長石･雲母	明褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	40%
1995	土師器	甕	[25.5]	(7.5)	－	小石・石英	橙	普通	口縁部外面横ナデ	覆土下層	5％
1996	土師器	甕	－	(5.4)	8.4	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ　体部外面ヘラ削り　底部ヘラ削り後ナデ	覆土中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M142	刀子ヵ	(4.85)	(0.80)	0.32～0.38	(4.26)	鉄	断面方形	覆土下層	PL90

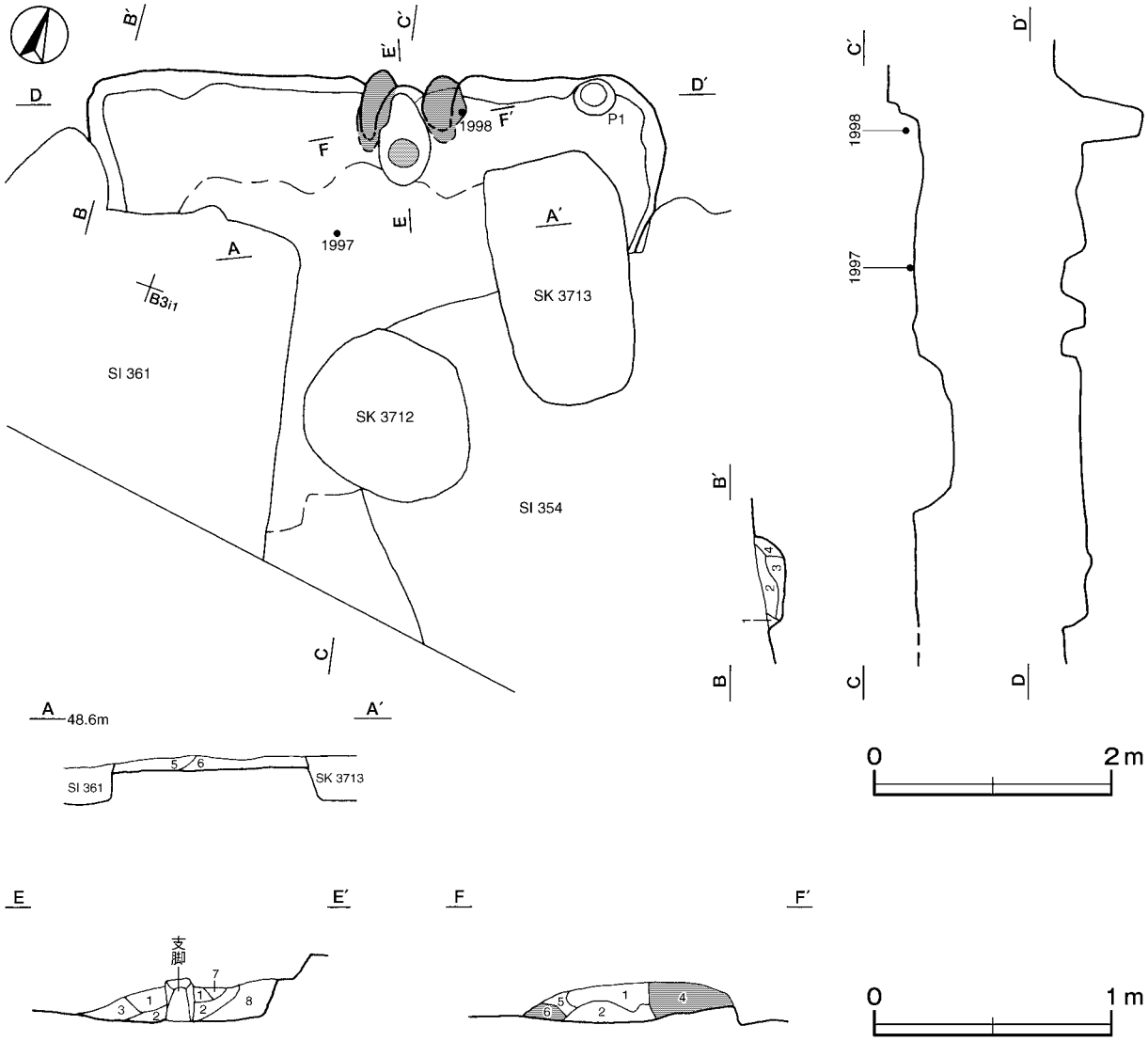
第369号住居跡（第71・72図）

位置　調査区西部４区のＢ３h1 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第354・361号住居，第3712・3713号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　確認できたのは長軸4.80m，短軸4.34mである。平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向は，N－17°－Wである。壁高は25cmで，緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。



第71図　第369号住居跡実測図

竈　北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部までが82㎝，袖部幅は90㎝である。左袖部は地山の上に，右袖部は地山を掘り残して基部とし，砂質粘土を貼り付けて構築されている。また，右袖部には10㎝程度の中礫が補強材として埋めらている。火床部は床面と同じ高さで，角状の砂岩製支脚が埋め込まれており，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外への掘り込みはなく，火床部からほぼ直立している。

竈土層解説

1　暗　褐　色　粘土粒子少量，ロームブロック微量
2　褐　　色　粘土粒子少量，ロームブロック微量
3　暗　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
4　褐　灰　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量

ピット　深さ50㎝で，性格は不明である。

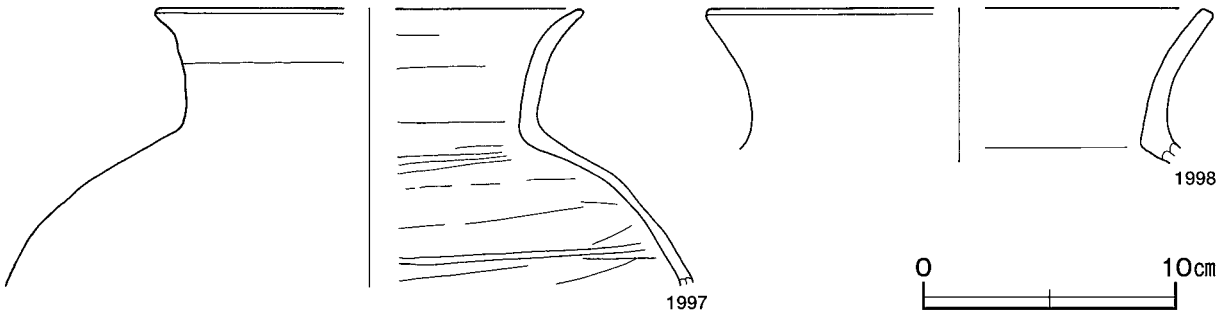
覆土　６層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　　色　ロームブロック･焼土ブロック･粘土ブロック少量
3　黒　褐　色　粘土ブロック少量，ロームブロック微量
4　黒　褐　色　粘土ブロック･ローム粒子少量,焼土ブロック微量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，粘土ブロック微量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片141点（坏９，高坏１，甕131），石器１点（支脚），中礫22点が，竈及び北部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。土器片はほとんどが細片である。また，流れ込んだ弥生土器片15点，粘土塊２点も出土している。1997は竈前面の床面から出土している。1998は竈の右袖部から出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀前半と考えられる。



第72図　第369号住居跡出土遺物実測図

第369号住居跡出土遺物観察表（第72図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1997	土師器	甕	[16.7]	(11.0)	－	石英・長石	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面単位不明瞭なヘラナデ	床面	15%
1998	土師器	甕	[19.4]	(6.1)	－	石英･長石･雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	竈右袖部内	５％

第372号住居跡（第73図）

位置　西部４区中央部のＢ３ｉ８区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第364号住居，第3747号土坑，第128号井戸，第75号溝に掘り込まれている。

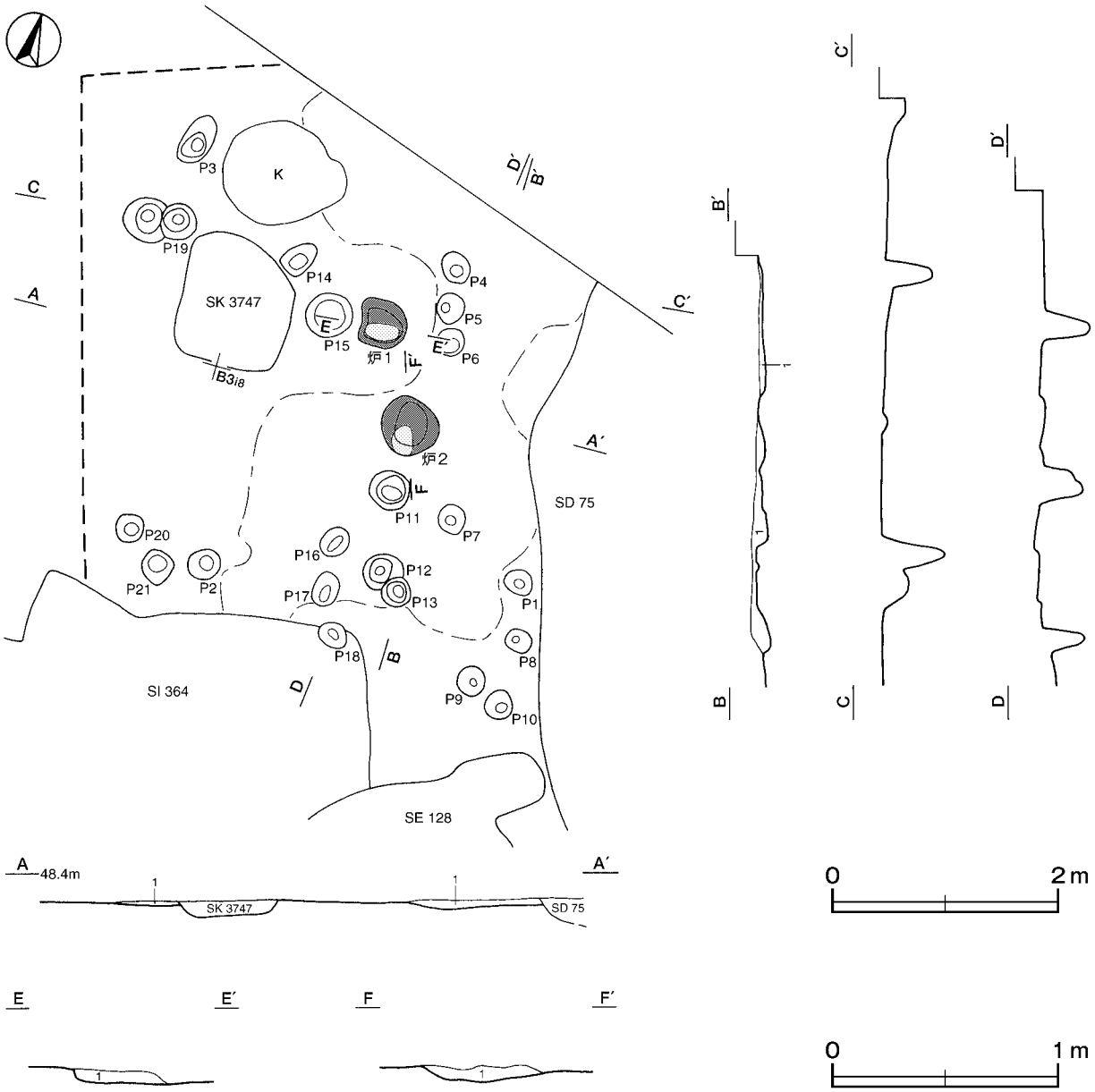
規模と形状　壁がほとんど残存していないが，柱穴や炉の状況から住居と判断した。南北軸4.85m，東西軸4.60mで，平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はＮ－14°－Ｗである。

床　凹凸がみられ，中央部が踏み固められており，炉周辺の硬化が著しい。

炉　２か所。中央部に位置している。炉１は，長径50cm，短径40cmの楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱により赤変硬化している。炉２は，長径54cm，短径50cmの楕円形で，床面を７cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

炉１・２土層解説

1　赤　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量



第73図　第372号住居跡実測図

ピット　21か所。P1～P3は深さ36～66cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P4～P21は深さが20～60cmで，性格は不明である。

覆土　単一層で，層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片31点（坏６，甕25）が出土している。また，流れ込みの弥生土器片２点，須恵器片１点（坏）も出土している。土器は細片で，図示できなかった。

所見　時期は，出土土器が少なく判断は難しいが，重複関係及び遺構の形態から古墳時代中期以前と推定される。

第375号住居跡（第74～76図）

位置　西部４区中央部のＣ４ｆ2区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第396号住居跡を掘り込み，第371・373・374号住居，第3734・3801号土坑，第35号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　確認された範囲は，南北軸7.48m，東西軸6.75mで，平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はN－０°である。壁高は８～20cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。南壁東寄りに幅40cm，高さ14cmの馬蹄形の高まりが確認できた。

炉　２か所。炉１は，北西壁際の中央部付近から東寄りに位置している。確認された規模は，長径80cm，短径40cmの楕円形と推定される。床面を５cm掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変している。炉２は，北西壁際の中央部付近から西寄りに位置している。確認された規模は，長径60cm，短径30cmの不整楕円形と推定される。床面を７cm掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉１土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック中量，粘土ブロック微量

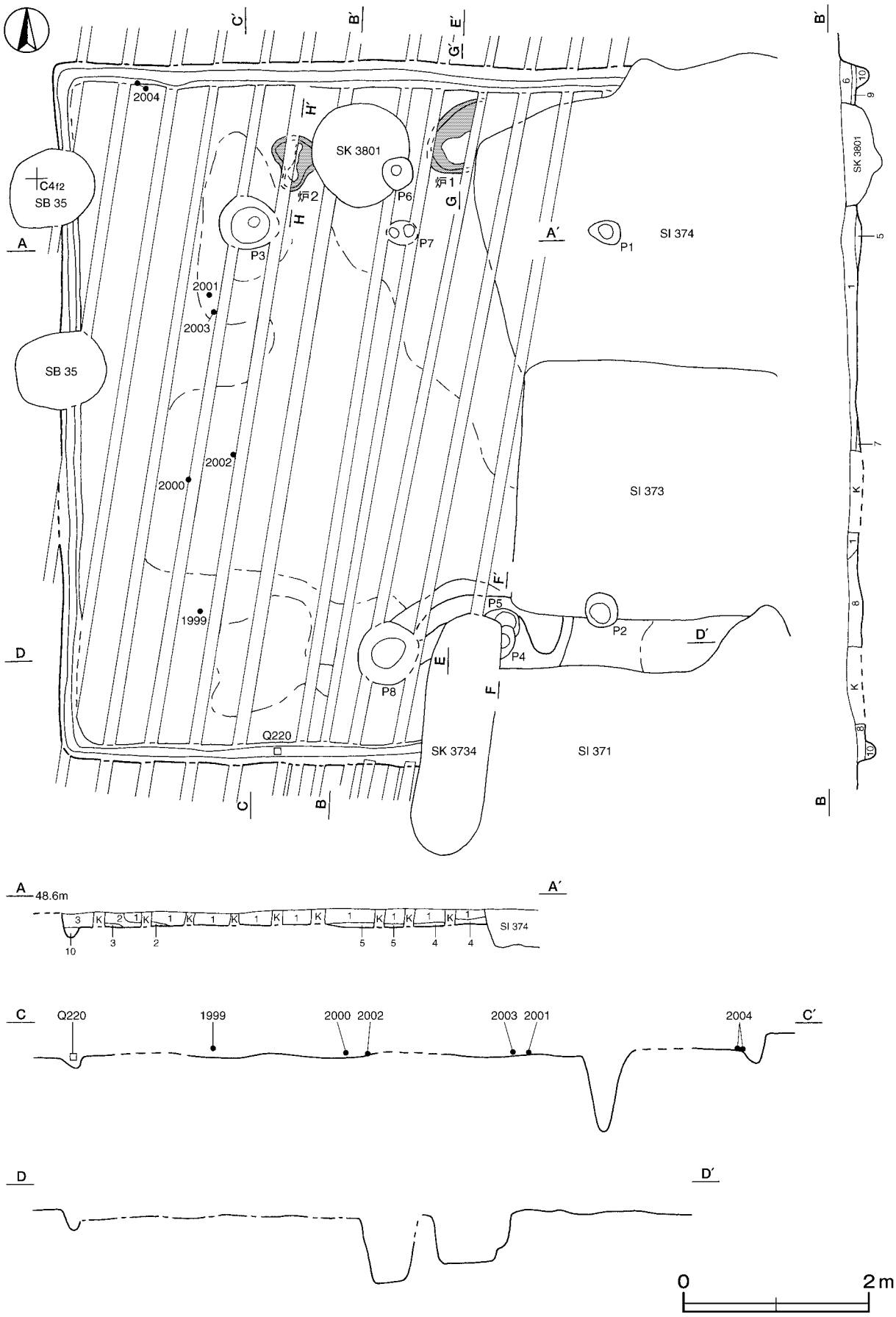
炉２土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　極暗赤褐色　焼土ブロック少量
4　極暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量

ピット　８か所。P1～P3は深さ68～94cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P4・P5は深さ29～33cmで，南壁際の中央部にあることと硬化面の状況から，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P8は深さ35～70cmで，性格は不明である。

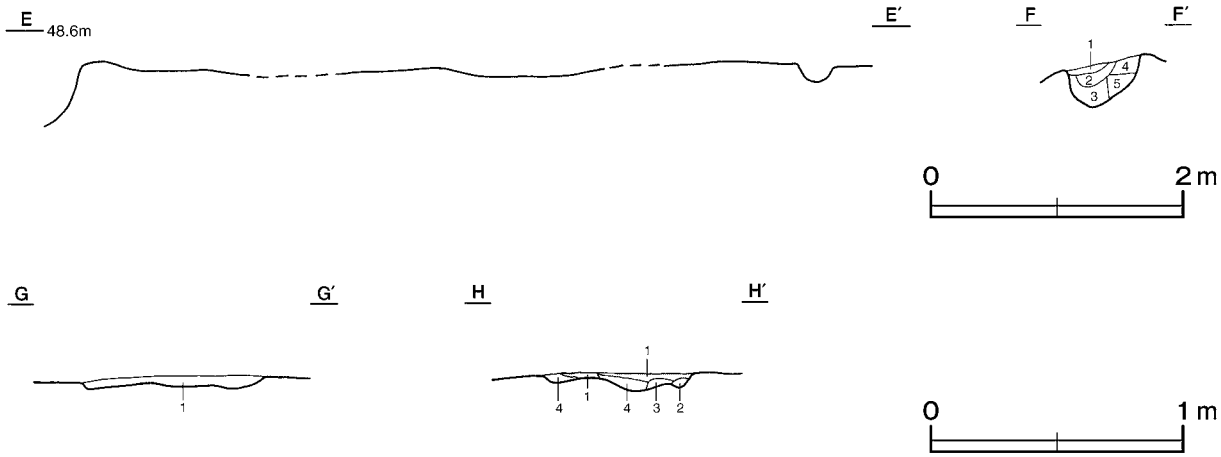
P4・P5土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，砂質粘土ブロック微量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，砂質粘土ブロック微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量

覆土　10層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　明　褐　色　焼土ブロック・白色粘土ブロック中量
5　明　褐　色　ロームブロック・焼土粒子中量
6　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
8　暗　褐　色　ローム粒子中量
9　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量
10　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック少量



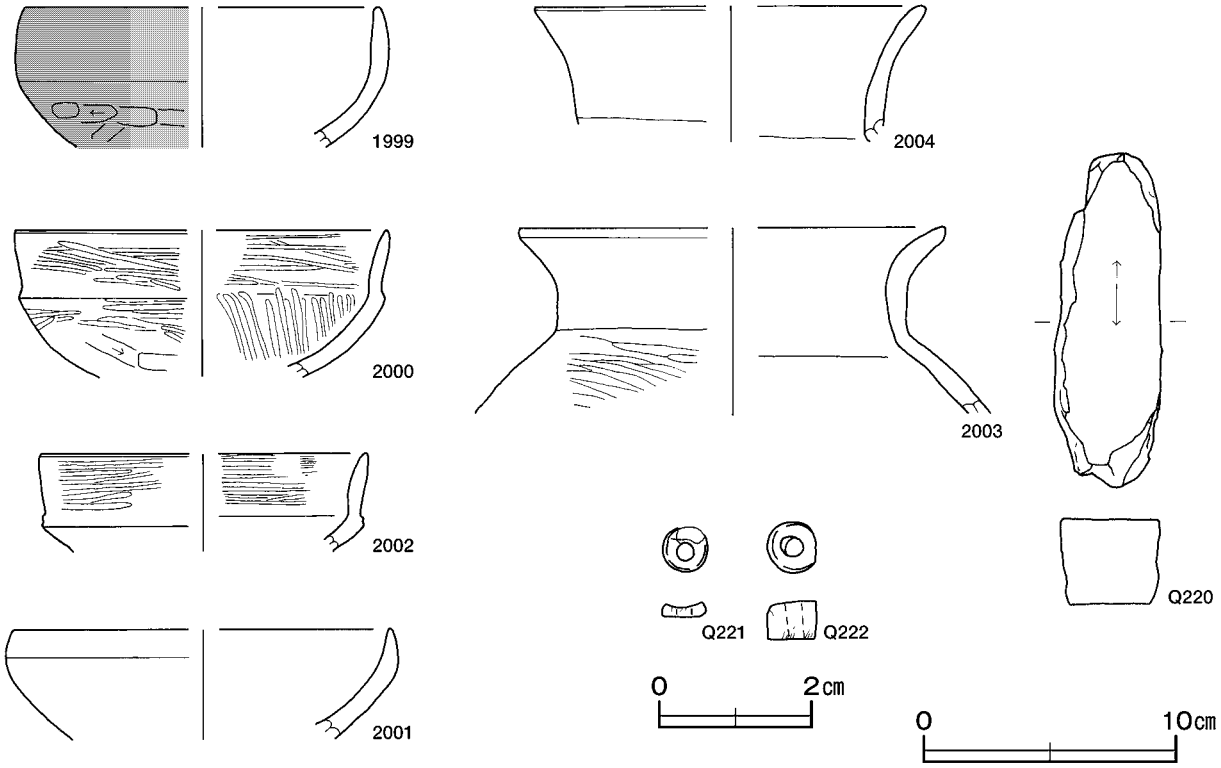
第74図　第375号住居跡実測図(1)



第75図　第375号住居跡実測図(2)

遺物出土状況　土師器片632点（坏108，高坏２，甕522），須恵器片３点（坏１，蓋１，甕１），石器１点（砥石），石製品２点（臼玉）が，南西部を中心に出土している。また，流れ込んだ縄文土器片１点，弥生土器片40点，土師器片１点（高台付椀），須恵器片39点（坏17，高台付坏１，蓋６，甕14），陶器片５点（碗４，天目茶碗１），瓦１点，粘土塊３点も出土している。1999は南西コーナー部の覆土下層，2000～2003は西壁中央部付近の覆土下層から床面にかけて，2004は北西コーナー部の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられる。２か所の炉はいずれの上面にも硬化面がなく同時に使用されていたと考えられる。



第76図　第375号住居跡出土遺物実測図

第375号住居跡出土遺物観察表（第76図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1999	土師器	坏	[14.0]	(5.6)	－	石英・長石	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ナデ　外面ヘラ削り後ナデ	覆土下層	20%
2000	土師器	坏	[14.7]	(5.8)	－	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横方向のヘラ磨き　体部内面ヘラ磨き　外面ヘラ削り	覆土下層	30%
2001	土師器	坏	[14.8]	(4.3)	－	石英･白色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内　外面ナデ	床面	10%
2002	土師器	坏	[12.8]	(3.4)	－	赤色粒子･白色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横方向の磨き	床面	5％
2003	土師器	甕	[16.8]	(7.4)	－	石英・長石・雲母	褐灰	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ナデ　外面横方向のヘラ磨き	覆土下層	5％
2004	土師器	甕	[15.4]	(5.3)	－	石英･長石･雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	5％

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q220	砥石	13.3	4.31	3.33	336	砂岩	砥面１面	覆土下層	PL87

番号	器種	径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q221	臼玉	0.56	0.16	(0.10)	滑石	全面研磨　断面円形　孔径0.16㎝　一部欠損	覆土中	PL89
Q222	臼玉	0.64	0.47	0.35	滑石	全面研磨　断面円形　孔径0.22㎝	覆土中	PL89

第376号住居跡（第77・78図）

位置　西部４区中部のＣ３d0 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第377号住居，第3792号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.40m，短軸5.27mの方形で，主軸方向はＮ－27°－Ｗである。壁高は15～27㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が北東コーナー部に確認された。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部までが106㎝，袖部幅が130㎝である。袖部は床面上に，右袖部が青灰色粘土で，左袖部は砂質粘土で構築され，左袖部の内壁には長石中心の小礫を使用して構築している。火床部は皿状を呈しており，幅50㎝，深さ７㎝で，火熱を受けて赤変している。煙道部の壁外への掘り込みは50㎝で，緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

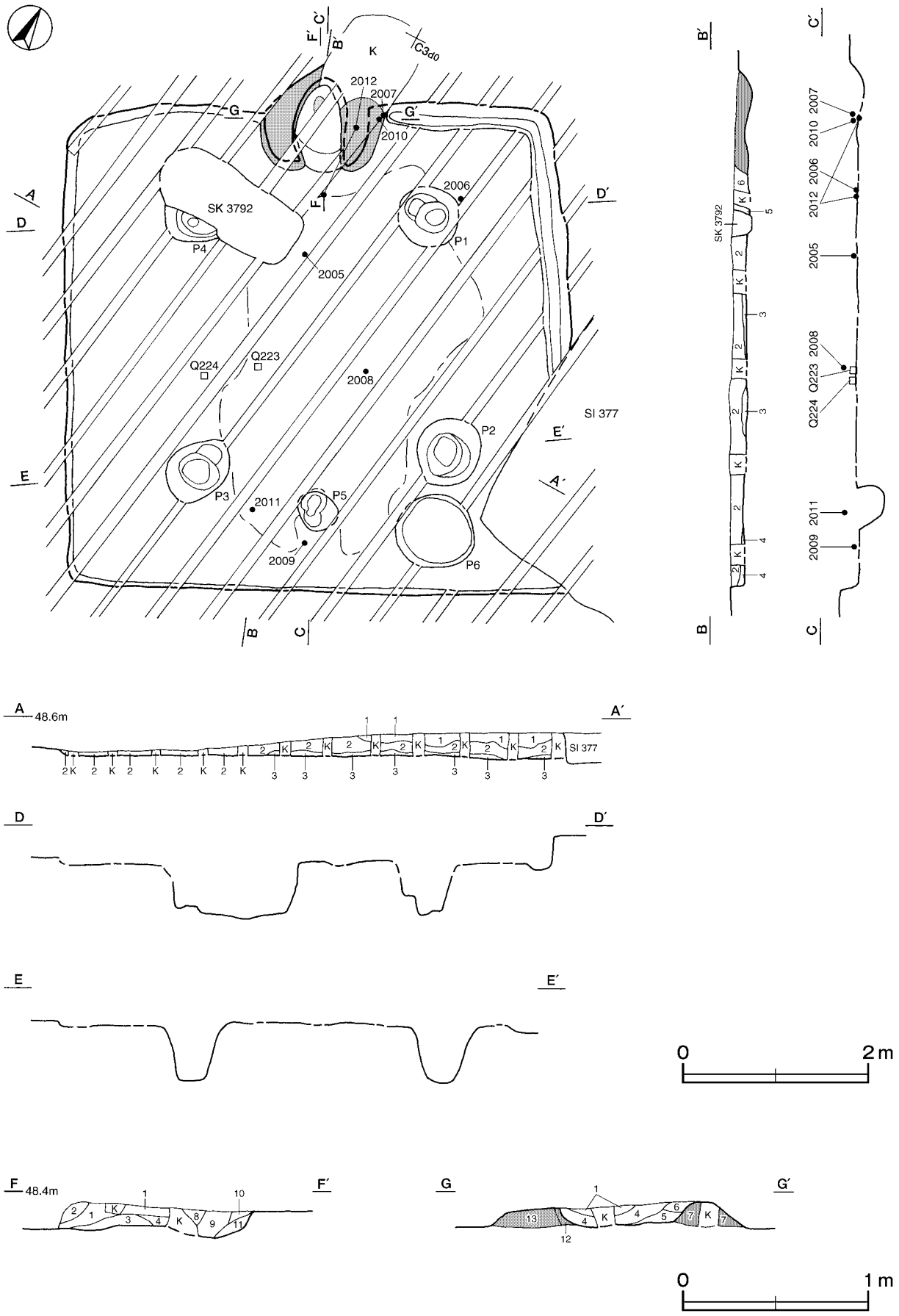
1　褐　　色　ロームブロック・砂質粘土少量，焼土粒子微量
2　にぶい黄褐色　ローム粒子少量，粘土粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土少量
4　褐　　色　ロームブロック中量，砂質粘土少量
5　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量
6　明　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
7　灰　黄　色　青灰色粘土中量，焼土粒子少量
8　暗　褐　色　青灰色粘土中量，焼土ブロック少量
9　にぶい黄褐色　焼土ブロック・青灰色粘土中量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量
11　黒　褐　色　ロームブロック少量
12　暗 赤 褐 色　小礫多量，焼土ブロック中量
13　褐　　色　砂質粘土多量，ロームブロック中量

ピット　６か所。Ｐ1 ～Ｐ4 は深さ45～60㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ5 は深さ12㎝で，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ6 は深さ14㎝で，性格は不明である。

覆土　６層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

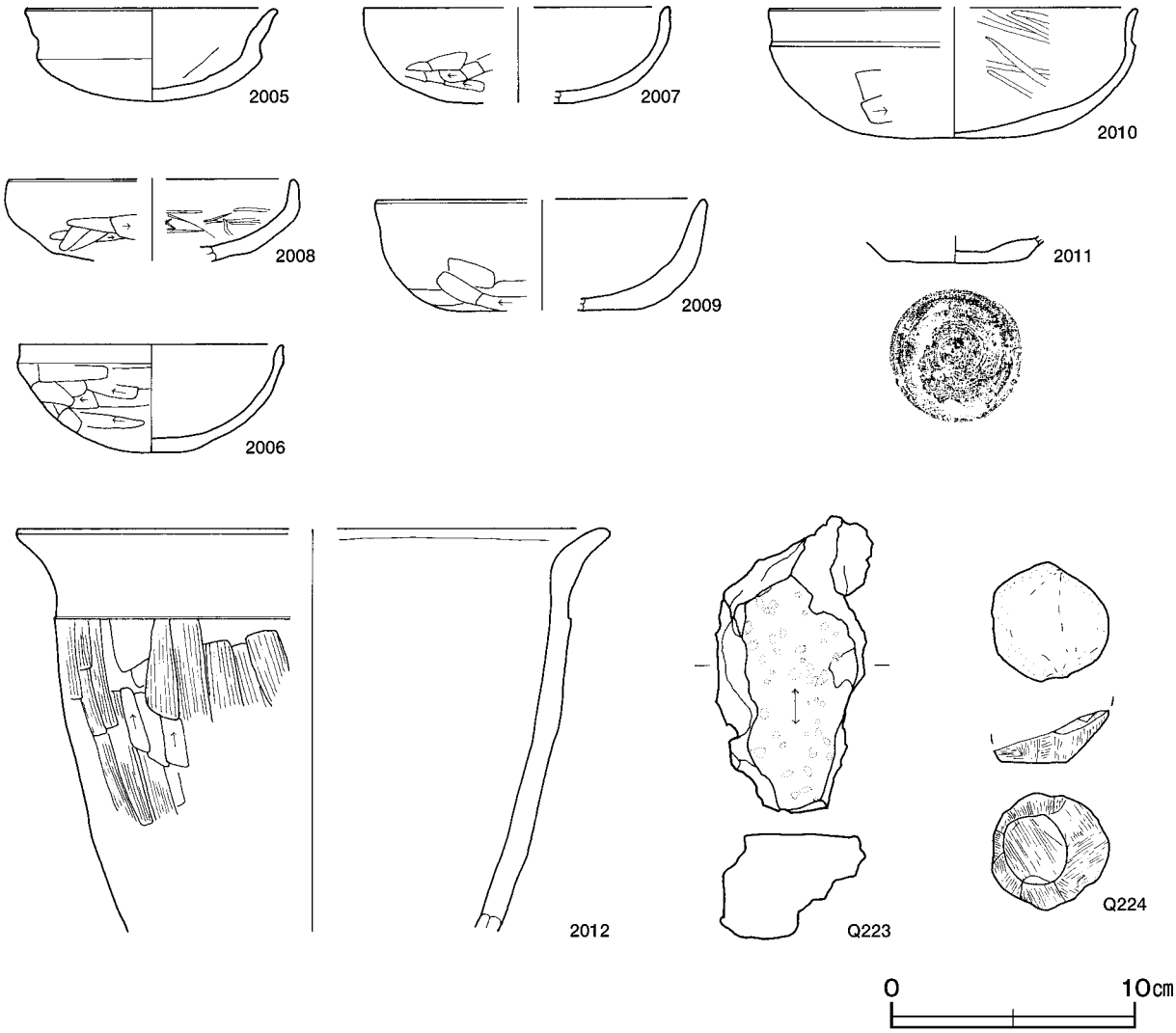
1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ロームブロック微量
5　暗　褐　色　ロームブロック微量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量



第77図　第376号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片506点（坏73，甕432，甑１），須恵器片14点（坏11，甕３），石器１点（砥石），石製品１点（紡錘車）が，中央部から東部にかけて出土している。また，流れ込んだ須恵器片１点（高台付坏），弥生土器片１点，陶器片５点，磁器７点，鉄滓２点，粘土塊12点も出土している。2005は中央部の覆土下層，2008は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。2006はＰ1 の東部床面，2009はＰ5 周辺の覆土下層，2011はＰ5 周辺の覆土中層からそれぞれ出土している。2007・2010は竈右袖部内から出土しており，補強材に転用されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉と考えられる。



第78図　第376号住居跡出土遺物実測図

第376号住居跡出土遺物観察表（第78図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2005	土師器	坏	10.1	3.8	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ヘラナデ	覆土下層	75%　PL63
2006	土師器	坏	10.7	4.4	－	長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ナデ　外面ヘラ削り	床面	60%　PL63

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2007	土師器	坏	[12.6]	3.9	－	雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ナデ　外面ヘラ削り	床面	25%
2008	土師器	坏	[11.6]	(3.4)	－	石英・長石・雲母	黒褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ヘラ磨き　外面ヘラ削り	覆土中層	20%
2009	土師器	坏	[13.4]	(4.6)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	20%
2010	土師器	坏	[15.0]	5.4	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ　体部内面ヘラ磨き　外面ヘラ削り　底部一方向のヘラ切り	床面	20%
2011	須恵器	坏	－	(1.1)	5.6	石英・長石	黄灰	普通	底部内面凹部ナデ　底部回転ヘラ削り	覆土中層	50%
2012	土師器	甕	[24.0]	(16.5)	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ナデ　外面ヘラ削り　ヘラナデ	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q223	砥石	12.39	6.47	5.67	376	輝石安山岩	砥面１面	床面	PL87
Q224	紡錘車	(4.83)	(4.78)	(2.12)	(36.7)	千枚岩	上面成形中で欠損ヵ　側面・底面に研磨　未穿孔	床面	PL88

第378号住居跡（第79・80図）

位置　西部４区中央部のＣ４c2 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第365・380号住居，第3722・3749・3793・3794・3813・3814Ａ号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　確認された範囲は，長軸5.88m，短軸5.32mの方形と推定され，主軸方向はＮ－２°－Ｅである。壁高は20～26cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が確認された範囲に存在している。南西コーナー部とＰ２の間，東壁中央部，北壁から北西コーナー部寄りに間仕切り溝が３条確認されている。

炉　３か所。炉１は長径80cm，短径50cmの不整楕円形で，床面は４cm掘りくぼめられている。炉２は長径50cm，短径30cmの楕円形で，床面は４cm掘りくぼめられている。炉３は長径96cm，短径64cmの不整楕円形で，床面を６cm掘りくぼめられている。炉１～３は地床炉であり，炉床は火熱を受けて赤変している。

炉１・２土層解説
1　極暗褐色　焼土粒子多量

炉３土層解説
1　極暗褐色　焼土粒子多量，青灰色粘土少量

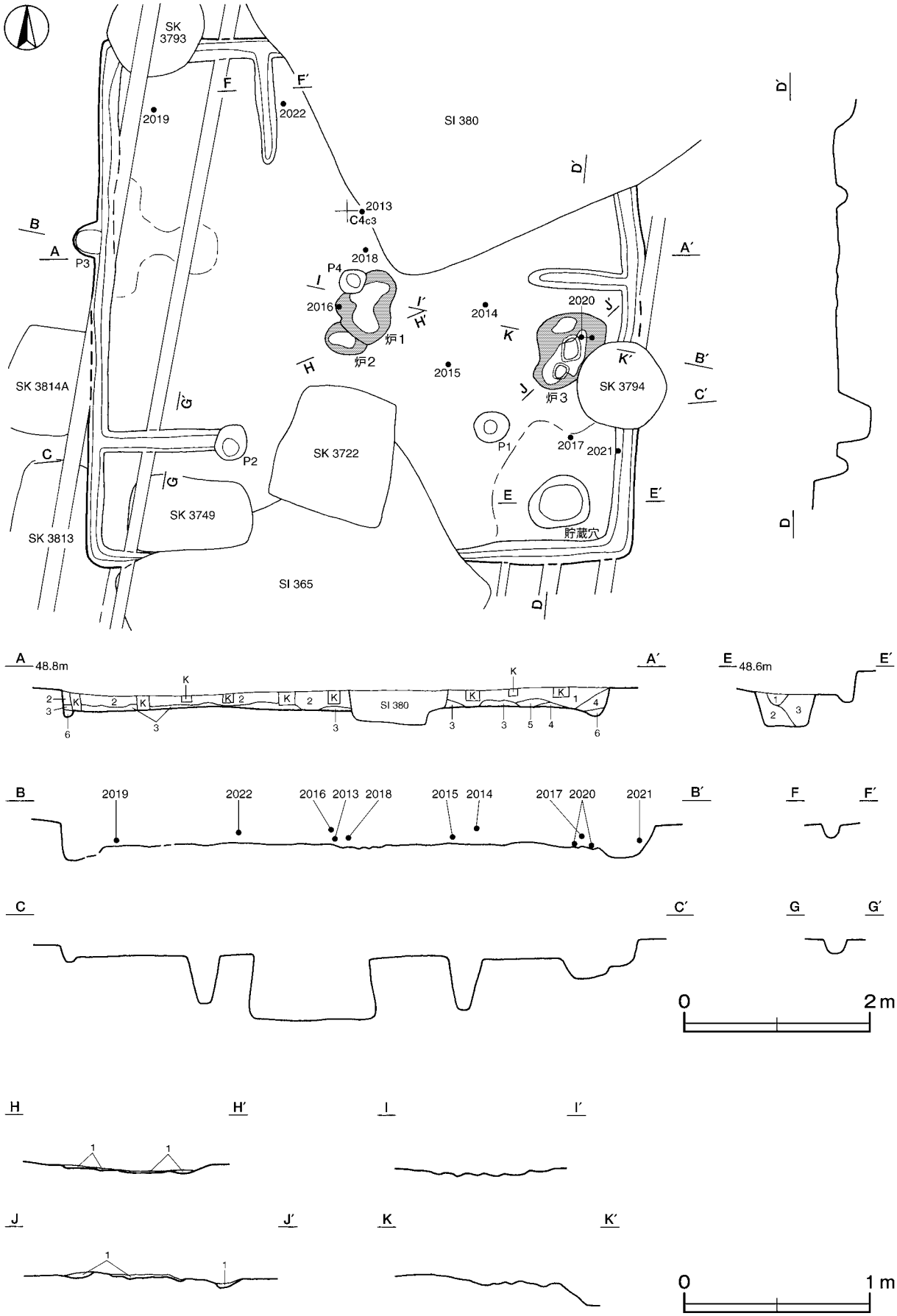
ピット　４か所。Ｐ1・Ｐ2は深さ51～53cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ3・Ｐ4は深さ34～15cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径66cm，短径44cmの楕円形で，深さは34cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　極暗褐色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量

覆土　６層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

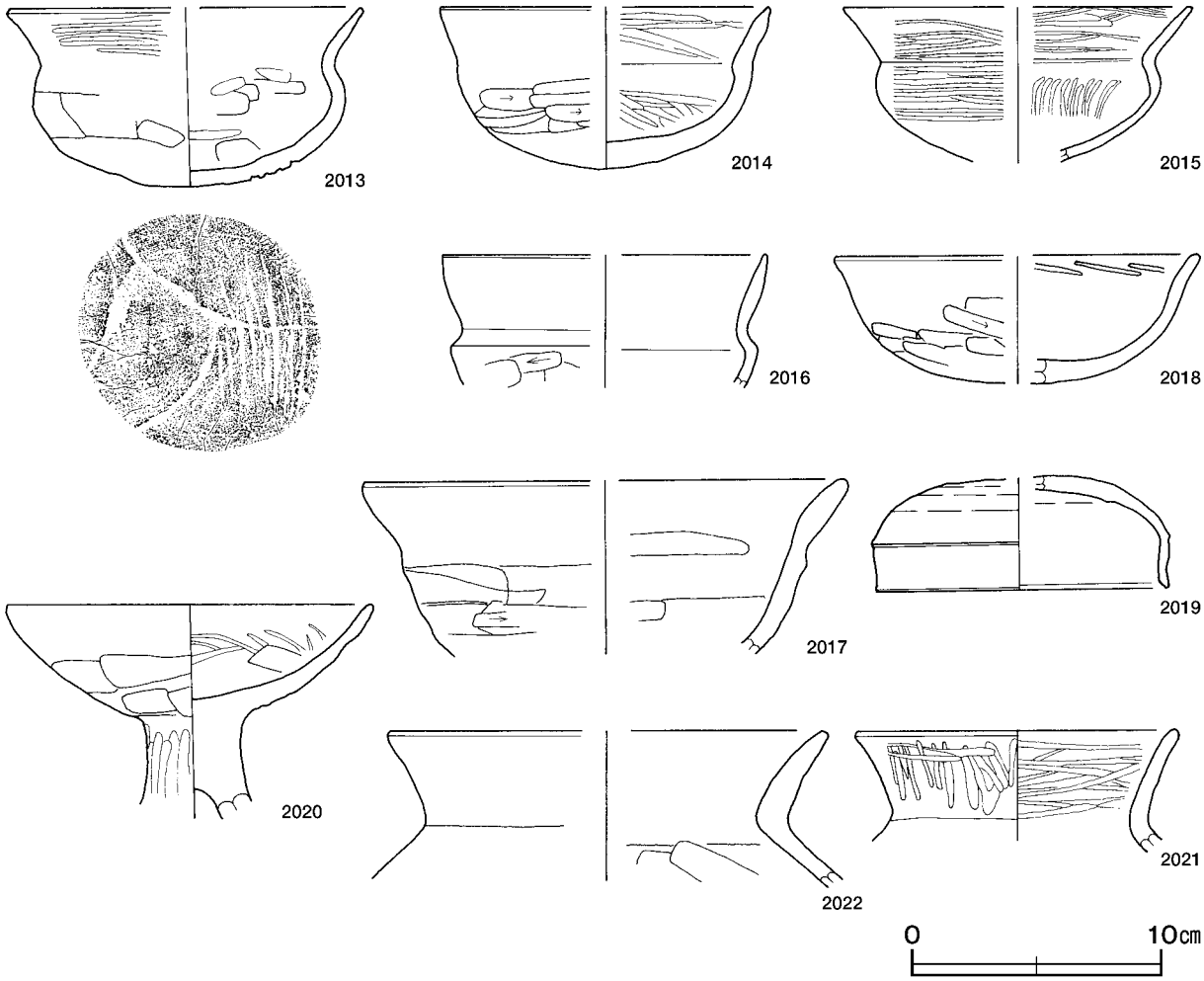
土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　極暗褐色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
5　暗　褐　色　白色粘土少量，ローム粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック中量



第79図　第378号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片343点（坏64，高坏７，甕272），須恵器片１点（蓋）が，全域から出土している。また，流れ込んだ土師器片１点（椀），弥生土器片16点，須恵器片８点（坏３，甕５），陶器片１点も出土している。2013・2015・2016・2018は中央部の覆土下層から出土している。2017は東壁際の覆土下層，2020は炉３上，2021は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。2019は北西コーナー部，2022は北壁中央部のそれぞれ覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられる。３か所の炉の上面にはいずれも硬化面がなく，すべての炉が同時に使用されていた可能性が考えられる。



第80図　第378号住居跡出土遺物実測図

第378号住居跡出土遺物観察表（第80図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2013	土師器	坏	[14.0]	7.2	－	石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外面横ナデ後横方向のヘラ磨き　体部内・外面ヘラナデ	覆土中層	70%　PL63 底部砥石転用
2014	土師器	坏	[13.2]	6.5	－	石英・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外面横ナデ　体部内面ヘラ磨き　外面ヘラ削り　底部外面ヘラ削り後ナデ	覆土上層	25%
2015	土師器	坏	[14.0]	(6.2)	－	石英･長石･雲母	橙	普通	口縁部・体部内・外面磨き	覆土中層	20%
2016	土師器	坏	[13.0]	(5.3)	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　体部内面ナデ	覆土中層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2017	土師器	坏	[19.6]	(7.0)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	口縁部外面横ナデ　体部内面ヘラナデ　外面ヘラ削り　ヘラナデ	覆土中層	10%
2018	土師器	椀	[14.4]	5.1	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ後口縁部内面ヘラナデ　外面ヘラ削り	覆土中層	25%
2019	須恵器	蓋	11.6	4.5	－	長石	明赤褐	普通	自然釉　ロクロ成形ナデ	覆土下層	90%　PL64
2020	土師器	高坏	14.5	(8.6)	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	橙	普通	坏部内面ヘラ磨き・ヘラナデ　坏部外面ヘラナデ　脚部外面ヘラ磨き	床面	40%
2021	土師器	甕	12.8	(4.4)	－	雲母･赤色粒子	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ後磨き	覆土中層	10%
2022	土師器	甕	[17.0]	(6.0)	－	石英･長石･雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ヘラナデ	覆土中層	５%

第379号住居跡（第81図）

位置　西部４区中部のＢ３h4 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第355号住居跡を掘りこみ，第356～358号住居，第3716・3765号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　東壁と南壁が削平されており，確認された範囲は東西軸4.81m，南北軸4.40mである。平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はＮ－24°－Ｗである。壁高は26cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。壁溝が北西コーナー部を周回し，断面形はU字状である。

竈　北壁に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで98cm，袖部幅96cmである。袖部は床面にロームブロックを含んだ褐色土で構築されている。火床部は浅く皿状にくぼんでいるが，赤変した部分は認められなかった。煙道部は壁外へ40cm掘り込まれ，緩やかに傾斜して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック多量
6　褐　　色　ロームブロック中量
7　褐　　色　ローム粒子中量
8　黒　褐　色　ローム粒子少量

ピット　５か所。Ｐ1 ～Ｐ4 は深さ58cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ5 は深さ16cmで，性格は不明である。

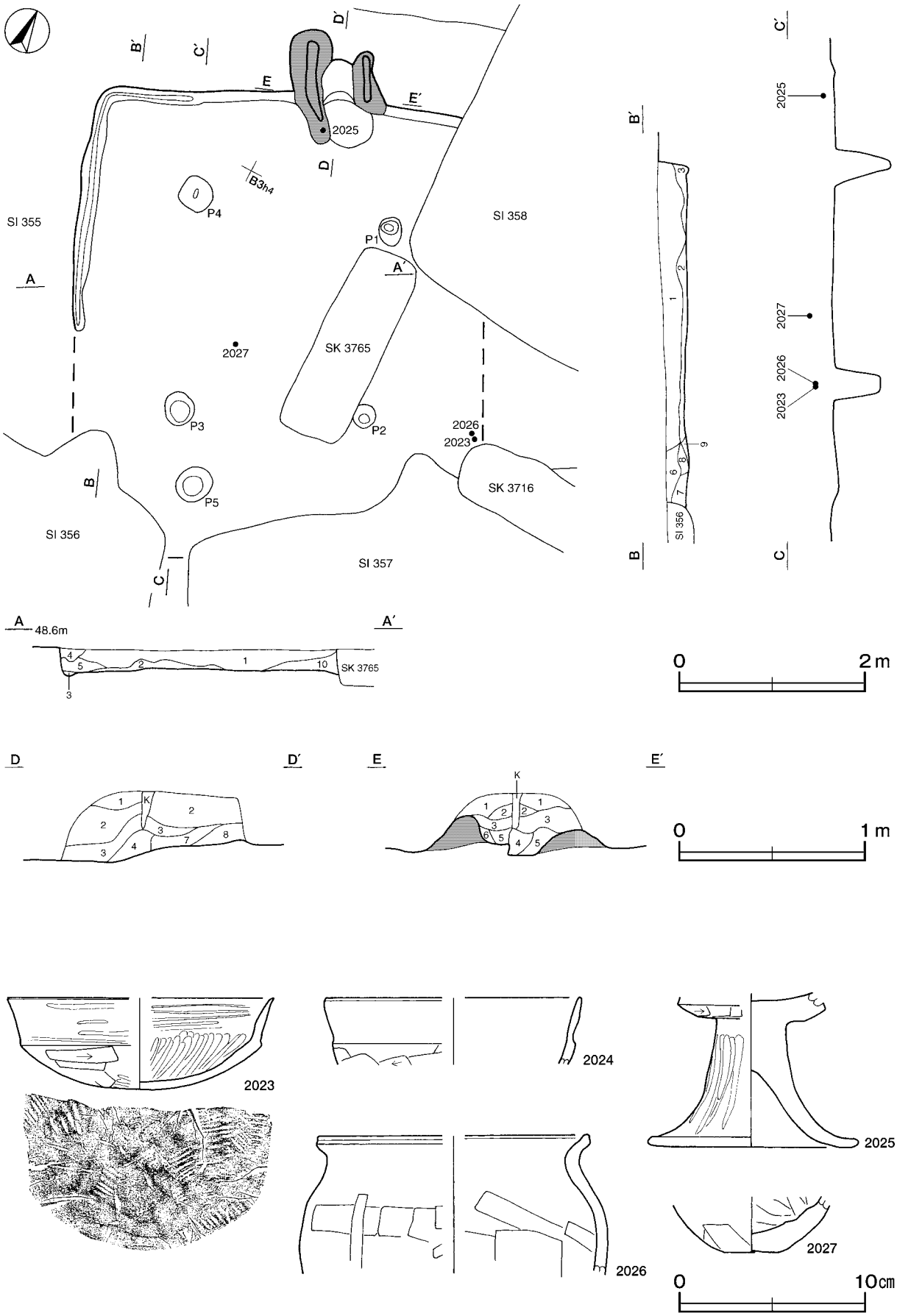
覆土　10層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　極 暗 褐 色　ローム粒子少量
5　極 暗 褐 色　ロームブロック中量
6　黒　褐　色　焼土粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子微量，砂質粘土少量
8　暗　褐　色　ロームブロック・白色粘土少量
9　褐　　色　ローム粒子中量
10　極 暗 褐 色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片144点（坏28，高坏１，甕115）が，全域から出土している。また，流れ込んだ弥生土器片19点，須恵器片９点（坏１，蓋１，甕７）も出土している。2023・2026は南東部，2027は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。2025は竈左袖部内から出土しており，補強材に転用されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から６世紀中葉と考えられる。



第81図　第379号住居跡・出土遺物実測図

第379号住居跡出土遺物観察表（第81図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2023	土師器	坏	[14.2]	4.9	－	長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横方向のヘラ磨き　体部内面ヘラ磨き　外面ヘラ削り後ヘラによる刻み痕	覆土下層	40%
2024	土師器	坏	[13.6]	(3.6)	－	石英・長石	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中	10%
2025	土師器	高坏	－	(8.3)	11.3	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	坏部外面ヘラ削り　脚部外面ヘラ磨き　裾部内面横ナデ	覆土下層	50%
2026	土師器	甕	[14.4]	(7.4)	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラナデ	覆土中層	15%
2027	土師器	甕	－	(3.0)	2.9	石英・長石	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	覆土中層	5％

第383号住居跡（第82・83図）

位置　西部４区西部のＢ２g7 区で，48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第71号溝，第１号道路に掘り込まれている。

規模と形状　南東コーナー部のみが確認された。確認された範囲は南北軸2.62m，東西軸1.74mで，平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はN－26°－Wである。壁高は30～32㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。壁溝が南東コーナー部に確認されている。

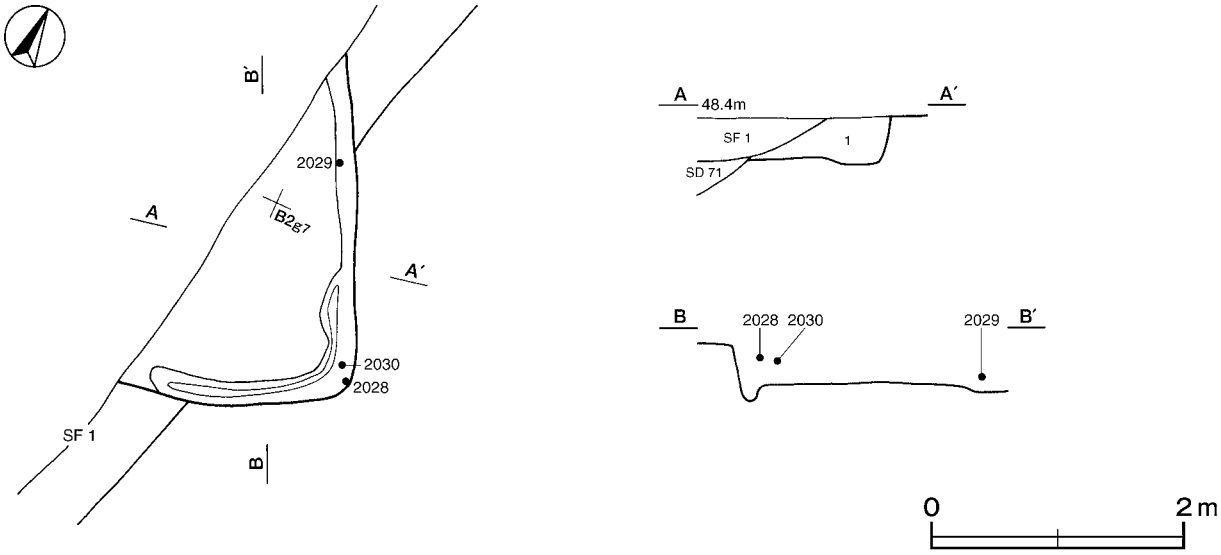
覆土　単一層で，堆積状況は不明である。

土層解説

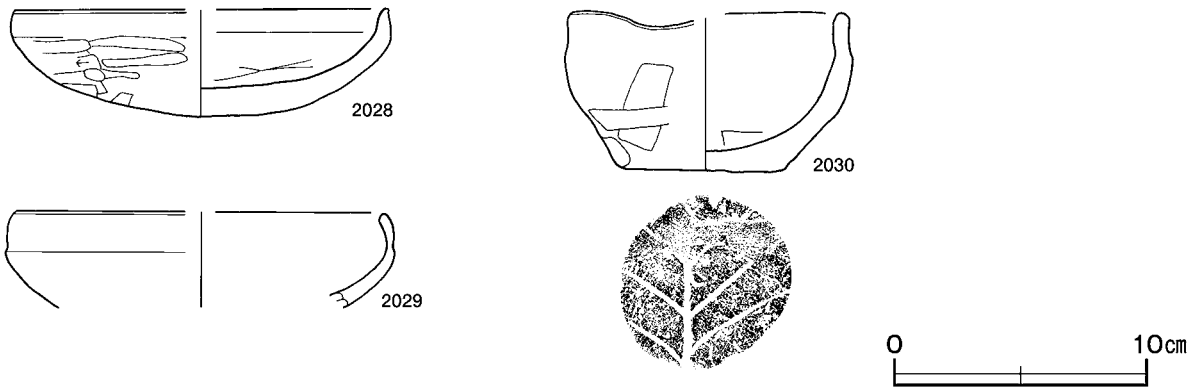
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片39点（坏14，甕25）が，南東コーナー部より出土している。また，流れ込んだ弥生土器片６点，土師器片２点（高台付椀）も出土している。2028・2030は南東コーナー部の覆土中層，2029は東壁際の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉と考えられる。



第82図　第383号住居跡実測図



第83図　第383号住居跡出土遺物実測図

第383号住居跡出土遺物観察表（第83図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2028	土師器	坏	[14.8]	4.2	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中層	60%
2029	土師器	坏	[14.6]	(3.8)	－	長石･赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中層	10%
2030	土師器	椀	[10.7]	6.4	6.5	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラナデ　底部木葉痕	覆土下層	40%

第385号住居跡（第84・85図）

位置　西部４区中央部のＣ４b6 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　北東部のほとんどが調査区域外へ延びているため，確認された範囲は南北軸5.08m，東西軸3.35mである。平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はN－７°－Wである。壁高は，18～33cmで，直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は西壁から南壁にかけて確認されており，断面形はU字状である。貯蔵穴の西側に，幅52cm，高さ５cmの馬蹄形の高まりが確認されている。

ピット　２か所。P1 は深さ56cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P2 は深さ28cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径74cm，短径66cmの楕円形で，深さは38cmである。底面は平坦で，壁はほぼ直立している。

貯蔵穴土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック少量

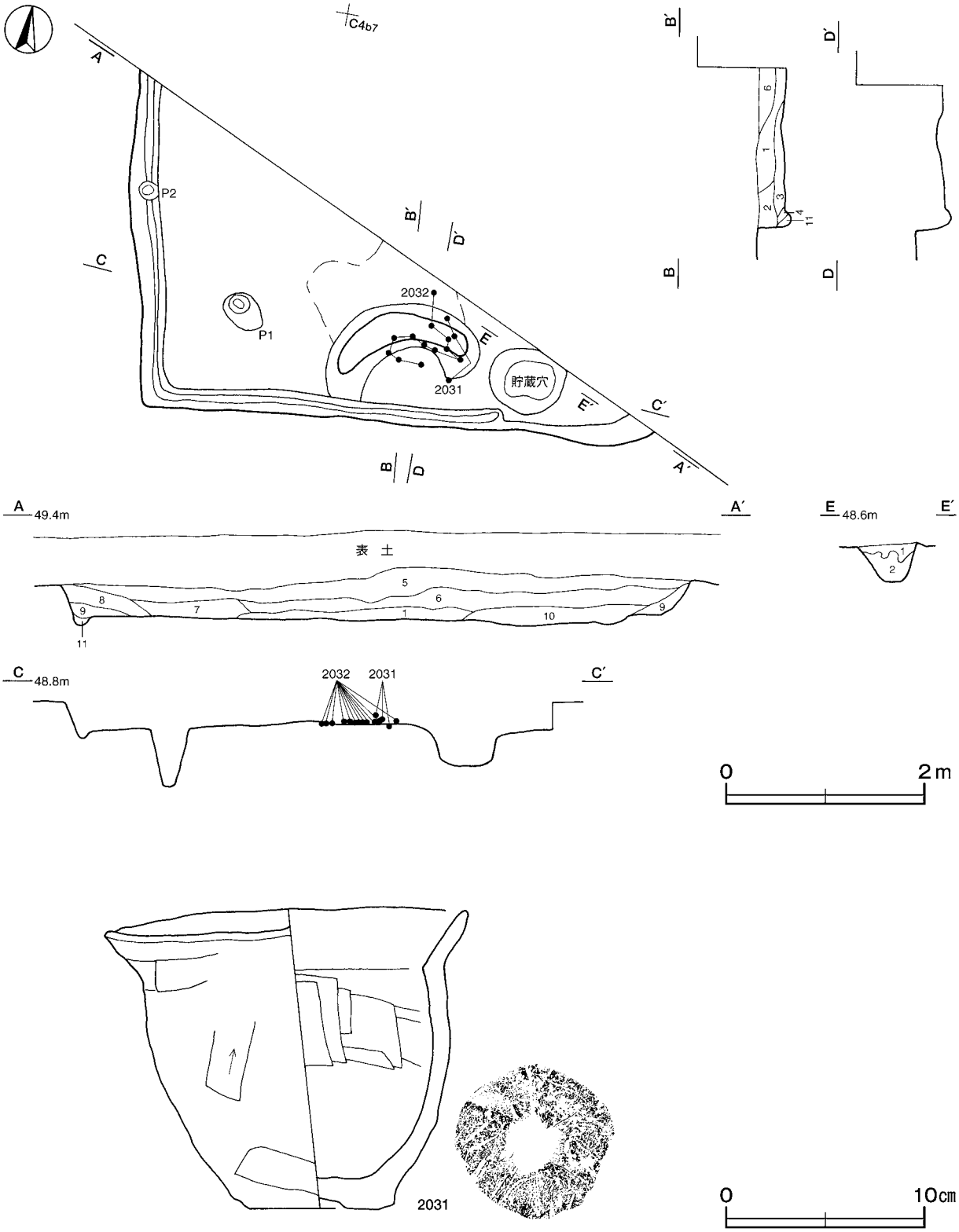
覆土　11層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

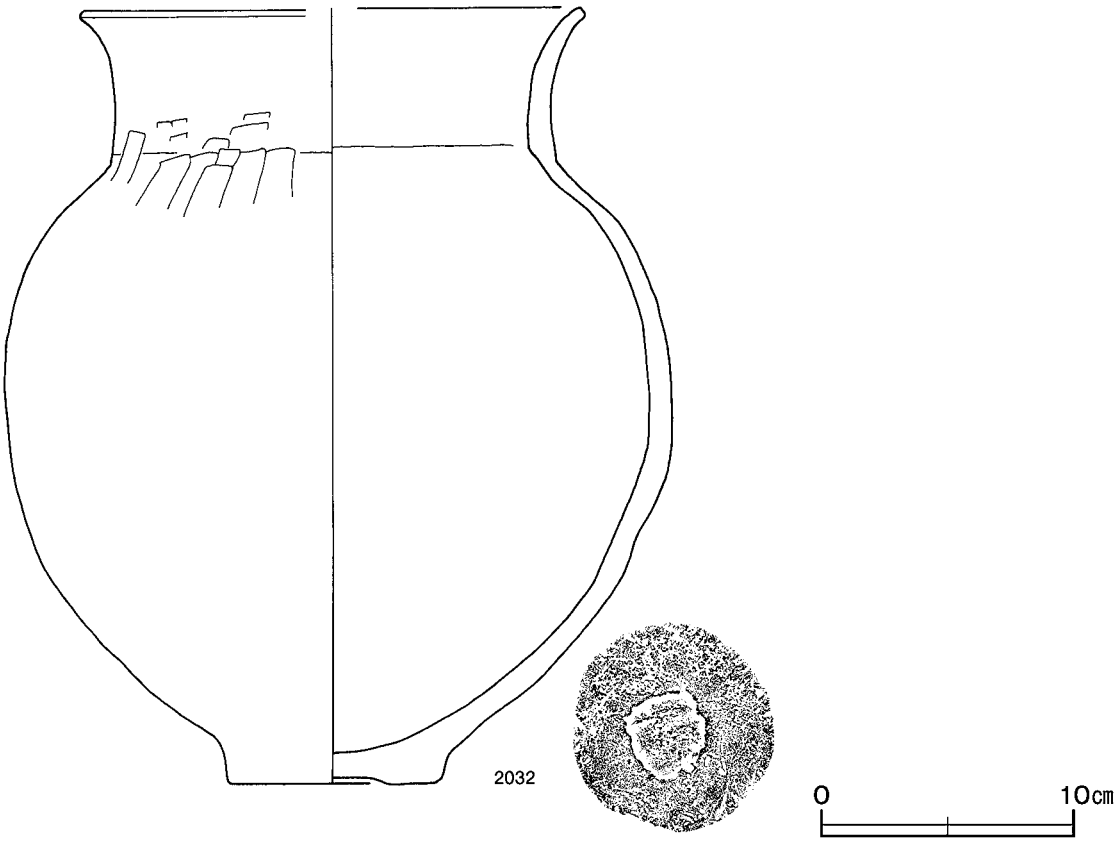
1　極暗褐色　ローム粒子少量
2　極暗褐色　ローム粒子中量
3　極暗褐色　ロームブロック中量
4　褐　　色　ロームブロック多量
5　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
6　極暗褐色　ロームブロック・炭化物少量
7　極暗褐色　ロームブロック少量
8　極暗褐色　ローム粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック少量
10　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量
11　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片141点（坏32，高坏１，甕108）が，南壁中央部付近の覆土中層から下層にかけて集中して出土している。また，流れ込んだ弥生土器片１点，須恵器片１点(甕１)，鉄滓１点も出土している。2031・2032は貯蔵穴西側の床面から出土した破片がそれぞれ接合したものである。

所見　時期は，出土土器から６世紀前葉と考えられる。



第84図　第385号住居跡・出土遺物実測図



第85図　第385号住居跡出土遺物実測図

第385号住居跡出土遺物観察表（第84・85図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2031	土師器	甕	17.8	15.2	7.4	石英・長石・雲母	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ヘラナデ　外面ヘラ削り	床面	95%　PL69
2032	土師器	甕	[19.6]	30.7	8.2	石英・長石	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ後頸部から体部にかけて縦方向のヘラナデ　体部外面横方向のナデ　内面ナデ	床面	65%　PL68

第387号住居跡（第86・87図）

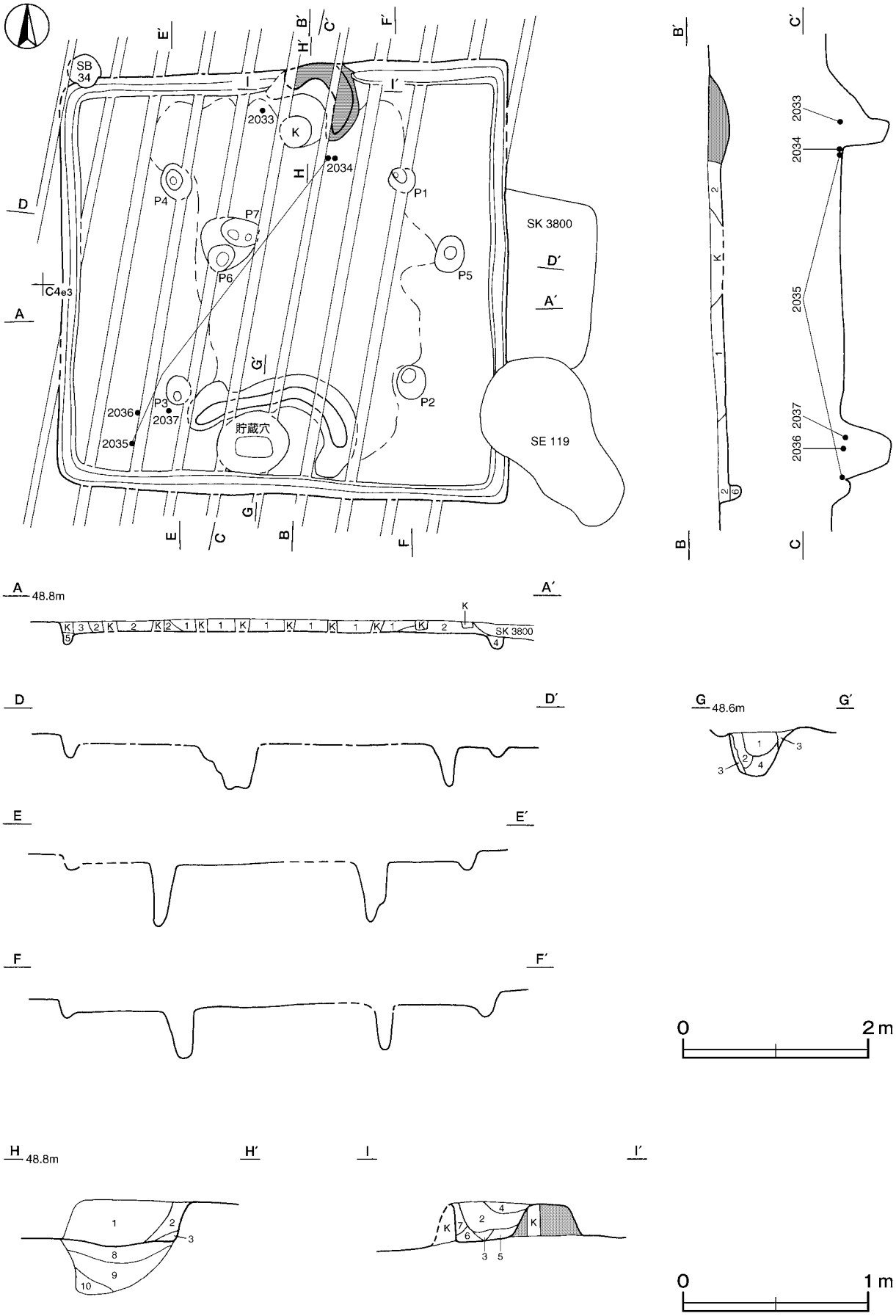
位置　西部４区中央部のＣ４d3 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第34号掘立柱建物，第3800号土坑，第119号井戸に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.80m，短軸4.66mの方形で，主軸方向はN－２°－Eである。壁高は８～16cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。貯蔵穴の北側を囲むように，幅36cm，高さ４cmほどの高まりが確認できた。壁溝が全周している。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部までが90cm，袖部幅70cmである。袖部は床面上に砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦な面を使用し浅く皿状にくぼんでいる。火床面の赤変した部分は認められなかった。煙道部は壁外へ４cm掘り込まれ，ほぼ直立している。



第86図　第387号住居跡実測図

竈土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土微量
3　黒　褐　色　砂質粘土中量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　砂質粘土中量,焼土粒子少量,ロームブロック微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土微量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
7　黒　褐　色　砂質粘土中量，ローム粒子少量
8　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
9　黒　褐　色　ロームブロック少量
10　黒　褐　色　ロームブロック微量

ピット　７か所。P1～P4は深さ48～66cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5～P7は深さ27～48cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　南壁際の中央部に位置している。長径76cm，短径68cmの楕円形で，深さは50cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量

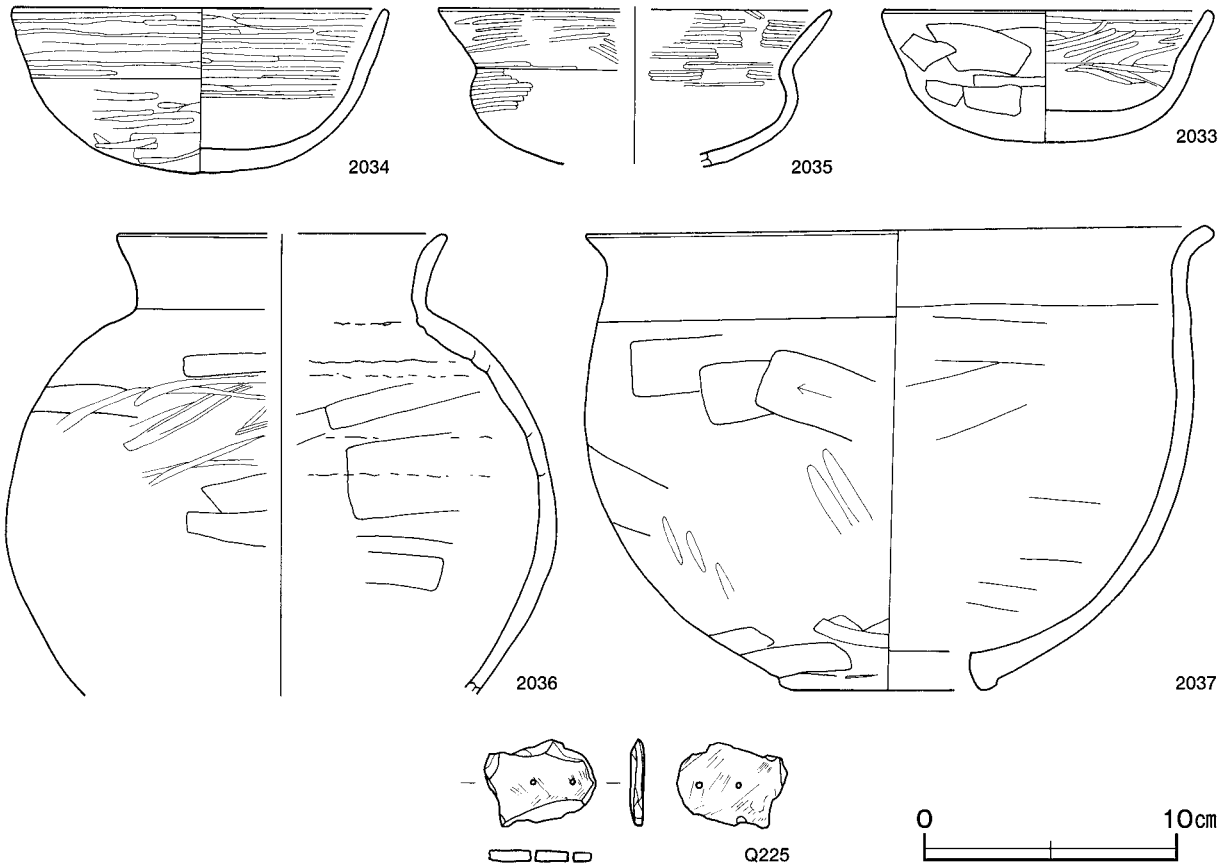
覆土　６層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・白色粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量
5　褐　　色　ロームブロック中量
6　極暗褐色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片305点（坏59，甕243，甑３）が，北東コーナー部及び南西コーナー部を中心に出土している。また，流れ込んだ弥生土器片４点，須恵器片９点（坏４，高台付坏１，甕４），陶器片４点（鉢），磁器片１点（鉢），石製品１点（有孔石製品）も出土している。2033は竈西側，2034は竈南側のそれぞれ床面から出土している。2035は竈南側と南西コーナー部から出土した破片がそれぞれ接合したものである。2036・2037は南西コーナー部の床面から出土したものである。

所見　時期は，出土土器から６世紀中葉と考えられる。



第87図　第387号住居跡出土遺物実測図

第387号住居跡出土遺物観察表（第87図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2033	土師器	坏	12.8	5.2	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	橙	普通	体部内面不定方向のヘラ磨き　体部外面ヘラナデ	床面	95%　PL63
2034	土師器	坏	14.8	6.6	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ後横方向のヘラ磨き　体部内面横方向のヘラ磨き　外面ヘラナデ後横方向のヘラ磨き	床面	90%　PL63
2035	土師器	坏	[15.6]	(6.2)	－	石英・長石・雲母	明褐	普通	口縁部内・外面横方向のヘラ磨き　体部内・外面横方向のヘラ磨き	床面	30%
2036	土師器	甕	[13.0]	(18.2)	－	石英・長石	赤褐	普通	口縁部外面横ナデ　体部内面ヘラナデ　輪積痕　外面ヘラナデ後横方向のヘラ磨き	床面	30%
2037	土師器	甑	24.6	18.4	7.6	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ヘラナデ　体部外面ヘラ削り	床面	95%　PL70

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q225	有孔石製品	4.34	3.33	0.44	10.1	緑泥片岩	両面に研磨痕　孔径0.22㎝　双孔円盤ｃ　未製品	覆土中	PL89

第388号住居跡（第88・89図）

位置　西部４区中央部のＣ４c4 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第392号住居跡を掘り込み，第3806～3808・3810号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.60m，短軸4.82mの長方形で，主軸方向はＮ－６°－Ｗである。壁高は12～20㎝で，外傾して立ち上がっている。

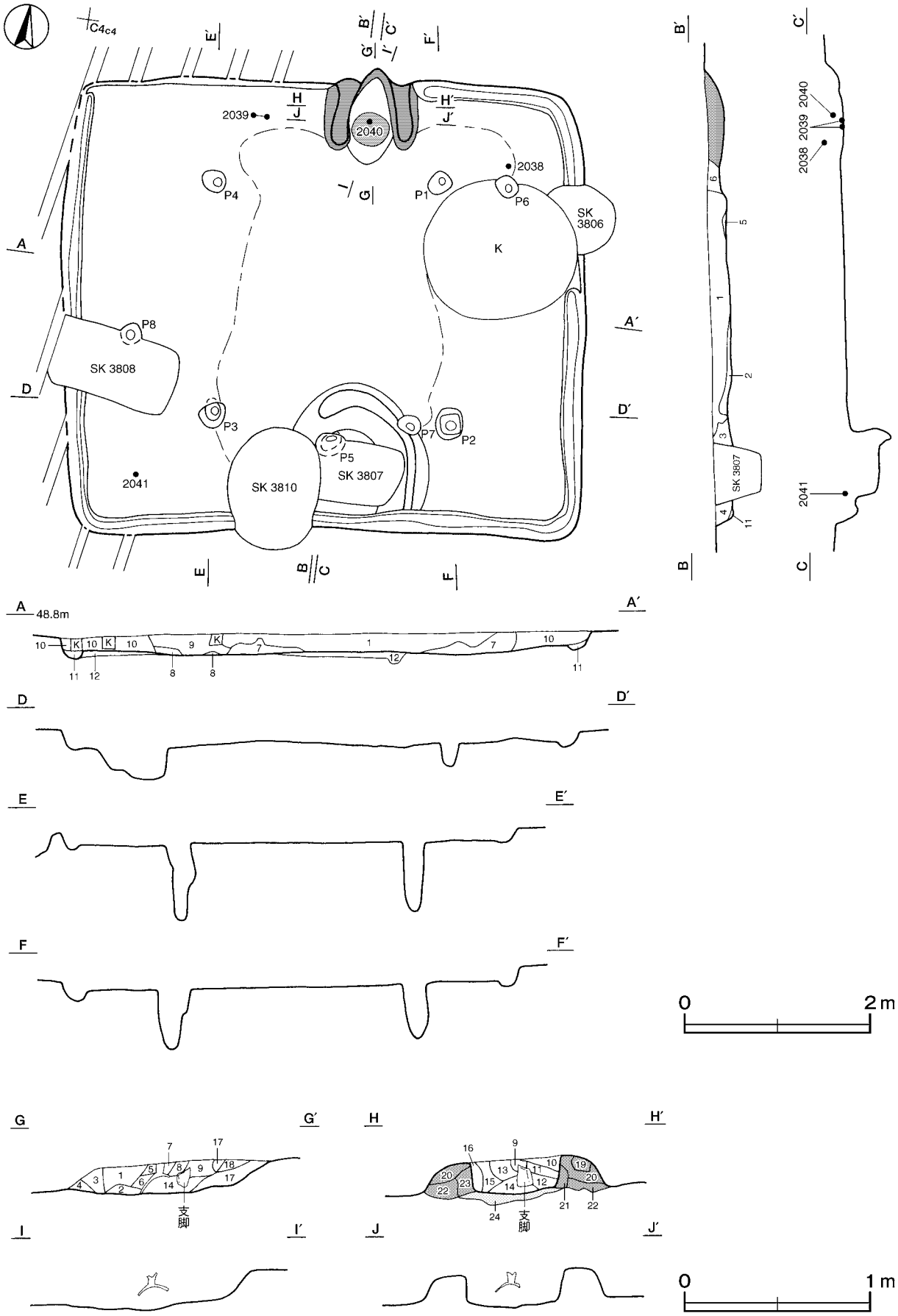
床　全体が堅く締まっていて平坦である。壁溝が西壁から北東コーナー部まで周回している。Ｐ５を囲むように幅48㎝，高さ４㎝ほどの馬蹄形の高まりが確認されている。貼床は，第392号住居跡に10㎝ほどの褐色土を充填して構築されている。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで106㎝，袖部幅100㎝である。袖部は床面上に砂質粘土を含む褐色土で構築されている。火床部は深さ６㎝ほどで円形を呈しており，火床面は火熱を受けて赤変している。火床部には自然石が埋設されており，火熱を受けていることから支脚と考えられる。煙道部は壁外へ20㎝ほど掘り込まれ，緩やかに傾斜して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック･白色粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，粘土ブロック微量
3　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
5　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・白色粒子微量
6　極 暗 褐 色　焼土ブロック・砂質粘土微量
7　黒　褐　色　焼土ブロック微量
8　暗　褐　色　砂質粘土少量，焼土粒子微量
9　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
10　黒　褐　色　砂質粘土中量，ローム粒子・焼土粒子微量
11　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土微量
12　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子･砂質粘土粒子微量
13　暗　褐　色　砂質粘土少量，焼土ブロック微量
14　暗　褐　色　ロームブロック少量
15　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量，砂質粘土・白色粒子微量
16　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・白色粒子微量
17　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・白色粒子微量
18　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子・砂質粘土少量
19　灰 黄 褐 色　砂質粘土多量，ローム粒子・焼土粒子微量
20　暗　褐　色　砂質粘土中量，ローム粒子・焼土粒子微量
21　にぶい黄褐色　砂質粘土中量，焼土ブロック少量，粘土ブロック・ローム粒子微量
22　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
23　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土少量
24　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量

ピット　８か所。P1 ～ P4 は深さ57～80㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5 は深さが43㎝で，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6 ～ P8 は深さ33～43㎝で，性格は不明である。



第88図　第388号住居跡実測図

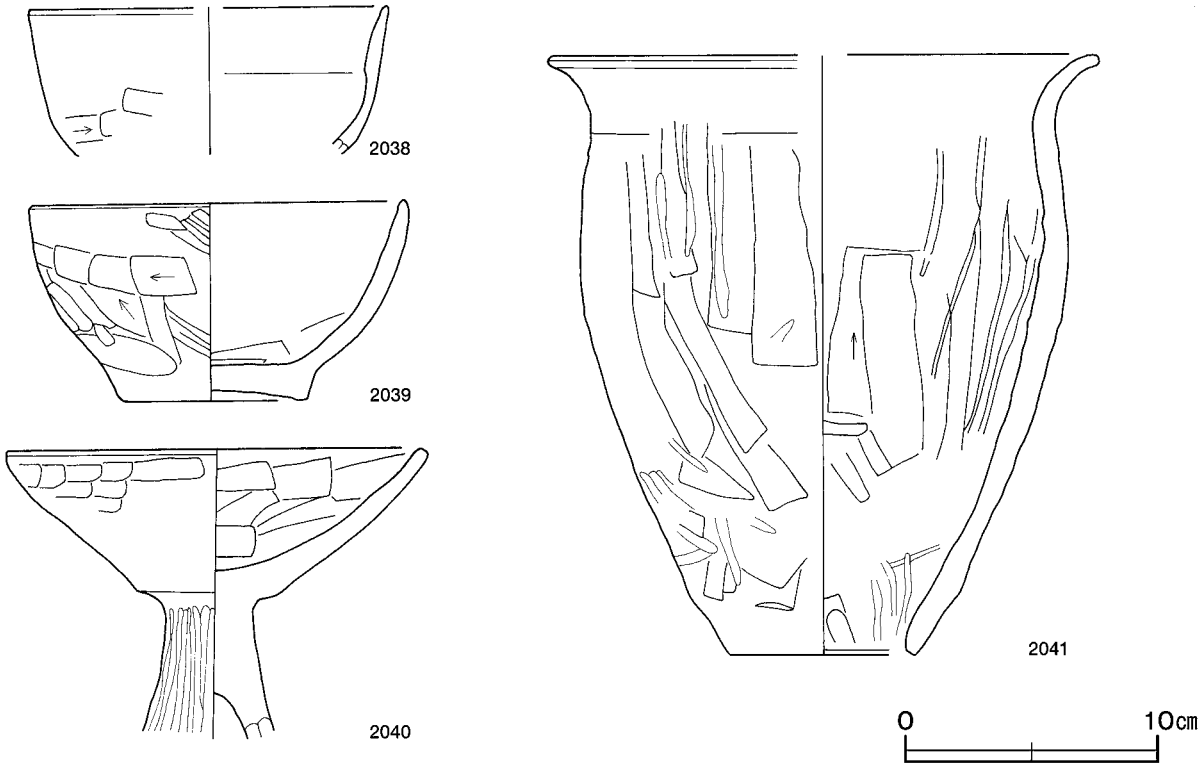
覆土　12層に分層される。各層にロームブロックや焼土を含んでおり，人為堆積と考えられる。土層断面図の第12層は貼床層である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・砂質粘土微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
5　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子少量
8　黒　褐　色　ロームブロック微量
9　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
10　黒　褐　色　ローム粒子微量
11　褐　　色　ロームブロック少量
12　褐　　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片655点（坏91，高坏３，甕554，甑７），石器１点（支脚）が北部や西部を中心に出土している。また，流れ込んだ縄文土器片１点，弥生土器片13点，土師器片１点（椀），須恵器片14点（坏７，高台付坏１，蓋１，甕５），青磁片１点，粘土塊４点も出土している。2040は火床面に逆位で出土している。2039は竈西側の床面から出土した破片が接合したものである。2041は南西コーナー部の覆土下層から出土している。2038は北東コーナー部の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀中葉と考えられる。



第89図　第388号住居跡出土遺物実測図

第388号住居跡出土遺物観察表（第89図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2038	土師器	坏	[14.2]	(5.8)	－	石英	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り，ナデ　体部内面ナデ	覆土上層	10%
2039	土師器	椀	14.8	7.8	7.2	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ヘラナデ　外面ヘラ削り	床面	90%　PL64
2040	土師器	高坏	16.5	(11.4)	－	石英・長石・雲母	赤褐	普通	坏部内面ヘラナデ　坏部外面ヘラナデ　脚部外面ヘラ磨き	覆土下層	45%
2041	土師器	甑	[21.6]	23.7	7.4	赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横ナデ　体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き　体部内面ヘラ削り後ヘラナデ	覆土下層	40%

第392号住居跡（第90・91図）

位置　西部４区中央部のＣ４c4 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第388号住居，第3807・3808・3810号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.74m，短軸3.60mの方形と推定され，主軸方向はＮ－２°－Ｗである。壁高は15～24cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が，東側と北西コーナー部の壁下にみられる。

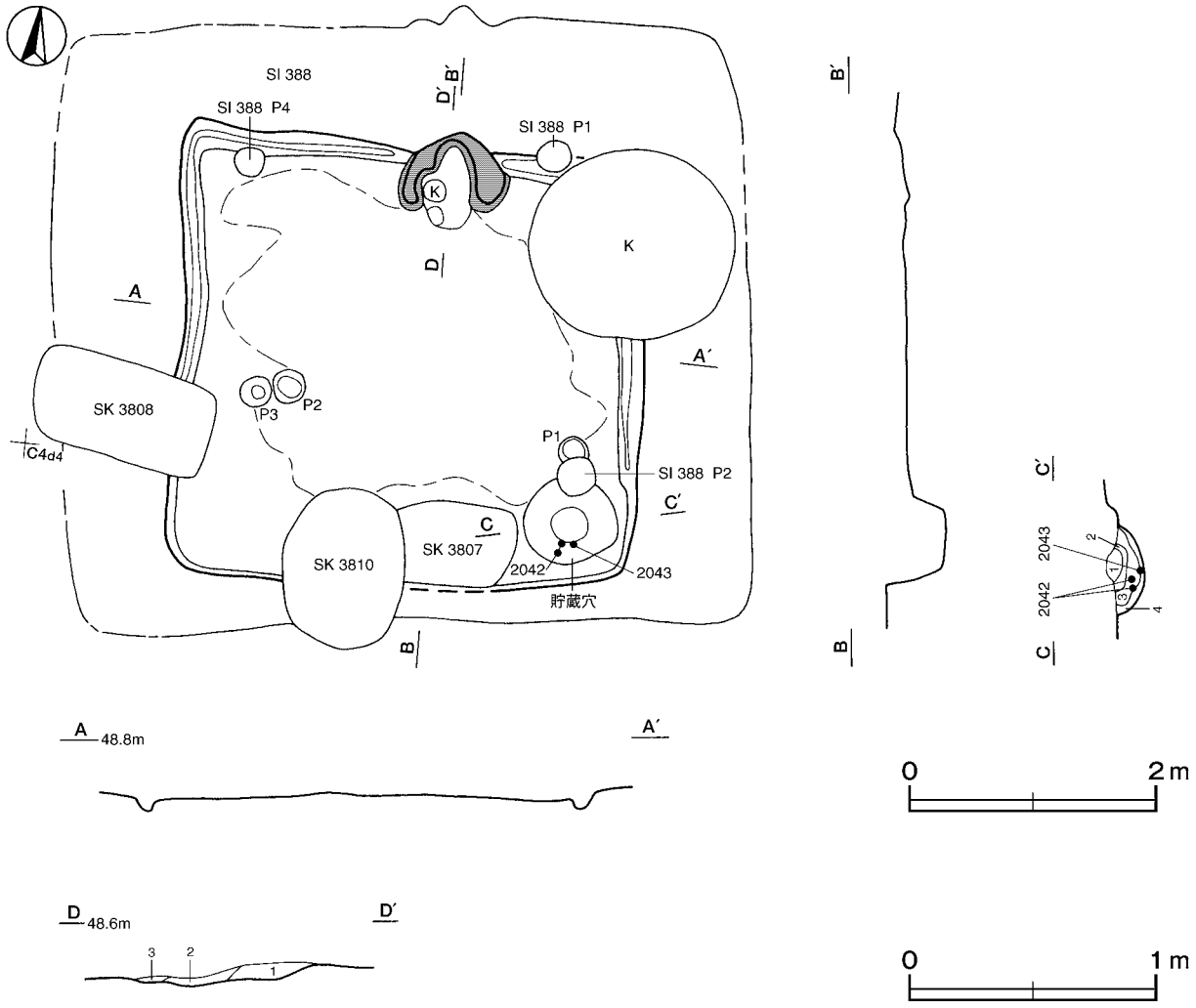
竈　北壁の中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで80cm，袖部幅80cmである。袖部は床面上に粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さであり，火床面は火熱で赤変した一部分が確認された。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ，緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・砂質粘土少量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量

ピット　３か所。P1 ・ P2 は深さが13cm・14cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P3 は深さ29cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径76cm，短径70cmの楕円形で，深さ32cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに立ち上がっている。



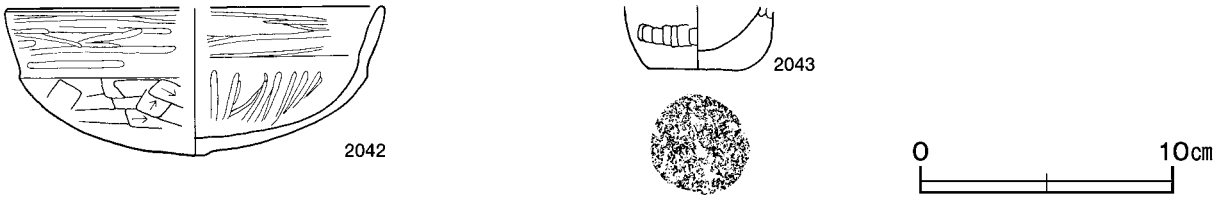
第90図　第392号住居跡実測図

貯蔵穴土層解説

1　灰　　色　粘土ブロック多量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片25点（坏６，甕18），ミニュチュア土器１点が全域から出土している。2042・2043は貯蔵穴の覆土下層から出土している。また，流れ込んだ須恵器片１点（坏）も出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀前葉と考えられる。



第91図　第392号住居跡出土遺物実測図

第392号住居跡出土遺物観察表（第91図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2042	土師器	坏	[14.8]	5.8	－	石英・長石	赤褐	普通	口縁部内・外面横方向の磨き　体部内面放射状の磨き　外面ヘラ削り	貯蔵穴	50%
2043	ﾐﾆｭﾁｭｱ土器	－	－	(2.5)	3.8	石英・長石・赤色粒子	橙	普通	体部内面ナデ　外面ヘラナデ	貯蔵穴	80%

第396号住居跡（第92・93図）

位置　西部４区中央部のＣ４ｆ2 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第371・373～375・389号住居，第3734号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　東部が削平を受けており確認された範囲は，東西軸5.50m，南北軸5.20mの方形と推定され，主軸方向はＮ－３°－Ｅである。壁高は９～16cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が確認された範囲で全周している。

竈　北壁中央部からやや東寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで114cm，袖部幅90cmである。袖部は地山を掘り込んだあと褐色土を充填し，その上に砂質粘土を貼り付けて構築されている。内壁は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は５cmほどの深さで円形を呈しており，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外へ１cmほど掘り込まれ，緩やかに立ち上がっている。

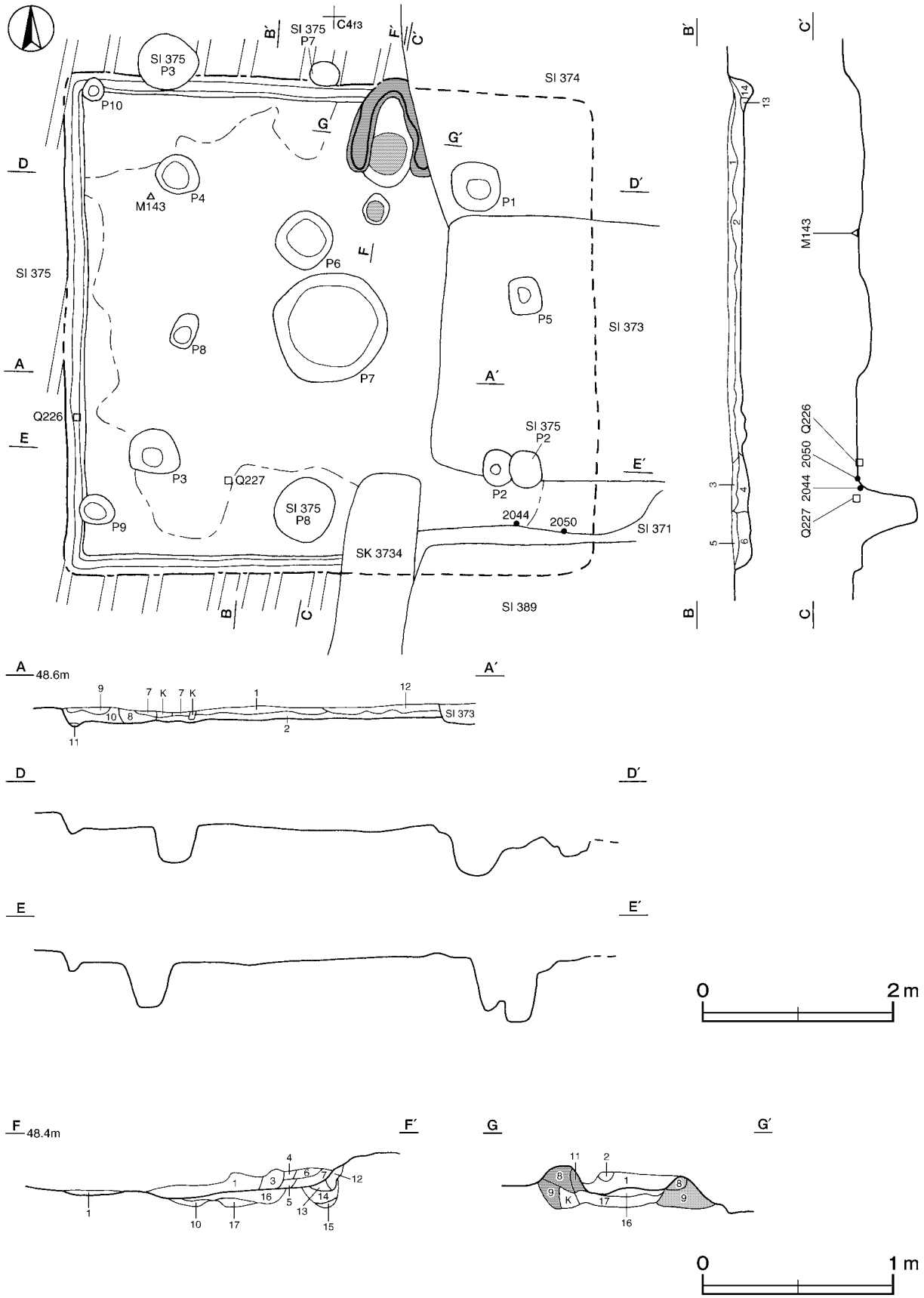
竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック・粘土ブロック中量
2　灰　白　色　砂質粘土多量，焼土ブロック少量
3　灰　白　色　砂質粘土多量
4　暗赤褐色　焼土ブロック少量，砂質粘土微量
5　暗赤褐色　焼土ブロック・砂質粘土少量
6　暗赤褐色　焼土ブロック中量
7　暗赤褐色　焼土ブロック少量
8　暗　褐　色　砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック少量
9　褐　　色　ロームブロック多量
10　極暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
11　暗赤褐色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，ロームブロック少量
12　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
13　暗赤褐色　焼土粒子少量，ロームブロック微量
14　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
15　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
16　赤　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック多量
17　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物少量

炉　竈の前方に確認されており，長径32cm，短径28cmの不整楕円形である。床面を５cm掘りくぼめられ，炉床は火熱を受けて赤変している。

炉土層解説

1　極暗赤褐色　焼土ブロック多量，黒色土少量



第92図　第396号住居跡実測図

ピット　10か所。P1～P4は深さ38～54㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5～P10は深さは12～52㎝で，性格は不明である。

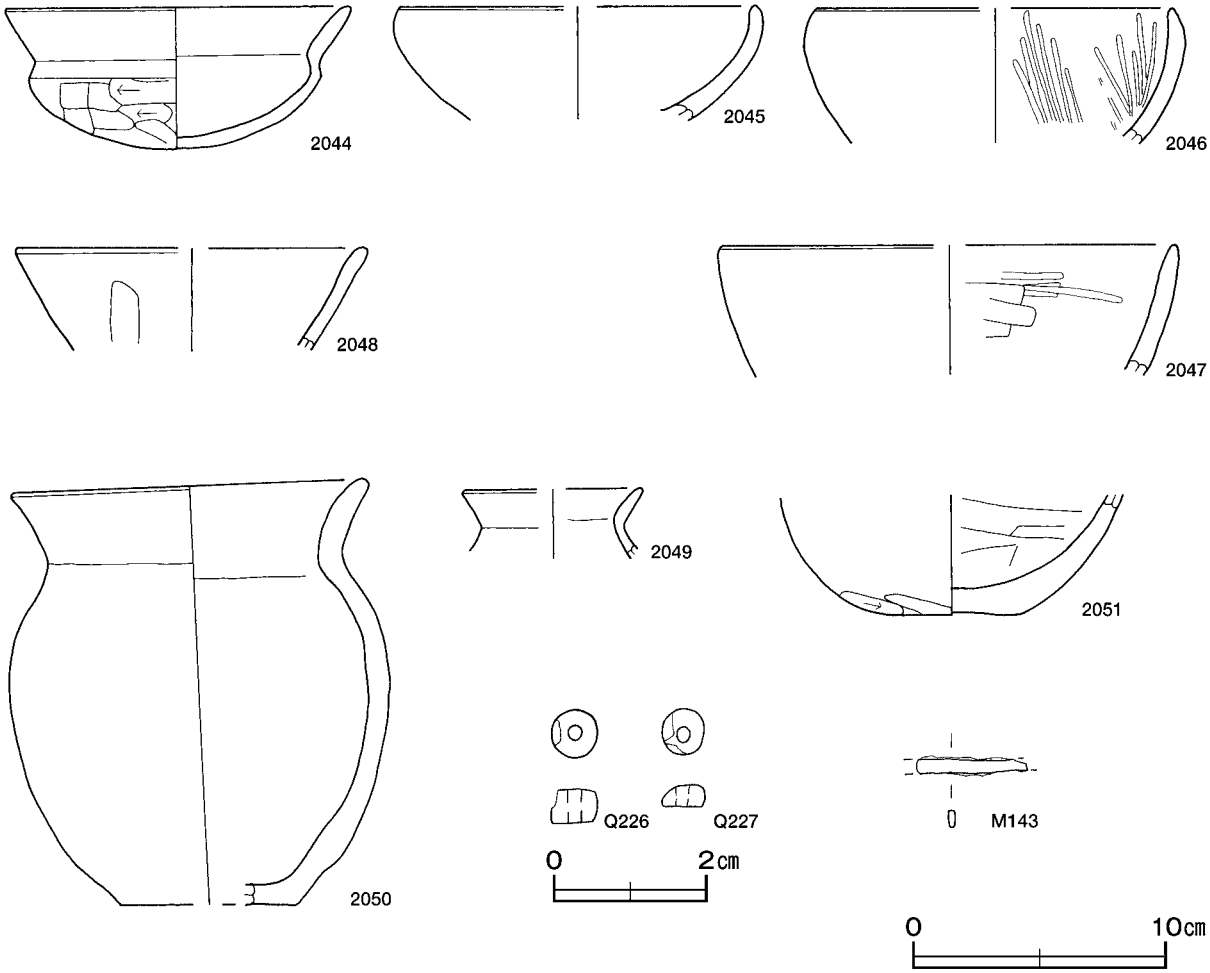
覆土　14層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック微量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量
9　黒　褐　色　ローム粒子微量
10　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
11　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
12　黒　褐　色　ロームブロック･砂質粘土少量,焼土ブロック微量
13　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
14　暗　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片150点（坏64，高坏３，甕81，甑１，小形甕１），石製品２点（臼玉）が北壁周辺を中心として出土している。また，流れ込んだ弥生土器片16点，須恵器片３点（坏１，高台付坏１，甕１），鉄製品１点（不明），粘土塊も出土している。2044・2050は南東コーナー部の床面から，2045～2048・2051はP2から，Q226・Q227が南西コーナー部の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉もしくはそれ以前と考えられる。本住居は炉のみが確認された第375号住居跡に掘り込まれているが，ほぼ同時期に近く，炉と共存する竈を有する住居と考えられる。



第93図　第396号住居跡出土遺物実測図

第396号住居跡出土遺物観察表（第93図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2044	土師器	坏	13.5	5.6	－	石英･長石･雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	床面	65%　PL63
2045	土師器	坏	[14.0]	(4.5)	－	石英･白色粒子	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ナデ	覆土中	15%
2046	土師器	坏	[14.1]	(5.3)	－	石英・白色粒子	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ヘラ磨き外面ナデ	Ｐ２覆土中	25%
2047	土師器	坏	[17.8]	(5.2)	－	石英・長石・白色粒子	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ヘラナデ後ヘラ磨き	貯蔵穴	15%
2048	土師器	坏	[13.8]	(4.1)	－	石英・長石	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ	Ｐ２覆土中	10%
2049	土師器	小形甕	[7.0]	(2.8)	－	石英･長石･雲母	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ナデ	竈左袖部内	５%
2050	土師器	甕	14.0	16.8	[7.0]	石英・長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ナデ	床面	60%
2051	土師器	甕	－	(4.7)	4.8	石英・長石	赤褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	Ｐ２覆土中	10%

番号	器種	径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q226	臼玉	0.62	0.44	0.24	滑石	側面円筒状　全面研磨　孔径0.20㎝	床面	PL89
Q227	臼玉	0.58	0.25	0.11	滑石	側面円筒状　全面研磨　孔径0.20㎝	床面	PL89

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M143	不明	(4.4)	0.9	0.27	(2.72)	鉄	断面方形	覆土下層	PL90

表３　古墳時代住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（㎝）	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考(時期)
							壁溝	主柱穴	出入口	ピット	炉･竈	貯蔵穴			
304	Ａ１e5	Ｎ－16°－Ｗ	［方形］	5.92×5.90	26～38	平坦	ほぼ全周	4	1	1	竈	－	自然	土師器，須恵器，鉄製品	７世紀前葉
305	Ａ１e4	Ｎ－88°－Ｅ	［長方形］	3.82×3.40	5	平坦	－	－	1	1	－	－	自然	土師器，須恵器	５世紀中葉
306	Ａ１e3	Ｎ－21°－Ｗ	［方形･長方形］	5.48×(2.42)	34	平坦	－	1	1	1	－	－	自然	土師器，須恵器	６世紀後葉
308	Ａ１f1	Ｎ－88°－Ｅ	［方形･長方形］	3.35×2.82	13	平坦	一部	－	－	－	炉	－	自然	土師器，須恵器	５世紀後葉
309	Ａ１f6	Ｎ－35°－Ｗ	方形	4.71×4.43	32～50	平坦	ほぼ全周	4	1	－	竈	－	人為	土師器，須恵器，鉄製品	７世紀後葉
311	Ａ１g6	Ｎ－16°－Ｗ	長方形	6.30×6.05	30～47	平坦	－	4	1	－	炉２	－	人為	土師器，土製品，砥石	５世紀中葉
312	Ａ１g5	Ｎ－17°－Ｗ	方形	4.40×4.08	40	平坦	全周	4	1	－	竈	－	自然	土師器，須恵器	7世紀末～8世紀初頭
313	Ａ１g3	Ｎ－81°－Ｅ	長方形	8.00×6.70	18～26	平坦	－	4	－	－	炉	1	自然	土師器，不明鉄製品	５世紀代
317	Ｚ２h3	Ｎ－34°－Ｗ	［方形･長方形］	6.70×(6.30)	37	凹凸	一部	3	－	－	炉２	－	自然	土師器，砥石，不明鉄製品	５世紀後葉
318	Ａ２a3	Ｎ－23°－Ｗ	［方形･長方形］	6.50×4.26	23～34	平坦	一部	2	－	－	竈	－	自然	土師器	７世紀後葉
319	Ａ２c3	Ｎ－36°－Ｅ	［方形･長方形］	4.76×(4.70)	20～32	平坦	［全周］	－	－	－	－	－	自然	土師器	５世紀代
323	Ａ２i2	Ｎ－３°－Ｗ	方形	6.44×6.32	25～43	平坦	ほぼ全周	4	1	－	炉４	2	自然	土師器，須恵器，剣形模造品	５世紀中葉
326	Ａ１h9	Ｎ－16°－Ｗ	方形	4.68×4.65	28～36	平坦	ほぼ全周	4	1	7	竈	1	自然	土師器，須恵器，支脚	７世紀前葉
332	Ａ１d9	Ｎ－10°－Ｗ	方形	6.94×6.64	44	平坦	－	4	1	1	竈	1	自然	土師器，手捏土器	７世紀前半
334	Ａ２b1	Ｎ－26°－Ｗ	方形	6.30×5.84	27～42	平坦	ほぼ全周	4	－	7	炉	2	自然	土師器	５世紀後葉
343	Ａ２h4	Ｎ－17°－Ｗ	［方形･長方形］	(4.14)×(1.64)	44	平坦	一部	－	－	－	－	－	自然	土師器	７世紀前葉
347	Ｂ２d9	Ｎ－23°－Ｗ	［方形･長方形］	(5.80)×(5.70)	38～49	平坦	一部	－	－	－	－	－	自然	土師器	４世紀末
348	Ｂ２d8	Ｎ－26°－Ｗ	［方形･長方形］	(8.10)×7.93	35～37	平坦	全周	3	2	1	－	－	自然	土師器，須恵器，支脚	６世紀後葉
351	Ｂ２g8	Ｎ－40°－Ｗ	［方形･長方形］	(4.88)×(4.36)	９～15	平坦	－	－	－	－	炉２	－	自然	土師器，紡錘車	５世紀代
352	Ｂ３f2	Ｎ－８°－Ｗ	［方形］	4.63×(2.95)	50	平坦	［周回］	－	1	－	－	－	自然	土師器，剣形模造品	６世紀前半

番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考（時期）
							壁溝	主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
354	B３i2	N－38°－W	方形	6.59×6.53	19～29	平坦	ほぼ全周	3	1	2	竈	－	自然	土師器，須恵器	6世紀中葉(SI153)
355	B３h3	N－23°－W	［方形・長方形］	(6.68)×(5.15)	26～34	平坦	－	4	－	1	－	－	自然	土師器，土製品	５世紀中葉
357	B３i5	N－33°－W	方形	5.85×5.58	27	平坦	一部	4	1	7	竈	－	自然	土師器，鉄製品	６世紀中半
369	B３h1	N－17°－W	［方形・長方形］	4.80×(2.00)	25	平坦	－	－	－	1	竈	－	自然	土師器	７世紀前半
372	B３h7	N－14°－W	［方形・長方形］	[4.85]×[4.60]	不明	凹凸	－	3	－	18	炉２	－	不明	土師器	古墳時代中期以前
375	C４e2	N－０°	［方形・長方形］	7.48×(6.75)	８～20	平坦	［全周］	3	1	4	炉２	－	自然	土師器	５世紀後葉
376	C３d0	N－27°－W	［方形］	5.40×5.27	15～27	平坦	一部	4	1	1	竈	－	自然	土師器，砥石，紡錘車	６世紀後葉
378	C４c2	N－２°－E	［方形］	5.88×(5.32)	20～26	平坦	［全周］	2	－	2	炉３	－	自然	土師器	５世紀後葉
379	B３h4	N－24°－W	［方形・長方形］	4.81×3.90	26	平坦	一部	4	－	1	竈	－	自然	土師器	６世紀中葉
383	B２g7	N－26°－W	［方形・長方形］	(2.62)×(1.74)	30～32	平坦	一部	－	－	－	－	－	不明	土師器	６世紀後葉
385	C４b6	N－７°－W	［方形・長方形］	(5.08)×(3.35)	18～33	平坦	［全周］	1	－	1	－	1	自然	土師器	６世紀前葉
387	C４d3	N－２°－E	方形	4.80×4.66	８～16	平坦	全周	4		5	竈	1	自然	土師器，有孔石製品	６世紀中葉
388	C４c4	N－６°－E	長方形	5.60×4.82	12～20	平坦	ほぼ全周	4	1	3	竈	－	人為	土師器	６世紀中葉
392	C４c4	N－２°－W	［方形］	3.74×3.60	15～24	平坦	一部	2	－	1	竈	1	－	土師器	６世紀前葉
396	C４f2	N－３°－E	［方形］	[5.50]×5.20	９～16	平坦	［全周］	4	－	6	炉・竈	－	自然	土師器，臼玉，鉄製品	５世紀後葉以前

(2) 土坑

第3822号土坑（第94図）

位置　西部４区中央部のＣ３g8 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸0.86m，短軸0.55mの長方形で，長軸方向はＮ－88°－Ｗである。深さは45cmで，壁はほぼ直立している。底面の西側に長径64ｃｍ，短径24ｃｍのピット状の掘り込みがある。

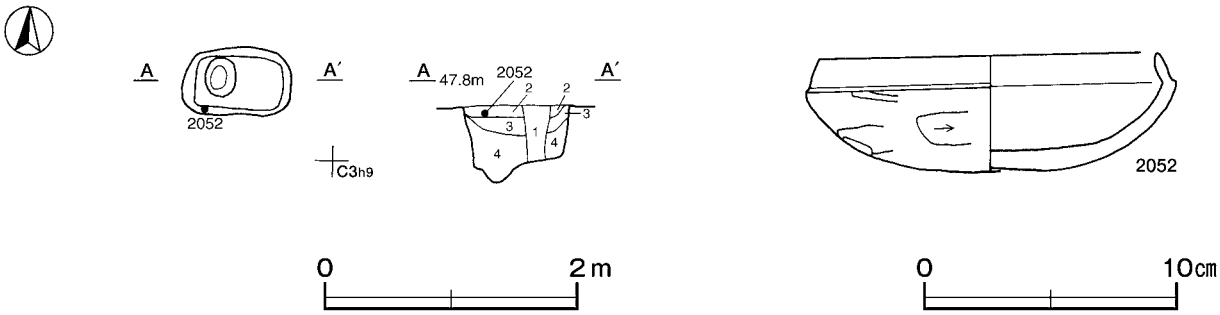
覆土　４層に分層される。ロームブロックが多量に含まれており，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子少量
4　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片10点（坏２，甕８），須恵器片１点（坏）が出土している。2052は南西コーナー部の覆土上層から正位で出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉と考えられる。



第94図　第3822号土坑・出土遺物実測図

第3822号土坑遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2052	土師器	坏	13.4	4.7	4.8	赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ナデ　外面ヘラ削り後ナデ	覆土上層	70%　PL63

第3893号土坑（第95図）

位置　西部４区東部のＣ５h8 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第78号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　北東側が調査区域外に延びているため，北東軸3.22m，短軸1.40mのみ確認できた。平面形は楕円形と推定され，長軸方向はN－35°－Wである。深さ76㎝，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

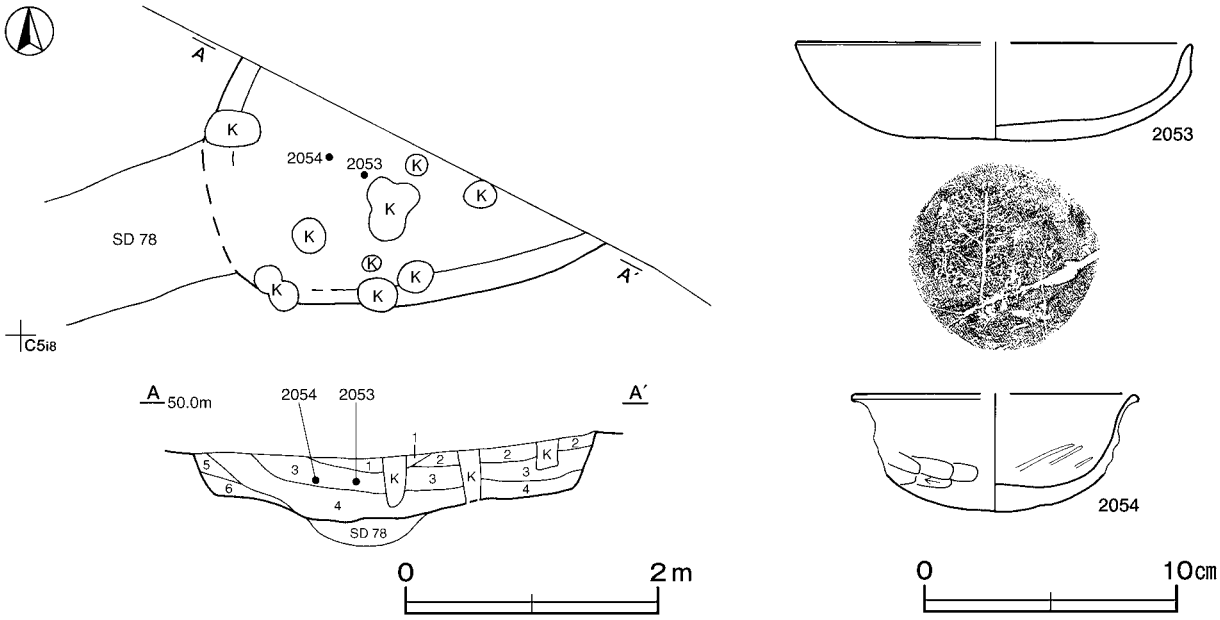
覆土　６層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
5　灰　褐　色　ロームブロック中量
6　明　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片２点（坏）が出土している。2053・2054はほぼ中央部の覆土中層から出土している。ともに第３層内のほぼ同じ高さから正位で出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉と考えられる。



第95図　第3893号土坑・出土遺物実測図

第3893号土坑遺物観察表（第95図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2053	土師器	坏	[15.6]	3.9	－	石英・長石・雲母	褐灰	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ヘラナデ　底部木葉痕	覆土中層	70%　PL63
2054	土師器	坏	[11.2]	4.6	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内面ヘラ磨き　外面ヘラ削り　底部内面ヘラ削り	覆土中層	30%

表４　古墳時代土坑一覧表

番号	位置	長径(軸)方向	規　模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考（時期）
			長径(軸)(m)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
3822	Ｃ３ｇ８	Ｎ－88°－Ｗ	0.86×0.55	45	直立	平坦	人為	土師器，須恵器	６世紀後葉
3893	Ｃ５ｈ８	Ｎ－35°－Ｗ	3.22×1.40	76	外傾	平坦	自然	土師器	６世紀後葉

(3)　溝跡

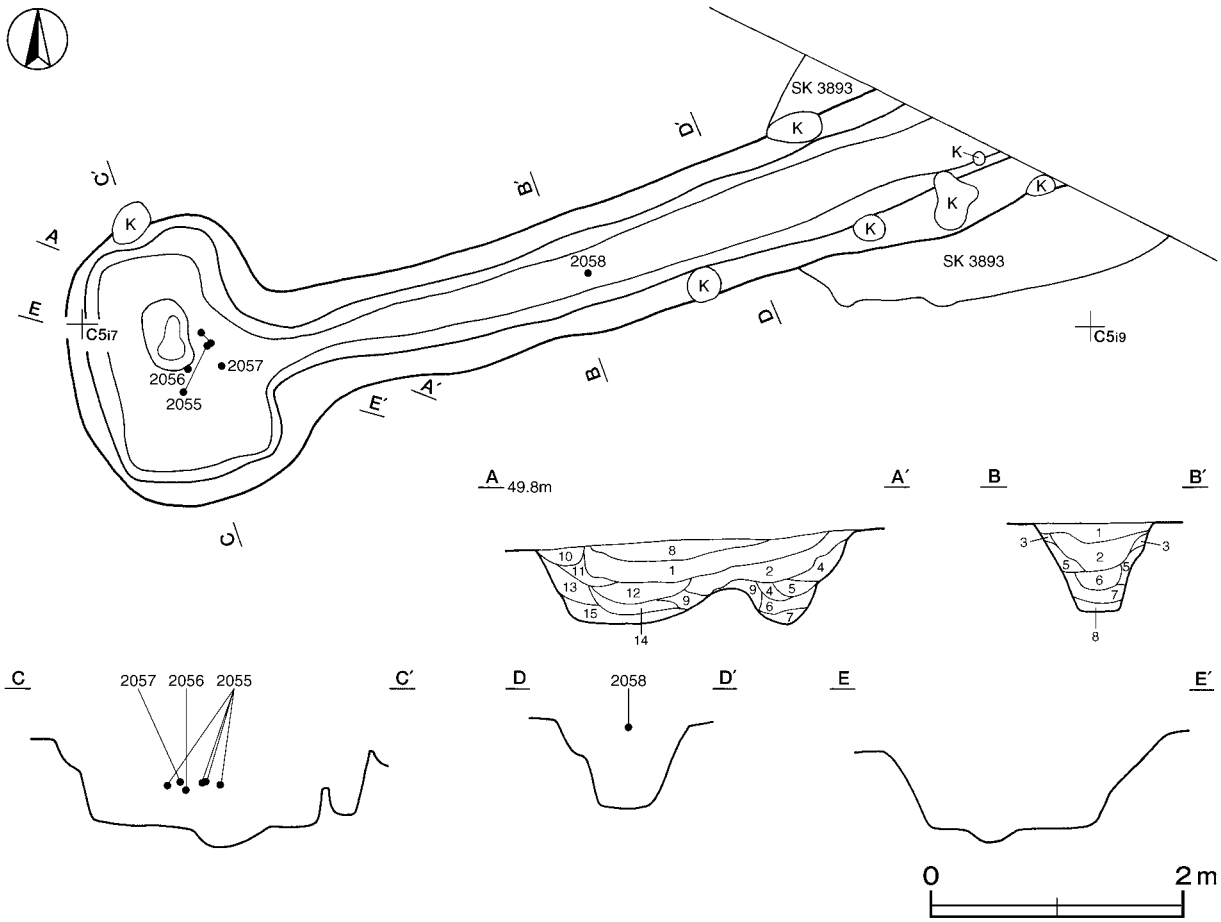
第78号溝跡（第96・97図）

位置　西部４区東区のＣ５ｉ６～Ｃ５ｈ9 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3893号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　Ｃ５ｈ9 区から西方向（Ｎ－71°－Ｗ）に直線的に延びている。長さ7.3mで，規模は上幅0.86～2.1m，下幅は0.16～0.62m，深さは68cmである。底面は平坦で，断面は逆台形状を呈し壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　15層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。



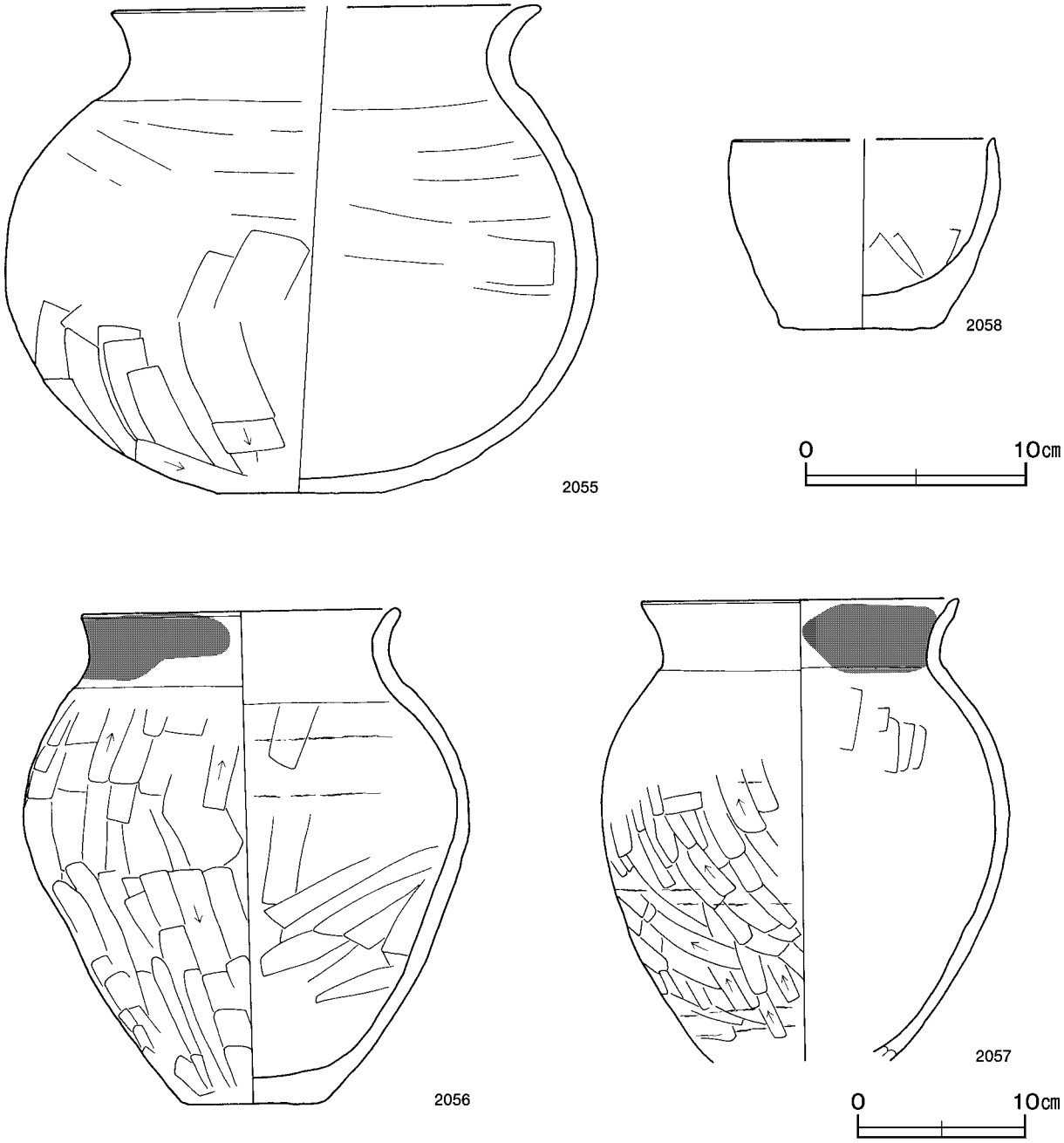
第96図　第78号溝跡実測図

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　黒　褐　色　ロームブロック微量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量
9　褐　　色　ローム粒子中量
10　黒　褐　色　ローム粒子微量
11　暗　褐　色　ローム粒子微量
12　黒　褐　色　ロームブロック少量
13　暗　褐　色　ローム粒子中量
14　黒　褐　色　ローム粒子中量
15　黒　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片119点（杯21，鉢１，壺１，甕95，甑１）が出土している。また，流れ込んだ須恵器片２点（高台付杯・盤），弥生土器片１点，縄文土器片１点も出土している。2055～2057は西部の覆土中層から，2058は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器及び重複関係から古墳時代と考えられる。



第97図　第78号溝跡出土遺物実測図

第78号溝跡遺物観察表（第97図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2055	土師器	甕	[19.2]	22.0	7.6	石英・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り，ヘラナデ　体部内面ヘラナデ	覆土中層	30%　PL68
2056	土師器	甕	19.0	29.5	8.6	石英・長石・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面横ナデ　内面ヘラナデ　外面ヘラ削り　底部ヘラ削り	覆土中層	100%　PL71
2057	土師器	甕	18.9	(27.6)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　外面輪積痕　体部内面ヘラナデ	覆土中層	80%　PL71
2058	土師器	鉢	[11.8]	8.6	7.3	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ナデ　内面ヘラナデ	覆土上層	60%

3　奈良・平安時代の遺構と遺物

竪穴住居跡69軒，掘立柱建物跡１棟，土坑２基，井戸跡７基，溝跡２条が確認されている。以下，確認された遺構と遺物について記述する。

(1)　竪穴住居跡

第141号住居跡（第98図）

位置　西部４区西部のＢ２h6 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。南部は平成15年度に調査が終了している。

重複関係　第3740号土坑，第71号溝，第１号道路に掘り込まれている。

規模と形状　北側と西側の壁が削平されているため，確認できた範囲は長軸3.20m，短軸2.88mで，平面形は長方形と推定され，主軸方向はＮ－25°－Ｗである。壁高は13cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北壁の東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで88cm，袖部幅116cmである。袖部は床面を基部として，砂質粘土で構築されている。火床部は床面を５cmほど円形に掘りくぼめており，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外へ24cm掘り込まれており，火床部から緩やかに立ち上がっている。袖部の内側から煙道部にかけ火熱を受けて赤変している。第１層は天井の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1　明黄褐色　粘土ブロック多量
2　暗赤褐色　焼土ブロック多量
3　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
5　黒　褐　色　粘土ブロック・ロームブロック・焼土ブロック少量

ピット　３か所。P1 は深さ38cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P2 は深さ26cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P3 は深さ22cmで，性格は不明である。

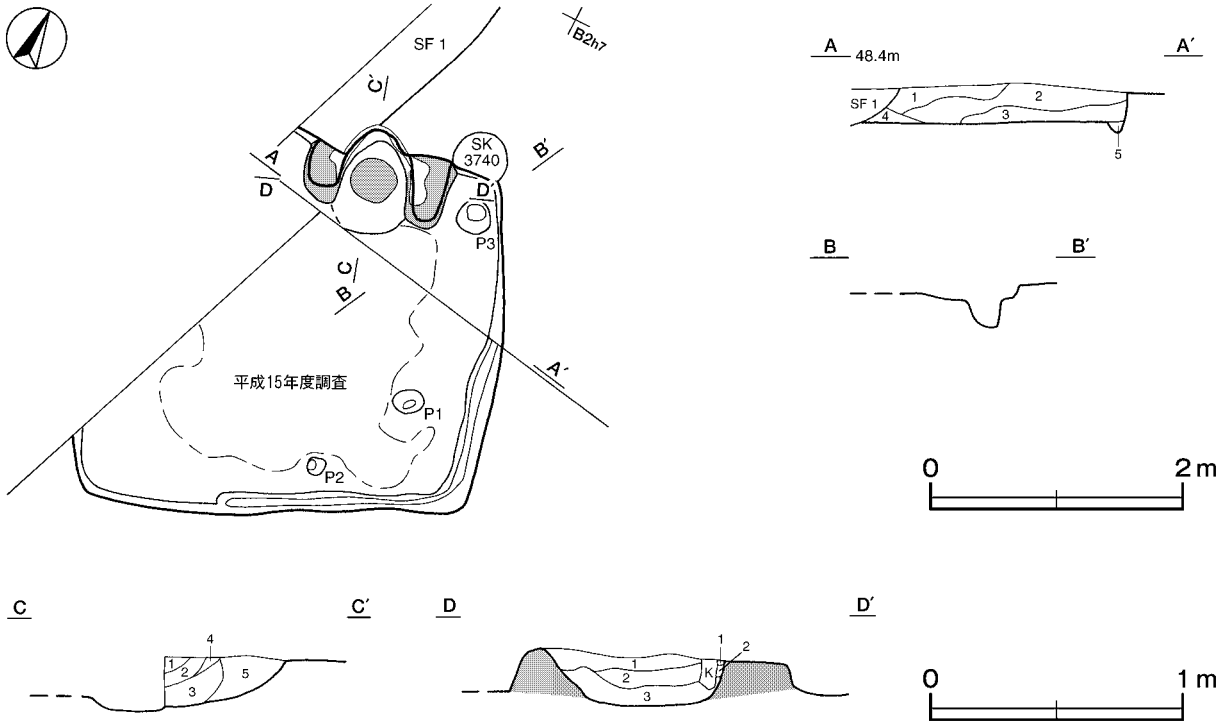
覆土　５層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，鹿沼パミスブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　暗　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片13点（坏２，甕11），須恵器片２点（坏）が，覆土中層から下層にかけて出土している。また，流れ込んだ弥生土器片５点も出土している。土器は細片で，図示することができない。

所見　平成15年度調査区分の『茨城県教育財団文化財調査報告』第248集において，時期は８世紀末葉から９世紀前葉と報告されている。今回の調査区の出土土器は細片であるが，既報告の時期を追認できるものと考えられる。



第98図　第141号住居跡実測図

第310号住居跡（第99・100図）

位置　西部３区西部のＡ１ｆ7 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第309・311号住居跡を掘り込み，第3605・3609号土坑，第67号溝に掘り込まれている。

規模と形状　北壁と西壁がほとんど残存していないため，規模や形状は明確ではない。確認された範囲は長軸2.97m，短軸2.94mの方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はＮ－13°－Ｅである。壁高は最大15cmで，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が東壁下と南壁下に確認されている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで82cm，袖部幅108cmである。袖部は，床面を基部として砂質粘土で構築されており，補強材として自然石が用いられている。火床部は浅く皿状にくぼんでおり，火床面はやや赤変している。煙道部は，壁外へ22cm掘り込み，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗　褐　色	砂粒中量，焼土ブロック少量	
2	黄　褐　色	砂粒多量，焼土粒子中量	
3	褐　　色	砂粒中量，ロームブロック・焼土ブロック少量	
4	褐　　色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量	
5	黄　褐　色	砂粒多量，焼土ブロック少量	
6	にぶい黄色	砂質粘土粒子多量	
7	暗　褐　色	ローム粒子・砂粒少量	
8	褐　　色	砂質粘土粒子少量	

ピット　深さは17cmで，性格は不明である。ピットの北側に硬化面が確認されていることから出入り口に伴うピットの可能性がある。

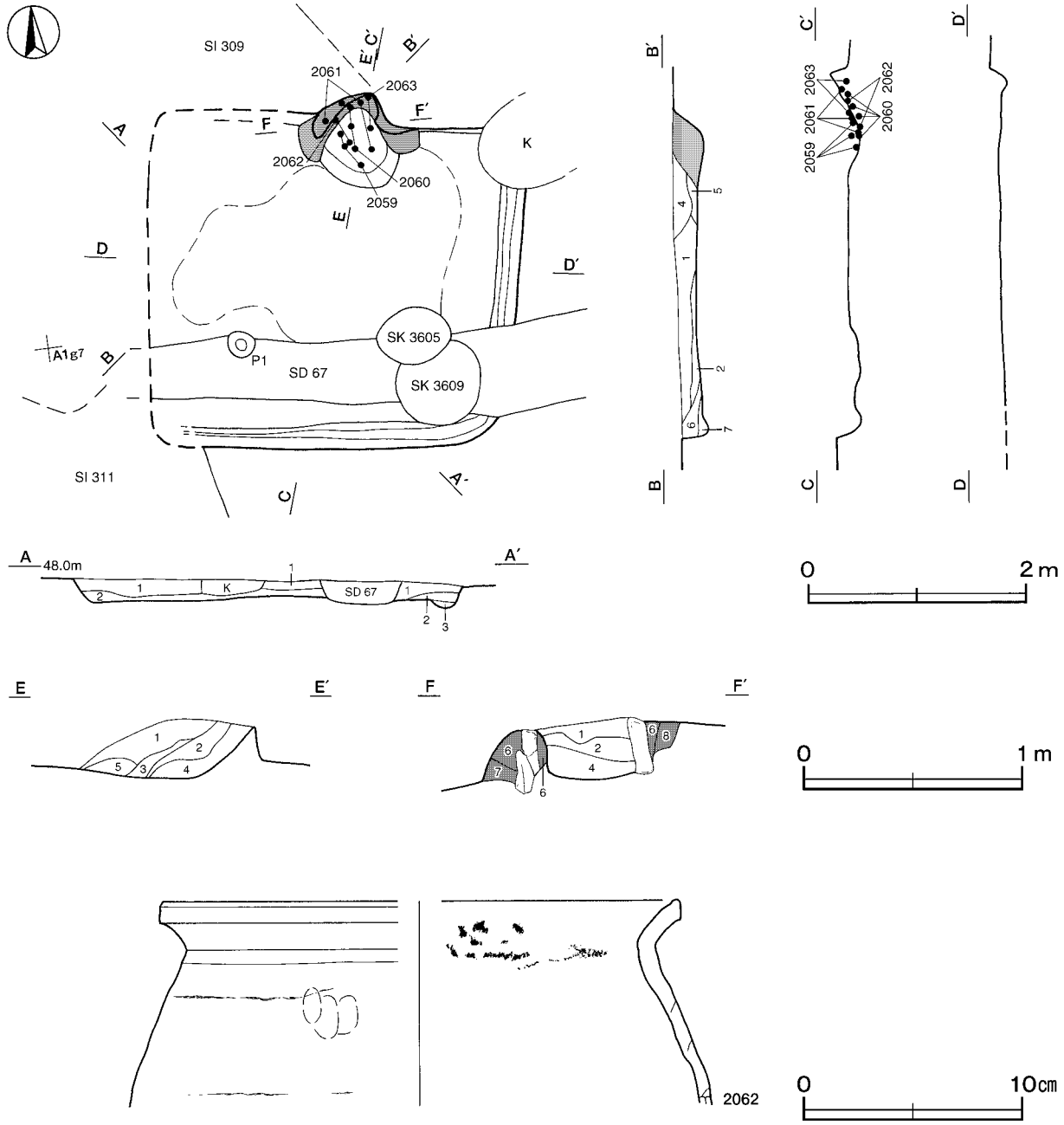
覆土　７層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

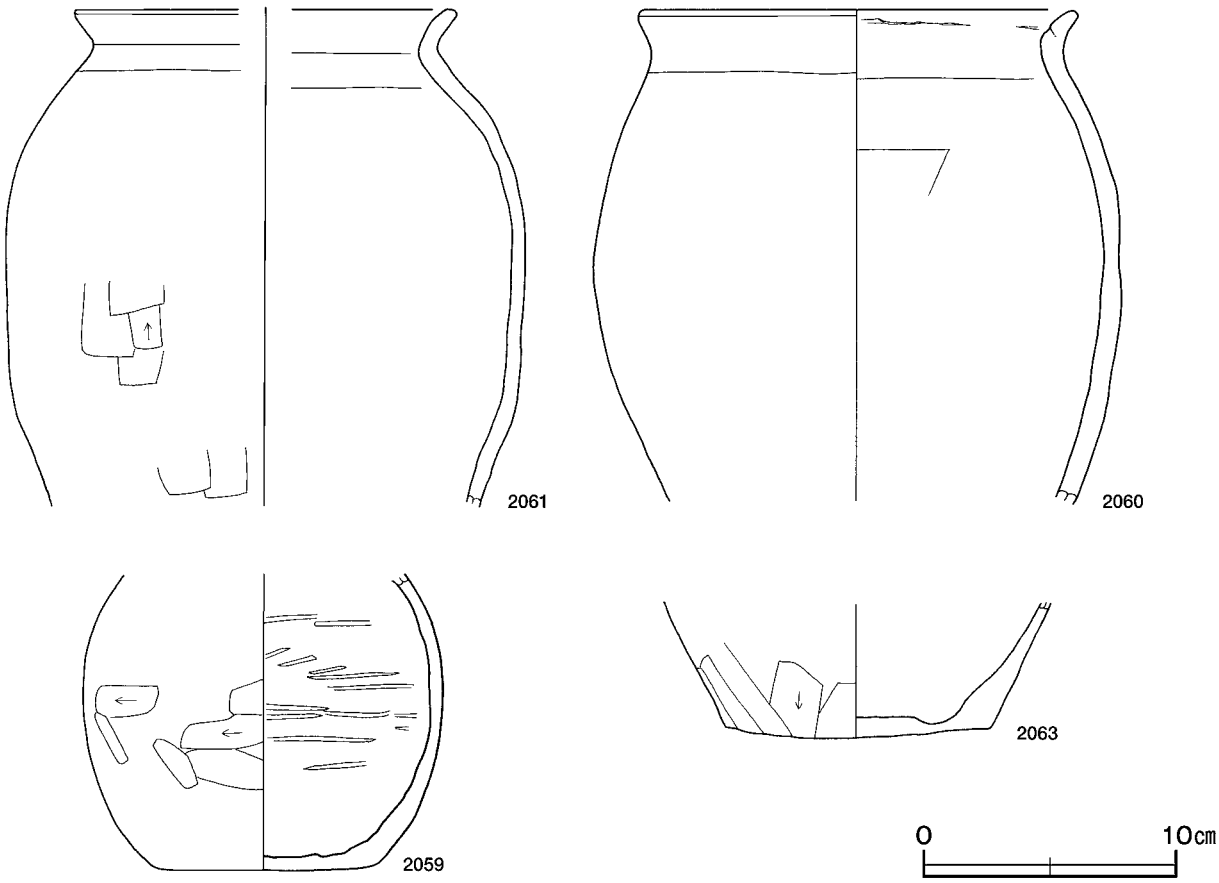
1　極暗褐色　ロームブロック少量
2　極暗褐色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　砂粒少量，ロームブロック微量
5　暗　褐　色　砂粒中量，ロームブロック少量
6　褐　　色　ロームブロック少量，砂粒微量
7　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片287点（坏75，高台付皿１，高坏５，甕206），須恵器片４点（坏１，甕３），細礫６点が，竈に集中して出土している。また，流れ込んだ弥生土器片13点も出土している。2059～2063は，竈から出土したものが，それぞれ接合したものである。出土土器の破片には，内面にヘラ磨きや黒色処理を施した坏が含まれているが，いずれも細片のため図示することができない。

所見　時期は，出土土器と遺構の形態から，９世紀後葉と考えられる。



第99図　第310号住居跡・出土遺物実測図



第100図　第310号住居跡出土遺物実測図

第310号住居跡出土遺物観察表（第99・100図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2059	土師器	小形甕	－	(12.0)	8.6	石英･長石･雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	竈内	40%
2060	土師器	甕	17.1	(19.5)	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　内面ヘラナデ　輪積み痕	竈内	50%　PL81
2061	土師器	甕	[14.4]	(19.8)	－	石英･長石･雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	竈内	30%　PL81
2062	土師器	甕	[23.5]	(9.4)	－	石英･長石･白色粒子･赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り　外面指頭痕	竈内	5％ 口縁部内面煤付着
2063	土師器	甕	－	(5.3)	10.4	石英･長石･雲母	橙	普通	体部外面下端ヘラ削り	竈内	5％　PL78

第314号住居跡（第101・102図）

位置　西部３区西部のＡ－１g0 区で，標高47mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸4.88m，短軸4.44mの方形で，主軸方向はＮ－９°－Ｗである。壁高は32㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで92㎝，袖部幅114㎝である。袖部は床面と同じ高さの地山を基部とし，粘土を積み重ねて構築されている。火床部は，床面と同じ高さの平坦な面をそのまま使用しており，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は，壁外へ半円形状に16㎝ほど掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック多量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
4　褐　　色　ロームブロック・砂質粘土ブロック少量
5　赤　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
6　黄　褐　色　ロームブロック・砂粒少量
7　褐　　色　砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック少量
8　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック多量

ピット　5か所。P1～P4は深さ22～43㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ31㎝で，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

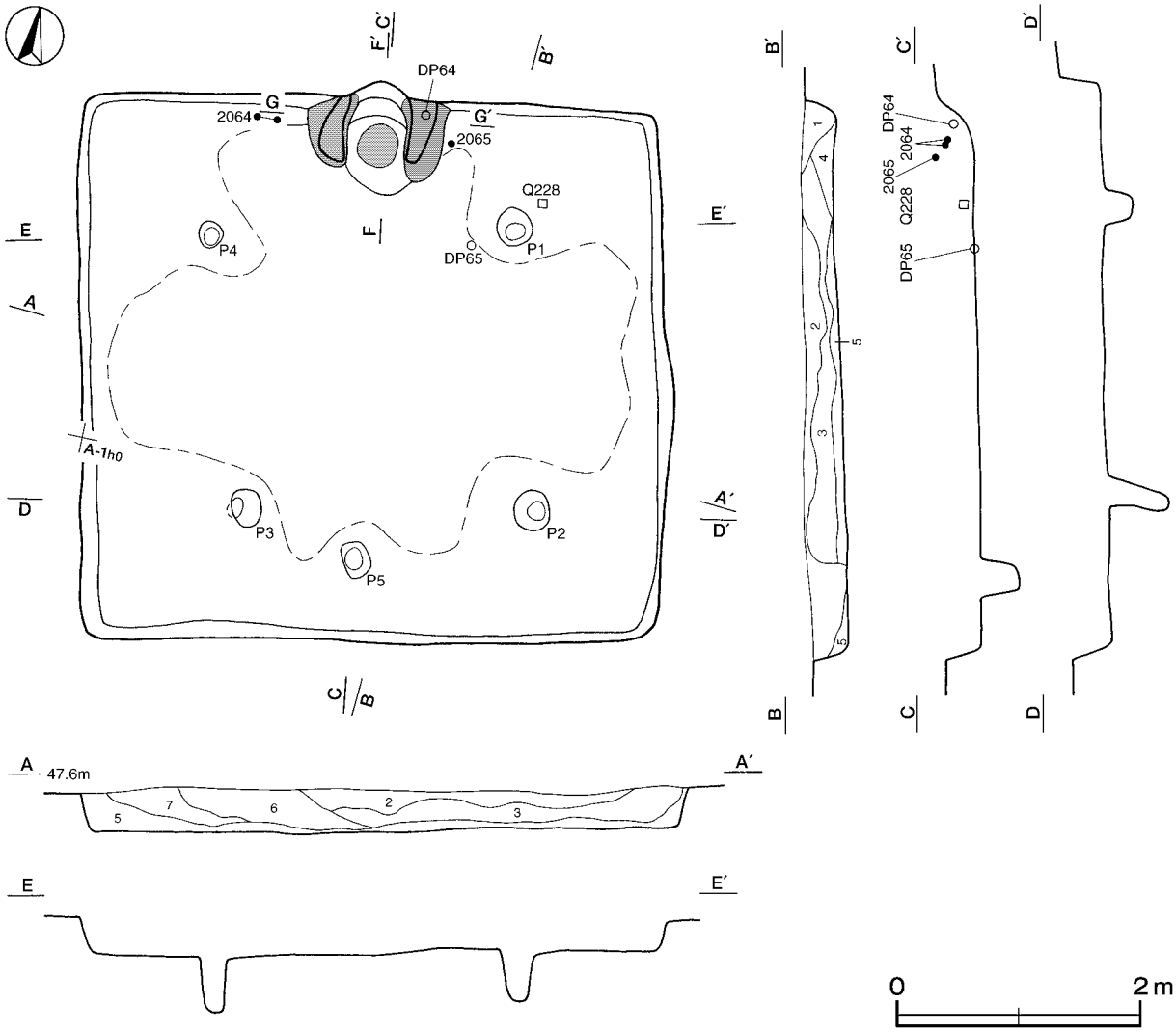
覆土　7層に分層される。焼土粒子･炭化粒子･ロームブロック等が不規則に含まれた人為堆積と考えられる。

土層解説

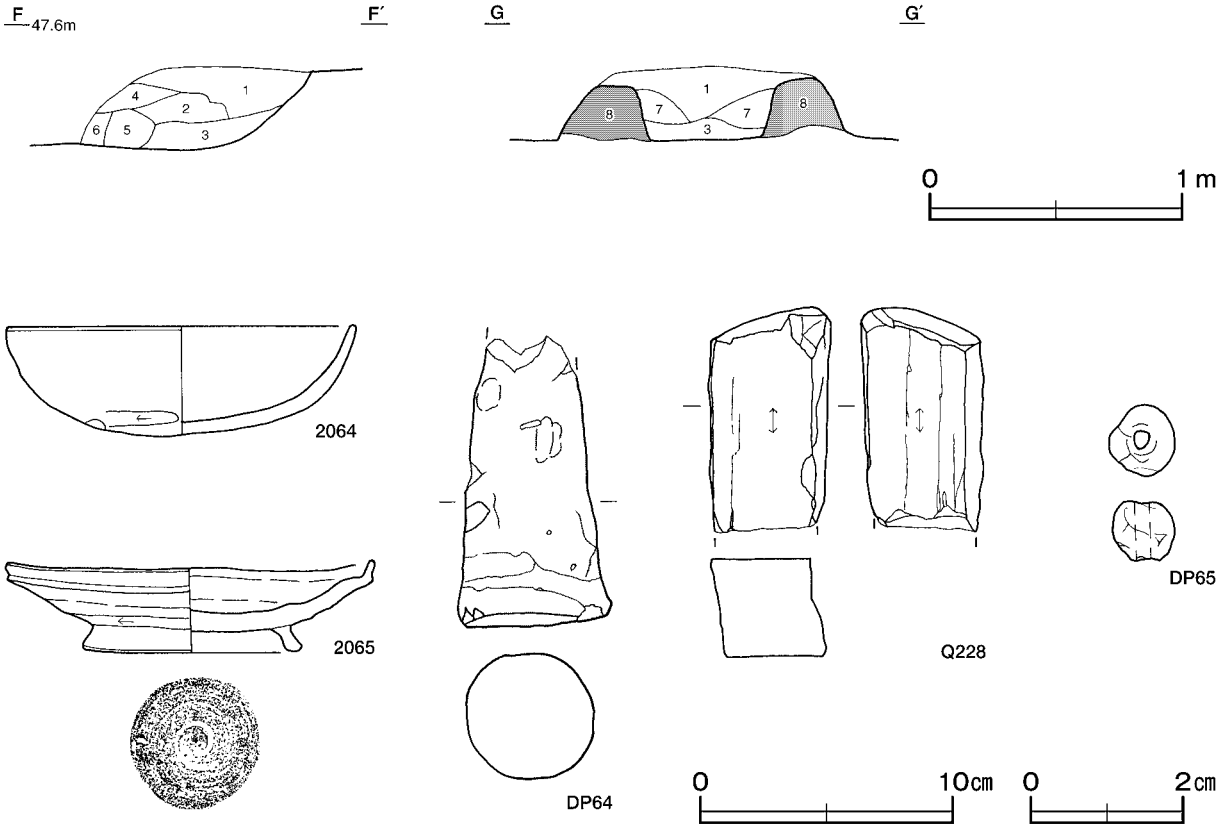
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　極 暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　褐　　色　ローム粒子中量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　黒　褐　色　ロームブロック中量
7　黒　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片136点（坏50，高坏1，甕85），須恵器片3点（蓋2，盤1），石器1点（砥石），土製品2点（支脚，土玉）が，覆土中層から下層にかけて散在するように出土している。また，流れ込んだ弥生土器片27点も出土している。2064は竈周辺から出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第101図　第314号住居跡実測図



第102図　第314号住居跡・出土遺物実測図

第314号住居跡出土遺物観察表（第102図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2064	土師器	坏	13.8	4.3	－	雲母･赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中層	75%　PL72
2065	須恵器	盤	14.3	3.7	8.4	石英・長石・白色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土上層	90%　PL77

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
DP64	支脚	(11.6)	6.1	5.7	(354)	雲母	赤褐	普通	指頭押圧痕	覆土下層	PL85

番号	種別	径	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP65	土玉	0.92	0.74	0.54	長石・雲母	外形ゆがみ　孔径0.20cm	覆土上層	PL85

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q228	砥石	(8.9)	4.9	3.9	(301.0)	ホルンフェルス	砥面２面	覆土下層	PL87

第320号住居跡（第103・104図）

位置　西部３区東部のＺ２ｊ2区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3664号土坑を掘り込み，第3646号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.64m，短軸3.08mの長方形で，主軸方向はN－70°－Eである。壁高は16cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　東壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで42㎝である。袖部は，地山を掘り残した基部のみが確認された。火床部は，床面を円形に５㎝ほど掘りくぼめており，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は，壁外へ半円形状に19㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。その右内壁には雲母混じりの粘土が貼付けられており，赤変している。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・白色粒子微量
2　黒　褐　色　白色粒子少量，粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・細礫微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・白色粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，白色粒子微量
5　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子微量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量
7　暗 赤 褐 色　粘土粒子微量

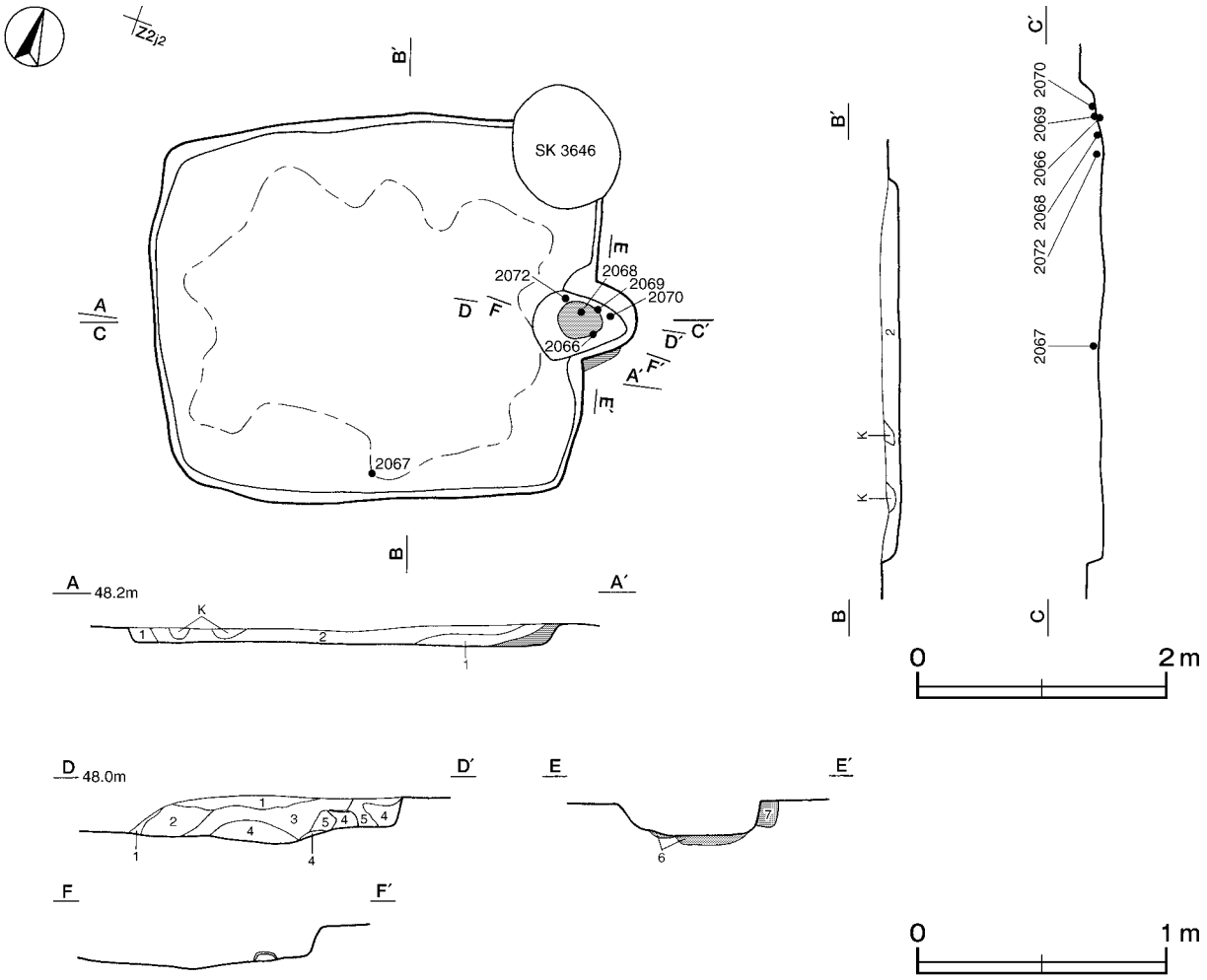
覆土　２層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

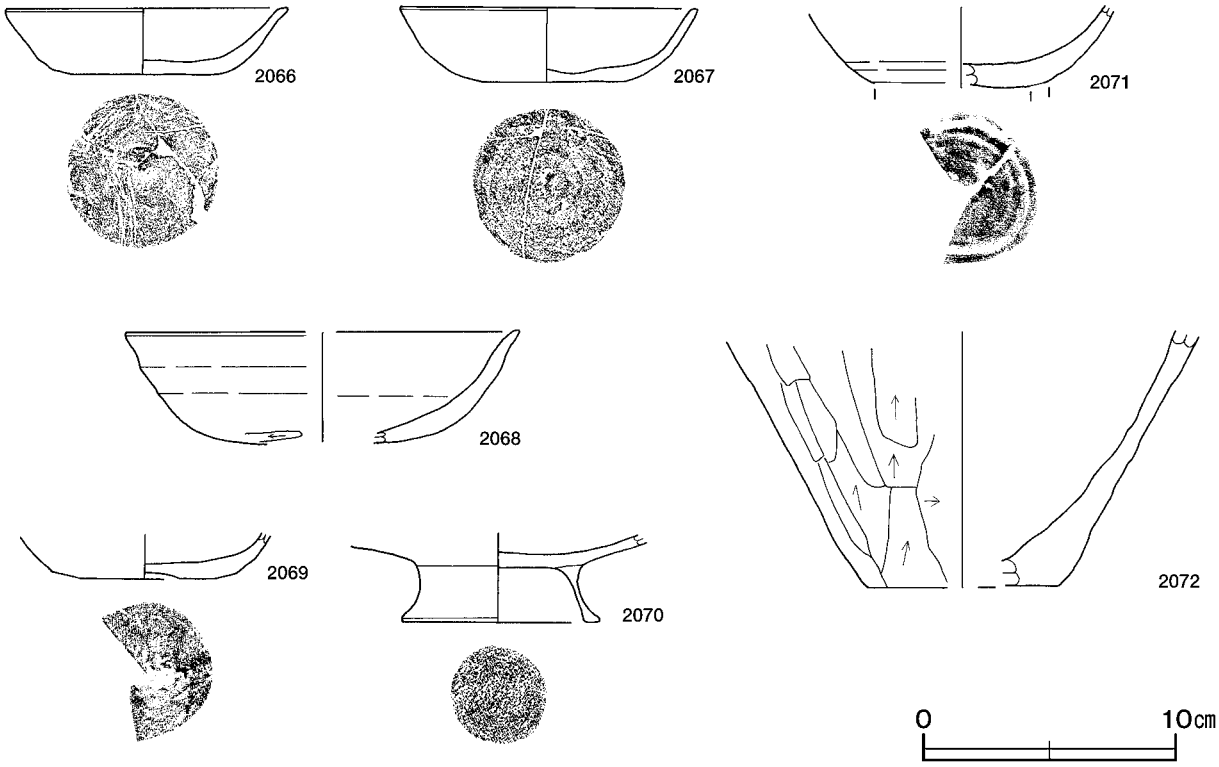
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片105点（坏36，高台坏椀２，甕67），中礫５点が，竈内と覆土中層から下層にかけて出土している。また，流れ込んだ弥生土器片１点，須恵器片７点も出土している。2066は火床面から逆位で出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀後葉と考えられる。



第103図　第320号住居跡実測図



第104図　第320号住居跡出土遺物実測図

第320号住居跡出土遺物観察表（第104図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2066	土師器	坏	11.1	2.7	5.8	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り	竈内	95%　PL72
2067	土師器	坏	11.6	3.0	6.2	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	覆土下層	35%
2068	土師器	坏	[15.6]	(4.3)	－	金雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	竈内	５%
2069	土師器	坏	－	(1.8)	5.4	石英・長石・金雲母	浅黄橙	普通	内・外面ナデ　底部ヘラ切り	竈内	30%
2070	土師器	高台付椀	－	(3.5)	7.7	石英・長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	内・外面ロクロナデ	竈内	20%
2071	土師器	高台付椀	－	(3.3)	－	石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	高台貼付け	覆土中	20% 高台剥離痕
2072	土師器	甕	－	(10.2)	[7.8]	石英・長石・雲母	赤褐	普通	体部外面ヘラ削り	竈内	30%

第321号住居跡（第105図）

位置　西部３区東部のＡ２ｆ2 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3625・3663号土坑，第69号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.12m，短軸2.84mの長方形で，主軸方向はＮ－99°－Ｅである。壁高は12cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が北壁から南壁中央部にかけて周回している。

竈　東壁中央部に付設されている。袖部幅88㎝で，煙道部が第69号溝に掘り込まれているため，焚口部から煙道部までの長さは不明である。袖部は，少量の粘土を混ぜた黒褐色土で構築されている。火床部は浅く皿状にくぼめられており，火床面には赤変した部分が確認できなかった。煙道部の内壁にも少量の粘土を混ぜた黒褐色土が貼り付けられている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック多量

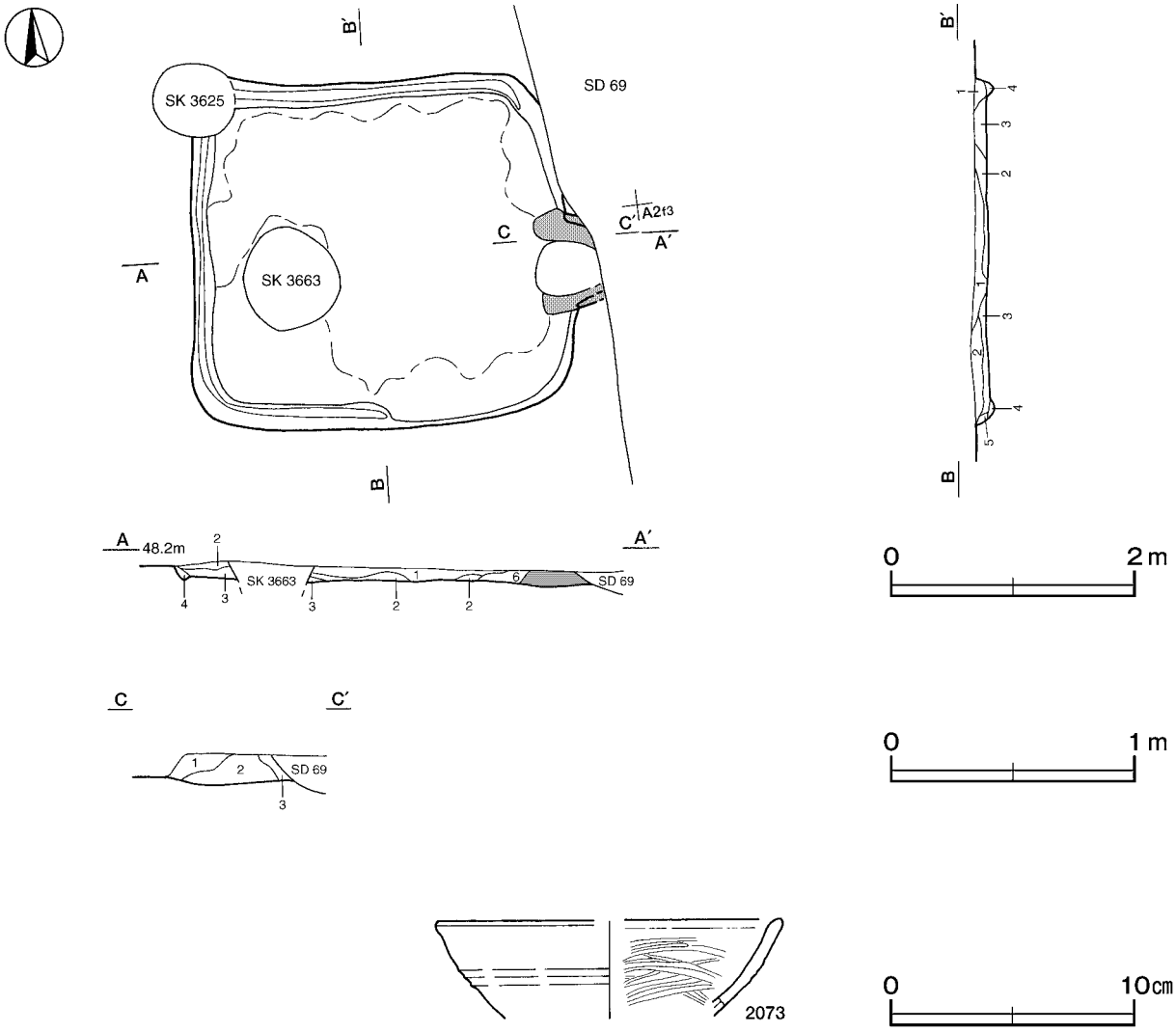
覆土　６層に分層される。ロームブロックが不規則に含まれた人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量
5　褐　　色　ロームブロック中量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片125点（坏16，高台付椀１，甕108），中礫２点が，全域に散在するように細片で出土している。また，流れ込んだ弥生土器片５点，須恵器片２点，磁器片１点も出土している。2073は，北西コーナー部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器と遺構の形態から10世紀後半と考えられる。



第105図　第321号住居跡・出土遺物実測図

第321号住居跡出土遺物観察表（第105図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2073	土師器	坏	[14.2]	(4.0)	－	雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	5％

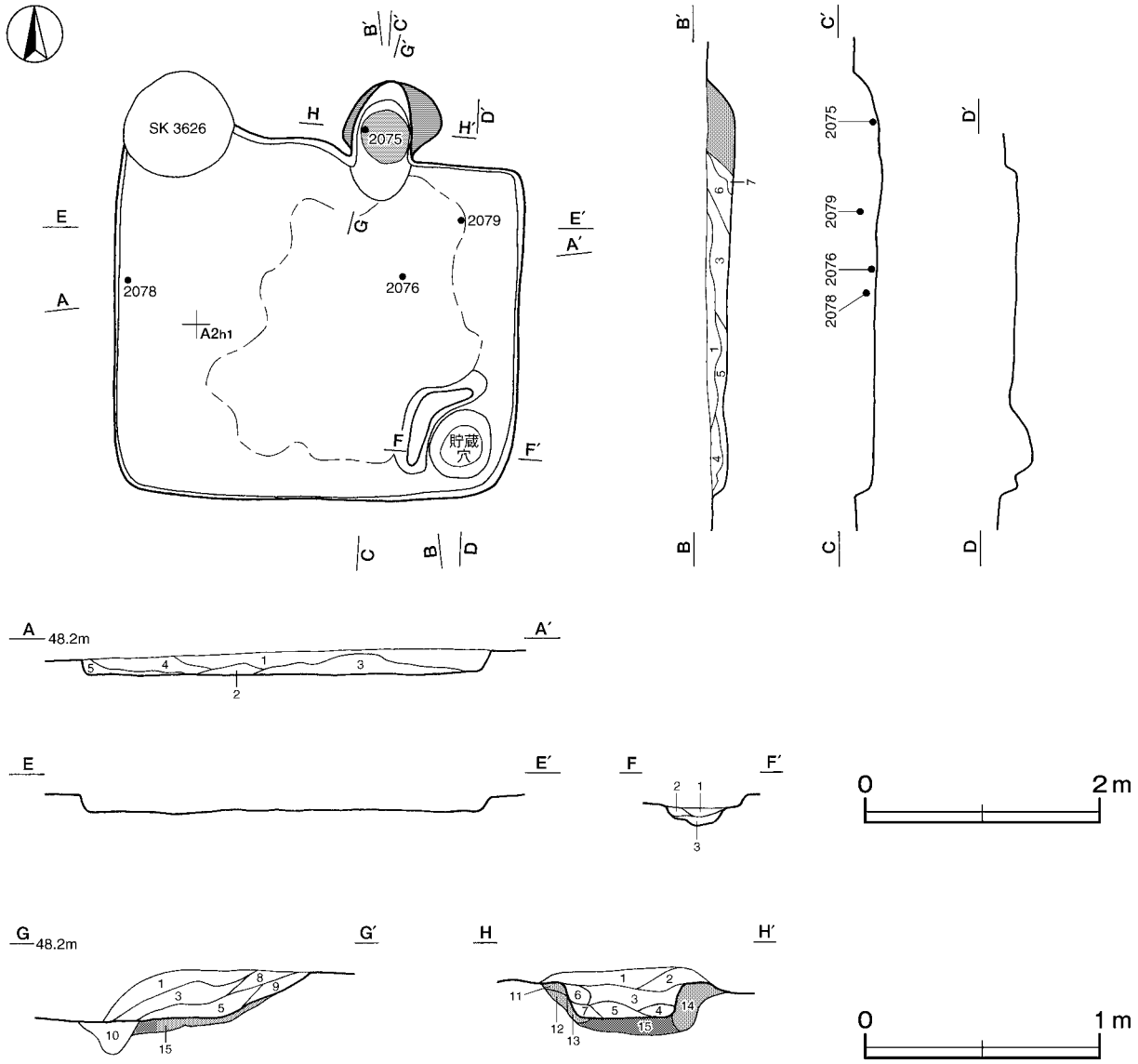
第324号住居跡（第106・107図）

位置　西部３区東部のＡ２g1 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3626号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.43m，短軸3.09mの長方形で，主軸方向はＮ－７°－Ｅである。壁高は10～14㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。また，貯蔵穴を囲むように幅20～24㎝，高さ５㎝のＬ字型の高まりが確認された。



第106図　第324号住居跡実測図

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで102㎝，袖部幅は53㎝である。袖部は地山を掘り残しローム土と粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さで円形を呈し，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ半円形状に60㎝ほど掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
2　黒　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
4　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量
5　極暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　焼土ブロック少量
7　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
9　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，粘土粒子微量
10　黒　褐　色　炭化物・灰中量
11　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子微量
12　暗　褐　色　焼土粒子少量，粘土ブロック微量
13　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック少量
14　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
15　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径59㎝，短径51㎝の楕円形で，深さは16㎝である。底面は皿状である。

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　極暗褐色　焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量

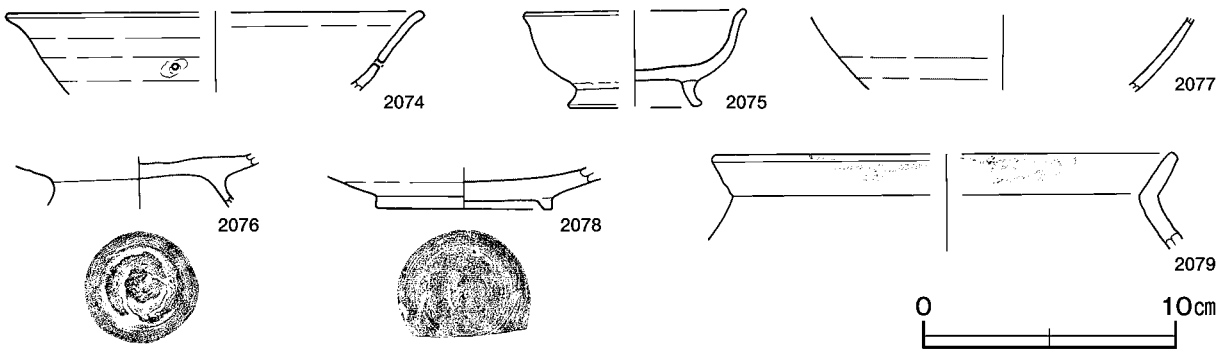
覆土　７層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック中量，炭化物少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量
5　褐　　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　焼土粒子中量，粘土ブロック少量
7　暗　褐　色　焼土ブロック少量

遺物出土状況　土師器片166点（坏30，高台付椀２，甕134），須恵器片２点（高台付坏，甕），灰釉陶器片２点（高台付皿，不明），緑釉陶器片１点（碗），鉄滓１点，細礫２点が覆土下層や竈からそれぞれ出土している。また，流れ込んだ弥生土器片７点，磁器１点，煙管１点も出土している。2075は竈内，2076は北東部の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀後葉と考えられる。



第107図　第324号住居跡出土遺物実測図

第324号住居跡出土遺物観察表（第107図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2074	土師器	坏	[16.3]	(3.2)	－	石英	橙	普通	内・外面ナデ　体部に２㎜の穿孔１か所有	覆土中	５％
2075	土師器	高台付椀	[8.6]	3.8	[5.0]	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内・外面ナデ　高台貼付け	竈内	20%
2076	土師器	高台付椀	－	(2.1)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内・外面ナデ　高台貼付け	床面	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2077	緑釉陶器	碗	－	(3.0)	－	緻密	褐灰・緑	良好	内・外面施釉	覆土中	5％
2078	灰釉陶器	高台坏皿	－	(1.7)	7.0	緻密	灰黄・灰オリーブ	良好	高台貼付け後ロクロナデ　内面施釉	覆土下層	20％ 猿投産
2079	土師器	甕	[18.2]	(3.9)	－	石英・長石・白色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中層	口縁部内・外面煤付着

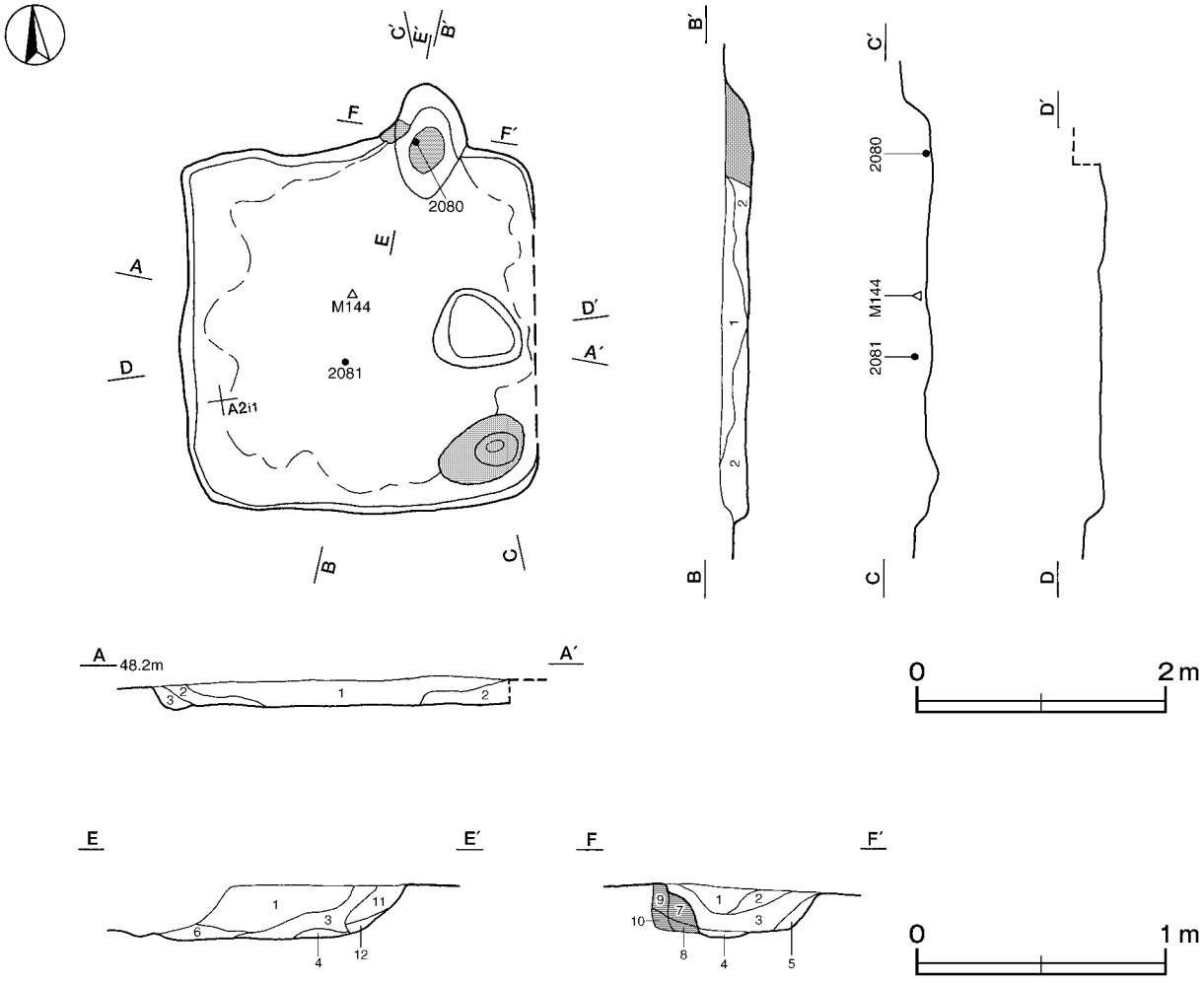
第325号住居跡（第108・109図）

位置　西部３区東部のＡ１h1 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸3.00m，短軸2.83mの方形で，主軸方向はＮ－10°－Ｅである。壁高は７～15cmで，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北壁の東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで92cmである。袖部は地山に貼付けた粘土のみが確認されている。火床部は床面と同じ高さで円形を呈しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ半円形状に43cm掘り込まれ，緩やかに立ち上がっている。



第108図　第325号住居跡実測図

竈土層解説

1　暗　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　にぶい赤褐色　炭化粒子中量，ロームブロック少量
5　褐　　色　ローム粒子中量
6　褐　　色　ロームブロック中量
7　暗　褐　色　ロームブロック･焼土ブロック･粘土ブロック少量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
9　褐　　色　ロームブロック・粘土ブロック中量
10　褐　　色　ロームブロック多量，焼土ブロック中量
11　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化物少量
12　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子少量

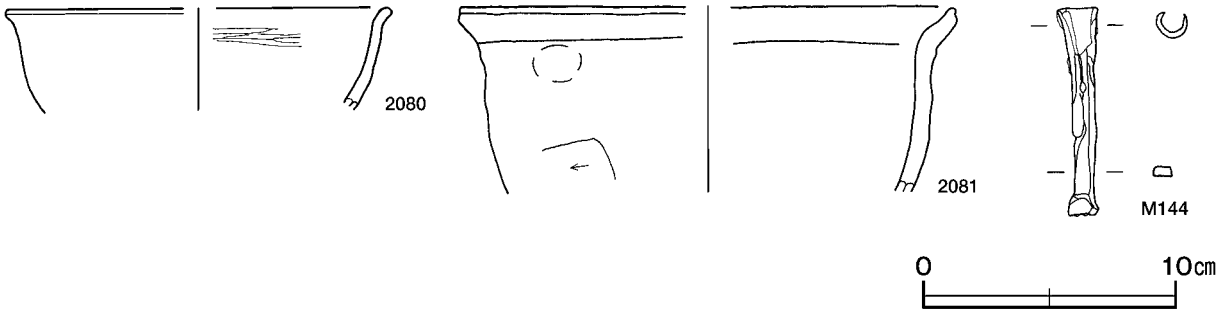
覆土　３層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　極 暗 褐 色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片164点（坏19，高台付椀５，高坏４，甕136），須恵器片２点（坏），鉄製品１点（不明），礫２点（細礫，中礫）が覆土中層から下層にかけて出土している。また，流れ込んだ弥生土器片７点，陶器片１点（鉢）も出土している。2080は竈内から，2081は中央部の覆土中層から出土している。中央部東壁寄りから焼土塊，南東コーナー部の床面から粘土塊が確認されている。焼土塊は，長径71㎝，短径64㎝の楕円形で，深さ６㎝の皿状のくぼみに堆積していた。粘土塊は，長径76㎝，短径47㎝の楕円形で，深さ11㎝の皿状のくぼみに堆積していた。

所見　時期は出土土器と遺構の形態から，９世紀後葉と考えられる。焼土塊は竈内から掻きだされたもの，粘土塊は何らかに使用するために貯めておいたものと推定される。



第109図　第325号住居跡出土遺物実測図

第325号住居跡出土遺物観察表（第109図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2080	土師器	坏	[15.2]	(4.0)	－	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　外面ナデ	竈内	５％
2081	土師器	甕	[19.6]	(7.3)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り指頭痕	覆土中層	５％

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M144	不明	8.2	1.6	1.0	14.3	鉄	端部断面方形	覆土下層	PL90

第327号住居跡（第110～112図）

位置　西部３区東部のＡ１ｉ9 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第326・342号住居跡を掘り込み，第345号住居に掘り込まれている。

規模と形状　南壁が撹乱によって壊されており，確認された範囲は，長軸3.06m，短軸2.55mである。平面形は長方形と推定され，主軸方向はＮ－０°である。壁高は６～18㎝で，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，西壁際と南西コーナー部を除いて踏み固められている。中央部には，炭化材が重なって確認されている。

竈　北壁の東寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで117㎝である。袖部は，甕が逆位で出土した部分に残存が確認されている。火床部には自然石が据えられており，火熱を受けていることから，支脚と考えられる。火床面は支脚の前面が半円形を呈しており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ88㎝掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　黒　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック微量
3　極暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
4　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量
5　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
7　暗赤褐色　焼土ブロック中量，砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
8　暗赤褐色　ロームブロック少量
9　暗赤褐色　ロームブロック多量
10　赤　褐　色　ロームブロック少量
11　黒　褐　色　ロームブロック中量

ピット　５か所。P1 ・ P2 は深さ27～32㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。P3 ～ P5 は深さ45～53㎝で，南壁際に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P3 ～ P5 は掘り方や深さが類似しており，作り替えられたと想定される。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径60㎝，短径52㎝の楕円形を呈しており，深さは15㎝である。底面は皿状を呈している。

貯蔵穴土層解説

1　暗　褐　色　炭化材多量，焼土ブロック中量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量

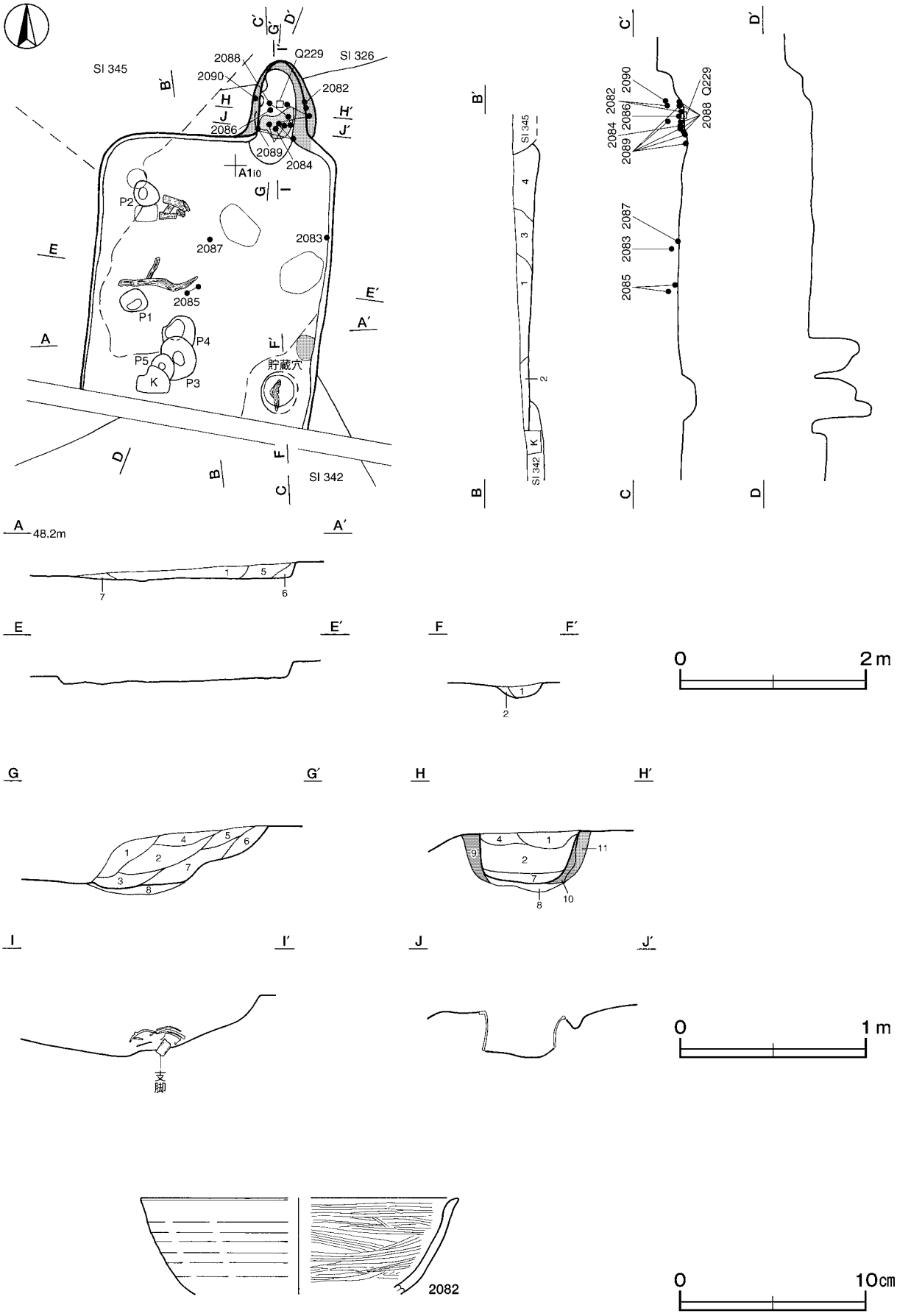
覆土　７層に分層される。焼土ブロック・炭化材が不規則に含まれた堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

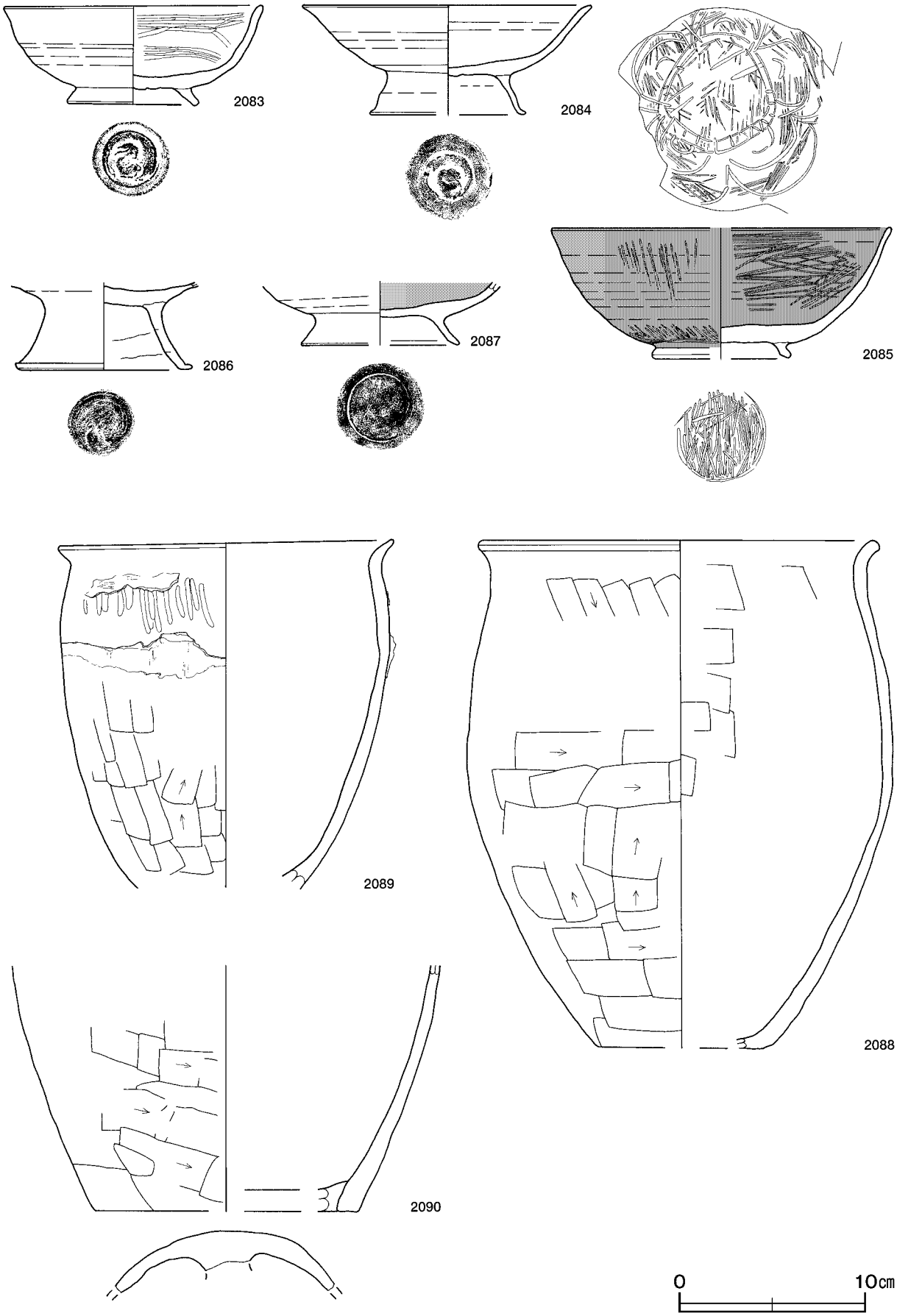
1　暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化材少量
2　褐　　色　ローム粒子少量，炭化物微量
3　暗　褐　色　炭化材中量，ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
5　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量
7　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片117点（坏39，椀１，高台付椀17，甕58，甑２），石器２点（支脚）が出土している。土器片のほとんどが竈から集中して出土している。また，流れ込んだ弥生土器片２点，土製品１点（紡錘車）も出土している。支脚には自然石が用いられており，2086は支脚の上部に据えられていた。2086の上面には坏や甕の破片が重なるように出土しており，2082・2084・2088はそれらの破片が接合したものである。2089は竈の袖部から出土し，接合したものである。2085はP4 北側の床面から出土しており，底部内面に花の形にヘラ磨きが施されている。さらに，P1 ・ P2 付近の床面から枝の形状を呈した炭化材，東壁付近に粘土塊と中央部に焼土も出土している。

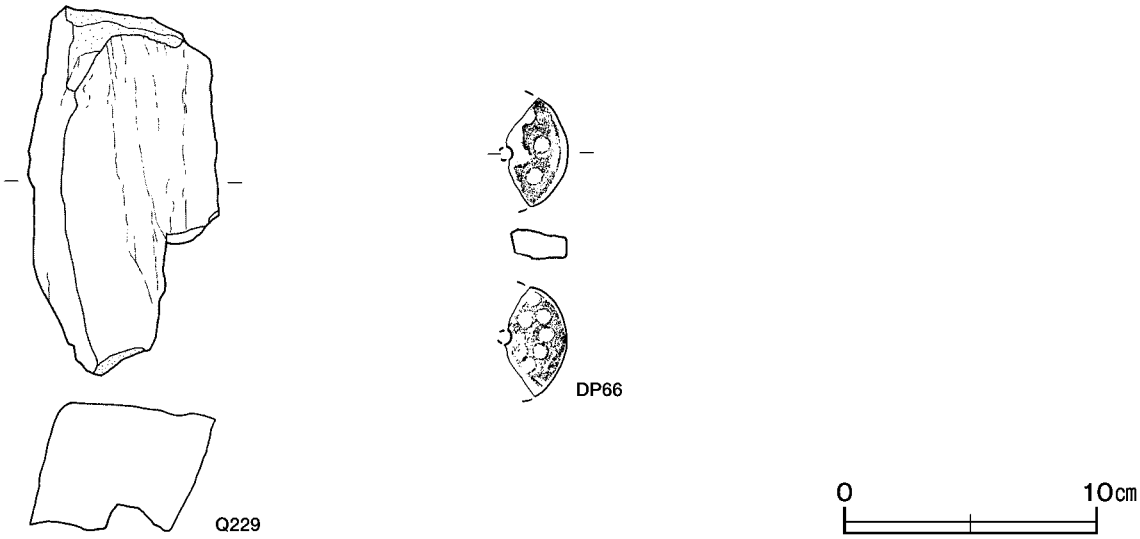
所見　時期は，出土土器から10世紀中葉と考えられる。炭化材や焼土の出土状況及び堆積状況から，住居焼失後埋め戻された可能性が高い。



第110図　第327号住居跡・出土遺物実測図



第111図　第327号住居跡出土遺物実測図(1)



第112図　第327号住居跡出土遺物実測図(2)

第327号住居跡出土遺物観察表（第110～112図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2082	土師器	椀	[17.0]	(5.2)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	内面ヘラ磨き	竈内	30%
2083	土師器	高台付椀	13.9	5.4	6.6	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　高台貼付け後ロクロナデ	覆土下層	70%　PL73
2084	土師器	高台付椀	15.5	5.9	[8.1]	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ　高台貼付け後ロクロナデ	竈内	60%　PL73
2085	土師器	高台付椀	[18.2]	7.1	[7.2]	石英・雲母	にぶい黄褐	普通	内・外面ヘラ磨き　高台貼付け　内面底部磨きによる花文	床面	40%
2086	土師器	高台付椀	－	(4.8)	9.6	石英・長石・黒色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き　高台貼付け後ロクロナデ　高台内面輪積み痕	竈内	30%
2087	土師器	高台付椀	－	(3.4)	[8.4]	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面底部放射状の磨き　底部回転糸切り後高台貼付け	床面	30%
2088	土師器	甕	21.1	27.6	[9.0]	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	竈内	70%　PL81
2089	土師器	甕	18.0	(18.8)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　体部外面上部に粘土貼付け痕	竈内	80%　PL81
2090	土師器	甑	－	(13.3)	[14.2]	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	内面ナデ　体部外面ヘラ削り　孔は削りによる成形	竈内	10%

番号	器種	径	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP66	紡錘車	[5.0]	1.2	(12.9)	石英・長石	外面ナデ　竹管による刺突	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q229	支脚	14.7	7.5	5.0	699.0	ホルンフェルス	棒状の自然石	竈内	PL86

第328号住居跡（第113・114図）

位置　西部３区東部のＡ１ｆ0 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸2.44m，短軸2.20mの長方形で，主軸方向はＮ－７°－Ｅである。壁高は11～23㎝で，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められており，貯蔵穴の西側がわずかに４㎝ほど高くなっている。

竈　北壁の東寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで98cm，袖部幅84cmである。袖部はわずかに残存している。袖部から煙道部にかけて，粘土が確認されており，掘り残した地山に粘土を積み重ねて構築したものと考えられる。火床部は，床面を９cmほど楕円形に掘りくぼめており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ62cm掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
4　暗　褐　色　焼土粒子微量
5　黒　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
6　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量
7　黒　　色　粘土ブロック少量，焼土粒子微量
8　にぶい黄褐色　粘土ブロック中量，焼土粒子微量
9　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量
10　暗　褐　色　ローム粒子多量
11　暗　褐　色　焼土粒子少量，粘土粒子微量
12　極 暗 褐 色　焼土ブロック中量
13　暗 赤 褐 色　灰微量
14　黄　灰　色　粘土ブロック中量，ローム粒子微量
15　黒　褐　色　灰少量

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径60cm，短径52cmの楕円形を呈しており，深さは15cmである。底面は皿状を呈している。

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　褐　　色　ローム粒子少量

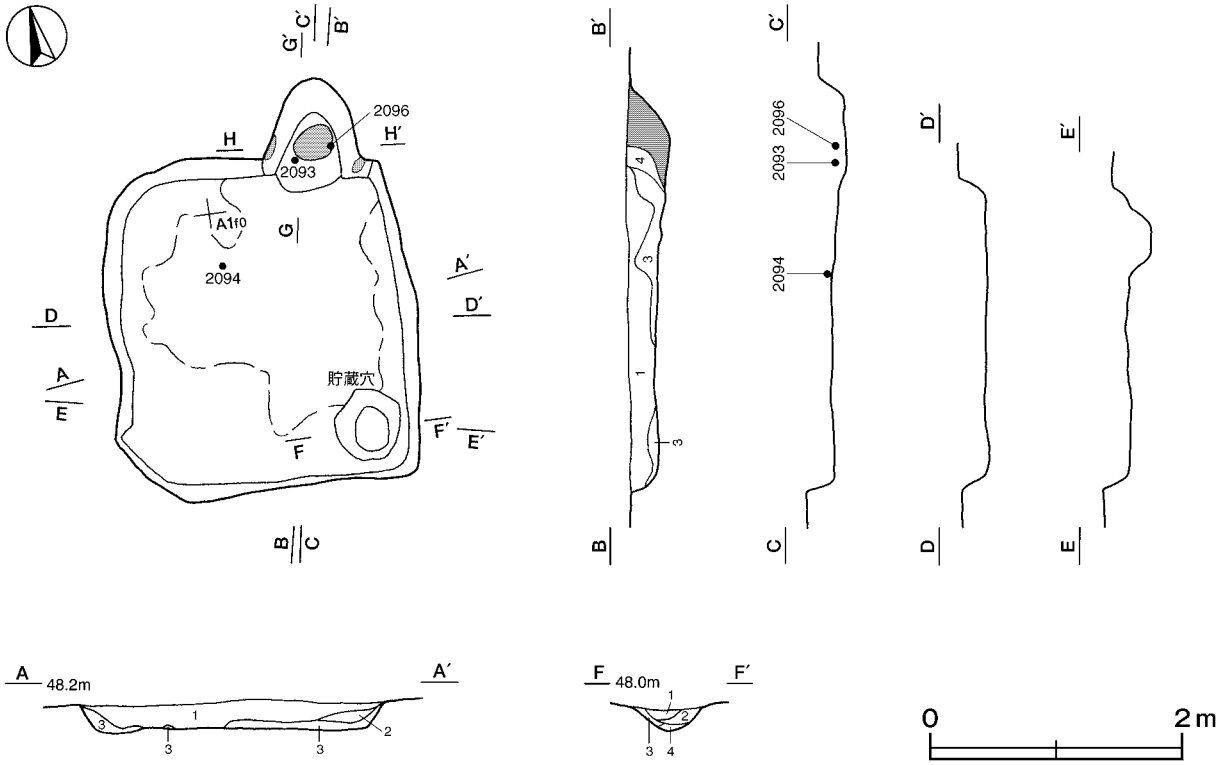
覆土　４層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

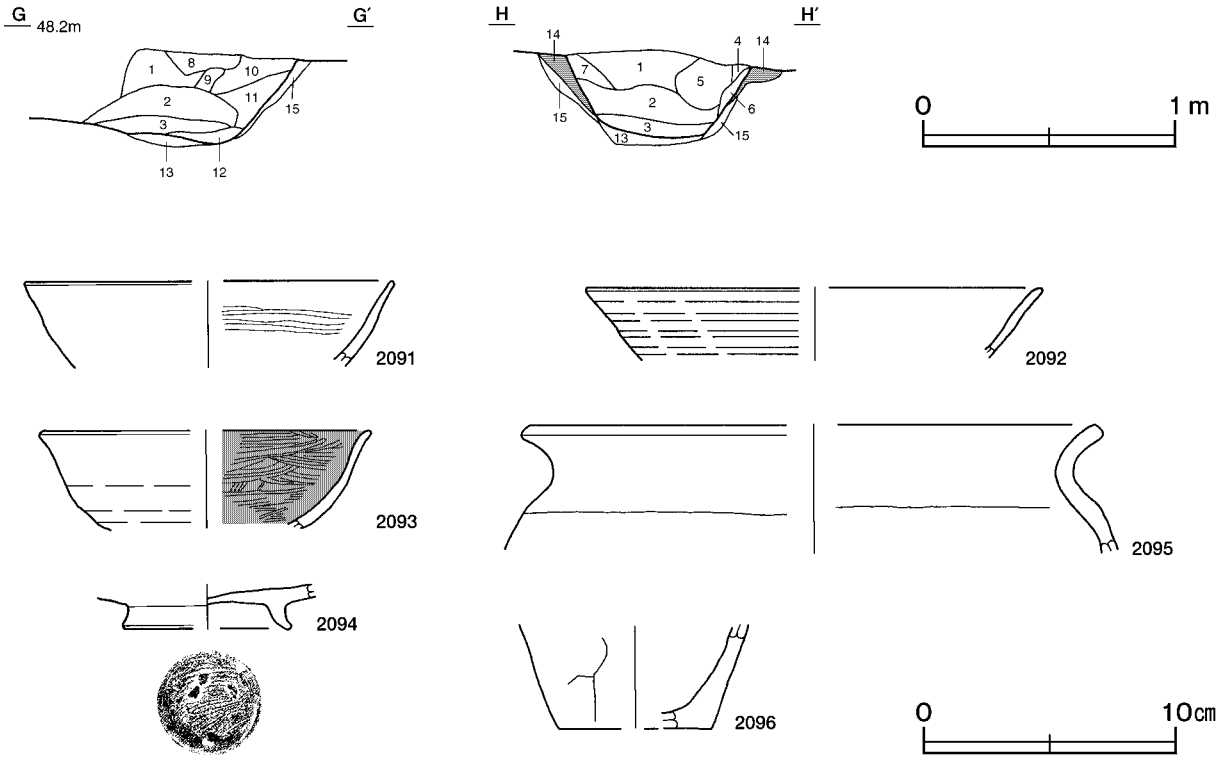
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　極 暗 褐 色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量
4　極 暗 褐 色　焼土粒子・粘土粒子少量

遺物出土状況　土師器片132点（坏28，高台付椀５，甕99），鉄製品１点（不明）が覆土中層から下層にかけて出土している。また，流れ込んだ弥生土器片９点，土師質土器片４点（内耳鍋）も出土している。2093・2096は竈の火床部から，2094は中央部の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第113図　第328号住居跡実測図



第114図　第328号住居跡・出土遺物実測図

第328号住居跡出土遺物観察表（第114図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2091	土師器	坏	[14.5]	(3.4)	－	石英･長石･雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	10%
2092	土師器	坏	[18.0]	(2.8)	－	石英･長石･雲母	にぶい褐	普通	ロクロナデ	覆土中	10%
2093	土師器	椀	[13.0]	(3.8)	－	白色粒子	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き　ロクロナデ	竈内	10%
2094	土師器	高台付椀	－	(1.7)	[6.5]	石英・長石	にぶい赤褐	普通	底部内面ヘラ磨き	床面	10%
2095	土師器	甕	[22.1]	(5.1)	－	石英・雲母・白色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	5％
2096	土師器	甕	－	(4.1)	[6.0]	石英･長石･雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り	竈内	5％

第329号住居跡（第115図）

位置　西部３区東部のＡ２ｆ1 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第95号井戸に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.08m，短軸2.81mの長方形で，主軸方向はＮ－90°－Ｅである。壁高は15～20㎝で，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　東壁中央部に付設されている。第95号井戸によって焚口部が壊されているが，火床部から煙道部まで長さ32㎝ほどが確認されている。袖部は残存していない。火床部は床面と同じ高さであり，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外へ半円形状に19㎝ほど掘り込まれ，火床部より緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　極暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
2　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
5　黒　褐　色　焼土粒子少量，粘土粒子微量

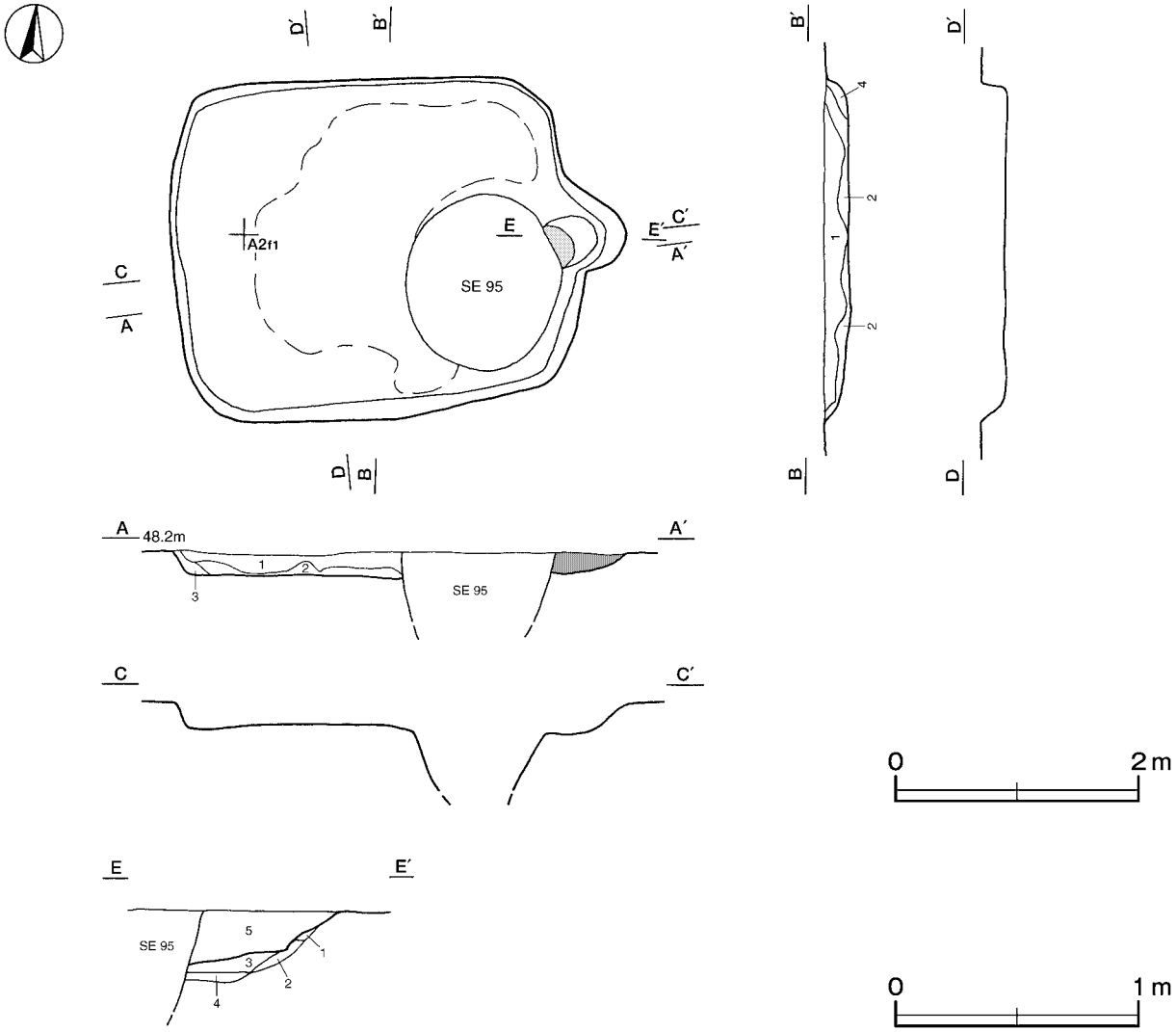
覆土　４層に分層される。ブロック状に不規則な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　極 暗 褐 色　ローム粒子中量
4　極 暗 褐 色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片106点（坏６，高台付椀６，甕94），須恵器片１点（甕）が覆土上層から下層にかけて出土している。また，流れ込んだ弥生土器片12点，土師質土器片39点，細礫３点も出土している。床面から高台付椀の底部片が出土している。土器は細片のため図示することができなかった。

所見　時期は，出土土器が細片のため判断は難しいが，出土土器と遺構の形態から，10世紀代と考えられる。



第115図　第329号住居跡実測図

第330号住居跡（第116・117図）

位置　西部３区西部のＡ１ｆ8 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第67号溝に掘り込まれている。

規模と形状　南壁を溝に掘り込まれているため，確認された範囲は，長軸3.61m，短軸2.23mである。平面形は長方形と推定され，主軸方向はＮ－97°－Ｅである。壁高は35㎝で，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　東壁の南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで70㎝，袖部幅74㎝である。袖部は床面と同じ高さを基部として，掘り残した地山に粘土を貼付けて構築されている。火床部は床面を６㎝ほど皿状に掘りくぼめており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。火床部の奥には自然石２点が重ねてすえられており，下側の自然石は火床部に埋設されていた。それぞれの石に火熱を受けた痕跡が見られることから，これらは支脚として使用されていたものと考えられる。煙道部は壁外へ台形状に53㎝ほど掘り込まれ，火床面より緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック中量
4　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量
5　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量
6　極暗褐色　ローム粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，粘土粒子微量
8　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子・粘土粒子微量
9　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量
10　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
11　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
12　暗赤褐色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子少量
13　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
14　褐　　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
15　暗　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
16　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量

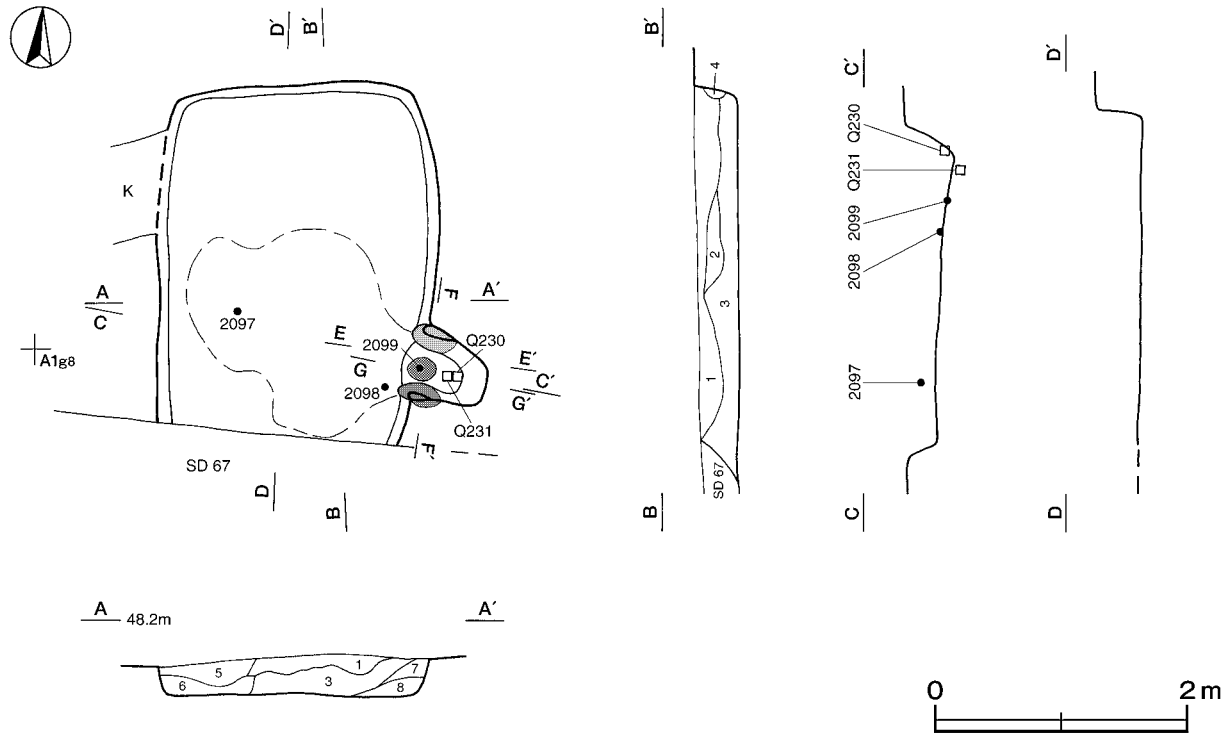
覆土　８層に分層される。ロームブロック・粒子が不規則に含まれ，ブロック状の堆積状況を呈していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

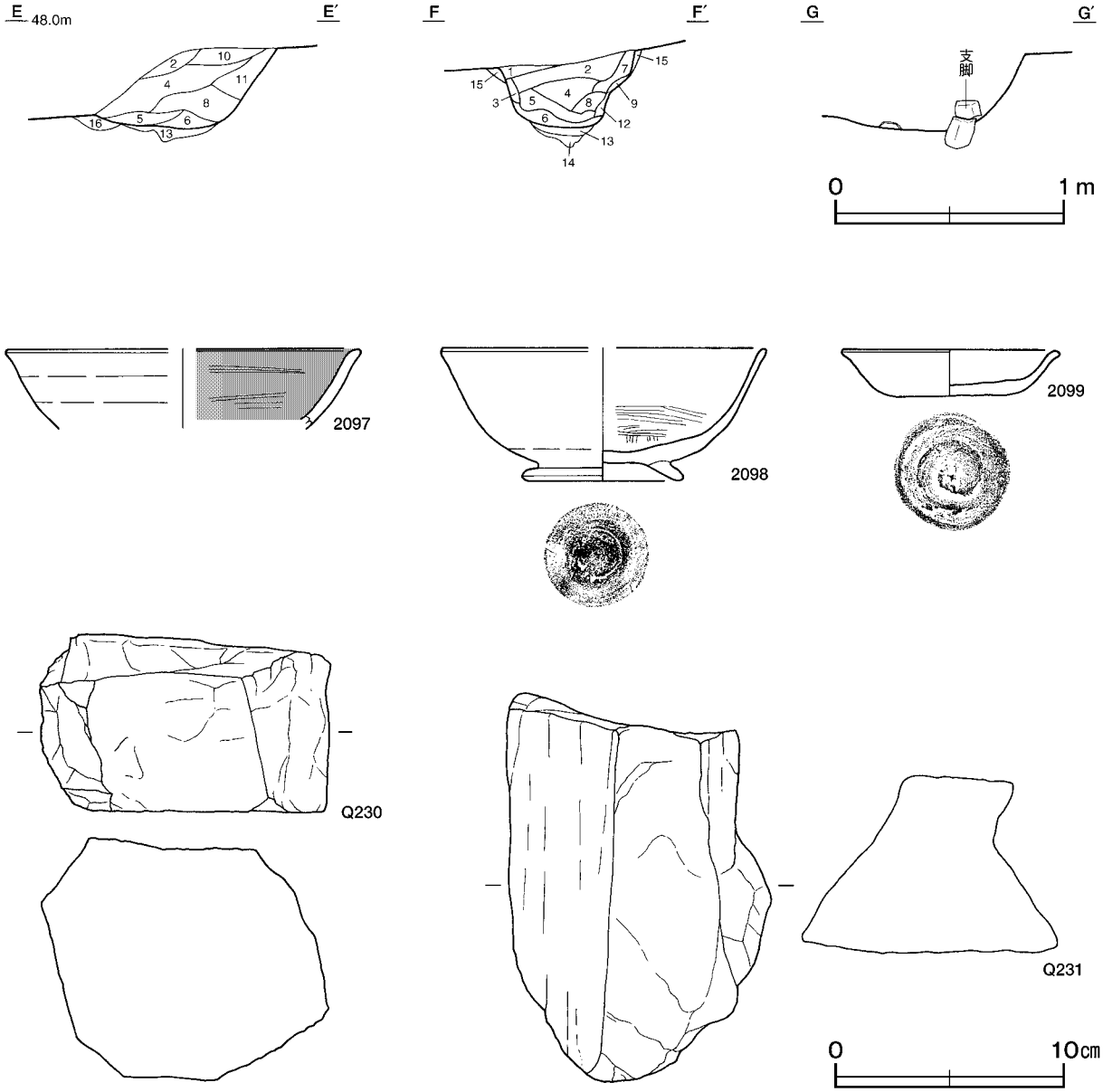
1　極暗褐色　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　砂質粘土ブロック・ローム粒子少量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　褐　　色　ロームブロック多量
5　褐　　色　ローム粒子中量
6　褐　　色　ローム粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量，砂粒少量
8　暗　褐　色　ロームブロック多量，砂粒少量

遺物出土状況　土師器片119点（坏23，高台付椀４，小皿１，甕91），石器２点（支脚）が，竈及び覆土中層から下層にかけて出土している。また，流れ込んだ弥生土器片14点も出土している。2099は竈の火床面から逆位で，2098は焚口部付近からそれぞれ出土している。Q230・Q231は火床部から出土している。

所見　時期は，出土土器から11世紀前半と考えられる。



第116図　第330号住居跡実測図



第117図　第330号住居跡・出土遺物実測図

第330号住居跡出土遺物観察表（第117図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2097	土師器	坏	[15.4]	(3.5)	－	白色粒子	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き	床面	5％
2098	土師器	高台付椀	[14.2]	5.8	7.0	石英・長石・雲母	にぶい黄褐	普通	内面ヘラ磨き　高台貼付け	覆土下層	40%
2099	土師器	小皿	9.3	2.1	5.0	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	底部回転ヘラ切り	竈内	100%　PL77

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q230	支脚	7.8	12.7	10.7	1710.0	ホルンフェルス	上・下面平坦	竈内	PL86
Q231	支脚	17.0	11.5	7.8	1760.0	ホルンフェルス	下部角錐状	竈内	PL86

第331号住居跡（第118・119図）

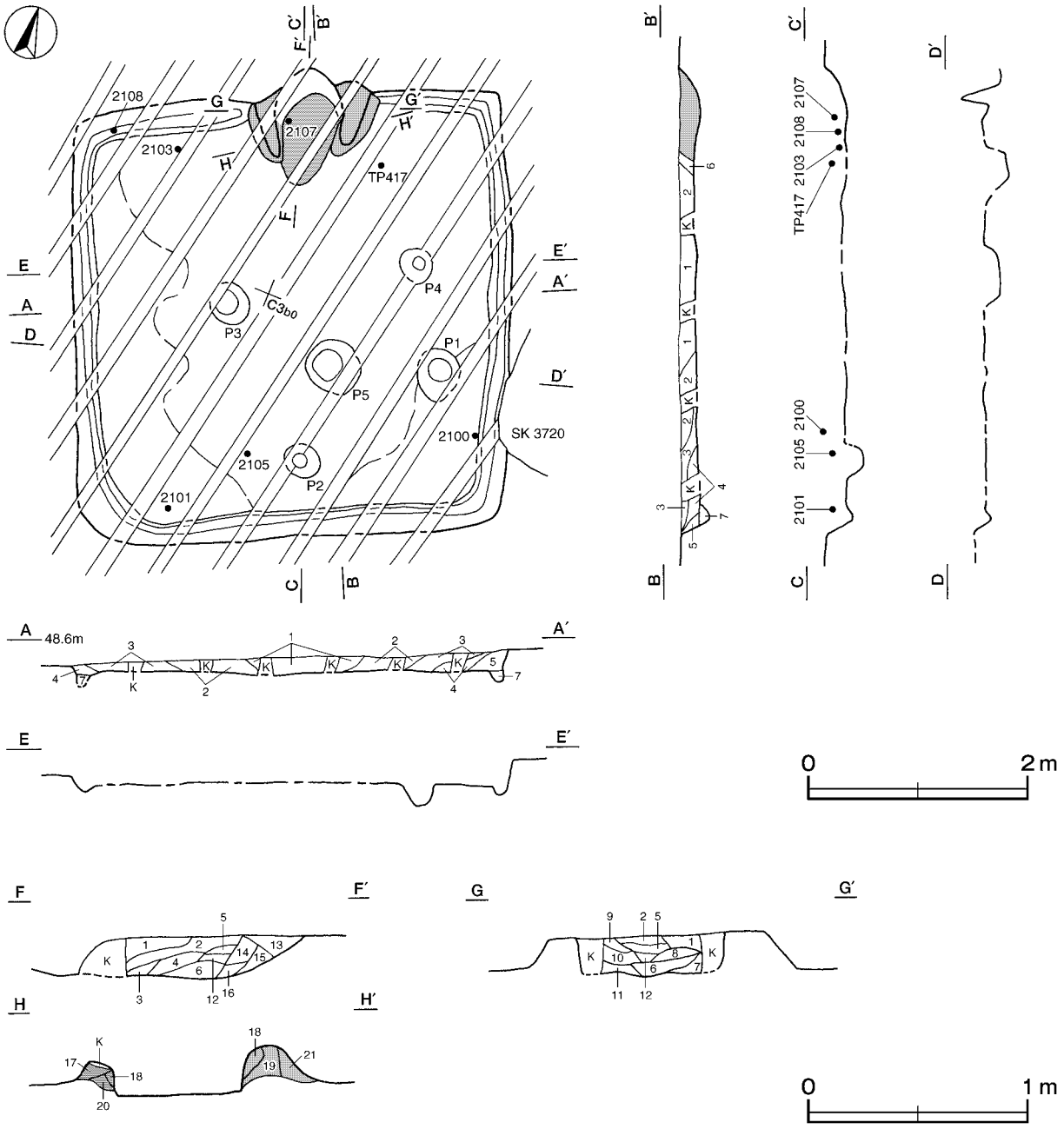
位置　西部４区西部のＣ３b0 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3720号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　一辺4.03mの方形で，主軸方向はＮ－24°－Ｗである。壁高は10～24cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで104cm，袖部幅120cmである。袖部は地山を掘り残し，その上に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面と同じ高さであり，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に20cmほど掘り込まれ，緩やかに立ち上がっている。



第118図　第331号住居跡実測図

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗 赤 褐 色　砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
4　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・砂質粘土粒子微量
5　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，ローム粒子・白色粒子微量
6　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，ロームブロック・砂質粘土粒子・白色粒子微量
7　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子微量
8　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，砂質粘土粒子・白色粒子微量
9　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・白色粒子微量
10　暗 赤 褐 色　ロームブロック・粘土粒子・白色粒子微量
11　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・白色粒子微量
12　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，粘土ブロック・白色粒子微量
13　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
14　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
15　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子微量
16　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
17　褐　　色　粘土ブロック・炭化物・焼土粒子微量
18　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量
19　にぶい黄褐色　粘土ブロック中量，炭化物微量
20　極 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
21　暗　褐　色　粘土ブロック・炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量

ピット　5か所。P1は深さが21㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。P2は深さが19㎝で，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P3～P5の性格は，不明である。

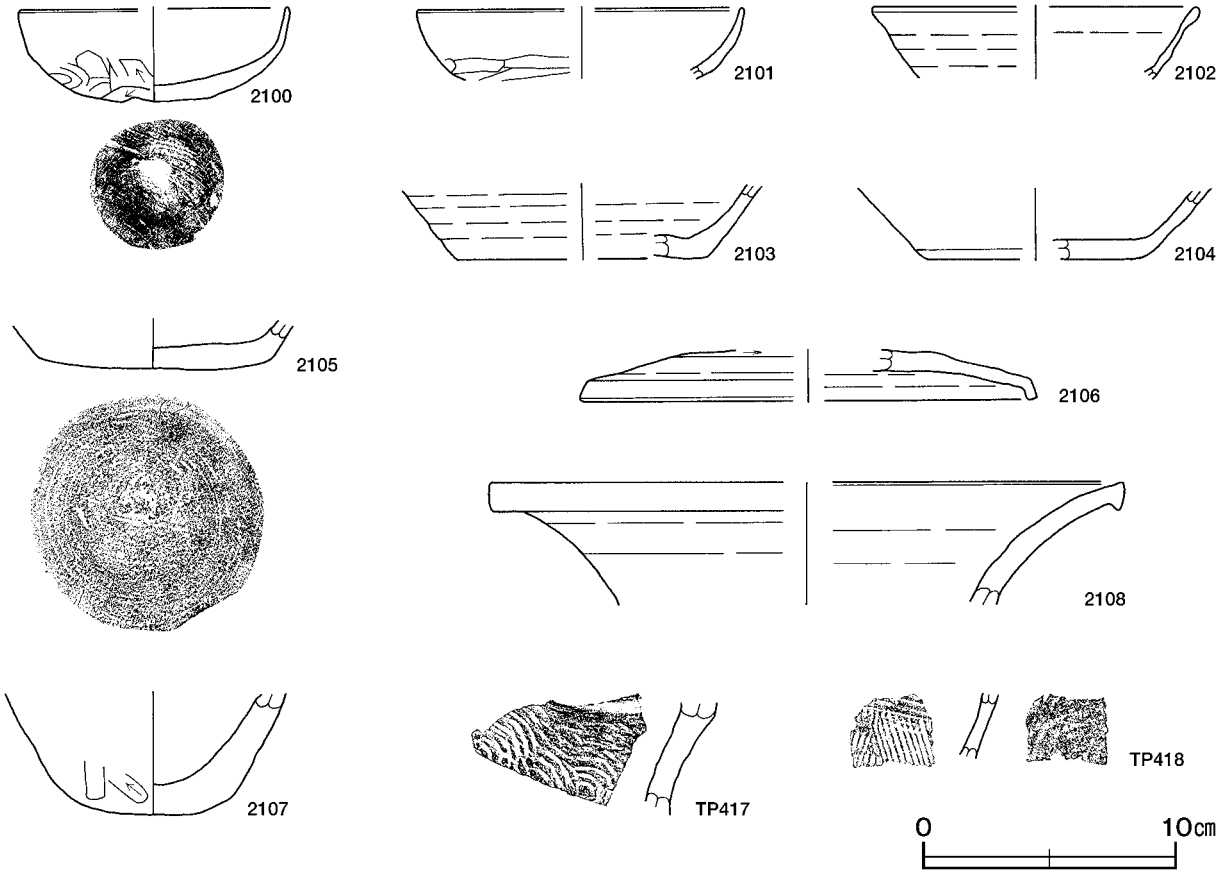
覆土　7層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・白色粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・白色粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，白色粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量
6　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・白色粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片237点（坏39，鉢1，甕197），須恵器片26点（坏22，蓋3，甕1）が覆土中層から下層にかけて散在するように出土している。また，流れ込んだ弥生土器片6点，土師器片2点（坩），瓦質土器片2点，土師質土器片2点（皿），磁器片1点（碗），鉄製品3点（不明），中礫10点も出土している。2103・2108は北西コーナー部の覆土下層，2101は南西コーナー部，2105はP2の西側の覆土中層，2107は竈内からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第119図　第331号住居跡出土遺物実測図

第331号住居跡出土遺物観察表（第119図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2100	土師器	坏	[10.8]	3.7	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 底部ヘラ削り	覆土上層	60%　PL72
2101	土師器	坏	[13.0]	(2.8)	－	石英･長石･雲母	明赤褐	普通	口縁部外面横ナデ　体部下端ヘラ削り	覆土中層	10%
2102	須恵器	坏	[3.0]	(2.8)	－	石英・長石	灰	普通	ロクロ成形	覆土中	5％
2103	須恵器	坏	－	(2.9)	[9.8]	長石	灰	普通	底部ヘラ切り	覆土下層	10%
2104	須恵器	坏	－	(3.3)	[8.4]	長石	褐灰	普通	底部ヘラ切り	覆土中	10%
2105	須恵器	坏	－	(2.0)	9.2	長石	灰	普通	底部ヘラ切り	覆土中層	45%
2106	須恵器	蓋	[17.4]	(2.0)	－	長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10%
2107	土師器	鉢	－	(4.9)	5.0	石英･長石･雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り	竈内	60%
2108	須恵器	甕	[25.5]	(4.9)	－	白色粒子･黒色粒子	灰	普通	ロクロナデ	覆土下層	5％

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP417	須恵器	甕	長石	灰	普通	体部外面同心円状の叩き	覆土中層	PL83
TP418	須恵器	甕	長石	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き　内面指頭圧痕	覆土中	PL83

第333号住居跡（第120図）

位置　西部３区東部のＡ２d1 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3649号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.10m，短軸2.64mの長方形で，主軸方向はＮ－７°－Ｅである。壁高は15㎝で，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められ，特にピット周辺の硬化が著しい。

炉　北東コーナー部に位置している。長径51㎝，短径44㎝の楕円形で，床面を５㎝ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変している。

炉土層解説

1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量　　2　赤　褐　色　ロームブロック中量

ピット　深さ13㎝で，南壁際にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

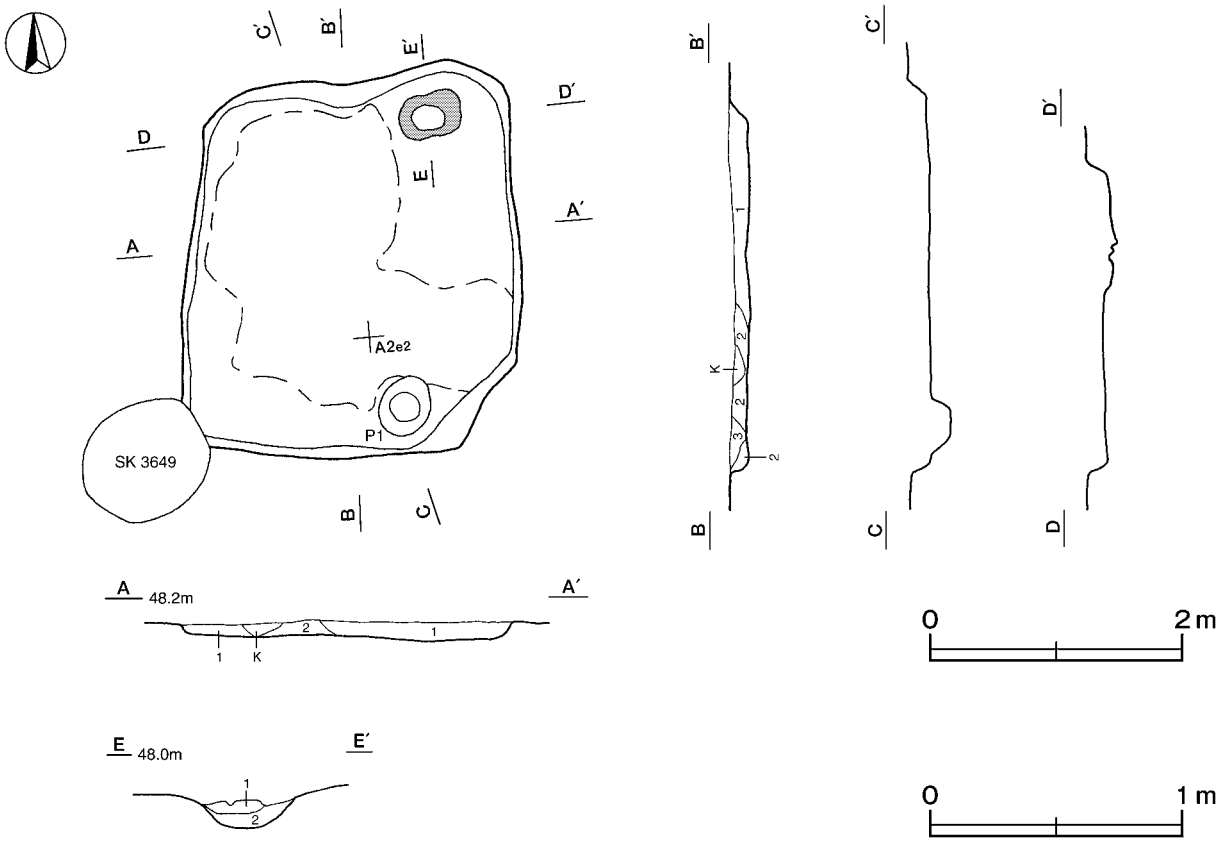
覆土　３層に分層される。ブロック状の不規則な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量　　3　褐　　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片65点（坏８，椀３，高台付椀２，甕51，甑１），須恵器片１点（甕）が，覆土中層から下層にかけて出土している。また，流れ込んだ弥生土器片７点も出土している。土器はすべて細片である。

所見　廃絶時期は，出土土器が細片であることから判断が難しいが，椀や高台付椀の出土が見られることから10世紀代と推定される。



第120図　第333号住居跡実測図

第335号住居跡（第121・122図）

位置　西部３区西部のＡ１c8 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第316･332･336･344号住居跡を掘り込み，第359号住居，第3696･3977号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　壁がほとんど残存していないため，規模や形状は明確ではない。確認された範囲は，東西軸4.00m，南北軸3.55mで，平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はN－38°－Eである。

床　全体的に平坦で軟らかい。本跡の床面とほぼ同じ高さで第359号住居跡の床が確認されている。

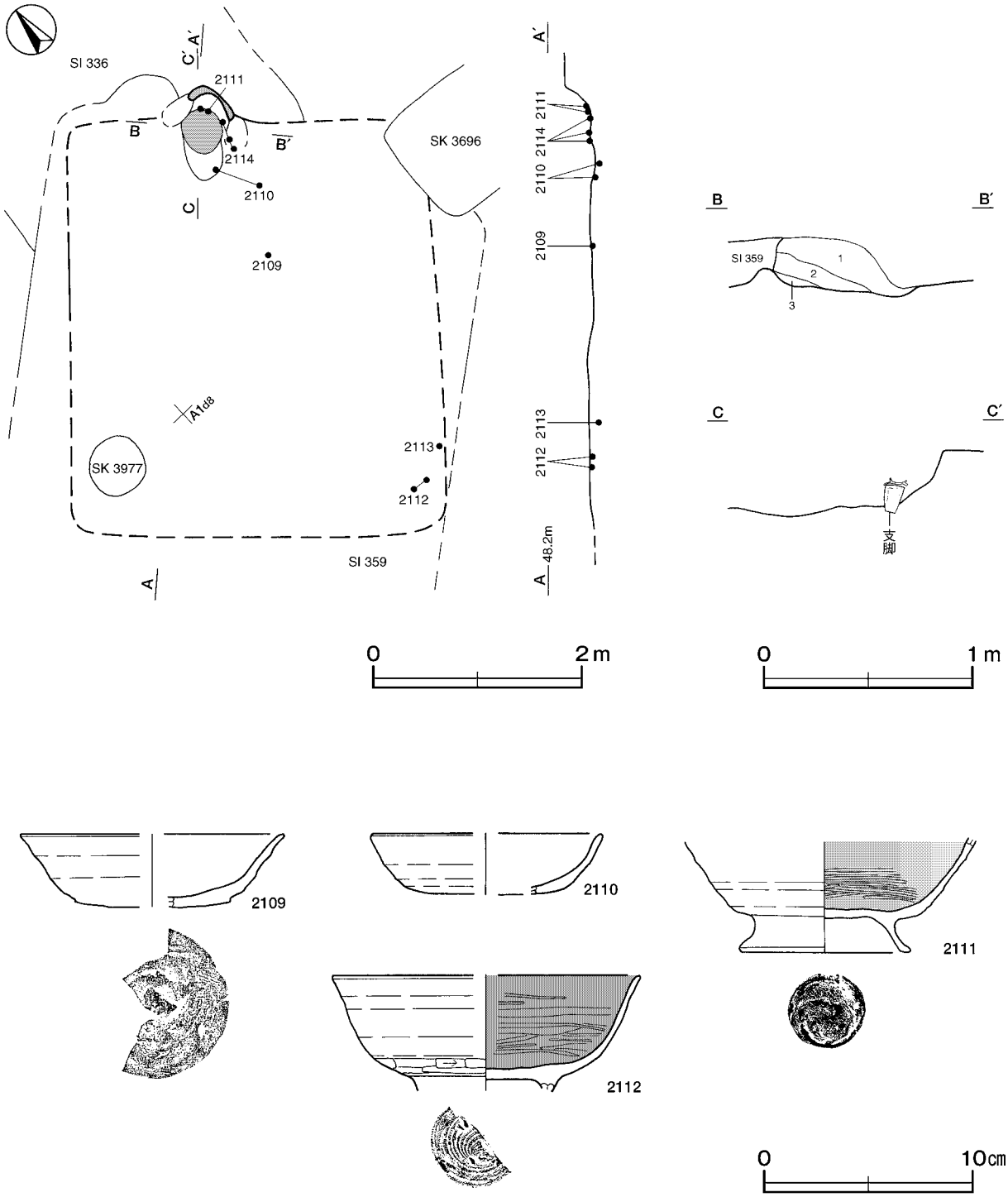
竈　北東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで89㎝，袖部幅79㎝である。袖部は第359号住居の竈構築により壊されており，床面と同じ高さの基部が確認された。袖部の一部に砂混じりの粘土が残存している。火床部は床面と同じ高さを使用しており，ややくぼんでいる。火床面は楕円形を呈しており，火熱を受けて赤変している。火床部には自然石が据えられており，火熱を受けていることから支脚と考えられる。煙道部は壁外へ半円形に28㎝ほど掘り込まれ，火床部より緩やかに傾斜し立ち上がっている。第２層が天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説

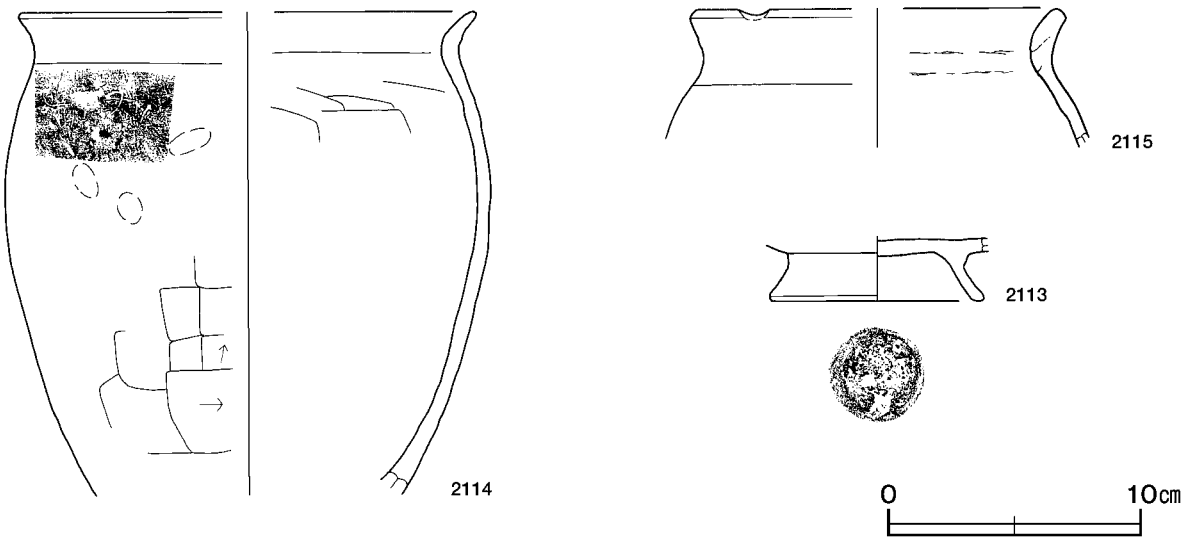
1　極暗褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・粘土ブロック少量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・粘土ブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片384点（坏129，椀17，高台付椀３，甕235），石器１点（支脚），鉄滓２点，礫２点が床面全域から出土している。また，流れ込んだ弥生土器片190点，須恵器片10点（高台付坏１，蓋１，甕８）も出土している。2111は支脚の上から逆位で出土し，竈内から出土した破片が接合したものである。2114は竈内から出土した破片が接合したものである。2109は中央部の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀中葉と考えられる。重複関係から第359号住居への拡張と竈の再構築が想定される。



第121図　第335号住居跡・出土遺物実測図



第122図　第335号住居跡出土遺物実測図

第335号住居跡出土遺物観察表（第121・122図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2109	土師器	坏	[12.6]	3.5	[7.4]	石英・長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ切り	床面	40%　PL72
2110	土師器	坏	[11.0]	2.9	[7.4]	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り　内面ナデ	床面	10%
2111	土師器	高台付椀	－	(5.5)	8.0	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　高台貼付け後ナデ	竈内	60%
2112	土師器	高台付椀	[14.8]	(5.5)	－	石英･長石･雲母	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　高台貼付け後ロクロナデ	床面	30%
2113	土師器	高台付椀	－	(2.5)	8.3	石英･赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	床面	20%
2114	土師器	甕	[18.0]	(19.1)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り指頭痕　内面ヘラナデ	竈内	30% ヘラ書き
2115	土師器	甕	[15.0]	(5.5)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　内面輪積み痕　口唇部指頭痕	覆土中	5％

第336号住居跡（第123・124図）

位置　西部３区東部のＡ１c8 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第316・344号住居跡を掘り込み，第335・359号住居，第3669号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南壁と西壁がほとんど残存していない。確認された範囲は，南北軸4.06m，東西軸3.20mで，平面形は長方形と推定され，主軸方向はＮ－６°－Ｅである。壁高は10cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部，貯蔵穴にかけて踏み固められている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで88cm，袖部幅89cmである。袖部は床面と同じ高さを基部として，粘土をまぜた黒褐色土で構築されている。火床部は楕円形で，床面を38cmほど掘りくぼめ黒褐色土を充填して構築されている。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ48cmほど半円形状に掘り込まれ，火床部より緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子･焼土粒子少量,炭化物･白色粒子微量
3　暗 赤 褐 色　炭化粒子・粘土粒子・白色粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子・白色粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・白色粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・白色粒子微量
8　赤　褐　色　焼土ブロック・砂粒中量
9　暗 赤 褐 色　砂粒中量，焼土ブロック少量
10　褐　　色　ロームブロック多量，焼土ブロック少量
11　極 暗 褐 色　焼土ブロック中量
12　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
13　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
14　黒　褐　色　ローム粒子少量

ピット　深さ44cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　南西コーナー部に位置している。長径89cm，短径76cmの楕円形で，深さは51cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック多量

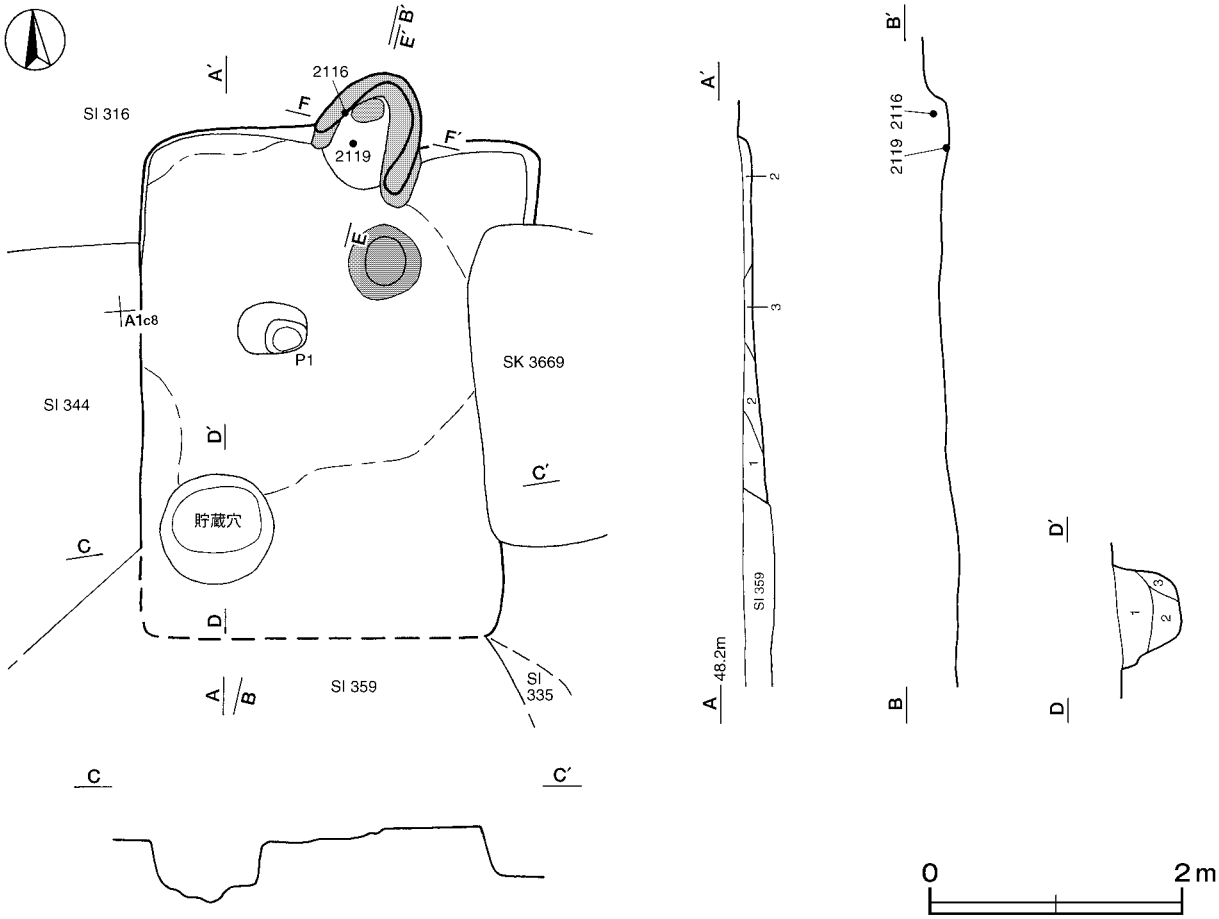
覆土　３層に分層される。ブロック状の不規則な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

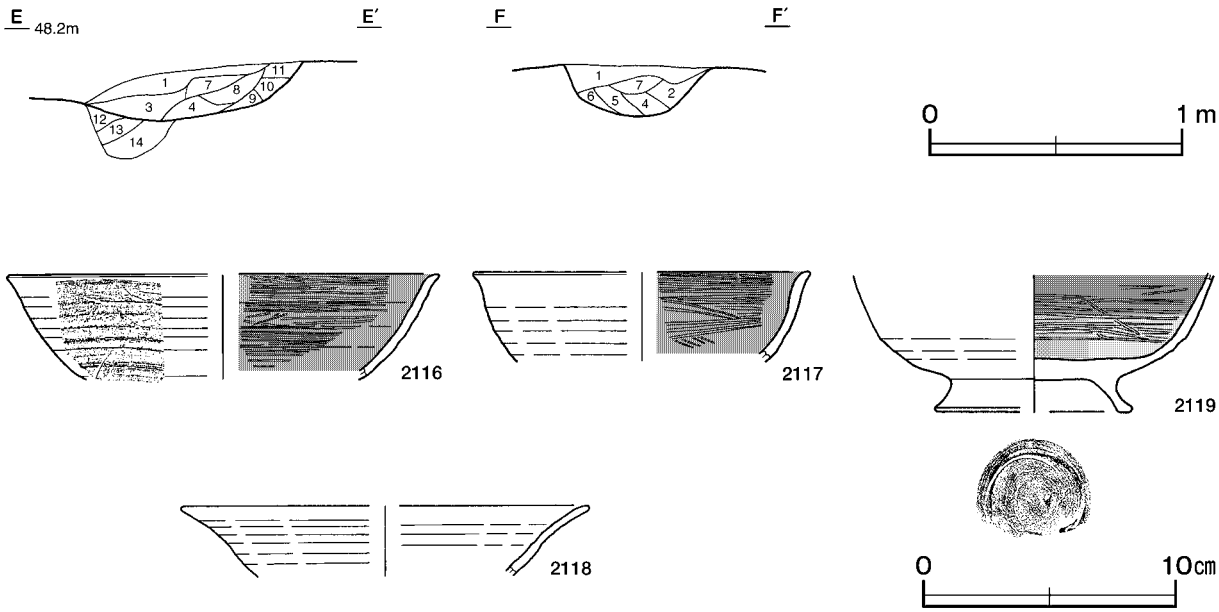
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片63点（坏17，高台付椀２，甕44）が，覆土下層から床面にかけて散在するように出土している。また，流れ込んだ弥生土器片６点も出土している。2116・2119は竈内から出土している。竈前面の床面には長径38cm，短径32cmの楕円形で，厚さ５cmほどの粘土が堆積していた。

所見　時期は，出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第123図　第336号住居跡実測図



第124図　第336号住居跡・出土遺物実測図

第336号住居跡出土遺物観察表（第124図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2116	土師器	坏	[17.0]	(4.1)	－	雲母・白色粒子	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き	竈内	5% 刻書「□」
2117	土師器	坏	[13.2]	(3.5)	－	雲母・白色粒子	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	5％
2118	土師器	坏	[16.0]	(2.8)	－	石英・白色粒子	橙	普通	ロクロナデ	覆土中	10%
2119	土師器	高台付椀	－	(5.5)	[7.7]	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　高台貼付け後ロクロナデ	竈内	60%

第337号住居跡（第125図）

位置　西部３区東部のＡ１a9 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第338号住居跡を掘り込み，第70号溝に掘り込まれている。

規模と形状　北西部が調査区域外に延びていることや重複関係から，規模や平面形は明確ではない。確認された範囲は，東西軸1.53m，南北軸1.00mで，平面形は方形もしくは長方形と推定される。

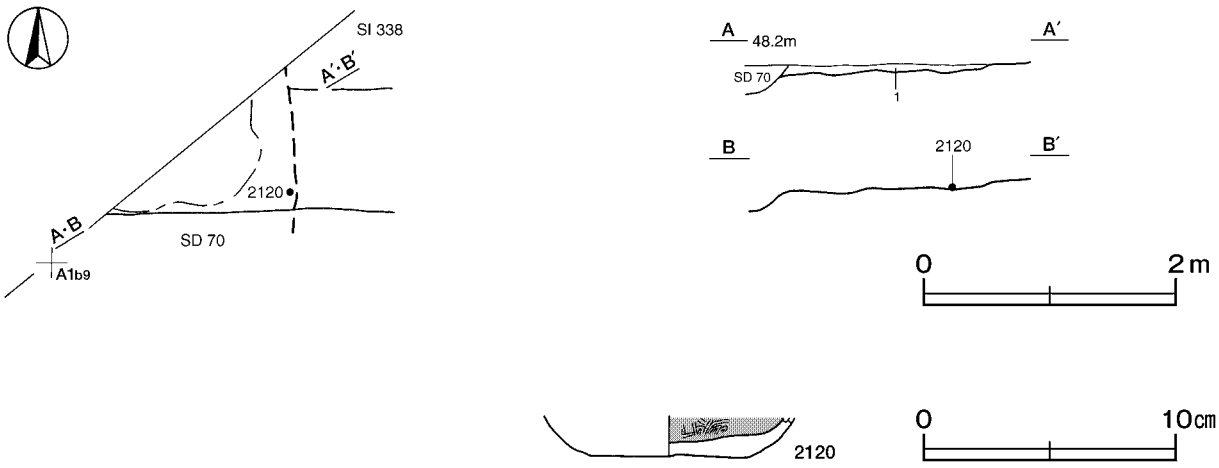
床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

覆土　単一層で，層厚が薄いことから，堆積状況は不明である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片７点（坏２，甕５）が覆土下層から出土しており，細片である。2120は東側の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器が細片で判断が難しいが，重複関係及び出土土器から10世紀後半と推定される。



第125図　第337号住居跡・出土遺物実測図

第337号住居跡出土遺物観察表（第125図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2120	土師器	坏	－	(1.6)	6.3	石英･白色粒子	暗灰白	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り 外面ナデ	床面	10%

第338号住居跡（第126図）

位置　西部３区東部のＡ１a9 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第339号住居跡を掘り込み，第337号住居に掘り込まれている。

規模と形状　北西部が調査区域外に延びていることと重複関係から，規模や平面形は明確ではない。確認された範囲は，南北軸2.10m，東西軸1.69mで，平面形は方形もしくは長方形と推定される。主軸方向はＮ－11°－Ｅである。壁高は18cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が東壁下に確認されている。

ピット　深さ25cmで，規模と位置から主柱穴と考えられる。

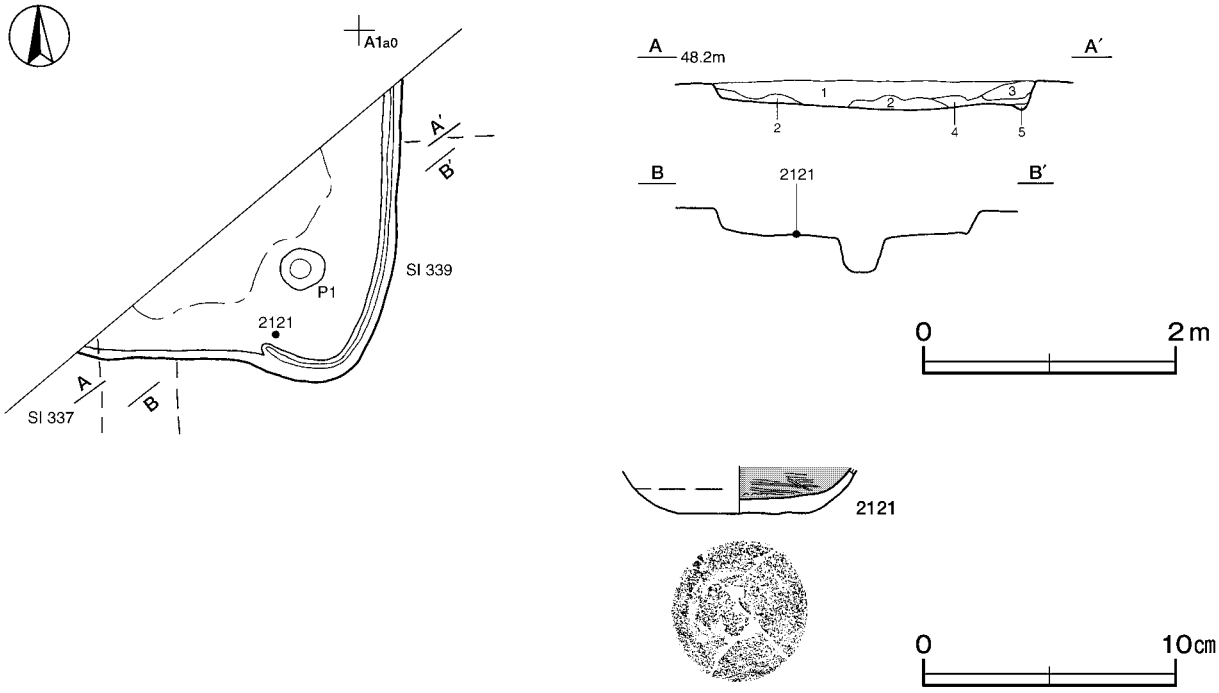
覆土　５層に分層される。ブロック状の不規則な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子少量
4　褐　　色　砂質粘土ブロック少量
5　褐　　色　ローム粒子中量，焼土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片43点（坏９，高台付椀１，甕33），須恵器片１点（甕），鉄滓１点，細礫１点が覆土中層から下層にかけて出土しており，ほとんどの土器が細片である。また，流れ込んだ弥生土器片７点，磁器片１点（碗）も出土している。2121は南東コーナー部の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器が細片で判断が難しいが，重複関係及び出土土器から10世紀前半と推定される。



第126図　第338号住居跡・出土遺物実測図

第338号住居跡出土遺物観察表（第126図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2121	土師器	坏	－	(1.9)	5.3	雲母・赤色粒子・白色粒子	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り	床面	20%

第342号住居跡（第127図）

位置　西部３区東部のＡ１ｉ9 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第327号住居に掘り込まれている。

規模と形状　南部が調査区域外に延びているため，規模や平面形は明確ではない。確認された範囲は，東西軸3.81m，南北軸1.88mで，平面形は方形もしくは長方形と推定される。主軸方向はN－28°－Wである。壁高は30cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，竈周辺が踏み固められている。

竈　北壁中央部に付設されている。煙道部が削平を受けているため，残存している部分の規模は，焚口部から煙道部まで61cm，袖部幅80cmである。袖部は床面と同じ高さを基部として，砂質粘土を積み重ねて構築されている。火床部は床面を13cmほど円形に掘り込まれており，火床面は赤変している。

竈土層解説

1　暗オリーブ褐色　砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック少量
2　暗灰黄色　砂質粘土ブロック多量，ロームブロック少量
3　黄灰色　砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック少量
4　暗灰黄色　砂質粘土ブロック多量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，粘土ブロック少量
6　暗赤褐色　ロームブロック・焼土粒子少量
7　にぶい赤褐色　ローム粒子中量
8　にぶい赤褐色　ロームブロック少量
9　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
10　暗赤褐色　ロームブロック中量，炭化粒子少量

ピット　深さ49㎝で，規模と位置から主柱穴と考えられる。

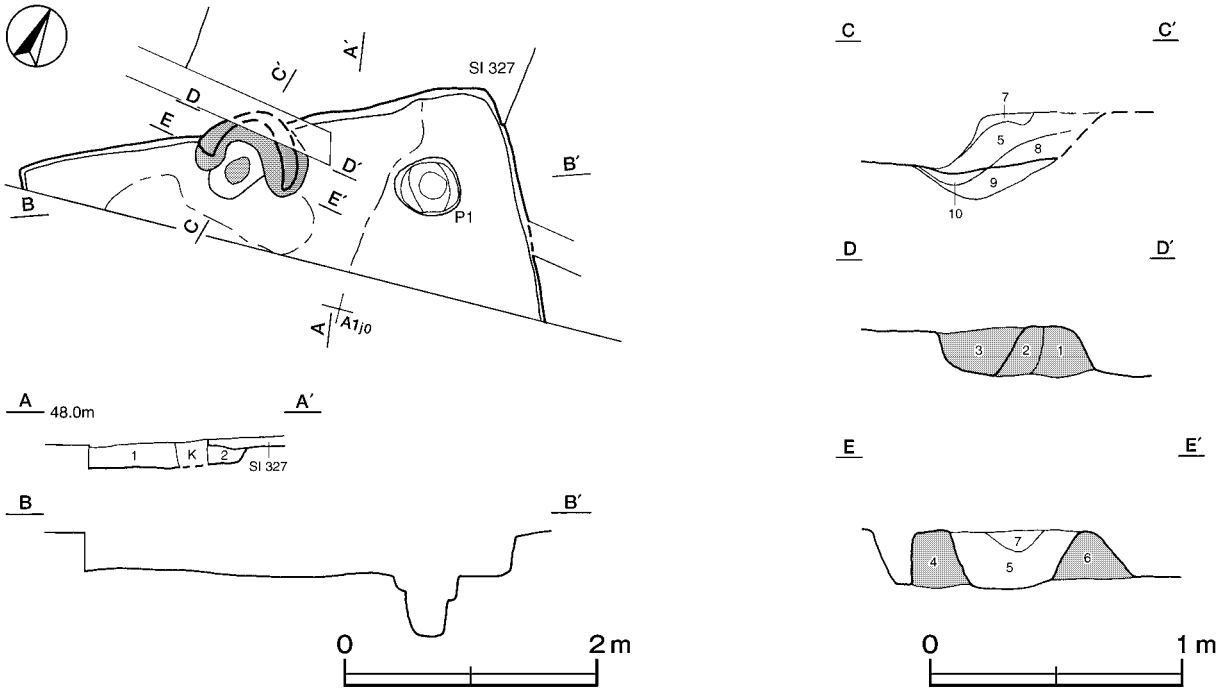
覆土　２層に分層される。ロームブロックや粒子が含まれ，ブロック状の堆積状況を示していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量　　2　暗　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片７点（坏５，甕２），細礫１点が覆土中層から下層にかけて，細片で出土している。また，流れ込んだ弥生土器片１点も出土している。坏は薄手で，口縁部内面に沈線を有するものが出土している。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から８世紀前半と考えられる。



第127図　第342号住居跡実測図

第345号住居跡（第128・129図）

位置　西部３区東部のＡ１h9 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第326・327号住居跡を掘り込み，第97号井戸に掘り込まれている。

規模と形状　北東壁の一部が確認されているが，ほとんど残存していないため，規模や形状は明確ではない。確認された範囲は，南北軸2.93m，東西軸2.17mで，平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はN－43°－Eである。残存している壁高は９㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。貼床が確認されており，ローム土で構築されている。

竈　北東壁の中央部から北西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで54㎝である。袖部は残存していなかった。火床部は，床面と同じ高さの平坦な面を使用しており，ややくぼんでいた。火床部には，自然石が据えられており，火熱を受けていることから支脚と考えられる。煙道部は壁外へ半円形状に27㎝ほど掘り込まれ，火床部より外傾して立ち上がっている。

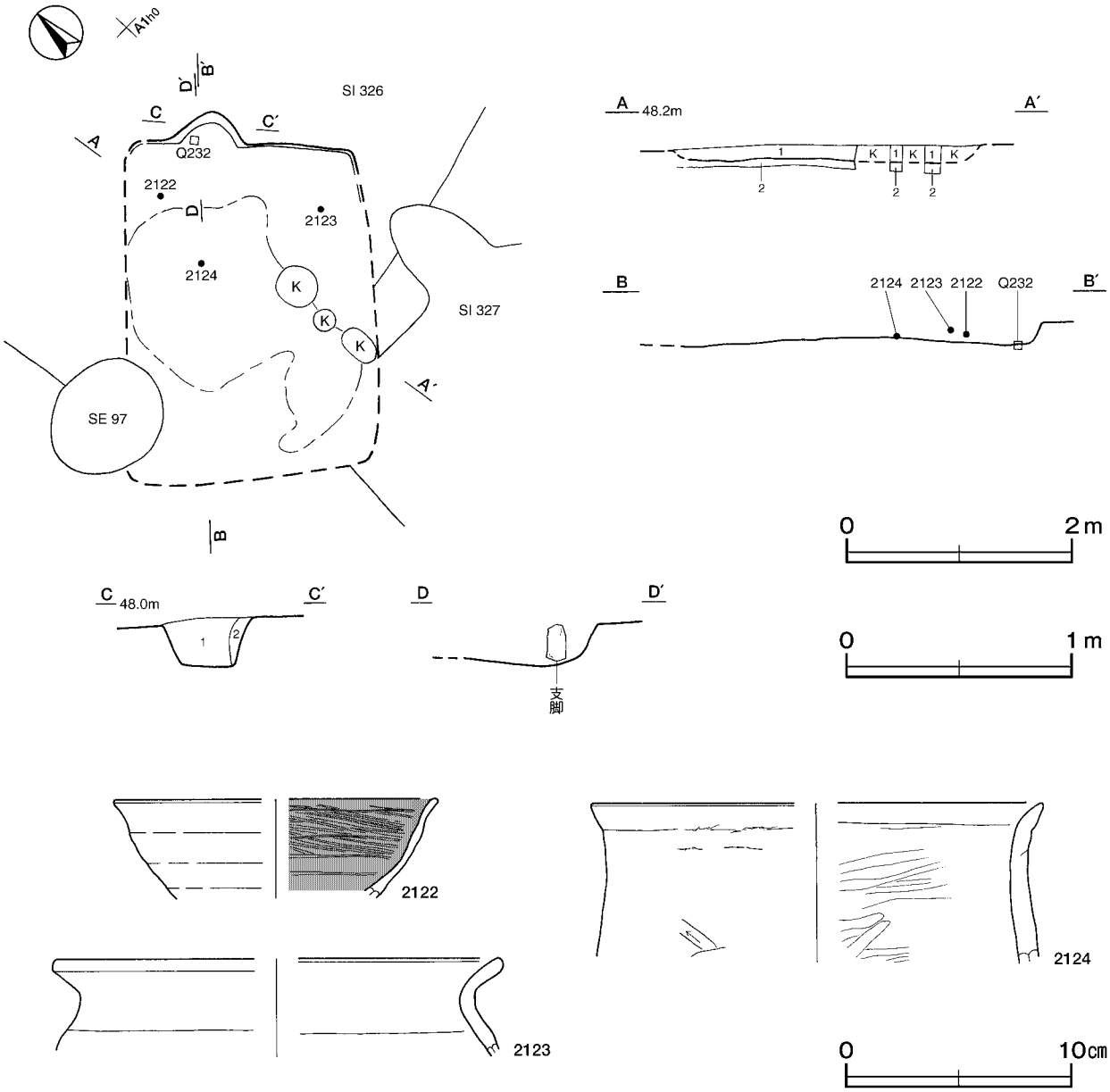
竈土層解説
1　暗　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子中量　　2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量

覆土　２層に分層される。ローム粒子を含む堆積状況から，人為堆積と考えられる。第２層は，貼床の構築土である。

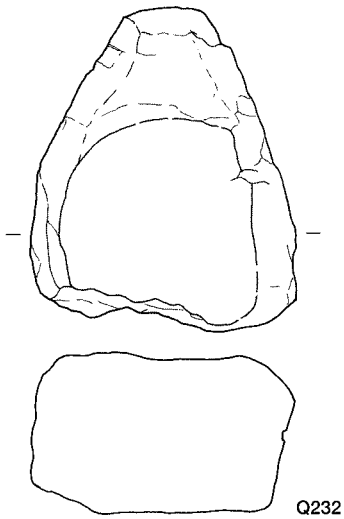
土層解説
1　極 暗 褐 色　ローム粒子中量　　2　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘土粒子少量

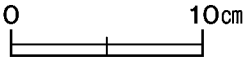
遺物出土状況　土師器片140点（坏１，椀37，甕102），石器１点（支脚），細礫１点が，竈の前面から中央部の覆土下層から床面にかけて出土している。また，流れ込んだ弥生土器片３点も出土している。2124は中央部の床面から，2122は北コーナー，2123は東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，重複関係と出土土器から10世紀後葉と考えられる。



第128図　第345号住居跡・出土遺物実測図





第129図　第345号住居跡出土遺物実測図

第345号住居跡出土遺物観察表（第128・129図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2122	土師器	坏	[7.2]	(4.4)	－	石英･長石･雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　ロクロナデ	覆土下層	5％
2123	土師器	甕	[19.6]	(4.3)	－	石英･長石･雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	5％
2124	土師器	甕	[20.0]	(7.4)	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	5％

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q232	支脚	16.9	13.9	8.4	2720.0	ホルンフェルス	三角錐状の自然石	竈内	PL86

第346号住居跡（第130・131図）

位置　西部４区西部のＢ２e0 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第347号住居跡を掘り込み，第360号住居，第3671号土坑に掘り込まれている。

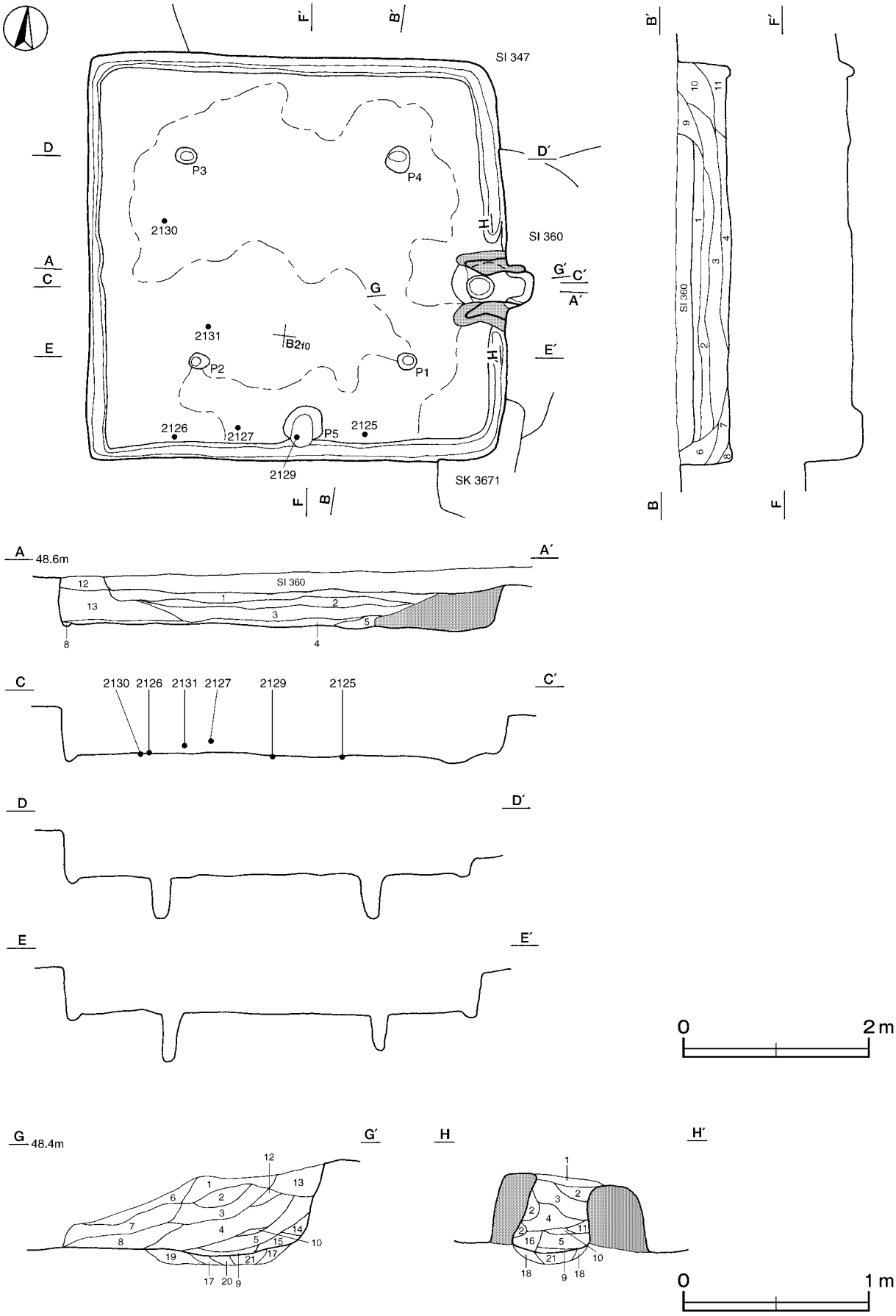
規模と形状　一辺4.40mの方形で，主軸方向はＮ－86°－Ｅである。壁高は52cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部から北壁寄りが踏み固められている。壁溝が全周しており，断面形はU字状である。

竈　東壁のほぼ中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで78cm，袖部幅87cmである。袖部は床面と同じ高さを基部として，砂質粘土で構築されている。火床部は床面を８cmほど円形に掘りくぼめており，焚口部付近がやや赤変していた。煙道部は壁外へ19cmほど台形状に掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　黄　褐　色　粘土ブロック多量
3　黄　褐　色　粘土ブロック多量，焼土ブロック少量
4　明　褐　色　焼土ブロック中量，粘土ブロック少量
5　褐　　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
6　にぶい黄褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量
7　黄　褐　色　粘土ブロック多量，ロームブロック少量
8　赤　褐　色　焼土ブロック中量，粘土ブロック少量
9　黄　褐　色　ロームブロック多量
10　黒　褐　色　灰中量
11　明 黄 褐 色　砂質粘土ブロック多量
12　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
13　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
14　暗　褐　色　粘土ブロック･炭化物･ローム粒子･焼土粒子微量
15　暗　褐　色　粘土ブロック･炭化物･ローム粒子･焼土粒子微量
16　暗 赤 褐 色　炭化物少量，ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量
17　褐　　色　砂質粘土ブロック・焼土ブロック少量
18　黄　褐　色　砂質粘土ブロック・ローム粒子微量
19　赤　褐　色　砂質粘土ブロック中量，ローム粒子･焼土粒子微量
20　黄　褐　色　砂質粘土中量，炭化物少量，焼土粒子微量
21　黄　褐　色　砂質粘土ブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量



第130図　第346号住居跡実測図

ピット　５か所。P1～P4は深さ38～49㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ12㎝で，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

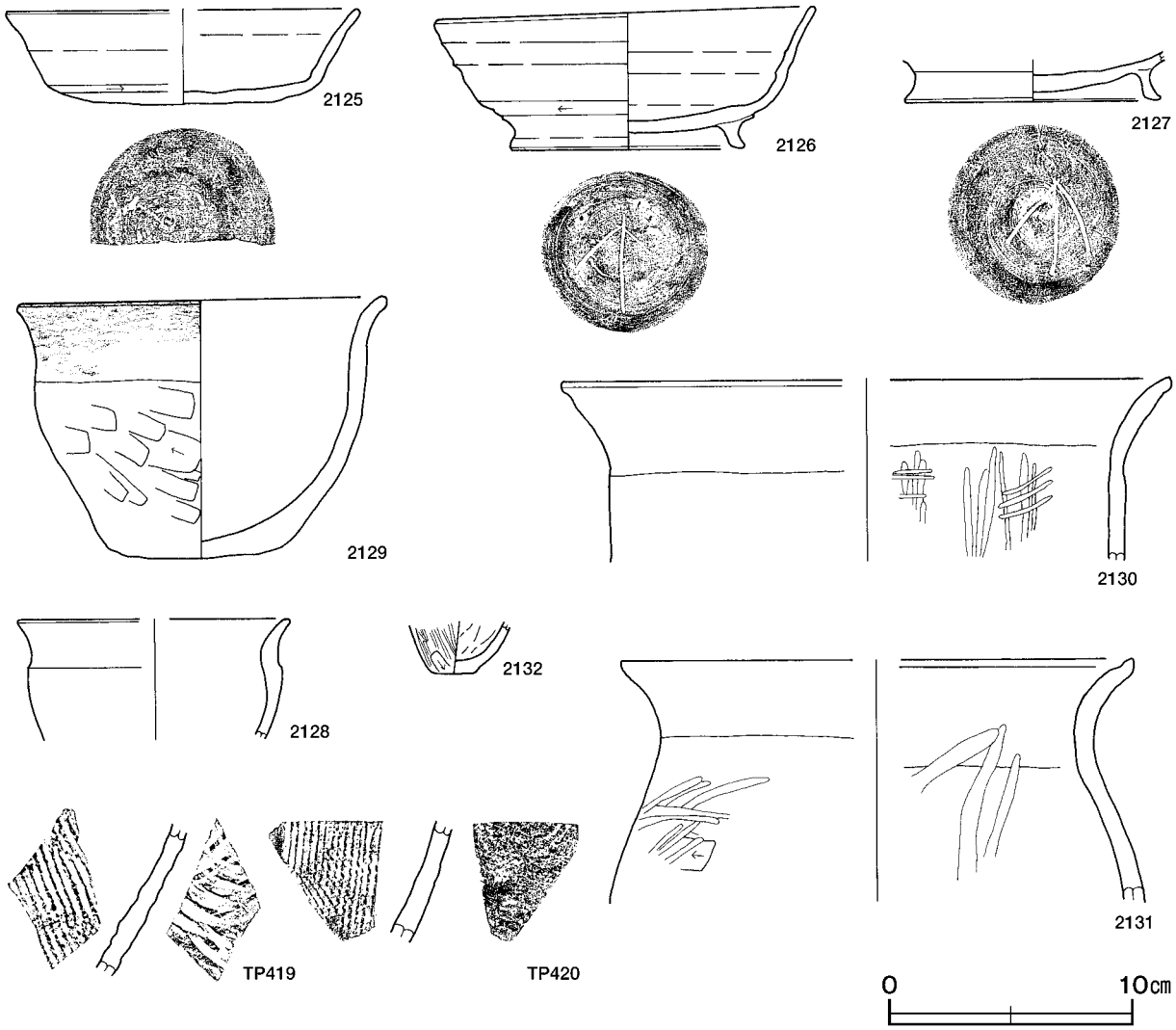
覆土　13層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化ブロック微量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック微量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，粘土ブロック微量
5　暗　褐　色　粘土ブロック少量，ローム粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック・炭化ブロック微量
8　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
9　黒　褐　色　ロームブロック微量
10　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量
12　黒　褐　色　ローム粒子少量
13　黒　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片888点（坏195，甕693），須恵器片46点（坏20，高台付坏１，蓋６，甕19），ミニチュア土器１点，手捏土器１点が覆土中層から下層にかけて全域から出土している。また，流れ込んだ弥生土器片99点，土師器片２点（高坏）も出土している。2125・2126は南壁際の床面，2129はP5内，2130は西部の床面，2131は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉と考えられる。



第131図　第346号住居跡出土遺物実測図

第346号住居跡出土遺物観察表（第131図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2125	須恵器	坏	[14.3]	3.9	7.5	石英･長石･雲母	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部ヘラ切り	床面	30%　PL72
2126	須恵器	高台付坏	15.4	5.9	9.4	石英・長石	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	床面	70%　PL73 ヘラ記号「⅄」
2127	須恵器	高台付坏	－	(2.1)	10.6	石英・長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土下層	10%　PL82 ヘラ記号「⅄」
2128	土師器	小形甕	[11.1]	(5.0)	－	石英･長石･雲母	橙	普通	口縁部外面横ナデ　内・外面ナデ	覆土中	10%
2129	土師器	甕	15.0	10.7	7.1	石英・長石	灰褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	床面	90%　PL80 口縁部煤付着
2130	土師器	甕	[24.8]	(7.5)	－	長石･雲母･赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　内面ヘラ磨き	床面	5％
2131	土師器	甕	[21.0]	(10.0)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　内面ヘラ磨き　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	覆土下層	5％
2132	ﾐﾆｭﾁｭｱ土器	－	－	(2.2)	1.6	石英･白色粒子	赤褐	普通	外面ヘラ磨き後ヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土中	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP419	須恵器	甕	石英・長石	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き　内面同心円状当て具痕	覆土中	PL83
TP420	須恵器	甕	長石	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き　内面指頭圧痕	覆土中	PL83

第349号住居跡（第132・133図）

位置　西部４区西部のＢ２ｆ8 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第351号住居跡を掘り込み，第350号住居，第3683・3688号土坑，第72号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.90m，短軸3.48mの長方形で，主軸方向はＮ－７°－Ｗである。壁高は15～35㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で,竈前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が全周しており,断面形はＵ字状である。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで99㎝，袖部幅125㎝である。袖部は床面と同じ高さを基部として，砂質粘土で構築されている。火床部は床面を12㎝ほど楕円形に掘りくぼめており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ56㎝ほど半円形状に掘り込まれ，火床面より緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・粘土粒子少量
2　灰 黄 褐 色　粘土ブロック少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック･焼土ブロック･粘土ブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
6　暗　褐　色　焼土ブロック中量・ロームブロック少量
7　灰 黄 褐 色　粘土ブロック中量
8　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
9　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
10　オリーブ褐色　粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック少量
11　褐　　色　ロームブロック多量
12　にぶい褐色　粘土ブロック多量
13　褐　　色　ロームブロック中量
14　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック中量
15　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量
16　褐　灰　色　粘土粒子中量
17　褐　灰　色　粘土ブロック中量，焼土ブロック少量
18　灰 黄 褐 色　ロームブロック少量
19　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量

ピット　深さ35㎝で，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

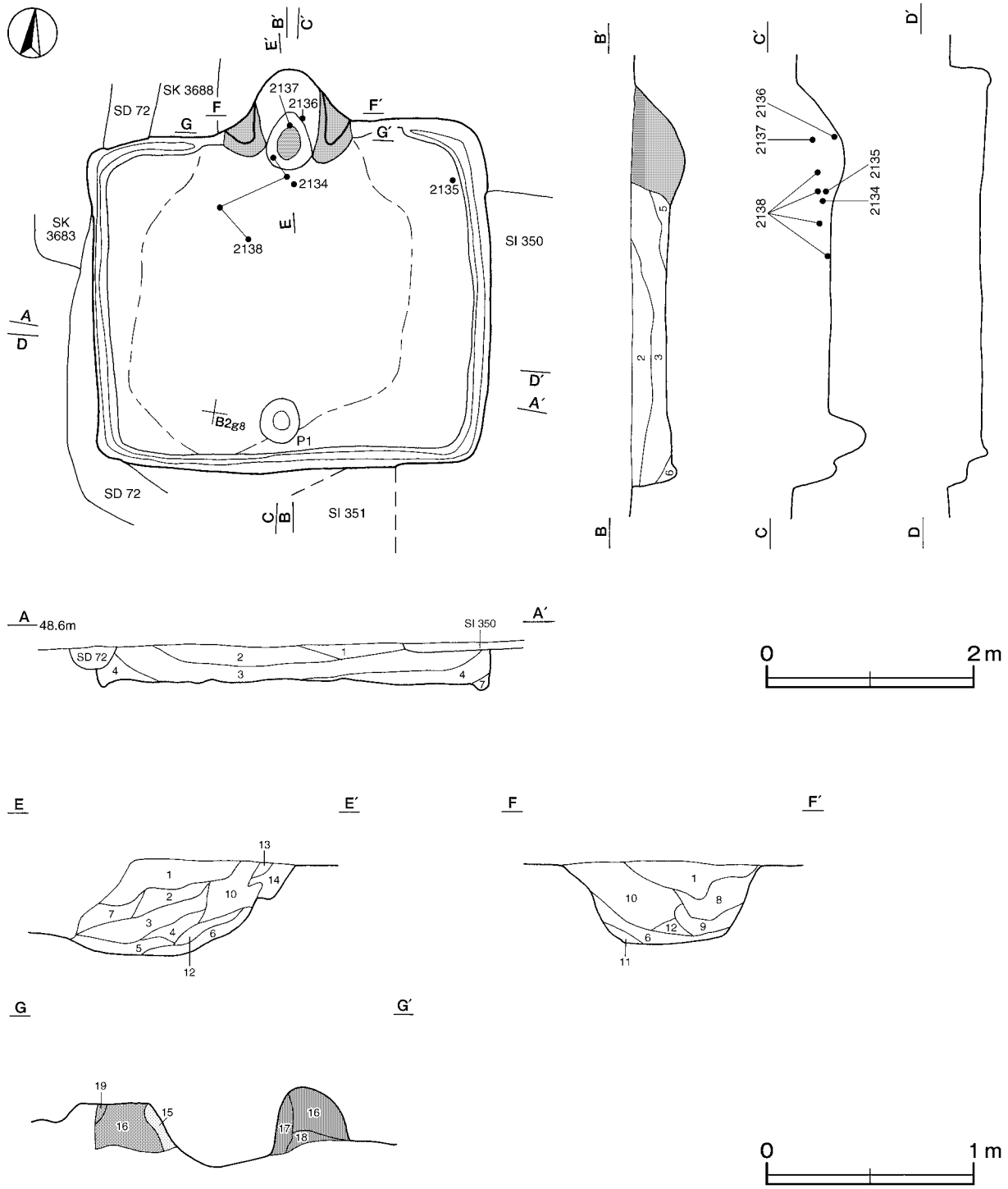
覆土　７層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

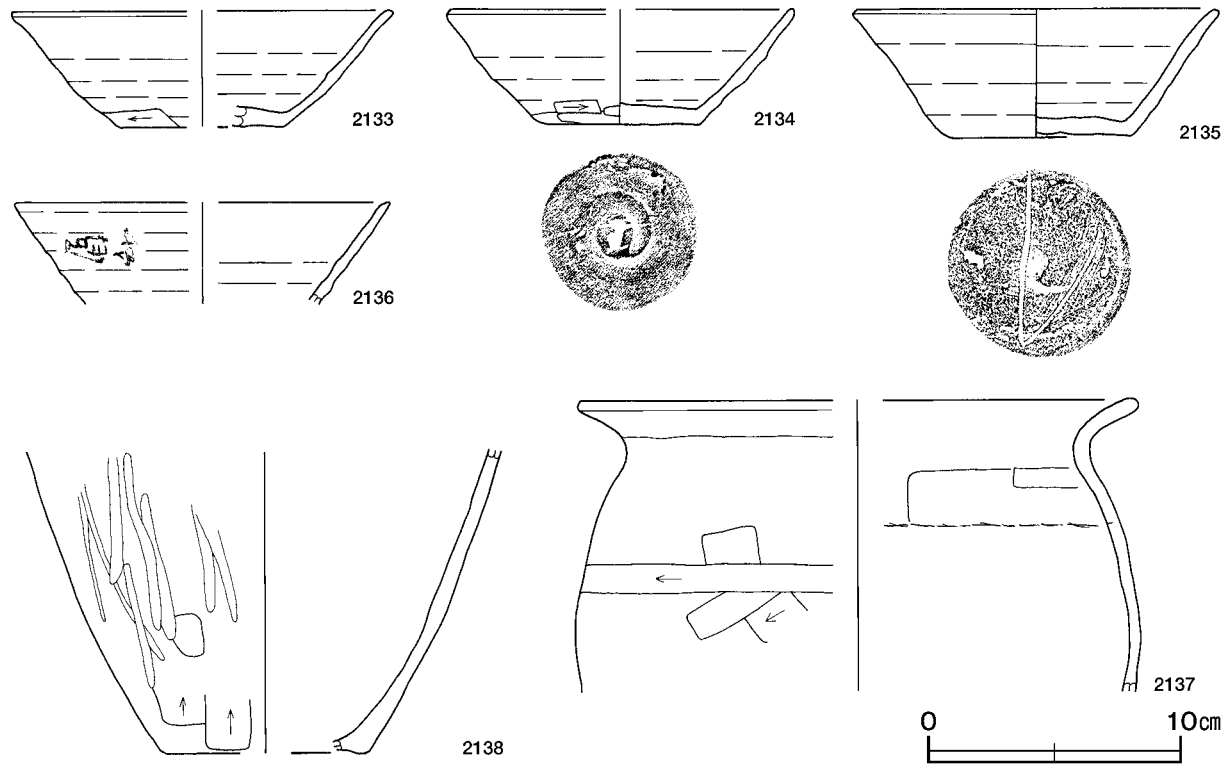
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　粘土ブロック・砂粒少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量
7　黒　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片343点（坏19，甕324），須恵器片31点（坏23，甕８），細礫１点が，竈周辺の覆土中層から下層にかけて出土している。また，流れ込んだ縄文土器片１点，弥生土器片28点も出土している。2136・2137は竈内から，2138は竈内及び竈前面の床面から出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉と考えられる。



第132図　第349号住居跡実測図



第133図　第349号住居跡出土遺物実測図

第349号住居跡出土遺物観察表（第133図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2133	須恵器	坏	[15.2]	4.6	[6.4]	石英･長石･雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	竈内	10%
2134	須恵器	坏	[13.8]	4.6	6.2	石英･長石･雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	40%
2135	須恵器	坏	14.3	5.1	7.2	石英・長石・雲母	灰	普通	底部不定方向の手持ちヘラ切り	床面	40% ヘラ記号「**レ**」
2136	須恵器	坏	[14.9]	(4.0)	－	石英	灰黄	普通	ロクロナデ	竈内	墨書「酒□」 PL82
2137	土師器	甕	[22.0]	(11.6)	－	石英・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ　輪積み痕	竈内	10%
2138	土師器	甕	－	(11.9)	[8.0]	石英･長石･赤色粒子･白色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	竈内	10%

第350号住居跡（第134・135図）

位置　西部４区西部のＢ２ｆ8 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第349・351号住居跡を掘り込み，第3705・3706・3708・3715・3717号土坑，第72号溝に掘り込まれている。

規模と形状　東壁と南壁の一部が削平されているため，規模や形状は明確ではない。確認された範囲は，長軸3.92m，短軸3.75mで，平面形は方形と推定され，主軸方向はＮ－６°－Ｗである。壁高は５～14cmで，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部から南壁にかけての狭い範囲が踏み固められている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで68cmである。袖部は明確でないが，掘り込んだ地山の手前に焚口部が形成されている。火床部は床面と同じ高さの平坦な面を使用しており，火床面の赤変

した部分は確認されなかった。煙道部は壁外へ三角形状に50cmほど掘り込まれ，火床部より緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　極暗褐色　焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
5　暗　褐　色　焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・白色粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
10　暗　褐　色　ロームブロック微量
11　黒　褐　色　焼土粒子微量
12　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
13　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・白色粒子微量

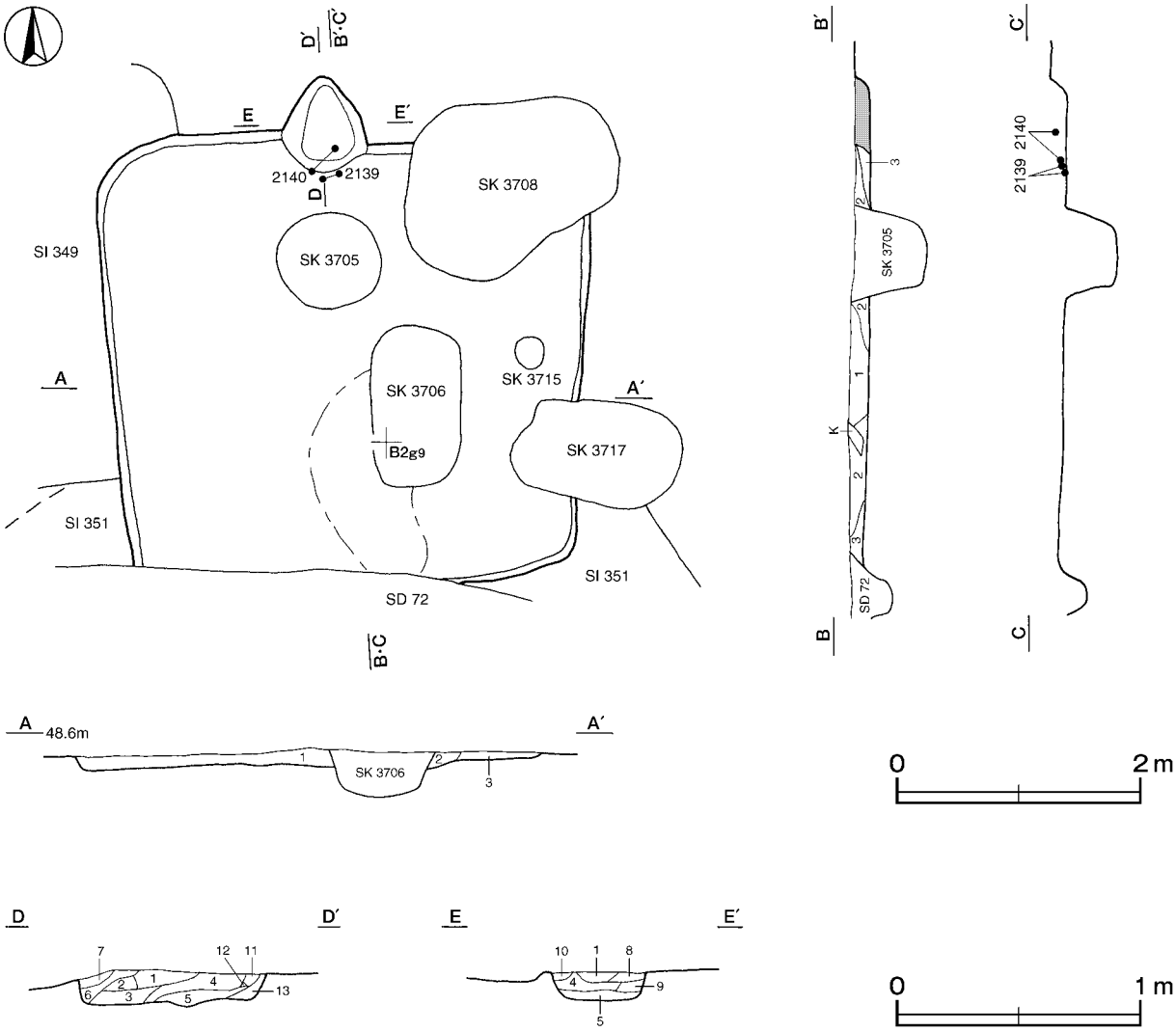
覆土　３層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

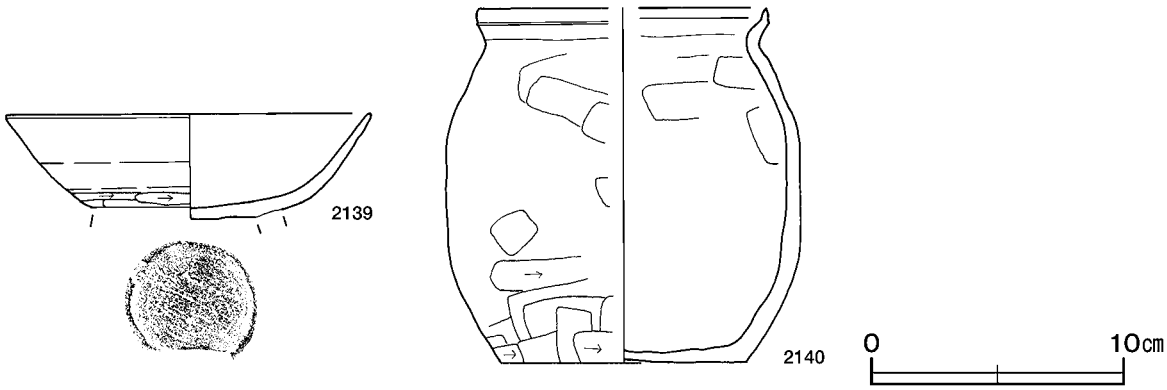
1　極暗褐色　ロームブロック微量
2　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・砂粒微量

遺物出土状況　土師器片102点（坏10，高台坏椀１，甕91），須恵器片２点（坏），中礫２点が中央部の覆土中層から下層にかけて散在して出土している。また，流れ込んだ弥生土器片12点も出土している。2139・2140は竈前面から出土した破片がそれぞれ接合したものである。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から９世紀後葉と考えられる。



第134図　第350号住居跡実測図



第135図　第350号住居跡出土遺物実測図

第350号住居跡出土遺物観察表（第135図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2139	土師器	高台付椀	14.5	(4.1)	－	雲母･赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り	床面	45%
2140	土師器	小形甕	[11.4]	14.1	9.8	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	竈内	30%

第353号住居跡（第136・137図）

位置　西部４区西部のＢ３ｆ3 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3672号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.14m，短軸3.50mの長方形で，主軸方向はＮ－４°－Ｅである。壁高は40～46cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝がほぼ全周しており，断面形はU字状である。東部・南部・西部に貼床が確認されており，ローム土を埋め戻して構築されている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで118cm，袖部幅109cmである。袖部は掘り残した地山を基部として，砂質粘土で構築されている。火床部は床面を11cmほど円形に掘りくぼめており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ半円形状に36cmほど掘り込まれ，火床部より緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　砂粒少量，粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　砂粒少量，焼土粒子・粘土粒子微量
3　黒　褐　色　砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　焼土粒子少量,ロームブロック･炭化物･砂粒微量
6　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量
7　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・砂粒微量
8　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
9　褐　　色　砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量
10　褐　　色　砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量
11　褐　　色　ロームブロック中量，砂質粘土粒子少量
12　極 暗 褐 色　砂質粘土多量

ピット　６か所。P1 は深さ31cmで，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。さらに，掘り方調査により床面下からP2 ～P6 が確認されており，深さ35～58cmである。P2 ～P5 は規模と配置から主柱穴と考えられ，P6 は性格不明である。

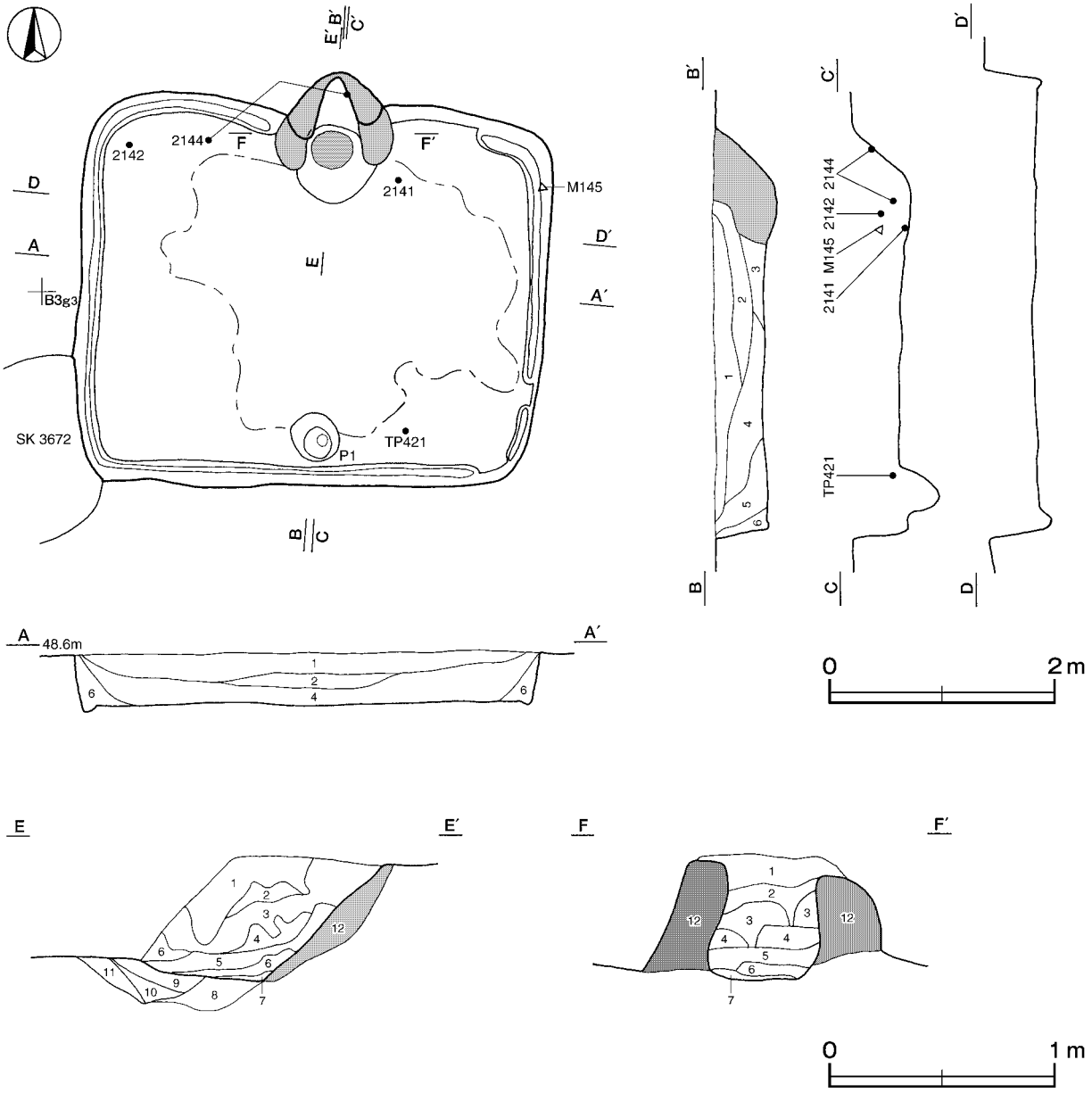
覆土　12層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。第７層から第12層は貼床の構築土である。

土層解説

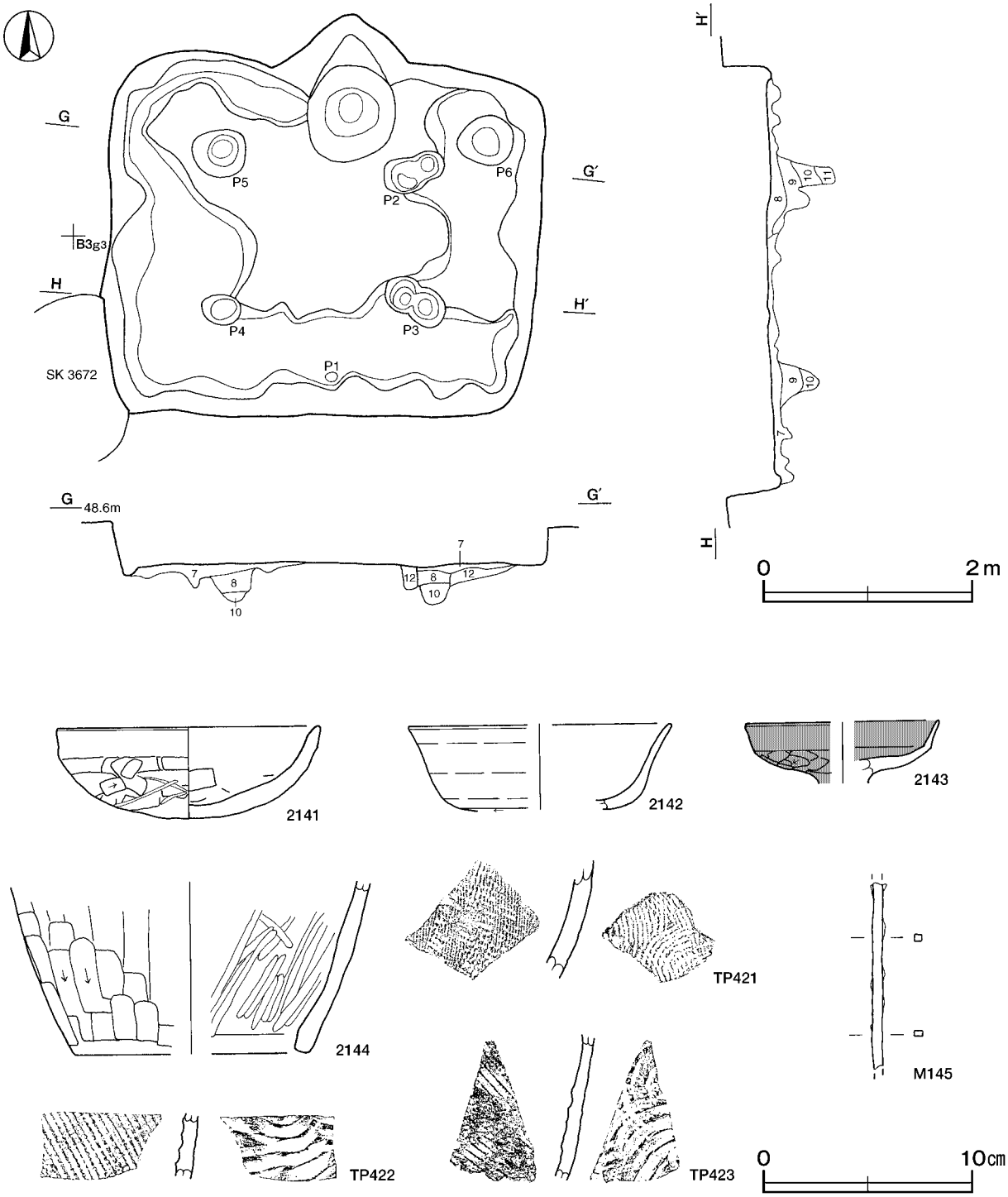
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　粘土ブロック・砂粒少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック多量
8　褐　　色　ロームブロック中量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量
10　暗　褐　色　ロームブロック多量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量
12　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片381点（坏66，高坏ヵ１，甕313，甑１），須恵器片17点（坏３，蓋１，甕13）が中央部から北東部の覆土中層から下層にかけて出土している。また，流れ込んだ弥生土器片53点も出土している。2144は竈内と左袖付近から出土した破片が接合したものである。2141は竈の右袖付近から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉と考えられる。本住居は主柱穴の配置されていた床面を掘り直した後，柱穴を埋め戻すとともに貼床をしたと考えられ，床面の作り替えが行われている。



第136図　第353号住居跡実測図



第137図　第353号住居跡・出土遺物実測図

第353号住居跡出土遺物観察表（第137図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2141	土師器	坏	12.4	4.4	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	床面	100%　PL72
2142	須恵器	坏	[12.6]	(4.1)	－	石英	灰白	普通	ロクロナデ　内面ナデ	覆土中層	10%
2143	土師器	高坏ヵ	[9.2]	(3.0)	－	石英・白色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中	10%
2144	土師器	甑	－	(8.2)	[11.2]	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	竈内	5％

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP421	須恵器	甕	石英･長石･雲母	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き　内面同心円状当て具痕	覆土下層	PL83
TP422	須恵器	甕	石英・長石	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き　内面同心円状当て具痕	覆土中	PL83
TP423	須恵器	甕	長石	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き　自然釉付着　内面同心円状当て具痕	覆土中	PL83

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M145	釘	(9.0)	0.5	0.4	(6.85)	鉄	断面方形　棒状	覆土中層	PL90

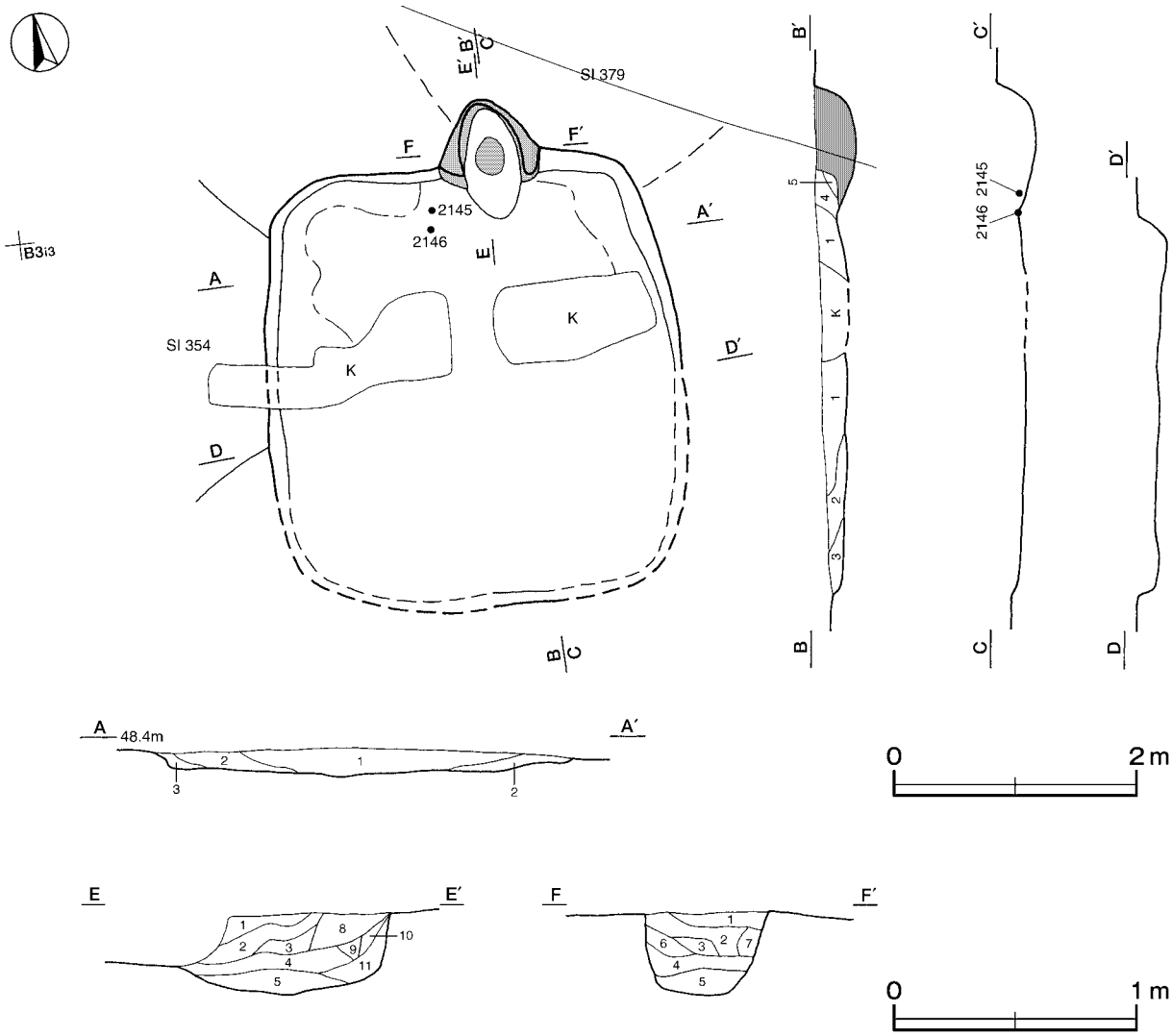
第356号住居跡（第138・139図）

位置　西部４区西部のＢ３ｉ3 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第354・379号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　南東部と南西部の壁が残存していないため，確認された範囲は長軸3.67m，短軸3.40mである。平面形は方形と推定され，主軸方向はＮ－３°－Ｅである。壁高は12～20㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面が踏み固められている。



第138図　第356号住居跡実測図

竈　北壁の中央部やや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで101㎝，袖部幅84㎝である。袖部は掘り残した地山に，粘土を少量混ぜた黒褐色土を貼り付けて構築されている。火床部は床面を12㎝ほど楕円形に掘りくぼめ，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外へ三角形状に49㎝ほど掘り込まれ，火床部からほぼ直立して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子・砂粒微量
2　黒　褐　色　砂粒少量，ロームブロック微量
3　黒　褐　色　粘土ブロック少量，ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒・白色粒子微量
5　黒　褐　色　焼土粒子少量，粘土ブロック・ローム粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，ローム粒子・砂粒微量
8　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，粘土ブロック・ローム粒子微量
9　黒　褐　色　粘土ブロック微量
10　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量
11　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・砂粒微量

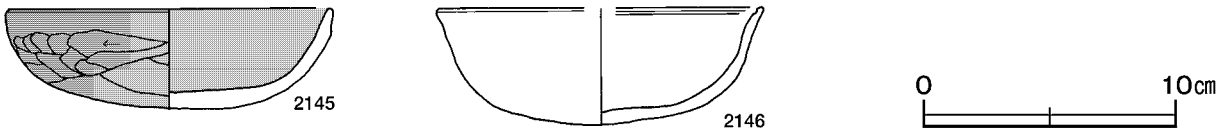
覆土　５層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量
5　黒　褐　色　砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片82点（坏11，甕71），須恵器片６点（坏１，甕５），中礫８点が，竈前面の覆土中層から下層にかけて出土している。また，流れ込んだ弥生土器片18点，土師器片１点(高坏)も出土している。2145・2146は竈の左袖付近の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第139図　第356号住居跡出土遺物実測図

第356号住居跡出土遺物観察表（第139図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2145	土師器	坏	12.7	4.0	－	長石・雲母	褐灰	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	床面	80%　PL72
2146	土師器	坏	[12.7]	4.6	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口唇部内面に沈線　内・外面ナデ	床面	20%

第358号住居跡（第140～142図）

位置　西部４区西部のＢ３g4 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第355・379号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　北東コーナーが調査区域外に延びている。確認された範囲は，長軸4.14m，短軸3.78mの方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｗである。壁高は27～34㎝で，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が全周しており，断面形はＵ字状である。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで139㎝，袖部幅142㎝である。袖部は床面と同じ高さを基部として，砂質粘土で構築されている。火床部は浅く皿状にくぼんでいたが，火床面には赤変した部分が確認されなかった。煙道部は壁外へ三角形状に48㎝ほど掘り込まれ，火床部より緩やかに立ち上がっている。竈土層の第３・６層が天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1　黄　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック中量
2　黄　褐　色　粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック少量
3　オリーブ褐色　粘土ブロック・焼土ブロック中量，ロームブロック少量
4　オリーブ褐色　焼土ブロック中量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量，粘土ブロック少量
6　黄　褐　色　粘土ブロック多量，焼土ブロック少量
7　暗オリーブ褐色　ロームブロック中量
8　オリーブ褐色　焼土ブロック中量，粘土ブロック・炭化物少量
9　黄　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量
10　黄　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・砂粒少量
11　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
12　灰黄褐色　焼土ブロック中量
13　極暗赤褐色　焼土粒子少量，ロームブロック微量
14　黒　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック微量

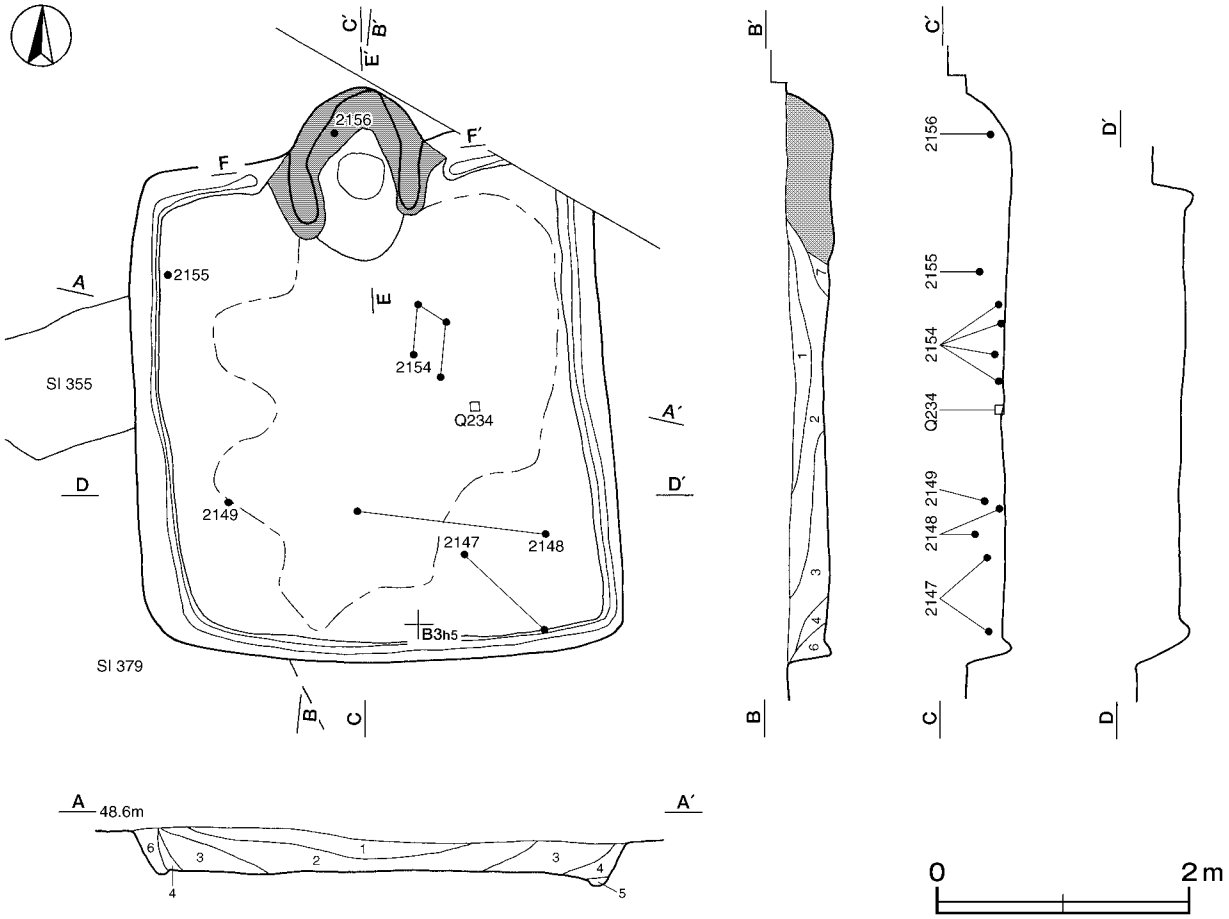
覆土　７層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

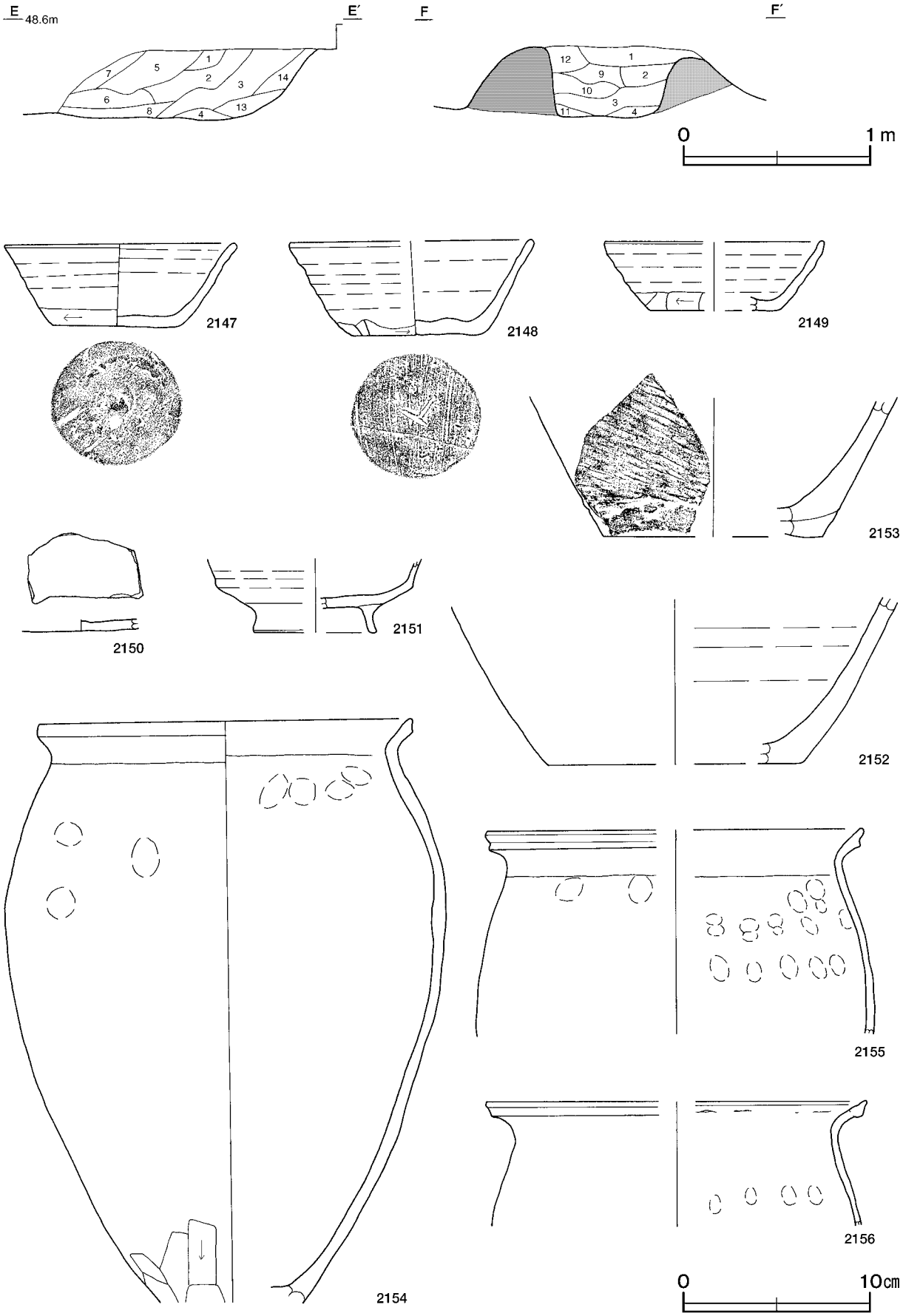
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量
6　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
7　黒　褐　色　焼土粒子少量，砂質粘土・ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片837点（坏57，甕780），須恵器片108点（坏83，高台付坏２，蓋５，甕16，鉢２），石器１点（砥石），石製品１点（紡錘車）が，全域の覆土上層から下層にかけて出土している。また，流れ込んだ石器１点（ナイフ形石器），弥生土器片24点も出土している。2154は中央部の床面から出土した破片が接合したもので，2148は中央部の床面と南東コーナー部の覆土上層から出土した破片が接合したものである。2147は南東コーナー部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。2156は竈内から出土している。

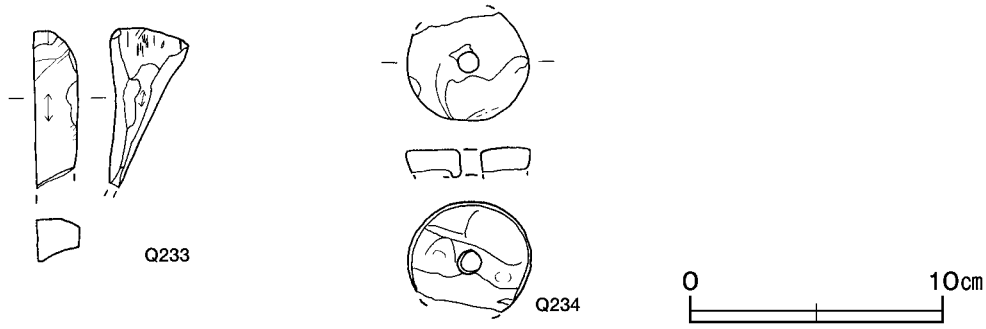
所見　時期は，出土土器から９世紀前葉と考えられる。



第140図　第358号住居跡実測図



第141図　第358号住居跡・出土遺物実測図



第142図　第358号住居跡出土遺物実測図

第358号住居跡出土遺物観察表（第141・142図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2147	須恵器	坏	12.2	4.6	6.8	石英・長石・黒色粒子	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り	覆土中層	80%　PL72
2148	須恵器	坏	[12.8]	5.1	6.8	長石	灰オリーブ	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向の手持ちヘラ切り	床面	60% ヘラ記号「⊥」
2149	須恵器	坏	[11.8]	3.7	[6.8]	石英・長石・白色粒子	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向の手持ちヘラ切り	覆土下層	20%
2150	須恵器	坏	－	(0.6)	－	長石・雲母	灰白	普通	ロクロナデ	覆土中	5% 内面漆付着
2151	須恵器	高台付坏	－	(4.0)	[6.6]	石英・長石	灰	普通	高台貼付け後ロクロナデ	覆土中	20%
2152	須恵器	鉢	－	(8.9)	[13.6]	石英・長石・黒色粒子	灰	普通	ロクロナデ	覆土中	20%
2153	須恵器	鉢	－	(7.5)	[11.7]	長石	黒	普通	ロクロナデ　体部外面斜位の平行叩き	覆土中	10%
2154	土師器	甕	20.0	(31.5)	－	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面下端ヘラ削り　指頭痕	床面	70%　PL80
2155	土師器	甕	[20.0]	(11.0)	－	石英･長石･雲母	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面指頭痕	覆土中層	20%
2156	土師器	甕	[20.4]	(6.7)	－	石英・長石・雲母	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　口縁部内面輪積み痕　内面指頭痕	竈内	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q233	砥石	(6.3)	1.8	1.6	(26.2)	凝灰岩	砥面２面　擦痕有	覆土中層	PL87

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q234	紡錘車	4.84	0.81	1.11	(26.1)	千枚岩	上面丁寧な研磨	覆土下層	PL88

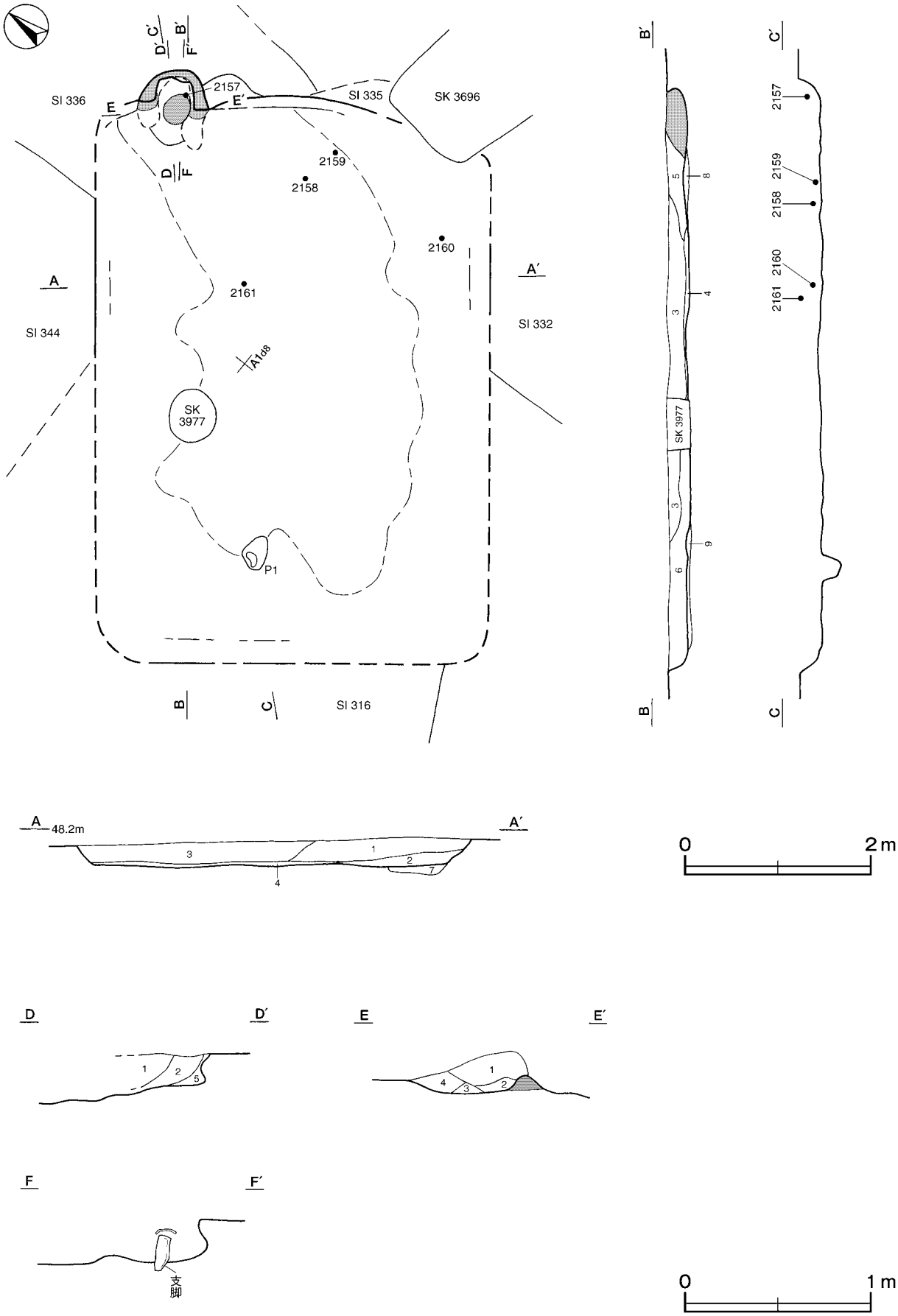
第359号住居跡（第143・144図）

位置　西部３区西部のＡ１c8 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第316・332・335・336・344号住居跡を掘り込み，第3696・3977号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　削平によりほとんど遺存していない。南西・北東・北西の壁の一部は確認され，範囲は長軸6.06m，短軸4.22mで，平面形は長方形と推定される。主軸方向はＮ－41°－Ｅである。壁高は，23cmほどで外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。竈前面から南東及び南西の床面に貼床が確認されており，ローム土で構築されている。



第143図　第359号住居跡実測図

竈　北東壁の中央部北寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで74㎝である。袖部は，床面を基部として貼り付けた粘土が確認されており，残存している袖部は幅77㎝である。火床部は，床面と同じ高さの平坦な面を使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。火床部には，自然石が据えられており，火熱を受けていることから支脚と考えられる。煙道部は壁外へ23㎝ほど半円形状に掘り込まれ，火床面より内傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子中量，粘土ブロック少量
2　暗赤褐色　焼土ブロック・ロームブロック中量
3　暗赤褐色　焼土ブロック中量
4　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量
5　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子少量

ピット　深さ20㎝で，南壁際に位置していることや硬化面の状況から，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

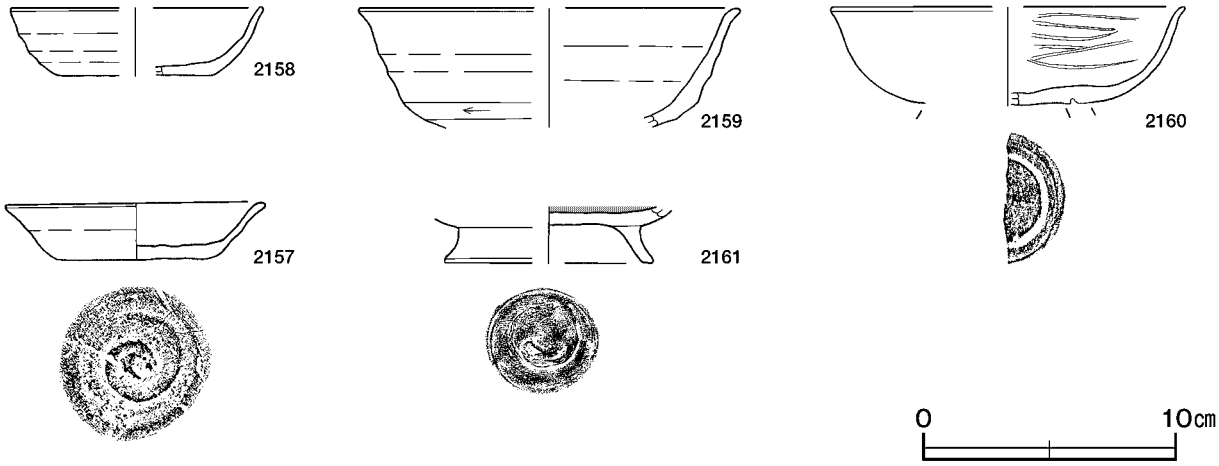
覆土　９層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。第７から第９層は貼床の土層である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土ブロック微量
2　暗　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
5　褐　　色　砂質粘土中量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック中量
8　褐　　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
9　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片35点（坏８，高台付椀２，甕25），石器１点（支脚），礫３点が覆土中層から下層にかけて出土している。また，流れ込んだ弥生土器片12点も出土している。2157は竈の支脚上に逆位で，2158・2159は北東壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から11世紀前半と考えられる。第335号住居跡とほぼ同じ高さで床面が確認されており，本住居への拡張と竈の再構築が想定される。



第144図　第359号住居跡出土遺物実測図

第359号住居跡出土遺物観察表（第144図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2157	土師器	坏	10.1	2.3	5.9	雲母･赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り	竈内	80%　PL72
2158	土師器	坏	[10.0]	2.7	[6.0]	雲母･赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り	覆土下層	10%
2159	土師器	坏	[15.0]	(4.7)	－	石英･赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り	覆土下層	15%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2160	土師器	高台付椀	[14.0]	(3.9)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　高台貼付け	覆土下層	30% 高台剥離
2161	土師器	高台付椀	－	(2.3)	8.2	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　高台貼付け後ロクロナデ	覆土中層	30%

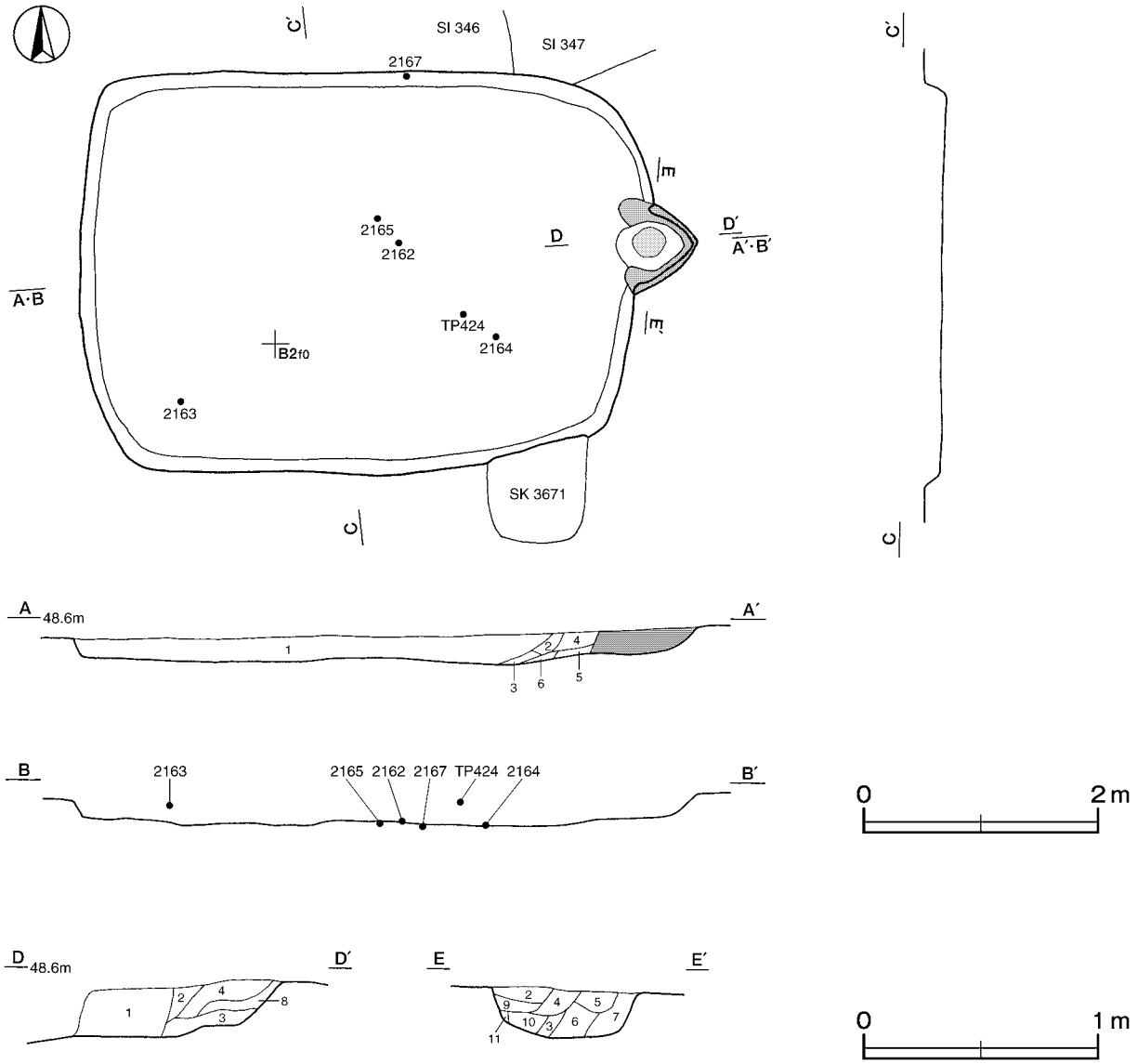
第360号住居跡（第145・146図）

位置　西部４区西部のＢ２e0 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第346・347号住居跡を掘り込み，第3671号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.69m，短軸3.48mの長方形で，主軸方向はＮ－86°－Ｅである。壁高は18～20㎝で，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部にはやや締まりがある。



第145図　第360号住居跡実測図

竈　東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで66cm，袖部幅82cmである。袖部は床面と同じ高さを基部として，粘土を混ぜた黒褐色土で構築されている。火床部は，床面と同じ高さの平坦な面を使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ43cmほど三角形状に掘り込まれ，火床面より緩やかに傾斜し立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　焼土ブロック中量，粘土ブロック少量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，粘土粒子中量
4　褐　　色　焼土ブロック多量，粘土ブロック中量，ローム粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
6　褐　　色　粘土ブロック多量
7　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量
8　暗　褐　色　焼土ブロック中量，砂粒少量，ローム粒子微量
9　暗 赤 褐 色　焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
10　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，ローム粒子・砂粒微量
11　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，粘土ブロック微量

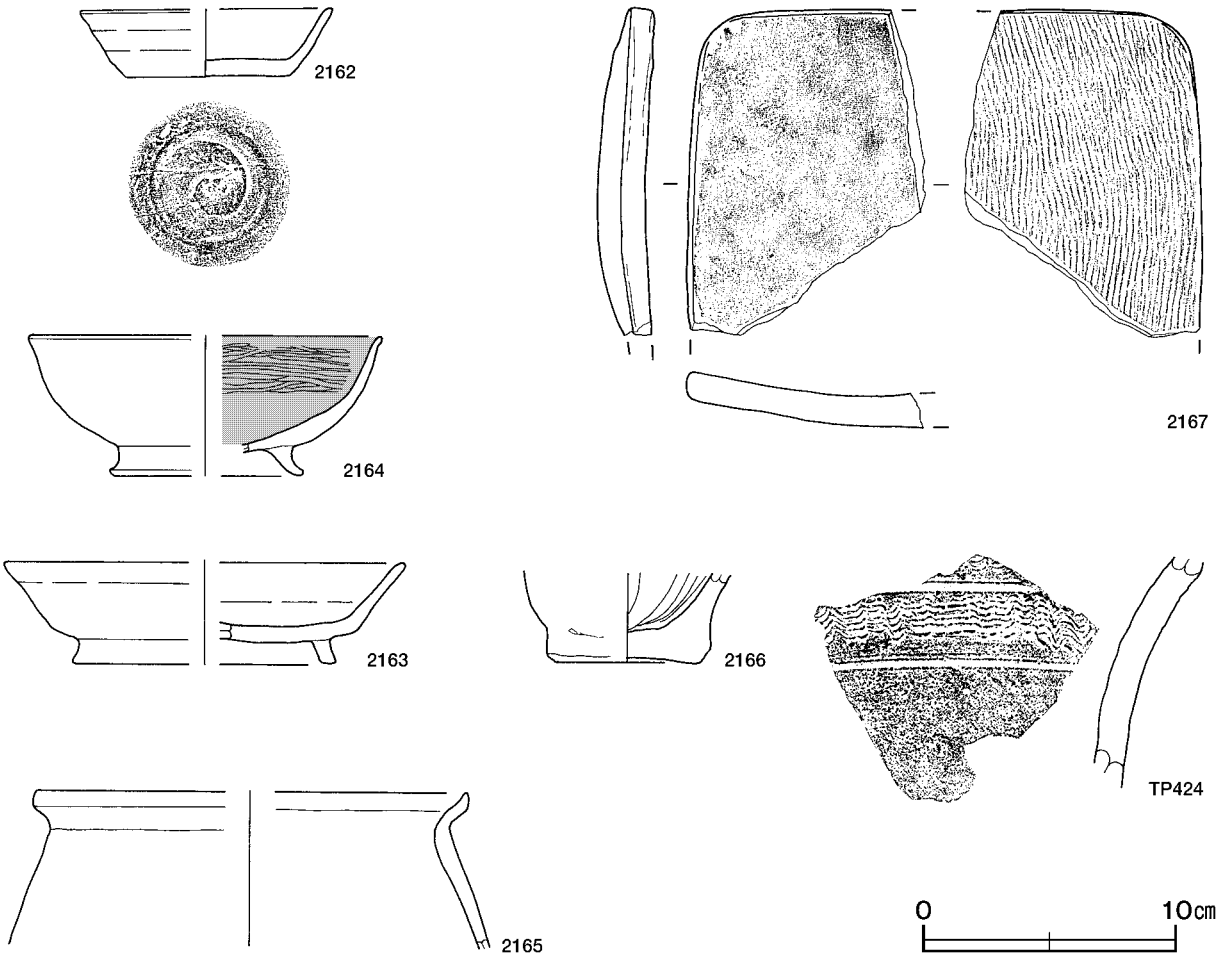
覆土　６層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　粘土ブロック中量,焼土粒子少量,ローム粒子微量
4　黒　褐　色　粘土ブロック少量，焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・粘土ブロック微量
6　黒　褐　色　砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片384点(坏37，高台付椀１，甕346)，須恵器片13点(坏２，高台付坏１，甕９，硯１)，手捏土器１点，中礫６点が中央部に集中して出土している。また，流れ込んだ弥生土器片21点も出土している。2162・2164・2165は中央部の床面からそれぞれ出土している。2167は北壁際の床面から出土した甕の体部の破片で，硯に転用されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉と考えられる。



第146図　第360号住居跡出土遺物実測図

第360号住居跡出土遺物観察表（第146図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2162	土師器	坏	[10.0]	2.7	6.6	石英･長石･雲母･赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り	床面	50%
2163	須恵器	高台付坏	[15.7]	4.1	[10.3]	長石	灰オリーブ	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土中層	40%
2164	土師器	高台付椀	[13.8]	5.6	[7.4]	石英･長石･雲母	橙	普通	内面ヘラ磨き　高台貼付け	床面	30%
2165	土師器	甕	[17.0]	(6.1)	－	石英･長石･雲母	灰赤	普通	口縁部内・外面横ナデ	床面	５%
2167	須恵器	硯	－	(12.9)	－	石英・長石	灰	普通	外面縦位の叩き　内面磨り痕	床面	50% 転用硯
2166	手捏土器	－	－	(3.6)	5.8	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい黄褐	普通	内面指頭による放射状のナデ	覆土中	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP424	須恵器	甕	長石	灰	普通	口辺部外面に波状文（６本単位）２条の平行沈線	覆土上層	PL83

第361号住居跡（SI-131）（第147・148図）

位置　西部４区西部のＢ２ｉ0 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。南部は平成15年度に調査が終了している。

重複関係　第369号住居跡を掘り込み，第133号住居に掘り込まれている。

規模と形状　北西コーナー部が調査区域外に延びている。確認された範囲は，長軸4.13m，短軸3.50mで，平面形は方形で，主軸方向はＮ－12°－Ｗである。壁高は27㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が北壁下に確認され，断面形はＵ字状を呈している。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで82㎝，袖部幅84㎝である。袖部は掘り残した地山に粘土を貼って構築している。左袖部は掘り残した地山だけが確認された。火床部は床面と同じ高さの平坦な面を使用しており，火床面は円形を呈し，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ半円形状に66㎝ほど掘り込まれ，粘土を貼り付けて構築されている。

竈土層解説

1　にぶい黄褐色　粘土ブロック中量
2　にぶい黄色　粘土ブロック多量，焼土ブロック少量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，粘土粒子中量
4　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量
5　にぶい黄色　粘土ブロック多量
6　黒　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量
7　にぶい黄褐色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量
8　明　褐　色　焼土ブロック中量
9　にぶい黄色　粘土ブロック中量
10　黄　褐　色　粘土ブロック多量
11　赤　褐　色　焼土ブロック中量，粘土ブロック少量
12　灰　黄　色　粘土ブロック中量，焼土ブロック少量
13　黒　褐　色　粘土粒子少量

ピット　７か所。P1・P2・P4・P6 は深さ45～50㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。P3 は深さ26㎝で，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4 はP5 からの立て替えと考えられ，P7 の性格は不明である。

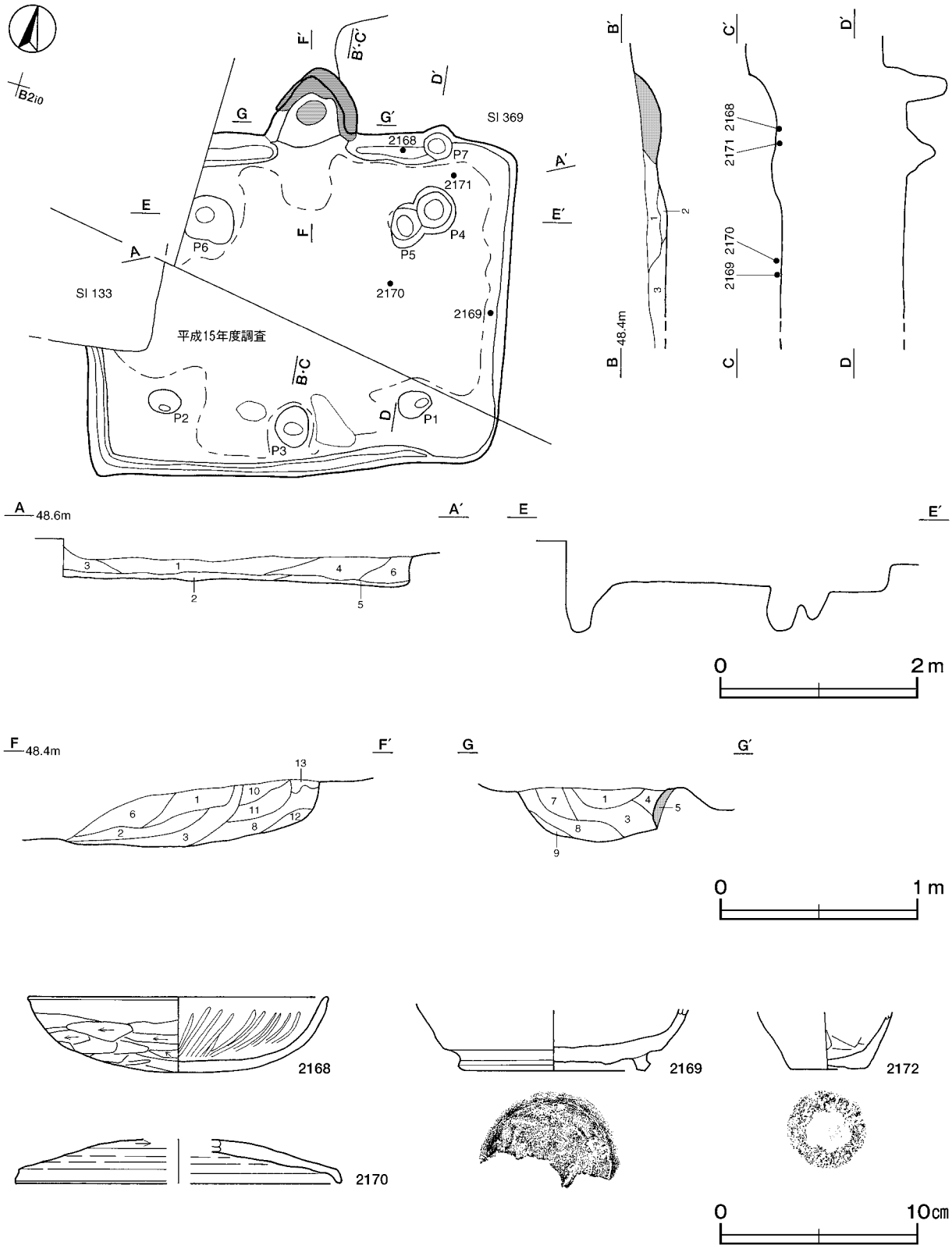
覆土　６層に分層される。ブロック状に不規則な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

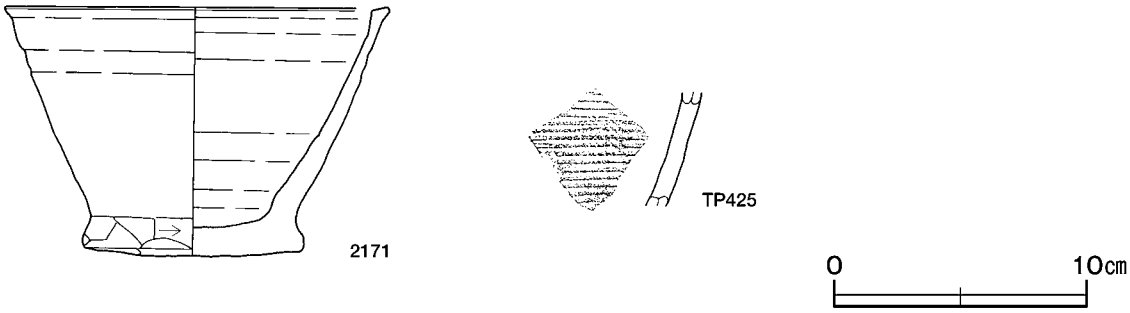
1　黒　褐　色　粘土ブロック･ローム粒子少量,焼土ブロック微量
2　黒　　色　粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック微量
3　黒　褐　色　粘土ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片299点（坏70，甕229），須恵器片14点（坏６，高台付坏１，蓋５，捏鉢１，甕１）が北東コーナー部の覆土下層を中心に出土している。また，流れ込んだ弥生土器片41点，土師器片３点（高坏）も出土している。2168・2171は北東コーナー部，2169は中央部の東壁際，2170はP5 南側の床面からそれぞれ出土している。

所見　平成15年度調査区分の『茨城県教育財団文化財調査報告』第248集において，時期は８世紀中葉と報告されている。今回の調査区の出土土器は，既報告の時期を追認できるものと考えられる。



第147図　第361号住居跡・出土遺物実測図



第148図　第361号住居跡出土遺物実測図

第361号住居跡出土遺物観察表（第147・148図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2168	土師器	坏	15.2	3.9	－	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	95%　PL72
2169	須恵器	高台付坏	－	(3.1)	9.6	長石･黒色粒子	灰白	普通	高台貼付け	床面	10%
2170	須恵器	蓋	[16.4]	(2.3)	－	長石	褐灰	普通	天井部ヘラ削り	床面	30%
2171	須恵器	捏鉢	15.1	10.0	8.5	石英・長石・黒色粒子	灰白	普通	体部下端ヘラ削り	床面	40%　PL79
2172	土師器	小形甕	－	(2.9)	3.9	石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内面ヘラナデ	覆土中	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP425	須恵器	甕	長石	灰	普通	体部外面格子叩き	覆土中層	PL83

第362号住居跡（第149図）

位置　西部４区西部のＣ３b8 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3725号土坑，第76号溝に掘り込まれている。

規模と形状　西壁と南壁のほとんどが削平されて残存していないため，規模や形状は明確ではない。確認された範囲は，長軸3.32m，短軸3.16mで，平面形は方形と推定され，主軸方向はN－４°－Wである。壁高は３～９㎝で，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，西部が踏み固められており，わずかな高まりが確認されている。

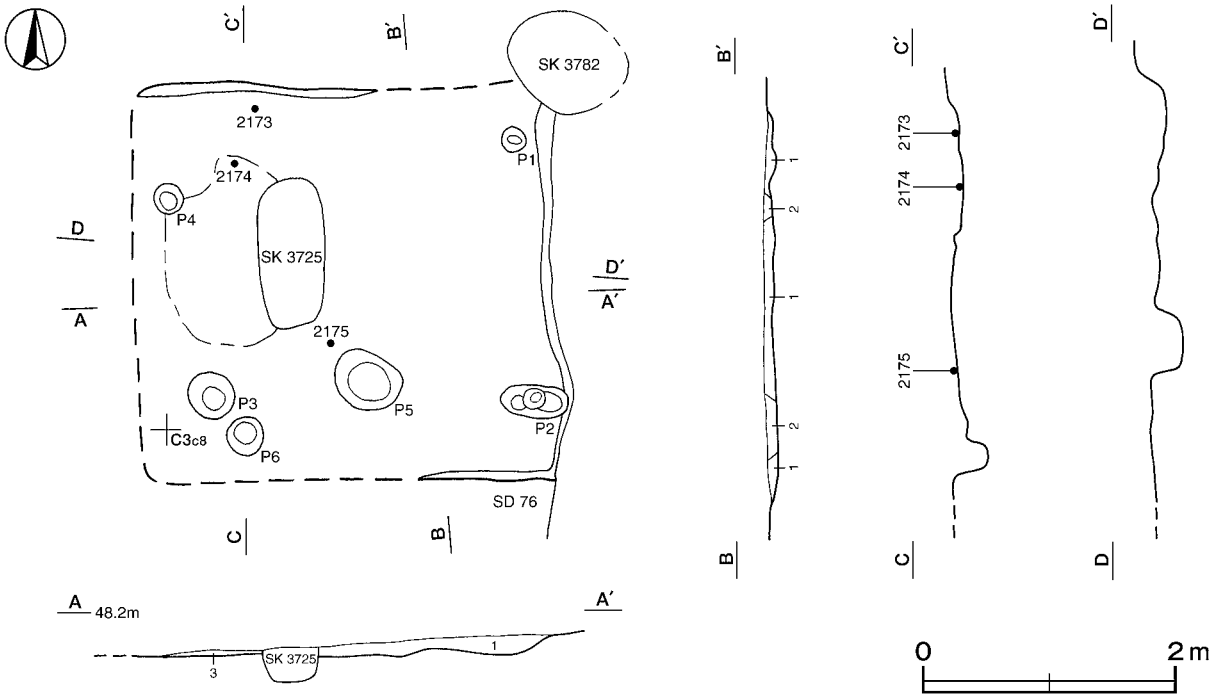
ピット　６か所。P1～P4 は深さ29㎝ほどで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5・P6 は，深さ12・28㎝で，性格は不明である。

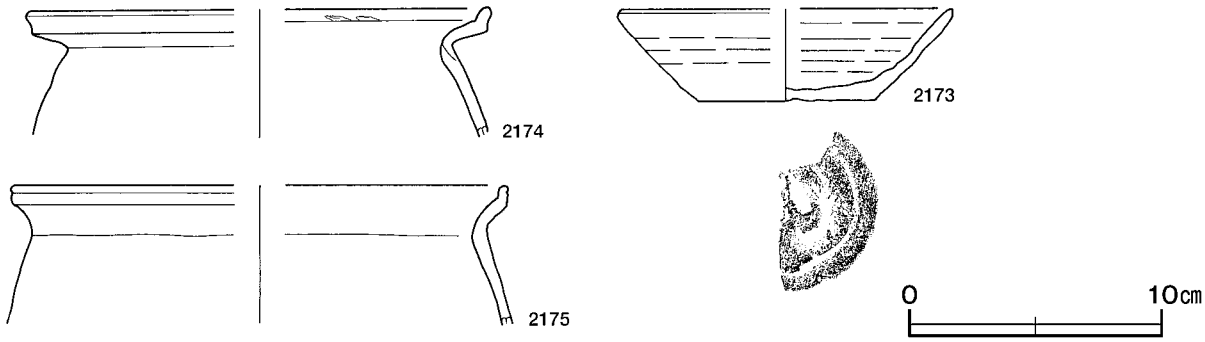
覆土　３層に分層される。層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片86点（坏13，甕73），須恵器片３点（甕２，瓶１），中礫４点が，床面から散在するように出土している。また，流れ込んだ弥生土器片１点も出土している。2173・2174は北西コーナー部，2175は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見　竈や炉は確認できなかったが，遺構の形態と遺物の出土状況から住居跡と判断した。時期は，出土土器から９世紀中葉と考えられる。





第149図　第362号住居跡・出土遺物実測図

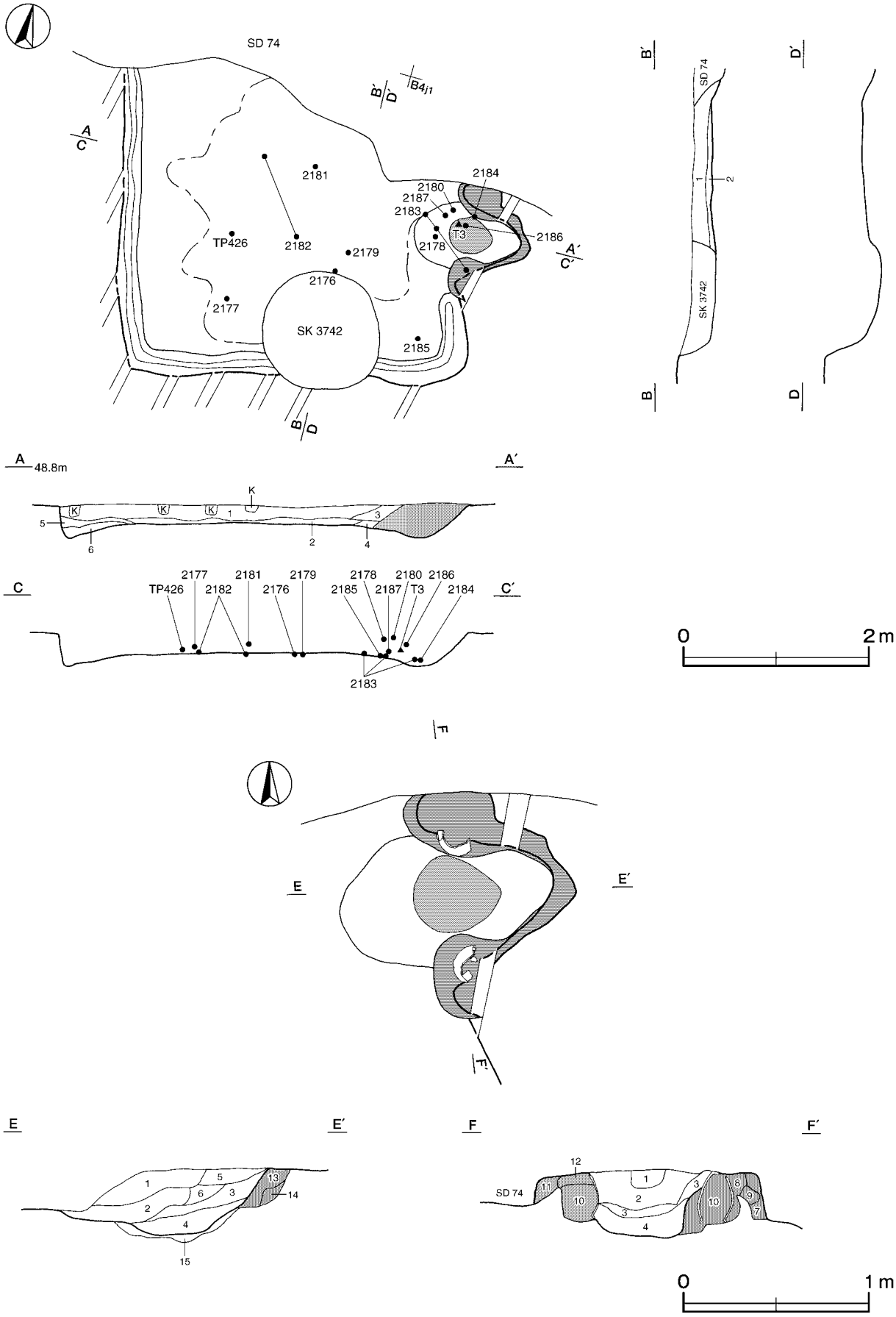
第362号住居跡出土遺物観察表（第149図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2173	須恵器	坏	[13.4]	3.7	7.0	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部ヘラ切り	床面	30%
2174	土師器	甕	[18.2]	(5.1)	－	石英･長石･雲母	にぶい黄褐	普通	体部内面ナデ	床面	5％
2175	土師器	甕	[19.4]	(5.5)	－	石英･長石･雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ナデ	床面	5％

第363号住居跡（第150～152図）

位置　西部４区中央部のＢ３ｊ0 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3742号土坑，第74号溝に掘り込まれている。



第150図　第363号住居跡実測図

規模と形状　東壁の北部から北壁にかけてほとんど残存していない。確認された範囲は，東西軸4.40m，南北軸3.38mで，平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はN－80°－Eである。壁高は20～22cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が残存している壁下を周回しており，断面形はU字状である。

竈　東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで117cm，袖部幅124cmである。袖部は，掘り残した地山を基部とし，甕を心材として粘土を積み重ねて構築されている。火床部は床面を14cmほど楕円形状に掘りくぼめており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形状に47cmほど掘り込まれ，粘土を貼り付けて構築されている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子中量
2　褐　　色　焼土粒子中量，ロームブロック・粘土ブロック少量
3　暗　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量
5　明　褐　色　ロームブロック少量
6　明　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量
7　黄　褐　色　砂質粘土ブロック中量，ローム粒子少量
8　暗灰黄色　ロームブロック中量
9　オリーブ褐色　粘土ブロック多量
10　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
11　極暗褐色　ロームブロック少量
12　褐　　色　焼土粒子中量，ロームブロック少量
13　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
14　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
15　極暗赤褐色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量

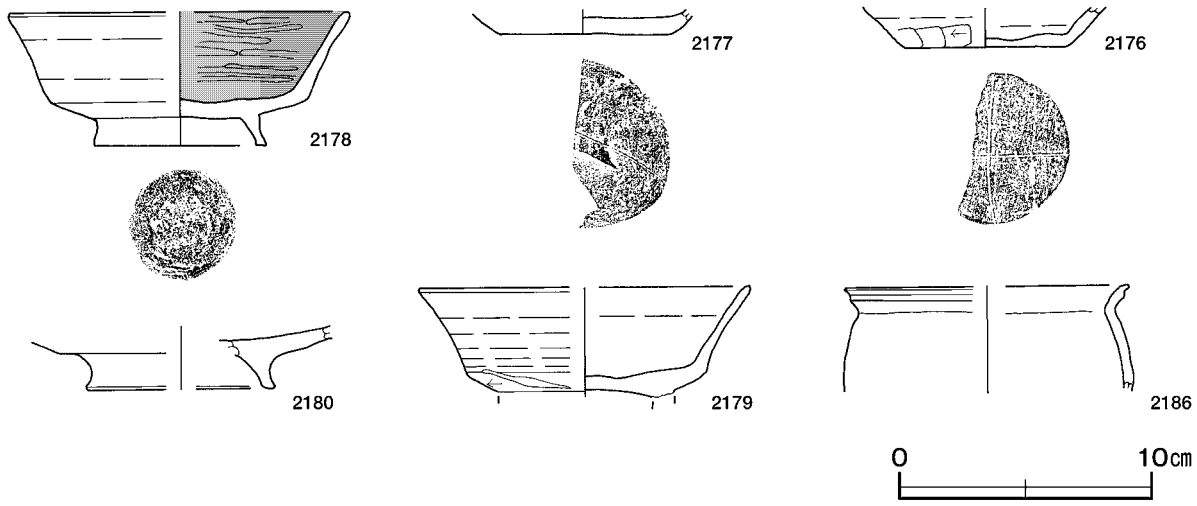
覆土　６層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

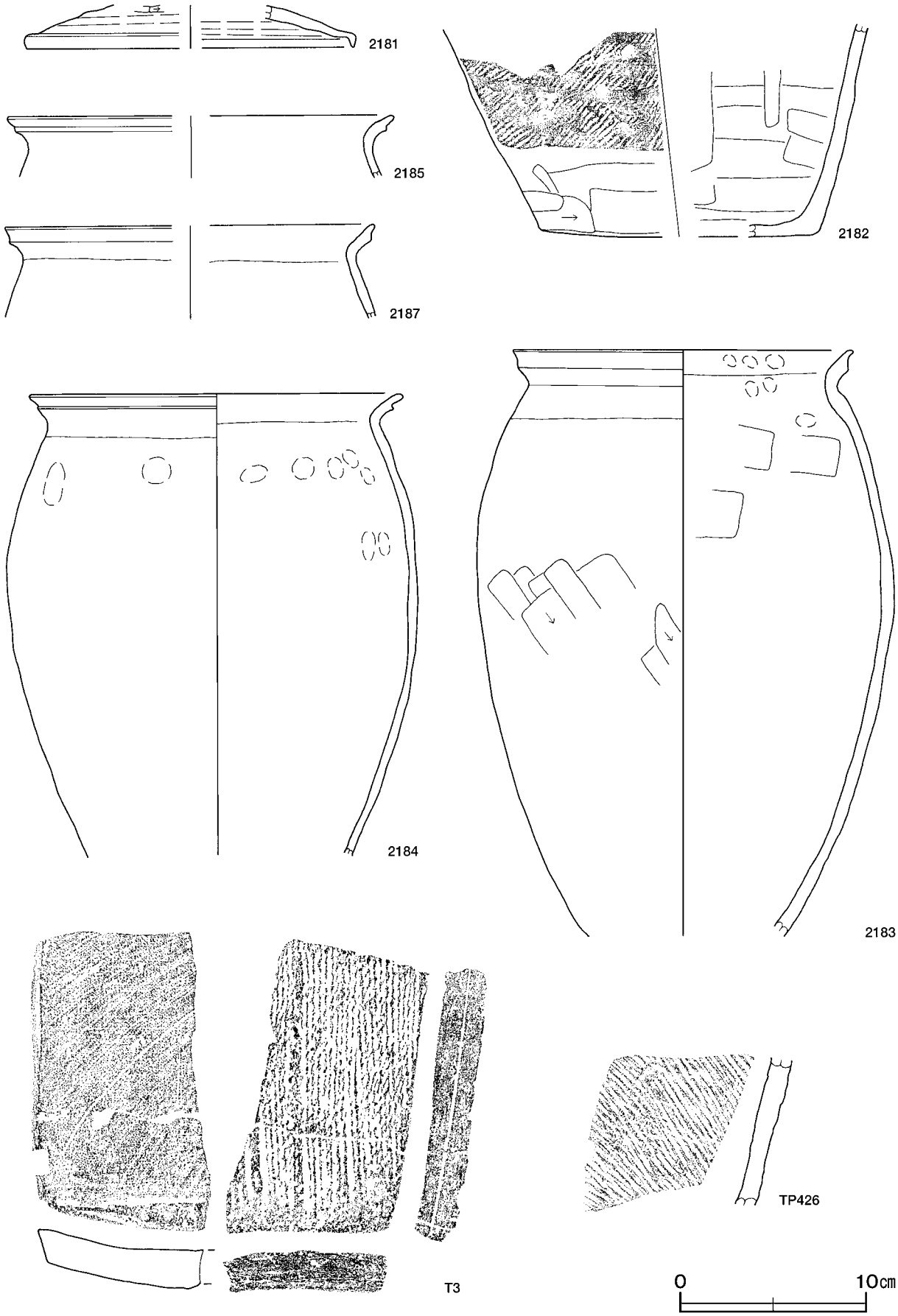
1　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック微量
2　極暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘土ブロック少量
4　褐　　色　焼土粒子中量，ロームブロック・粘土ブロック少量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
6　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片322点（坏５，高台付坏１，甕316），須恵器片28点（坏22，高台付坏２，蓋１，鉢１，甕２），瓦片１点，中礫１点が，全域から散在するように出土している。また，流れ込んだ弥生土器片３点も出土している。2179は中央部の床面，2181は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。2178は土師器で，須恵器の技法を模倣して作成されたものと考えられる。2183・2184は竈の袖から逆位で出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉と考えられる。



第151図　第363号住居跡出土遺物実測図(1)



第152図　第363号住居跡出土遺物実測図(2)

第363号住居跡出土遺物観察表（第151・152図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2176	須恵器	坏	－	(1.6)	6.4	石英･長石･雲母･赤色粒子	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り	床面	10% ヘラ記号「＋」
2177	須恵器	坏	－	(1.1)	7.0	石英・長石	灰	普通	底部ヘラ切り	覆土下層	５% ヘラ記号「－」
2178	土師器	高台付坏	[5.4]	5.4	6.8	石英･長石･雲母	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後高台貼付け	竈内	50%
2179	須恵器	高台付坏	[3.2]	(4.4)	－	石英・長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	床面	40%
2180	須恵器	高台付坏	－	(2.4)	[7.4]	石英・長石・赤色粒子	灰白	普通	高台貼付け	竈内	20%
2181	須恵器	蓋	[17.6]	(2.3)	－	長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	10%
2182	須恵器	鉢	－	(11.4)	[15.0]	石英･長石･雲母	灰黄褐色	普通	内面ヘラナデ　体部外面斜位の叩き	床面	30%
2183	土師器	甕	18.3	(31.6)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　内面ヘラナデ 内面に指頭痕	竈内	60%　PL80
2184	土師器	甕	19.7	(24.9)	－	石英･長石･雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面に指頭痕	竈内	50%　PL81
2185	土師器	甕	[20.8]	(3.3)	－	石英・長石	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	床面	５%
2186	土師器	甕	[11.2]	(4.2)	－	石英･長石･雲母	黒褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	竈内	５%
2187	土師器	甕	[19.8]	(5.0)	－	石英･長石･雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	床面	５%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP426	須恵器	甕	石英・長石	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き	覆土下層	PL83

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	色調	特徴	出土位置	備考
Ｔ３	平瓦	16.4	(8.9)	2.0	(474.0)	灰白	凸面縄目の叩き　凹面布目痕　端縁面取り	覆土下層	

第364号住居跡（第153図）

位置　西部４区中央部のＢ３ｊ８区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第368・372号住居跡を掘り込み，第128号井戸に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.95m，短軸3.71mの方形で，主軸方向はＮ－32°－Ｗである。壁高は８～10cmで，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が北西コーナー部から南壁にかけて一部確認されており，断面形はＵ字状である。

竈　北壁中央部の西寄りに付設されており，掘り方だけが確認された。掘り方の規模は焚口部から煙道部まで104cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで浅い皿状を呈しており，火床面の赤変した部分は確認されなかった。煙道部は壁外へ三角形状に59cmほど掘り込まれており，緩やかに立ち上がっている。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ32～51cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ４は深さ12cmで，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ５は深さ21cmで性格不明である。

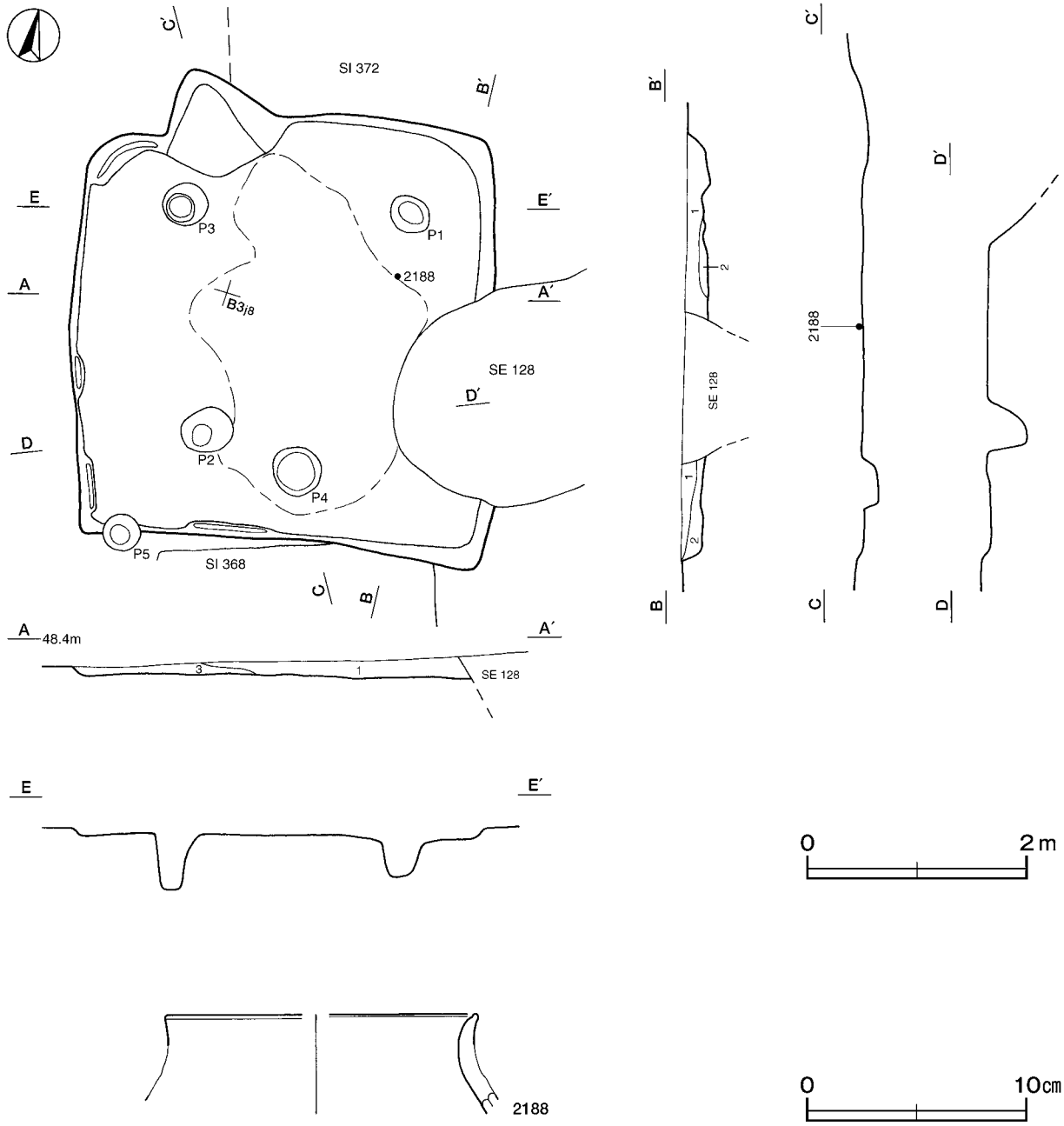
覆土　３層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片222点（坏９，高台付椀２，甕210，甑１），須恵器片15点（坏９，高台付坏１，蓋１，甕４），土製品１点（支脚），中礫７点が，全域に散在するように覆土下層から出土している。また，流れ込んだ弥生土器片６点，鉄滓１点，土師質土器片２点（内耳鍋）も出土している。2188はP1 南部の床面から出土している。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から９世紀後半と考えられる。



第153図　第364号住居跡・出土遺物実測図

第364号住居跡出土遺物観察表（第153図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2188	土師器	甕	[14.1]	(4.5)	－	雲母・赤色粒子・白色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	床面	5％

第365号住居跡（第154・155図）

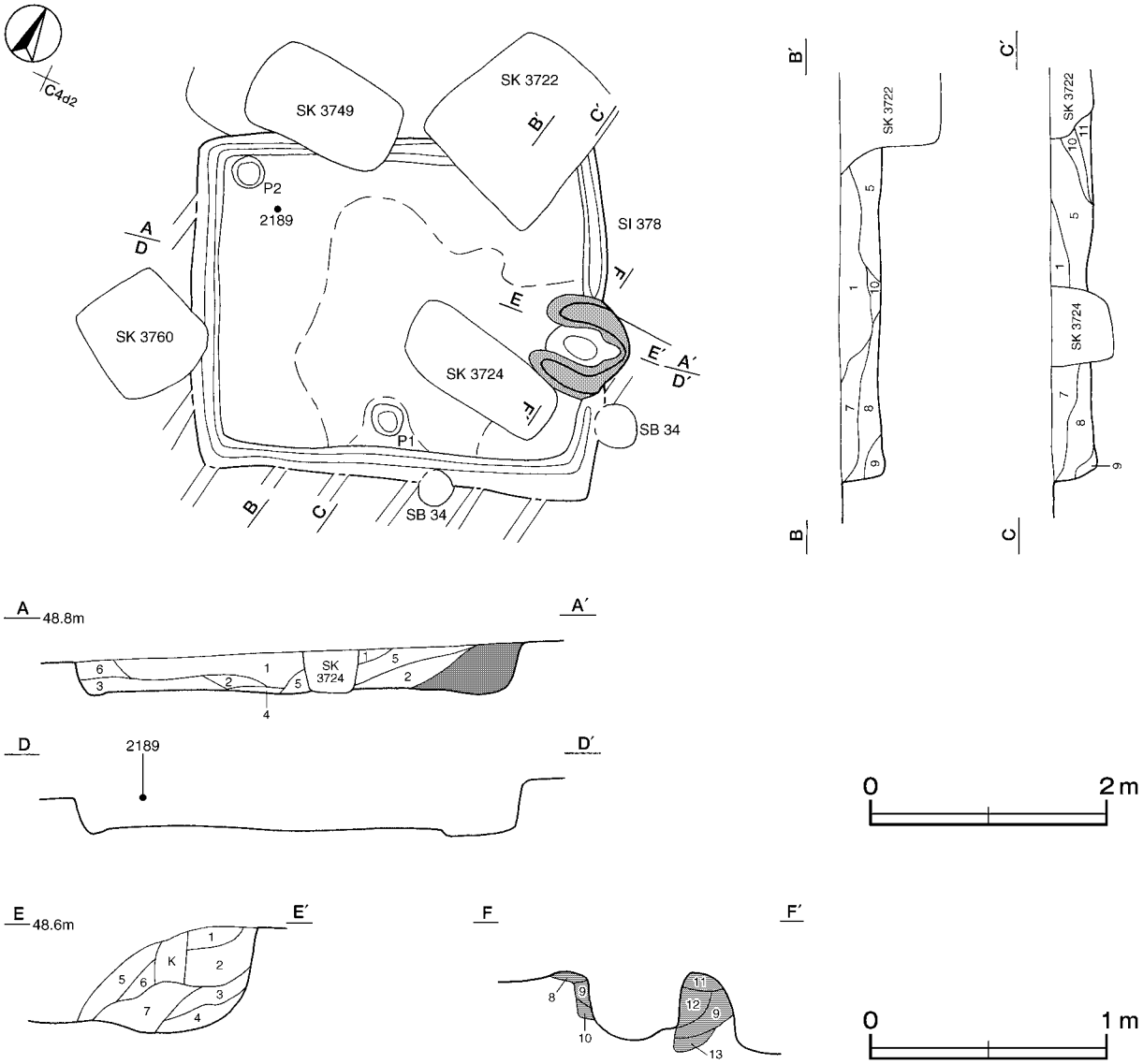
位置　西部４区中央部のＣ４d2 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第378号住居跡を掘り込み，第3722・3724・3749・3760号土坑，第34号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.50m，短軸2.92mの長方形で，主軸方向はＮ－70°－Ｅである。壁高は28～36cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部，出入り口ピットにかけて踏み固められている。壁溝が全周しており，断面形はＵ字状である。

竈　東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで66cm，袖部幅89cmである。袖部は掘り残した地山に砂質粘土を積み重ねて構築されている。火床部は床面を５cmほど楕円形に掘りくぼめられており，火床面の赤変した部分は確認できなかった。煙道部は壁外へ三角形状に18cmほど掘り込まれ，火床部よりほぼ直立して立ち上がっている。



第154図　第365号住居跡実測図

竈土層解説

1　褐　　色　粘土ブロック・ロームブロック少量
2　にぶい黄褐色　粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量
3　にぶい赤褐色　粘土ブロック中量，ロームブロック少量
4　にぶい赤褐色　灰中量，ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
6　褐　　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量
7　にぶい黄褐色　粘土ブロック多量，焼土ブロック中量
8　極暗褐色　粘土ブロック中量
9　灰　黄　色　粘土ブロック多量
10　灰黄褐色　粘土ブロック中量
11　暗　褐　色　ローム粒子少量
12　灰　褐　色　粘土ブロック中量
13　灰黄褐色　ロームブロック中量

ピット　２か所。P1は深さ30cmで，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ11cmで，性格は不明である。

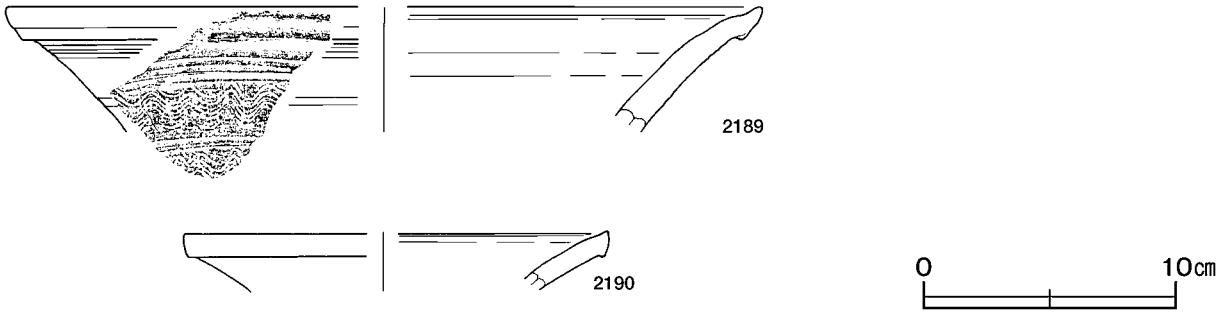
覆土　11層に分層される。焼土粒子・ロームブロックが不規則に含まれた堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
5　極暗褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量
6　極暗褐色　ロームブロック中量
7　黒　褐　色　ロームブロック中量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量
9　褐　　色　ロームブロック中量
10　黒　褐　色　ロームブロック少量
11　極暗褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片158点（坏42，高台付椀１，甕115），須恵器片７点（坏３，甕４），中礫10点が覆土中層から下層にかけて全域に散在するように出土しており，ほとんどが細片である。また，流れ込んだ弥生土器片５点も出土している。2189は，西コーナー部の覆土上層から出土している。

所見　時期は，重複関係及び出土土器，遺構の形態から９世紀後半と考えられる。



第155図　第365号住居跡出土遺物実測図

第365号住居跡出土遺物観察表（第155図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2189	須恵器	甕	[30.0]	(4.9)	－	石英・長石	黄灰	普通	口縁部７条１単位の櫛歯状工具による波状文	覆土上層	５％
2190	須恵器	甕	[16.7]	(2.2)	－	石英・雲母	灰白	普通	ロクロナデ	覆土中	５％

第366号住居跡（第156・157図）

位置　西部４区中央部のＢ４ｊ2区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3743号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北東部が調査区域外に延びているため，規模や平面形は明確ではない。確認された範囲は，長軸3.85m，短軸3.41mで，平面形は長方形と推定され，主軸方向はN－７°－Wである。壁高は20～38cmで，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が南東コーナー部から北壁を周回しており，断面形はU字状である。

ピット　２か所。P1 は深さ14㎝で，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2 は深さ13㎝で，性格は不明である。

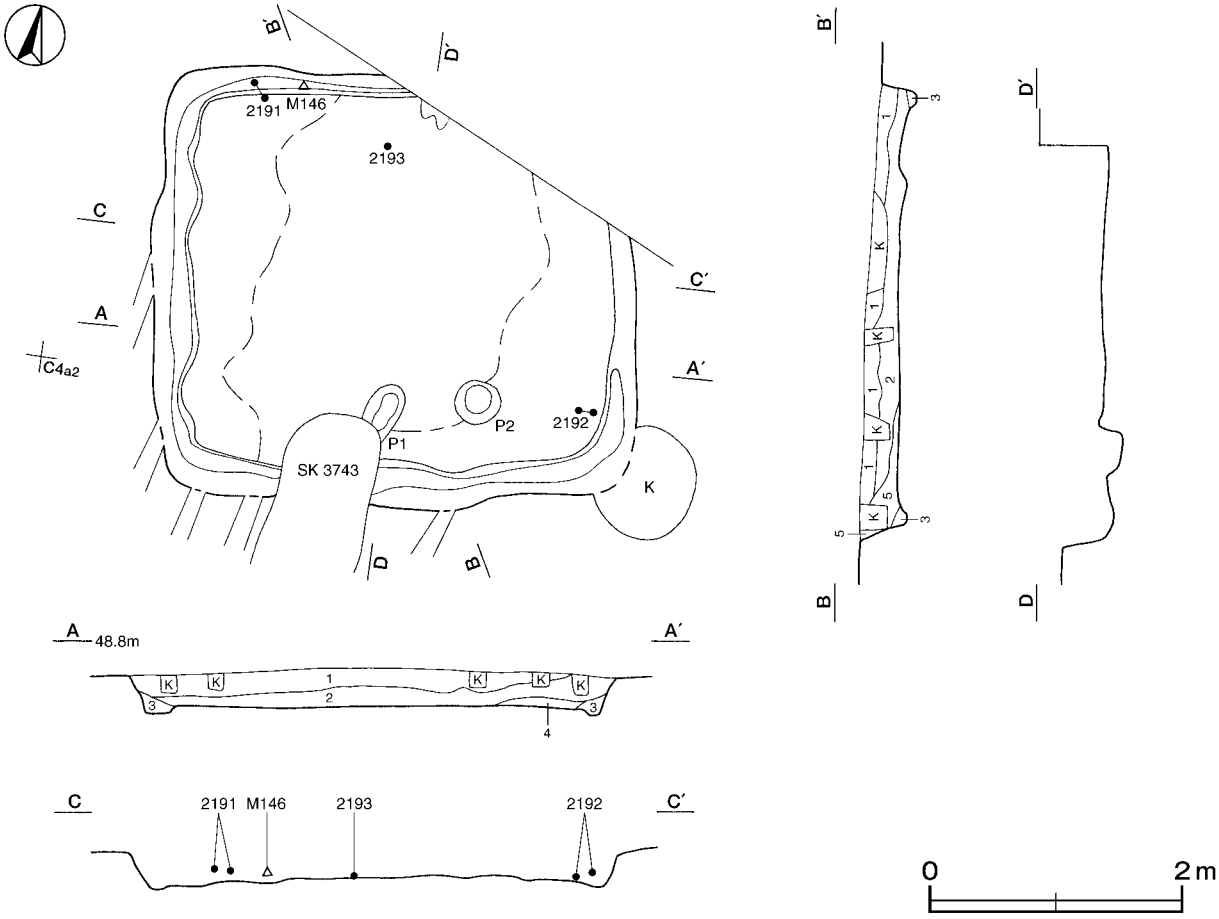
覆土　５層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

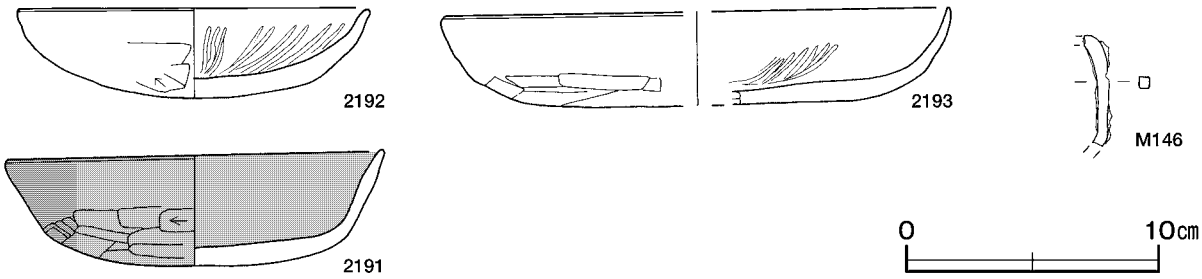
1　極暗褐色　ロームブロック少量
2　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
5　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片220点（坏66，甕154），須恵器片10点（坏５，蓋２，甕３），灰釉陶器片１点（蓋），鉄製品８点（刀子１，不明７），中礫７点が，南部と北部の覆土中層から下層にかけて出土している。2193は北部の床面から出土している。2191は北西コーナー部，2192は南東コーナー部の覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第156図　第366号住居跡実測図



第157図　第366号住居跡出土遺物実測図

第366号住居跡出土遺物観察表（第157図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2191	土師器	坏	14.8	4.5	6.0	石英・長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	70%　PL72
2192	土師器	坏	13.8	3.6	－	石英・長石・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　内面ヘラ磨き 外面ヘラ削り	覆土下層	60%　PL72
2193	土師器	坏	[18.0]	3.7	[10.0]	石英･長石･雲母	赤褐	普通	内面放射状のヘラ磨き	床面	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M146	釘	(4.4)	1.0	0.5	(2.86)	鉄	断面方形　棒状　上・下欠損	覆土下層	PL90

第370号住居跡（第158・159図）

位置　西部４区中央部のＣ４b4 区で，標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第380号住居跡を掘り込み，第3766号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.50m，短軸3.04mの長方形で，主軸方向はN－25°－Wである。壁高は21～34cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が南西壁下に確認されており，断面形はU字状を呈している。西部は貼床で，ローム土を混ぜた極暗褐色土で構築されている。

竈　北壁の中央部に付設されている。左袖部の一部が残存しており，暗褐色土で構築されている。

竈土層解説

1　極暗褐色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量
3　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
4　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量，粘土粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

ピット　５か所。P1 ～P3 は深さ12～31cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P4 は深さ28cmで，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P5 は深さ15cmで，性格は不明である。

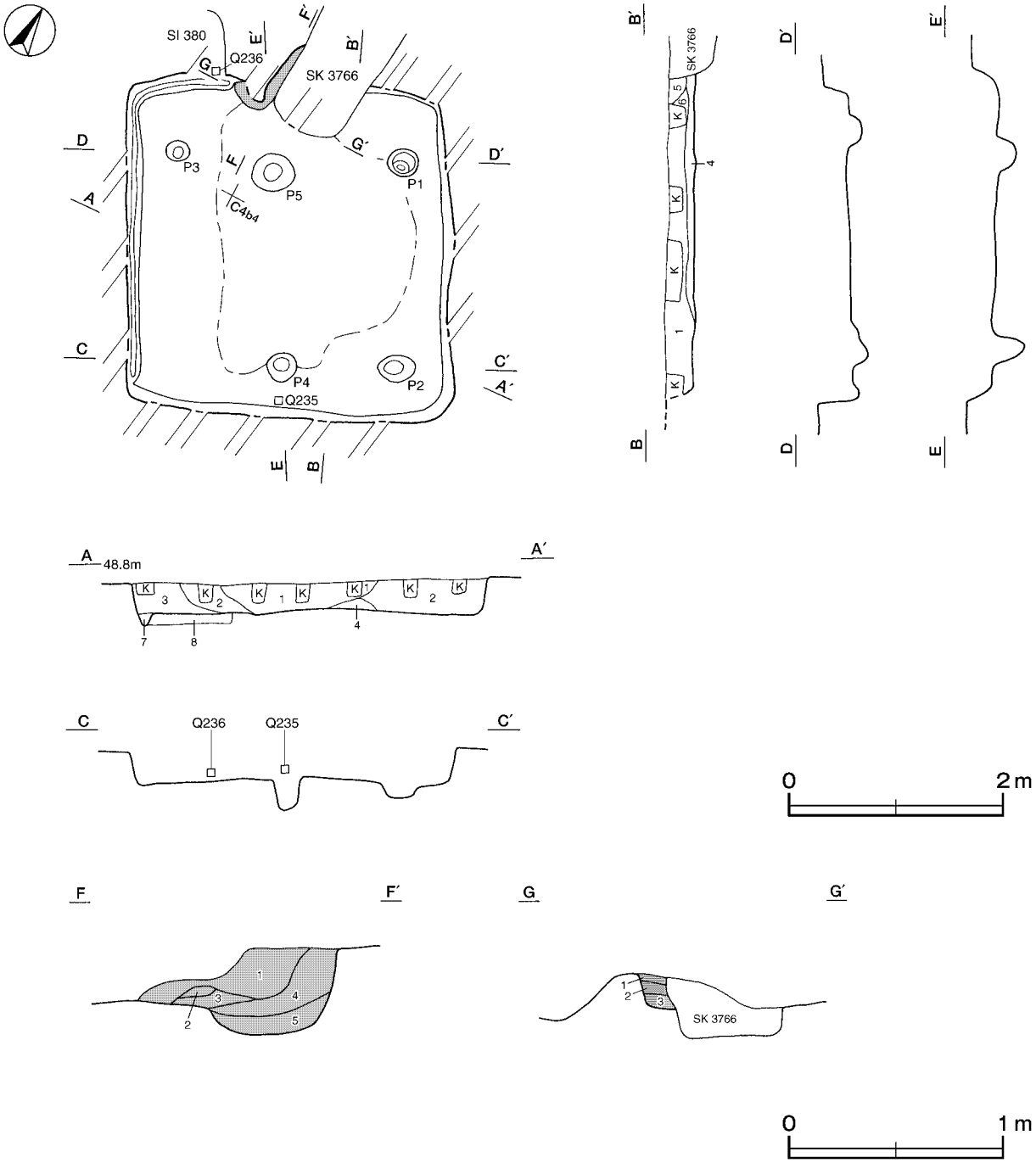
覆土　８層に分層される。ブロック状に不規則な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。第８層は貼床の土層である。

土層解説

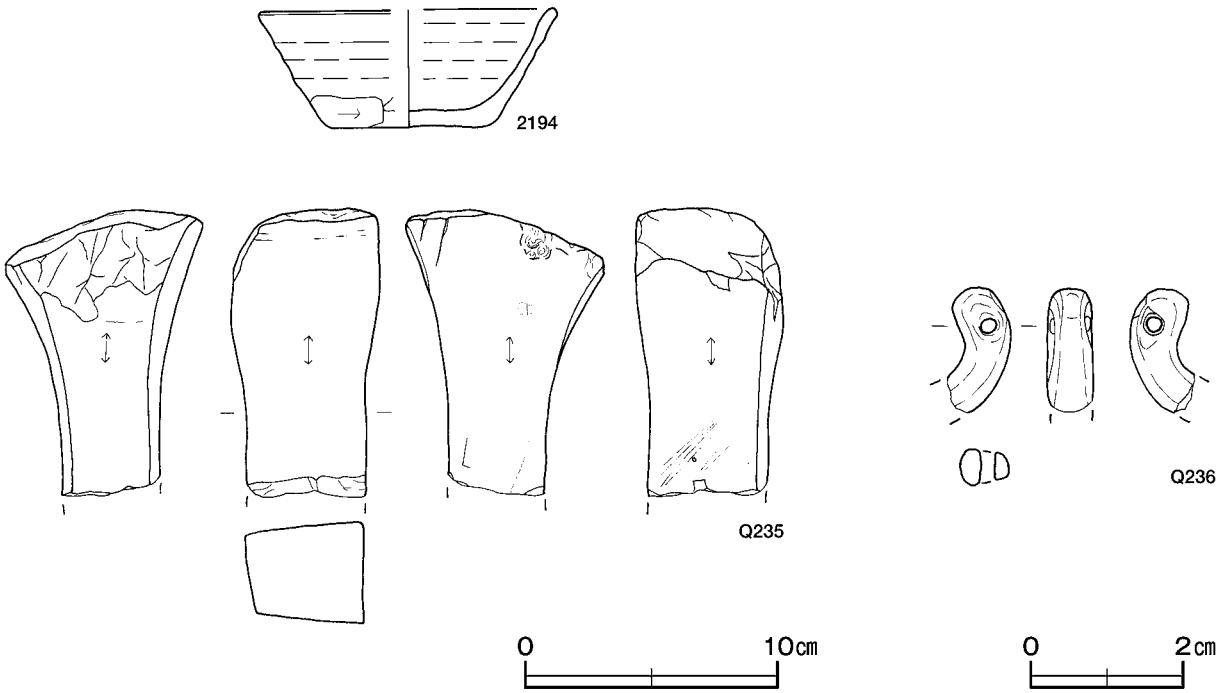
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量
5　黒　褐　色　ローム粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量
7　極暗褐色　ローム粒子少量
8　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片74点（坏11，甕63），須恵器片４点（坏），石器１点（砥石）が，全域に散在するように覆土下層から出土しており，ほとんどが細片である。また，流れ込んだ弥生土器片３点，土師器片２点（高坏），石製品１点（勾玉），陶器片１点（香炉）も出土している。2194は南東コーナー部の覆土中から出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から９世紀前半と考えられる。



第158図　第370号住居跡実測図



第159図　第370号住居跡出土遺物実測図

第370号住居跡出土遺物観察表（第159図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2194	須恵器	坏	[11.6]	4.7	6.1	長石・雲母	灰	普通	体部外面下端ヘラ削り	覆土中	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q235	砥石	(11.3)	5.9	4.0	(531.0)	雲母片岩	砥面４面擦痕有	覆土下層	PL87

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q236	勾玉	(1.62)	0.24	0.59	(0.98)	ガラスｶ	Ｃ字状　全面丁寧な研磨	覆土下層	PL89

第371号住居跡（第160・161図）

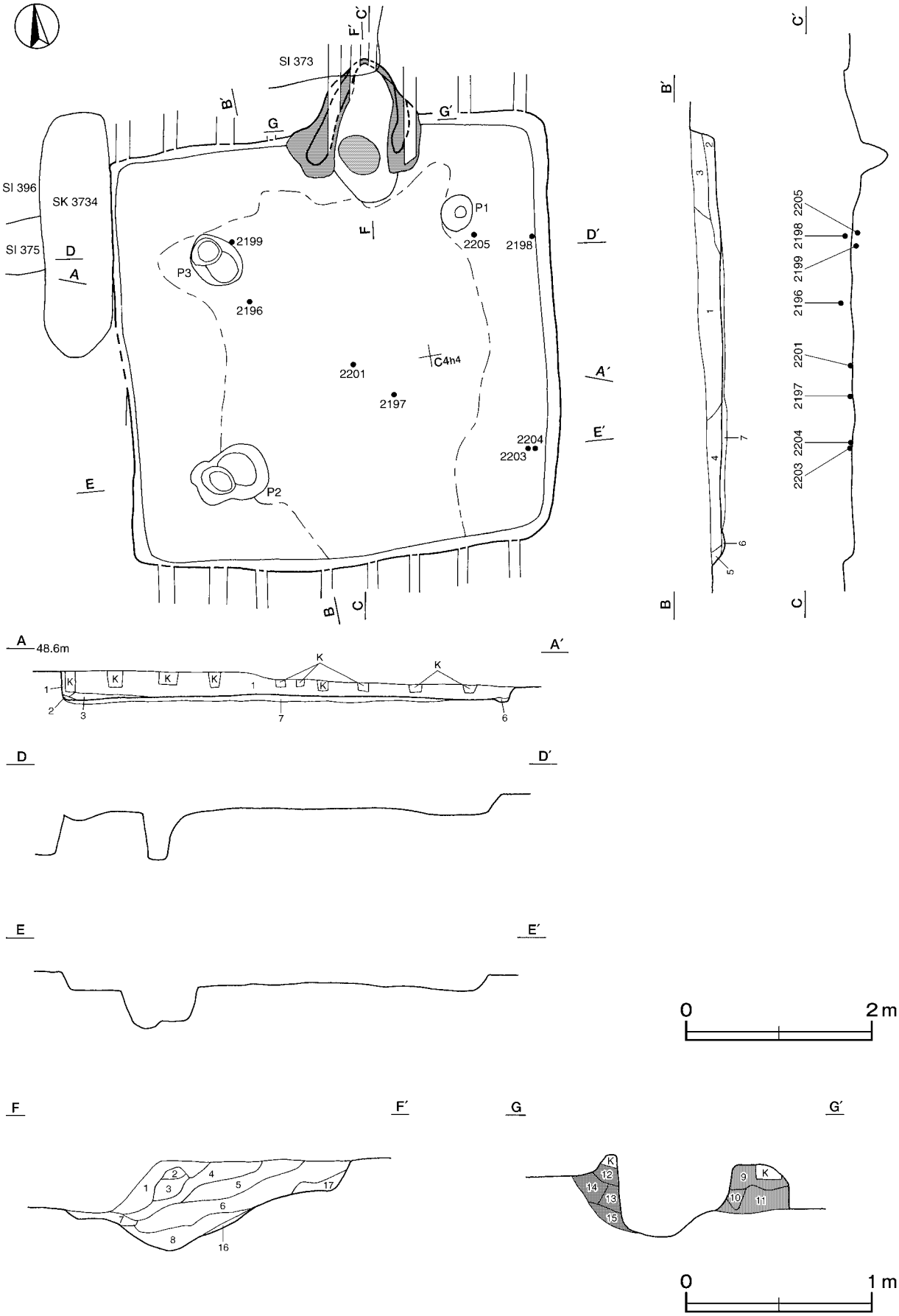
位置　西部４区中央部のＣ４g3 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第375・389・396号住居跡を掘り込み，第373号住居，第3734号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.64m，短軸4.51mの方形で，主軸方向はN－８°－Eである。壁高は11～25cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。貼床は，第389号住居跡の覆土の上にローム土や粘土ブロックを混ぜた土で構築されている。

竈　北壁の中央部東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで156cm，袖部幅147cmである。袖部は床面と同じ高さを基部として，砂質粘土で構築されている。火床部は床面を円形に23cmほど掘りくぼめており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ69cmほど掘り込まれ，火床部より緩やかに立ち上がっている。煙道部には少量の粘土が貼付けられている。



第160図　第371号住居跡実測図

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子微量
4　黒　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック微量
5　暗　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
6　暗赤褐色　焼土粒子中量，ロームブロック微量
7　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
8　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
9　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
10　灰　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量
11　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
12　暗赤褐色　焼土粒子少量
13　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子微量
14　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量
15　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，粘土粒子微量
16　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子少量，ロームブロック微量
17　褐　　色　ロームブロック微量

ピット　３か所。P1 ～ P3 は深さ30～50㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。

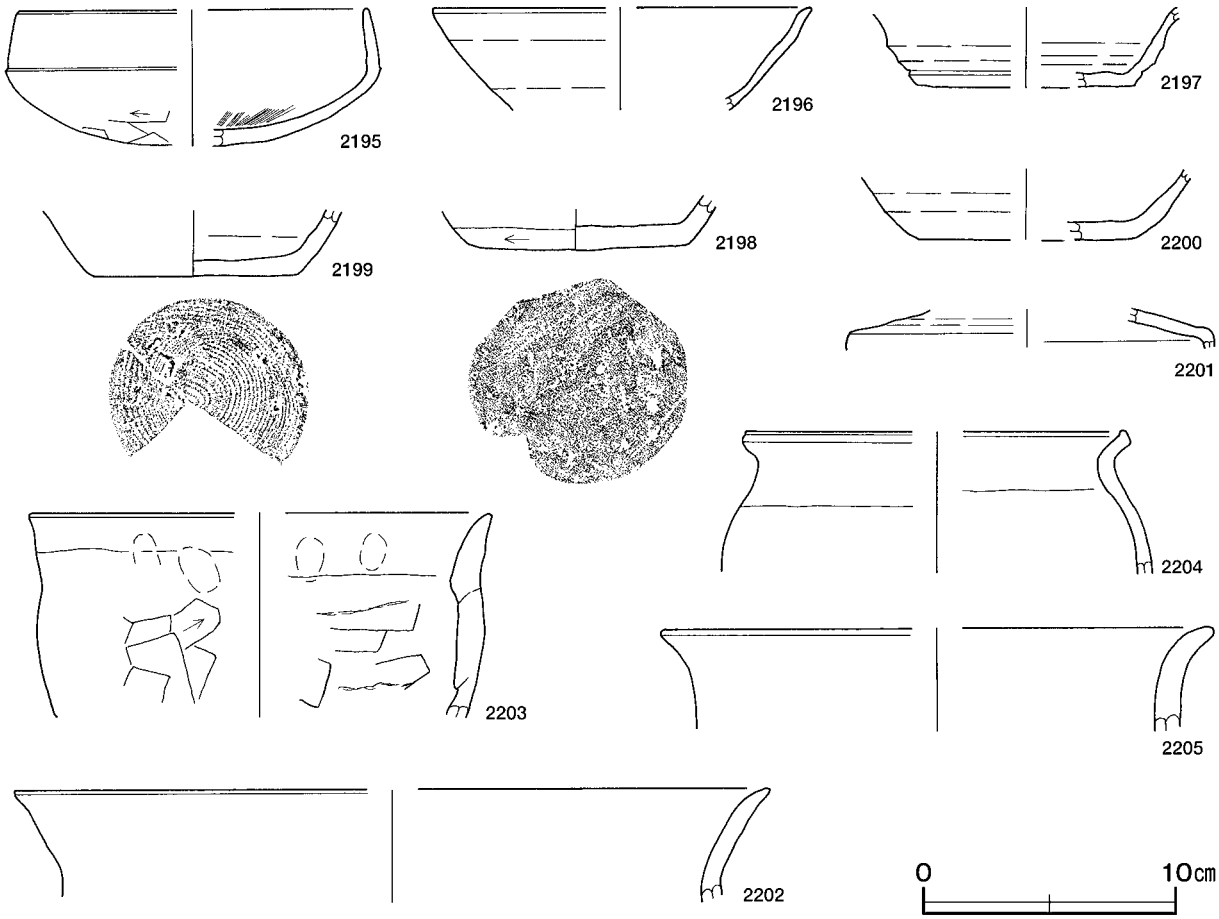
覆土　７層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。第７層は貼床の構築土である。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子少量
2　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　極暗褐色　ロームブロック少量
4　極暗褐色　焼土粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量
7　黒　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片584点（坏105，甕479），須恵器片114点（坏74，蓋６，甕34）が全域の覆土下層から床面にかけて出土している。また，流れ込んだ縄文土器片１点，弥生土器片10点，土師器片１点（高坏），瓦片１点，土師質土器片１点（内耳鍋），陶器片１点も出土している。2197・2201は中央部の床面，2205はP1南東部の床面，2199はP3 東部の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から８世紀後葉と考えられる。第389号住居跡とほぼ同じ範囲に確認されており，第389号住居跡を埋め戻して本住居を構築したと考えられる。



第161図　第371号住居跡出土遺物実測図

第371号住居跡出土遺物観察表（第161図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2195	土師器	坏	[13.8]	(5.4)	－	石英・白色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　内面ヘラ磨き　体部外面ヘラ削り	覆土中	30%
2196	須恵器	坏	[14.9]	(4.1)	－	石英･長石･白色粒子	灰	普通	ロクロナデ	覆土下層	10%
2197	須恵器	坏	－	(3.2)	[8.6]	石英･長石･雲母	灰白	普通	底部回転ヘラ切り	床面	10%新治産
2198	須恵器	坏	－	(1.6)	8.6	長石・雲母	黄灰	普通	底部多方向のヘラ削り	覆土下層	30%新治産
2199	須恵器	坏	－	(2.6)	8.0	石英・長石	灰	普通	底部回転糸切り	床面	20%
2200	須恵器	坏	－	(2.9)	[8.6]	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中	20%
2201	須恵器	蓋	－	(1.4)	－	石英・長石	灰	普通	ロクロナデ	床面	5％
2202	土師器	甕	[30.0]	(4.5)	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	5％
2203	土師器	甕	[18.3]	(8.1)	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り内面ヘラナデ	床面	5％
2204	土師器	甕	[15.0]	(5.6)	－	石英･長石･雲母	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	床面	5％
2205	土師器	甕	[21.4]	(4.2)	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	床面	5％

第373号住居跡（第162図）

位置　西部４区中央部のＣ４ｆ3 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第371・374・375・396号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸2.96m，短軸2.76mの方形で，主軸方向はＮ－94°－Ｅである。壁高は26～28cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，全面的に軟質である。

竈　東壁中央部の南寄りに付設されている。規模は袖部幅88cmで，焚口部から煙道部までが67cmと推定される。袖部は床面と同じ高さを基部として，砂質粘土で構築されている。両袖の中央部は浅くくぼんでおり，火床面の赤変した部分は認められなかった。煙道部は壁外へ半円形状に15cmほど掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック中量，粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
2　暗　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　粘土ブロック･ロームブロック･焼土ブロック微量
4　黒　褐　色　粘土ブロック中量,ローム粒子少量,焼土粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子中量,粘土ブロック･ロームブロック少量
6　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子中量

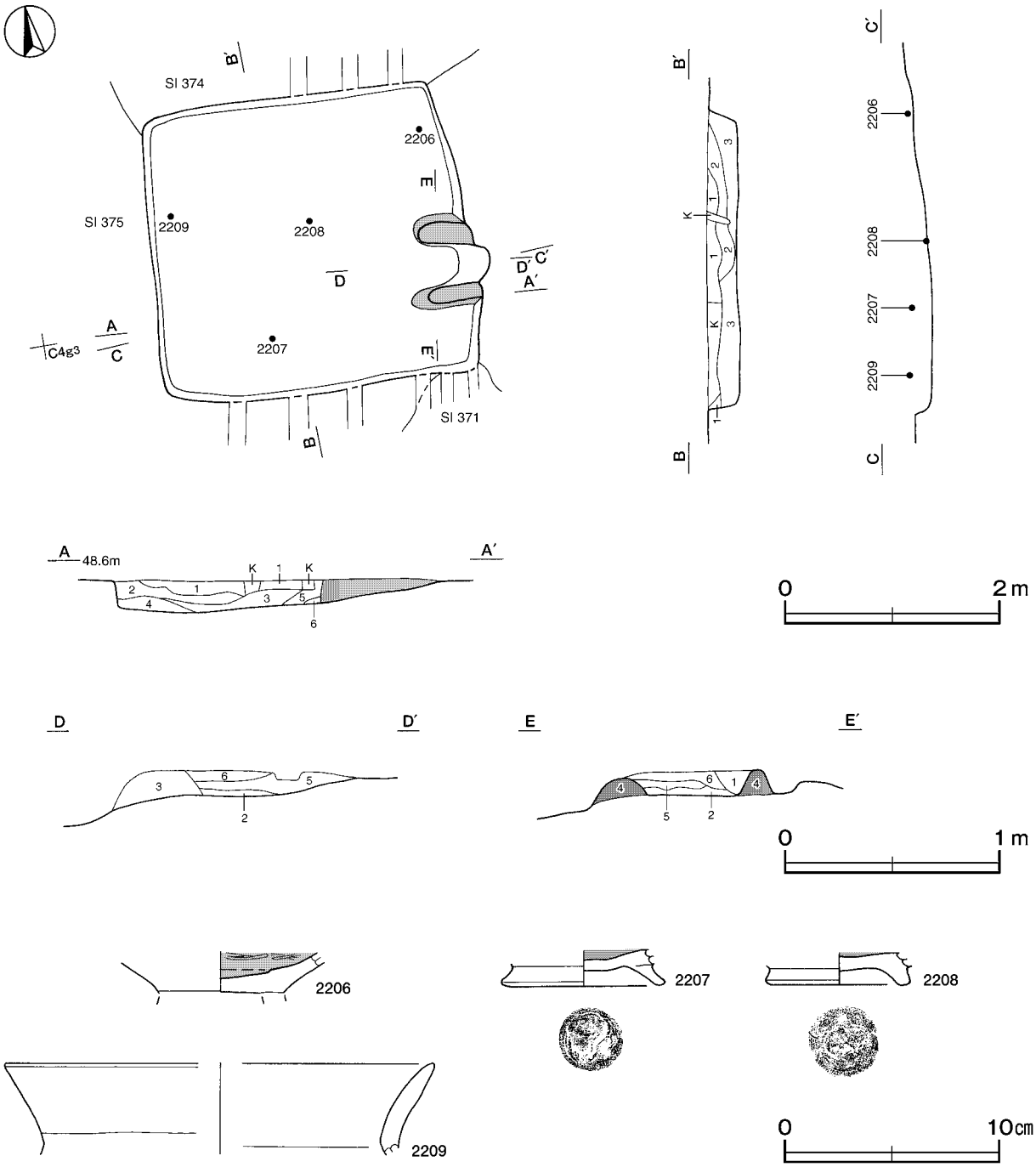
覆土　６層に分層される。ブロック状に不規則な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量
2　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
3　極暗褐色　ローム粒子多量，炭化物・焼土粒子少量
4　極暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
5　にぶい褐色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
6　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片252点（坏40，高台付椀４，甕208），須恵器片14点（坏６，蓋３，甕５）が全域の覆土下層から出土している。また，流れ込んだ弥生土器片18点，土師器片１点（高坏），陶器片１点（擂鉢）も出土している。2206は北東コーナー部の覆土下層から，2208は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から10世紀代と考えられる。



第162図　第373号住居跡・出土遺物実測図

第373号住居跡出土遺物観察表（第162図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2206	土師器	高台付椀	－	(1.9)	－	石英・長石	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　高台貼付け	覆土下層	10% 高台剥離
2207	土師器	高台付椀	－	(1.7)	7.6	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土上層	10%
2208	土師器	高台付椀	－	(1.5)	6.8	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	高台貼付け後ナデ	床面	10%
2209	土師器	甕	[20.0]	(4.3)	－	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土上層	5％

第374号住居跡（第163・164図）

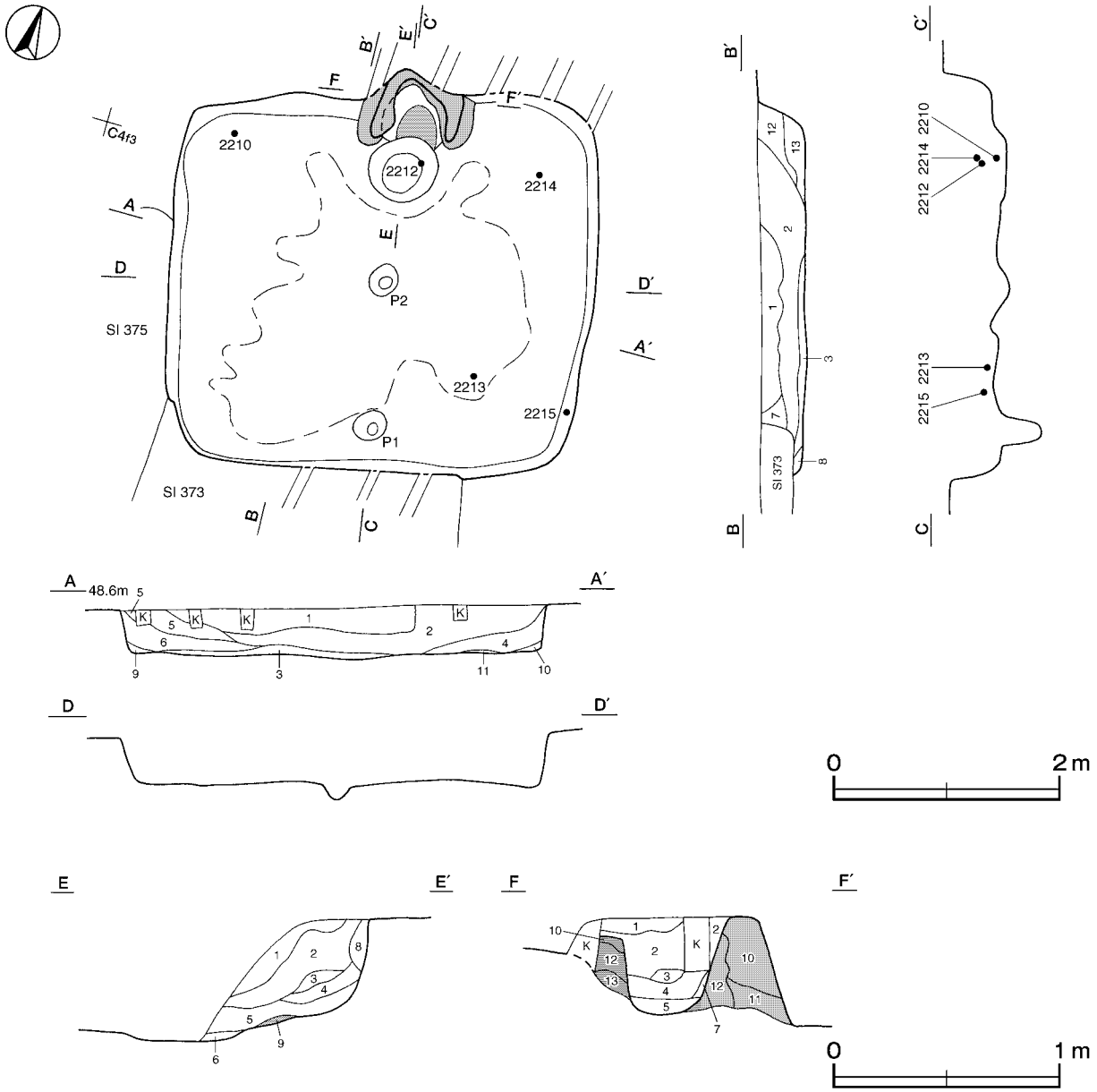
位置　西部４区中央部のＣ４ｅ3 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第375・396号住居跡を掘り込み，第373号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.78m，短軸3.36mの長方形で，主軸方向はＮ－15°－Ｗである。壁高は31～48㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで76㎝，袖部幅109㎝である。袖部は，掘り残した地山面を基部として粘土を積み重ねて構築されている。火床部は，床面と同じ高さの平坦な面を使用しており，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外へ半円形状に29㎝ほど掘り込まれ，粘土を貼り付けて構築されている。火床部と竈前面の床面は浅くくぼんでおり，灰の掃きだしの際にできたものと考えられる。



第163図　第374号住居跡実測図

竈土層解説

1　暗　褐　色　砂粒中量，ロームブロック・焼土粒子少量
2　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック多量，焼土粒子少量
3　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック中量，焼土粒子少量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，ロームブロック少量
5　橙　　色　砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　にぶい黄褐色　粘土ブロック中量，焼土粒子少量
8　にぶい黄褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量
9　赤　褐　色　焼土ブロック中量
10　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
11　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック中量
12　灰　黄　色　砂質粘土ブロック多量
13　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック多量

ピット　２か所。P1 は深さ34cmで，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2 は深さ26cmで，性格は不明である。

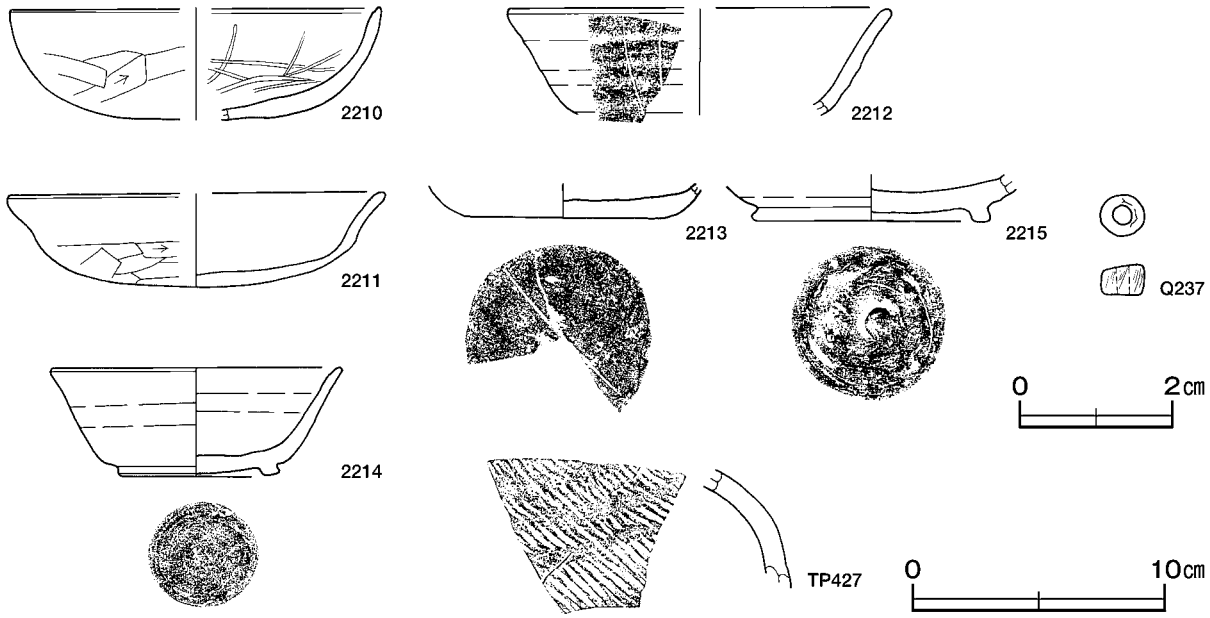
覆土　13層に分層される。ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロックが不規則に含まれた堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
4　極暗褐色　ローム粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック･焼土ブロック･粘土ブロック微量
6　黒　褐　色　ローム粒子･焼土粒子･炭化物･粘土ブロック微量
7　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量
8　黒　褐　色　ローム粒子少量
9　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック微量
10　黒　褐　色　ローム粒子微量
11　黒　褐　色　ロームブロック微量
12　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
13　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片486点（坏48，甕437，甑１），須恵器片26点（坏９，高台付坏２，蓋２，甕13），瓦片１点，中礫38点が，全域に散在するように覆土下層から出土している。また，流れ込んだ弥生土器片２点，土師器片１点（高坏），石製品１点（臼玉）も出土している。2210は北西コーナー部，2212は竈前面，2213は南東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。2215は東壁際から出土しており，高台の内側に墨の付着が確認されている。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉と考えられる。



第164図　第374号住居跡出土遺物実測図

第374号住居跡出土遺物観察表（第164図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2210	土師器	坏	[14.6]	(4.4)	－	石英・長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横ナデ　内面ヘラ磨き	覆土下層	15%
2211	土師器	坏	[14.8]	3.7	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中	15%
2212	須恵器	坏	[15.6]	(4.2)	－	長石	暗灰黄	普通	ロクロナデ	覆土下層	10% 刻書
2213	須恵器	坏	－	(1.5)	7.4	石英・長石・雲母	灰白	普通	ロクロナデ	覆土下層	20% ヘラ記号「ー」
2214	須恵器	高台付坏	11.4	4.4	6.3	石英・長石	黄灰	普通	ロクロナデ	覆土下層	80%　PL73
2215	須恵器	高台付坏	－	(1.9)	9.4	石英・長石	灰	普通	体部外面下端回転ヘラ削り	覆土下層	60%　PL73 硯転用

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP427	須恵器	甕	石英・長石	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き	覆土中	PL83

番号	器種	径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q237	臼玉	0.69	0.44	0.25	滑石	断面円筒状　全面研磨　孔径0.20㎝	覆土中	PL89

第377号住居跡（第165～167図）

位置　西部４区中央部のＣ４d1 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第376号住居跡を掘り込み，第3779号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.02m，短軸3.66mの方形で，主軸方向はＮ－10°－Ｅである。壁高は34㎝で，外傾して立ち上がっている。

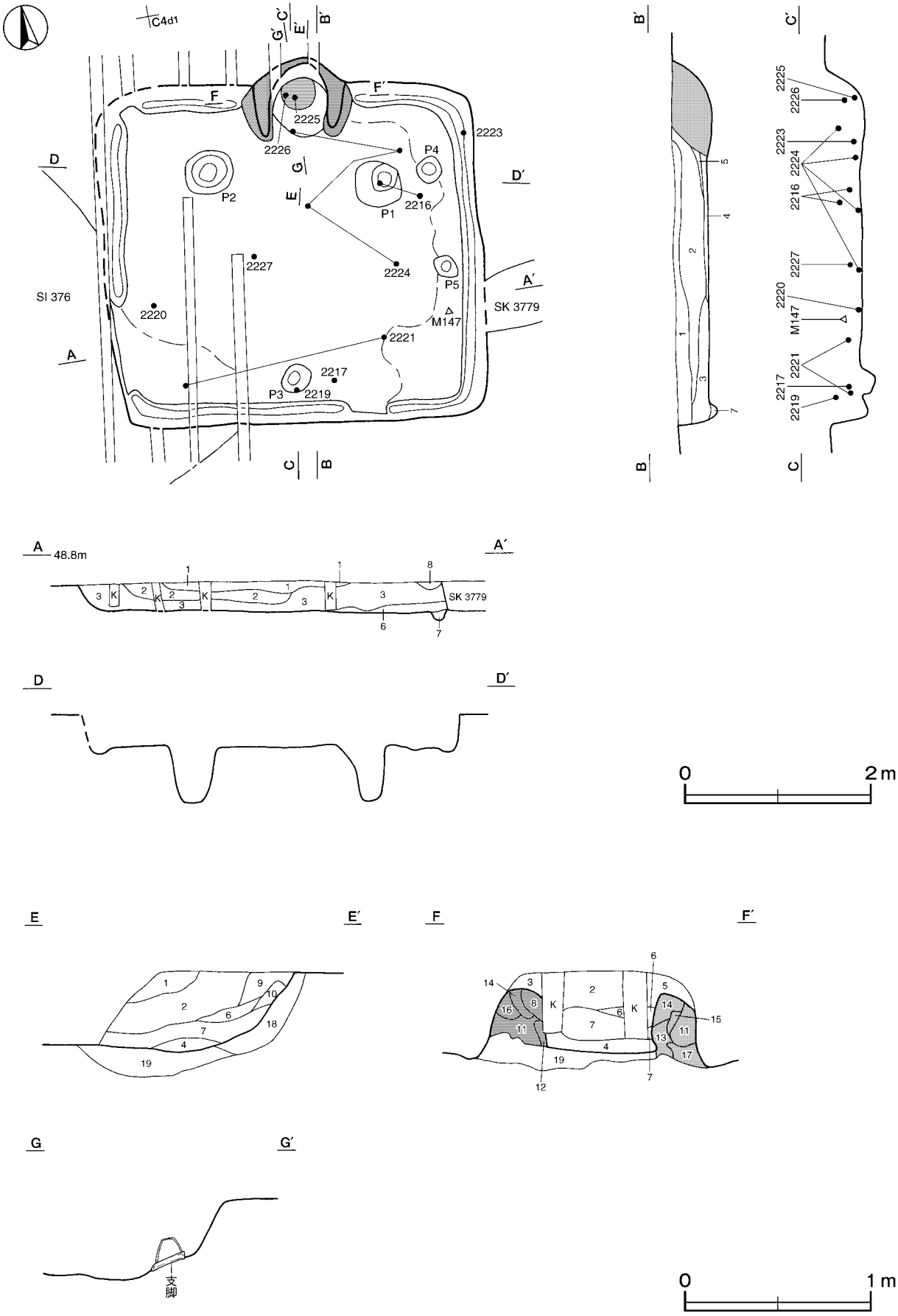
床　ほぼ平坦で，中央部が広い範囲で踏み固められている。壁溝がほぼ全周しており，断面形はU字状を呈している。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで88㎝，袖部幅119㎝である。袖部は床面と同じ高さを基部として，砂質粘土で構築されている。火床部は床面を円形に５㎝ほど掘りくぼめており，火床面及び内壁は火熱を受けて赤変硬化している。火床部には自然石が据えられており，火熱を受けていることから支脚として使用されたと考えられる。煙道部は壁外へ半円形状に25㎝ほど掘り込まれ，粘土を貼付けて構築されている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・粘土ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　極暗褐色　焼土ブロック・ローム粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量
6　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，砂質粘土ブロック中量
7　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，砂質粘土ブロック少量
8　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子少量
9　褐　　色　ローム粒子中量，焼土ブロック少量
10　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
11　灰　黄　色　砂質粘土ブロック多量
12　灰　黄　色　砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量
13　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量
14　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量
15　にぶい赤褐色　焼土粒子中量
16　暗　褐　色　ロームブロック少量
17　褐　　色　ロームブロック中量
18　褐　　色　ロームブロック・鹿沼パミス中量
19　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子微量

ピット　５か所。P1 ～P2 は深さ60㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。P3 は深さ13㎝で，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4 ・ P5 は深さ14㎝・24㎝で，性格は不明である。



第165図　第377号住居跡実測図

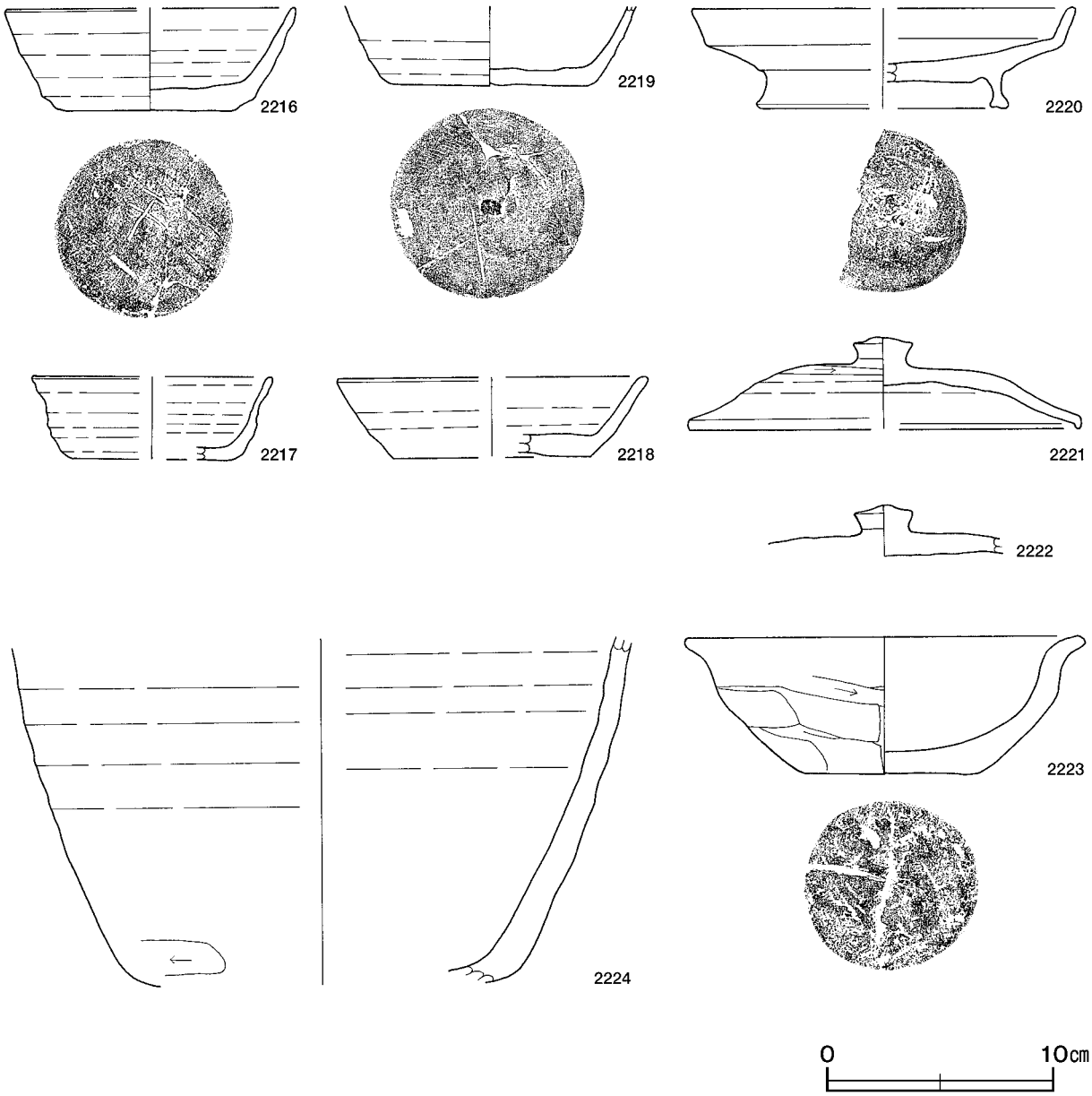
覆土　８層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

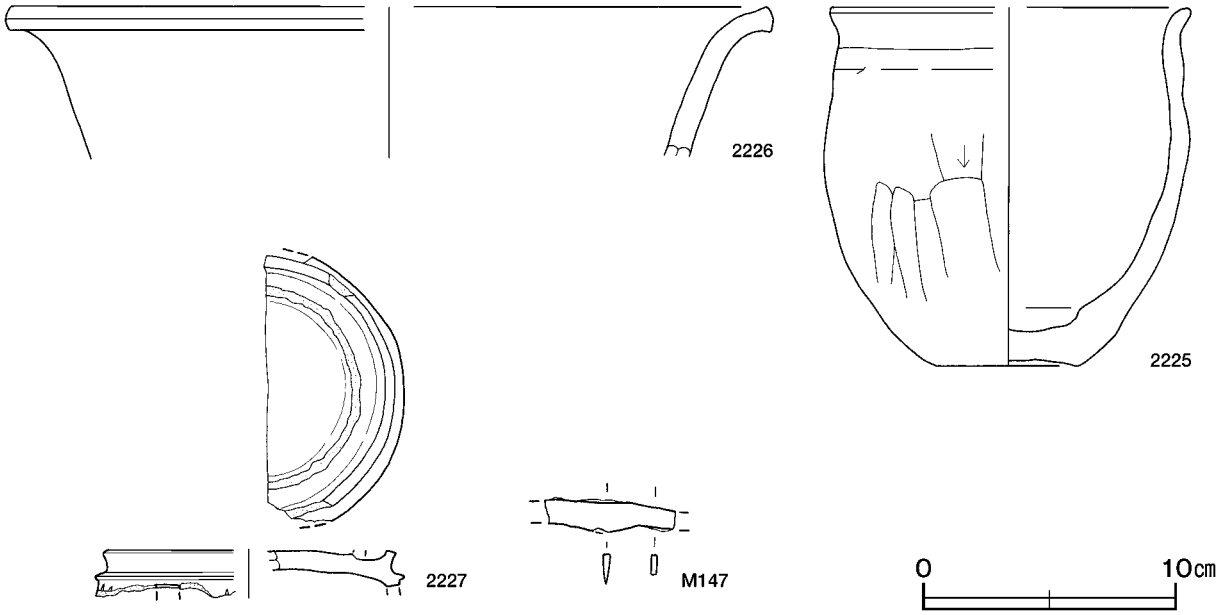
1	褐　色	ロームブロック中量	
2	暗褐色	ロームブロック中量	
3	暗褐色	ロームブロック多量	
4	褐　色	ロームブロック中量，砂質粘土少量	
5	暗褐色	ローム粒子中量	
6	褐　色	ローム粒子中量	
7	褐　色	ローム粒子多量	
8	褐　色	ロームブロック多量	

遺物出土状況　土師器片658点（坏100，高台付椀２，皿４，鉢１，甕549，甑２），須恵器片153点（坏117，盤１，蓋６，鉢４，甕25），石器１点（支脚），鉄製品２点（刀子１，釘１）が，全域の覆土中層から下層にかけて出土している。また，流れ込んだ弥生土器片８点，陶器片11点，羽口１点も出土している。2225・2226は竈内から，2220・2227は西部と中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。2224はＰ1 周辺の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉と考えられる。



第166図　第377号住居跡出土遺物実測図(1)



第167図　第377号住居跡出土遺物実測図(2)

第377号住居跡出土遺物観察表（第166・167図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2216	須恵器	坏	[12.8]	4.6	7.9	石英・長石	灰	普通	底部一方向のヘラ削り	覆土中層	70% PL74・82 ヘラ記号「十」
2217	須恵器	坏	[10.4]	3.7	[7.1]	石英・長石・雲母	灰	普通	体部外面下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り	覆土下層	20%
2218	須恵器	坏	[13.8]	3.5	[8.6]	石英・長石・雲母	灰	普通	底部不定方向のヘラ削り	覆土中	20%
2219	須恵器	坏	－	(3.6)	8.6	長石	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土上層	60% ヘラ記号「－」
2220	須恵器	盤	[16.8]	4.5	[10.9]	石英・長石・雲母	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土下層	30%　PL77 新治産
2221	須恵器	蓋	[17.3]	4.1	－	石英・長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	40%　PL77
2222	須恵器	蓋	－	(2.3)	－	石英・長石・黒色粒子	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10%
2223	土師器	鉢	17.3	6.2	7.8	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	90%　PL78
2224	須恵器	鉢	－	(15.4)	－	石英・長石・雲母	黄灰	普通	体部外面下端回転ヘラ削り	覆土下層	10%
2225	土師器	甕	[14.1]	14.2	5.6	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	竈内	60%　PL78
2226	須恵器	甕	[30.0]	(6.0)	－	石英・長石	灰	普通	ロクロナデ	竈内	5％
2227	須恵器	円面硯	[11.6]	(1.8)	－	石英・長石・雲母	黄灰	普通	縦方向の沈線　透かし有	覆土下層	10%　PL78

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M147	刀子	(5.3)	1.2	0.4	(5.00)	鉄	刀身部断面逆三角形　茎部断面方形　端部欠損	覆土中層	PL90

第380号住居跡（第168～170図）

位置　西部４区中央部のＣ４b3 区で，49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第378号住居跡を掘り込み，第370号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.68m，短軸5.04mの長方形で，主軸方向はN－27°－Wである。壁高は22～49㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦な貼床で，中央部が踏み固められており，P5の周囲にやや高まりがある。貼床は，主柱穴を取り囲むように掘り込み，ローム土を充填して構築している。壁溝が，断続して周回している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで119cmほど残存しており，袖部幅110cmである。袖部は掘り残した地山を基部として，砂質粘土を積み重ねて構築されている。右袖部の内側は，火熱を受けて赤変している。火床部は円形に10cmほど掘りくぼめられており，火床面の赤変した部分は確認されなかった。煙道部は壁外へ三角形状に60cmほど掘り込まれている。

竈土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック・焼土粒子少量
2	褐　　色	ローム粒子・焼土粒子少量
3	灰　褐　色	焼土粒子中量，砂質粘土・砂粒少量
4	にぶい褐色	砂質粘土中量，焼土粒子・砂粒少量，ロームブロック微量
5	暗　褐　色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，砂粒微量
6	灰　褐　色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子微量
7	黒　褐　色	ロームブロック微量
8	暗　褐　色	ローム粒子少量
9	黒　褐　色	ローム粒子微量
10	黒　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11	暗　褐　色	砂粒少量，ローム粒子微量
12	暗　褐　色	ロームブロック・焼土粒子少量
13	赤　褐　色	焼土粒子少量，ローム粒子微量
14	褐　　色	ロームブロック・砂質粘土少量
15	明　褐　色	砂質粘土多量，焼土ブロック中量
16	暗　褐　色	ロームブロック中量

ピット　5か所。P1～P4は深さ52～59cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さが44cmで，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

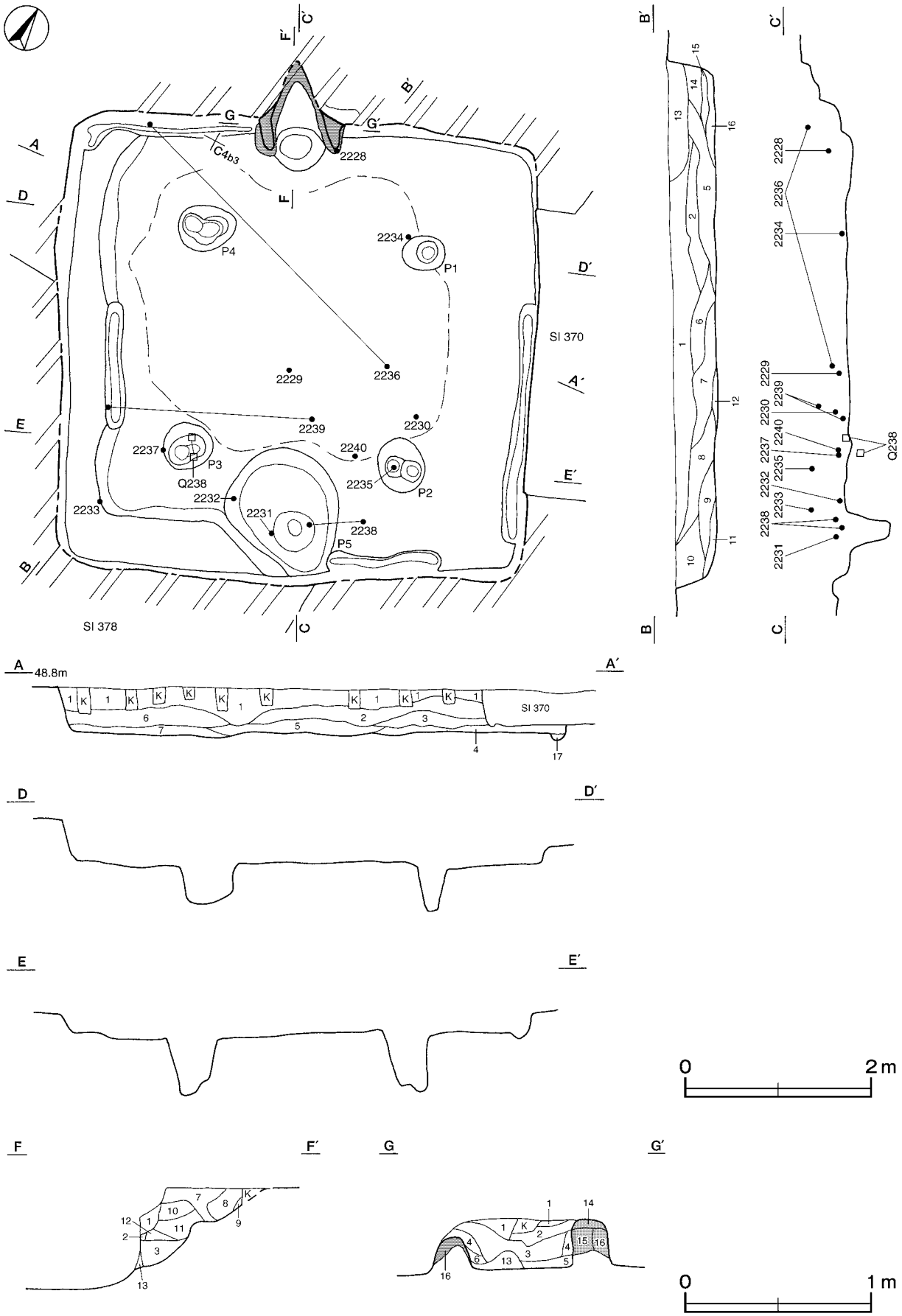
覆土　20層に分層される。上層は周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。また，下層はブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。第18から20層は貼床の構築土である。

土層解説

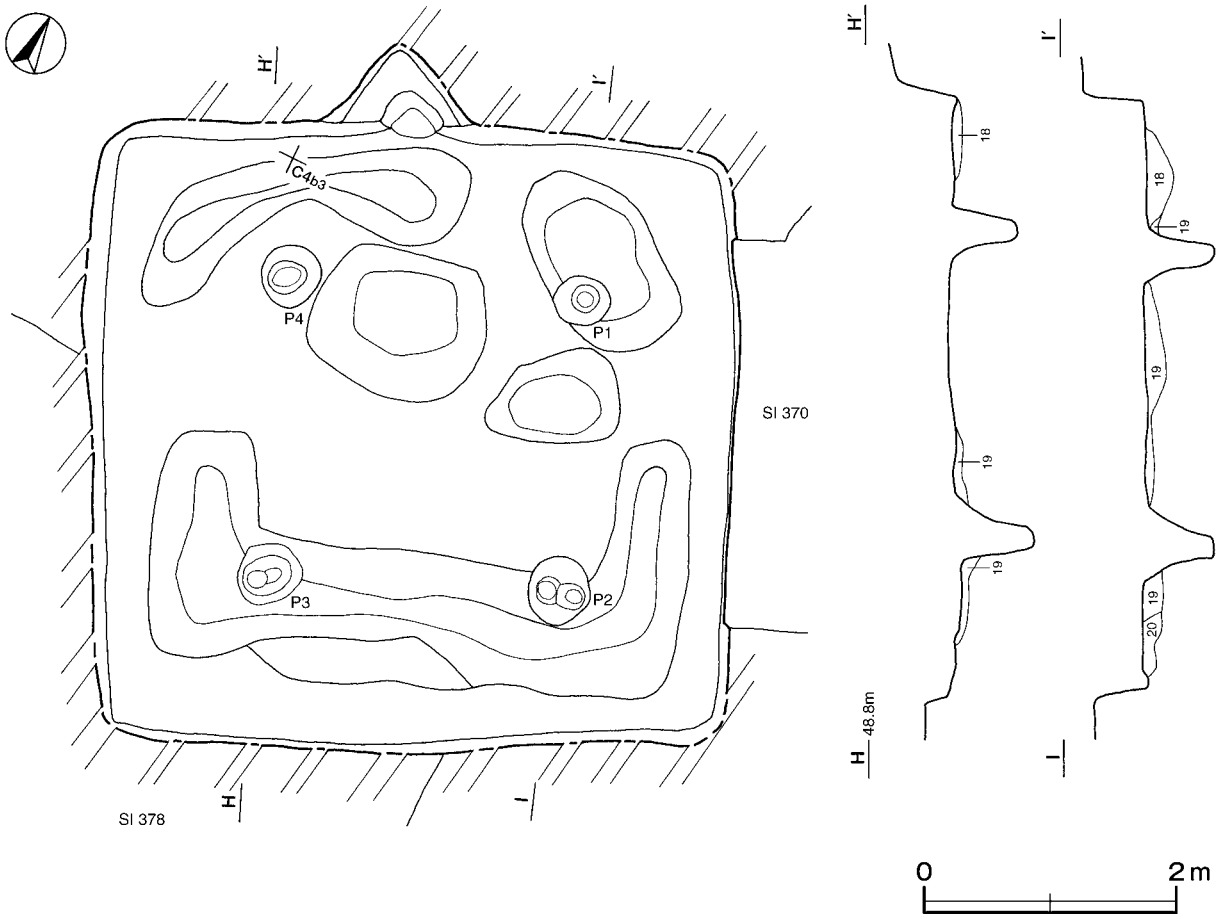
1	暗　褐　色	ローム粒子多量
2	暗　褐　色	ロームブロック多量
3	暗　褐　色	ロームブロック少量
4	褐　　色	ロームブロック・焼土ブロック少量
5	暗　褐　色	粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック少量
6	暗　褐　色	ローム粒子中量
7	暗　褐　色	ロームブロック中量
8	暗　褐　色	ローム粒子少量
9	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック中量
10	暗　褐　色	ロームブロック微量
11	暗　褐　色	ロームブロック多量，焼土粒子微量
12	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック少量
13	極暗褐色	ローム粒子多量，焼土ブロック微量
14	極暗褐色	ロームブロック中量,粘土ブロック･焼土粒子少量
15	極暗褐色	粘土ブロック中量，ロームブロック少量
16	暗　褐　色	ロームブロック中量，粘土ブロック少量
17	極暗褐色	ロームブロック中量
18	暗　褐　色	ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
19	暗　褐　色	ロームブロック中量，鹿沼パミスブロック微量
20	明　褐　色	ロームブロック中量

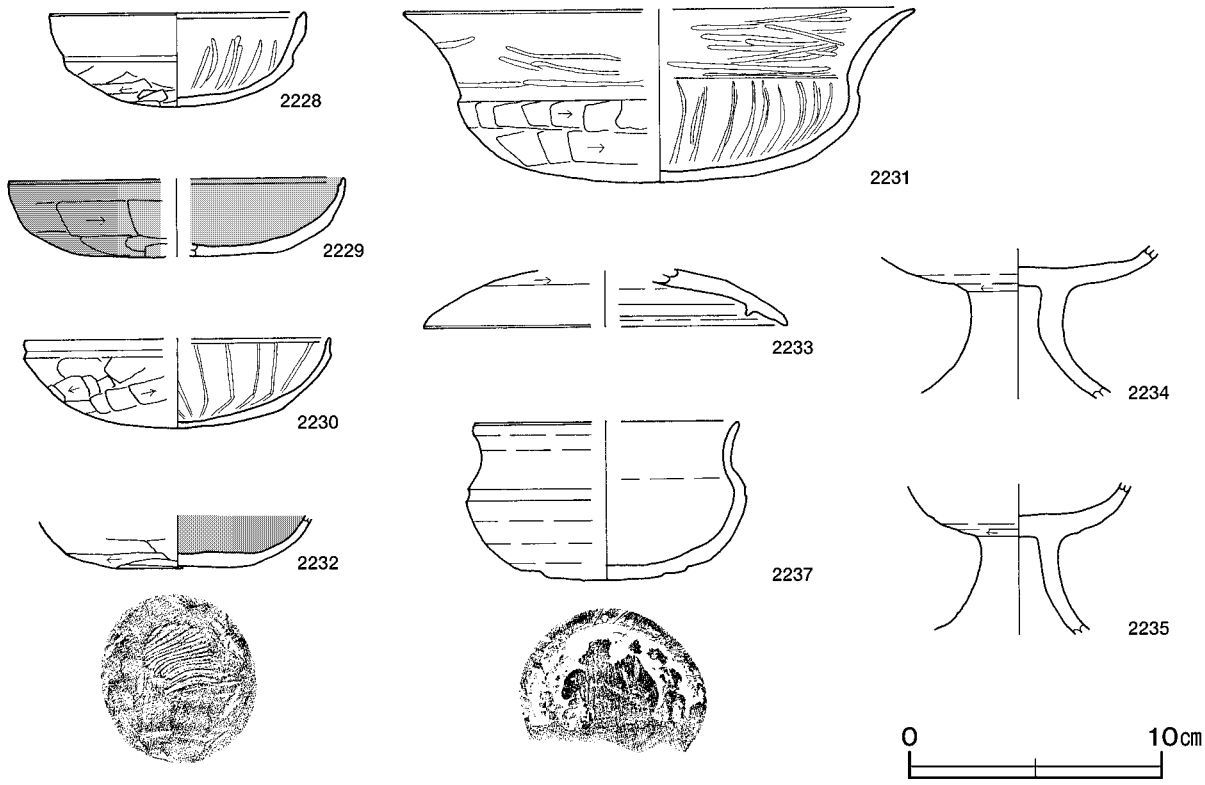
遺物出土状況　土師器片1153点（坏169，椀２，高坏13，甕962，甑７），須恵器片36点（坏16，高台付坏１，蓋８，高坏２，瓶１，短頸壺１，甕７）が，南部を中心に出土している。また，流れ込んだ弥生土器片40点，磁器片１点（碗），石製品１点（紡錘車），鉄製品４点（不明），粘土塊４点（不明），中礫26点も出土している。2228は竈東側，2229は中央部，2230は中央部やや東寄り，2231・2232は南壁の中央部，2234は中央部やや北東寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。2233は南西コーナー部，2235は中央部やや南東寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。2236は中央部の覆土下層と北西コーナー部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。2237は南西コーナー部，2238は南壁中央部の覆土下層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。2239は中央部の覆土下層と西壁寄りの覆土中層から出土した破片が接合したものである。Q238はP3から出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から８世紀初頭と考えられる。

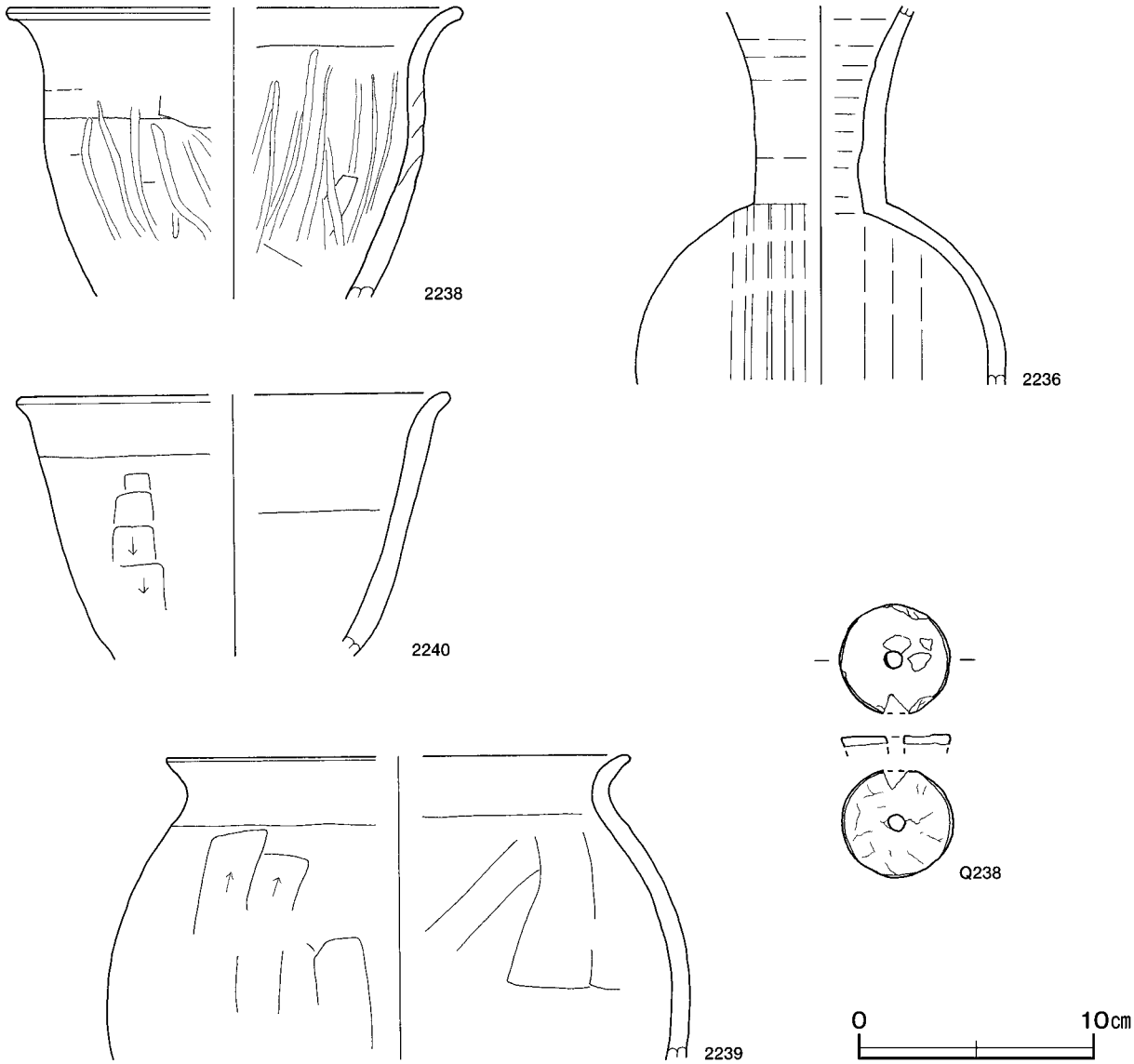


第168図　第380号住居跡実測図





第169図　第380号住居跡・出土遺物実測図



第170図　第380号住居跡出土遺物実測図

第380号住居跡出土遺物観察表（第169・170図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2228	土師器	坏	10.0	3.8	－	石英・長石	浅黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　内面ヘラ磨き	覆土下層	5％　PL74
2229	土師器	坏	[13.4]	3.1	－	石英･長石･雲母	黒褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	30%
2230	土師器	坏	[12.2]	3.5	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横ナデ　内面ヘラ磨き　体部外面ヘラ削り	覆土下層	40%
2231	土師器	坏	[20.2]	6.9	－	石英・長石・白色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横位のヘラ磨き　内面ヘラ磨き	覆土下層	40%
2232	土師器	坏	－	(2.1)	5.0	石英・長石・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り　底部回転ヘラ切り	覆土下層	30%
2233	須恵器	蓋	[14.4]	(2.2)	－	長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	15%
2234	須恵器	高坏	－	(6.0)	－	石英･長石･雲母	にぶい黄褐	普通	坏部下端回転ヘラ削り	覆土下層	50%　PL80
2235	須恵器	高坏	－	(6.0)	－	石英･長石･雲母	灰	普通	坏部下端回転ヘラ削り	覆土中層	30%
2236	須恵器	瓶	－	(16.2)	－	長石	褐灰	普通	頸部・体部ロクロナデ　自然釉	覆土下層	30%　PL79 猿投産
2237	須恵器	短頸壺	[10.4]	6.3	7.6	石英･長石･雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り	覆土下層	45%　PL79

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2238	土師器	甕	[19.0]	(12.4)	－	石英・細礫	浅黄	普通	体部内・外面ヘラ磨き	覆土下層	30%
2239	土師器	甕	[19.5]	(13.0)	－	石英・長石	灰黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	20%
2240	土師器	甑	[18.0]	(11.2)	－	石英・長石・ 赤色粒子	暗灰	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	５%

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q238	紡錘車	4.66	0.72	(0.42)	(11.9)	千枚岩	上面丁寧な研磨	Ｐ３	

第381号住居跡（第171図）

位置　西部４区中央部のＣ４a1 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3783・3784・3786・3834号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　一辺3.50mの方形で，主軸方向はＮ－４°－Ｅである。壁高は10～19㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝がほぼ全周しており，断面形はＵ字状を呈している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで115㎝，袖部幅131㎝である。袖部は掘り残した地山を基部として，砂質粘土で構築されている。火床部は床面を楕円形に12㎝ほど掘りくぼめており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ61㎝ほど掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗 灰 黄 色　砂質粘土ブロック・焼土粒子少量
2　暗 灰 黄 色　砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量
3　暗 灰 黄 色　砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック中量
4　にぶい黄褐色　焼土ブロック多量，砂質粘土ブロック中量
5　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック中量
6　にぶい黄褐色　焼土粒子多量
7　灰 黄 褐 色　粘土ブロック多量
8　灰 黄 褐 色　粘土ブロック多量，ロームブロック少量
9　明　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子中量，炭化物少量
10　明　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
11　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量
12　灰 黄 褐 色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
13　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック多量
14　暗　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
15　暗　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
16　暗　褐　色　ロームブロック中量
17　暗　褐　色　ロームブロック微量

ピット　深さ25㎝で，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

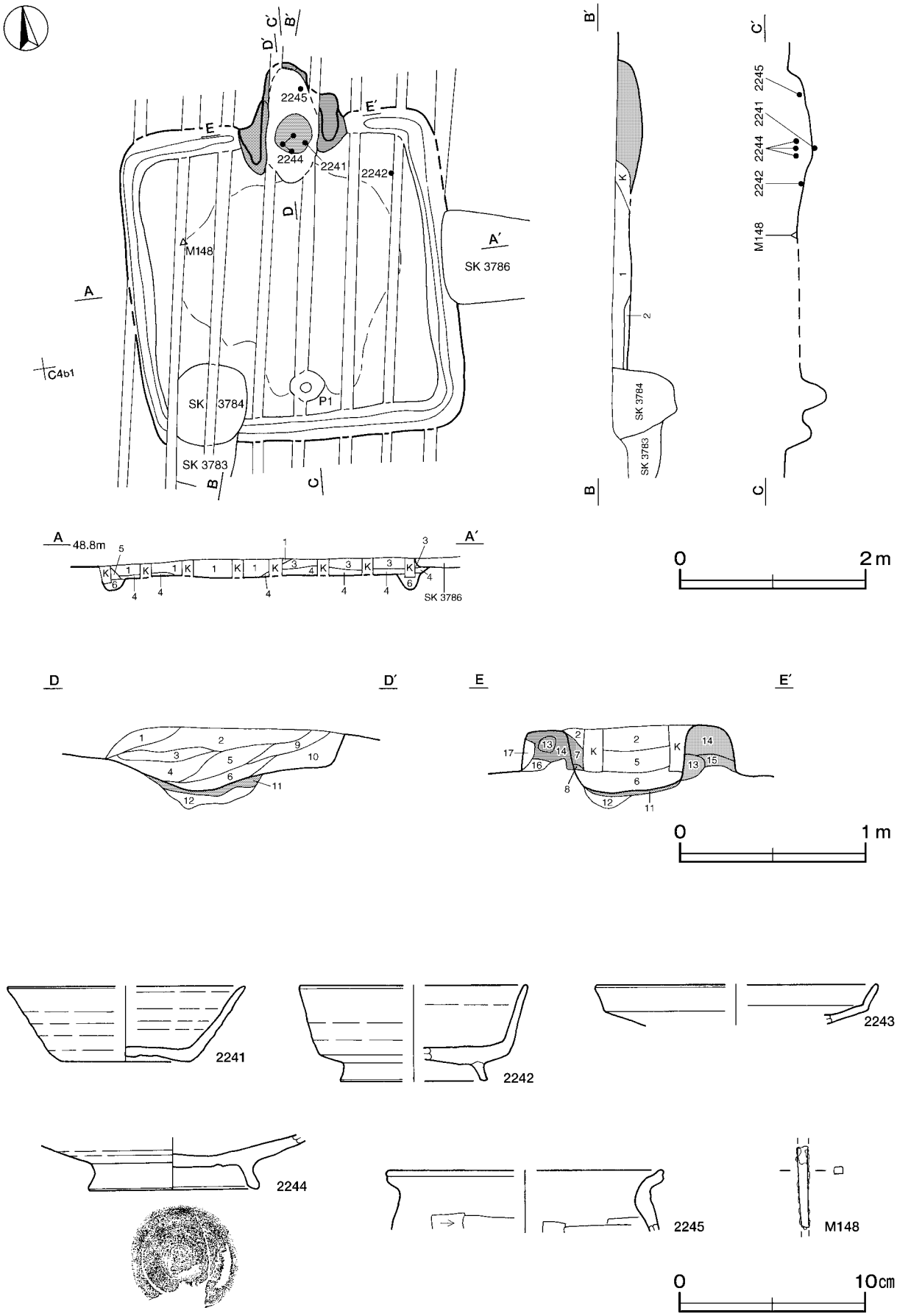
覆土　６層に分層される。ロームブロック・焼土ブロック・炭化物が不規則に含まれた堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　褐　　色　ロームブロック多量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化物少量
5　褐　　色　ローム粒子多量
6　黒　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片263点（坏23，甕240），須恵器片54点（坏38，高台付坏１，蓋４，盤２，壺１，甕８），石製品１点（紡錘車），粘土塊２点（不明）が，竈周辺と北部の覆土下層から出土している。2241・2244・2245は竈内から，2242は北東コーナー部の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉と考えられる。



第171図　第381号住居跡・出土遺物実測図

第381号住居跡出土遺物観察表（第171図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2241	須恵器	坏	[12.8]	4.1	7.0	長石・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り	竈内	40%
2242	須恵器	高台付坏	[12.2]	5.2	[8.0]	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	床面	30%
2243	須恵器	盤	[15.2]	(2.2)	－	長石･針状鉱物	黄灰	普通	ロクロナデ	覆土中	5％ 木葉下産
2244	須恵器	盤	－	(2.8)	9.2	石英・長石・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	竈内	30%
2245	土師器	甕	[14.6]	(3.3)	－	石英・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り内面ヘラナデ	竈内	5％

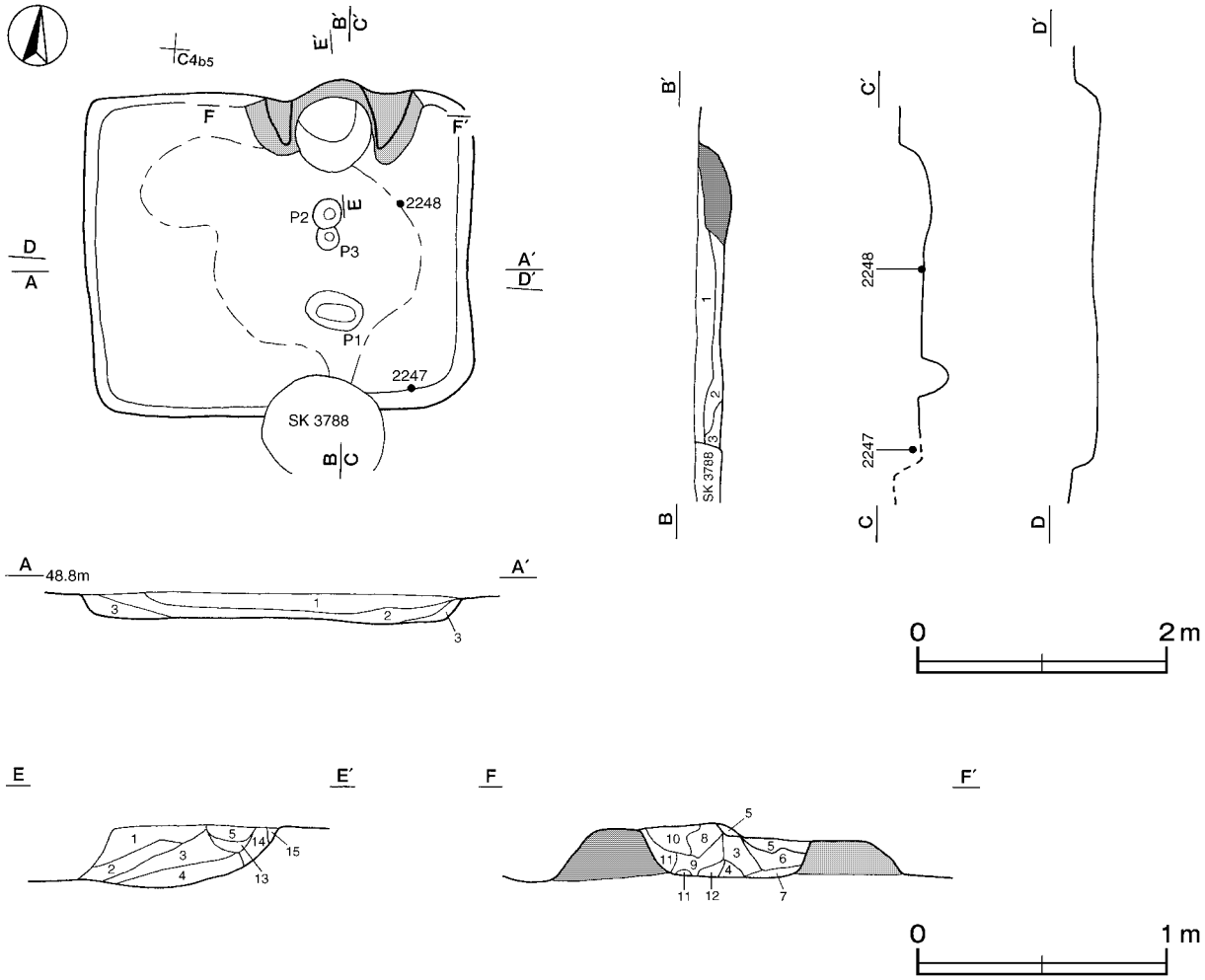
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M148	釘	(4.6)	0.6	0.4	(2.92)	鉄	断面方形　棒状上・下欠損	床面	PL90

第382号住居跡（第172・173図）

位置　西部４区中央部のＣ４b5 区で，標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3788号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.13m，短軸2.60mの長方形で，主軸方向はＮ－５°－Ｗである。壁高は14～20㎝で，外傾して立ち上がっている。



第172図　第382号住居跡実測図

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北壁中央部の東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで74㎝，袖部幅143㎝である。袖部は床面と同じ高さを基部として，極暗褐色の土に少量の粘土を混ぜて構築されている。両袖の中央部は浅く皿状にくぼんでいたが，赤変した部分は認められなかった。煙道部は壁外へ半円形状に12㎝ほど掘り込まれ，粘土を貼り付けて構築されている。

竈土層解説

1　極暗褐色　焼土粒子少量，ロームブロック微量
2　にぶい褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック・粘土ブロック微量
3　にぶい褐色　ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量
4　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
5　灰黄色　粘土ブロック中量，ロームブロック少量
6　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
7　褐　色　ロームブロック少量
8　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
9　黒褐色　ローム粒子少量，粘土ブロック・焼土粒子微量
10　黒褐色　粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
11　極暗褐色　粘土ブロック少量，ロームブロック微量
12　暗褐色　ローム粒子微量
13　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
14　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子少量
15　褐　色　ローム粒子中量

ピット　３か所。P1 ～ P3 は深さ13～21㎝で，性格は不明である。

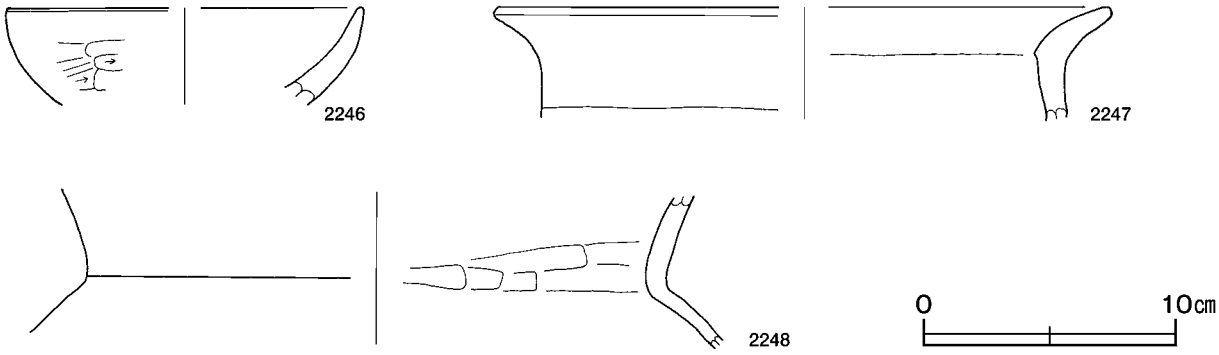
覆土　３層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ロームブロック微量
2　黒褐色　ローム粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片265点（坏32，甕233），須恵器片２点（坏）が散在するように覆土下層から出土している。また，流れ込んだ縄文土器片１点，弥生土器片３点も出土している。2248は竈前面の床面，2247は南東コーナーの覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第173図　第382号住居跡出土遺物実測図

第382号住居跡出土遺物観察表（第173図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2246	土師器	坏	[14.0]	(3.8)	－	長石・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中	5％
2247	土師器	甕	[24.0]	(4.5)	－	長石･雲母･赤色粒子･細礫	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	5％
2248	土師器	甕	－	(6.1)	－	石英・長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	内面ヘラナデ	床面	5％

第384号住居跡（第174・175図）

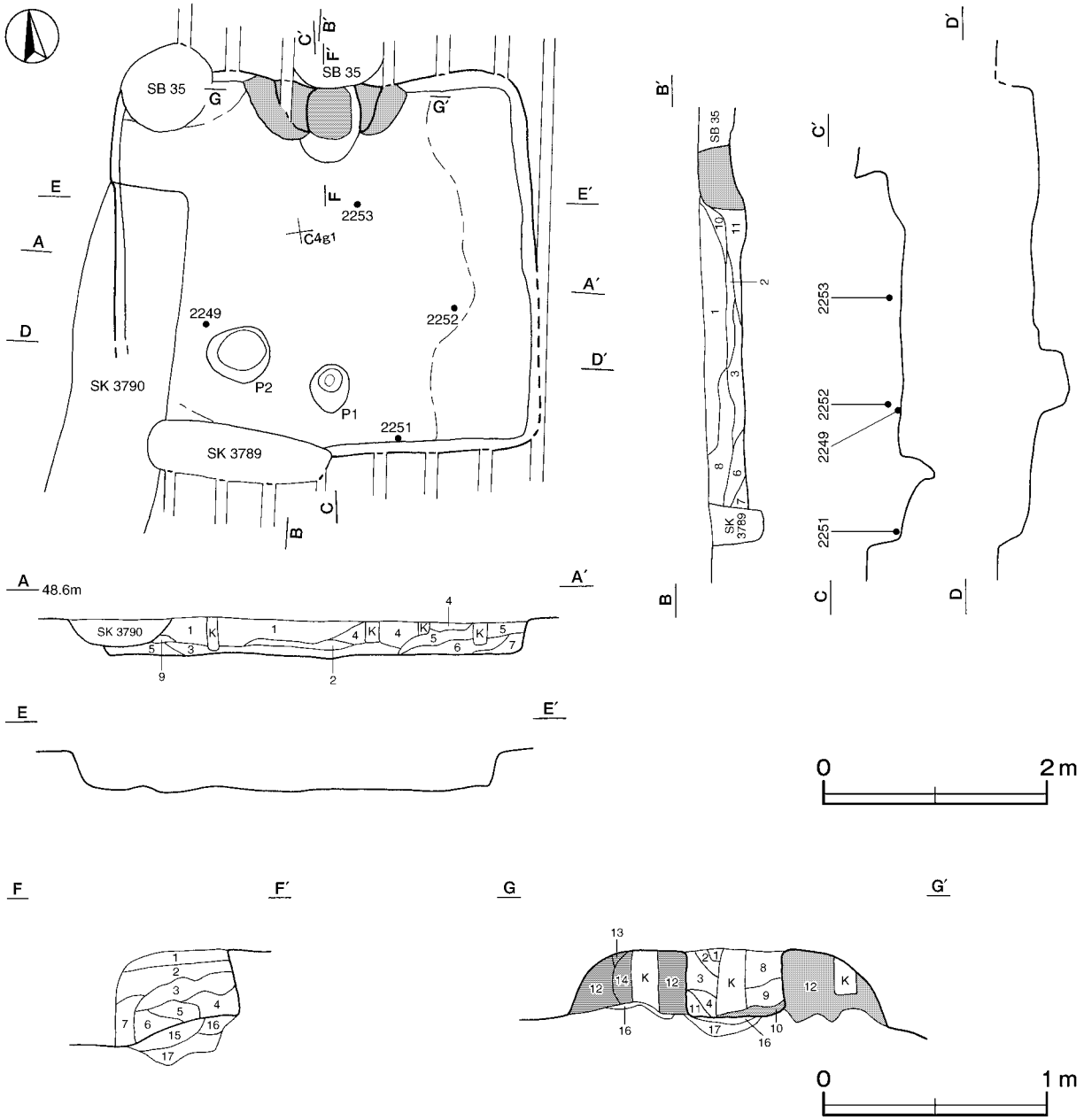
位置　西部４区中央部のＣ４g1 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3789・3790号土坑，第35号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.75m，短軸3.39mの長方形で，主軸方向はＮ－８°－Ｅである。壁高は28～32㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部から西壁にかけて踏み固められている。

竈　北壁中央部に付設されている。袖部は幅149㎝で，床面と同じ高さを基部として，砂質粘土で構築されている。火床部は焚口部がやや掘りくぼめられた楕円形で，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，第35号掘立柱建物に壊されているが，火床部から緩やかに傾斜していることが確認されている。



第174図　第384号住居跡実測図

竈土層解説

1　褐　　色　ロームブロック中量
2　灰　黄　色　砂質粘土ブロック多量
3　にぶい黄褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量
4　灰　黄　色　砂質粘土ブロック多量，焼土粒子少量
5　赤　褐　色　焼土ブロック多量
6　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量
7　にぶい黄褐色　細礫中量
8　暗　褐　色　砂質粘土ブロック中量，ロームブロック少量
9　暗　褐　色　砂質粘土ブロック多量，ロームブロック中量
10　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，砂質粘土ブロック中量
11　にぶい赤褐色　砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量
12　暗　褐　色　ロームブロック少量，砂質粘土粒子少量
13　暗　褐　色　ローム粒子少量，砂質粘土粒子少量
14　にぶい黄褐色　ロームブロック微量，砂質粘土粒子少量
15　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量
16　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
17　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘土粒子微量

ピット　２か所。P1 は深さ27㎝で，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2 は深さ26㎝で，性格は不明である。

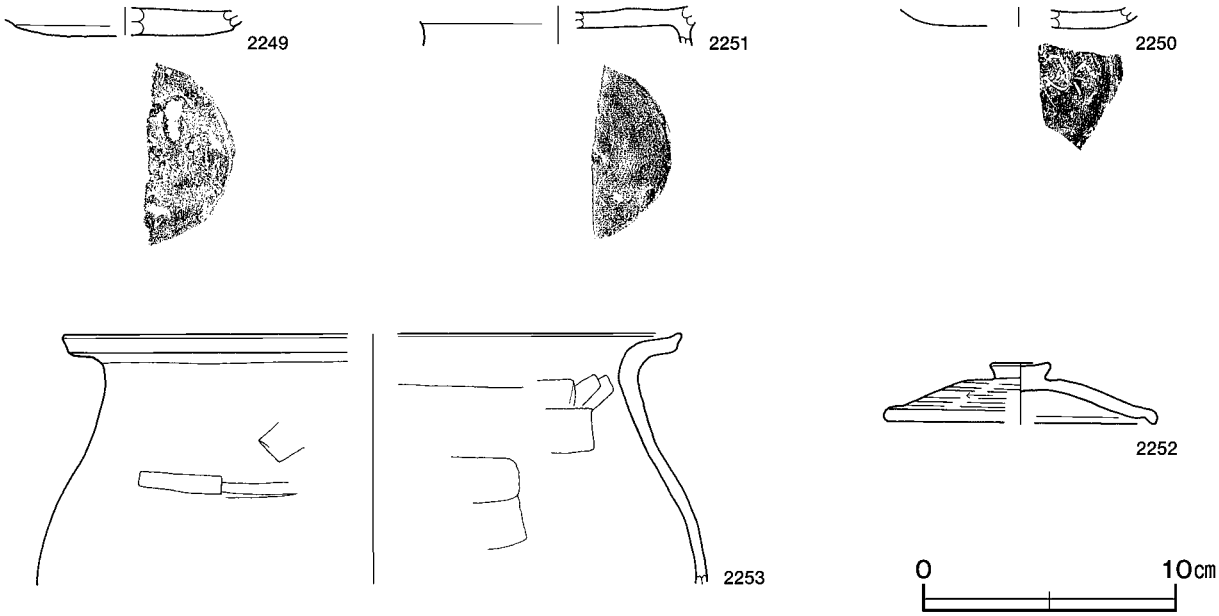
覆土　11層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量
5　褐　　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量
7　褐　　色　ロームブロック少量
8　暗　褐　色　ローム粒子中量
9　暗　褐　色　ローム粒子微量
10　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
11　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・粘土ブロック少量

遺物出土状況　土師器片384点（坏79，甕303）須恵器片64点（坏51，高台付坏１，盤１，蓋１，鉢１，甕９），ミニチュア土器１，手捏土器１，土製品１点（支脚）が，中央部に集中して覆土中層から下層にかけて出土している。また，流れ込んだ縄文土器片１点，弥生土器片10点，陶器片５点も出土している。2251は南部，2252は東部，2253は竈前面の覆土下層からそれぞれ出土している。2250は南西部の覆土中から出土しており，ヘラ書きが施されている。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉と考えられる。



第175図　第384号住居跡出土遺物実測図

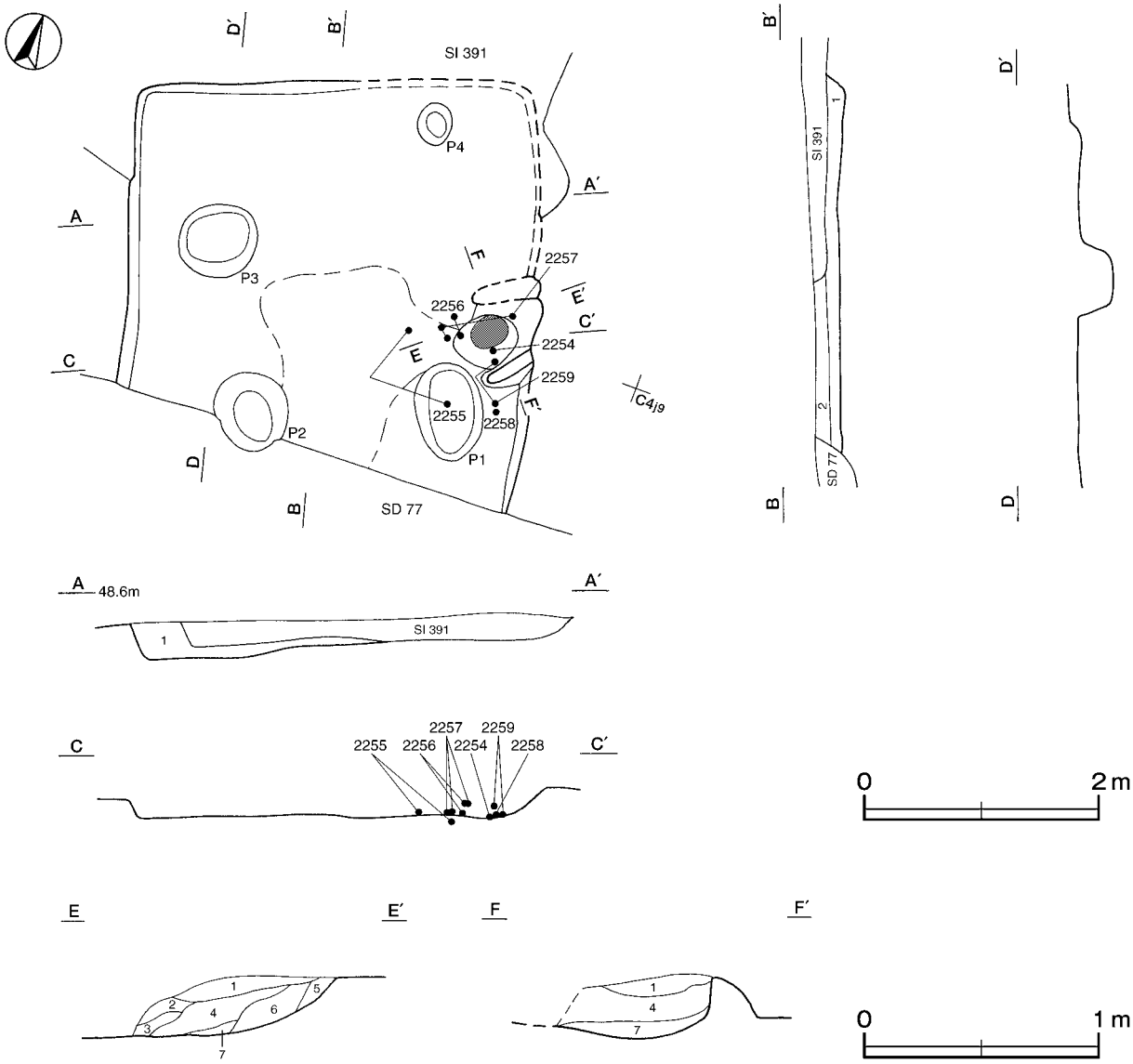
第384号住居跡出土遺物観察表（第175図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2249	須恵器	坏	－	(1.2)	[8.6]	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り	床面	20%
2250	須恵器	坏	－	(0.8)	[8.2]	石英・長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中	5％　PL82 ヘラ書き「□」
2251	須恵器	盤	－	(1.5)	－	石英・長石	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土下層	25%
2252	須恵器	蓋	[10.5]	2.4	－	石英・長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	50%　PL77
2253	土師器	甕	[24.4]	(9.9)	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	10%

第386号住居跡（第176・177図）

位置　西部４区中央部のＣ４ｉ８区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第393号住居跡を掘り込み，第391号住居，第77号溝に掘り込まれている。



第176図　第386号住居跡実測図

規模と形状　南壁が残存していない。確認された範囲は，東西軸3.52m，南北軸3.28mで，平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はN－70°－Eである。壁高は17cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで84cm，袖部幅88cmである。袖部は地山を掘り残して構築されている。左袖部は残存状態が悪く，基部だけが確認された。火床部は床面を円形に８cmほど掘りくぼめており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形状に10cmほど掘り込まれ，火床部より緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　極暗褐色　焼土粒子中量，粘土粒子・炭化粒子少量
5　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子微量
6　暗赤褐色　焼土ブロック・粘土ブロック中量，炭化粒子微量
7　暗赤褐色　焼土ブロック多量，粘土粒子少量，炭化粒子微量

ピット　４か所。P1～P4は深さ12～31cmで，性格は不明である。

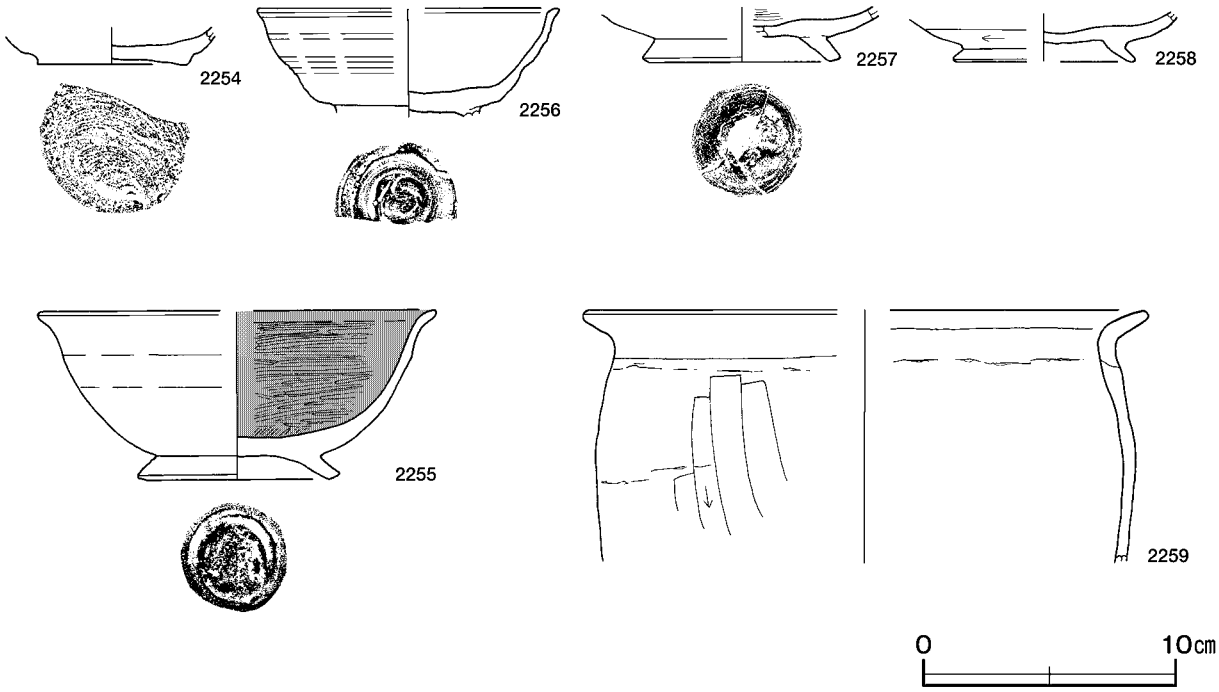
覆土　２層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片193点（坏75，高台付椀13，甕105）が，竈とその周辺から集中して出土している。また，流れ込んだ縄文土器片１点，須恵器片９点（坏２，甕７），鉄滓１点も出土している。2254は竈内，2258は右袖部付近の覆土下層からそれぞれ出土している。2255は竈前面の床面から正位で出土しており，P1から出土した破片と接合している。2256も竈前面から出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から10世紀後葉と考えられる。



第177図　第386号住居跡出土遺物実測図

第386号住居跡出土遺物観察表（第177図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2254	土師器	坏	－	(1.5)	6.0	石英・白色粒子・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	竈内	20%
2255	土師器	高台付椀	[15.4]	6.7	7.2	雲母・白色粒子・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後高台貼付け	床面	40%
2256	土師器	高台付椀	[12.0]	(4.3)	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土下層	40%
2257	土師器	高台付椀	－	(2.2)	8.0	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土下層	20% 底部に穿孔
2258	土師器	高台付椀	－	(2.0)	[7.2]	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土下層	10%
2259	土師器	甕	[22.0]	(10.0)	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	10%

第389号住居跡（第178・179図）

位置　西部４区中央部のＣ４g3 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第375・396号住居跡を掘り込み，第371号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.54m，短軸4.38mの方形で，主軸方向はＮ－４°－Ｅである。壁高は16～32㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が壁下を全周しており，断面形はU字状を呈している。

竈　北壁中央部のやや東寄りに付設されている。煙道部が壊されており，袖部のみが残存している。袖部は幅86㎝で，床面と同じ高さを基部として，砂質粘土で構築されている。火床部は床面を７㎝ほど円形に掘りくぼめており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・砂質粘土ブロック少量
2　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック中量，ローム粒子･焼土粒子微量
3　黒　　色　灰多量
4　褐　　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
5　暗　褐　色　砂質粘土ブロック・焼土粒子少量
6　赤　褐　色　焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック少量
7　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量

ピット　５か所。Ｐ1 ～Ｐ4 は深さ29～48㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ5 は深さ37㎝で，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

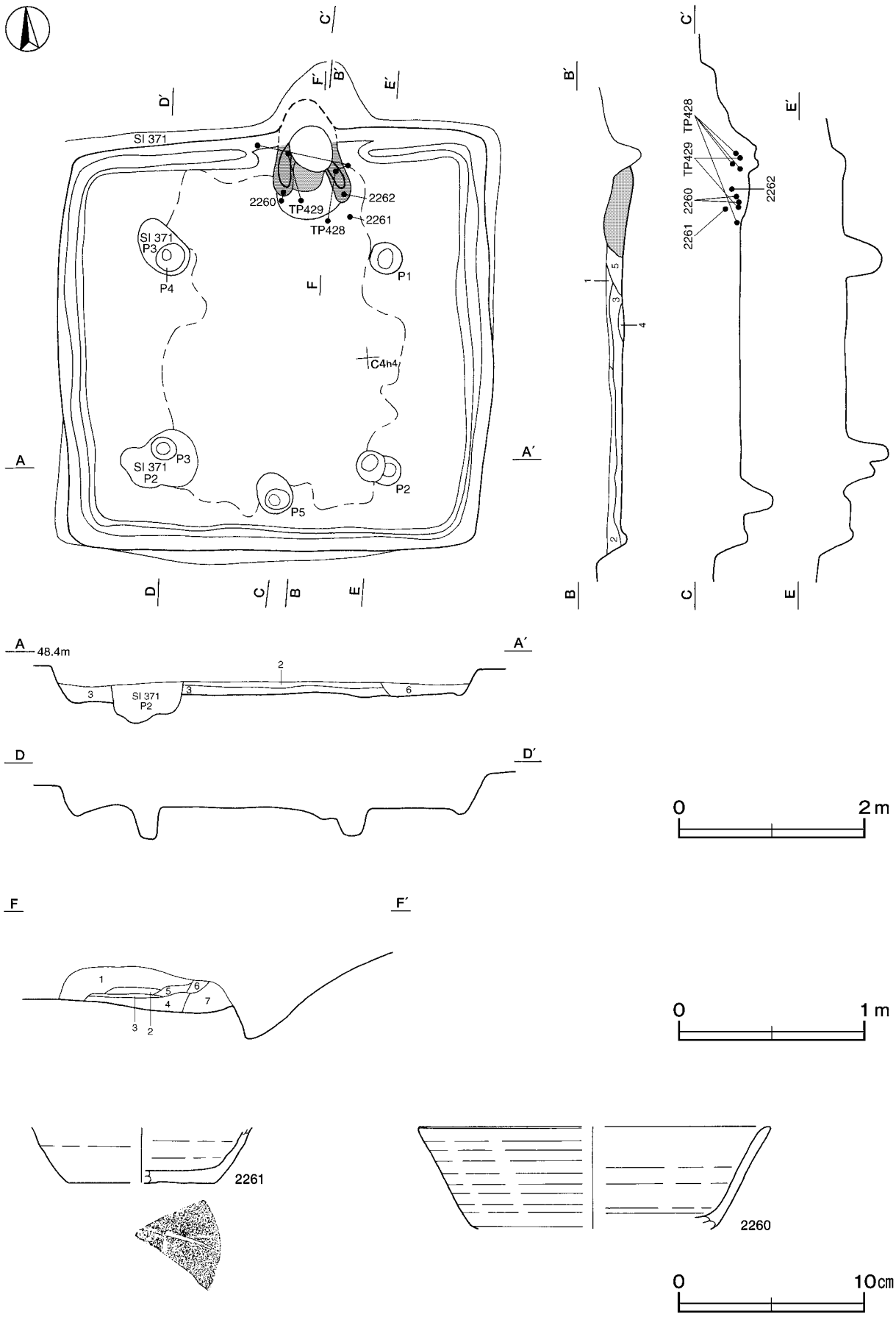
覆土　６層に分層される。ロームブロック・焼土ブロックが不規則に含まれた堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

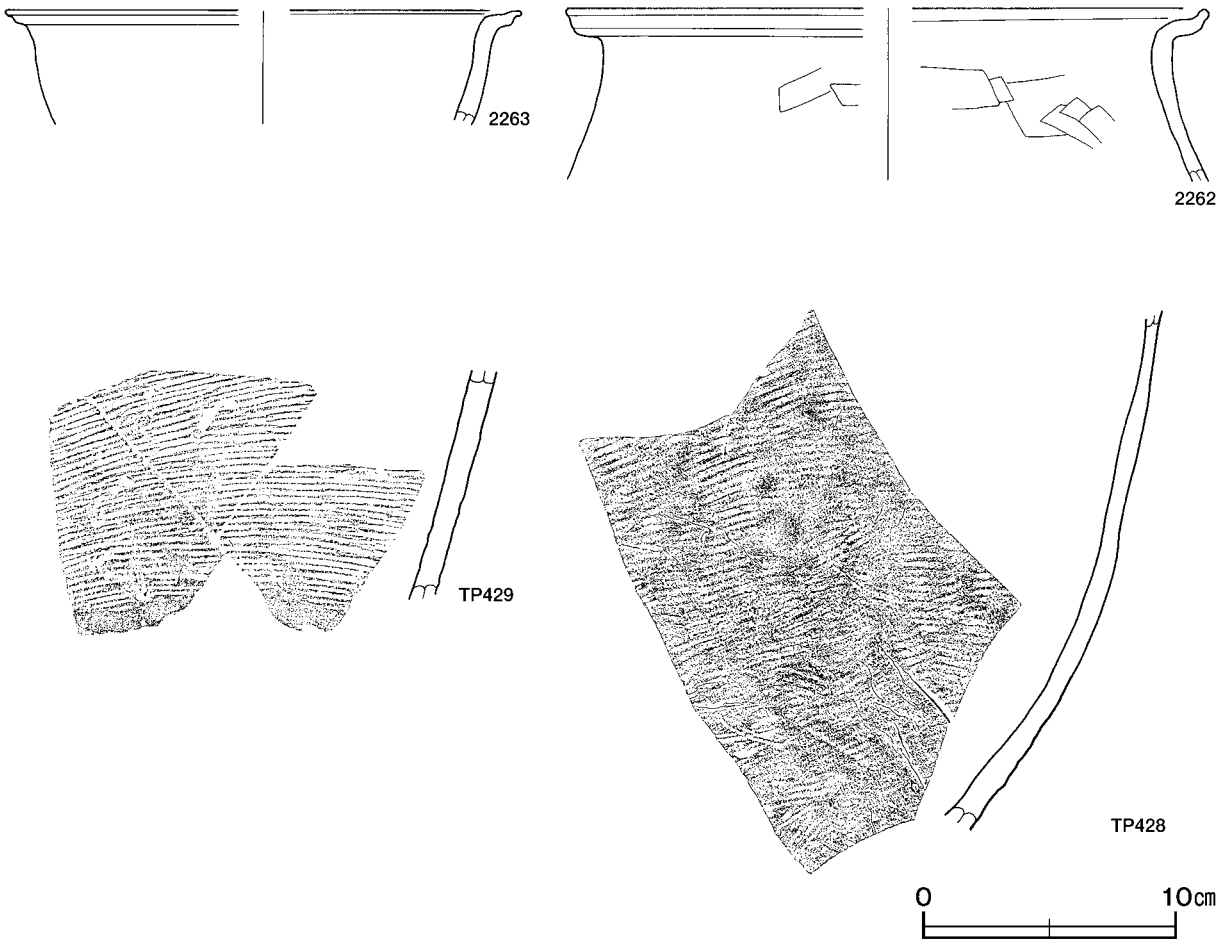
1　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，ロームブロック微量
5　黒　褐　色　ローム粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片204点（坏33，甕171），須恵器片39点（坏14，蓋１，甕24）が，竈周辺と竈前面に集中して出土している。また，流れ込んだ弥生土器片８点，土師器片１点（高坏）も出土している。2262は竈の右袖部付近から，2260は左袖部付近から出土している。TP428・TP429は竈周辺から出土した破片がそれぞれ接合したものである。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から８世紀前葉と考えられる。第371号住居跡とほぼ同じ範囲で確認されており，本住居を埋め戻して構築したと考えられる。



第178図　第389号住居跡・出土遺物実測図



第179図　第389号住居跡出土遺物実測図

第389号住居跡出土遺物観察表（第178図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2260	須恵器	坏	[18.8]	(5.5)	－	石英・長石・白色粒子	灰	普通	ロクロナデ	竈内	20%
2261	須恵器	坏	－	(3.0)	[7.9]	石英・白色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中層	15% ヘラ記号「－」
2262	土師器	甕	[25.2]	(6.8)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラナデ	竈内	5％
2263	土師器	甕	[20.4]	(4.5)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	5％

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP428	須恵器	甕	石英・長石	暗灰	普通	体部外面横位の平行叩き　内面同心円状当て具痕	竈内	
TP429	須恵器	甕	石英・長石・雲母	暗灰	普通	体部外面横位の平行叩き　内面同心円状当て具痕	竈内	

第391号住居跡（第180～182図）

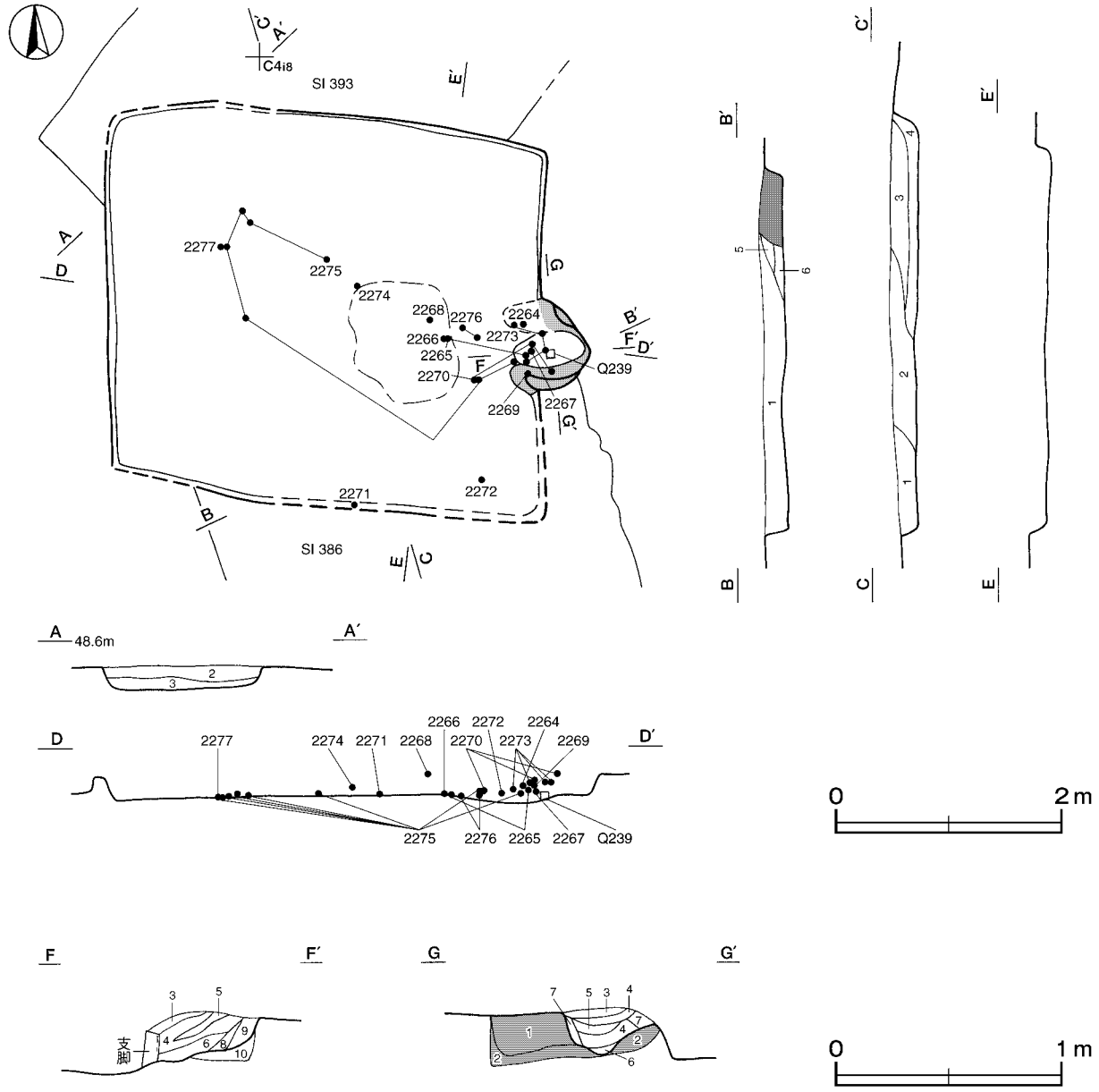
位置　西部４区中央部のＣ４ｉ８区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第386・393号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.91m，短軸3.47mの長方形で，主軸方向はＮ－96°－Ｅである。壁高は14～23㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面が踏み固められている。

竈　東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで67㎝，袖部幅81㎝である。袖部は掘り残した地山を基部として，暗褐色土で構築されている。火床部は床面を楕円形に６㎝ほど掘りくぼめられており，自然石が据えられており，火熱を受けていることから支脚として使用されたと考えられる。火床面には赤変した部分は確認されていないが，焼土を含む層が確認されている。煙道部は壁外へ半円形状に44㎝ほど掘り込まれ，火床部より外傾して立ち上がっている。第３層は天井部の崩落土と考えられる。



第180図　第391号住居跡実測図

竈土層解説

1　極暗褐色　焼土ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック中量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量
5　黒　褐　色　焼土ブロック中量
6　暗　褐　色　焼土粒子少量
7　黒　褐　色　焼土ブロック少量
8　黒　褐　色　焼土粒子微量
9　褐　灰　色　焼土ブロック少量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

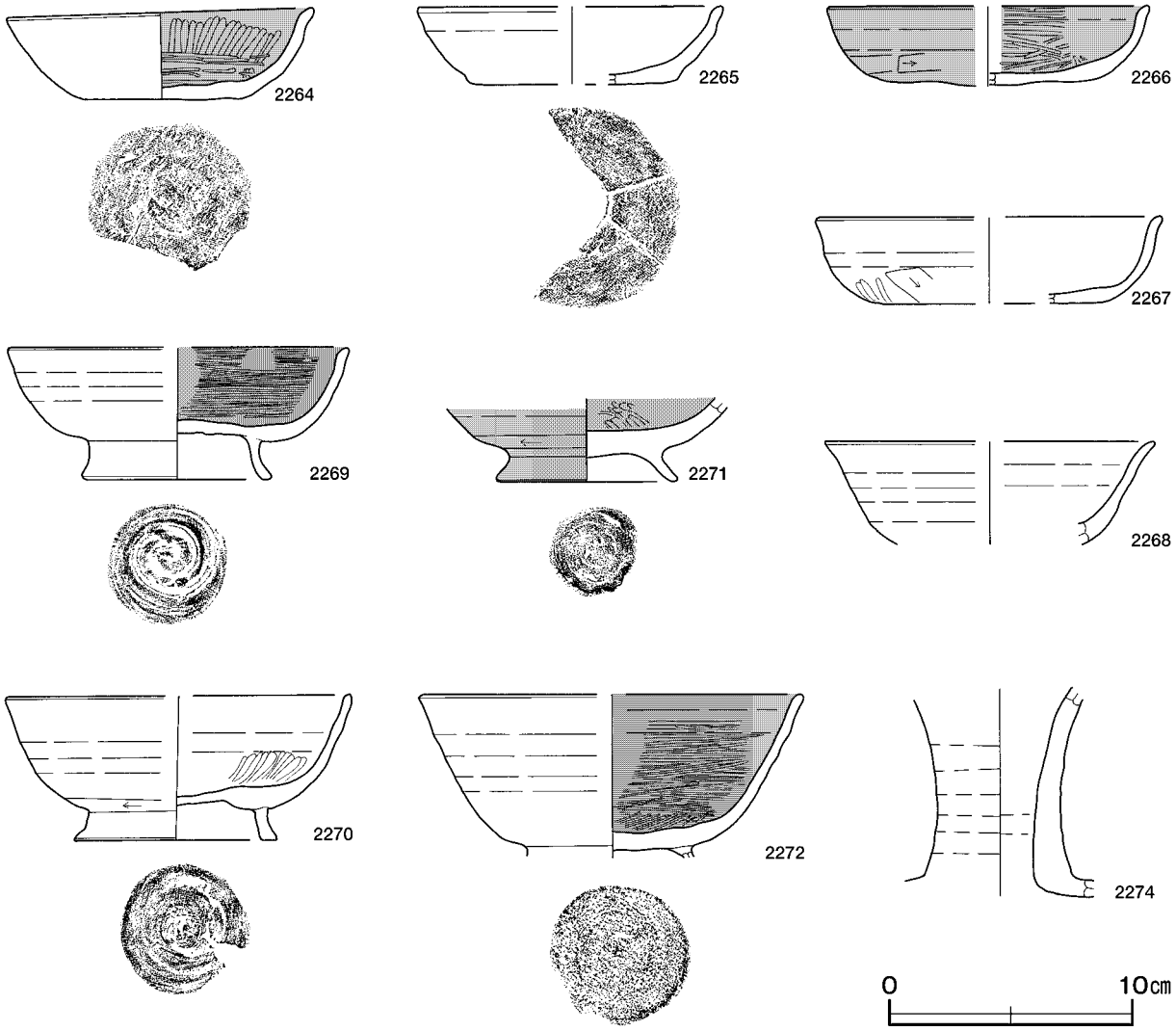
覆土　６層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

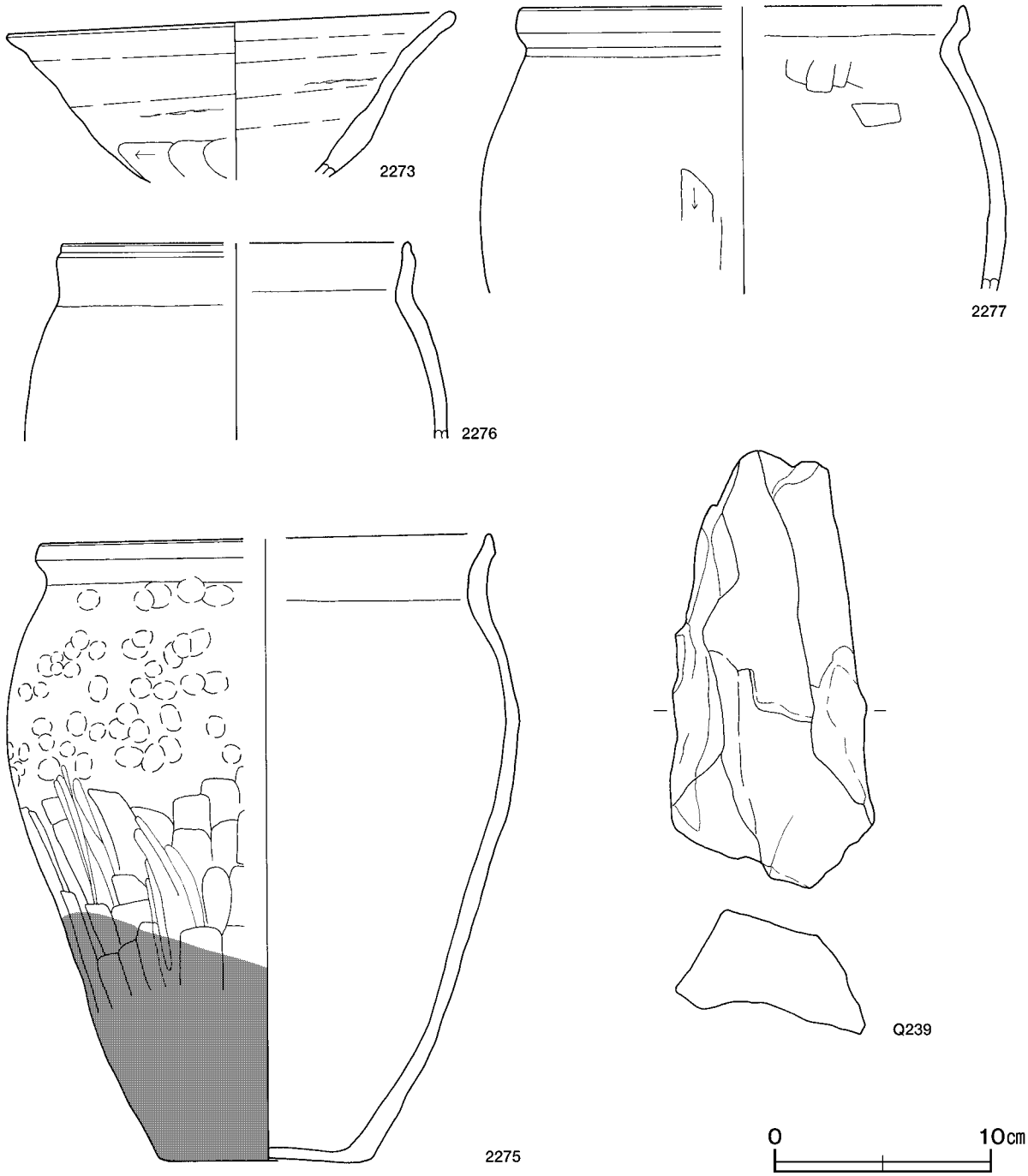
1　黒　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子少量
2　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子少量
3　黒　褐　色　焼土粒子少量，粘土粒子微量
4　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子微量
5　暗　褐　色　焼土粒子中量
6　暗　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片293点（坏75，高台付椀６，小皿１，鉢１，甕208，甑２），石器１点（支脚），中礫４点，粘土塊10点が，竈から床面中央の覆土中層から下層にかけて出土している。また，流れ込んだ縄文土器片１点，弥生土器片３点，須恵器片24点（坏10，高台付坏１，蓋１，瓶１，甕11）も出土している。2264は正位，2269は逆位でそれぞれ竈内から出土している。2273は竈内から出土した破片が接合したものである。また，2275は竈内と床面から出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から10世紀末葉以降と考えられる。



第181図　第391号住居跡出土遺物実測図(1)



第182図　第391号住居跡出土遺物実測図(2)

第391号住居跡出土遺物観察表（第181・182図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2264	土師器	坏	12.8	3.8	6.8	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り	竈内	95%　PL74
2265	土師器	坏	[12.5]	3.3	[8.6]	石英・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り　ロクロナデ	床面	50%　PL74
2266	土師器	坏	[13.0]	3.3	[8.7]	雲母・白色粒子	灰黄褐	普通	内面ヘラ磨き　体部下端ヘラ削り	床面	20%
2267	土師器	坏	[14.0]	3.6	[9.6]	石英・雲母・白色粒子	にぶい黄褐	普通	体部外面下端ヘラ削り	竈内	20%
2268	土師器	椀	[13.5]	(4.3)	－	石英・長石・雲母	明褐	普通	ロクロナデ	覆土上層	15%
2269	土師器	高台付椀	[13.8]	5.5	7.3	石英・長石・雲母	にぶい黄	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後高台貼付け	竈内	60%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2270	土師器	高台付椀	[14.1]	6.0	8.3	石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後高台貼付け	竈内下層	40%
2271	土師器	高台付椀	－	(3.4)	7.1	石英・白色粒子・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土床面	40%
2272	土師器	高台付椀	[15.6]	(6.8)	－	石英・白色粒子	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　高台貼付け	覆土下層	70%
2273	土師器	鉢	20.5	(7.5)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下端ヘラ削り　輪積み痕	竈内	50%　PL78
2274	須恵器	長頸壺ヵ	－	(8.6)	－	石英・長石・黒色粒子	灰	普通	ロクロナデ　自然釉	覆土下層	10%
2275	土師器	甕	[20.8]	29.2	9.7	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　外面指頭痕	竈内床面	90%　PL80 底部外面煤付着
2276	土師器	甕	[16.0]	(9.1)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	床面	20%
2277	土師器	甕	[20.4]	(13.3)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り内面ヘラナデ	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q239	支脚	20.2	9.5	5.8	1150.0	ホルンフェルス	棒状の自然石	竈内	PL86

第393号住居跡（第183図）

位置　西部４区中央部のＣ４h8 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第386・391号住居に掘り込まれている。

規模と形状　壁が削平されほとんど残存していないため，規模や形状は明確ではない。確認された範囲は，南北軸4.61m，東西軸3.33mで，平面形は長方形と推定され，主軸方向はＮ－39°－Ｅである。壁高は６～12cmで，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，全面的に軟質である。

竈　北東壁中央部に付設されていると推定される。規模は焚口部から煙道部まで72cm，袖部幅104cmである。袖部は床面と同じ高さに砂質粘土を混ぜた黒褐色土で構築されている。火床部は床面を５cmほど掘りくぼめており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形状に54cmほど掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　浅　黄　色　粘土ブロック中量，焼土粒子少量
2　黒　褐　色　粘土粒子少量
3　浅　黄　色　粘土ブロック中量
4　黒　褐　色　粘土粒子微量
5　黒　褐　色　粘土ブロック少量

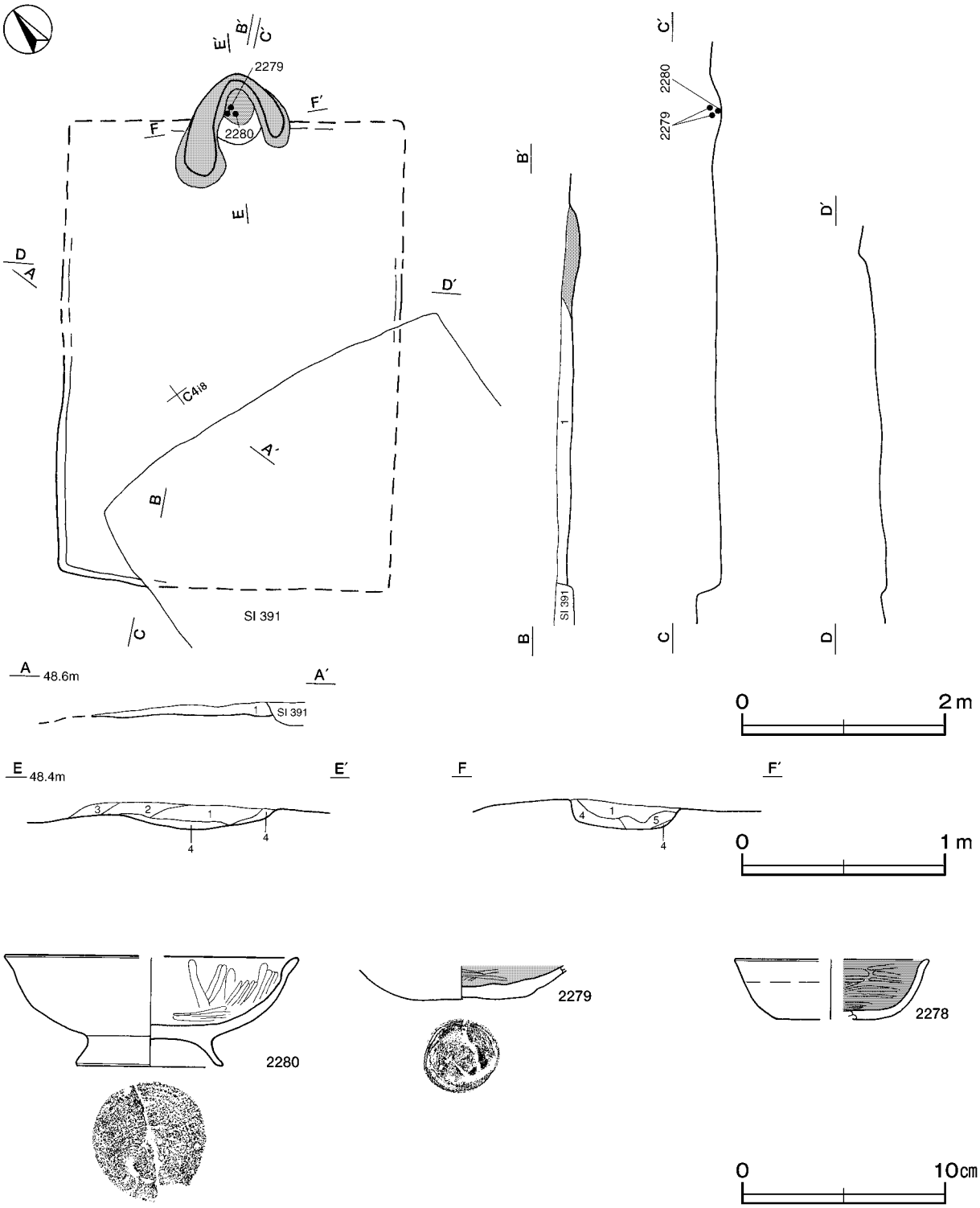
覆土　単一層で，層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片10点（坏８，高台付椀１，甕１），須恵器片４点（坏），鉄製品１点（不明）が，竈内を中心にして出土している。また，流れ込んだ縄文土器片５点も出土している。2279・2280は竈内からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀前半と考えられる。



第183図　第393号住居跡・出土遺物実測図

第393号住居跡出土遺物観察表（第183図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2278	土師器	坏	[9.6]	3.0	[5.8]	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り	覆土中	10%
2279	土師器	坏	—	(1.6)	5.2	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転糸切り後ナデ	竈内	10%
2280	土師器	高台付椀	[14.2]	5.4	7.2	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後高台貼付け	竈内	50%

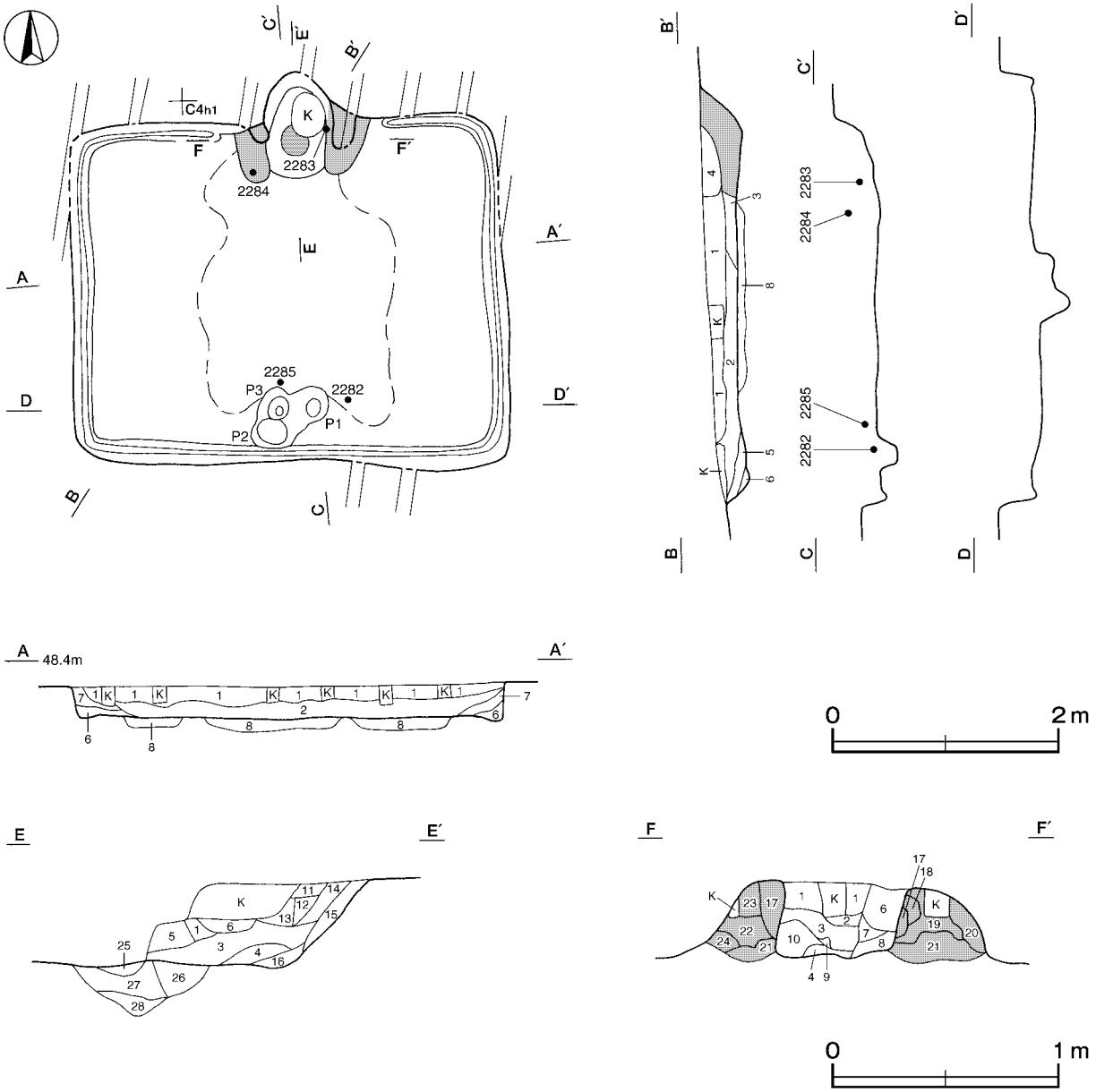
第394号住居跡（第184・185図）

位置　西部４区中央部のＣ４h1 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸3.86m，短軸3.46mの長方形で，主軸方向はＮ－０°である。壁高は18～37㎝で，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦な貼床で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。貼床はローム土で構築されている。壁溝が全周しており，断面形はU字状を呈している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで99㎝，袖部幅127㎝である。袖部は床面と同じ高さに砂質粘土で構築されている。焚口部から火床部は床面を21㎝ほど掘り込み，ローム土や粘土を混ぜた土を充填して構築されている。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ半円形状に45㎝ほど掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。



第184図　第394号住居跡実測図

竈土層解説

1 褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
3 極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子少量
4 暗 褐 色　焼土ブロック中量
5 褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・粘土粒子少量
6 褐　色　ロームブロック･焼土ブロック･粘土ブロック少量
7 灰 褐 色　焼土ブロック・粘土粒子中量
8 暗赤褐色　粘土ブロック中量
9 暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量
10 にぶい褐色　ロームブロック・粘土ブロック中量，焼土ブロック少量
11 褐　色　ロームブロック多量
12 暗 褐 色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
13 暗 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量
14 にぶい黄褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック少量
15 にぶい黄褐色　ロームブロック中量,粘土粒子少量,焼土粒子微量
16 にぶい黄褐色　ロームブロック少量
17 暗 褐 色　砂質粘土粒子多量，焼土ブロック少量
18 明黄褐色　砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量
19 明黄褐色　砂質粘土粒子多量，焼土ブロック微量
20 灰黄褐色　砂質粘土ブロック少量
21 褐　色　ロームブロック中量，砂質粘土ブロック微量
22 黄 褐 色　砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック少量
23 黄 褐 色　焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック少量
24 にぶい黄褐色　ロームブロック・砂質粘土粒子少量
25 褐　色　粘土粒子中量，ロームブロック少量
26 暗 褐 色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量
27 暗 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
28 褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量

ピット　３か所。P1 ～ P3 は深さ14～24㎝で，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられ，作り替えが行われている。

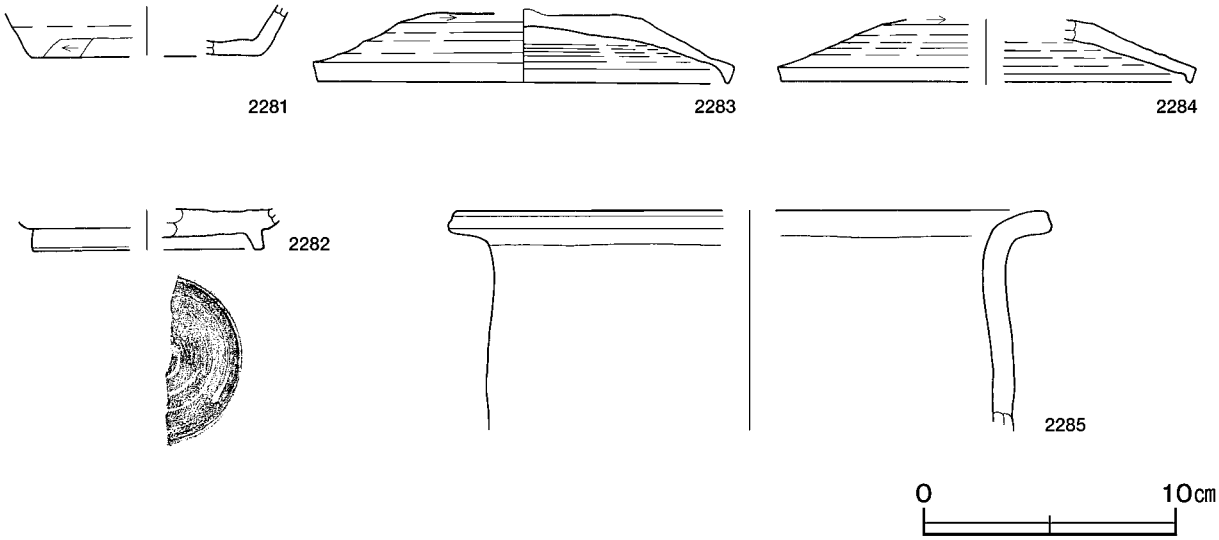
覆土　８層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。第８層は貼床の構築土である。

土層解説

1 暗 褐 色　ロームブロック少量
2 暗 褐 色　ロームブロック中量
3 暗 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック少量
4 暗 褐 色　焼土粒子少量
5 褐　色　ロームブロック中量
6 暗 褐 色　ロームブロック微量
7 暗 褐 色　ロームブロック多量
8 灰 褐 色　ロームブロック多量，焼土粒子少量

遺物出土状況　土師器片132点（坏12，甕120），須恵器片24点（坏14，高台付坏２，蓋３，甕５）が，覆土中層から下層にかけて出土している。また，流れ込んだ縄文土器片１点，土師器片２点（高坏１，高台付椀１）も出土している。2283は竈右袖部の内側から斜位で，2284は左袖部から，2282・2285はP1 付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉と考えられる。



第185図　第394号住居跡出土遺物実測図

第394号住居跡出土遺物観察表（第185図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2281	須恵器	坏	－	(2.0)	[9.0]	長石	黄灰	普通	体部下端ヘラ削り	覆土中	5％
2282	須恵器	高台付坏	－	(1.6)	[9.2]	長石	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土下層	5％
2283	須恵器	蓋	16.3	(2.9)	－	石英･長石･雲母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	竈内	60%　PL77
2284	須恵器	蓋	[16.4]	(2.5)	－	長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	竈内	10%
2285	土師器	甕	[23.0]	(8.7)	－	石英･長石･雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	10%

第395号住居跡（第186図）

位置　西部４区中央部のＤ３a0 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第424号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.56m，短軸3.54mの方形で，主軸方向はＮ－90°－Ｅである。壁高は10㎝で，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　東壁中央部から南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで100㎝，袖部幅65㎝である。袖部は床面と同じ高さに少量の粘土を混ぜた黒褐色土を貼り付けて構築されている。火床部は床面を楕円形に５㎝ほど掘りくぼめられており，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外へ半円形状に38㎝ほど掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
2　黒　褐　色　焼土粒子少量，粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
3　黒　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　黄　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック少量
7　褐　　色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量

ピット　３か所。Ｐ1 は深さ10㎝で，西壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ2 ・Ｐ3 は深さ26㎝・38㎝で，性格は不明である。

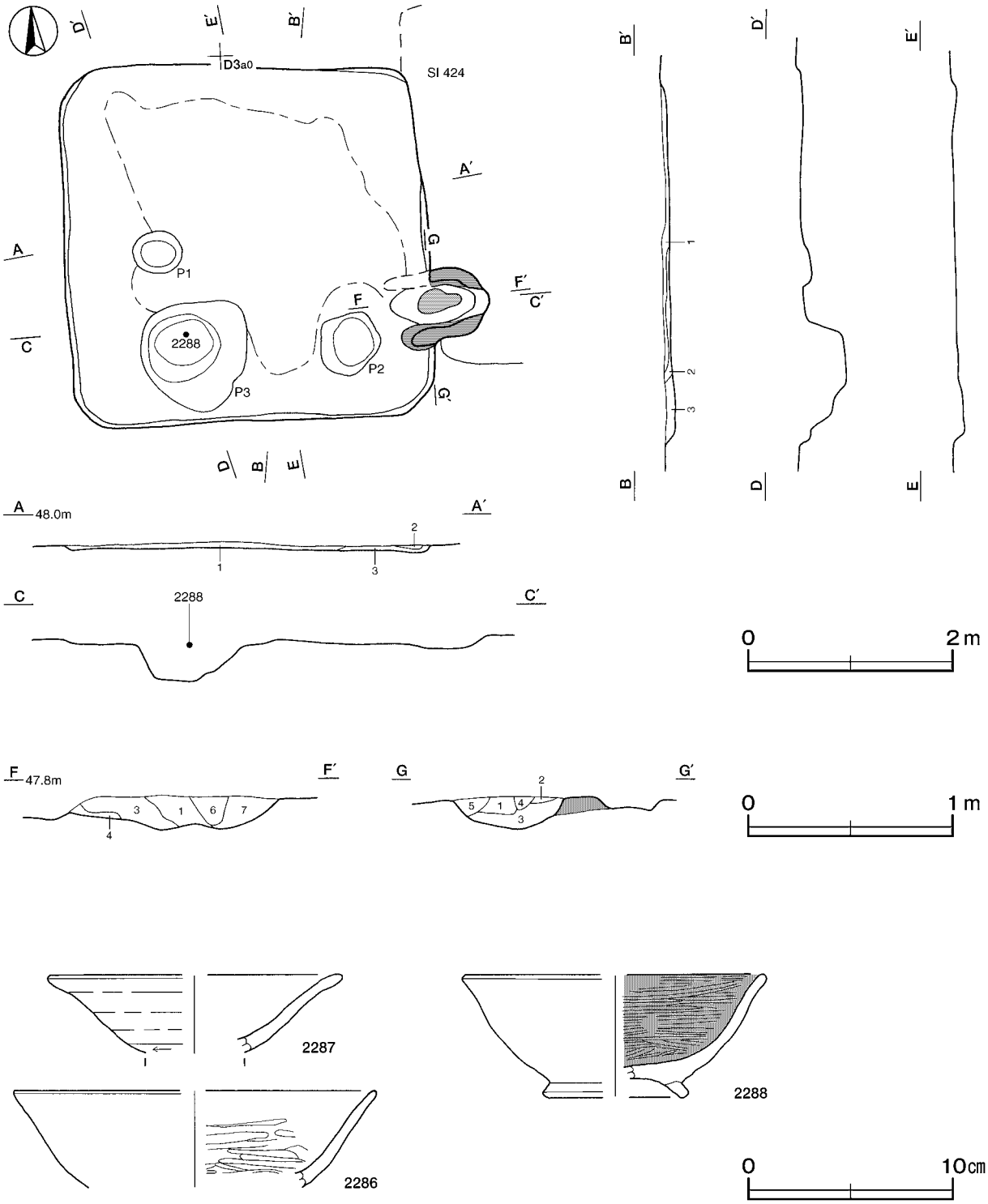
覆土　３層に分層される。層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・炭化物・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片148点（坏32，椀２，高台付椀３，小皿10，甕101），須恵器片１点（甕）が，全域の覆土中から細片で出土している。大礫３点，中礫４点も出土している。2288はＰ3 から，2286・2287は覆土中からそれぞれ出土している。細片で図示できないが，土師器の小皿は底部回転糸切りである。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から11世紀代と考えられる。



第186図　第395号住居跡・出土遺物実測図

第395号住居跡出土遺物観察表（第186図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2286	土師器	高台付椀	[17.6]	(4.7)	－	石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	20%
2287	土師器	高台付椀	[14.4]	(3.8)	－	長石・雲母	橙	普通	底部下端回転ヘラ削り　高台貼付け痕有り	覆土中	15%
2288	土師器	高台付椀	[14.6]	6.0	[7.2]	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後高台貼付け	P３	５%

第397号住居跡（第187・188図）

位置　西部４区中央部のＤ３b9 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第398号住居跡を掘り込み，第81号溝，第110号井戸に掘り込まれている。

規模と形状　西部がほとんど残存していないため，規模や形状は明確ではない。確認された範囲は，東西軸3.13m，南北軸3.04mで，平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はN－130°－Eである。壁高は10㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，全面的に軟質である。

竈　東壁中央部から南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで58㎝である。袖部は東壁に貼り付けた粘土のみが確認されている。火床部は床面と同じ高さの平坦な面を使用しており，火床面は赤変した部分が確認されなかった。火床部には自然石が据えられており，火熱を受けていることから支脚と考えられる。煙道部は壁外へ三角形状に38㎝ほどに掘り込まれており，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　灰多量，焼土ブロック少量
2　暗　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　灰多量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　炭化粒子・粘土粒子微量
5　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
6　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化物微量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化粒子少量

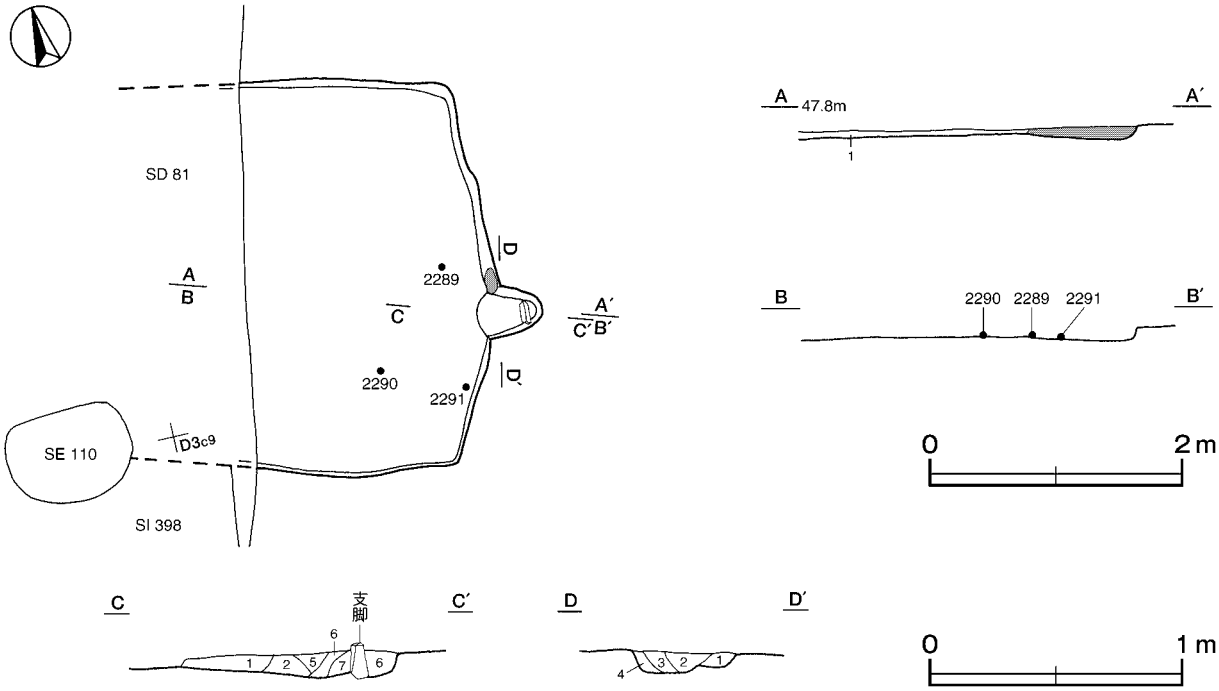
覆土　単一層で，層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

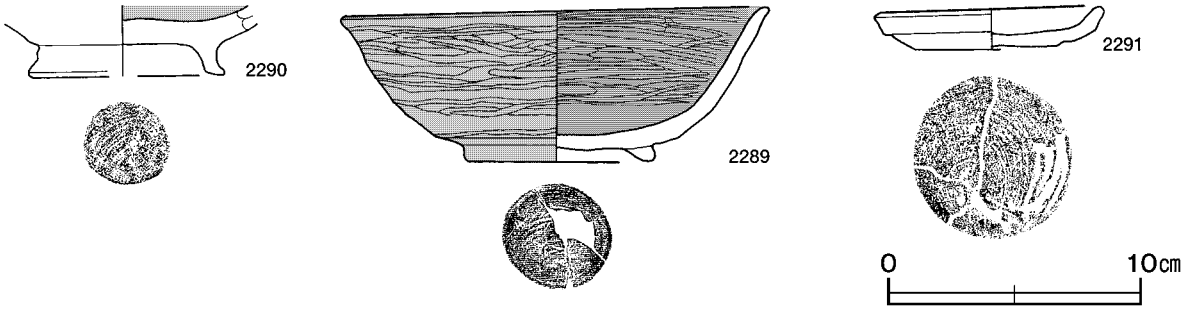
1　極 暗 褐 色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片71点（坏16，高台付椀２，小皿１，甕52），石器１点（支脚），中礫３点が，竈前面に集中するように覆土下層から出土している。また，流れ込んだ縄文土器片２点，須恵器片６点（坏１，蓋１，甕４）も出土している。2289は竈前面の床面から正位で，2290・2291は南東コーナー部の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，住居の形態及び出土土器から11世紀代と考えられる。



第187図　第397号住居跡実測図



第188図　第397号住居跡出土遺物実測図

第397号住居跡出土遺物観察表（第188図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2289	土師器	高台付椀	16.7	6.2	7.2	長石・雲母	にぶい褐	普通	内・外面ヘラ磨き　高台貼付け	床面	70%　PL76
2290	土師器	高台付椀	－	(2.8)	[7.7]	石英･長石･雲母	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き　高台貼付け	床面	30%
2291	土師器	小皿	9.2	1.6	6.2	石英・長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	床面	80%

第399号住居跡（第189図）

位置　西部４区中央部のＣ３ｉ6 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。西部は平成15年度に調査が終了している。

重複関係　第3811号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　既報告の範囲と合わせると，長軸3.12m，短軸2.98mの方形で，主軸方向はＮ－10°－Ｅである。壁高は５～７㎝で，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで48㎝で，左袖部は残存していない。右袖部は床面と同じ高さに黒褐色土を貼り付けて構築されている。火床部は床面から４㎝ほど掘りくぼめた皿状で，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ半円形状に64㎝ほど掘り込まれ，緩やかに立ち上がっている。第１・２層は天井の崩落土と考えられる。

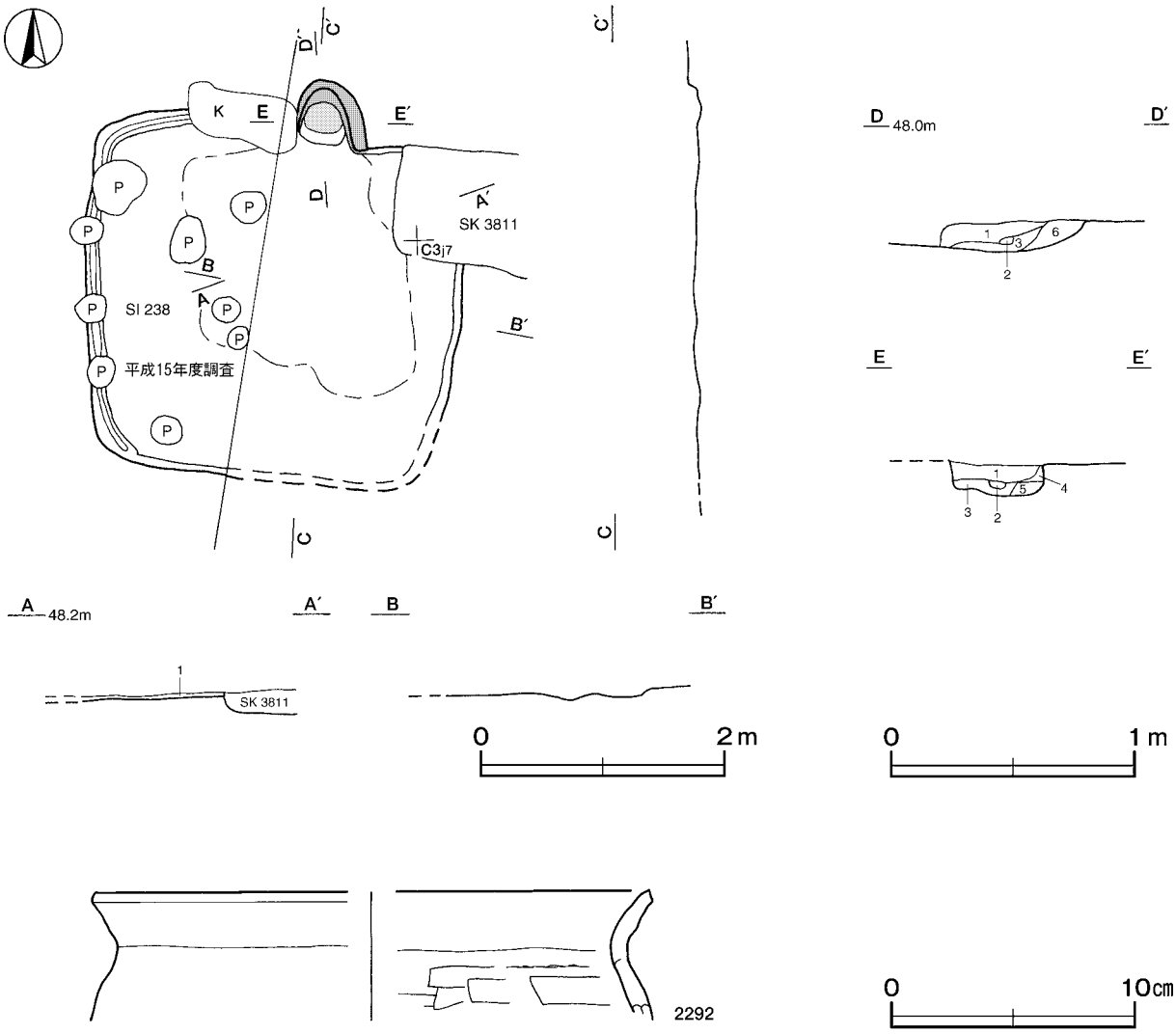
竈土層解説
1　褐　　色　ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量
2　赤　褐　色　焼土ブロック多量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
4　褐　　色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量
5　褐　　色　ロームブロック少量
6　灰 黄 褐 色　ロームブロック・粘土粒子中量

覆土　単一層で，層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片34点（坏５，高台付椀４，甕25），中礫６点が，全域の覆土下層から出土している。土器は細片で図示ができなかった。坏は，体部内面に黒色処理とヘラ磨きが施されているものである。

所見　時期は，住居の形態及び出土土器から10世紀前半と考えられる。西部は，平成15年度調査区分の『茨城県教育財団文化財調査報告』第248集で報告されている。



第189図　第399号住居跡・出土遺物実測図

第399号住居跡出土遺物観察表（第189図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2292	土師器	甕	[22.8]	(5.3)	－	石英・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　内面ヘラナデ	覆土中	5％

第400号住居跡（第190・191図）

位置　西部４区中央部のＤ４d7 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第80号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　壁がほとんど残存していないため，規模や形状は明確ではない。確認された範囲は，東西軸3.26m，南北軸3.18mで，平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はＮ－90°－Ｅである。壁高は27～30cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，やや締まりがある。

竈　東壁の南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで115㎝，袖部幅122㎝である。袖部は床面と同じ高さに，少量の粘土を混ぜた黒褐色土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦な面を使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。火床部には自然石が据えられており，煤が付着していることから支脚と考えられる。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック少量
2　黒　褐　色　粘土ブロック中量
3　黒　褐　色　焼土ブロック中量，粘土ブロック少量
4　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量
5　黒　褐　色　灰多量，焼土ブロック・粘土ブロック少量
6　灰 黄 褐 色　粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
7　黒　褐　色　ローム粒子少量
8　黒　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子少量
9　黒　褐　色　焼土ブロック少量
10　黒　　色　炭化物多量，焼土粒子中量
11　黒　褐　色　炭化物少量，ロームブロック微量
12　黒　褐　色　粘土ブロック少量
13　黒　褐　色　焼土ブロック中量
14　黒　褐　色　ロームブロック微量
15　黒　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子少量
16　黒　褐　色　ローム粒子少量，粘土ブロック微量
17　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化材中量，粘土ブロック微量
18　黒　褐　色　焼土ブロック中量，炭化物少量
19　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子少量
20　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量

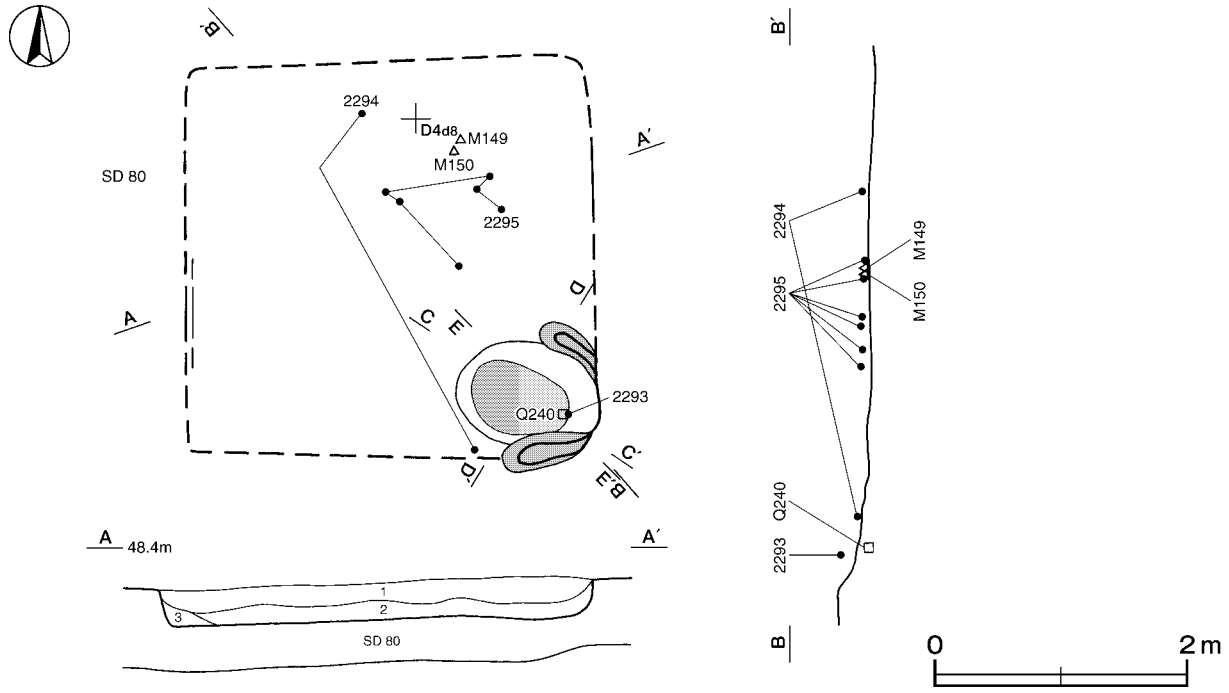
覆土　３層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

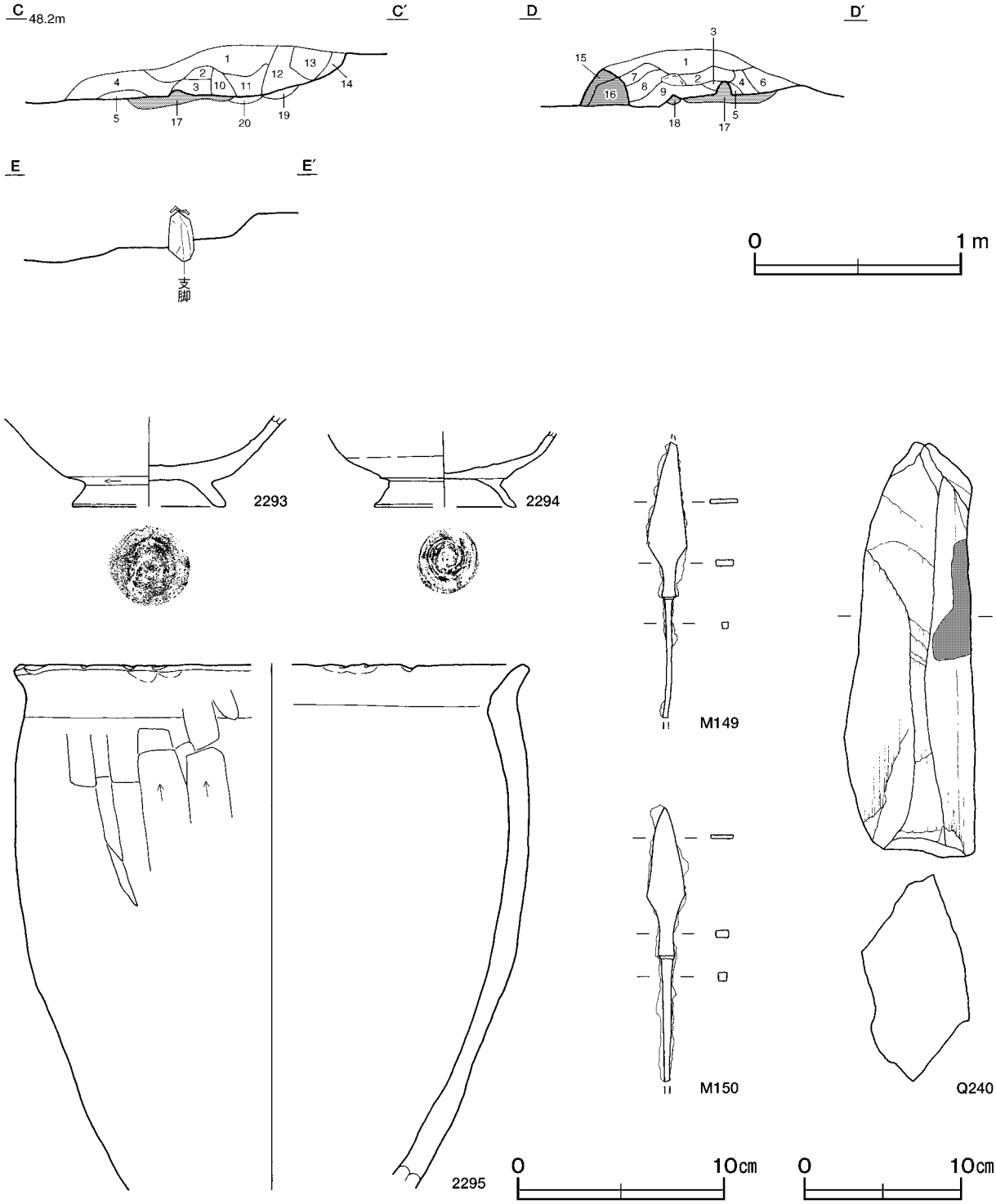
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　極 暗 褐 色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片742点（坏299，高台付椀８，甕435），石器１点（支脚），鉄製品２点（鏃）が，中央部から北東コーナー部に集中するように覆土中層から下層にかけて出土している。また，流れ込んだ弥生土器片１点，須恵器片84点（坏56，高台付坏５，蓋４，甕19），羽口１点も出土している。2293は支脚の上面から逆位で出土している。2294は北部の床面から正位で出土した破片と竈の右袖前面から出土した破片が接合したものである。2295は中央部の床面から出土した破片が接合したものである。M149・M150は中央部から北東コーナー部寄りの床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第190図　第400号住居跡実測図



第191図　第400号住居跡・出土遺物実測図

第400号住居跡出土遺物観察表（第191図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2293	土師器	高台付椀	－	(4.4)	[7.4]	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り	竈内	45%
2294	土師器	高台付椀	－	(3.7)	[6.8]	長石・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	床面	40%
2295	土師器	甕	[24.4]	(25.5)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	明褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り指頭痕	床面	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q240	支脚	26.7	8.4	13.2	2870.0	雲母片岩	棒状の自然石	竈内	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M149	鏃	(13.4)	1.9	0.38	(17.1)	鉄	柳葉式　台状関有り　刃部・茎部欠損	床面	PL90
M150	鏃	(13.3)	1.9	0.43	(17.6)	鉄	柳葉式　台状関有り　刃部・茎部欠損	床面	PL90

第402号住居跡（第192・193図）

位置　西部４区東部のＤ６a1 区で，標高50mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3891・3914・3918・3923号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.48m，短軸3.38mの方形で，主軸方向はＮ－94°－Ｅである。壁高は３～20cmで，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が東壁を除いて周回しており，断面形はU字状を呈している。

竈　東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで119cm，袖部幅115cmである。袖部は掘り残した地山を基部として，黒褐色土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦な面を使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。火床部には自然石が据えられており，火熱を受けていることから支脚と考えられる。煙道部は壁外へ半円形状に72cmほど掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。火床部から煙道部にかけては，15～20cmほど掘りくぼめたところに黒褐色土とローム土が充填され，構築されている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック少量，炭化物・ローム粒子微量
3　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化物少量，ローム粒子微量
5　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化物・ローム粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
8　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
9　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
10　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
11　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
12　褐　　色　ロームブロック中量

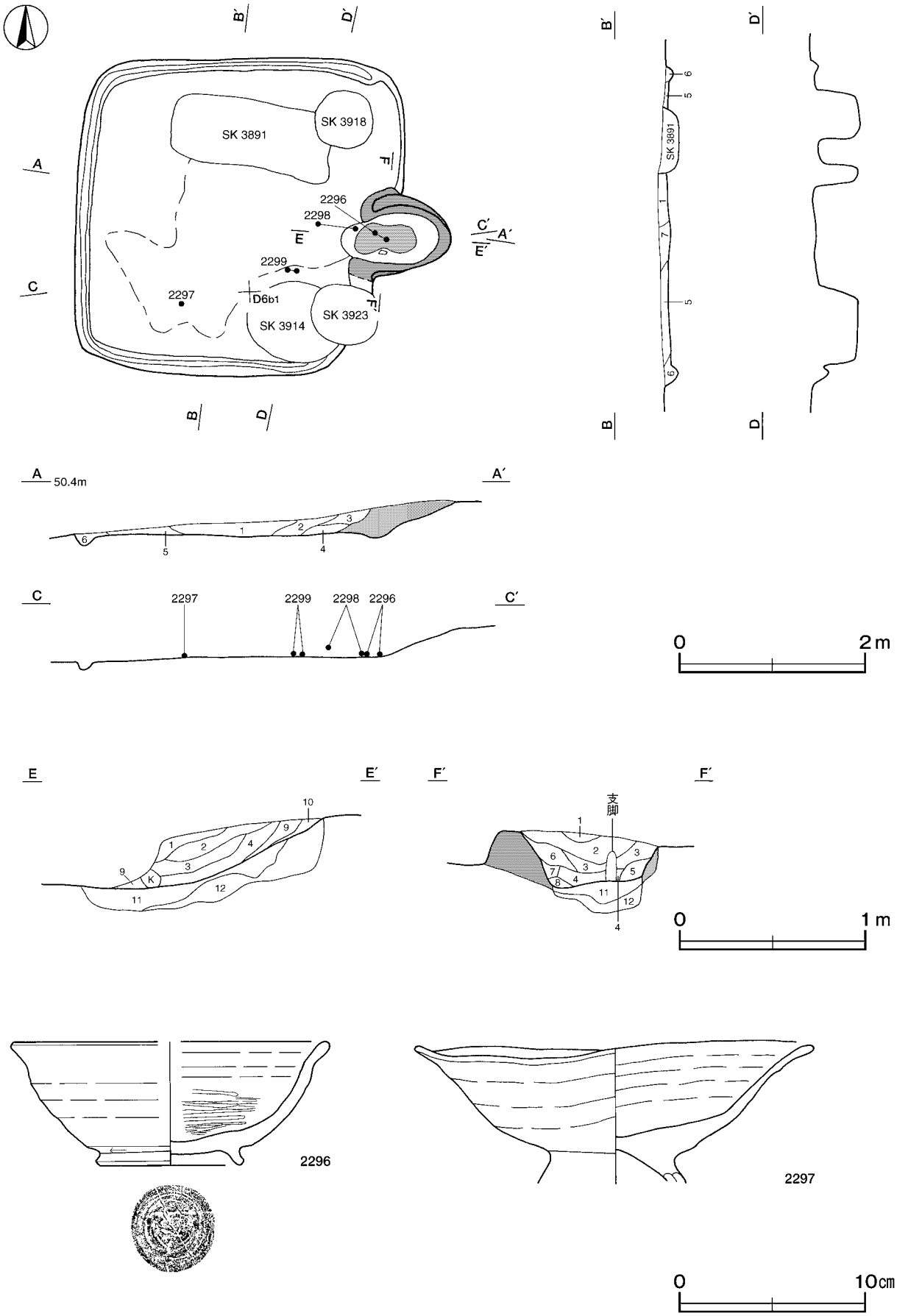
覆土　７層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

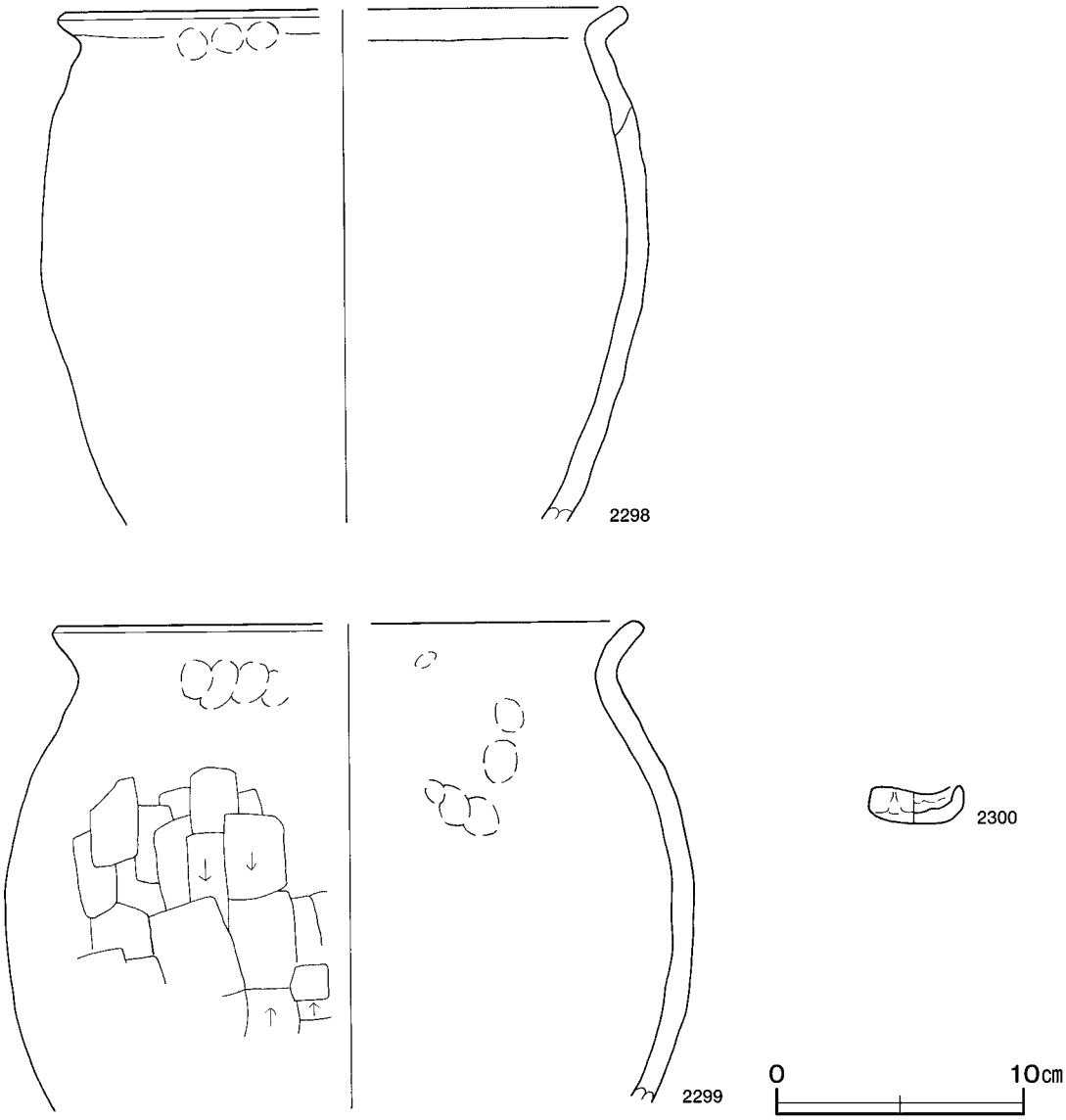
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片117点（坏37，高台付椀４，甕76），手捏土器１点が，竈周辺に集中するように出土している。また，流れ込んだ縄文土器片２点，弥生土器片１点，須恵器片４点（坏２，蓋１，甕１），も出土している。2296は竈内から，2298は竈内と床面から出土した破片が接合したものである。2299は竈前面の床面，2297は南壁寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀中葉と考えられる。



第192図　第402号住居跡・出土遺物実測図



第193図　第402号住居跡出土遺物実測図

第402号住居跡出土遺物観察表（第192・193図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2296	土師器	高台付椀	[16.7]	6.6	7.5	石英･長石･雲母	橙	普通	体部外面下端回転ヘラ削り	竈内	60%
2297	土師器	高台付椀	21.4	(7.6)	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ　体部下端回転ヘラ削り	床面	80%　PL78
2298	土師器	甕	[22.3]	(20.8)	－	石英・長石	灰褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　外面指頭痕輪積み痕	竈内	15%
2299	土師器	甕	[23.4]	(19.6)	－	石英･長石･雲母	黒褐	普通	体部外面ヘラ削り　体部内・外面指頭痕	床面	20%
2300	手捏土器	－	3.6	1.6	3.5	石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面指頭痕	覆土中	60%　PL77

第403号住居跡（第194・195図）

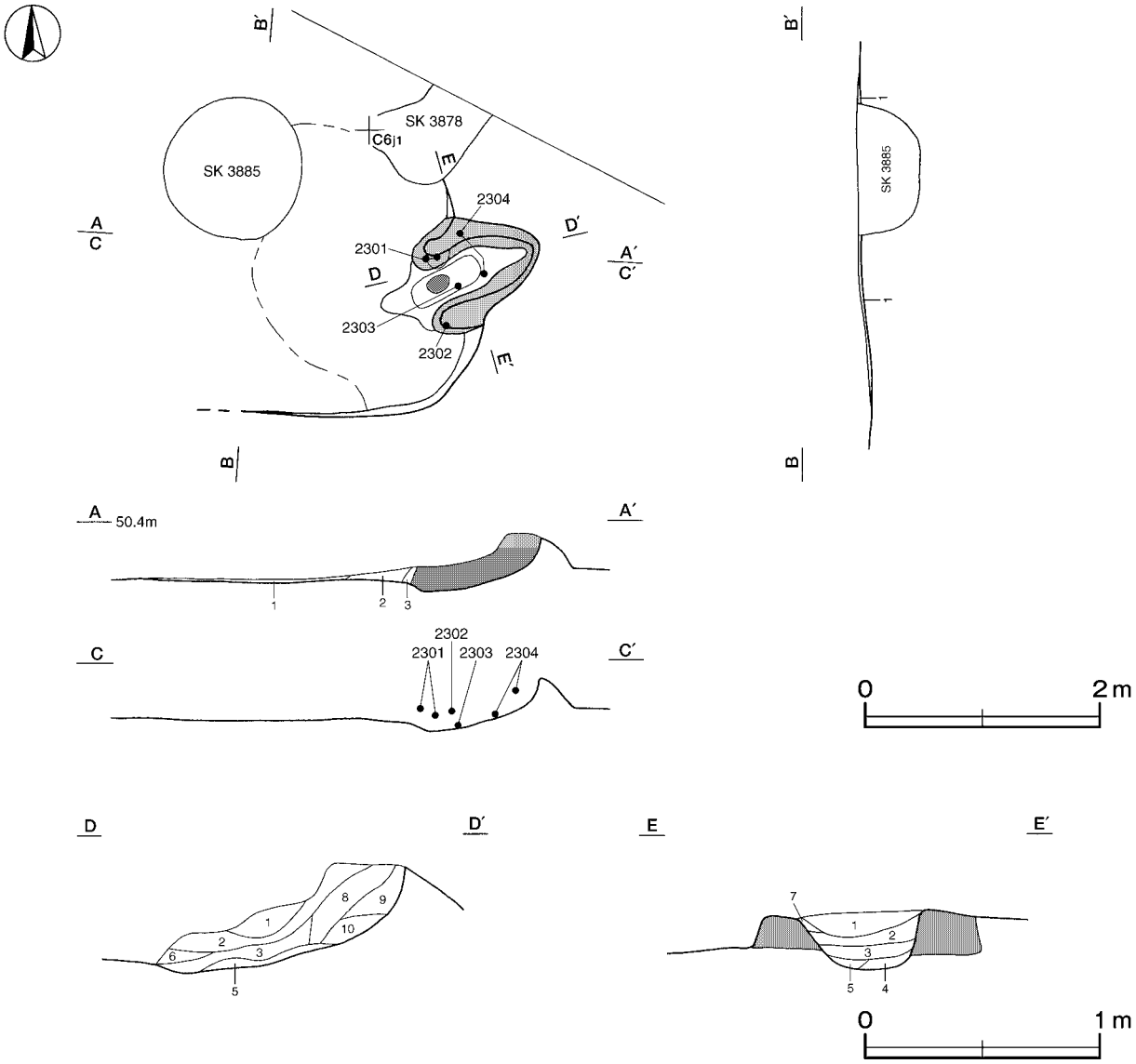
位置　西部４区東部のＣ６ｊ１区で，標高50mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3878・3885号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　壁がほとんど残存していないため，規模や形状は明確ではない。確認された範囲は，東西軸2.48m，南北軸2.22mで，平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はＮ－76°－Ｅである。壁高は16cmほどで，南東コーナー部だけが残存している。

床　ほぼ平坦で，竈前面が踏み固められている。

竈　東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで142cm，袖部幅101cmである。袖部は床面と同じ高さに砂質粘土を貼り付けて構築されている。袖の内側は火熱を受けて赤変している。火床部は床面を７cmほど掘りくぼめており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ半円形状に62cmほど掘り込まれ，緩やかに立ち上がっている。



第194図　第403号住居跡実測図

竈土層解説

1　灰　褐　色　砂質粘土ブロック・炭化粒子少量,焼土ブロック・ローム粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子少量，砂質粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
3　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，砂質粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
6　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量
8　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，砂質粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
9　黒　褐　色　砂質粘土ブロック・焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
10　極 暗 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物微量

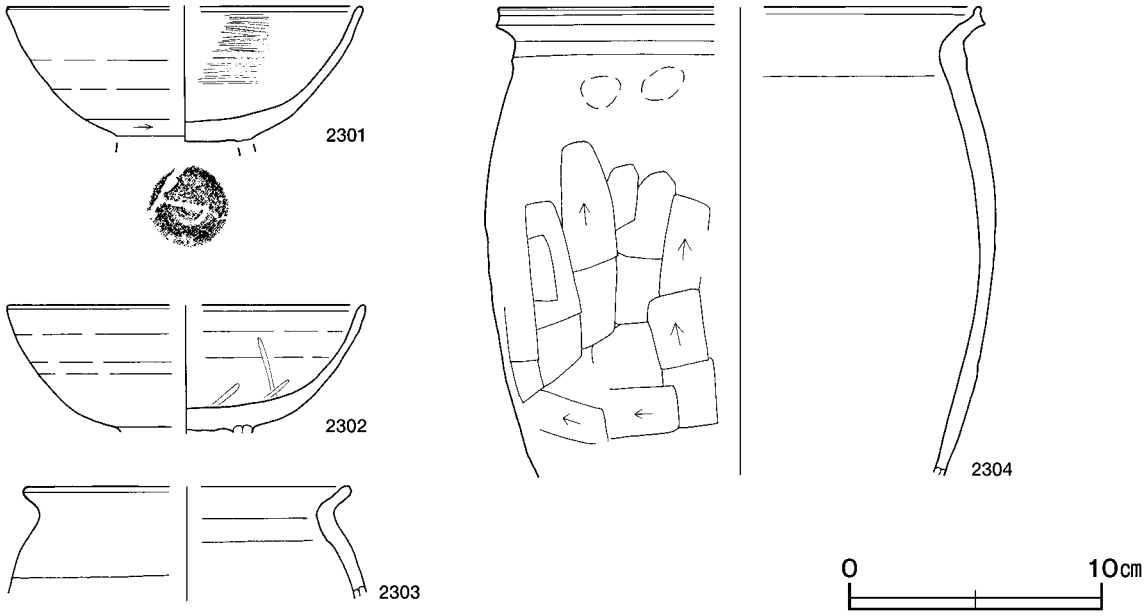
覆土　３層に分層される。層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量,焼土ブロック･粘土ブロック少量
3　にぶい褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量

遺物出土状況　土師器片40点（坏11，高台付椀２，甕26，甑１），須恵器片１点（甕）が，竈内に集中するようにして出土している。2304は竈内から出土した破片が接合したものである。2303は竈内，2301は竈左袖，2302は竈右袖からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀中葉と考えられる。



第195図　第403号住居跡出土遺物実測図

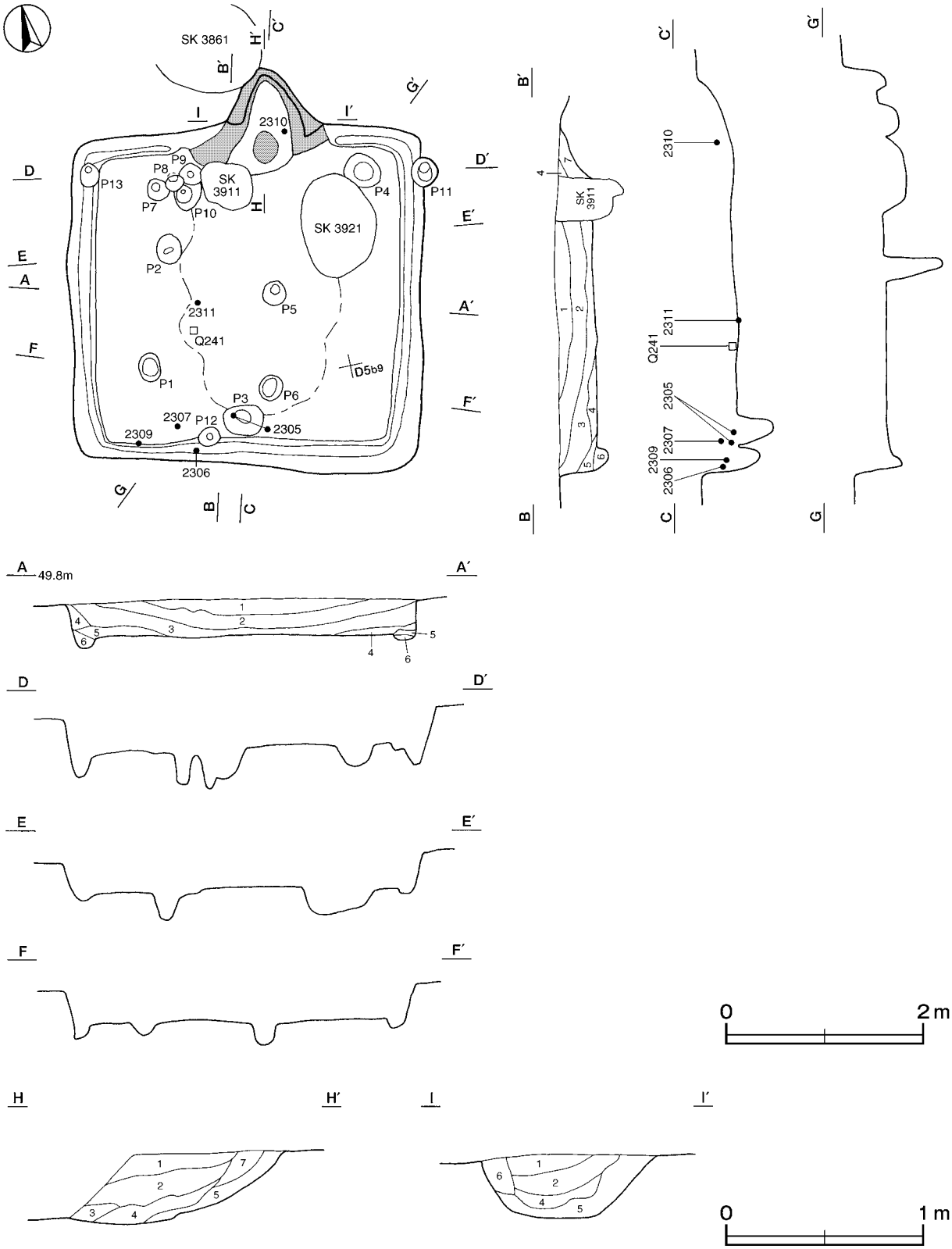
第403号住居跡出土遺物観察表（第195図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2301	土師器	高台付椀	[14.0]	(5.3)	－	赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　体部下端回転ヘラ削り　高台貼付け	竈袖部	40%
2302	土師器	高台付椀	[14.0]	(5.0)	－	雲母・白色粒子	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　高台貼付け	竈袖部	30%
2303	土師器	小形甕	[12.7]	(4.5)	－	石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	竈内	10%
2304	土師器	甕	[19.0]	(18.5)	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　指頭痕	竈内	10%

第404号住居跡（第196～198図）

位置　西部４区東部のＤ５a8 区で，標高50mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3861・3911・3921号土坑に掘り込まれている。



第196図　第404号住居跡実測図

規模と形状　長軸3.60m，短軸3.56mの方形で，主軸方向はN－15°－Eである。壁高は47～60cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が全周しており，断面形は逆台形を呈している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで115cm，袖部幅142cmである。袖部は床面と同じ高さに少量の粘土を混ぜた暗褐色土で構築されている。火床部は床面を５cmほど掘りくぼめられており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形状に51cmほど掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量
2	黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
3	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化物・砂質粘土粒子微量
5	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
6	極暗褐色	焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
7	褐色	焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量

ピット　13か所。P1・P2は深さ14cm・27cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は深さ47cmで，南壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4～P13は深さ20～60cmで，性格は不明である。

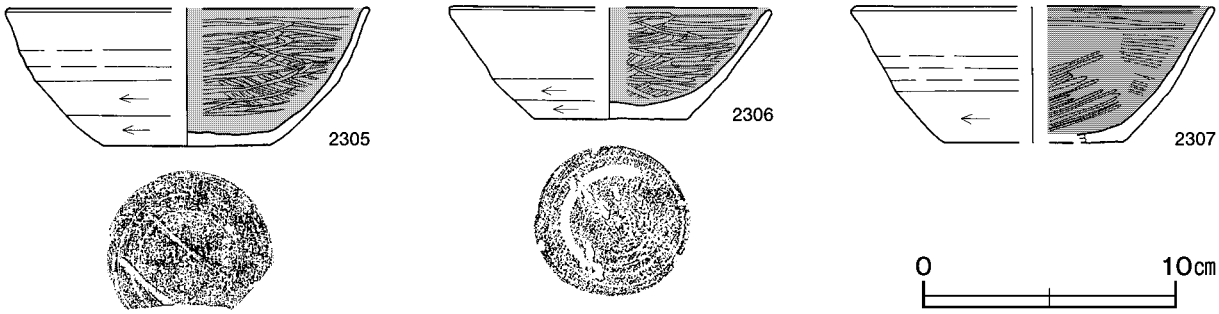
覆土　７層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

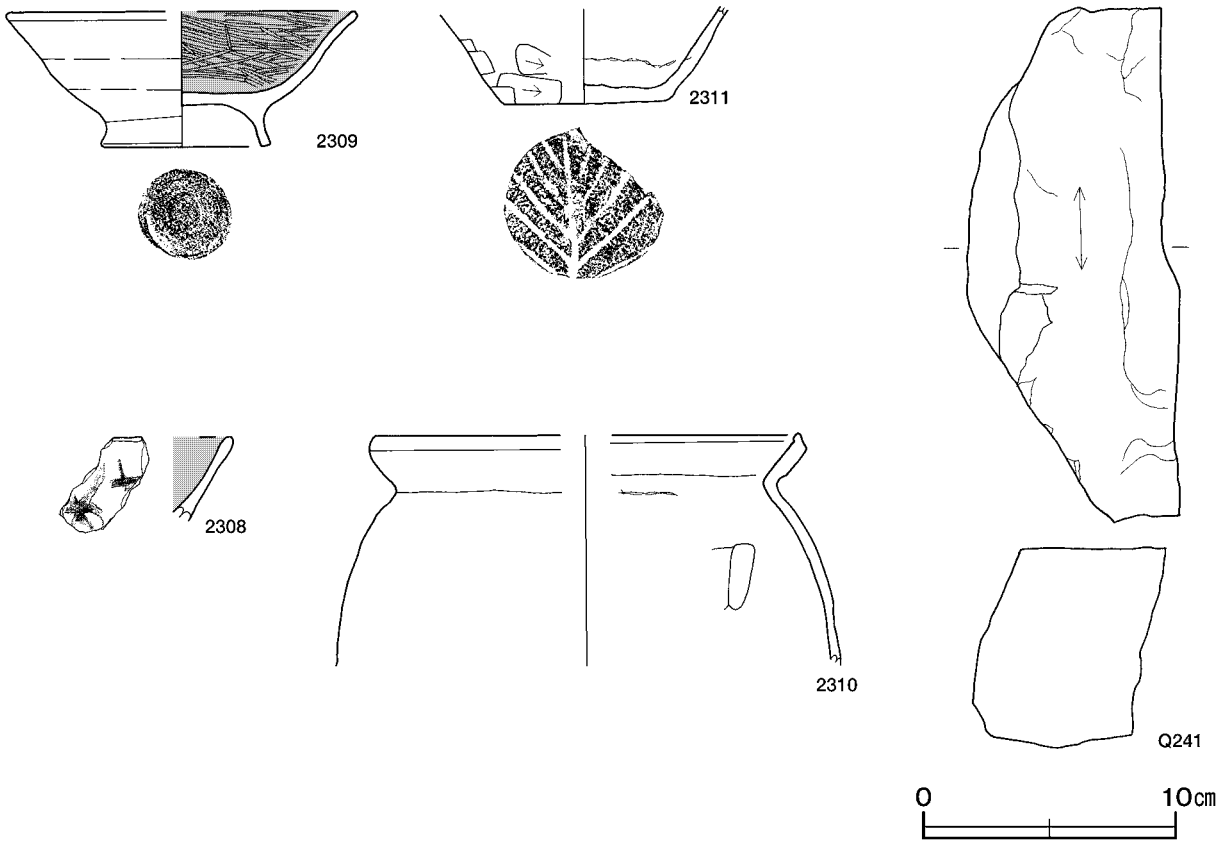
1	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
4	暗褐色	ロームブロック少量
5	暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子中量
7	暗褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片466点（坏61，高台付椀12，甕393），須恵器片23点（坏11，高台付坏３，甕９）石器１点（砥石），土製品１点（支脚），中礫17点が，竈から竈前面の覆土下層や南壁際に散在するように覆土中層から下層にかけて出土している。2306・2307・2309は南壁際の覆土下層，2305はP3付近の覆土下層から出土した破片が接合したものである。2310は竈内，2311・Q241は中央部の床面，2308は北西部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀後葉と考えられる。



第197図　第404号住居跡出土遺物実測図(1)



第198図　第404号住居跡出土遺物実測図(2)

第404号住居跡出土遺物観察表（第197・198図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2305	土師器	坏	[14.3]	5.5	6.8	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り	覆土下層	50%
2306	土師器	坏	[12.6]	4.5	6.2	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り	覆土下層	45%
2307	土師器	坏	[14.2]	5.5	[7.2]	石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き　体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り	覆土下層	30%
2308	土師器	坏	－	(3.3)	－	石英･長石･雲母	橙	普通	内面黒色処理　内面ヘラ磨き	覆土中	墨書「大□」
2309	土師器	高台付椀	[13.8]	5.4	6.6	石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　高台貼付け後ロクロナデ	覆土下層	60%　PL76
2310	土師器	甕	[17.0]	(9.2)	－	石英･長石･雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　内面ヘラナデ	竈内	5％
2311	土師器	甕	－	(3.8)	6.4	石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り　底部木葉痕	床面	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q241	砥石	20.5	8.5	8.0	1630.0	石英	砥面１面	床面	PL87

第405号住居跡（第199・200図）

位置　西部４区東部のＣ５ｉ6 区で，標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3900～3904号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　壁がほとんど残存していないため，規模や形状は明確ではない。確認された範囲は，東西軸2.11m，南北軸1.78mで，平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はN－90°－Eである。残存している東部から南部の一部の壁高は４cmほどである。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　東壁中央部から南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで79cmで，残存している袖部幅は80cmほどである。袖部は床面と同じ高さに粘土を少量混ぜた黒褐色土で構築されている。火床部は床面を５cmほど掘りくぼめており，火床面は赤変した部分が確認されなかった。煙道部は壁外へ48cmほど掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1	灰黄褐色	焼土粒子少量，砂質粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	
2	灰褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子中量，炭化物・ローム粒子微量	
3	暗褐色	砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	
4	暗赤褐色	焼土粒子中量，ロームブロック・炭化物微量	
5	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	

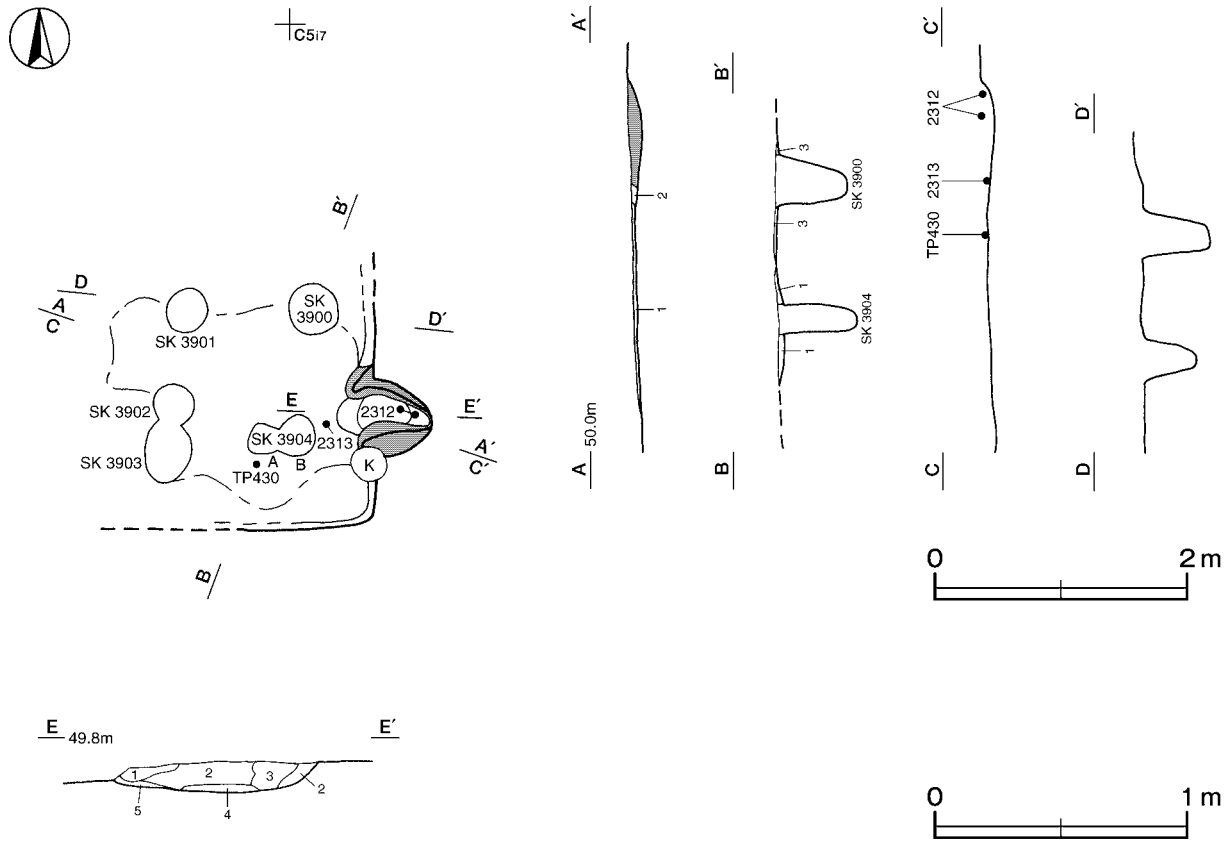
覆土　３層に分層される。層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

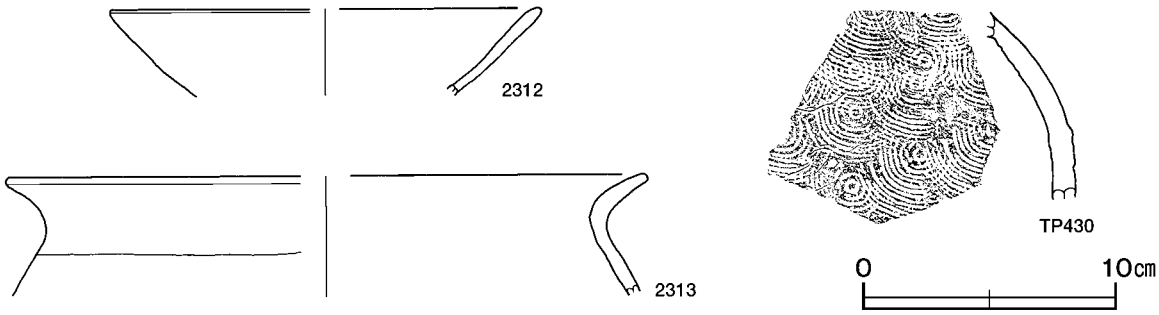
1	極暗褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
2	極暗褐色	粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片28点（椀１，甕27）が，竈内と竈前面の覆土中から出土している。また，流れ込んだ須恵器片４点（坏２，高台付坏１，甕１）も出土している。2312は，竈内から出土した破片が接合したものである。2313は，竈前面の床面から出土している。

所見　時期は，遺構の形態及び出土土器から10世紀後半以降と推測される。



第199図　第405号住居跡実測図



第200図　第405号住居跡出土遺物実測図

第405号住居跡出土遺物観察表（第200図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2312	土師器	椀	[17.0]	(3.4)	－	石英･長石･雲母	にぶい黄褐	普通	ロクロナデ	竈内	10%
2313	土師器	甕	[25.0]	(4.8)	－	石英・長石	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	床面	5％

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP430	須恵器	甕	石英・雲母	黄灰	普通	体部外面同心円状の叩き	床面	PL83

第406号住居跡（第201図）

位置　西部４区東部のＣ５ｊ7 区で，標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第422号住居跡を掘り込み，第3858・3863・3890号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　西壁と南壁がほとんど残存していない。確認された範囲は，南北軸4.07m，東西軸2.67mで，平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はN－８°－Eである。残存している壁高は４～12cmで，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北壁に付設されており，右袖部の一部と火床部から煙道部までが残存している。規模は焚口部から煙道部まで87cmである。袖部の下部は幅24cmで，床面と同じ高さに粘土を貼り付けて構築されている。火床部は浅く楕円形状にくぼめており，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外へ半円形状に20cmほど掘り込まれていると推定され，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化物・ローム粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量
3　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ロームブロック・炭化物微量
6　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

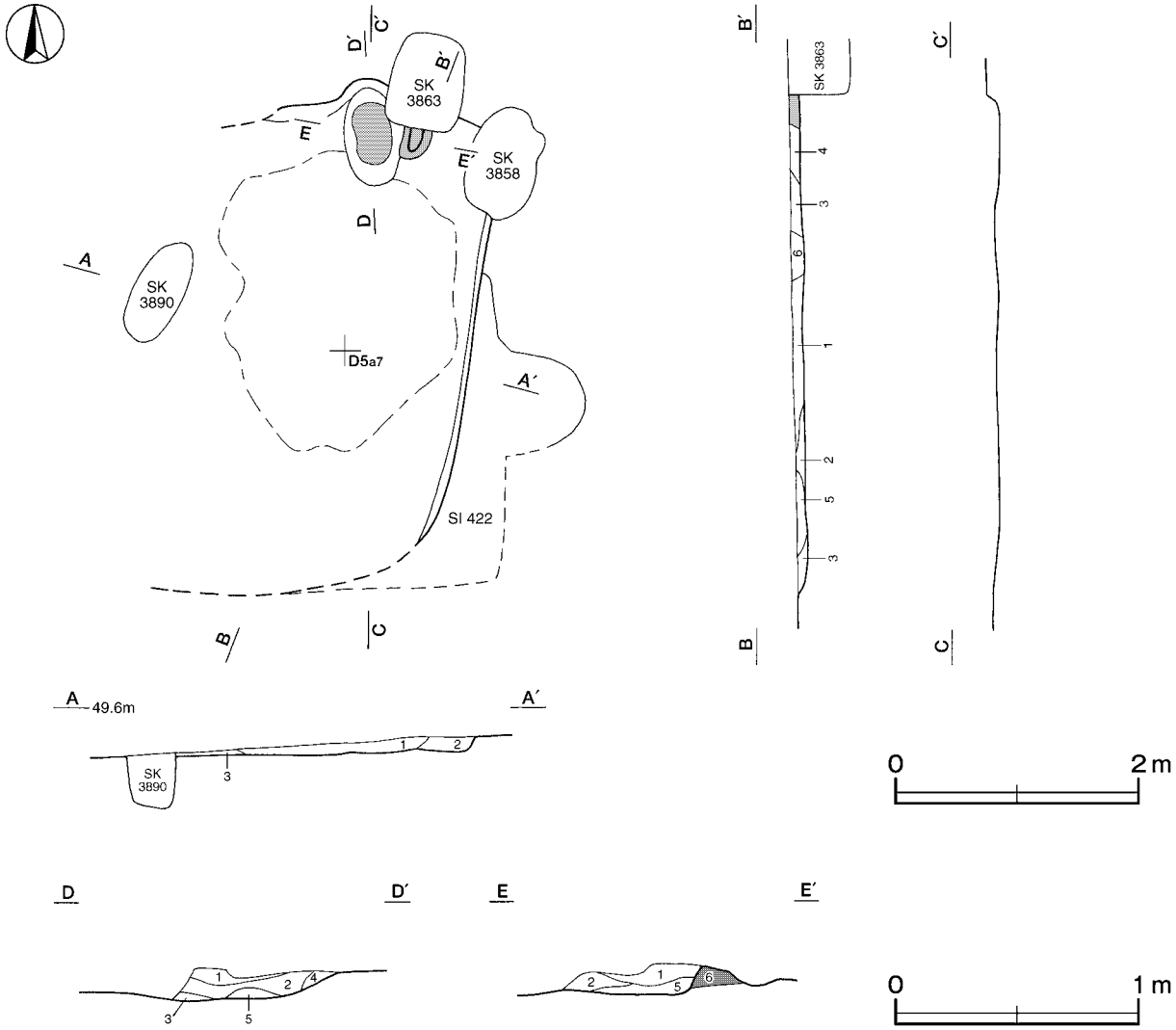
覆土　６層に分層される。ブロック状に不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片79点（坏26，高台付椀２，小皿２，甕49）が，竈前面から中央部の床面にかけての覆土中から細片で出土している。また，流れ込んだ土師器片１点（高坏），須恵器片４点（坏３，高台付坏１）も出土している。

所見　時期は，出土土器が細片で図示するものがなく判断は難しいが，重複関係及び出土土器から10世紀後半と考えられる。



第201図　第406号住居跡実測図

第407号住居跡（第202・203図）

位置　西部４区東部のＣ５ｉ5区で，標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3915～3917・3968・3969号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.08m，短軸2.65mの長方形で，主軸方向はＮ－０°である。壁高は12～15㎝で，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が全周しており，断面形はＵ字状を呈している。貯蔵穴の北西部には，粘土を貼り付けた幅25㎝ほどのわずかな高まりが確認されている。

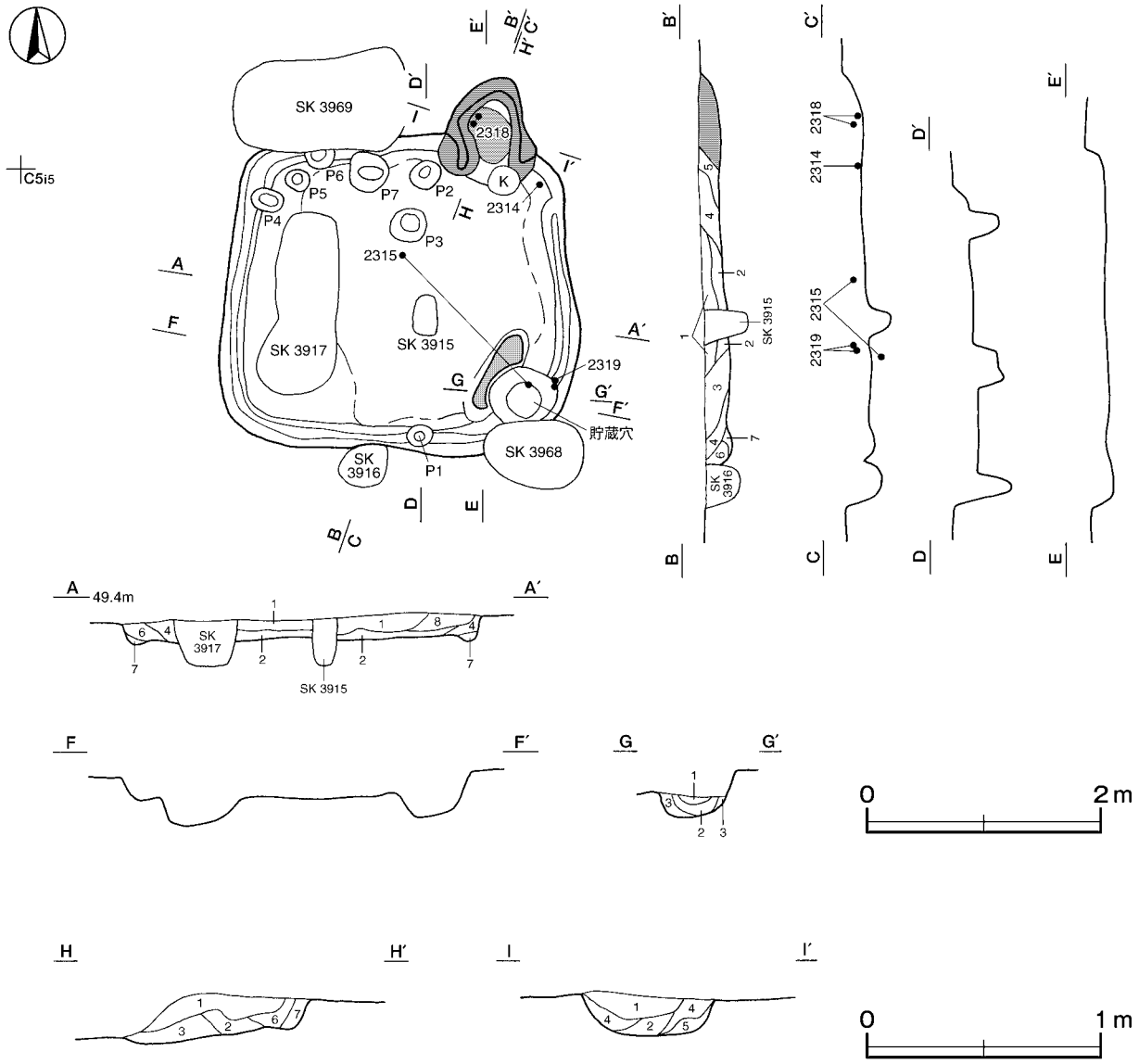
竈　北東コーナー部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで83cm，袖部幅82cmである。袖部は床面と同じ高さに砂質粘土を少量混ぜた黒褐色土で構築されている。火床部は楕円形状にわずかに掘りくぼめられ，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外へ三角形状に56cmほど掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量
2　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗 赤 灰 色　焼土粒子中量，砂質粘土ブロック少量，炭化物・ローム粒子微量
4　黒　褐　色　焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量
5　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
7　褐　　色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量

ピット　7か所。P1は深さ28cmで，南壁際にあることとその周辺の硬化面の状況から，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2～P7は深さ17～29cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径56cm，短径52cmの円形で，深さは18cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに立ち上がっている。



第202図　第407号住居跡実測図

貯蔵穴土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

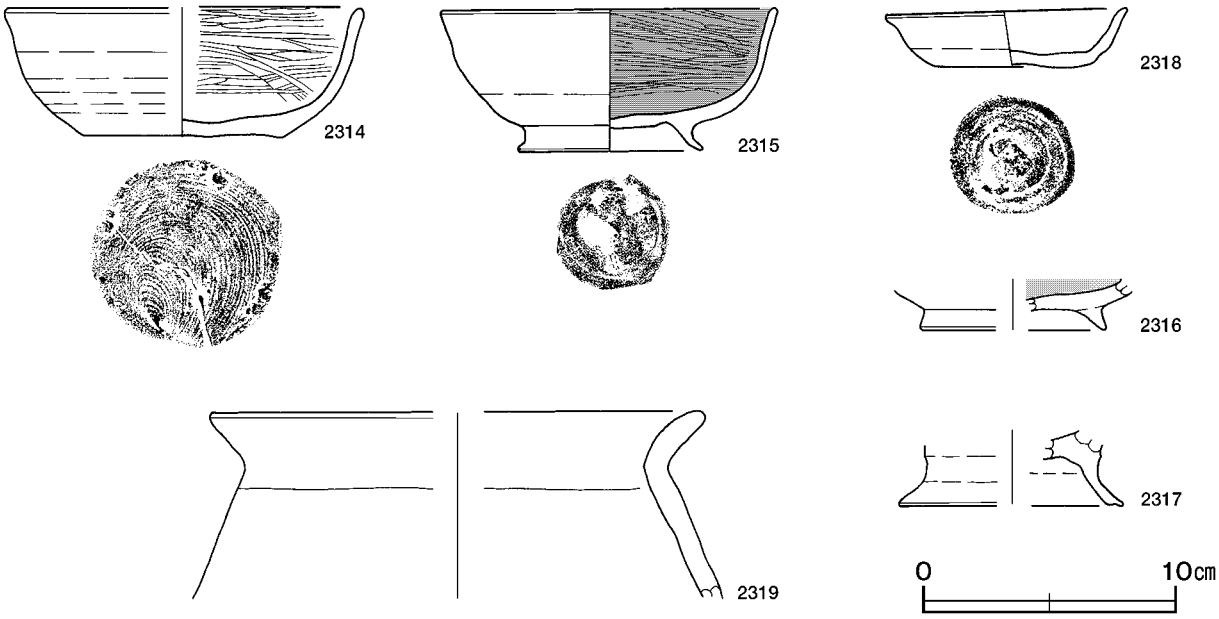
覆土　８層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック少量，炭化物・ローム粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック微量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化物微量
8　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片81点（坏28，高台付椀３，小皿１，甕49）中礫２点が，竈及び東部の覆土中層から下層にかけて出土している。また，流れ込んだ須恵器片４点（坏３，高台付坏１）も出土している。2318は竈の火床部から斜位で出土した破片が接合したものである。2315は貯蔵穴から正位で出土した破片と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。2314は北東コーナー部の床面から出土し，2319は南東コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から10世紀中葉と考えられる。貯蔵穴の北西部に貼り付けられた粘土は，貯蔵穴の壁が崩れるのを防ぐために補強したものと考えられる。



第203図　第407号住居跡出土遺物実測図

第407号住居跡出土遺物観察表（第203図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2314	土師器	坏	[14.1]	5.1	7.7	雲母	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き　底部回転糸切り	床面	70%
2315	土師器	高台付椀	13.2	5.6	7.2	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後高台貼付け	貯蔵穴	90%　PL76
2316	土師器	高台付椀	－	(2.0)	[7.2]	石英・長石・白色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土中	10%
2317	土師器	高台付椀	－	(3.0)	[8.8]	石英・長石	橙	普通	高台貼付け後ロクロナデ	覆土中	５%
2318	土師器	小皿	9.4	2.3	6.5	石英･長石･雲母	明黄褐	普通	底部回転ヘラ切り	竈内	80%　PL76
2319	土師器	甕	[19.2]	(7.4)	－	石英・長石	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	５%

第408号住居跡（第204・205図）

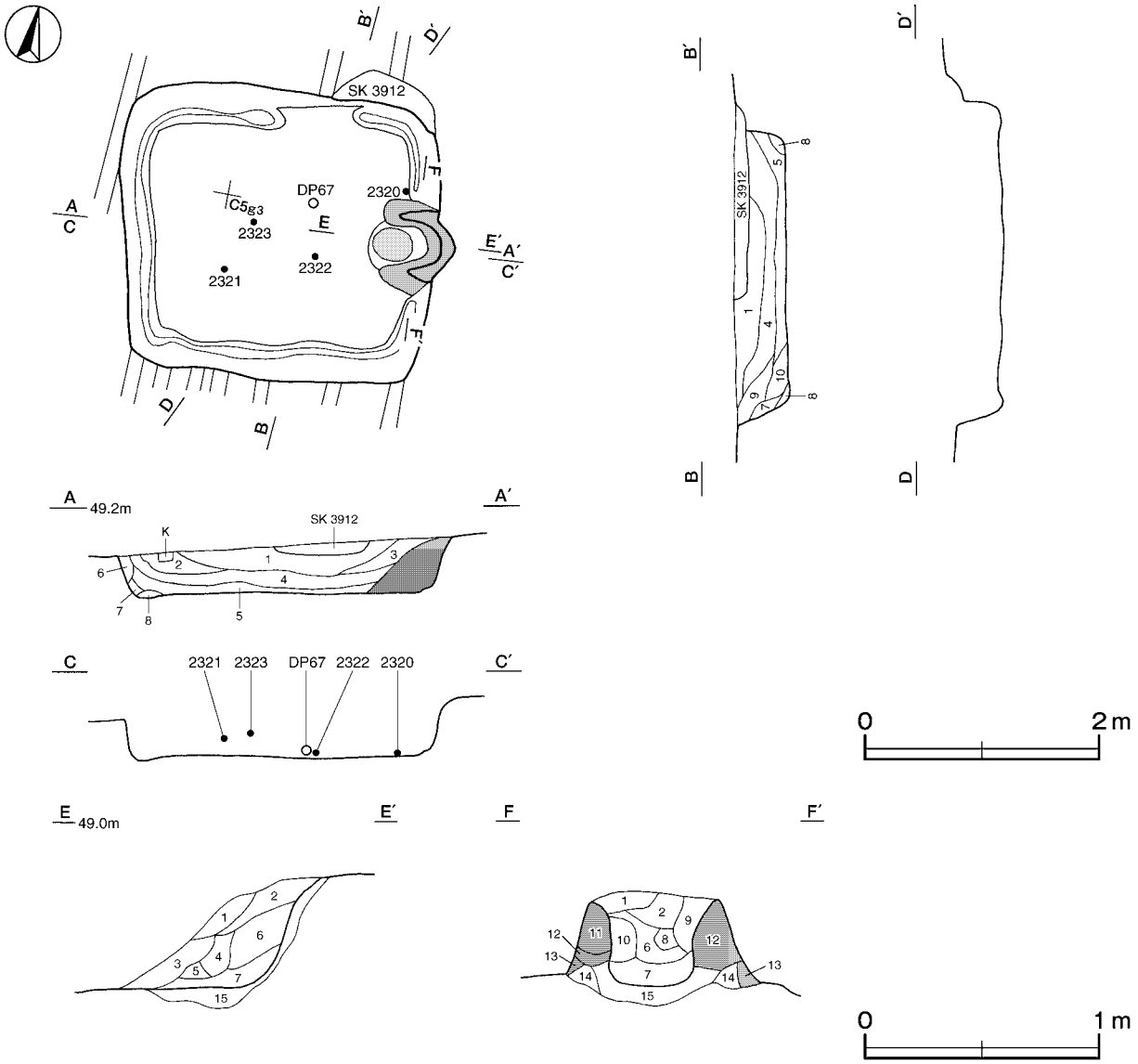
位置　西部４区東部のＣ５g3 区で，標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3912号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸2.75m，短軸2.53mの方形で，主軸方向はＮ－81°－Ｅである。壁高は40cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，全面が硬化している。壁溝がほぼ全周している。

竈　東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで59cm，袖部幅84cmである。袖部は床面を21cm掘りくぼめたところへローム土や少量の粘土を充填して基部としており，砂質粘土を積み重ねて構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦な面を使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へわずかに掘り込まれ，火床部より外傾して立ち上がっている。



第204図　第408号住居跡実測図

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物微量
4　にぶい褐色　砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6　にぶい赤褐色　砂質粘土ブロック・焼土ブロック少量，炭化物・ローム粒子微量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒　褐　色　砂質粘土ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
10　暗 赤 褐 色　砂質粘土ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
11　明　褐　色　砂質粘土ブロック･ローム粒子少量,焼土粒子微量
12　にぶい褐色　砂質粘土ブロック・焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
13　褐　　色　焼土粒子中量，ローム粒子・砂質粘土粒子少量
14　灰　褐　色　砂質粘土ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
15　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量

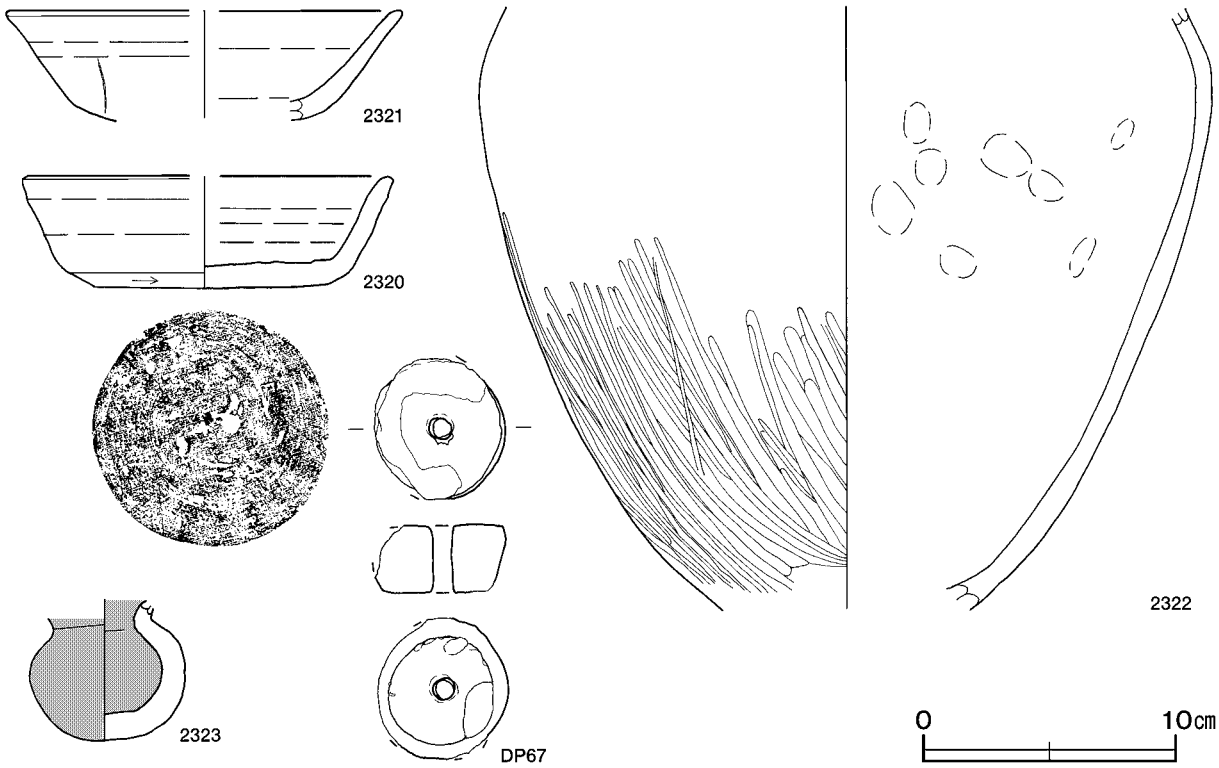
覆土　10層に分層される。周囲から土砂が流入した様相から，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
6　暗　褐　色　ロームブロック微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量
9　暗　褐　色　ローム粒子中量
10　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片63点(坏55，甕８)，須恵器片５点(坏３，高台付坏１，蓋１)，ミニチュア土器１点，土製品１点（紡錘車)，粘土塊１点（不明）が，覆土中層から下層にかけて散在するように出土している。また，流れ込んだ弥生土器片１点も出土している。2320は竈の左袖部付近の覆土下層から正位で，2321は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。2322は中央部の覆土下層から横位で出土している。2323は中央部の覆土中層，DP67は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉と考えられる。



第205図　第408号住居跡出土遺物実測図

第408号住居跡出土遺物観察表（第205図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2320	須恵器	坏	[14.4]	4.5	9.3	石英・長石	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り	覆土下層	65%　PL74
2321	須恵器	坏	[15.8]	(4.3)	－	石英・長石	灰白	普通	ロクロナデ	覆土下層	10% 外面刻書
2322	土師器	甕	－	(23.9)	－	石英･長石･雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面指頭痕	覆土下層	40%
2323	ミニチュア土器	－	－	(5.6)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ナデ	覆土中層	70%　PL77

番号	種別	径	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
DP67	紡錘車	5.57～(4.14)	2.71	(87.5)	石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	普通	断面逆台形　外面ナデ	覆土下層	PL85

第409号住居跡（第206・207図）

位置　西部４区東部のＣ５g1 区で，標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第103号井戸に掘り込まれている。

規模と形状　一辺4.47mの方形で，主軸方向はＮ－29°－Ｗである。壁高は45～61㎝で，緩やかに立ち上がっている。

床　やや凹凸が見られる。中央部が踏み固められており，わずかに高まっている。壁溝がほぼ全周しており，断面形はU字状を呈している。なお，北壁下及び南壁下の壁溝は掘り直した形跡が確認された。

竈　北西壁中央部から東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで119㎝，袖部幅149㎝である。袖部は床面と同じ高さに砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形で深さ６㎝ほど掘りくぼめられており，火床面の赤変した部分は確認されなかった。煙道部は壁外へ三角形状に39㎝ほど掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。天井部の一部が残存しており，火熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

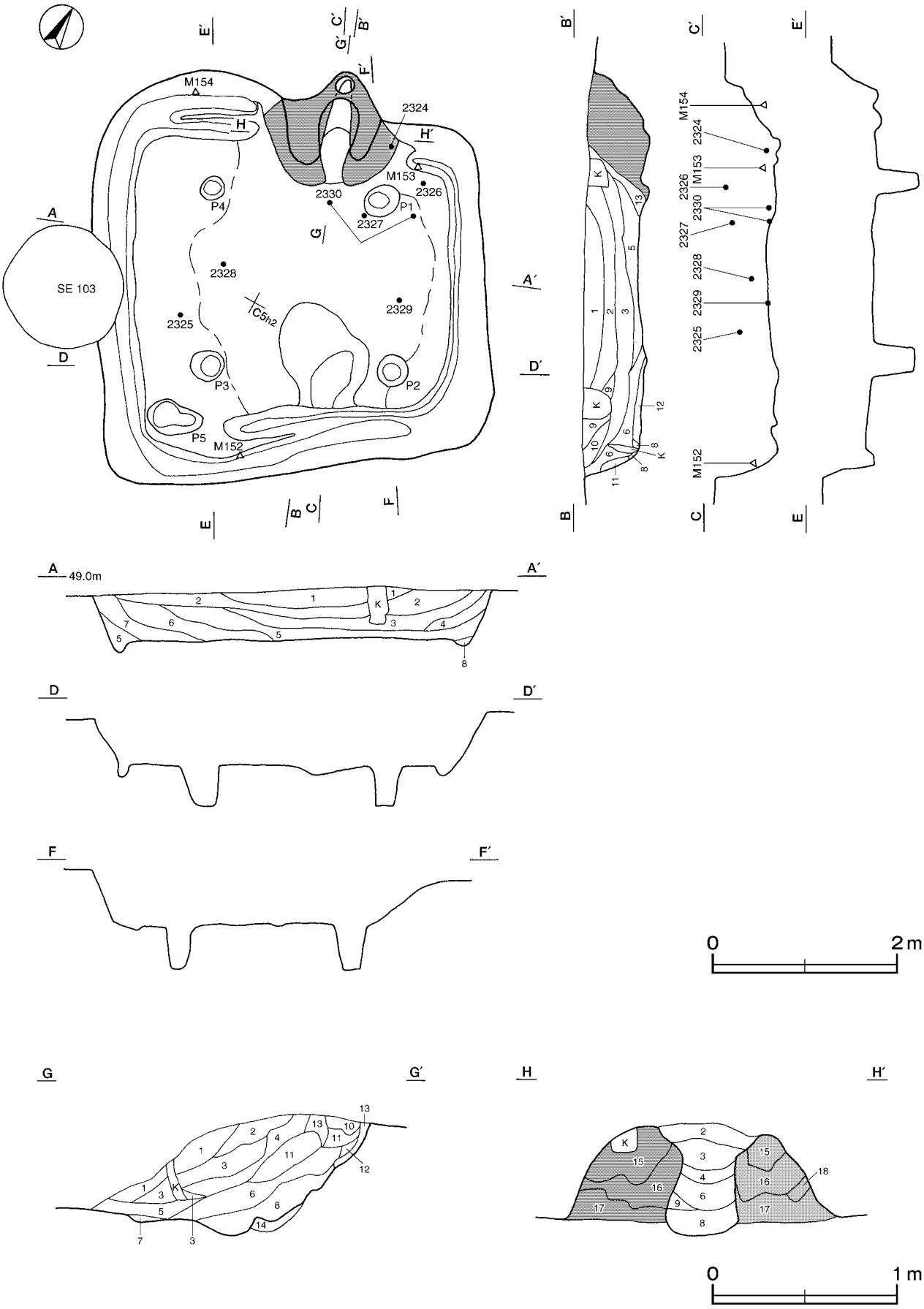
1　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量
2　黒　褐　色　砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3　灰　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，炭化物・ローム粒子微量
4　灰　褐　色　焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
6　にぶい赤褐色　砂質粘土ブロック・焼土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
8　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
9　灰　褐　色　砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
10　黒　褐　色　焼土粒子少量，砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
11　黒　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
12　黒　褐　色　ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
13　にぶい赤褐色　砂質粘土ブロック多量，焼土粒子少量
14　明　褐　色　ロームブロック中量，砂質粘土粒子微量
15　黒　褐　色　砂質粘土ブロック中量，ローム粒子微量
16　褐　　色　砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
17　褐　　色　ロームブロック･砂質粘土ブロック･焼土粒子少量
18　黒　　色　ロームブロック少量，砂質粘土ブロック微量

ピット　５か所。P1 ～ P4 は深さ44～47㎝で，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5 は深さ18㎝で，性格は不明である。

覆土　13層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

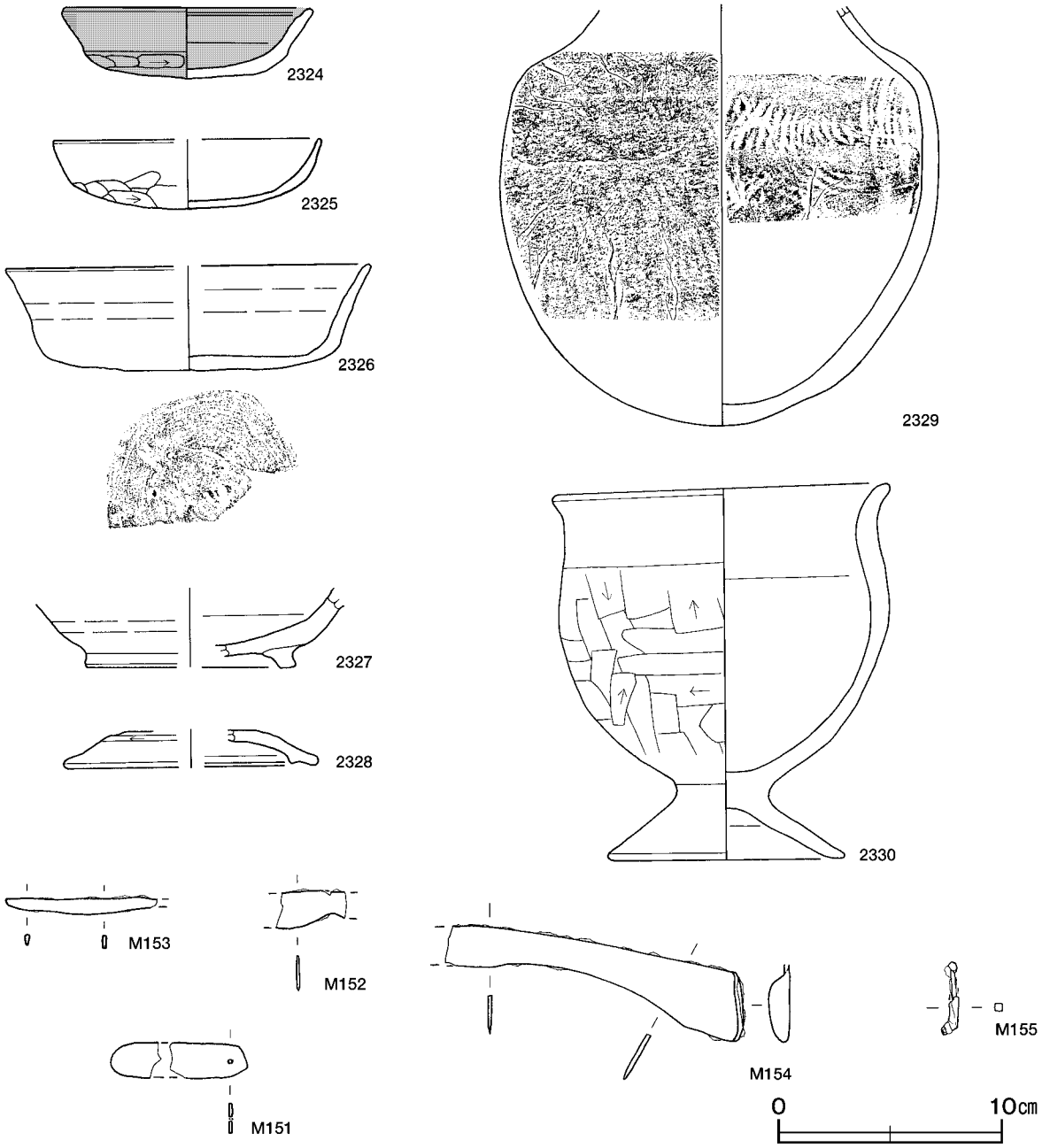
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　焼土ブロック･炭化物･ローム粒子･粘土粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
9　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
10　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量
12　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
13　にぶい褐色　粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量



第206図　第409号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片773点（坏224，甕548，甑１），須恵器片29点（坏12，高台付坏２，蓋６，瓶類１，甕８），鉄製品５点（刀子２，鎌１，釘１，不明１）が，覆土上層から下層にかけて出土しており，竈前面からの出土が顕著である。2324は完形で，竈の右袖部から正位で出土している。2328は中央部の覆土中層，2329は中央部の東壁寄りの床面からそれぞれ出土している。2330は竈前面から出土した破片が接合したものである。M153は北コーナー部の覆土下層，M154は西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。住居の形態と壁溝の状況から，北壁や南壁は拡張されたと考えられる。



第207図　第409号住居跡出土遺物実測図

第409号住居跡出土遺物観察表（第207図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2324	土師器	坏	11.0	3.2	7.3	石英･長石･雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部手持ちヘラ切り	竈袖部	100%　PL74
2325	土師器	坏	[12.0]	3.1	－	赤色粒子･白色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　底部ヘラ削り	覆土中層	20%
2326	須恵器	坏	[16.2]	4.6	8.8	石英･長石･雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り	覆土上層	45%
2327	須恵器	高台付坏	－	(3.5)	[9.4]	石英・長石	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土上層	30%
2328	須恵器	蓋	[11.0]	(1.7)	－	石英・長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	10%
2329	土師器	甕	－	(19.0)	－	石英･長石･雲母	橙	普通	体部外面格子叩き　内面同心円状当て具痕	床面	65%
2330	土師器	台付甕	15.0	16.9	10.6	石英･長石･雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	床面	75%　PL80

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M151	不明	(5.8)	1.5	0.1	(3.38)	鉄	穿孔有	覆土中	PL90
M152	刀子	(3.2)	(1.7)	(0.1)	(1.96)	鉄	片関　刃部および茎部破損	覆土中層	PL90
M153	刀子	(6.8)	0.8	0.2	(3.22)	鉄	片関　茎部破損	覆土下層	PL90
M154	鎌	(13.3)	(5.2)	0.3	(29.5)	鉄	基部全面折り曲げ	覆土下層	PL90
M155	釘	(3.3)	0.8	0.33	(1.20)	鉄	上・下ともに破損	覆土中	PL90

第410号住居跡（第208・209図）

位置　西部４区東部のＤ５a2 区で，標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸3.48m，短軸2.50mの長方形で，主軸方向はＮ－０°である。壁高は60～68㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が南壁の一部を除いて周回しており，断面形はU字状を呈している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで140㎝，袖部幅101㎝である。袖部は床面と同じ高さの地山面を基部として，砂質粘土で構築されている。火床部は床面を４㎝ほど掘りくぼめており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ半円形状に67㎝ほど掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　灰　褐　色　粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　にぶい褐色　粘土ブロック多量，焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック・粘土ブロック微量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
7　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物微量
9　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
10　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
11　黒　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量
12　黒　褐　色　焼土粒子中量，粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
13　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子微量
14　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
15　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘土粒子微量

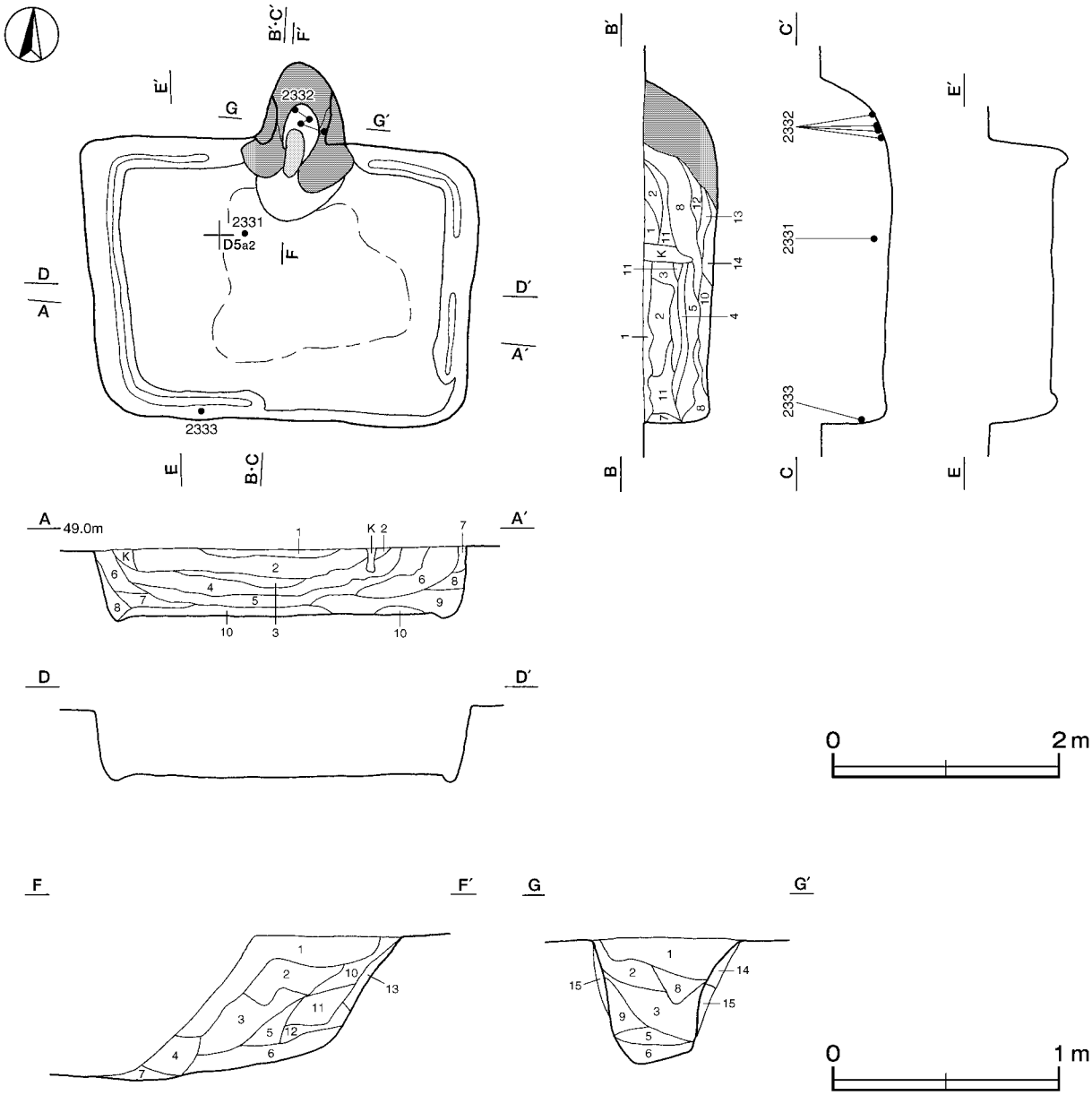
覆土　14層に分層される。ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子が不規則に含まれた堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

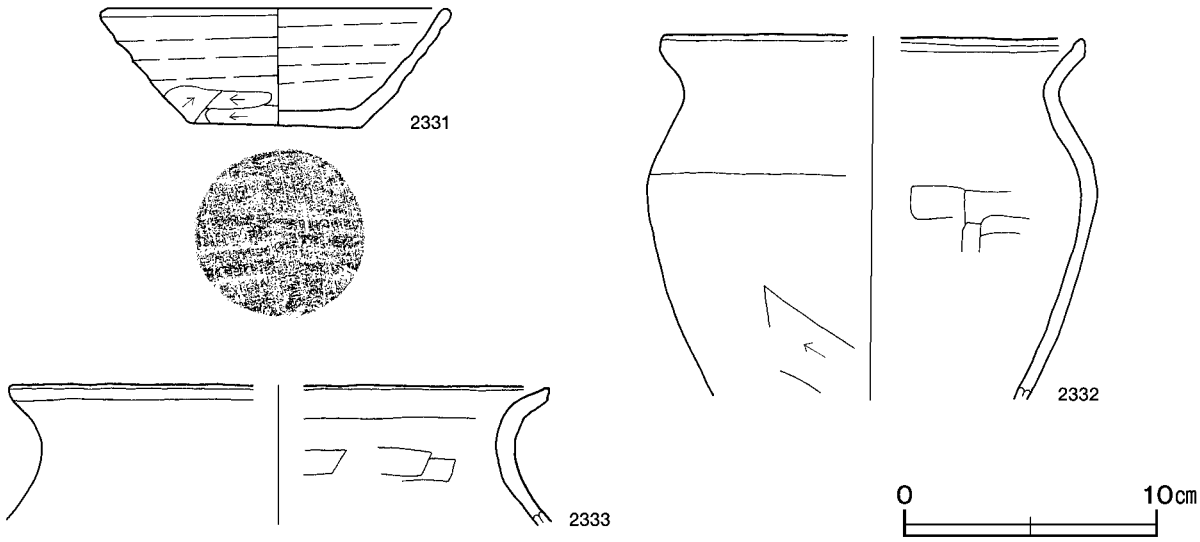
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　褐　　色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック微量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量
9　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
11　暗　褐　色　ローム粒子多量
12　黒　褐　色　粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
13　黒　褐　色　粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
14　暗　褐　色　粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況　土師器片135点（坏47，甕88），須恵器片14点（坏）が，竈内と中央部から南西コーナー部にかけての覆土下層から出土している。2331は竈前面の覆土下層から逆位で出土している。2332は竈内から出土した破片が接合したものである。2333は南西コーナー部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器及び遺構の形態から９世紀前葉と考えられる。



第208図　第410号住居跡実測図



第209図　第410号住居跡出土遺物実測図

第410号住居跡出土遺物観察表（第209図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2331	須恵器	坏	13.4	4.7	6.7	石英･長石･雲母･赤色粒子	灰褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向へのヘラ削り	覆土下層	70%　PL74 新治産
2332	土師器	甕	[16.6]	(14.3)	－	石英・長石	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	竈内	30%
2333	土師器	甕	[21.4]	(5.5)	－	石英･長石･雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　内面ヘラナデ	覆土中層	5％

第411号住居跡（第210～212図）

位置　西部４区東部のＣ５ｉ4 区で，標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第101・105号井戸，第34号ピット群に掘り込まれている。

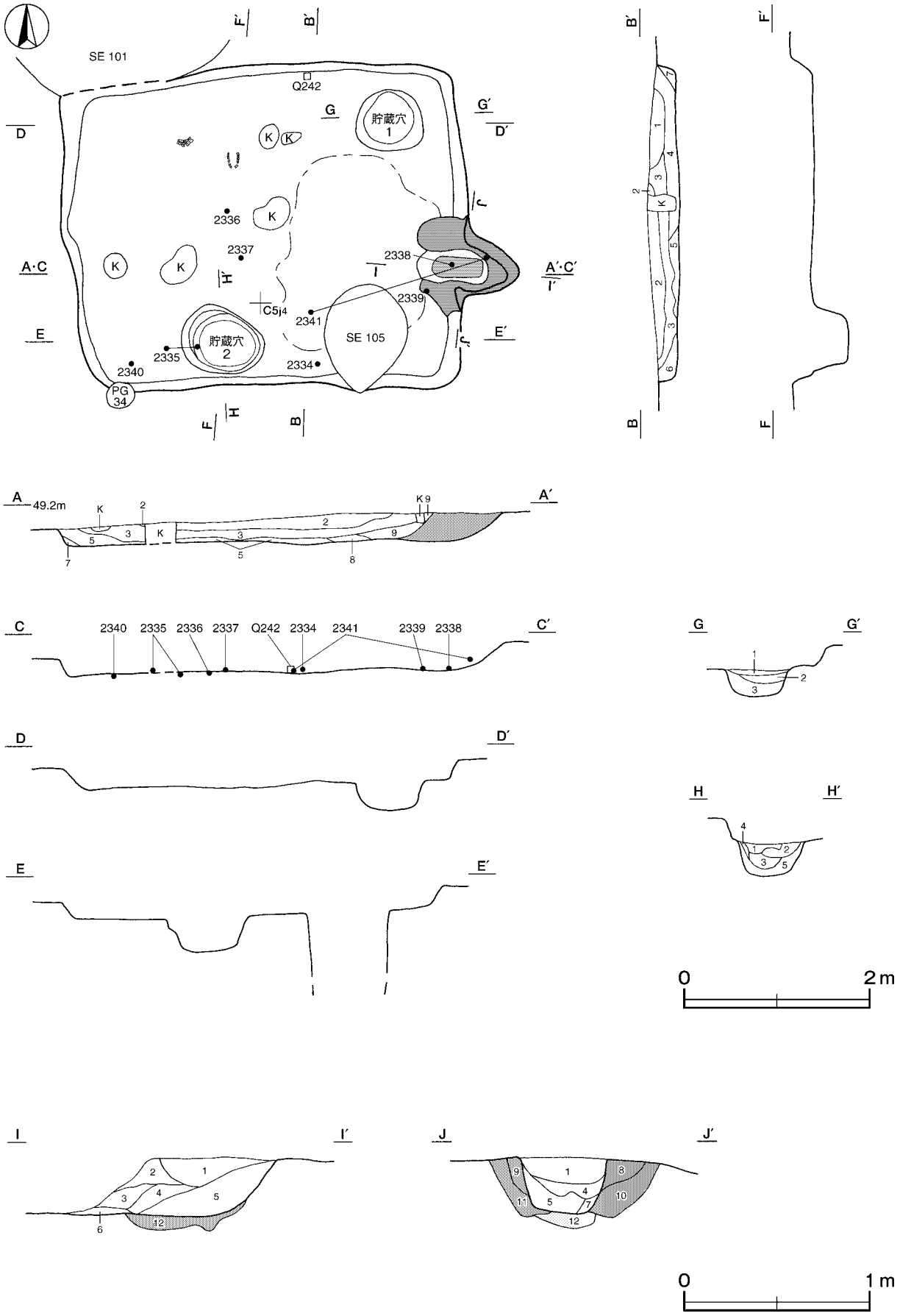
規模と形状　長軸4.35m，短軸3.52mの長方形で，主軸方向はＮ－90°－Ｅである。壁高は18～24㎝で，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面が踏み固められている。

竈　東壁中央部から南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで99㎝，袖部幅101㎝である。袖部は床面と同じ高さに砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦な面を使用しており，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外へ三角形状に61㎝ほど掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2　黒　褐　色　砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
4　黒　褐　色　砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
5　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
6　黒　褐　色　砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
7　黒　褐　色　砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック粒子・炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ローム粒子少量，砂質粘土粒子微量
9　暗　褐　色　砂質粘土ブロック少量，ローム粒子微量
10　褐　　色　ロームブロック中量,焼土粒子･砂質粘土粒子微量
11　灰　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，砂質粘土粒子微量
12　赤　　色　焼土粒子多量，ローム粒子微量



第210図　第411号住居跡実測図

貯蔵穴　２か所。貯蔵穴１は北東コーナー部に位置している。長径32cm，短径31cmの円形で，深さは30cmである。貯蔵穴２は南壁際に位置している。長径43cm，短径36cmの楕円形で，深さは36cmである。いずれも底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴１土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック多量

貯蔵穴２土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　赤　褐　色　ローム粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量

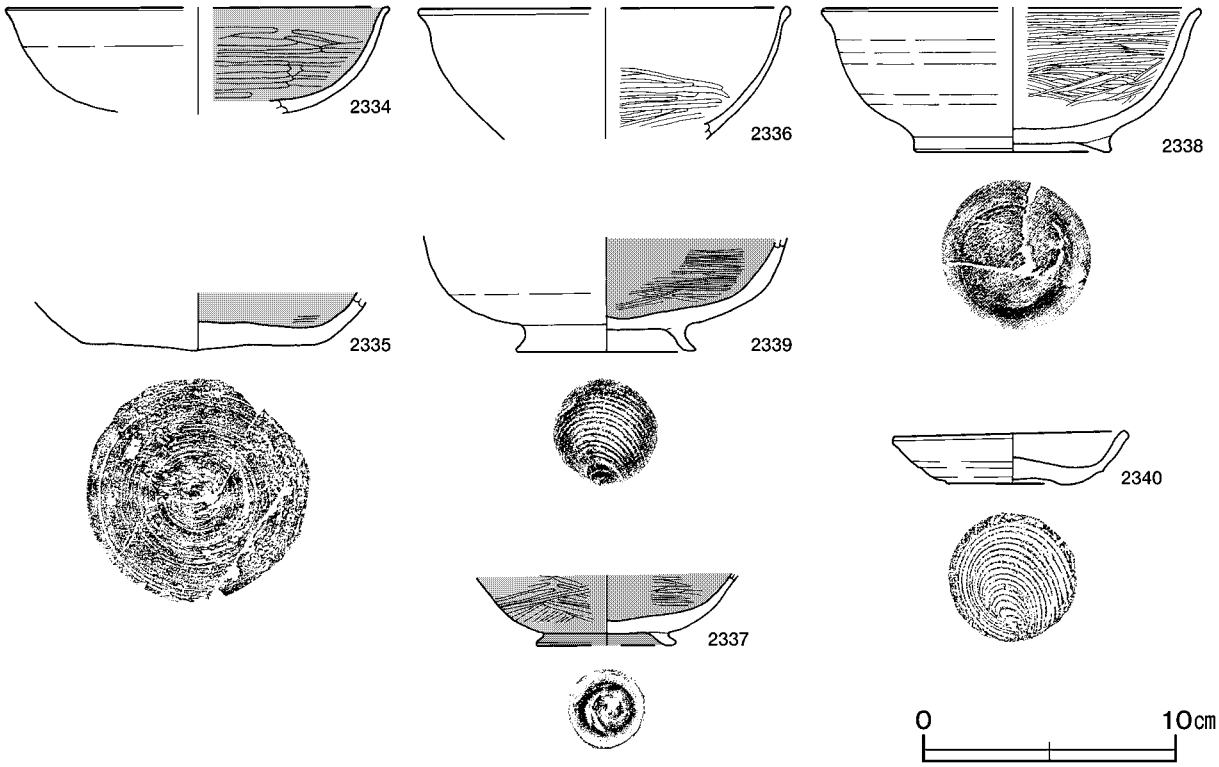
覆土　９層に分層される。周囲から土砂が流入した様相から，自然堆積と考えられる。

土層解説

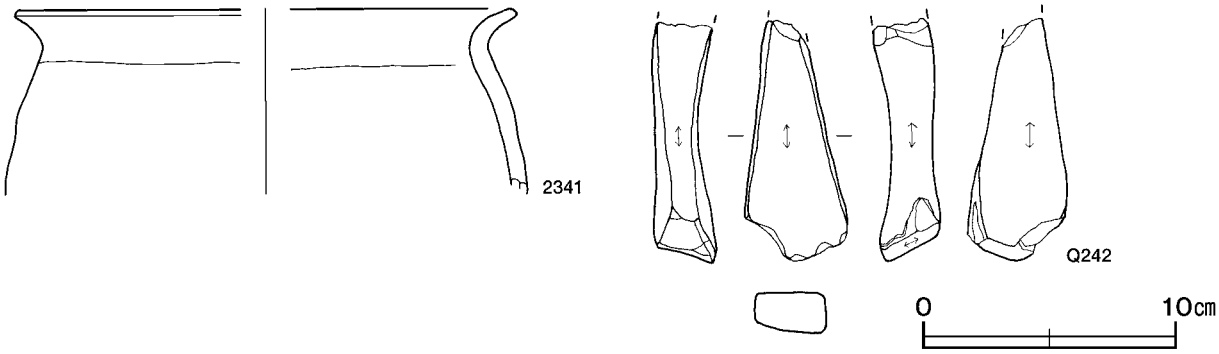
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック中量
8　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
9　黒　褐　色　焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片313点（坏79，椀３，高台付椀16，小皿１，甕214），石器１点（砥石），馬歯，中礫17点が中央部から南壁にかけての覆土下層を中心として出土している。また，流れ込んだ須恵器片17点（坏８，甕９）も出土している。2338は竈の火床部，2339は竈の右袖部付近の床面，2340は南西コーナー部の床面からそれぞれ逆位で出土している。2336・2337は中央部の床面，2334は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。2335は南西コーナー部の床面と貯蔵穴２の覆土から出土した破片が接合したものである。馬歯は中央部から北西コーナー寄りの床面から，上顎と下顎の臼歯で歯列が整った状態で出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀後葉と考えられる。



第211図　第411号住居跡出土遺物実測図(1)



第212図　第411号住居跡出土遺物実測図(2)

第411号住居跡出土遺物観察表（第211・212図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2334	土師器	坏	[15.2]	(4.2)	－	雲母･赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　ロクロナデ	覆土下層	10%
2335	土師器	坏	－	(2.2)	9.0	石英・長石・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り	貯蔵穴	30%
2336	土師器	椀	[14.8]	(5.1)	－	石英･長石･雲母	にぶい黄褐	普通	内面ヘラ磨き　ロクロナデ	床面	30%
2337	土師器	高台付椀	－	(2.8)	[5.4]	雲母・赤色粒子	黒	普通	内・外面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後高台貼付け	床面	30%
2338	土師器	高台付椀	[14.7]	5.7	7.5	石英・長石・雲母	黒褐	普通	内面ヘラ磨き　底部回転糸切り後高台貼付け	竈内	50%
2339	土師器	高台付椀	－	(4.6)	7.0	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転糸切り後高台貼付け	床面	40%
2340	土師器	小皿	9.1	2.1	5.1	石英･長石･雲母･赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	床面	100%
2341	土師器	甕	[19.6]	(7.3)	－	石英・長石・白色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	竈内	5％

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q242	砥石	(9.6)	4.2	1.7	(114.3)	雲母片岩	砥面５面	床面	PL87

第412号住居跡（第213・214図）

位置　西部４区東部のＣ５ｊ2 区で，標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第413号住居跡を掘り込み，第3933号土坑，第102号井戸に掘り込まれている。

規模と形状　一辺2.75mの方形で，主軸方向はＮ－90°－Ｅである。壁高は10cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　東壁中央部から南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで85cm，袖部幅105cmである。袖部は床面と同じ高さに砂質粘土で構築されている。火床部は浅く皿状にくぼんでおり，火床面の赤変した部分は確認されなかった。煙道部は壁外へ47cmほど掘り込まれ，地山を掘り残した部分に粘土を貼り付けて構築されており，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック，砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
3　黒　褐　色　焼土ブロック･炭化物･ローム粒子･砂質粘土粒子微量
4　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　にぶい赤褐色　砂質粘土ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
7　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
8　褐　　色　砂質粘土ブロック中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
9　暗　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，ローム粒子微量
10　褐　　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
11　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

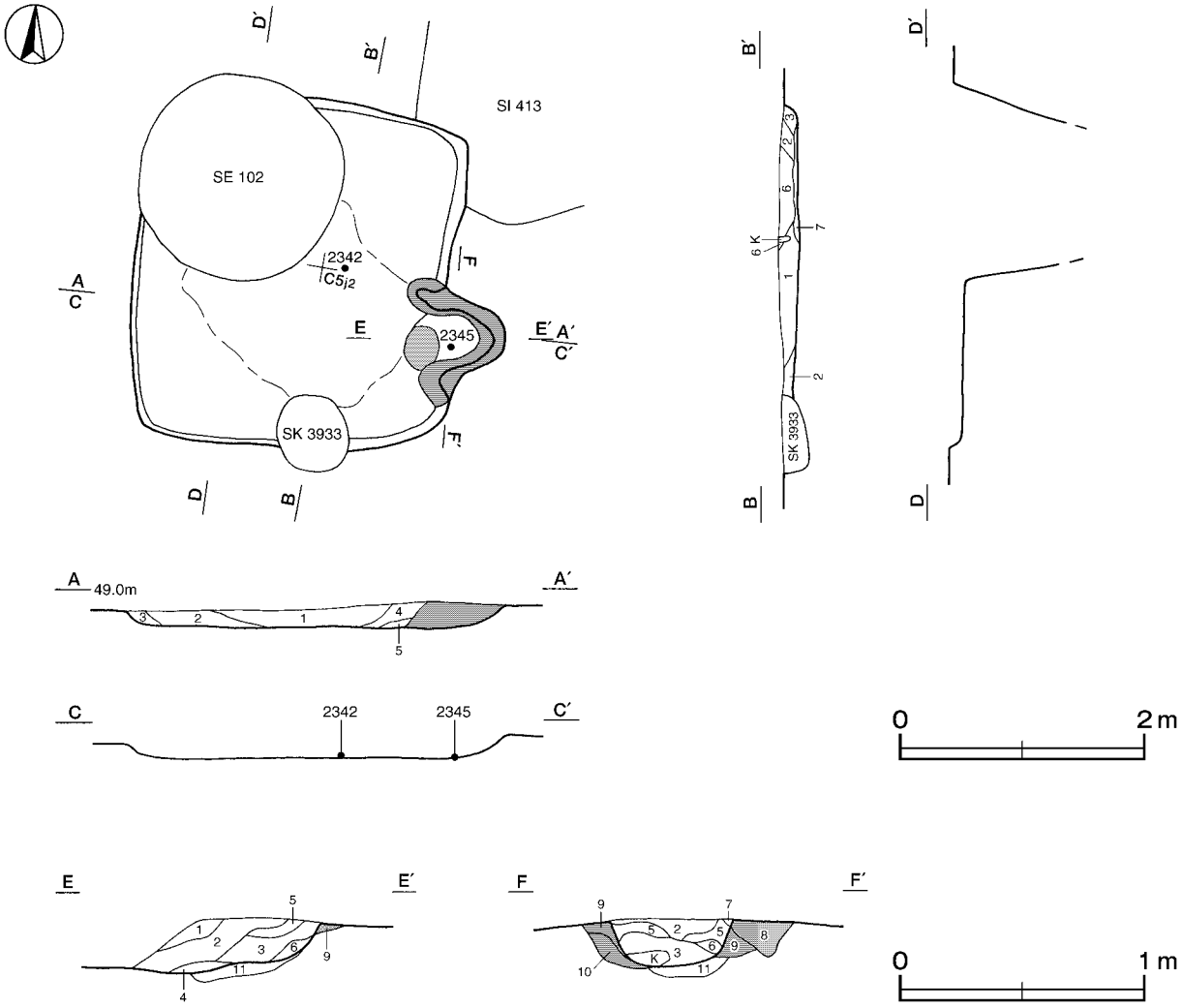
覆土　７層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

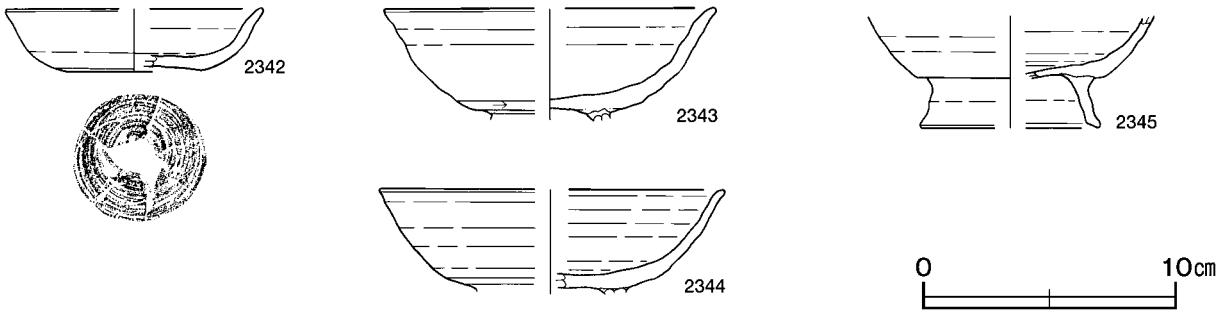
1　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　黒　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片90点（坏14，高台付椀３，甕73）が，竈を中心として出土している。また，流れ込んだ須恵器片９点（坏８，甕１）も出土している。2345は竈内から正位で，2342は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から10世紀後葉と考えられる。



第213図　第412号住居跡実測図



第214図　第412号住居跡出土遺物実測図

第412号住居跡出土遺物観察表（第214図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2342	土師器	坏	[10.1]	2.5	5.3	石英・長石	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り	床面	60%
2343	土師器	高台付椀	[13.2]	(4.4)	－	石英・長石・雲母	浅黄	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土中	20%
2344	土師器	高台付椀	[13.7]	(4.2)	－	石英・白色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　高台貼付け後ロクロナデ	覆土中	20%
2345	土師器	高台付椀	－	(4.5)	[7.0]	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	竈内	30%

第413号住居跡（第215・216図）

位置　西部４区東部のＣ５ｉ2 区で，標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第412号住居，第3922号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.25m，短軸2.77mの不定形で，主軸方向はＮ－90°－Ｅである。壁高は７～12㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から南壁にかけて踏み固められている。

竈　南東コーナー部に付設されており，火床部及び自然石が確認されている。自然石が火床部をコの字状に囲むように出土しており，火熱を受けて赤変していることから袖部及び煙道部の補強材と考えられる。火床部は長径53㎝，短径40㎝の楕円形状で，床面がわずかにほりくぼめられており，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は確認されていないが，焚口部から東壁にかけて緩やかな傾斜があり，煙道部が存在したものと考えられる。

竈土層解説

1　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　橙　　色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

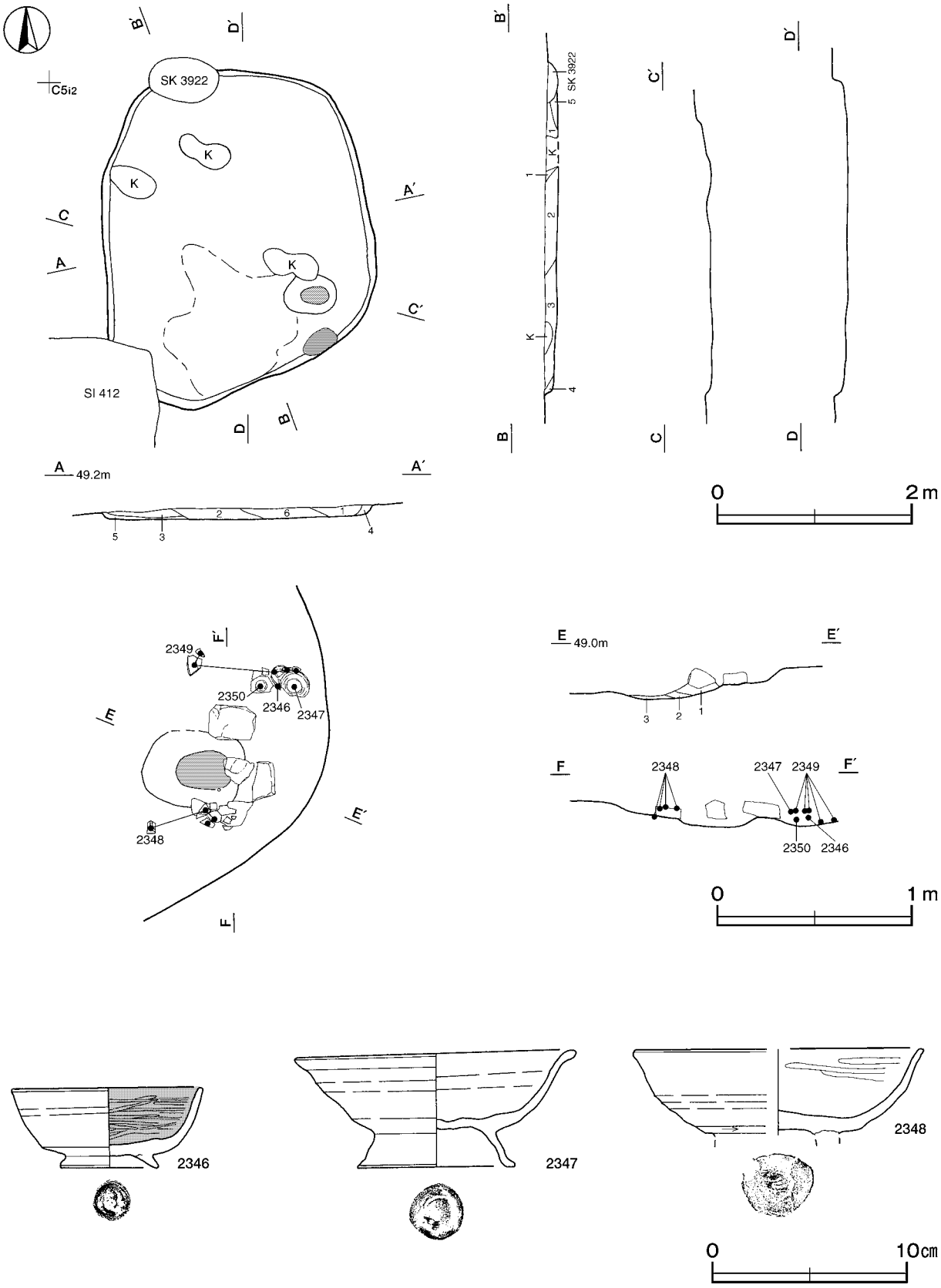
覆土　６層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

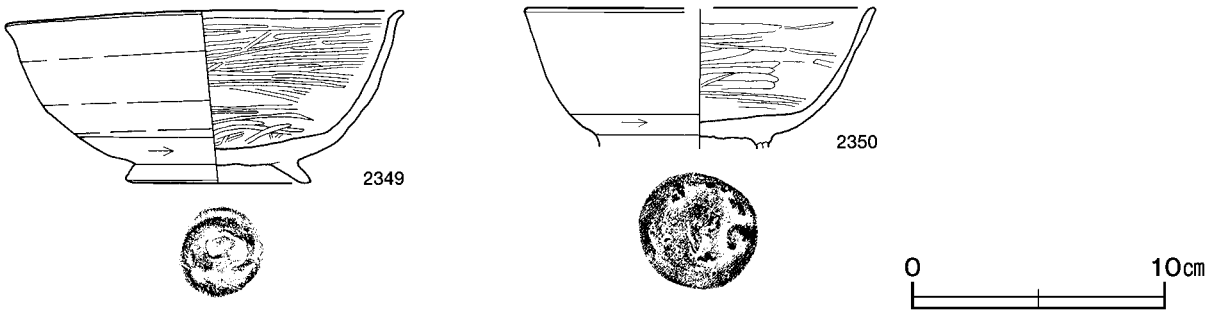
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片105点（坏50，高台付椀２，甕53），鉄製品２点（不明）が，竈の周辺を中心として覆土下層から出土している。また，流れ込んだ須恵器片５点（高台付坏１，蓋１，甕３）も出土している。2348は竈右袖部付近から出土した破片が接合したものである。2346・2347は正位，2350は逆位で東壁際の床面から出土している。2349は東壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。また，南壁際には長径40㎝，短径21㎝，厚さ５㎝ほどの粘土塊が出土している。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から10世紀中葉と考えられる。南壁際から出土した粘土塊は，竈構築材と考えられる。



第215図　第413号住居跡・出土遺物実測図



第216図　第413号住居跡出土遺物実測図

第413号住居跡出土遺物観察表（第215・216図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2346	土師器	高台付椀	9.8	4.2	4.8	石英･長石･赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後高台貼付け	床面	100%　PL73
2347	土師器	高台付椀	14.3	6.1	8.1	雲母･赤色粒子	にぶい褐	普通	ロクロナデ	床面	70%　PL73
2348	土師器	高台付椀	[14.6]	(4.4)	－	石英･長石･雲母	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	竈袖部	45%
2349	土師器	高台付椀	15.7	6.9	6.9	雲母･白色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土下層	90%　PL76
2350	土師器	高台付椀	[14.0]	(5.6)	－	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り後高台貼付け	床面	60%

第415号住居跡（第217図）

位置　西部４区東部のＣ５ｊ1 区で，標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第79号溝に掘り込まれている。

規模と形状　西壁はほとんど残存していない。確認された範囲は，南北軸3.48m，東西軸2.60mで，平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はＮ－22°－Ｗである。壁高は58cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が東壁下から南壁下にかけて確認されており，断面形はＵ字状を呈している。

竈　北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで89cmで，右袖部から残存している火床部までの幅は60cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面を基部として，砂質粘土を混ぜた黒褐色土で構築されている。火床部は床面を５cmほど掘りくぼめており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形状に掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・砂質粘土粒子少量
4　褐　　色　焼土ブロック･砂質粘土ブロック･ローム粒子少量

ピット　深さ14cmで，南壁際にあることとピット周辺の硬化面の状況から，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

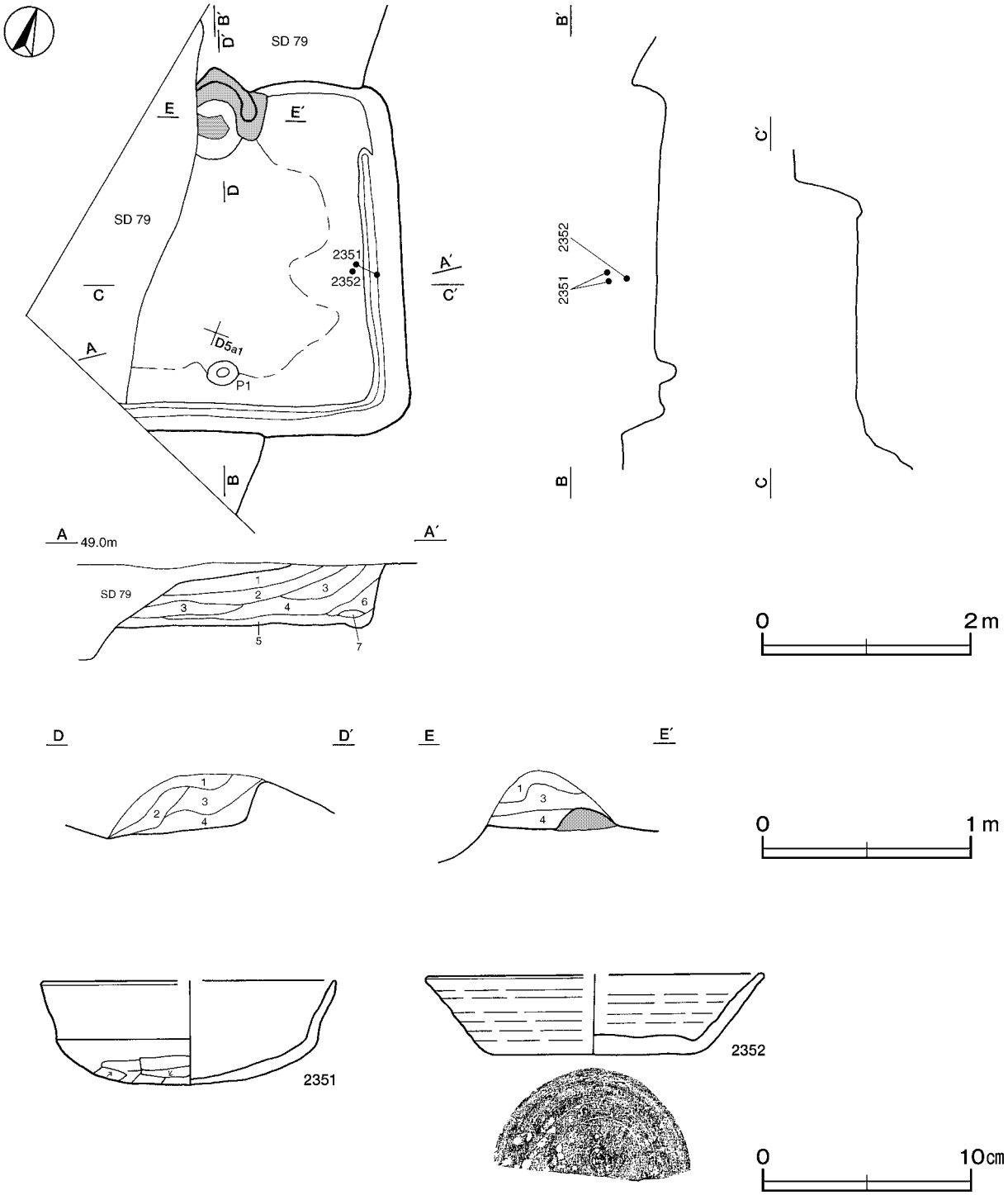
覆土　７層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子少量，砂質粘土ブロック微量
7　極暗褐色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片239点（坏44，高坏２，甕193），須恵器片19点（坏７，高台付坏３，蓋１，甕８），瓦片１点，鉄製品１点（不明）が，中央部から東壁にかけて出土しており，ほとんどが細片である。また，流れ込んだ縄文土器片17点，弥生土器片１点，陶器片１点（甕），磁器片１点（碗）も出土している。2352は東壁際の覆土中層，2351は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器が細片で図示できるものが少なく判断は難しいが，土器の様相と出土位置及び遺構の形態から，８世紀前葉と推測される。



第217図　第415号住居跡・出土遺物実測図

第415号住居跡出土遺物観察表（第217図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2351	土師器	坏	[14.0]	5.0	－	石英・赤色粒子・白色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土上層	60%
2352	須恵器	坏	[16.2]	3.8	9.7	石英･長石･雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中層	50%

第418号住居跡（第218・219図）

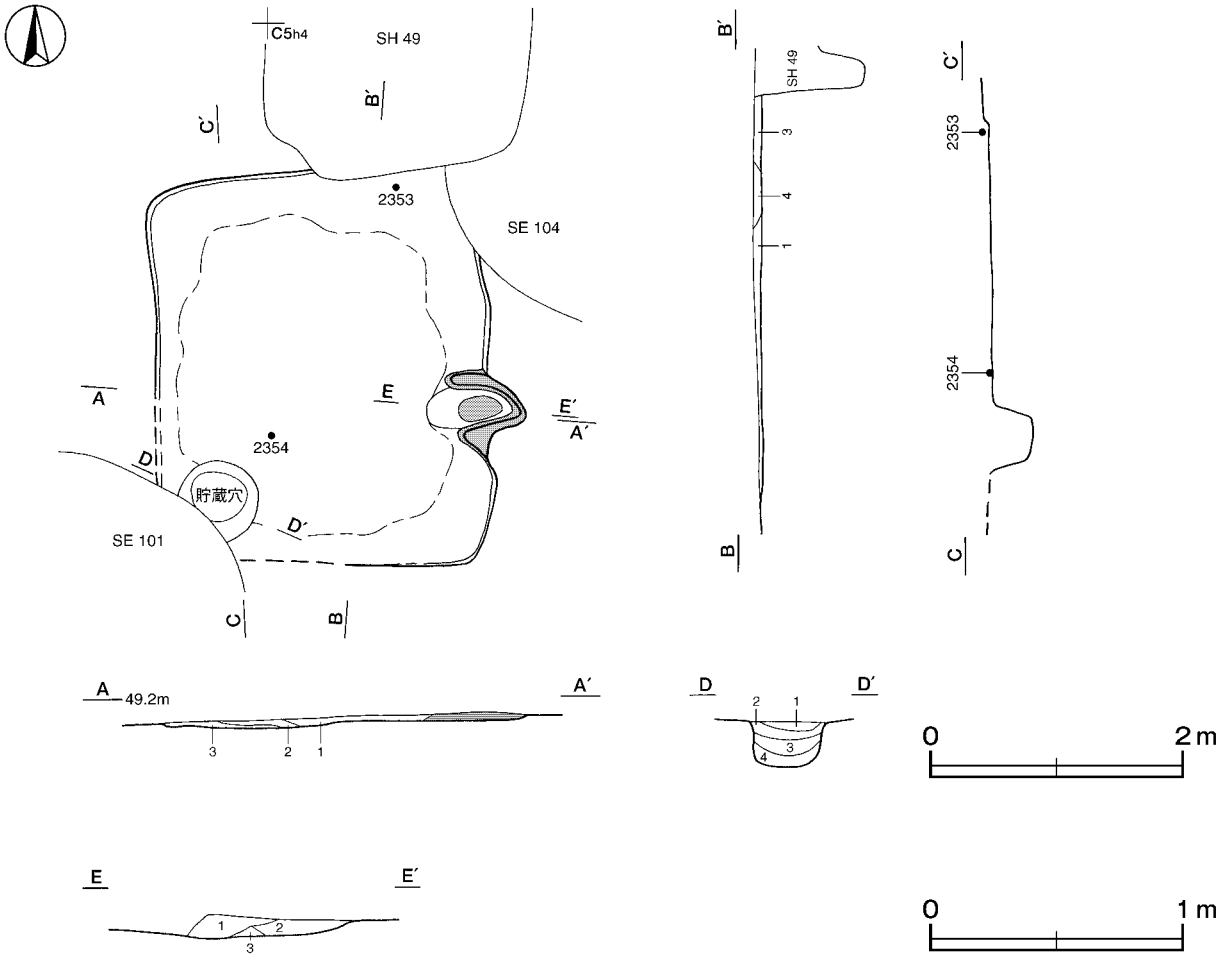
位置　西部４区東部のＣ５h4 区で，標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第49号方形竪穴遺構，第101・104号井戸に掘り込まれている。

規模と形状　北東コーナー部と南西コーナー部が削平されている。長軸3.10m，短軸2.63mの長方形で，主軸方向はＮ－90°－Ｅである。壁高は５cmである。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　東壁中央部から南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで76cm，袖部幅68cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面を基部として，砂質粘土を少量混ぜた黒褐色土で構築されている。火床部はわずかにくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外へ三角形状に31cmほど掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。



第218図　第418号住居跡実測図

竈土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，灰少量，炭化物・ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・灰微量

貯蔵穴　南西コーナー部に位置している。径54cmの円形と推定され，深さは36cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量

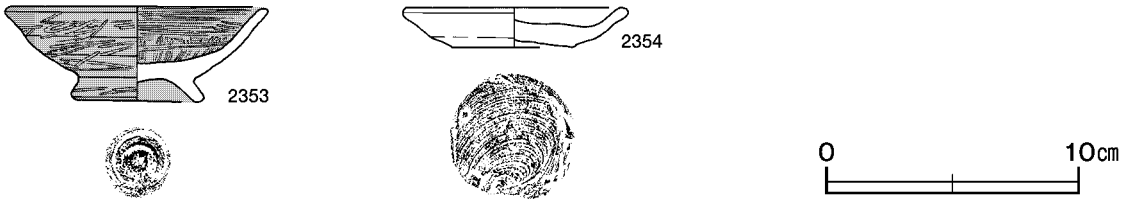
覆土　４層に分層される。層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片40点（坏32，高台付椀７，小皿１）が，覆土中から散在するように出土している。また，流れ込んだ須恵器片１点（坏）も出土している。2353は北東コーナー部の覆土下層から正位で，2354は中央部の床面から逆位でそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から11世紀代と考えられる。



第219図　第418号住居跡出土遺物実測図

第418号住居跡出土遺物観察表（第219図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2353	土師器	高台付椀	10.2	3.8	4.8	石英･長石･雲母	灰	普通	底部内面放射状のヘラ磨き	覆土下層	80%　PL76
2354	土師器	小皿	8.6	1.6	4.8	石英･長石･雲母	橙	普通	底部回転糸切り	床面	90%　PL76

第422号住居跡（第220図）

位置　西部４区東部のＤ５a7 区で，標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第406号住居に掘り込まれている。

規模と形状　削平された状況で確認され，規模や形状は明確ではない。確認された範囲は床面の状況から，南北軸2.55m，東西軸2.55mで，平面形は方形と推定され，主軸方向はＮ－93°－Ｅである。壁は竈の北側にわずかに残存している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

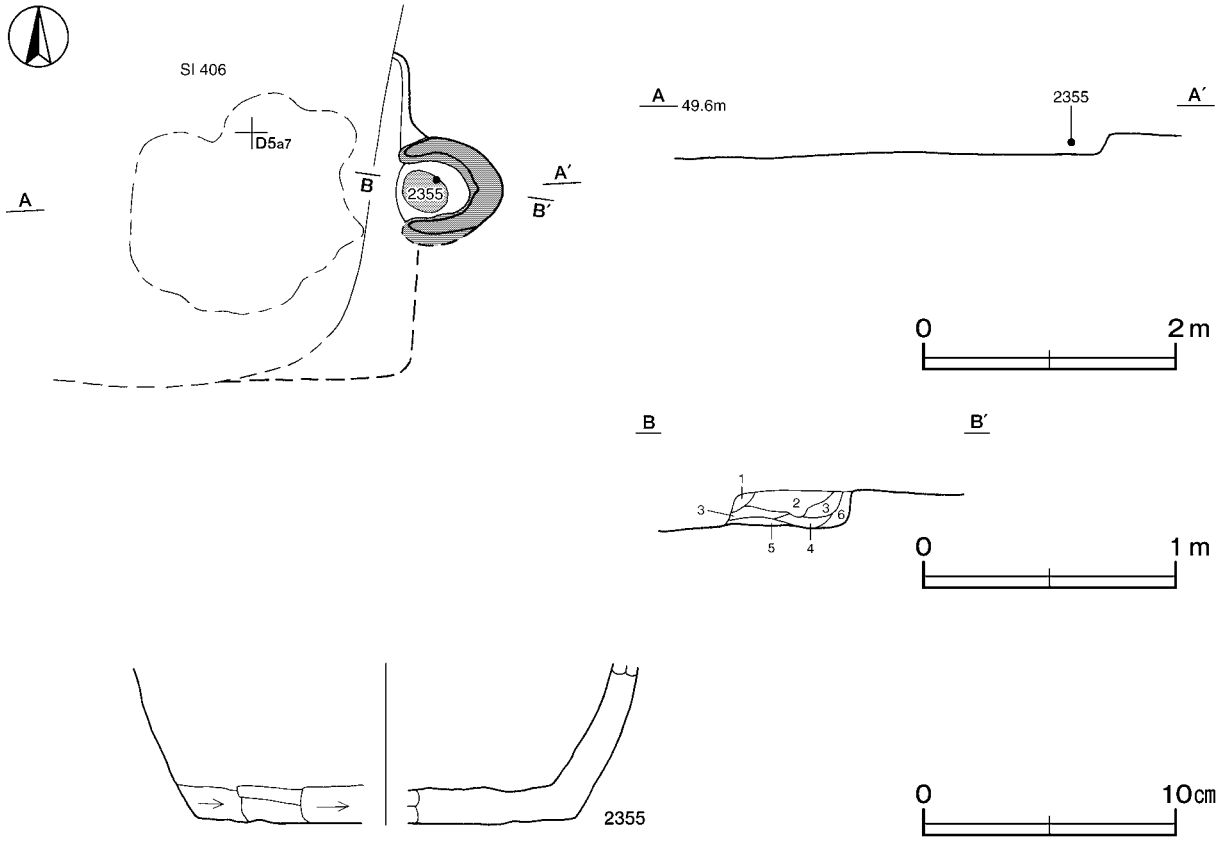
竈　東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで62cm，袖部幅71cmである。袖部は床面と同じ高さに粘土を混ぜた黒褐色土で構築されている。火床部は浅い皿状を呈し，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外へ半円形状に71cmほど掘り込まれ，火床部からほぼ直立している。第３層は天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量,炭化物･ローム粒子･粘土粒子微量
3　灰　褐　色　粘土ブロック中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　焼土ブロック少量，炭化物・ローム粒子・粘土粒子微量
5　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量,炭化物･ローム粒子･粘土粒子微量
6　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況　土師器片28点(坏６，高台坏椀１，小皿１，甕20)が，竈内を中心として細片で出土している。また，流れ込んだ縄文土器片３点，須恵器片２点（坏，甕）も出土している。2355は竈内から出土している。細片で図示できないが，土師器の坏は内面に黒色処理とヘラ磨きが施されているものである。

所見　時期は,図示できる土器が少なく判断が難しいが,重複関係及び土器の様相から10世紀前半と考えられる。



第220図　第422号住居跡・出土遺物実測図

第422号住居跡出土遺物観察表（第220図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2355	土師器	甕	－	(6.3)	[15.1]	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい褐	普通	体部下端ヘラ削り	竈内	5％

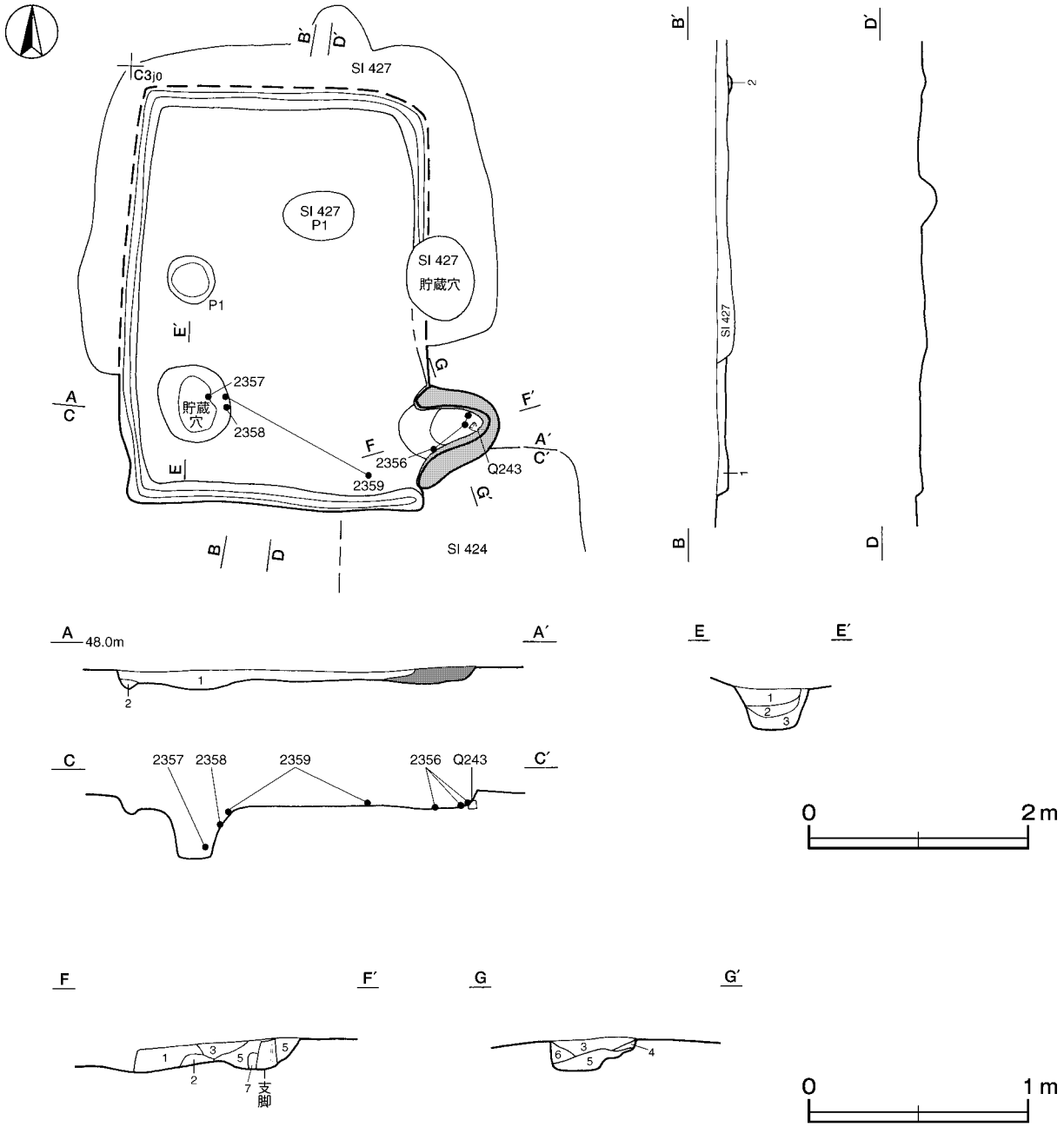
第423号住居跡（第221～223図）

位置　西部４区中央部のＣ３ｊ０区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第424号住居跡を掘り込み，第427号住居に掘り込まれている。

規模と形状　壁が削平されほとんど残存していないが，壁溝が確認されている。確認された範囲は，南北軸3.83m，東西軸2.81mで，平面形は長方形と推定され，主軸方向はN－85°－Eである。残存している壁高は６～10㎝で，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から貯蔵穴にかけて踏み固められている。壁溝が全周しており，断面形はU字状を呈している。



第221図　第423号住居跡実測図

竈　東壁の南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで92㎝，袖部幅94㎝である。袖部は床面と同じ高さに少量の粘土を混ぜた黒褐色土で構築されている。火床部は，床面と同じ高さの平坦な面を使用しており，火床面は火熱を受けて赤変している。火床部には自然石が据えられており，煤が付着していることから支脚と考えられる。煙道部は壁外へ半円形状に62㎝ほど掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
2　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　極暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量，粘土粒子微量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘土粒子微量

ピット　深さ12㎝で，西壁際の中央部にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　南西コーナー部に位置している。長径75㎝，短径64㎝の楕円形で，深さは37㎝である。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

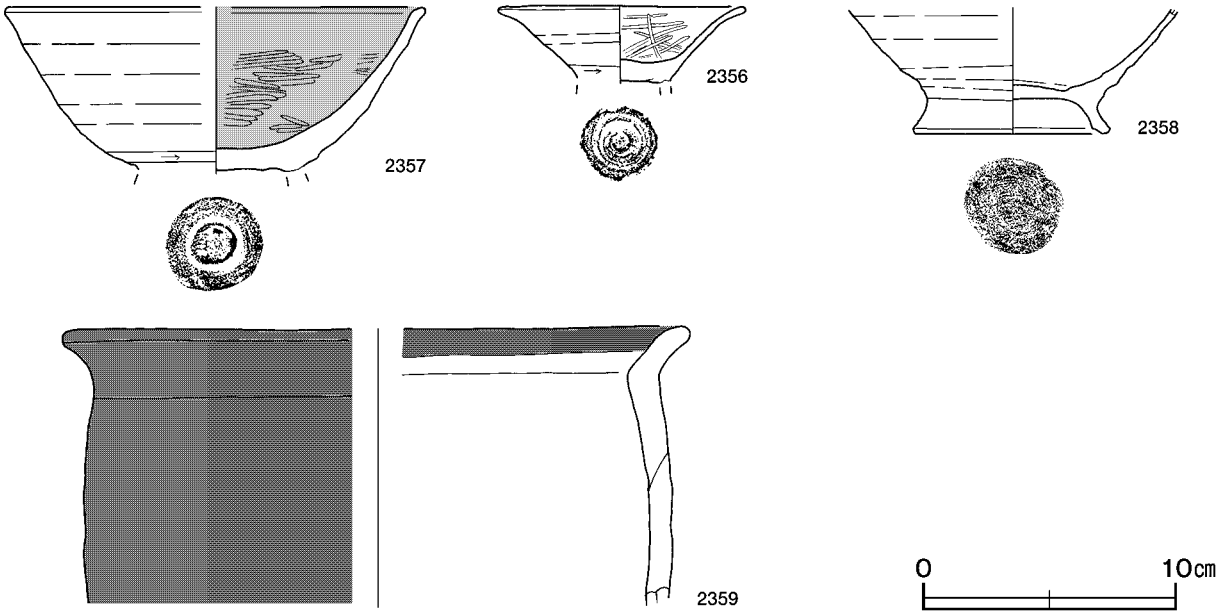
覆土　２層に分層される。層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

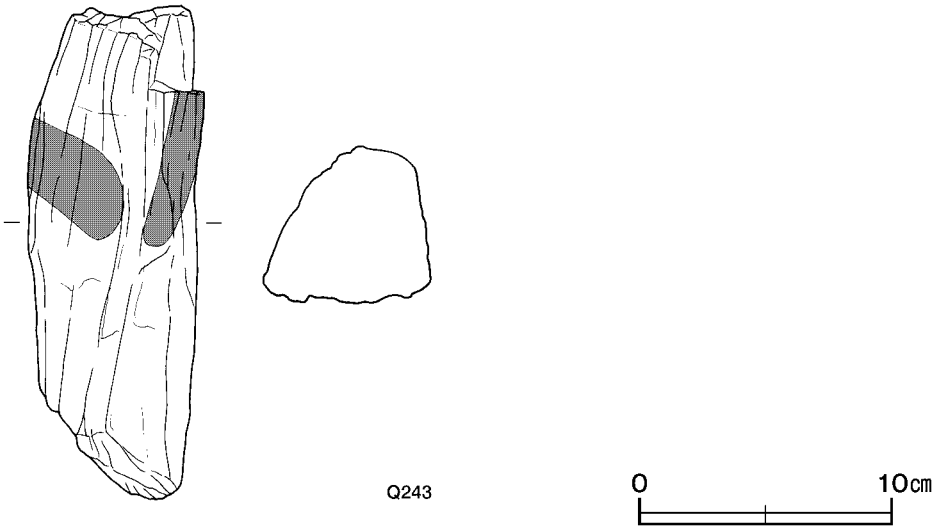
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片76点（坏34，高台付椀３，小皿４，甕35），石器１点（支脚），粘土塊２点，中礫２点が，散在するように覆土下層から出土している。また，流れ込んだ弥生土器片１点，須恵器片６点（坏）も出土している。2356は竈内から出土した破片が接合したものである。2359は南東コーナー部の床面と貯蔵穴付近の覆土下層から出土した破片が接合したものである。2357・2358は貯蔵穴の覆土下層及び覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀中葉と考えられる。



第222図　第423号住居跡出土遺物実測図(1)



第223図　第423号住居跡出土遺物実測図(2)

第423号住居跡出土遺物観察表（第222・223図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2356	土師器	高台付椀	9.6	(3.1)	－	石英・雲母	にぶい赤褐	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後高台貼付け	竈内	80%　PL76
2357	土師器	高台付椀	[16.5]	(6.6)	－	石英･白色粒子	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後高台貼付け	貯蔵穴	50%
2358	土師器	高台付椀	－	(4.9)	7.7	石英･長石･雲母	にぶい橙	普通	高台貼付け後ロクロナデ	貯蔵穴	40%
2359	土師器	甕	[24.2]	(11.1)	－	石英･長石･細礫	黒褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　輪積み痕	床面	10% 外面煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q243	支脚	19.5	6.9	6.3	1210.0	雲母片岩	棒状の自然石	竈内	PL86

第424号住居跡（第224図）

位置　西部４区中央部のＤ３a0 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第395・423号住居に掘り込まれている。

規模と形状　西壁が削平されほとんど残存していないため，規模や形状は明確ではない。確認された範囲は，南北軸3.74m，東西軸2.43mで，平面形は長方形と推定され，主軸方向はＮ－88°－Ｅである。壁高は６㎝で，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで95㎝，袖部幅111㎝である。袖部は床面と同じ高さを基部として，砂質粘土を少量混ぜた暗褐色土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦な面を使用しており，火床面は火熱を受けて赤変している。火床部には，自然石が据えられており，煤が付着していることから支脚と考えられる。煙道部は壁外へ63㎝ほど掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子・粘土粒子微量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子少量，炭化物微量
5　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

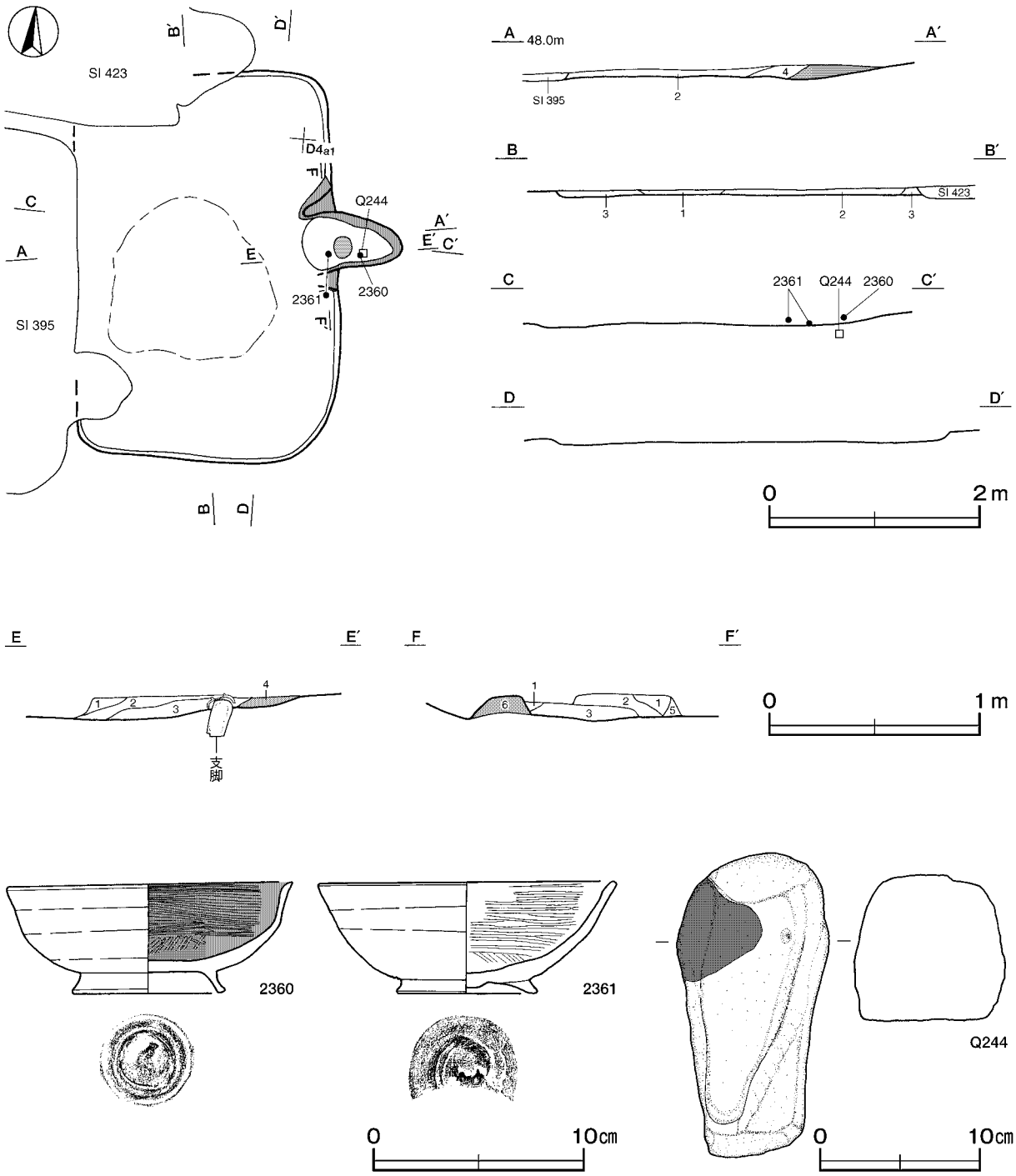
覆土　４層に分層される。層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量

遺物出土状況　土師器片45点（坏４，高台付椀２，甕39），石器１点（支脚），中礫３点が，竈に集中して出土している。また，流れ込んだ弥生土器片１点，須恵器片３点（坏，蓋，甕）も出土している。2360は，竈の支脚の上面から逆位で出土している。2361は，竈内と竈右袖部から出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第224図　第424号住居跡・出土遺物実測図

第424号住居跡出土遺物観察表（第224図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2360	土師器	高台付椀	13.5	5.3	7.2	石英･長石･雲母	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き　高台貼付け	竈内	70%　PL76
2361	土師器	高台付椀	14.0	5.4	6.4	長石・雲母	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後高台貼付け	竈内	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q244	支脚	18.6	9.2	8.8	2130.0	閃緑岩	柱状の自然石	竈内	PL86

第427号住居跡（第225・226図）

位置　西部４区中央部のＣ３ｊ0区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第423号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.83m，短軸2.91mの長方形で，主軸方向はＮ－４°－Ｅである。壁高は10cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，全面が硬化している。

竈　北壁中央部から東寄りに付設されている。煙道部と火床部は確認されているが，袖部は残存していない。規模は火床部の手前から煙道部まで68cmである。火床部は床面と同じ高さで円形を呈しており，掘り込みはほとんど見られない。火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外へ半円形状に32cmほど掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　褐　　色　ロームブロック中量,焼土ブロック・炭化物少量，粘土ブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘土ブロック微量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量

ピット　深さ10cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径77cm，短径61cmの楕円形で，深さは38cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

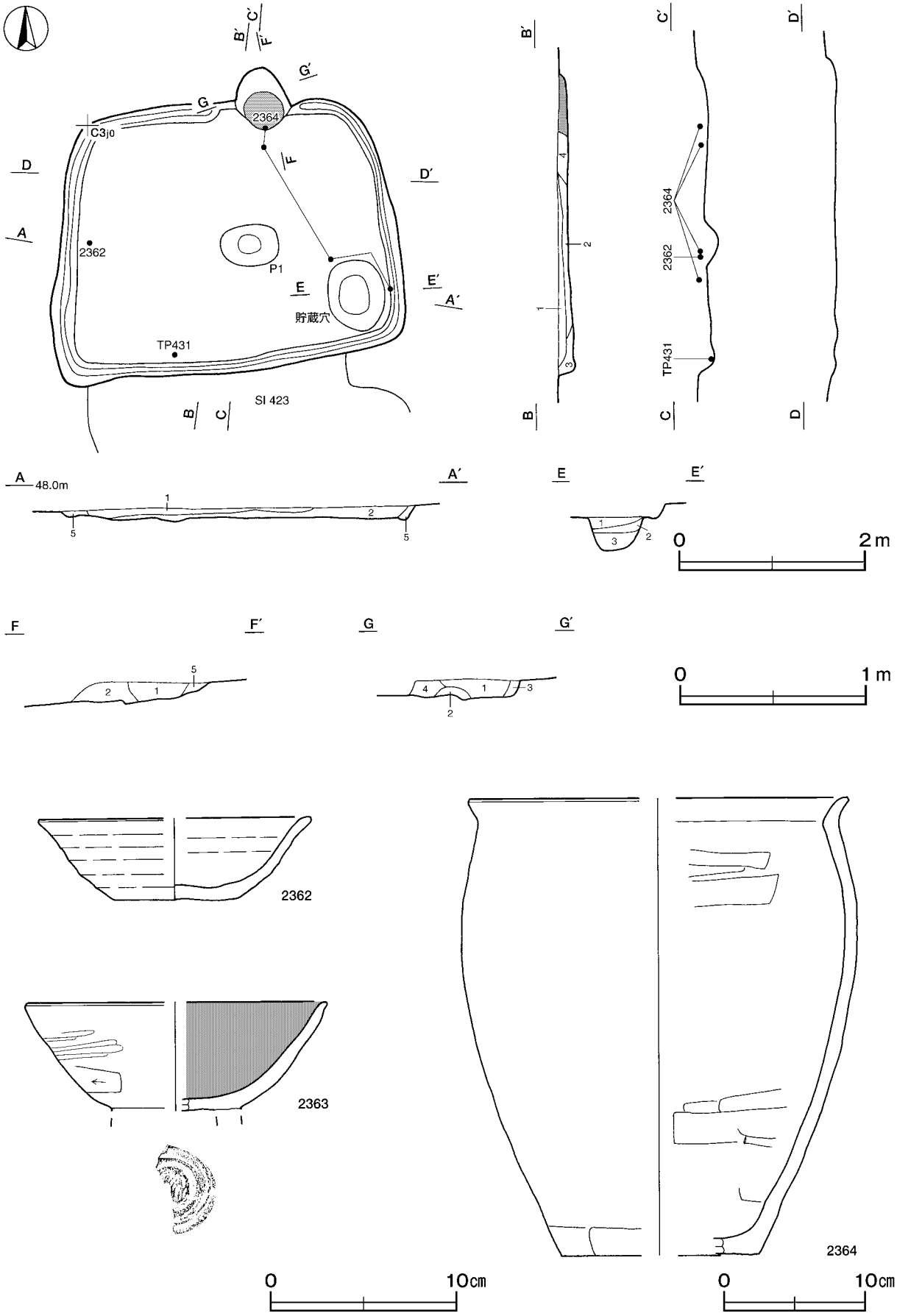
覆土　５層に分層される。層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

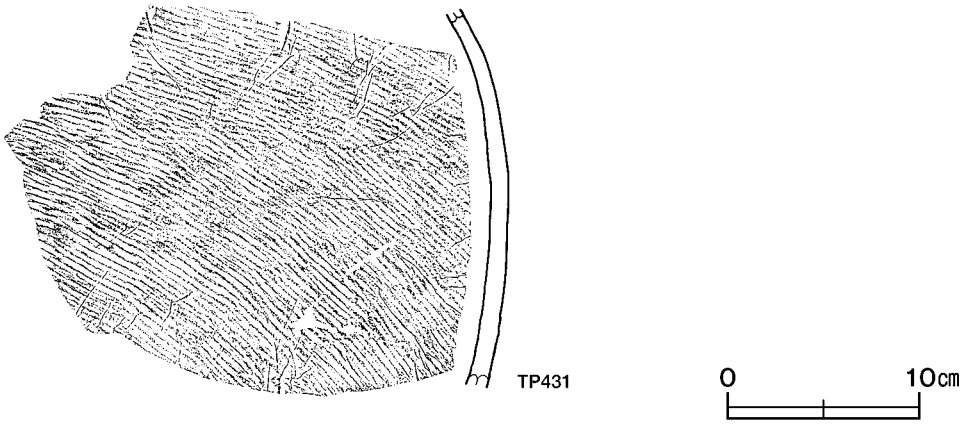
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量
4　極暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片124点（坏44，高台付椀１，小皿１，甕78），須恵器片７点（甕），中礫９点が，竈前面から中央部にかけて散在するように覆土下層から出土している。また，流れ込んだ弥生土器片１点，磁器片１点も出土している。2362は中央部の西壁際から出土している。2364は竈前面から南東コーナー部にかけて出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から10世紀後葉と考えられる。



第225図　第427号住居跡・出土遺物実測図



第226図　第427号住居跡出土遺物実測図

第427号住居跡出土遺物観察表（第225・226図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2362	土師器	坏	[14.6]	4.4	6.6	雲母・白色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	覆土下層	30%
2363	土師器	高台付椀	[16.0]	(4.9)	－	雲母	灰黄褐	普通	外面ヘラ磨き　ヘラ削り後高台貼付け	覆土中	30%
2364	土師器	甕	[26.6]	32.7	[14.0]	石英・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　内面ヘラナデ	覆土下層	20%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP431	須恵器	大甕	石英・雲母	灰	普通	体部外面横位の平行叩き	床面	

表５　奈良・平安時代竪穴住居跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考（時期）
							壁溝	主柱穴	出入口ピット	ピット	竈	貯蔵穴			
141	Ｂ２h6	Ｎ－25°－Ｗ	［長方形］	3.20×2.88	13	平坦	一部	1	－	2	1	－	人為	土師器，須恵器	８世紀末～９世紀前葉
310	Ａ１f7	Ｎ－13°－Ｅ	［方形］	2.97×2.94	15	平坦	一部	1		－	1	－	自然	土師器，須恵器	９世紀後葉
314	A-１g0	Ｎ－９°－Ｗ	方形	4.88×4.44	32	平坦	－	4	1	－	1	－	人為	土師器，須恵器，砥石	８世紀後葉
320	Ｚ２j2	Ｎ－70°－Ｅ	長方形	3.64×3.08	16	平坦	－	－	－	－	1	－	自然	土師器，須恵器	10世紀後葉
321	Ａ２f2	Ｎ－99°－Ｅ	長方形	3.12×2.84	12	平坦	一部	－	－	－	1	－	人為	土師器，須恵器	10世紀後半
324	Ａ２g1	Ｎ－７°－Ｅ	長方形	3.43×3.09	10～14	平坦	－	－	－	－	1	1	自然	土師器，須恵器，灰釉陶器，緑釉陶器	９世紀後葉
325	Ａ２h1	Ｎ－10°－Ｅ	方形	3.00×2.83	７～15	平坦	－	－	－	－	1	－	自然	土師器，須恵器，不明鉄製品	９世紀後葉
327	Ａ１i9	Ｎ－０°	［長方形］	(3.06)×2.55	６～18	平坦	－	2	3	－	1	1	人為	土師器，紡錘車	10世紀中葉
328	Ａ１f0	Ｎ－７°－Ｅ	長方形	2.44×2.20	11～23	平坦	－	－	－	－	1	1	自然	土師器，不明鉄製品	10世紀前葉
329	Ａ２f1	Ｎ－90°－Ｅ	長方形	3.08×2.81	15～20	平坦	－	－	－	－	1	－	人為	土師器，須恵器	10世紀代
330	Ａ１f8	Ｎ－97°－Ｅ	［長方形］	(3.61)×2.23	35	平坦	－	－	－	－	1	－	人為	土師器	11世紀前半
331	Ｃ３b0	Ｎ－24°－Ｗ	方形	4.03×4.03	10～24	平坦	全周	1	1	3	1	－	自然	土師器，須恵器，不明鉄製品	８世紀中葉
333	Ａ２d1	Ｎ－７°－Ｅ	長方形	3.10×2.64	15	平坦	－	－	1	－	炉１	－	人為	土師器，須恵器	10世紀代
335	Ａ１c8	Ｎ－38°－Ｅ	［方形・長方形］	(4.00)×(3.55)	－	平坦	－	－	－	－	1	－	－	土師器，支脚	10世紀中葉
336	Ａ１c8	Ｎ－６°－Ｅ	［方形・長方形］	(4.06)×3.20	10	平坦	－	－	－	1	1	1	人為	土師器	10世紀前葉
337	Ａ１a9	－	［方形・長方形］	(1.53)×(1.00)	－	平坦	－	－	－	－	－	－	不明	土師器	10世紀後半
338	Ａ１a9	Ｎ－11°－Ｅ	［方形・長方形］	(2.10)×(1.69)	18	平坦	一部	1	－	－	－	－	人為	土師器，須恵器	10世紀前半
342	Ａ１i9	Ｎ－28°－Ｗ	［方形・長方形］	3.81×(1.88)	30	平坦	－	1	－	－	1	－	人為	土師器	８世紀前半

番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考（時期）
							壁溝	主柱穴	出入口ピット	ピット	竈	貯蔵穴			
345	A 1 h9	N－43 °－E	［方形・長方形］	(2.93)×(2.17)	9	平坦	－	－	－	－	1	－	人為	土師器，支脚	10世紀後葉
346	B 2 e0	N－86 °－E	方形	4.40×4.40	52	平坦	全周	4	1	－	1	－	自然	土師器，須恵器，手捏土器	8 世紀中葉
349	B 2 f8	N－7 °－W	長方形	3.90×3.48	15～35	平坦	全周	－	1	－	1	－	自然	土師器，須恵器	9 世紀前葉
350	B 2 f8	N－6 °－W	［方形］	(3.92)×(3.75)	5～14	平坦	－	－	－	－	1	－	自然	土師器，須恵器	9 世紀後葉
353	B 3 f3	N－4 °－E	長方形	4.14×3.50	40～46	平坦	ほぼ全周	4	1	1	1	－	自然	土師器，須恵器	8 世紀中葉
356	B 3 i3	N－3 °－E	［方形］	[3.67]×3.40	12～20	平坦	－	－	－	－	1	－	自然	土師器，須恵器	8 世紀前葉
358	B 3 g4	N－3 °－W	方形	4.14×3.78	27～34	平坦	全周	－	－	－	1	－	自然	土師器，須恵器，砥石	9 世紀前葉
359	A 1 c8	N－41 °－E	［長方形］	[6.06×4.22]	23	平坦	－	－	1	－	1	－	自然	土師器	11世紀前半
360	B 2 e0	N－86 °－E	長方形	4.69×3.48	18～20	平坦	－	－	－	－	1	－	自然	土師器，須恵器，手捏土器	9 世紀中葉
361	B 2 i0	N－12 °－W	方形	4.13×3.50	27	平坦	一部	5	1	1	1	－	人為	土師器，須恵器	8世紀中葉(SI-131)
362	C 3 b8	N－4 °－W	［方形］	[3.32×3.16]	3～9	平坦	－	4	－	2	－	－	不明	土師器，須恵器	9 世紀中葉
363	B 3 j0	N－80 °－E	［方形・長方形］	4.40×(3.38)	20～22	平坦	一部	－	－	－	1	－	自然	土師器，須恵器，瓦	9 世紀中葉
364	B 3 j8	N－32 °－W	方形	3.95×3.71	8～10	平坦	一部	3	1	1	1	－	自然	土師器，須恵器，支脚	9 世紀後半
365	C 4 d2	N－70 °－E	長方形	3.50×2.92	28～36	平坦	全周	－	1	1	1	－	人為	土師器，須恵器	9 世紀後半
366	B 4 j2	N－7 °－W	長方形	3.85×3.41	20～38	平坦	［周回］	－	1	1	－	－	自然	土師器，須恵器，灰釉陶器，鉄製品	8 世紀前葉
370	C 4 b4	N－25 °－W	長方形	3.50×3.04	21～34	平坦	一部	3	1	1	1	－	人為	土師器，須恵器，砥石	9 世紀前半
371	C 4 g3	N－8 °－E	方形	4.64×4.51	11～25	平坦	－	3	－	－	1	－	自然	土師器，須恵器	8 世紀後葉
373	C 4 f3	N－94 °－E	方形	2.96×2.76	26～28	平坦	－	－	－	－	1	－	人為	土師器，須恵器	10世紀代
374	C 4 e3	N－15 °－W	長方形	3.78×3.36	31～48	平坦	－	－	1	1	1	－	人為	土師器，須恵器	8 世紀中葉
377	C 4 d1	N－10 °－E	方形	4.02×3.66	34	平坦	ほぼ全周	2	1	2	1	－	自然	土師器，須恵器，鉄製品	9 世紀前葉
380	C 4 b3	N－27 °－W	長方形	5.68×5.04	22～49	平坦	一部	4	1	－	1	－	自然	土師器，須恵器，紡錘車	8 世紀初頭
381	C 4 a1	N－4 °－E	方形	3.50×3.50	10～19	平坦	全周	－	1	－	1	－	人為	土師器，須恵器，紡錘車	8 世紀後葉
382	C 4 b5	N－5 °－W	長方形	3.13×2.60	14～20	平坦	－	－	－	3	1	－	自然	土師器，須恵器	8 世紀前葉
384	C 4 g1	N－8 °－E	長方形	3.75×3.39	28～32	平坦	－	－	1	1	1	－	自然	土師器，須恵器，支脚	9 世紀前葉
386	C 4 i8	N－70 °－E	［方形・長方形］	3.52×(3.28)	17	平坦	－	－	－	4	1	－	自然	土師器，須恵器	10世紀後葉
389	C 4 g3	N－4 °－E	方形	4.54×4.38	16～32	平坦	全周	4	1	－	1	－	人為	土師器，須恵器	8 世紀前葉
391	C 4 i8	N－96 °－E	長方形	3.91×3.47	14～23	平坦	－	－	－	－	1	－	自然	土師器，須恵器，支脚	10世紀末葉
393	C 4 h8	N－39 °－E	［長方形］	[4.61]×3.33	6～12	平坦	－	－	－	－	1	－	不明	土師器，須恵器，不明鉄製品	10世紀前半
394	C 4 h1	N－0 °	長方形	3.86×3.46	18～37	平坦	全周	－	3	－	1	－	自然	土師器，須恵器	8 世紀中葉
395	D 3 a0	N－90 °－E	方形	3.56×3.54	10	平坦	－	－	1	2	1	－	不明	土師器，須恵器	11世紀代
397	D 3 b9	N－130 °－E	［方形・長方形］	[3.13]×3.04	10	平坦	－	－	－	－	1	－	不明	土師器，須恵器，支脚	11世紀代
399	C 3 i6	N－10 °－E	方形	3.12×2.98	5～7	平坦	一部	－	－	－	1	－	不明	土師器	10世紀前半
400	D 4 d7	N－90 °－E	［方形・長方形］	[3.26×3.18]	27～30	平坦	－	－	－	－	1	－	自然	土師器，須恵器，支脚	10世紀前葉
402	D 6 a1	N－94 °－E	方形	3.48×3.38	3～20	平坦	ほぼ全周	－	－	－	1	－	自然	土師器	10世紀中葉
403	C 6 j1	N－76 °－E	［方形・長方形］	(2.48)×(2.22)	16	平坦	－	－	－	－	1	－	不明	土師器，須恵器	10世紀中葉
404	D 5 a8	N－15 °－E	方形	3.60×3.56	47～60	平坦	全周	2	1	10	1	－	自然	土師器，須恵器，支脚，砥石	9 世紀後葉
405	C 5 i6	N－90 °－E	［方形・長方形］	(2.11)×(1.78)	4	平坦	－	－	－	－	1	－	不明	土師器	10世紀後半以降
406	C 5 i7	N－8 °－E	［方形・長方形］	[4.07×2.67]	4～12	平坦	－	－	－	－	1	－	人為	土師器	10世紀後半
407	C 5 i5	N－0 °	長方形	3.08×2.65	12～15	平坦	ほぼ全周	－	1	6	1	1	自然	土師器	10世紀中葉
408	C 5 g3	N－81 °－E	方形	2.75×2.53	40	平坦	ほぼ全周	－	－	－	1	－	自然	土師器，須恵器，紡錘車	8 世紀後葉
409	C 5 g1	N－29 °－W	方形	4.47×4.47	45～61	凹凸	ほぼ全周	4	－	1	1	－	自然	土師器，須恵器，鉄製品	8 世紀前葉
410	D 5 a2	N－0 °	長方形	3.48×2.50	60～68	平坦	一部	－	－	－	1	－	人為	土師器，須恵器	9 世紀前葉
411	C 5 i4	N－90 °－E	長方形	4.35×3.52	18～24	平坦	－	－	－	－	1	2	自然	土師器，砥石	10世紀後葉
412	C 5 j2	N－90 °－E	方形	2.75×2.75	10	平坦	－	－	－	－	1	－	自然	土師器	10世紀後葉
413	C 5 i2	N－90 °－E	不定形	3.25×2.77	7～12	平坦	－	－	－	－	1	－	自然	土師器，不明鉄製品	10世紀中葉
415	C 5 j1	N－22 °－W	［方形・長方形］	3.48×[2.60]	58	平坦	一部	－	1	－	1	－	自然	土師器，須恵器，不明鉄製品	8 世紀前葉

番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考（時期）
							壁溝	主柱穴	出入口ピット	ピット	竈	貯蔵穴			
418	C 5 h4	N－90°－E	長方形	3.10×2.63	5	平坦	－	－	－	－	1	1	不明	土師器	11世紀代
422	D 5 a7	N－93°－E	［方形・長方形］	［2.55×2.55］	不明	平坦	－	－	－	－	1	－	－	土師器，須恵器	10世紀前半
423	D 3 a7	N－85°－E	［長方形］	(3.83)×2.81	6～10	平坦	ほぼ全周	－	1	－	1	1	不明	土師器，支脚	10世紀中葉
424	D 3 a0	N－88°－E	［長方形］	3.74×(2.43)	6	平坦	－	－	－	－	1	－	不明	土師器，支脚	10世紀前葉
427	C 3 j0	N－4°－E	長方形	3.83×2.91	10	平坦	全周	－	－	1	1	1	不明	土師器，須恵器	10世紀後葉

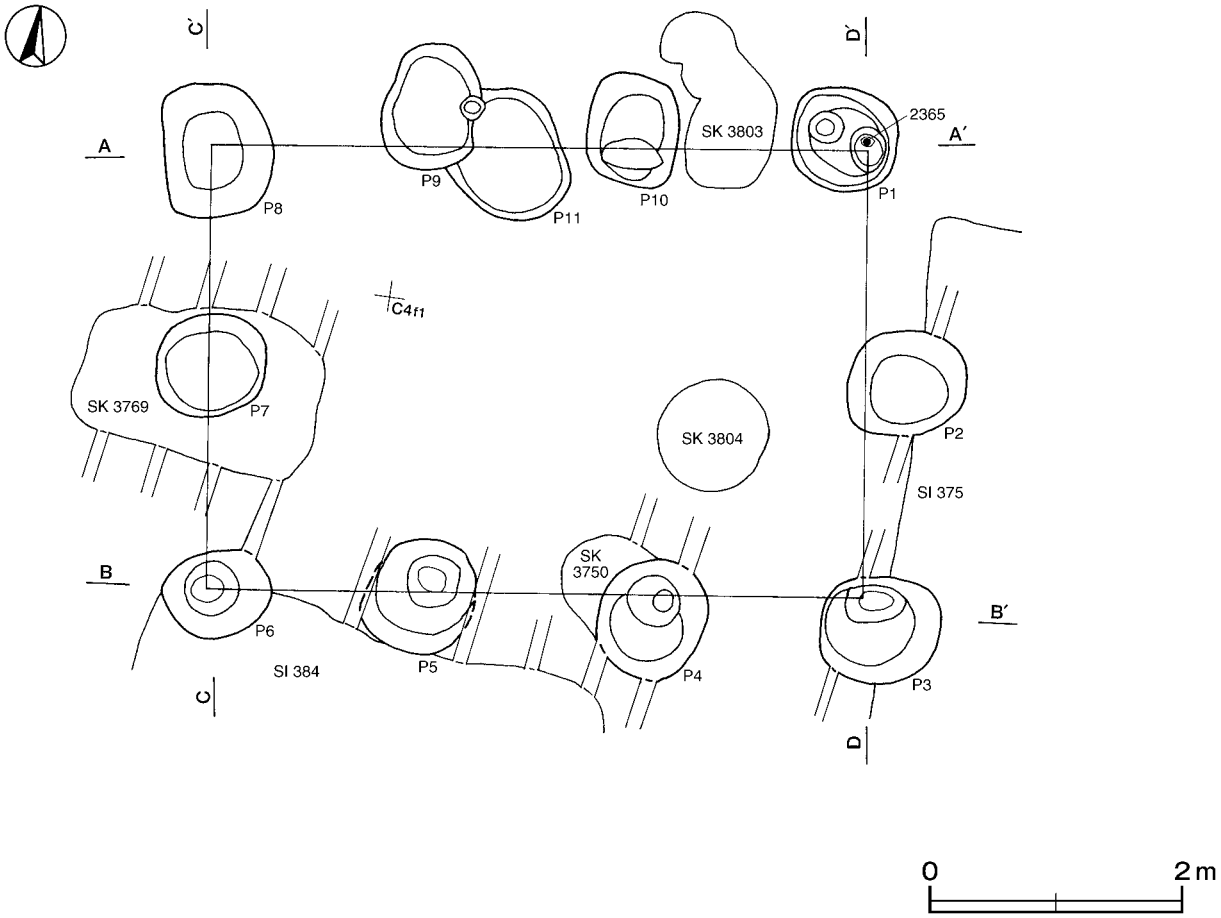
(2) 掘立柱建物跡

第35号掘立柱建物跡（第227・228図）

位置　西部４区中央部のＣ４ｆ1 区で，標高48mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第375・384号住居跡を掘り込み，第3750・3769号土坑に掘り込まれている。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向をＮ－82°－Ｅとする東西棟である。規模は桁行5.4m（18尺），梁行3.6m（12尺）で，面積は19.44㎡である。柱間寸法は，桁行1.8m（６尺），梁行1.8m（６尺）を基調としている。



第227図　第35号掘立柱建物跡実測図

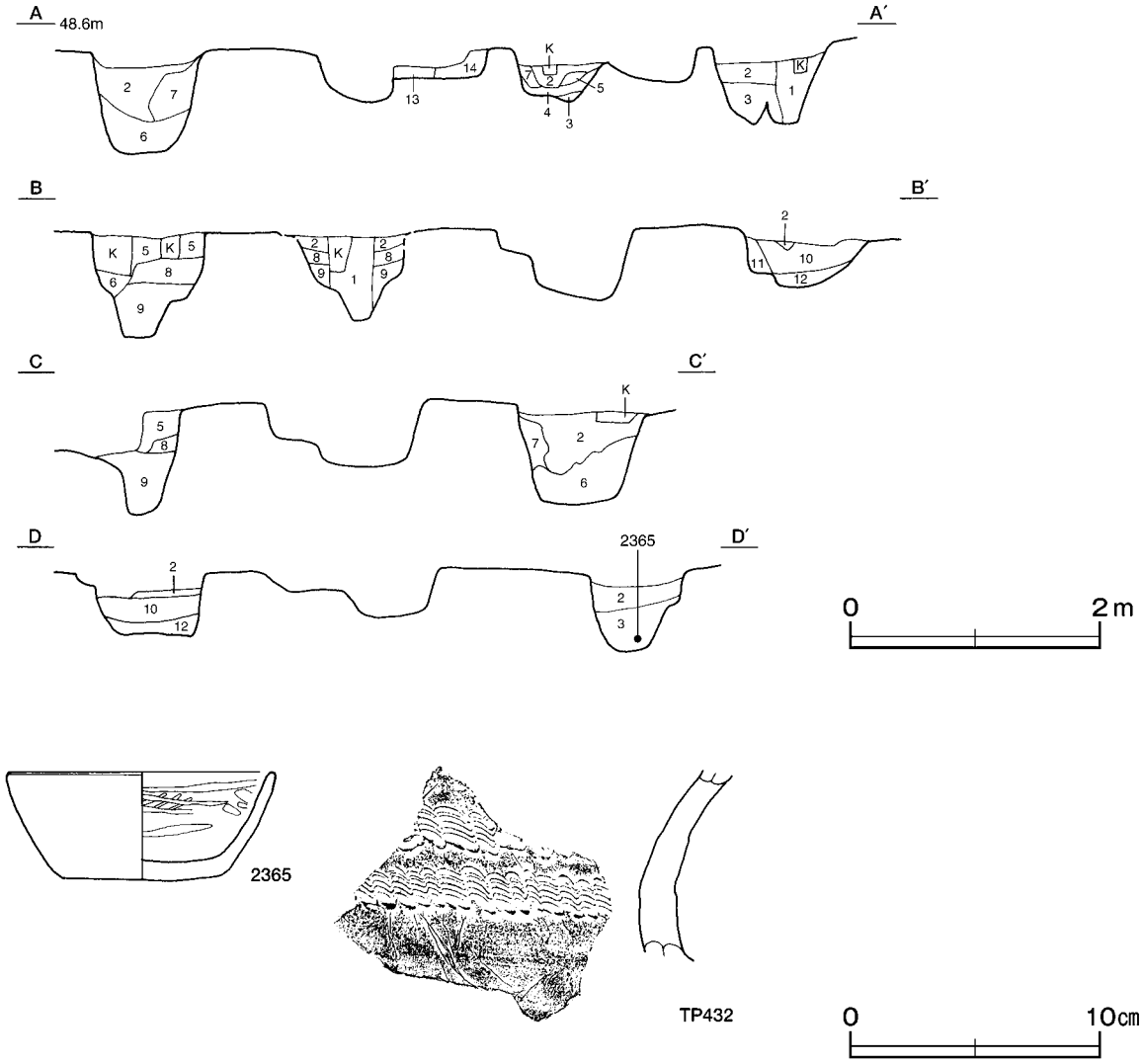
柱穴　11か所。平面形は，円形・楕円形・隅丸長方形などで，長径90～129㎝，短径86～106㎝，深さ36～83㎝である。土層は第１層が柱痕跡に相当し，締まりの弱い暗褐色土である。第２・８・９層は埋土で，ローム土を主体とした褐色・暗褐色土で，互層をなしている。その他の層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

1	暗褐色	ローム粒子中量	
2	褐色	ロームブロック中量	
3	明褐色	ロームブロック中量	
4	極暗褐色	ロームブロック少量	
5	明褐色	ロームブロック多量	
6	褐色	ロームブロック多量	
7	褐色	ロームブロック多量	
8	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子中量	
9	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量	
10	黒褐色	ローム粒子中量	
11	暗褐色	ロームブロック少量	
12	暗褐色	ローム粒子少量	
13	暗褐色	ロームブロック中量	
14	暗褐色	ロームブロック多量	

遺物出土状況　土師器片57点（坏11，甕46），須恵器片９点（坏６，蓋１，甕２）が出土している。また，流れ込んだ縄文土器片１点，弥生土器片２点，陶器片２点も出土している。2365はＰ1 の柱痕跡から出土している。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から９世紀中葉以降と考えられる。



第228図　第35号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第35号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第228図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2365	土師器	坏	10.4	4.4	6.4	石英･長石･雲母･赤色粒子	明赤褐	普通	内面ヘラ磨き	Ｐ１	80%　PL74

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP432	須恵器	甕	石英・長石	灰	普通	６条一単位の櫛歯状工具による波状文	Ｐ５覆土中	PL83

(3)　井戸跡

第108号井戸跡（第229・230図）

位置　西部４区中央部のＤ４c5 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況　長方形状の掘り込み中央部北東寄りに円形の井戸跡が確認された。

規模と形状　上位は長軸3.10m，短軸2.80mの長方形で，長軸方向はＮ－36 °－Ｅであり，深さ32cmほどである。下位は径78cmの円形で，ほぼ円筒状に掘り込まれており，湧水のため深さは140cmまでしか確認できなかった。

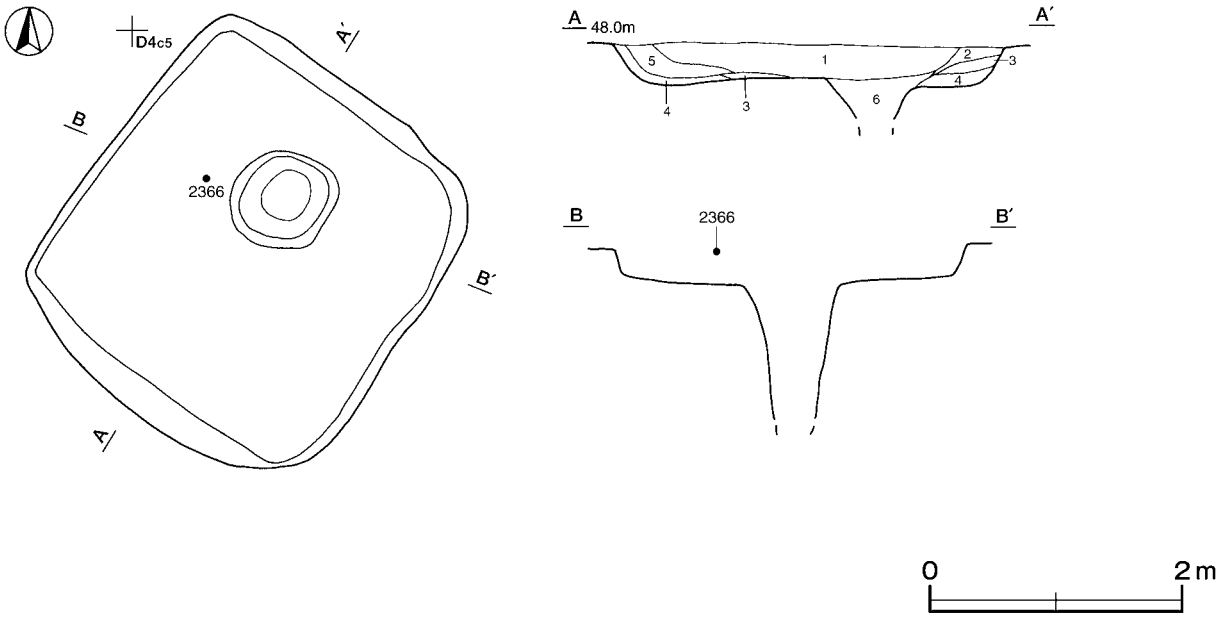
覆土　６層に分層される。ロームブロックや鹿沼パミスを不規則に含み，人為堆積と考えられる。

土層解説

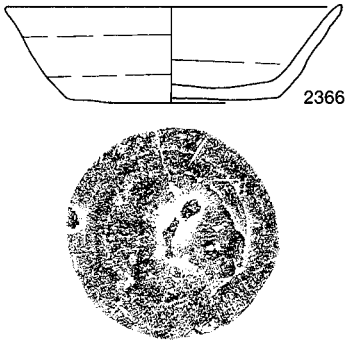
1　黒　褐　色　焼土粒子微量
2　黒　褐　色　炭化粒子少量
3　極 暗 褐 色　鹿沼パミスブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック多量
5　黒　褐　色　鹿沼パミスブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子微量

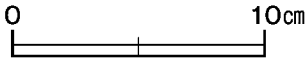
遺物出土状況　土師器片231点（坏71，甕160），須恵器片13点（坏11，甕２）が，南西部を中心として出土している。また，流れ込んだ弥生土器片３点も出土している。2366は中央部の覆土上層から出土している。

所見　廃絶時期は，出土土器から奈良時代と考えられる。



第229図　第108号井戸跡実測図





第230図　第108号井戸跡出土遺物実測図

第108号井戸跡出土遺物観察表（第230図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2366	須恵器	坏	13.3	4.0	8.5	石英・赤色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ切り	覆土上層	85%　PL74

第120号井戸跡（第231図）

位置　西部４区中央部のＤ４d6 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

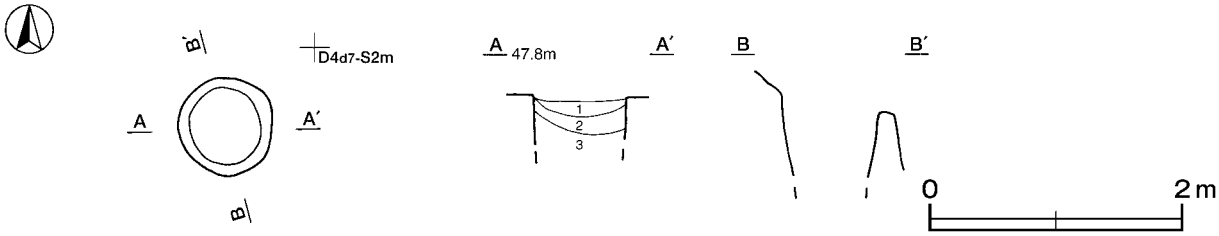
重複関係　第80号溝跡の底面を掘り込んでいる。

規模と形状　径0.76mの円形で，ほぼ円筒状に掘り込まれており，湧水のため深さ68cmまでしか確認できなかった。

覆土　３層に分層される。ローム粒子や鹿沼パミスを不規則に含み，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　鹿沼パミス少量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　鹿沼パミス中量，ローム粒子微量
3　黒　褐　色　鹿沼パミス少量

所見　時期は，重複関係から８世紀代と考えられる。



第231図　第120号井戸跡実測図

第121号井戸跡（第232図）

位置　西部４区中央部のＤ４d8 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

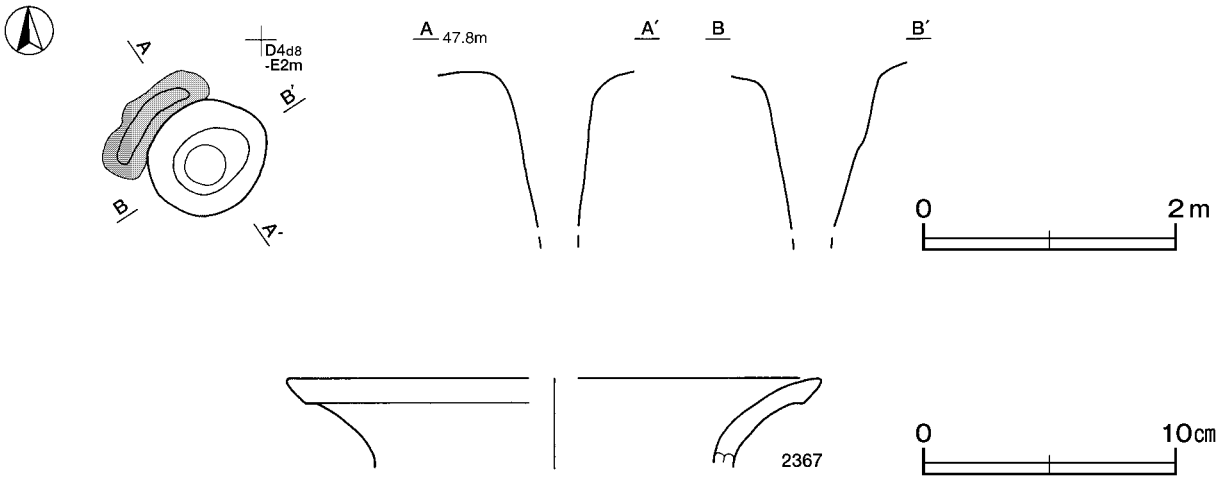
重複関係　第80号溝跡の底面を掘り込んでいる。

規模と形状　長径1.00m，短径0.87mの楕円形で，長径方向はN－56°－Eである。ほぼ円筒状に掘り込まれており，湧水のため深さ111cmまでしか確認できなかった。北西側の地山面に長さ50cm，幅18cm，厚さ５cmほどの粘土が貼付けられている。

覆土　湧水や崩落のため記録が困難であった。ローム粒子や鹿沼パミスを多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片３点（坏１，甕２），須恵器片１点（甕）が覆土中から出土している。2367は覆土中からの出土である。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から８世紀代と考えられる。粘土は壁が崩落するのを防ぐためのものと考えられる。



第232図　第121号井戸跡・出土遺物実測図

第121号井戸跡出土遺物観察表（第232図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2367	須恵器	甕	[21.0]	(3.6)	－	石英･長石･雲母	灰	普通	口縁部内面横ナデ	覆土中	外面摩滅

第122号井戸跡（第233図）

位置　西部４区中央部のＤ４d7 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

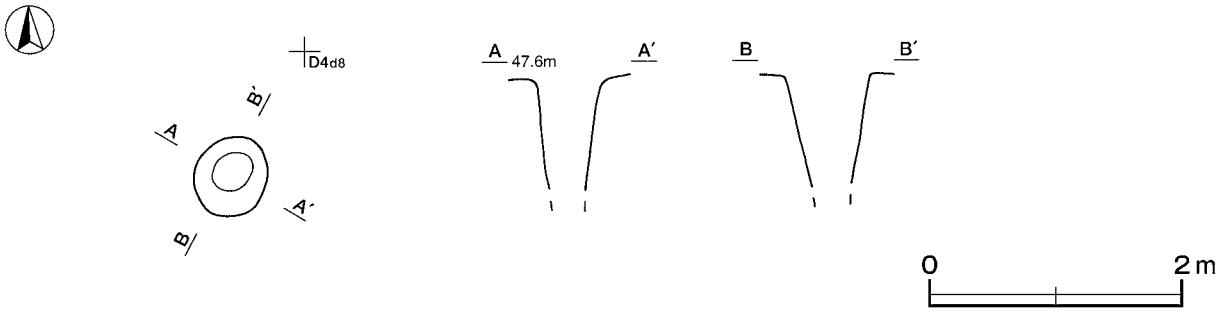
重複関係　第80号溝跡の底面を掘り込んでいる。

規模と形状　径0.58mの円形で，ほぼ円筒状に掘り込まれており，湧水のため深さ90cmまでしか確認できなかった。

覆土　湧水や崩落のため記録が困難であった。ロームブロックや鹿沼パミスを多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片41点（坏24，甕17），須恵器片６点（坏１，蓋２，甕３），鉄滓１点が出土している。

所見　時期は，重複関係から８世紀代と考えられる。



第233図　第122号井戸跡実測図

第125号井戸跡（第234図）

位置　西部４区中央部のＤ４d7 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第80号溝跡の底面を掘り込んでいる。

規模と形状　径0.54mの円形で，ほぼ円筒状に掘り込まれており，湧水のため深さ71㎝までしか確認できなかった。

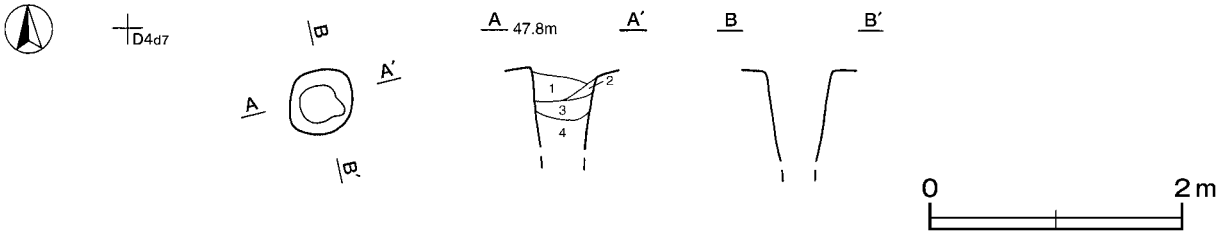
覆土　４層に分層される。ロームブロックや鹿沼パミスを不規則に含み，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量，鹿沼パミス微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，鹿沼パミス微量
3　黒　褐　色　ロームブロック多量，鹿沼パミス微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス少量

遺物出土状況　土師器片８点（坏２，甕６）が，覆土中から細片で出土している。

所見　時期は，重複関係から８世紀代と考えられる。



第234図　第125号井戸跡実測図

第126号井戸跡（第235図）

位置　西部４区中央部のＤ４d8 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第80号溝跡の底面を掘り込んでいる。

規模と形状　径1.05mの円形で，ほぼ円筒状に掘り込まれており，湧水のため深さ110㎝までしか確認できなかった。

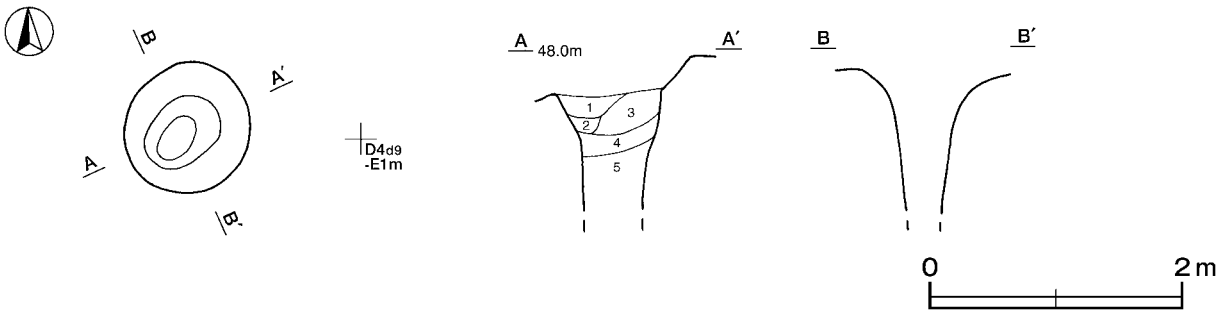
覆土　５層に分層される。ロームブロックを不規則に含み，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック中量
2　極暗褐色　ロームブロック少量
3　極暗褐色　ローム粒子少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量
5　褐　　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片10点（坏１，甕９），中礫１点が，覆土中から出土している。

所見　時期は，重複関係から８世紀代と考えられる。



第235図　第126号井戸跡実測図

第127号井戸跡（第236図）

位置　西部４区中央部のＤ４d6 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

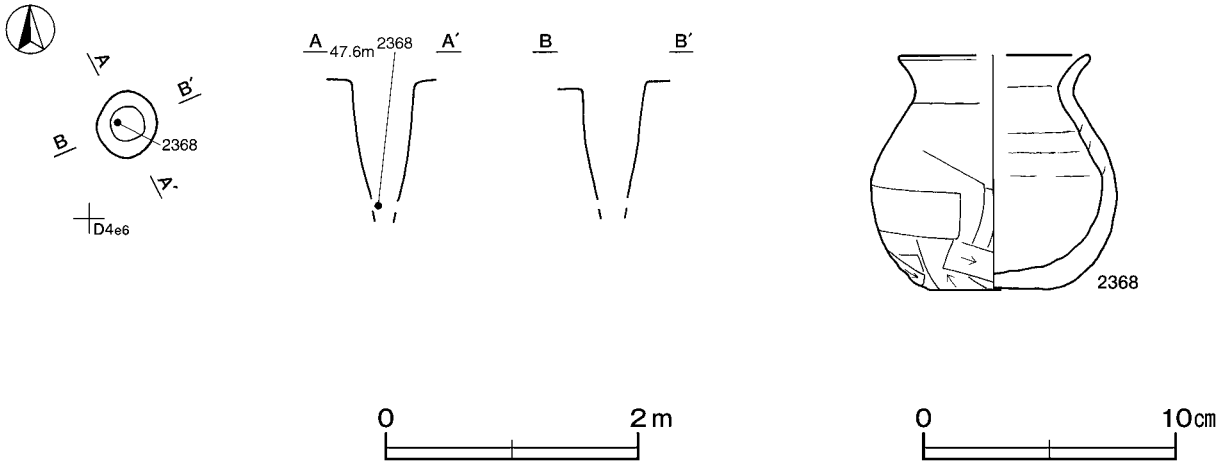
重複関係　第80号溝跡の底面を掘り込んでいる。

規模と形状　径0.52mの円形で，ほぼ円筒状に掘り込まれており，湧水のため深さ96㎝までしか確認できなかった。

覆土　湧水や崩落のため記録が困難であった。ロームブロックを多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片２点（甕）が出土している。2368は覆土下層から出土している。

所見　時期は，重複関係から８世紀代と考えられる。



第236図　第127号井戸跡・出土遺物実測図

第127号井戸跡出土遺物観察表（第236図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2368	土師器	小形甕	[7.5]	9.3	4.9	石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　輪積痕	覆土下層	70%　PL81

表６　奈良・平安時代井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規　模		断面形	覆土	出土遺物	備考（時期）
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(㎝)				
108	Ｄ４c5	N－36°－E	長方形	3.10×2.80	32～140	漏斗状	人為	土師器片 須恵器片	平安時代

番号	位置	長径方向	平面形	規　模		断面形	覆土	出土遺物	備考（時期）
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)				
120	D４d6	N－０°	円形	0.76×0.73	68	円筒状	人為		８世紀代
121	D４d8	N－56°－E	楕円形	1.00×0.87	111	円筒状	人為	土師器片 須恵器片	８世紀代
122	D４d7	N－０°	円形	0.58×0.53	90	円筒状	人為	土師器片 須恵器片 鉄滓	８世紀代
125	D４d7	N－０°	円形	0.54×0.50	71	円筒状	人為	土師器片	８世紀代
126	D４d8	N－０°	円形	1.05×0.98	110	円筒状	人為	土師器片	８世紀代
127	D４d6	N－０°	円形	0.52×0.48	96	円筒状	人為	土師器片	８世紀代

(4)　土坑

第3672号土坑（第237図）

位置　西部４区西部のＢ３g3 区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第353号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長径0.76m，短径0.68mの楕円形で，長径方向はN－52°－Eである。深さは７cmで，底面は平坦であり，壁は緩やかに立ち上がっている。

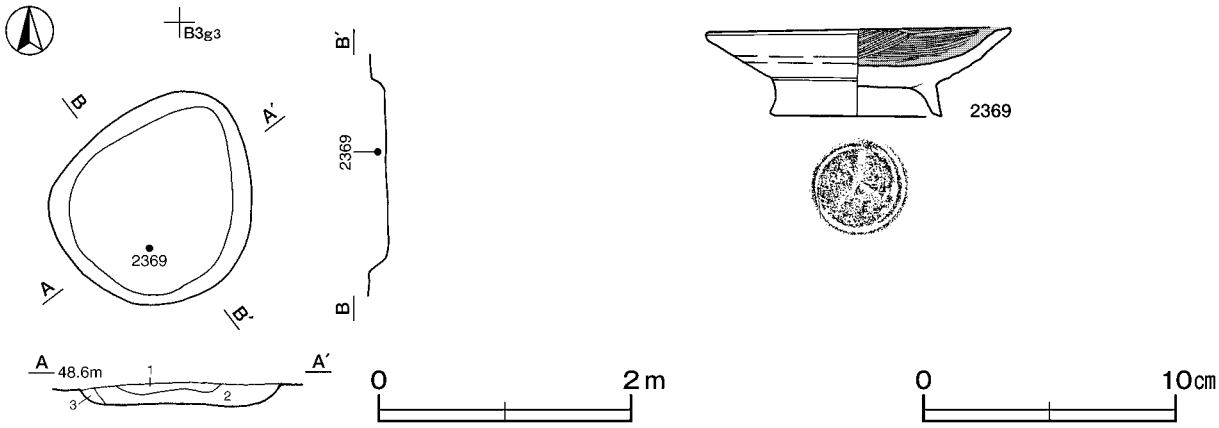
覆土　３層に分層される。周囲から土砂が流入した様相から，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片46点（坏11，高台坏皿１，甕34），須恵器片１点（甕），粘土塊１点（不明），中礫１点が覆土中層から底面にかけて出土している。2369は南部の覆土下層から正位で出土している。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から９世紀後葉と考えられる。



第237図　第3672号土坑・出土遺物実測図

第3672号土坑出土遺物観察表（第237図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2369	土師器	高台付皿	12.0	3.5	6.6	石英･白色粒子	にぶい黄褐	普通	内面ヘラ磨き	覆土下層	100% PL77

第3917号土坑（第238図）

位置　西部４区東部のＣ５i5 区で，標高49mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第407号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸1.54m，短軸0.70mの不定形で，長軸方向はN－５°－Eである。深さは39㎝で，底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

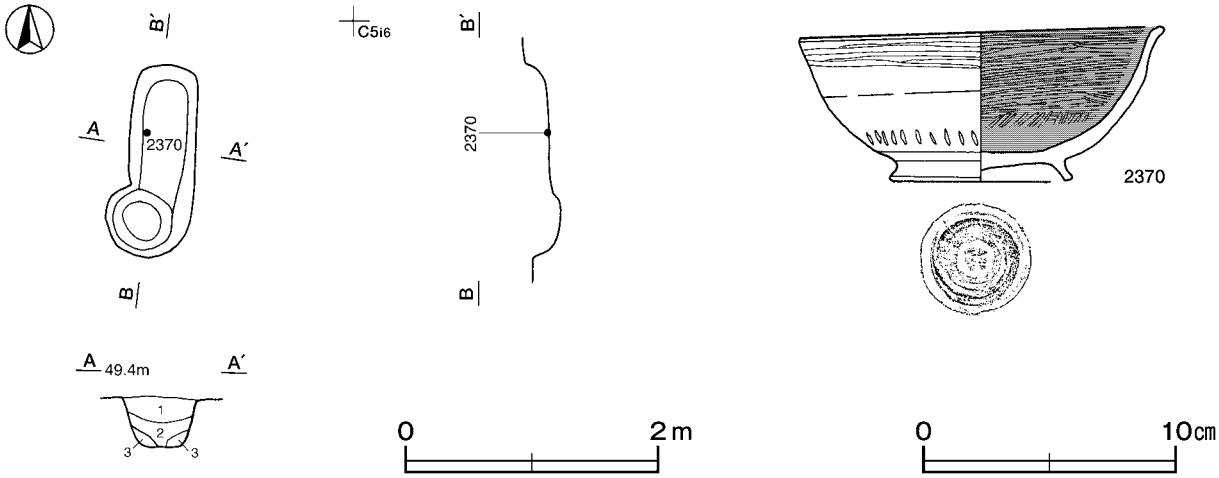
覆土　３層に分層される。周囲から土砂が流入した様相から，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片３点（坏１，高台付椀２）が覆土下層から出土している。2370は西壁際の底面から斜位で出土している。

所見　時期は，重複関係及び出土土器から10世紀後葉以降と考えられる。



第238図　第3917号土坑・出土遺物実測図

第3917号土坑出土遺物観察表（第238図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2370	土師器	高台付椀	14.5	6.1	7.3	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内・外面ヘラ磨き　体部外面下端ヘラによる縦方向の圧痕	底面	80%　PL76

表７　奈良・平安時代土坑一覧表

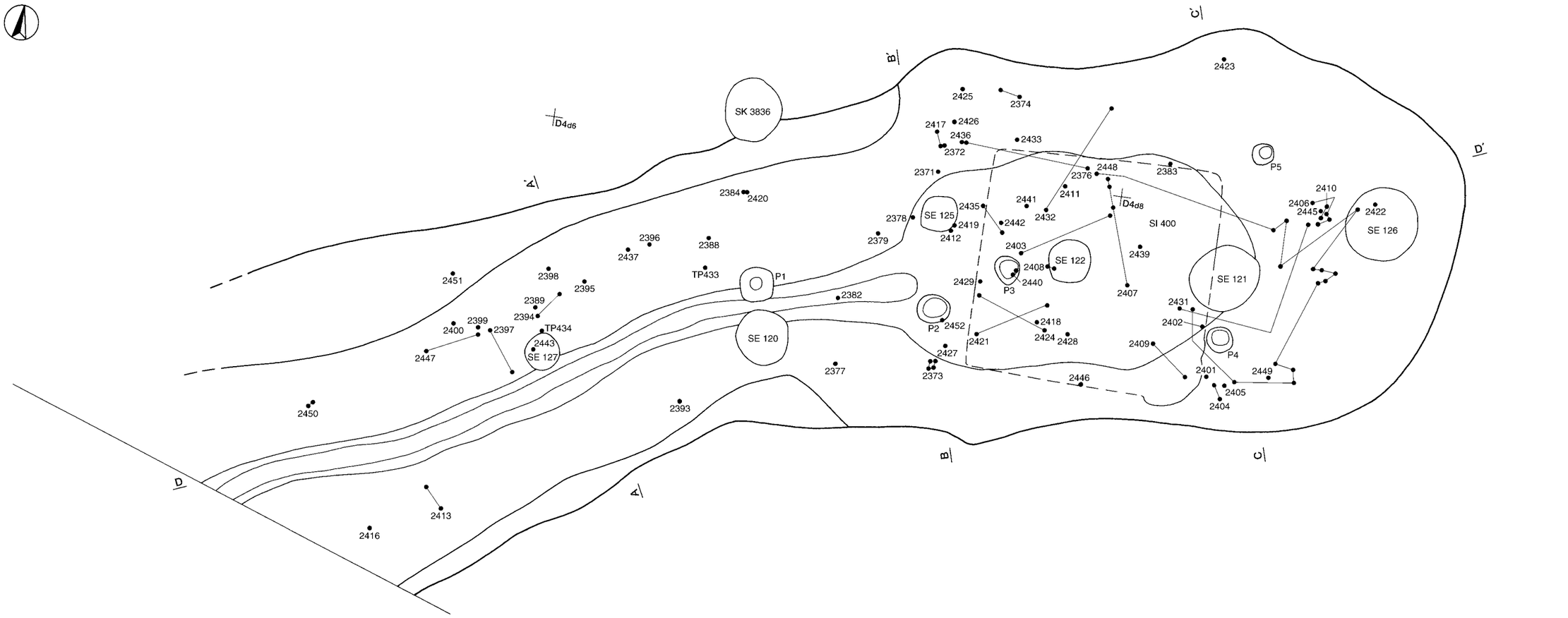
番号	位置	長径(軸)方向	規　模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考（時期）
			長径(軸)(m)×短径(軸)(m)	深さ(㎝)					
3672	B３g3	N－52°－E	0.76×0.68	7	緩斜	平坦	自然	土師器片　須恵器片	９世紀後葉
3917	C５i5	N－５°－E	1.54×0.70	39	外傾	皿状	自然	土師器片	10世紀後葉以降

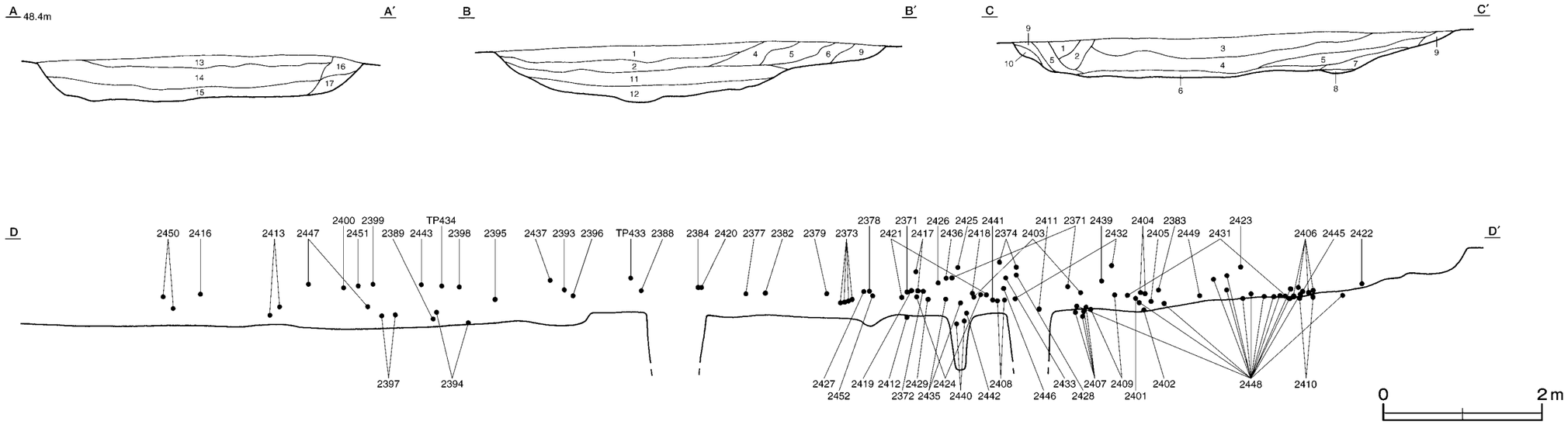
(5)　溝跡

第80号溝跡（第239～244図）

位置　西部４区中央部のＤ４d5～Ｄ４c8区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第400号住居，第120～122・125～127号井戸，第3836号土坑に掘り込まれている。





第239図　第80号溝跡実測図

規模と形状　Ｄ４c8 区から南西方向（Ｎ－114 °－Ｗ）に直線的に延びており，さらに調査区域外へ延びている。確認された長さは18.0mで，上幅は3.6～5.5m，下幅は2.90～3.10m，深さは92㎝である。断面形はＵ字状で，壁は緩やかに立ち上がっている。中央部から西部にかけての底面には長さ10.0m，幅0.40～1.20m，深さ18㎝の細い溝が確認されており，覆土の状況から同時に掘り込まれたと考えられる。

ピット　５か所。深さ29～81㎝で，配置に規則性がなく，性格は不明である。

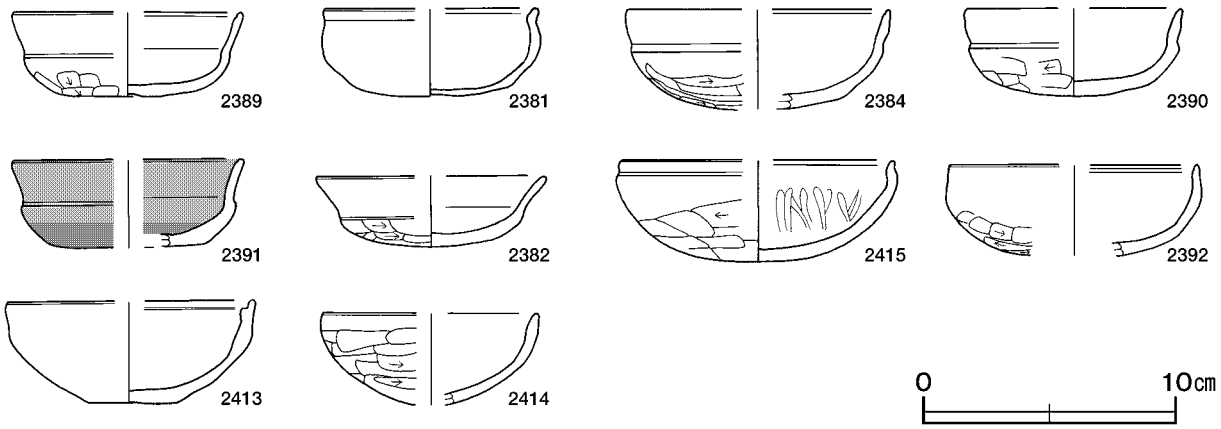
覆土　17層に分層される。ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子を不規則に含んでいることから，人為堆積と考えられる。覆土下層は締まりがある。

土層解説

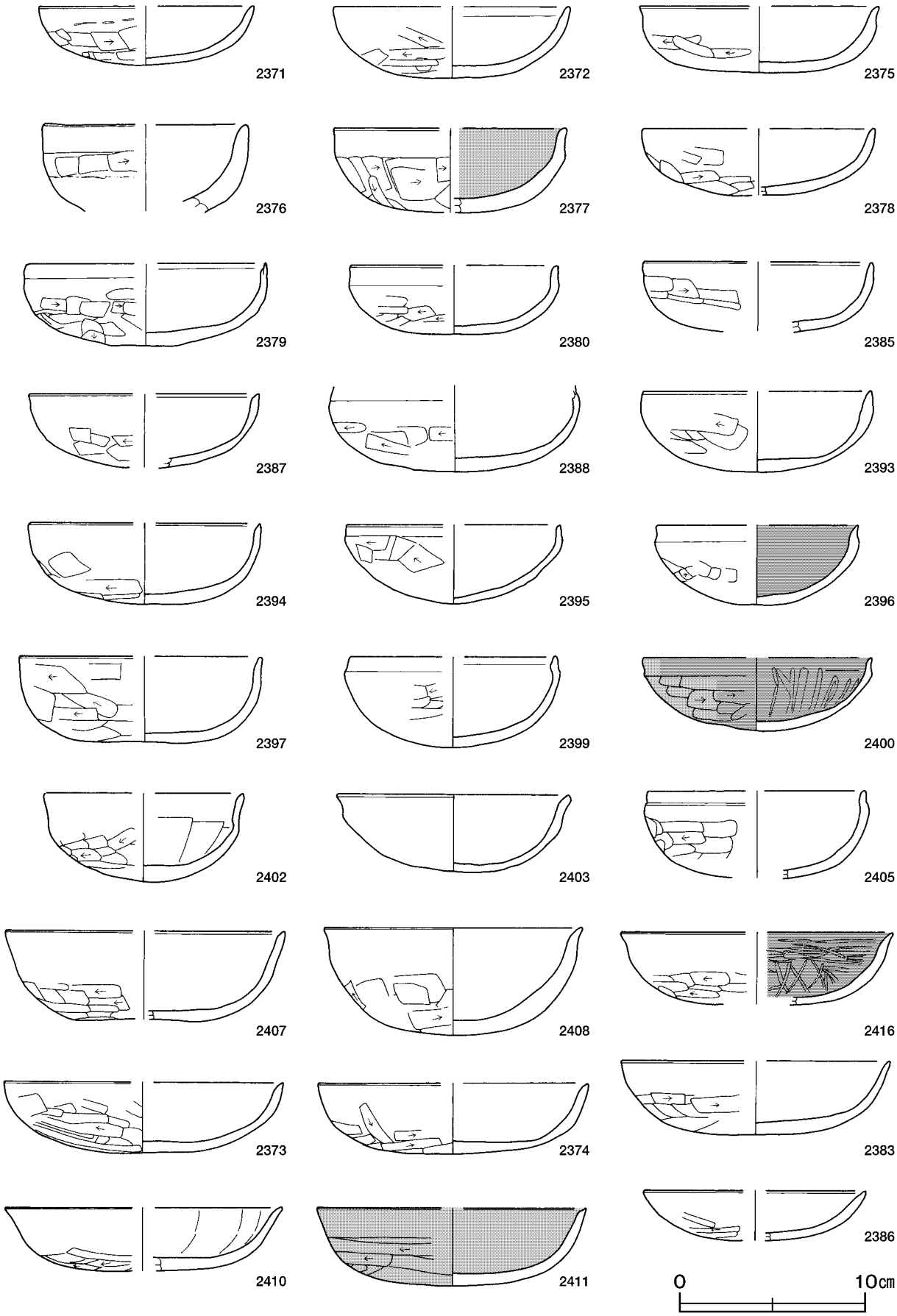
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
5　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量
8　極暗褐色　ローム粒子少量
9　暗　褐　色　ローム粒子中量
10　褐　　色　ロームブロック中量
11　褐　　色　ロームブロック多量
12　極暗褐色　ロームブロック少量
13　暗　褐　色　ローム粒子少量
14　暗　褐　色　ロームブロック微量
15　暗　褐　色　ロームブロック中量
16　黒　褐　色　ロームブロック中量
17　極暗褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片3,132点（坏1,666，高坏12，甕1,453，甑１），須恵器片283点（坏152，高台付坏12，蓋40，壺１，瓶４，甕74），砥石２点が，全域の覆土中層から底面にかけて出土しており，特に４基の井戸跡の確認された北東部に集中している。また，流れ込んだ縄文土器片９点，弥生土器片３点，陶器片１点，羽口片２点も出土している。2402・2405・2412・2422は北東部の底面，2406・2407・2410・2440は北東部の底面から出土した破片が接合したものである。2448は北東部や中央部の下層から底面にかけて広い範囲で散在していた破片が接合したものである。2408・2409・2421・2431・2435は北東部の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。2379・2426・2429・2446・2452は北東部の覆土中層，2394・2397・2413・2450は南西部の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。

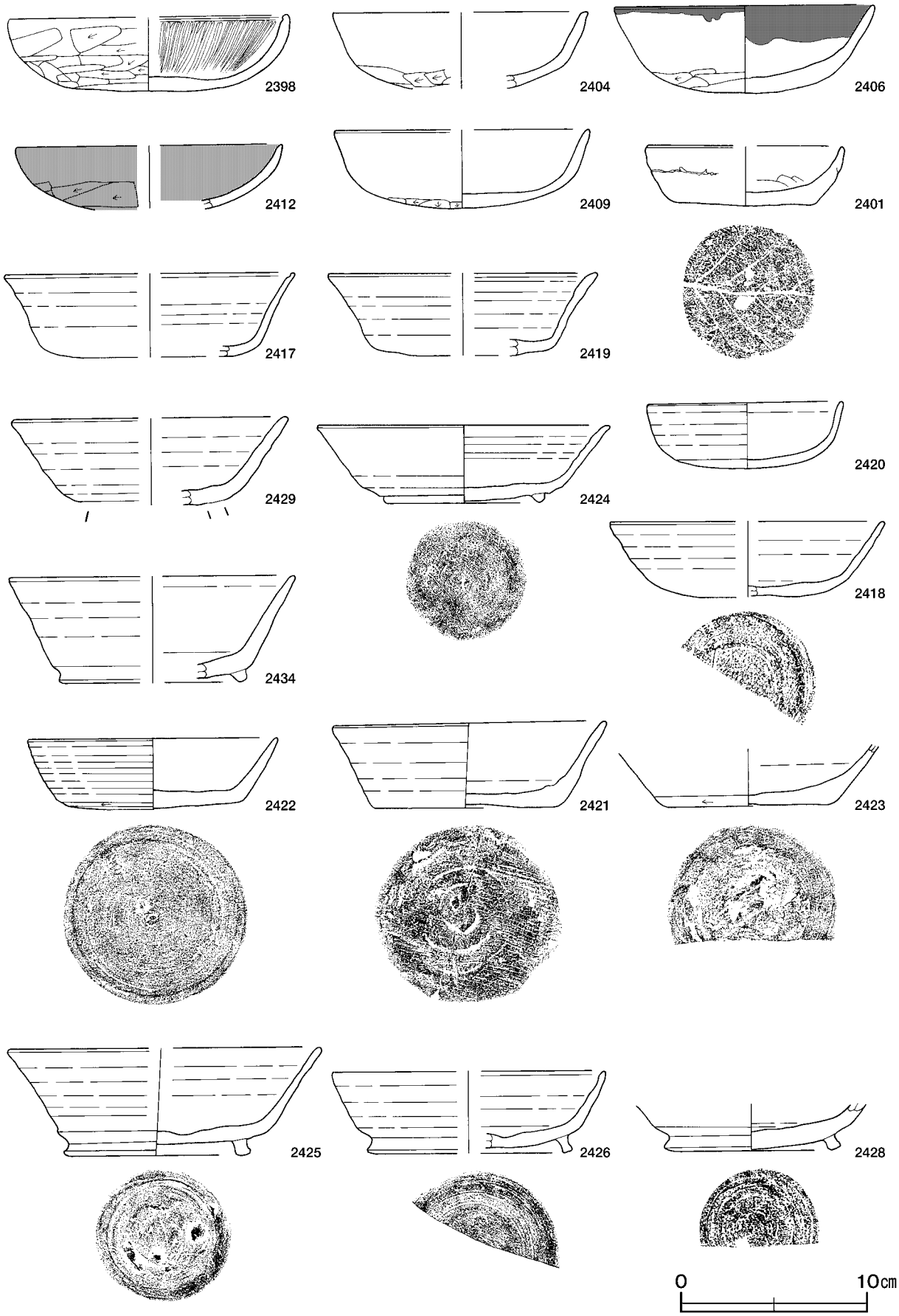
所見　廃絶時期は，重複関係及び出土土器から８世紀後葉と考えられる。本跡の範囲からは，井戸跡が北東部に４基，中央部から南西部に２基確認されている。本跡の覆土中層から下層にかけて出土した土器片は，北東部の井戸の周辺に集中している。また，井戸から出土した遺物は，本跡の時期よりも新しいものが確認されていない。これらのことから本跡と井戸は同時期に使用されていたと推測される。



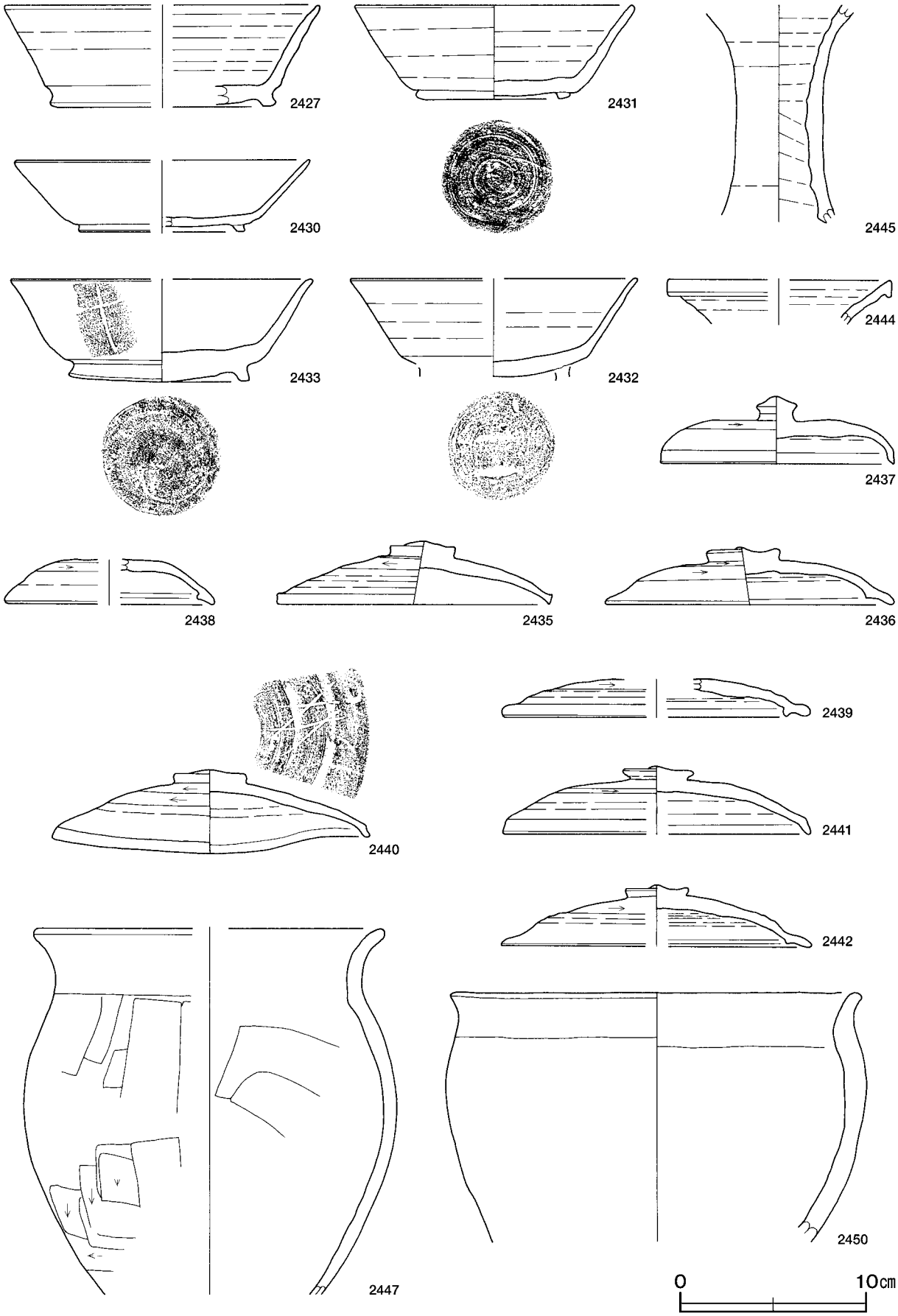
第240図　第80号溝跡出土遺物実測図(1)



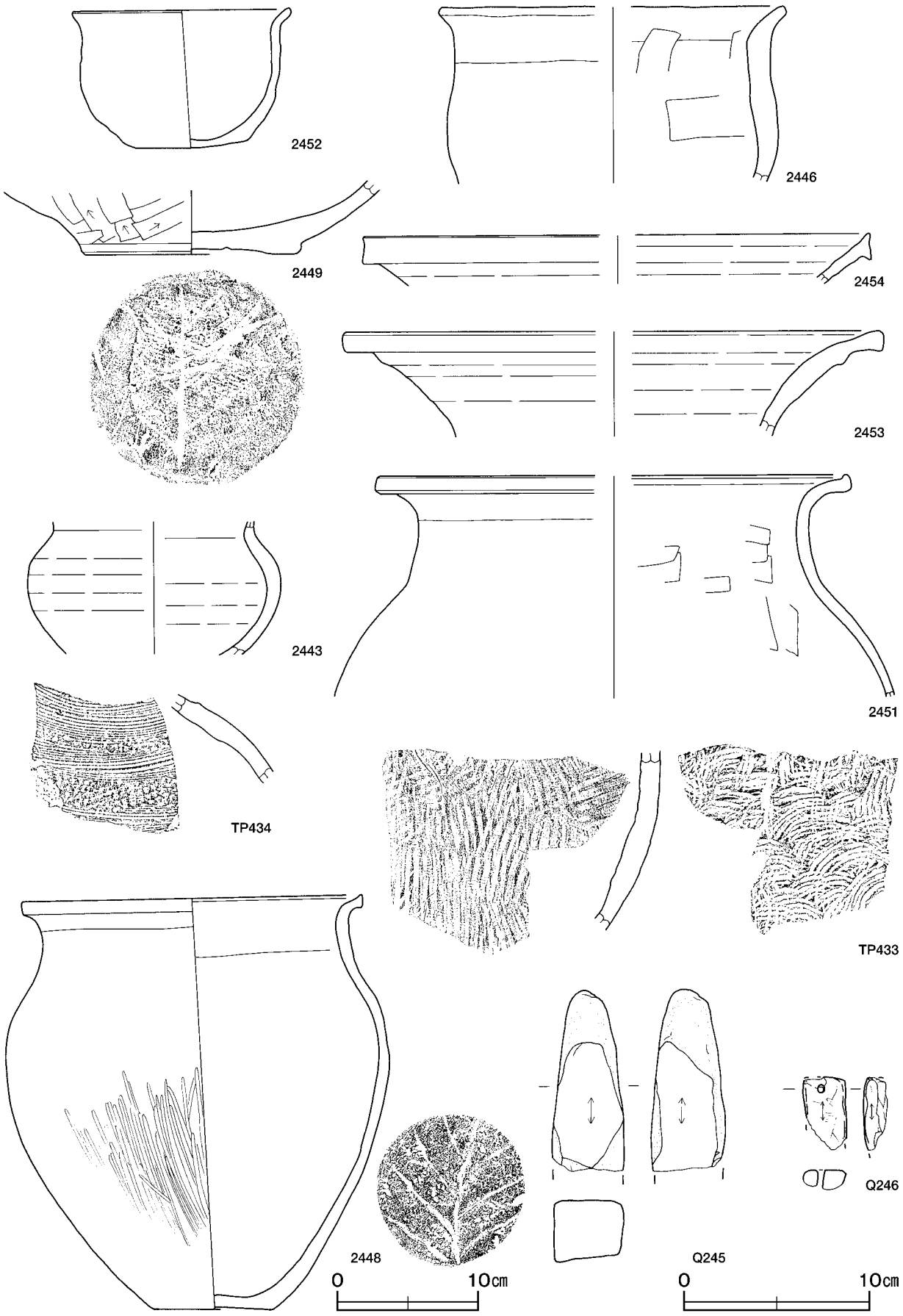
第241図　第80号溝跡出土遺物実測図(2)



第242図　第80号溝跡出土遺物実測図(3)



第243図　第80号溝跡出土遺物実測図(4)



第244図　第80号溝跡出土遺物実測図(5)

第80号溝跡出土遺物観察表（第240～244図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2371	土師器	坏	[11.4]	3.2	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中層	80%
2372	土師器	坏	[12.6]	3.9	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中層	50%
2373	土師器	坏	[14.9]	3.9	－	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	60%
2374	土師器	坏	[14.4]	3.8	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土上層	60%
2375	土師器	坏	[12.8]	3.6	－	石英・長石・雲母	浅黄橙	普通	体部外面ヘラ削り	覆土中	40%
2376	土師器	坏	[11.0]	(4.7)	－	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 輪積み痕	覆土中層	40%
2377	土師器	坏	[12.2]	4.6	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中層	40%
2378	土師器	坏	[12.6]	3.6	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中層	30%
2379	土師器	坏	[12.8]	4.5	－	石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中層	30%
2380	土師器	坏	[11.0]	3.7	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中	25%
2381	土師器	坏	[8.3]	4.6	6.0	雲母	浅黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	30%
2382	土師器	坏	[9.0]	2.8	－	雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面下端ヘラ削り	覆土中層	30%
2383	土師器	坏	[14.3]	4.0	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	40%
2384	土師器	坏	[10.4]	(4.0)	－	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中層	40%
2385	土師器	坏	[12.2]	(3.7)	－	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中	40%
2386	土師器	坏	[12.0]	2.7	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中	45%
2387	土師器	坏	[12.4]	(4.0)	－	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中	30%
2388	土師器	坏	－	(4.7)	－	石英・長石・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中層	40%
2389	土師器	坏	[9.0]	3.4	5.5	石英・白色粒子・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	60%
2390	土師器	坏	[8.6]	3.4	5.9	石英・白色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中	30%
2391	土師器	坏	[9.0]	3.5	[6.0]	石英・白色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ	覆土中	30%
2392	土師器	坏	[9.8]	(3.6)	－	白色粒子・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中	15%
2393	土師器	坏	[12.2]	4.4	－	石英・長石	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中層	60%　PL74
2394	土師器	坏	[12.4]	4.4	－	石英・長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	60%
2395	土師器	坏	[11.4]	4.3	－	雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中層	45% 外面摩滅
2396	土師器	坏	[10.8]	4.4	－	長石・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中層	30%
2397	土師器	坏	[13.0]	4.7	7.5	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	50%
2398	土師器	坏	[15.0]	4.0	[8.5]	長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	内面ヘラ磨き　体部外面ヘラ削り	覆土中層	60%
2399	土師器	坏	[10.9]	4.9	－	赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中層	30%
2400	土師器	坏	[12.4]	4.4	－	石英・長石	黒	普通	口縁部内・外面横ナデ　内面ヘラ磨き　体部外面ヘラ削り　底部木葉痕	覆土中層	40%
2401	土師器	坏	[10.4]	3.2	7.5	石英・長石・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　内面ヘラナデ　輪積み痕　底部木葉痕	覆土下層	75%　PL75
2402	土師器	坏	[10.6]	4.8	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	黒	普通	口縁部外面横ナデ　内面ヘラナデ　体部外面ヘラ削り	底面	40%
2403	土師器	坏	12.4	4.3	－	石英・長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中層	80%　PL75
2404	土師器	坏	[13.6]	(4.1)	－	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	20%
2405	土師器	坏	[11.6]	(4.7)	－	長石	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	30%
2406	土師器	坏	13.8	4.8	－	赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	70%　口縁部油煙付着
2407	土師器	坏	[15.0]	4.9	5.4	雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	底面	80%　PL75
2408	土師器	坏	13.8	5.9	－	長石・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土下層	50%
2409	土師器	坏	[13.7]	4.2	－	石英・雲母・白色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　底部手持ちヘラ削り	底面	50%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2410	土師器	坏	[14.9]	3.4	－	雲母・白色粒子・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　内面ヘラナデ　体部外面ヘラ削り	底面	40%
2411	土師器	坏	[14.3]	4.2	6.6	白色粒子･赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	底面	40%
2412	土師器	坏	[14.2]	(3.4)	－	白色粒子･赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り	底面	20%
2413	土師器	坏	[9.8]	4.0	[3.4]	石英・長石	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	25%
2414	土師器	坏	[8.6]	(3.6)	－	長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り	覆土中	30%
2415	土師器	坏	[10.4]	4.0	－	石英・雲母	橙	普通	内面ヘラ磨き　体部外面ヘラ削り	覆土中	60%
2416	土師器	坏	[14.6]	(3.9)	－	石英・長石	にぶい黄橙	普通	内面方向不明瞭なヘラ磨き　体部外面ヘラ削り	覆土中層	20%
2417	須恵器	坏	[15.6]	4.5	[11.8]	石英・長石	灰	普通	ロクロナデ	覆土中層	20% 堀ノ内産
2418	須恵器	坏	[14.7]	4.1	[7.5]	石英･長石･雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中層	40% 堀ノ内産
2419	須恵器	坏	[14.4]	4.4	[9.4]	石英･長石･雲母	灰白	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中層	20%
2420	須恵器	坏	10.5	3.6	－	長石	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中層	90%　PL75
2421	須恵器	坏	14.5	4.7	9.7	石英・長石	黒褐	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中層	90%　PL75
2422	須恵器	坏	13.3	3.9	9.4	石英･長石･黒色粒子	褐灰	普通	体部下端ヘラ削り　底部回転ヘラ切り	底面	90%　PL74
2423	須恵器	坏	－	(3.2)	9.0	石英・長石	灰黄	普通	体部下端ヘラ削り　底部回転ヘラ切り	覆土上層	40%
2424	須恵器	高台付坏	15.5	4.2	8.3	石英・長石	オリーブ黒	普通	高台貼付け	覆土中層	90% 堀ノ内産　PL73
2425	須恵器	高台付坏	[16.7]	5.8	9.6	石英・長石・雲母	灰白	普通	高台貼付け後ロクロナデ	覆土上層	70% 堀ノ内産
2426	須恵器	高台付坏	[14.6]	4.4	[10.0]	石英･白色粒子･赤色粒子	灰	普通	高台貼付け後ロクロナデ	覆土中層	40%
2427	須恵器	高台付坏	[16.7]	5.6	[10.8]	石英・白色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中層	20%
2428	須恵器	高台付坏	－	(2.5)	8.8	石英・長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土上層	30%
2429	須恵器	高台付坏	[14.5]	(4.7)	－	石英・長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土中層	25%
2430	須恵器	高台付坏	[15.8]	3.9	[8.8]	石英･長石･雲母	灰	普通	高台貼付け	覆土中	30% 堀ノ内産
2431	須恵器	高台付坏	14.9	5.1	8.2	石英･長石･雲母	黄灰	普通	高台貼付け後ロクロナデ	覆土下層	70%　PL73
2432	須恵器	高台付坏	[15.4]	(5.4)	－	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土下層	55%　PL73
2433	須恵器	高台付坏	[16.0]	5.6	9.6	長石	灰白	普通	ロクロナデ	覆土中層	45%　ヘラ記号
2434	須恵器	高台付坏	[15.3]	5.7	[10.0]	長石	オリーブ灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付け	覆土中	30%
2435	須恵器	蓋	14.5	3.4	－	石英・長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	95%　PL78
2436	須恵器	蓋	15.5	3.2	－	石英･長石･雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	80%　PL77
2437	須恵器	蓋	12.5	3.6	－	石英･長石･雲母	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	95%　PL77
2438	須恵器	蓋	[11.0]	(2.4)	－	長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	40%
2439	須恵器	蓋	[16.3]	(2.0)	－	石英・長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	30%
2440	須恵器	蓋	16.8	4.8	－	石英･長石･黒色粒子	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	底面	80% ヘラ記号 PL78･82
2441	須恵器	蓋	[16.4]	3.7	－	石英・長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	60%
2442	須恵器	蓋	[16.7]	3.3	－	石英･長石･雲母･赤色粒子	にぶい黄橙	普通	天井部回転ヘラ削り	底面	40%
2443	須恵器	壺	－	(7.2)	－	石英・長石	灰	普通	ロクロナデ	覆土中層	30%
2444	須恵器	瓶	[12.0]	(2.4)	－	長石・雲母	灰白	普通	ロクロナデ	覆土中	5％
2445	須恵器	長頸瓶	－	(11.7)	－	長石	黄灰	普通	ロクロナデ	覆土下層	30%　PL79
2446	土師器	甕	[18.5]	(9.5)	－	石英･長石･雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　内面ヘラナデ	覆土中層	5％
2447	土師器	甕	[18.4]	(19.8)	－	石英･長石･雲母	明赤褐	普通	口縁部外面横ナデ　体部内面ヘラナデ　外面ヘラ削り	覆土中層	20%
2448	土師器	甕	24.0	29.5	8.5	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　内面ヘラナデ　体部外面ヘラ磨き　底部木葉痕	底面	50%　PL80
2449	土師器	甕	－	(3.4)	11.8	石英･長石･赤色粒子	にぶい赤褐	普通	内面ヘラナデ　体部外面ヘラ削り　底部木葉痕	覆土下層	10%
2450	土師器	甕	21.5	(13.4)	－	石英・長石	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	50%
2451	土師器	甕	[25.2]	(12.0)	－	石英･長石･赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　内面ヘラナデ	覆土中層	10%
2452	土師器	小形甕	11.6	7.6	6.0	石英･長石･雲母	にぶい赤褐	普通	底部手持ちヘラ削り	覆土中層	50%　PL78
2453	須恵器	甕	[28.8]	(5.7)	－	石英･長石･雲母	灰	普通	ロクロナデ	覆土中	5％
2454	須恵器	甕	[27.2]	(2.6)	－	石英	灰白	普通	ロクロナデ	覆土中	5％

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP433	須恵器	甕	長石	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き　内面同心円状の当て具痕	覆土中層	
TP434	須恵器	甕	長石	灰	普通	体部外面格子叩き　櫛歯状工具によるナデ	覆土中層	PL83

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q245	砥石	(9.1)	3.4	3.8	237	砂岩	砥面２面	覆土中	PL87
Q246	砥石	(3.93)	2.30	1.12	(13.3)	雲母片岩	砥面１面　孔径0.32㎝	覆土下層	PL87

第82号溝跡（第245図）

位置　西部４区中央部のＤ４c5～Ｄ４e4区で，標高48mほどの平坦な台地上に位置している。

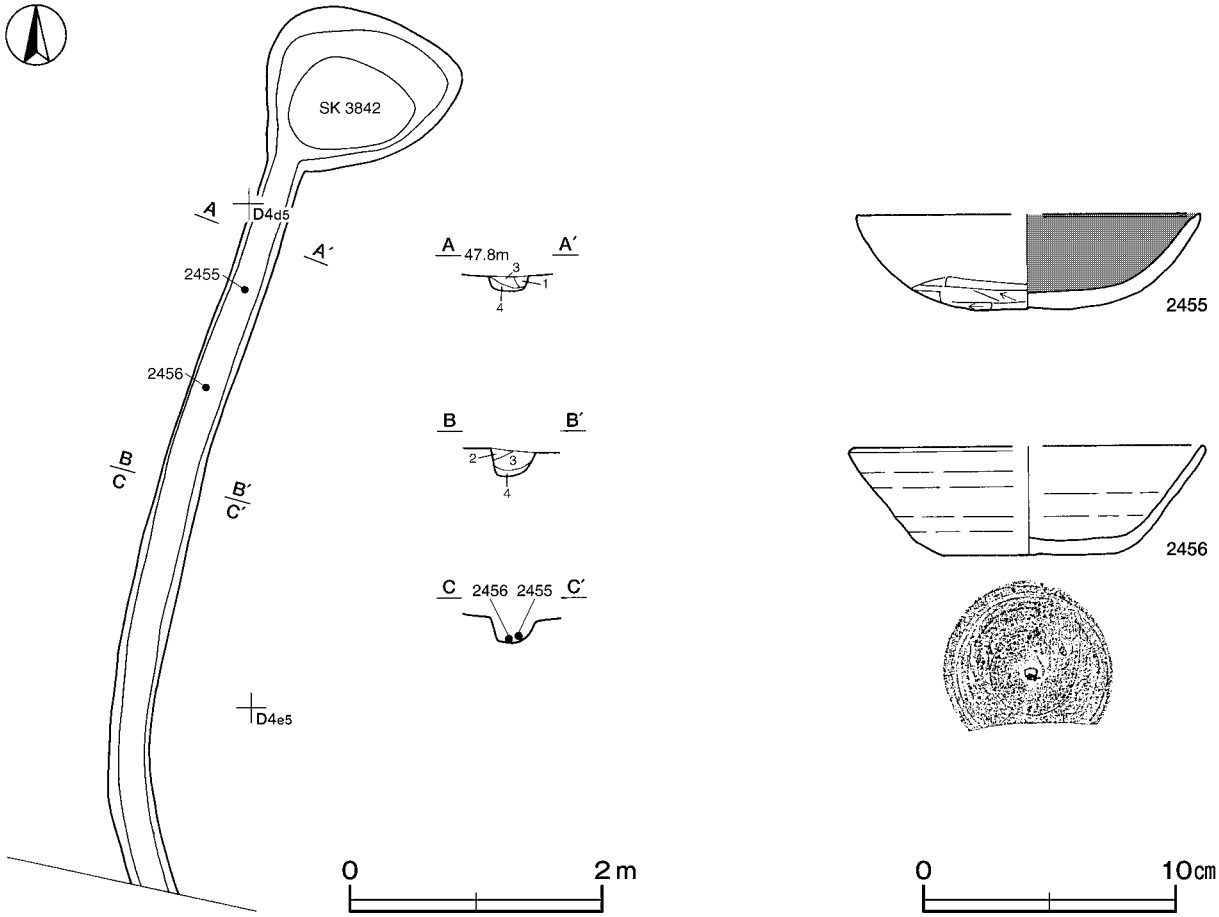
重複関係　第3842号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　Ｄ４c5区から南方向（Ｎ－18°－Ｅ）へ直線的に延び，さらに調査区域外へと続いているため，全体は不明である。確認できた長さは7.30mで，上幅0.30～0.36m，下幅0.20～0.24m，深さ６～20㎝である。底面は平坦で，断面形は浅いＵ字状である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　４層に分層される。ブロック状に堆積した様相から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　極 暗 褐 色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子微量，鹿沼パミス少量



第245図　第82号溝跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片20点（坏５，甕15），須恵器片２点（坏）が出土している。2455・2456は北部の底面から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉と考えられる。

第82号溝跡出土遺物観察表（第245図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2455	土師器	坏	[13.6]	3.8	－	石英･長石･赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面下端ヘラ削り	底面	50%
2456	須恵器	坏	[16.9]	4.3	6.9	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り	底面	40%

表８　奈良・平安時代の溝跡一覧表

番号	位置	主軸方向	形状	規模				断面	底面	覆土	出土遺物	備考（時期）
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
80	D４d5～D４c8	N－114°－W	直線	(18.00)	3.60～5.50	2.90～3.10	92	U字状	皿状	人為	縄文土器片　弥生土器片　土師器片　須恵器片　陶器片	８世紀後葉
82	D４c5～D４E4	N－18°－E	直線	(7.30)	0.30～0.36	0.20～0.24	6～20	U字状	平坦	人為	土師器片　須恵器片	８世紀中葉

茨城県教育財団文化財調査報告第270集

犬田神社前遺跡３

北関東自動車道（協和～友部）建設
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XIV

上　巻

平成19(2007)年３月19日 印刷
平成19(2007)年３月23日 発行

発行　財団法人　茨城県教育財団
〒310-0911　水戸市見和１丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587

印刷　(有)川田プリント
〒310-0041　水戸市上水戸４丁目６－53
TEL　029－253－5551